

平成 30（2018）年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書



自己点検・評価委員会

教育職員		氏名	頁
人間社会学部国際観光学科			
1	副学長・教授	橋本 健夫	1
2	学部長・教授	池永 正人	7
3	学科長・教授	板垣 朝之	14
4	教授	落合 知子	19
5	教授	熊谷 賢哉	25
6	教授	嶋内 麻佐子	30
7	教授	滝 知則	41
8	教授	田中 誠	51
9	教授	中野 はるみ	58
10	准教授	安部 雅隆	62
11	准教授	井上 英也	68
12	准教授	尾場 均	75
13	准教授	城前 奈美	85
14	准教授	新藤 照夫	90
15	准教授	谷口 佳菜子	95
16	准教授	Thom W. Rawson	101
17	准教授	原 哲弘	113
18	准教授	三浦 知子	122
19	准教授	宮良 俊行	129
20	講師	内田 智子	134
21	講師	乙須 翼	139
22	講師	川上 直彦	146
23	講師	小島 大輔	153
24	講師	柴田 あづさ	162
25	講師	田井 健太郎	167
26	講師	Brendan Van Deusen	173
27	講師	松本 知子	182
28	講師	森尾 真之	188
29	助教	John Patrick Owatari-Dorgan	192
30	助教	中島 金太郎	202
31	助教	宮本 彩	209
32	助教	元嶋 菜美香	215
人間社会学部社会福祉学科			
1	副学長・教授	木村 勝彦	221
2	教授	坂本 雅俊	231
3	教授	高島 恭子	236
4	学科長・教授	中村 龍文	243
5	准教授	大畠 啓	247
6	准教授	韓 榮芝	252
7	准教授	脇野 幸太郎	258
8	講師	安藤 佳珠子	263
9	講師	石橋 亜矢	271
10	講師	浦 秀美	279

教育職員		氏名	頁
11	講師	Virág Viktor	287
12	講師	金澤 由佳	297
13	講師	種橋 征子	303
14	講師	中村 美穂	308
15	講師	野田 健	313
16	講師	柳詰 慎一	319
17	講師	柳 智盛	327
18	助教	裴 孝承	333
19	助教	細野 広美	338
20	助手	金子 麻美	347
健康管理学部健康栄養学科			
1	学部長・教授	今村 裕行	352
2	教授	岡本 美紀	357
3	教授	熊井 まどか	363
4	教授	古賀 貴子	368
5	教授	柴田 哲雄	377
6	学科長・教授	野村 秀一	382
7	教授	水江 文香	388
8	准教授	林 俊介	394
9	准教授	松尾 嘉代子	401
10	講師	大橋 真理子	409
11	講師	川内 美樹	415
12	講師	川野 香織	420
13	講師	宮原 恵子	426
14	助教	小田 和人	431
15	助教	藤井 俊輔	437
16	助教	吉村 亮二	443
17	助手	射場 仁美	448
18	助手	岩崎 啓子	452
19	助手	菊地 優子	456
20	助手	菊池 亮子	460
21	助手	知念 咲希	464
22	助手	中山 みずほ	468
23	助手	古田 美咲	472
24	助手	吉永 奈津希	476
薬学部薬学科			
1	学部長・教授	榊原 隆三	480
2	教授	市川 和洋	485
3	教授	大庭 義史	490
4	教授	小川 由起子	495
5	教授	栴島 力	501
6	教授	仮屋藺 博子	506
7	図書館長・教授	岸原 健二	512
8	教授	隈 博幸	518

教育職員		氏名	頁
9	教授	黒川 健児	523
10	学科長・教授	小林 秀光	528
11	教授	佐藤 博	536
12	教授	立石 正登	543
13	教授	長岡 寛明	547
14	教授	深澤 昌史	552
15	教授	藤田 英明	557
16	教授	藤原 俊幸	562
17	教授	山口 拓	566
18	教授	山口 辰哉	574
19	教授	山口 泰史	579
20	教授	淀 光昭	585
21	教授	和田 守正	590
22	准教授	一木 裕子	596
23	准教授	宇都 拓洋	603
24	准教授	大磯 茂	610
25	准教授	太田 一寿	615
26	准教授	高井 伸彦	619
27	准教授	田中 宏光	625
28	准教授	西奥 剛	632
29	講師	神谷 誠太郎	636
30	講師	相田 美和	641
31	講師	高崎 伸也	646
32	講師	田中 啓太郎	650
33	講師	出口 雄也	655
34	講師	藤井 佑樹	661
35	講師	藤木 司	667
36	講師	藤本 京子	671
37	講師	吉田 達貞	677
38	助教	岩永 真理恵	683
39	助教	榎本 彩乃	689
40	助教	大神 正次	694
41	助教	太田 智絵	700
42	助教	中村 沙織	706
43	助教	縄田 陽子	710
44	助教	波多江 日成子	715
45	助教	福森 良	719
46	助手	臼井 千尋	724
47	助手	倉岡 卓也	729
48	助手	高田 誠	733
49	助手	中島 健輔	738
50	助手	山口 恭士郎	742

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 橋本 健夫

1. 教育理念

本学が掲げるディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを常に意識し、学生が大学での学びに納得し、主体的に授業に参加するとともに自己学修に励むことができることを目標にして教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	①②④⑤
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	②④⑤⑦
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	②④⑤⑦
教育方法論	15/15(後期)	2	42	①②④⑤⑦
教育方法論	15/15(後期)	2	24	①②④⑤⑦
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	⑤⑥⑦
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	6	⑤⑥⑦
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	②⑤⑥⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	②⑥⑦
教育実習B	80/80(通年)	2	1	②⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

国際観光学科における教養セミナーAの担当は、本年度が初めてである。当初、セミナーの教材等を提供するシステムに戸惑ったが、円滑に行えるようになった。この時間には教員と学生の距離を短くすることが求められるが、それについては順調だったと思う。ただ、全ての学生の欲求に応えられたかどうかは自信がない。その点が評価になって表れたと考えている。教養セミナーBにおいては、前期よりも学生との距離を短くすることができたと思う。2年生でのゼミを持ってない点が残念である。ホスピタリティ概論については、大人数であり、4学科の学生が混じっているために指導は難しい面がある。しかし、昨年度の反省から改善を行った分、円滑に授業展開できたと考えている。

教育方法論は教職課程のカリキュラムの変更により2学年で実施しなければならなかった。2年次生を対象とした授業(金・1校時)は、免許状を取得したいという願望が強く、かなりの学生が動機付けさ

れていた。従って、授業にもよく参加し、活発であった。その点が授業評価に表れている。1年次生を対象とした授業(木・1校時)は、動機付けが乏しく授業への参加も十分ではなかった。その点を考慮して授業を進めたが、評価は2年次生に比べて若干低かった。来年度は授業展開を改善する必要があると考えている。

その他の教職実践演習や教育実習に関連した授業はオムニバスであり、工夫を加える点が少なかった。しかし、例年よりも教員団の結束が固く順調に展開する事ができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	地球環境論	15/15(後期)	2	27

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、次に述べる二つである。

(1) 高等教育の改善・充実に関する研究

18歳人口の半数以上が大学に入学する時代(ユニバーサル時代)にあつて、大学は教育改革を求められている。具体的には、社会のリーダーを育成する教育から未来社会に個として貢献できる市民育成の教育への転換である。この変革は実現することが非常に難しい。それは、現在の大学教員はそのような教育を受けた経験を持たないからである。これを打開するためには、従来の教育のどこをどのように変えるかを早急に見つけることが必要になっている。

私は、この改革にあたっては、学生達が納得して大学の授業に取り組むことが不可欠と考えている。そこで、学生たちの意見を毎時間聴取し、コメントをつけて返却するECカードを用いた授業を実践してきた。この中で様々な調査を行い、彼らとの相互理解を進めることが、その一歩であるとの結論に達している。改革においては米国の大学が先行しているため、米国の大学の調査を行いつつ、この納得感の醸成に向けての実践研究を行っている。

(2) 学校教育における理科教育及び総合的な学習の時間の学習の在り方に関する研究

2017年度に学習指導要領が改訂され、小・中・高等学校の教育が大きく変わった。この中で強調されたのは大学教育同様主体的な学びである。しかし、これは従来の学習においても前提条件として認識されてきた。ただ、社会が大きく変容する中で、個として何を身に付けるか、その基盤は何かをもう一度考える必要がある。そこで、理科教育の中で、がん教育を取り上げ、その実践方法や適切な内容について研究を進めている。また、総合的な学習の時間については、教科の学習成果を活用する場として、どのような授業展開が必要なのかを探っている。2020年からは、大学の教職課程においても総合的な学習の時間が実施されることもあり、両者の授業展開を考える中からあり方を追究する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	15万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
教職協働で行う初年次教育ーホスピタリティ概論の実践と課題ー/2018年3月/教育基盤センター
紀要/25/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
納得感とは何かー主体的学びを後押しする心理学的概念を探るー/2018年6月/大学教育学会
第40回大会
建学の精神の徹底と卒業に向けた意欲喚起を図る初年次教育の現状と課題/2018年12月/大
学教育学会2018年度課題研究集会
Reasons Why Japanese Students Study at University / 2019年2月 / Annual Conference on the
First-Year Experience

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
理科教育におけるがん教育	科学研究費	2018年～2020年	15万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	学修成果の可視化に向けての教学IRの在り方を考えてきた。
全学共通教育委員会	委員長	世界の大学で教養教育が再度見直されている。そのながれを受けて本学の共通教育を考える
教員資格審査委員会	副委員長	大学教育改革の流れの中にあって、教員の資質としての教育力に注目するようになった。
IRセンター	センター長	学修成果の可視化の最前線である。本学の教育について最も適切な方法を模索している
教職課程委員会	委員長	教職を目指す学生が多くなっている。途中で挫折しないように、その環境を整える。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	本学の特色は何かを。再度検討し、ブランドの確立を目指す。
防火・防災委員会	委員	学生の防災意識を高めるための方策を追究する。
危機管理委員会	委員	大学の危機管理は非常に重要になっている。その意識でもって、システムを考えている。
教育基盤センター運営委員会	委員長	大学教育改革の最前線である。目標を見つめ、ぶれない方針で臨む。
人事委員会	副委員長	教職協働が叫ばれる中、人事はさらに重要度を増している。その点を意識して臨んでいる。
輸出管理委員会	委員	国家の危機管理の最前線である。国家の方針を踏まえつつ臨んでる。
全学教育会議	委員	大学教育改革では、共通教育の在り方を避けて通るわけにはいかない。その意識で臨む。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSPの高等教育質保証委員会	委員長	QSPの大きな改革は大学教育の質保証である。委員長として参加校の委員を纏め着実に前に進む。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習	2018年6月～8月	壱岐会場、本学会場 他	長崎県
大学入試センター第3委員会委員	2018年1月～12月	大学入試センター	大学入試センタ長

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Awesome!Sasebo!Project評価委員・推進委員	委員	2018/05/01～ 2019/03/31	長崎短期大学
教科科目第三委員会	教科別委員	2018/09/01～ 2020/08/31	大学入試センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
2018年大学教育学会課題研究集会開催校シンポジウム	組織	2018年12月1日	長崎国際大学	大学教育学会

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

平成30年度の諸活動において、新しく加わった活動はなかったが、それぞれの委員会等の活動が多くあり、忙しい中で1年が過ぎた。特にQSPの活動は、参加校を取りまとめることから始めなければならないため、また、県等の自治体との交渉もあり、時間に追われることが多々あった。この中で、各活動を滞りなく前に進めることができたのは、周りの方々の協力のお陰と思っている。感謝したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 池永 正人

1. 教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
地理学	15/15(前期)	2	143	②
観光地理学	15/15(前期)	2	183	②
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	②④⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	②④⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	1	①②⑥
長崎研究	3/15(前期)	2	123	②
卒業研究	15/15(前期)	4	5	①②⑥
社会科地理歴史科教育法	15/15(前期)	2	12	②④⑦⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	②④⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	②④⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	1	②⑥
観光政策論	15/15(後期)	2	132	②⑦
地理歴史科教育法	15/15(後期)	2	12	②⑦⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	1	②⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
事例研究(観光自然資源)	15/15(前期)	2/1・2年	2
観光地理特講	15/15(前期)	2/1・2年	4
事例研究(観光自然資源)	15/15(前期)	2/1・2年	1
観光自然資源特講	15/15(後期)	2/1・2年	2
事例研究(観光地理)	15/15(後期)	2/1・2年	2
観光自然資源特講	15/15(後期)	2/1・2年	2
地域マネジメント研究方法	15/15(後期)	2	2
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

a) 講義型の授業

授業アンケートは「地理学」と「観光地理学」を前期に、「観光政策論」を後期に実施した。いずれの授業も90分の授業配分を、リフレクションカードに記された質問・意見の解説15分、本時の講義(地図・グラフの読図を含む) 55分、授業内容の理解度を高める有効なスライド・動画20分に区分して変化のある授業を実施した。毎回配布する授業プリントの重要な語句は従来板書していたが、時間を要するため後期の「観光政策論」ではパワーポイントによる提示に変更した。その結果、授業内容を予定どおり説明することができた。この点は、今年度の有効な改善であった。

学生の遅刻や私語は少なく、受講態度は概ね良好であった。また、トイレ等でやむを得ず退席する場合は、これまで挙手の合図に会釈して許可していたが、学生からの不満の意見が複数あったことから挙手の合図をやめた。しかし、授業中に無断で途中退席する学生は相変わらずいるので、注意の仕方や授業方法の工夫が課題である。

授業評価の満足度は、「地理学」4.0(日本人学生:3.9 留学生:4.7)、「観光地理学」4.0(日本人学生:3.9 留学生:4.8)、「観光政策論」4.2(日本人学生:4.1 留学生:4.4)であった。

今年度は、キャリアセンターの協力のもとに、「観光政策論」第11回の授業(2018年12月6日)は、音楽演出家・ヴァイオリニストの大迫淳英氏による「旅と音楽」の特別講義を実施した。教室に響きわたる五島と黒島の潜伏キリシタンを題材にしたヴァイオリン、チェロ、ピアノの協奏曲の美しい調べに感動するとともに、音楽が観光にどのような形で関わることができるかを学生たちに考えさせる最高のアクティブラーニングであった。このような刺激的な授業は、観光を学ぶ喜びであることを実感できた。

b) 演習型の授業

学部の「専門演習Ⅰ、Ⅱ」は、例年どおりフィールドワークを実施した。2年生の前期は国立公園雲仙、後期は佐世保軍港クルーズ、3年生の前期は世界文化遺産登録直前の黒島、後期は国立公園雲仙と城下町島原について、観光資源の観察および観光の現状について現地専門家の説明を受

けた。事後学習は、これらの調査レポートの作成並びに口頭発表の指導を行った。4年生については、例年同様に卒業論文作成の個別指導に力を入れた。

大学院の特講・特別研究指導の授業では、受講者の研究テーマに関連した調査手法の指導を行った。また、「事例研究(観光地理)」は履修証明プログラム受講者1名も履修し、小浜温泉の観光について現地調査を行った。

いずれの演習も学生の興味関心は高く、研究と学修の目標を達成することができた。

②教育効果

授業評価は、いずれの科目も4.0を超えているが、授業の理解度を一層高めるには、教材研究をこまめに行い、易しい言葉で分かりやすく説明することが肝要である。また、日本人学生や留学生の学修能力の多様化に対応した授業の創意工夫が必要である。演習型の授業については、従来どおり事前学習をしっかりと行い観光地調査を実施した。フィールドワークは、地域調査の手法を学修するとともに観察力・考察力が身に付く効果的な授業であると確信している。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1)研究テーマ

海外 スイスアルプスの自然環境保全と観光振興

2018年度は、2017年12月に現地調査を実施したグリンデルヴァルトとリギカルトバートの実態分析を行った。

国内 国立公園の観光資源

2018年度は、夏季に北海道・阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園の現地調査を実施した。

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
九州横断観光ルートの観光地域区分と観光多様性の試論/2018年9月/温泉地域研究 第31号/
57頁～62頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	学部長として、人間社会学部が担当する全学共通科目と科目担当者の選定
教員資格審査委員会	委員	学部長・研究科長として、新任教員、昇任教員等の資格審査の提議
研究ブランディング事業実施委員会	委員	平成30年度私立大学研究ブランディング事業に応募。事業名:大学生と子どもの共育プログラムによる「地方創生長崎モデル」の構築に関する研究。平成31年2月27日(水)不採択通知。
防火・防災委員会	委員	長崎国際大学自衛消防隊組織体制、防滅災共育のFD、防災訓練の実施等
安全衛生委員会	委員	教職員対象定期健康診断、少量危険物貯蔵庫の届出の受理等
安全管理委員会	委員	特になし
危機管理委員会	委員	大学危機管理基本マニュアルの改正、台風・西日本豪雨被災状況の報告等
人事委員会	委員	学部長・研究科長として、新任教員、昇任教員等の提議要望
輸出管理委員会	委員	事前確認シートの新設、教員の海外渡航目的、外国人留学生の入国等の把握
グローバル推進協議会	委員	長崎国際大学「国際化ビジョン」の進捗状況、留学生募集定員の方針、英語で教授する授業科目増設等
全学教育会議	委員	学部および大学院研究科の教育方針・教育課程等の説明
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する自己申告書の審議、利益相反マネジメント研究会の開催等
作問委員会	委員	本学独自の入試に関する作問のスケジュール、作問者・校閲者の選定、入試問題の校閲等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学国際観光学会	会長・評議員	会員総会(4月)、研究発表会(11月)、学術誌『観光学論集第14巻』発行(3月)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①九州文化学園高校表敬訪問(学生募集) 2018年5月21日(月)

②中国・広東省の3大学を木村副学長と表敬訪問(留学生募集) 2018年12月24日(月)～25日(火)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
九州の温泉地域の観光－過去と現在－	9月13日	ホテルオークラJRハウステンボス	日本私立大学協会九州支部

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2014年度～現在に至る	佐世保市長
九州風景街道推進会議	委員	2006年度～現在に至る	国土交通省九州地方整備局長
ながさきサンセットロード推進協議会	委員	2007年度～現在に至る	長崎県土木部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院研修	雲仙市の福祉施設 南高愛隣会と雲仙温泉を案内	7月23日(月)	社会福祉学科
上海大学短期博物館研修	雲仙・島原の博物館と観光施設等を案内	7月29日(日)～30日(月)	国際観光学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度も人間社会学部長および大学院人間社会学研究科長として、学部・大学院の運営に多くの時間を費やした。学部においては、国際観光学科の旅行業務取扱管理者の資格取得者の増加、社会福祉学科の国家試験合格支援体制の整備と推進の成果を得た。また、大学院においては博士号の学位授与者はいなかったが、観光学専攻と社会福祉学専攻においては修士号の学位授与者を育成した。

しかし、個人の研究活動については、満足のゆく成果を上げることができなかった。次年度は、研究論文と著書の執筆に力を入れるように努める。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 板垣 朝之

1. 教育理念

近年社会の変化のスピードは著しく早く、その中で「社会人」として活躍するには自らの能力を磨き続けながら、社会に対して常に自らの考え・意見を持って主体的にかかわる事が必要である。そのために私は、学生が以下3点の基本的な人間力を習得し、それを常に向上させながら「一人前の社会人」として社会へ巣立ってゆくことを大きな目的に、日々の教育に当たっている。基本的な人間力とは、以下の3点である。

1. 何事に対しても常に自分の考え・意見を持つこと
2. 自分の考え・意見を口頭で開示できること
3. 自分の考え・意見を文章で表現できること

この能力の習得と涵養のために、我々の周りにある主に「観光」に関する事象や動きを追いながら、知識を広め、また深め、広く「社会人としての教養」を高めることを目標として、講義、演習等の授業を構築している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	⑤⑦⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	16	⑤⑦⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	13	⑤⑦⑩
卒業研究	15/15(前期)	4	2	⑥⑫
キャリア開発C	15/15(前期)	2	317	⑤⑥⑩
地域観光研究C(ヨーロッパ)	15/15(前期)	2	142	②③⑨
航空業論	15/15(前期)	2	134	②③⑨
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	⑤⑦⑪
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	13	⑤⑦⑩
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥⑩⑫
海外観光資源A	15/15(後期)	2	186	②③⑨
ツアープランニング	15/15(後期)	2	89	②③⑨⑩
地域の魅力を掘り起こす～2020年 に向けて	1/1(後期)	2	2	③
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑤⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光経営管理特講	15/15(前期)	2/1・2年	3
観光事業特講	5/15(後期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・評価点を更に向上させるには、全体の20%を占める「3」評価学生の数を減らし、「4」以上へ向上させる必要がある。この授業は専門科目の中でもかなり専門性の高い、受講興味や意欲に差が出やすい科目なので、単に単位認定が甘いというような履修理由で授業履修している学生には、そもそもあまり興味の持てない授業内容であることも想定される。また自由記述コメントに2件も「早口である」との指摘があり、今後小職の意識以上にこの点の改善を行う事が評価点向上には不可欠と判断する。

・ややもすると、知識・情報発信中心の教員の一人相撲的な授業に陥りがちであるとの戒めを元に、アクティブラーニング手法の更なる深堀りと学生の参画を促す授業形態への進化を図りたい。これにより評価「3」学生の「4」への向上が図れれば、全体の評価も向上するものと思料する。また履修前段階での当授業の内容説明を慎重に行い、単なる単位取得のみを目的とした学生の履修に、アクティブラーニング運営上からもその他授業運営上からも一定の歯止めをかけたい。また学生の事前学習等の便宜を考慮して、今年度よりレジュメの半期通し版を作成・配布し、授業後の予習、復習の用に供したつもりであったが、数値にそれが全く反映されていなかった点に関しては、今後の方向性を熟慮したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

・中国における地域文化の観光学及び博物館学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
中国における地域文化の観光学及び博物館学的研究 ～雲南省麗江と昆明を中心として/2018年3月/長崎国際大学論叢18巻/10/共著/研究ノート
中国における地域文化の観光学及び博物館学的研究 ～雲南省大理を事例として~/2019年3月/長崎国際大学論叢19巻/10/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特になし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	平成30年度同事業応募に関する事業内容取りまとめ
発明等審査委員会	委員	特になし
全学教育会議	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学科研究ブランディング事業実施検討WG	委員	同事業応募学科案を策定し平成30年度応募。

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
肥前やきもの圏・芸術と産業、地域連携で協創する観光まちづくりシンポジウム	平成30年10月4日	ホテルオークラJRハウステンボス	同左

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特定複合観光施設(IR)基本構想有識者会議	委員	平成29年10月～平成30年3月31日	長崎県・佐世保市IR推進協議会 会長 中村法道
長崎IR区域整備の実施方針検討・作成業務委託に関わる公募型プロポーザル審査委員会	委員	平成30年4月～平成30年7月	崎県・佐世保市IR推進協議会 会長 中村法道

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年も学科長としての職責と、教員としての職責の両立に苦慮した一年であった。自身の授業の更なる深化、受講学生の受講力差等を考慮した授業実施を心がけ、前年のアンケート評価等を吟味の上、主に学生のアクティブラーニングによる積極的な授業参画を目指した授業の実践に勤めた。更に研究活動に関しても、昨年度に引き続き海外研究活動を実施し、結果を研究レポートとして(共著)まとめ、平成30年度の大学論叢に掲載する。

次年度に向け、更なる授業内容の深化、語学力レベルに差のある本邦学生と留学生の授業時の対応等々に留意しながらより良い授業実施を心がけたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 落合 知子

1. 教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くを占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
生涯学習概論	15/15(前期)	2	202	②⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	②⑥⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	②⑥⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	9	⑥⑫
博物館資料保存論	15/15(前期)	2	135	②⑨
博物館概論	15/15(後期)	2	149	②③⑨
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	6	②⑥⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	②⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	9	⑥⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	②⑥⑫
博物館資料論	15/15(後期)	2	153	②⑨
日本史	15/15(後期)	2	130	②③⑨
博物館実習A	30/30(通年)	1	32	①②⑥
博物館実習B	30/30(通年)	1	12	②③⑨⑪
博物館実習C	30/30(通年)	1	28	⑩⑪⑫
海外観光研修A(アジア)	30/30(通年)	2	12	②⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(博物館)	15/15(前期)	2/1・2年	2
事例研究(博物館)	15/15(前期)	2/1・2年	1
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	2
博物館特講	15/15(後期)	2/1・2年	2
博物館特講	15/15(後期)	2/1・2年	3
観光事業特別演習	5/15(後期)	2/1・2年	1
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	-
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	1
特別研究指導Ⅰ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

博物館資料保存論、博物館実習の評価はともに高かった。実習に関しては配慮が必要な学生はもちろんのこと、一人一人に丁寧に指導している。資料保存論も私語に対して厳しくした点を評価された。

後期の博物館実習も同様に評価が高かった。博物館資料論に関しても良い評価であったものの、

携帯使用は認めて欲しい旨の苦情があった一件あった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
國學院大學	博物館資料保存論1	15/15(前期)	2	180
國學院大學	博物館資料保存論2	15/15(前期)	2	50
國學院大學大学院	博物館特殊実習・専門実習	15/15(前期)	2	15
日本大学理工学部	博物館資料論	1/15(後期)	2	4

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
上海大学博物館学研修	10	15	平成30年7月17日～27日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

博物館学
博物館資料保存論
野外博物館
考古学
日本の伝統的保存方法

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	2	0	2	0	2	2	88万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

『博物館と観光』/共著/2018年9月/雄山閣/139～169

『博物館実習教本日本語改訂増補版』/単著/2018年9月/長崎国際大学/45

『博物館実習教本中国語改訂増補版』/共著/2018年/長崎国際大学/45

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

「中国における地域文化の観光学及び博物館学的研究」/2019年3月/長崎国際大学論叢/未定/共著/研究ノート

「陝西省・甘肅省・ウイグル地区の観光における博物館活用の研究」/2019年3月/長崎国際大学論叢/未定/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「地域文化資源を活用したMLA連携による博物館展示教育の実践」(平成30年度学長裁量経費)	長崎国際大学	平成30年5月～平成31年3月	70万円
「上海大学との連携事業による博物館学芸員課程の質的向上についての研究」全国博物館学講座協議会西日本部会助成	全国博物館学講座協議会西日本部会	平成29年10月～平成30年9月	18万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	平成30年度採択学長裁量経費採択事業によるMLA連携事業の実践
共同研究予算委員会	委員長	なし
博物館学芸員養成課程委員会	委員長	上海大学博物館学研修の受入れ 波佐見町との包括協定締結

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業対策会議	委員	私立大学等改革総合支援事業の対策検討への協力

(3) 課外活動の指導等

波佐見町の地域文化財の調査に関する指導

中国甘肅省における博物館調査の指導

中国雲南省における博物館調査の指導

中国上海市における博物館調査の指導

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

博物館学芸員養成課程のリーフレットを作成し、入学説明会、オープンキャンパス等々で活用した。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
全国大学博物館学講座協議会 全国大会実行委員	平成30年6月	長崎国際大学	全国大学博物館学 講座協議会
NICEキャンパス長崎コーディ ネート科目担当	平成30年10月26日	アルカス佐世保	長崎国際大学
教員免許更新講義担当	平成30年8月4日	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立図書館協議会	委員	2015/08/01～現在 に至る	佐世保市教育委員 会教育長
佐世保市総合計画審議会	委員	2015/11/01～現在 に至る	佐世保市長
佐世保地域文化事業団	評議員	2018/04/01～現在 に至る	佐世保地域文化事 業財団理事長
波佐見町博物館構想委員会	委員	2015/11～現在に至 る	波佐見町教育委員 会
板橋区立郷土博物館	委員	2017/10～現在に至 る	板橋区教育委員会
全国大学博物館学講座協議会 西日本部会	委員	2016/10～現在に至 る	全国大学博物館学 講座協議会西日本 部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

波佐見町との包括協定による事業
(地域文化財の悉皆調査・報告書作成)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学博物館学研修	上海大学博物館学研修 を継続事業として実践	平成30年7月16日～ 8月4日	長崎国際大学
上海観光研修	上海大学を基点として、 本学学生の観光研修を 実施した	平成30年9月3日～7 日	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

上海大学博物館学研修を受け入れて今年で3回目でありすべて成功裡に終了している。上海大学からもこの研修を高く評価されており、今後は更なる内容の充実に向けて協議している。また、本学からの研修は2回実践し、こちらも継続的的事业として定着している。また、本学で推進している上海大学博物館学研修について、上海大学側がICOMの組織であるUMACのUMACAWAYに申請した。世界的組織に本研修をノミネートすることができたことは大きな業績である。

平成30年度学長裁量経費事業は本学博物館学、図書館、波佐見町教育委員会の3者連携事業であるが、この事業を契機として、本学と波佐見町との包括協定が締結された。それにより、今後の協力体制は確固たるものとなり、現在も学部生、大学院生たちの調査研究の場として波佐見町を活用し、学芸員の指導を受けている。この協定は本学学生の教育の質の向上に繋がったものであり、今後はさらに発展させていく予定である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 熊谷 賢哉

1. 教育理念

学生に主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
ボランティア論	3/15(前期)	2	58	⑩
健康科学	15/15(前期)	2	56	②⑦⑧⑩⑪
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15/15(前期)	1	39	②④⑤⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	12	①⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	①⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	5	①⑥
トレーニング論	15/15(前期)	2	49	②⑦⑧⑩⑪
スポーツ医学	2/15(前期)	2	49	⑨
レジスタンストレーニング(理論・実践)	8/15(前期)	2	35	⑩⑪
エアロビクス(陸上・水中)	3/15(前期)	1	11	②⑩
マリンスポーツⅡ	15/15(前期)	1	6	①②⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
運動生理学A	15/15(後期)	2	73	②⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	12	①⑥⑪
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	①⑤⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	5	①⑤⑥
レクリエーション活動研究	15/15(後期)	2	12	②④⑤⑥⑪
コンディショニング	6/15(後期)	1	53	⑪
スポーツ実習D(スキースノーボード実習)	15/15(通年)	1	31	②④⑪⑫
海外観光研修D(オセアニア他)	30/30(通年)	2	22	②③⑩⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②⑤⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域スポーツ特別演習	15/15(前期)	2/1・2年	1
まちづくりマネジメント特講	4/15(前期)	2/1・2年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

受講生が増加する中、納得いく授業展開ができたのではないかと考えている。授業アンケートの評価についても昨年度と同等の評価を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(前期)	2	60
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(後期)	2	62
鹿屋体育大学	生涯スポーツ論	6/15(前期)	2	19

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ヒト骨格筋の形態と機能の関係
- ・高齢者の健康と身体活動

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	1	1	37.5万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
地域スポーツ教室における指導者意識が参加者の満足度に与える影響/平成31年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要/未定(印刷中)/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学キャンプ実習の心理的効果およびその持続性/平成30年9月16日/九州体育・スポーツ学会
67回大会

形式的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の満足度評価/平成30年9月16日/九州体育・ス
ポーツ学会67回大会

大学における野外活動実習の展開と効果の検証ーキャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノース
ポーツ実習を対象としてー/平成30年9月15日/第67回九州地区大学教育研究協議会

長崎国際大学スポーツブランド“NIUS”醸成に向けた取り組み/平成31年3月13日/九州地区大学
体育連合2018年度春期研修会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎国際大学スポーツブランド “NIUS”醸成に向けた取り組み	長崎国際大学	平成30年4月1日ー平 成31年3月31日	37.5万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員長	特になし
防火・防災委員会	委員	特になし
危機管理委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム委員会	委員	学科のカリキュラムの検討
実習委員会	委員	学科の実習(観光研修、インターンシップ、地 域連携活動)の調整

(3) 課外活動の指導等

女子バレーボール部 ストレングスコーチ

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
高齢者と運動	平成31年2月2日 (土)	佐世保市役所	佐世保市教育委員会スポーツ振興課
豊かな老後は「健康」から	平成31年3月4日 (月)	生月町中央公民館	平戸市社会福祉協議会
体育・スポーツに関する最新情報	平成30年7月28日 (土)	長崎県立五島高等学校	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本健康運動指導士会長崎県支部理事会	理事	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	日本健康運動指導士会長崎県支部
佐世保市東部スポーツクラブきずな理事会	理事	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	佐世保市東部スポーツクラブきずな
九州体育・スポーツ学会理事会	理事	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	九州体育・スポーツ学会
九州地区大学体育連合理事会	理事	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日	九州地区大学体育連合

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・教育面:スポーツツーリズムコースの学生をゼミ生(2年～4年)として計26名担当し、そのうち4年生5名の卒論を担当した。また、今年度も教養セミナー(1年生10名)を担当した。
- ・研究面:今年度も学会発表は1本のみにとどまった。
- ・社会面:九州体育スポーツ学会および九州大学体育連合の理事として、学会および連合の運営に積極的に携わることができた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 嶋内 麻佐子

1. 教育理念

私は現在、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科に所属しており、全学共通科目である「茶道文化」の講義を中心に、専門演習(ゼミ)などの講義を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心(ホスピタリティ)を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、「正午の茶事」と「卒業の茶事」の2回の茶事を通して、学内外よりお客様をお呼びし、数寄屋での茶事を実践する。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	56	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	110	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	75	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	85	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	109	②⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	8	②③④⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	59	②③④⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫
茶道文化ⅢA	15/15(前期)	1	9	②③④⑥⑦⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	27	②④⑥⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑪⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑧⑩ ⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	①②④⑤⑥⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	6	①②③⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
長崎研究	3/15(前期)	2	123	②⑨⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	7	①②④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(後期)	1	43	②③⑥⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	72	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	96	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	60	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	84	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	106	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅡB	15/15(後期)	1	64	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅢB	15/15(後期)	1	11	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	14	②③④⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	6	②③④⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	7	②③④⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	6	②③④⑥⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑥⑦⑩⑪ ⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	①②⑤⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	②③④⑤⑥⑦⑫

卒業研究	30/30(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
------	-----------	---	---	-------

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

茶道文化Ⅰ

茶道文化Ⅰのアンケート調査では、前期との比較を見ると100名を超えるクラスでは、どの項目も高くなっている傾向がある。木曜3コマ観光クラスは茶道文化ⅠBの中でも履修者が119名と最多数である。少人数グループでの授業を実施するために、昨年度より、自明堂と不息庵という2つの茶室だけでなく、4101教室も併用して授業を実施している状況である。これにより、従来12班体制でしか対応できなかったところを、14班体制にして、できるだけ1グループの人数を少なくして、充実した指導ができるようになった。1グループの人数が減ることで、授業中の点前練習にも時間が増え、学習意欲の向上につながったと思われる。

茶道文化Ⅱ

後期は、濃茶点前後半を習得することが主な内容となり、実技中心であった。前期には、オプション授業で茶杓作りや着付けなどを実施したが、後期は濃茶点前の稽古が中心となり、前期と比較すると15回の講義内容が単調になっていることで満足度が低い結果となったのではないかとと思われる。しかし、総じて全体平均と比べると高い数値が出ており良好である。今年度は、中風炉点前を取り入れ、学生は客や季節に合わせた点前があることを知り、茶道の奥深さについて理解を深めることができたと思う。また、今年度はグローバルツーリズムコースの学生が留学後に履修したこともあり、留学をきっかけとして日本文化に関心を持つようになったと考えられる。

茶道文化Ⅲ

茶道文化Ⅲまで履修している学生ということもあり、茶道に取り組む姿勢や、興味関心度は高い水準にあると考えられる。また、本クラスには、運動部関係の学生や補助員(SA)活動をしている学生、また様々な学科の学生が履修しており、コミュニケーション力や協調性を培う機会になっていると思われる。自由記述では、茶道文化Ⅳまで履修したいことや、日本文化に触れる貴重な時間となっていることなど、次年度につながるコメントがあった。茶道文化の集大成として、茶道文化Ⅳを履修し、学生の人間力がより育まれるように指導を行っていききたい。

茶道文化Ⅳ

前期に正午の茶会を実施しており、後期はスムーズに授業を展開することができたと思う。後期は、前期の様子を鑑みて、班編成を変更し、学生や担当者の入れ替えを行った。新たなグループとなったことで、卒業茶会に向けて学生同士がコミュニケーションを密に取り、協調している様子が見受けられた。茶会の企画や役割、準備、稽古を重ねていく中で自主的に練習を行う班も出るなど、前期以上に学生自身の取り組む姿勢が積極的に、そして主体的になっていた。また、今年度は、薬学部の学

生が11名履修し、そのうち9名の学生は初伝免許状の申請を行っている。次年度も、学生に配慮した対応ができればと考える。

自由記述を見ると、茶道を履修したことに満足している様子や、4年間学び続けて充実している様子が見える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ (前期)	1/15(前期)	1	232
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	1/15(後期)	1	230
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	1/15(前期)	1	227
長崎短期大学	茶道文化Ⅳ	1/15(後期)	1	221
歯科衛生士学院	茶道文化ⅠA	1/15(前期)	1	38
歯科衛生士学院	茶道文化ⅠB	1/15(後期)	1	38
歯科衛生士学院	茶道文化ⅡA	1/15(前期)	1	33
調理師専修学校	カプリングカフェ&リカー	1/15(後期)	1	19
調理師専修学校	カプリングカフェ&リカー	1/15(後期)	1	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
茶道大会亭主練習	6	60	12月
茶道大会当日	5	454	12月8日
補助員研修(夏季)	20	19	9月5・6・7・11・12日
補助員研修(春季)	20	34	3月5・6・12・13・14日
補助員会議	1	11	6月13日
補助員会議	1	11	8月6日
補助員会議	1	9	10月31日
補助員会議	1	10	12月7日
補助委員会議	3	14	2月6日
教職員夜茶指導(前期)	9	82	5月9日～7月11日
教職員夜茶指導(後期)	18	82	9月20日～2月20日
茶道部点前指導			

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「茶道鎮信流の点前に関する研究」

「茶道と教育について」

「ホスピタリティ概念から捉える亭主と客の相互関係のありかたについて」

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	0	6	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 小中学校における茶道教育課程の基本理念(講義概要) /単著/平成31年4月1日/九州文化学園小中学校/5

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

建学の精神の徹底と卒業に向けた意欲喚起を図る初年次教育の現状と課題/平成30年12月1日
 /大学教育学会

鎮信流点前九通台子点前/平成30年6月9・10日/鎮信流梶の会研究会

茶道鎮信流の基本的な茶事について「立礼」/平成30年11月17・18日/NPO法人茶道鎮信流総
 会及び梶の会研究会

鎮信流 向切平と自在点前「薄茶から続きまで」/平成31年3月2・3日/茶道鎮信流梶の会研究会

立礼点前(炭・濃茶・薄茶点前)/平成30年12月23日/茶道鎮信流佐世保支部松清会

向切炉の点前/平成31年3月24日/茶道鎮信流佐世保支部松清会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター委員会	アドバイザー	の改正、公開講座、まちなか大学、企業連携協力協定、長崎国際大学履修証明プログラム、地域貢献・ボランティアイベントの規約活動内容の把握と今後の活動等、土台作りに貢献した。
産学連携専門委員会	アドバイザー	産学連携専門委員会内規検討や連携協定に関する概要・経緯について検討し、基準について議論し、今後の活動に向けて準備した。今年度は、佐世保市と包括連携企業との話し合いを2回実施し、佐世保市における諸問題について話し合いを行った。また若者人材支援事業活動報告会を実施するなどの事業の取り組みを行った。
学事委員会(卒業生支援)	委員	定例ホームカミングデーを3回企画し、実施した。卒業生依頼行事で、九州旅客鉄道株式会社クルーズトレイン本部勤務の卒業生の依頼を受けて、ななつ星でのお茶接待の指導を行った。 また研究室訪問では月例訪問者と訪問内容を学科会議にて報告した。さらに、卒業後の再就職の相談を受ける等、その後の動向を確認。学科の卒業生活動に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学教職員の夜茶の研修	茶道文化総括責任者	大学及び九州文化学園内の教職員に対して、週かい(1年間実施)の夜茶(水曜班・木曜班)において茶道の指導を行った。
茶道文化補助員の教育指導	茶道文化総括責任者	大学規定に沿って補助員の選考を行い、春・夏・冬休み中に補助員研修を企画し、技術指導と教育方法の指導を行った。また、授業終了後の反省会や月例研究会を企画し、指導者教育を行った。
長崎短期大学・専修学校部門の教職員の茶道指導	茶道文化総括責任者	短期大学と専修学校教職員に対して、夜茶で、年間数回茶道の指導を行った。さらに12月に茶道大会時期には、教職員と学生に対して点前指導を行った。
第8回ハイスクール茶会inハウステンボス	ハイスクール茶会実行委員長	5月20日ハウステンボスにおいて、県内外の19校の高等学校茶道部を招集し、ハイスクール茶会を企画し活動した。(2,850人)
観月茶会(公開講座)	茶道文化総括責任者	茶道文化履修の名の学生達の成果発表として、1101教室にて「観月茶会とトークセッション」(10月)を企画し活動した。(学内外より約200名の参加があった。)
夏の「正午の茶会」並びに冬の「卒業茶会」	茶道文化総括責任者	茶道文化Ⅳを履修している学生(前後期24名)名の成果発表として茶会を企画し、外部から客を招いた。(前期に3回、後期に3回、計6回の茶事を企画)
学長裁量経費*再掲(委託研究・「教育資源を活かした企画・運営による学生人材鶴区政事業の構築」(NIU キッズキャンパス)	分担者(地域連携室アドバイザー)	取り組み:地域連携室での広報に向けての話し合いや11月24日開催の「NIU キッズキャンパス」に向け「英語で学ぶ茶道」をグローバルと茶道部の学生とで実施した。

(3) 課外活動の指導等

- ①茶道部顧問 茶道部(100名)の茶道活動支援を行っている。クラブ指導や大学祭をはじめ大学広報に関わる企画内容の学生指導や茶席運営大学の行事等の指導の支援活動を行った。
- ②茶道部顧問及び補助員担当 茶道部及び補助員(13名)を引率し、宇和島での鎮信流全国大会参加において学生支援を行った。
- ③茶道部顧問 佐賀県立美術館のガラスの茶室見学について提案し活動支援を行った。(8名)
- ④茶道部顧問 古文書解説講演会への参加や長崎歴史博物館での茶席参加を促すなど活動領域を拡大し支援を行った。(6名)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①長崎国際大学入学式「茶道紹介」/2017年4月3日/長崎国際大学(自明堂)
- ②第8回ハイスクール茶会inハウステンボス(19校参加)/2018年5月19日/ハウステンボス
- ③全国博物館学芸員協議会にて「薄茶席紹介」/2018年6月16日/長崎国際大学(自明堂)

- ④オープンキャンパス「茶道紹介」／2018年7月22日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑤オープンキャンパス「茶道紹介」／2018年8月5日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑥オープンキャンパス「茶道紹介」／2018年8月19日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑦観月茶会「立礼での茶道紹介・トークセッション」／2018年10月19日／長崎国際大学1101
- ⑧保護者会「茶道紹介」／2018年10月7日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑨長崎国際大学大学祭「茶道紹介」／2018年11月3・4日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑩大学教育学会にて「薄茶席紹介」/平成30年12月1・2日/長崎国際大学(自明堂)
- ⑪オープンキャンパス「茶道紹介」2019／3月23日／長崎国際大学(自明堂)
- ⑫国際親善させば桜まつり「茶道紹介」2019/3月31日/佐世保公園

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
6	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市広田小学校総合学習による茶道体験「茶の歴史」講義・茶席体験	5月 24日・31日	長崎国際大学 自明堂	佐世保市広田小学校校長 沖島 宏幸
上海大学学生交流「茶の歴史」講義・茶席体験	7月27日	長崎国際大学 自明堂	上海大学 長崎国際大学落合教授
教員免許状更新講習会「茶道を通して育む思いやりの心」	8月3日	長崎国際大学 自明堂	教員免許状更新講習会事務局
高校生夏休み薬学研究体験「お茶の基本について」講義・茶席体験	8月8日	長崎国際大学 自明堂	長崎国際大学 自明堂
茶と花の融合展にて「鎮信流茶席での席主として道具等の紹介」	9月1日	東京ホテルオークラ別館	東池坊家本岩田
観月茶会(公開講座)	10月19日	長崎国際大学 1101	長崎国際大学地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO法人茶道鎮信流梶の会 (全国組織)	幹事	2012～2019年	茶道鎮信流 宗家 松浦章
鎮信流佐世保支部・松清会	幹事	2006～2019年	鎮信流佐世保支部 支部長 松浦純二
ハイスクール茶会inハウステン ボス準備委員会	実行委員長	2011～2019年	ハイスクール茶会実 行委員会
九州文化学園小中学校設立に あたっての茶道運営及茶室設 定準備委員会	委員	2018～2019	九州文化学園理事 長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①5月に第8回「ハイスクール茶会inハウステンボス」の大会実行委員長として参加:主催 ハイスクール茶会実行委員会
- ②年に3回(6月・11月・3月)全国組織「鎮信流梶の会研究会」を大学で実施運営責任者及び幹事として参加:主催:鎮信流梶の会(全国組織)
- ③8月に佐世保松清会会員の七通点前審査員として参加 主催:鎮信流佐世保支部松清会
- ④2月に佐世保松清会行事「八幡神社での献茶式」に参加 主催:鎮信流佐世保支部松清会
- ⑤3月に佐世保松清会会員の七通点前審査員として参加 主催:鎮信流佐世保支部松清会
- ⑥数回、長崎短期大学と九州文化学園専修学校の教職員に対して茶道指導者として参加、主催:法人九州文化学園

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
マカオ大学訪問	薄茶席・鎮信流紹介	7月22日	主催:マカオ大学
上海大学学生交流	「茶の歴史」講義・茶席 体験	7月27日	主催:上海大学博物 館交流団
スカイ学院大学訪問	茶道体験・鎮信流紹介	8月5日	主催:スカイ大学
オイスカ西日本研修セン ター研修	茶道文化体験	11月28日	主催:オイスカ西日 本研修センター
日本語スピーチコンテスト 優秀者による大学訪問ベト ナム	お菓子とお茶の飲み方 講習・学生間交流	1月24日	主催:ベトナム・ダ ナン市外務事務局
長崎日本語学院「茶道体 験」	茶道体験・学生間交流	1月22日	主催:長崎日本語学 院

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

無し

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、必修の茶道文化Ⅰでは、シラバス内容を変革し生活面の内容を取り入れての茶道指導を行った。前期は初めて触れる茶道に、学生の興味関心度も強かったが、後期の点前の流れの修得は、難しいと感じる学生も多く見られた。また、学生数が多いクラスでの正座が出来ない学生指導は難しい点も多く見られた。10人くらいの学生が机と椅子使用の立礼方式となり、限られたスペースでの授業では困難な点もあり、他の学生との間に支障が見られた。茶道文化Ⅲ実施の観月茶会は今年度より公開講座となり、点前だけでなく授業の内容等についてもトークセッション方式で紹介し好評であった。

研究面では、梶の会研究会を大学の施設で3回実施し、11月にはNPO法人梶の会総会も開催した。今回の研究会テーマ「立礼の茶事」を実施したことで、4年生の茶会指導の際不明な点が明確になり、良い教育効果に繋がった。3月には2日間宗家の任を受けて、梶の会員に対して点前の指導を行い、点前の疑問点を明らかにした。さらに鎮信流佐世保支部や九州文化学園教職員に対して、研究会を開催し報告できたことはとっっても有意義であった。東京で開催の「茶と花の融合展」においては、茶席の席主として鎮信流の歴史や道具等の紹介ができ、多くの参加者に対して鎮信流の紹介ができ有意義であった。

広報活動では、大学で開催の入学式を始めオープンキャンパス、保護者会等で茶道部や補助員と共に「茶道紹介」を企画し、実施した。地域連携室で学長裁量経費に選定され、[NIUキッズキャンパス]で、お茶室体験を実施した。実施するにあたり今年度はグローバルと茶道部の学生とを融合し、「英語で学ぶお茶」に挑戦し、有意義な取り組みであった。多くの広報活動に貢献すると同時に、在学生の教育活動にも努めることができ意義のある活動であった。

報道関係では、ハイスクール茶会、広田小学校茶道体験、観月茶会、授業での初釜、松芳忌の紹介等、テレビ佐世保にて大学の茶道紹介を行った。

ワーキング・グループ活動として、補助員指導を春・夏休みを利用して、研修や月例研究会を企画し、指導者研修の向上を目指した。さらに実行委員長として、第8回ハウステンボスinハイスクール茶会を企画し2,850人規模の茶会を実施した。

国際交流プログラムでは、毎年実施している長崎日本語学院の茶道体験、上海大学学生に対しての「茶道の歴史」講座、茶道を通し学生間交流を図り本学学生にとっても有意義な交流が出来たと思われる。ぜひ次年度に繋げたいと思っている。

今年度も茶道文化の教育内容、それを活かした地域貢献、国際交流等、多くの取り組みができ、教育効果に繋がったことが、高く評価されたことも感慨深いものがある。今後も、これらの実績を地道に継続すると同時に、それぞれの行事や内容の見直しを図っていたいと思っている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 滝 知則

1. 教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いると思う。この人たちには、この大学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。ただし私たちは、これ以外の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障害のある人たちと(今は)ない人たちの文化、地方(農村部)の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働(グループワーク)や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べると、地方(農村部)の社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方(農村部)の地域社会の文化の創造の大変さとすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

自分自身、都会で働いたり生活したりしたことがある。都会を否定するものではない。その一方で、地元で生きること、地元でがんばることに(も)誇りを持つことができる人に、学生たちがなっていてほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいことがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、聞き手に伝わりにくいことが珍しくない。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでもよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告(考えたことや感じたことの言語化)といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実

習系科目のフィールドは佐世保市三川内町と平戸市である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告(考えたことや感じたことの言語化)を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
国際関係論	15/15(前期)	2	69	①⑥⑨
International Relations	15/15(前期)	2	22	①⑥⑨
国際交流研究	15/15(前期)	2	45	⑥⑨
異文化コミュニケーション論	15/15(前期)	2	56	①⑥
地域連携活動 I A	15/15(前期)	1	8	①②④⑥
専門演習 I A	15/15(前期)	1	5	④⑥
専門演習 II A	15/15(前期)	1	12	④⑥
専門演習 III A	15/15(前期)	1	7	④⑥
卒業研究	15/15(前期)	4	5	④⑧
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
比較文化論	15/15(後期)	2	118	⑥⑩
政治学	15/15(後期)	2	57	①⑥⑨
地域連携活動 I B	15/15(後期)	1	7	①②④⑥
専門演習 I B	15/15(後期)	1	6	④⑥
専門演習 II B	15/15(後期)	1	10	④⑥
専門演習 III B	15/15(後期)	1	6	④⑥
ビジネス文書	15/15(後期)	2	122	①⑨
卒業研究	15/15(後期)	4	-	④⑧
卒業研究	30/30(通年)	4	3	④⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
国際関係特講	15/15(前期)	2/1・2年	4
観光事業特別演習	5/15(後期)	2/1・2年	1
事例研究(国際関係)	15/15(後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

<国際交流研究>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

H29実績4.3、H30実績4.1、推移-0.2

この結果には、(4)の授業の方法に関わる要改善点が影響していると考える。向上策は下記の通り。

(2) (受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法)

この科目では3つのプロジェクトを実施した。次の2つは、受講態度と学修意欲の向上に一定の効果があったと考える。

①日本語を学ぶウォーリック大学(イギリス)の学生から届いた日本語の手紙を読み解き、返事を書くプロジェクト。外国の学生たちの学修内容や日常生活などにおける違いを知った一方、イギリスの学生たちと自分の間に共通点があることを学んだようである。

②グループ内の留学生と日本人学生がどちらか一方の文化を学び、クラス全体に発表するプロジェクト。発表する学生は、自分にとっての異文化(子供の遊びや、食べ物など)を調べ、報告する。小規模とはいえ、異文化を持つ人と交流し、伝達する活動であり、一定の達成感を覚えた学生たちがいたものと考える。

(3) (改善が必要な授業の内容に関わる項目) (Q3～Q5)

・内容に関して今回、大きな課題はない。しかし、内容面においても常時改善を継続する。

(4) (改善が必要な授業の方法に関わる項目) (Q6～Q11)

・授業方法に関しては、もう一つのプロジェクト(日本の国際交流の歴史)の進め方に、改善が必要と考える。

振り返ってみると、このプロジェクトの際、外国との戦争の時代をどう受け止めてほしいのかという点が不明瞭であった。

私たちは「国際交流」という言葉を聞いたとき、平和な時代の友好的な交流をイメージすることが一般的と言える。一方、戦争は起きないことが望ましいのは言うまでもない。もしかして戦争も特殊な意味において国際交流であり、当事者双方の文化が出会うということ自体は、事実と考える。

特殊な、戦争の時期の国際交流と、平和な時代の、一般的な意味での国際交流を対比させることで、後者の大切さを従来以上に実感してほしいと、担当教員として考える。次年度はこのことを明確にして、学生たちが学びやすくなるようにする。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

・上述の改善などを行うことにより、次年度の授業では楽しそうであったり、充実感を覚えたりしているような学生の反応が、より多く見られるようにする。

<教養セミナー A>

授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q10. H29実績3.9、H30実績3.7、推移-0.2

- ・受講態度の向上に関し、授業中には2つのグループを組んで受講してもらった。このグループ編成を、学期中に2度更新した。従前のグループでは発言が少なめだったが、再編成後に発言が増えた学生が、複数みられた。各学生の居場所づくりにわずかでも貢献できたのではないかと思う。
- ・授業内容に関する評価は、前年と同様であった。
- ・授業の方法に関し、まず熱意が低いとの評価を受けた。主観的には昨年と変わらぬ熱意を持っていたつもりであるが、学生たちの目からは高くないと見えたことを、事実として受け止める。また疑問・質問への対応が誠実であったか、授業への参加を促したかについては微減であった。学生たちの言葉によるメッセージのみに加え、学生たちの非言語メッセージにも今回以上に注目して対応する。
- ・教養セミナーで使用するワークシートについては、各回の達成目標を踏まえ、その目標を実現すべく、必要な場合には実施方法を微調整する。
- ・学修内容の理解度や達成度の向上と、居場所の確立との双方への目配りを、継続して行う。

<政治学>

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q13 (この授業に参加して満足できたか)

H30実績3.9、H29実績3.7、推移+0.2

授業の内容と進め方について、一定の評価が得られつつあるように思われる。しかし改善には終わりが無いので、今後も引き続き内容・進め方ともに、さらなる改善を行う。

なお、受動喫煙対策への関心が、昨年に引き続き高い。また卒業後に目指す進路(資格)と関係のある利益団体への関心も強い。授業を行う中で、「あなたには政治が分かりますか」という視点が自分(担当教員)の中に残っていたことに、気づかされた。今後は「政治をどう活用するか」という視点を、受講する学生たち自身に持ってもらうことを目指し、指導する。

(2) (受講態度、学習意欲の向上につながった授業の内容と方法)

- ・復習問題の結果をまとめ、翌週の授業冒頭でフィードバックを5分程度で行った(授業中にできなかった場合には、マナバにアップロードした)。
- ・授業への参加意識をより高めてもらうため、教室後方3列は空けて着席するよう指導した。
- ・スマホはカバンにしまうよう、授業冒頭で確認した。

(3) (改善が必要な授業の内容に関わる項目)(Q3~Q5)

- ・英国の議会(下院)、米国のキング牧師の演説、衆議院の審議の様子など、動画を用いた説明を交えた。

- ・国会の常任委員会の所管事項や、主な利益団体を調べてもらい、自分の専門と政治の接点を見つけてもらった。

(4) (改善が必要な授業の方法に関わる項目) (Q6～Q11)

- ・短い文章を話すとともに、学んでいることがらが学生に理解してもらいやすくなるように、という意識を持って説明した。
- ・授業期日を記載したシラバスや、参考資料に科目名と年月日を記載した表紙を付けて配布した。
- ・遅刻や私語に対する指導は、必要なタイミングをとらえてすぐに行い、指導の後には授業の本題に速やかに戻るようにした。
- ・グループ編成は、学生たちが授業に参加しやすいよう、柔軟に運用した。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

- ・私たちが現在よりも少しでも生きやすくなるための工夫が政治であると、授業で伝えている。そうした「生きやすくなるための工夫」に、学生たちが関心を持っていることが、今年も明らかになった。
- ・一方で授業の中で、政治に対する関心を示す場所や関心の度合いは、学生ごとに異なる。各学生の受講の様子にこれまで以上に注目し、関心の糸口を示したら、そこからさらに学修を深められるよう指導する。
- ・これらを踏まえ、学生たちとともに政治を学ぶことを、これからも続ける。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
秘書検定勉強会(国際観光学科生対象)	11	11	7月2日(月)～11月12日(月)
サービス接遇検定勉強会(国際観光学科生対象)	9	3	4月6日(月)～6月11日(月)

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
- 国際観光がホストとゲストの相互認識(ナショナリズム)に与える影響
- 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
- 引揚げの歴史との対比を通じての国際観光の特徴の把握

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
佐世保市浦頭港の歴史 —引揚げ・送出港とクルーズ拠点—/2019年3月/長崎国際大学論叢
第19巻/45頁～57頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
長崎県佐世保市浦頭港をめぐる旅行の歴史の伝え方/2018年11月/日本観光学会 第112回全
国大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員長	①委員会(定例会10回、臨時会5回)を開催した。②入試の実施ならびにオープンキャンパスの実施を総括した。③九州文化学園高校との高大接続に関わる調整を実施した。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	私立大学研究ブランディング事業申請書の制作に参画した。特に地域社会における国際文化交流活動の側面において、貢献した。
全学教育会議	委員	5回の会議に出席し、協議ならびに報告に貢献した。
国際観光学科 公務員・教養課程委員会	委員長	課程の運営を総括した。課程の履修条件の見直しを行った。
長崎国際大学国際観光学会	評議員・編集委員	評議員会では会長による学会の運営を、編集委員会では編集委員長による学会誌編集作業を、それぞれ補佐した。
国際観光学科 研究倫理委員会	委員長	①国際観光学科教員ならびに学科生から提出された研究倫理申請の審査を行った。②4年生に対する研究倫理教育を、オリエンテーション時に実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ①サイレント・ブルーサークル 顧問
- ②ローターアクトクラブ 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①出張講義(川棚高校、5月31日)。
- ②九州文化学園高校ブロック活動(7月7日)の受入。
- ③川棚中学校1年生のイングリッシュ・キャンプ実施(12月10日)において、ロジスティクス面の支援を行った。
- ④九州文化学園高校2年生の社会見学活動での本学訪問の受入(3月8日)。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市行財政改革推進会議	委員	H28.12～H30.12	佐世保市長
佐世保市行財政改革推進会議	委員	H31.1～H33.12	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

a. NIU異文化理解教室

①佐世保市立広田小学校 6年生対象、平成30年10月29日、11月26日実施。

②九州文化学園高等学校 1年生対象、平成31年2月6日実施。

b. サイレントブルー顧問

c. ローターアクトクラブ顧問

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本語の手紙交換プロジェクト(比較文化論)	英国コベントリー大学の日本語学習者15名と、本学の比較文化論受講生161名が、日本語で書いた手紙を交換する。主にそれぞれの地元の地域社会の文化と観光対象を紹介する。	2018年12月～2019年1月	コベントリー大学デュブレ講師、滝
日本語の手紙交換プロジェクト(国際交流研究)	英国ウォーリック大学の日本語学習者31名と、本学の国際交流研究(2019年度)受講生が、日本語で書いた手紙を交換する。主にそれぞれの地元の地域社会の文化と観光対象を紹介する。	2019年3月～4月	ウォーリック大学リー講師、滝

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし。

7. 受賞等

公益財団法人合気会 合気道 初段(平成29年11月10日、第173440号)

8. 活動全般についての自己点検・評価

各分野の実績を振り返ると、活動内容において大過はないものの、さらにできたはず、という点がある。次のことを念頭に、新年度の活動に取り組む。

(1) 教育

- ・学修目標を達成してもらえらるための準備と工夫を、内容と方法の双方においてさらに広め、深める。
- ・学科の公務員・教養課程の修了生を出す。
- ・ようこそJAPAN外国語コンテストを実施する。
- ・大学院生(修士課程)の指導に万全を期す。

(2) 研究

- ・今年度行った引揚げと観光を対比させた研究を継続する。戦争に関わる旅との対比を通じて、今日の国際観光の意義を明らかにする。
- ・黒島観光のPRの国際化の研究を、さらに拡充させる。学生たちのアイデアを有効に活用する。

(3) 大学運営

- ・入試・募集委員会の業務では、新テストへの対応に取り組む。

(4) 社会貢献

- ・佐世保市の委員として、市に対する貢献を継続する。
- ・顧問として、担当するサークルの活動のさらなる充実を支援する。

(5) 国際交流

- ・イブケンの活動のさらなる拡充と発展に取り組む。
- ・英国の大学2校との「日本語の手紙プロジェクト」の質を、さらに向上させる。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 田中 誠

1. 教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかりと行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしても「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
TOEIC対策A	15/15(前期)	2	92	①⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	14	①⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	7	①⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	5	①⑥
英語科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	5	①⑤
英語科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	4	①⑤
TOEIC対策B	15/15(後期)	2	96	①⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	3	①⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	8	①⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	5	①⑥
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥⑫
英語科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	8	①⑤
英語科教育法Ⅱ	15/15(後期)	2	0	①⑤
英語科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	4	①⑤
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	6	⑤⑦⑩⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	4	⑥⑫
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	④
教育実習B	80/80(通年)	2	1	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業に関しては、私が最も力を入れている事項であり、今年度も例年通り、教育理念に基づき、熱意のあるわかりやすい授業をすべく努力をしてきた。前期の「TOEIC対策A」に関しては、毎回の出席カードによる出席だけでなく、例年通り、授業終了時にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらった。そして、学生のコメントに関しては次の授業で、プリントにまとめて返信するようにし、双方向型学習が促進されるように努力をした。また、授業外学修の時間を増やすために、2つの課題を毎回与えた。1つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、2つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにしておき、復習がすぐできるような環境も整え、学生が「主体的に学び、考え、行動できる人材」

となることができるように、支援を行った。このような例年通りの指導を行うとともに、さらに良い授業となるように、学生の授業の理解度やコメントなどに注意を払い授業を展開した。授業時には、例年通り熱意の感じられる授業を展開できるよう努力をし、授業アンケートの7の「熱意の感じられる授業でしたか」については 4.6という高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.4と高評価を得ることができた。次年度も同様の評価を得られるように努力をしたい。

後期の「TOEIC対策B」においても、授業の進め方に関しては、前期の「TOEIC対策A」の方法を踏襲し、同じように努力をしたにも関わらず、この授業では、少し、授業評価がいつもに比べると低くなってしまった。7の「熱意の感じられる授業でしたか」については 4.4であった。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目は4.2で会った。ともに、4点を超えてはいるが、やはり、評価が少しでも下がったことは、素直に反省をしたい。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、学生が「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるように、細かい指導を行った。今年度もそれぞれの授業で、双方向型の授業を意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせることができたと思う。例年通り、授業外学修時間を確保するために、毎回の課題も課し、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。今年度は、熱心に取り組む学生も多く、ゼミ活動もスムーズに運営することができた。

教職科目に関しては、例年通り、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。新しい学習指導要領では、中学校の英語の授業も英語で実施することが要求されるようになった。そのためには、高度な英語力が必要となるので、英語力の向上にも取り組んだ。今年度も、現役で私立高校の英語教員に採用も決まり、2年連続で採用となり、本当に嬉しく思っている。今後も、採用までつなげることが出来るように、学生と共に努力をしていきたい。

大学院の科目に関しては、履修学生の人数が少ないので、一人一人の学生に対して、その学生の将来のために、厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。

全体を通しての反省としては、学生の学力の差への対応と、やる気のない学生に対しての指導法について、試行錯誤しているが、なかなか思ったほどうまくいかない点である。学生は、こちらが動かないと、楽な方に楽な方にと流されていってしまうので、適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要があるが、簡単にはいかない。学力を伸ばすためには、授業外での学びが非常に重要であり、次年度も、さらにポートフォリオ等を活用して、授業外学修時間の増加に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
TOEIC 対策講座	8	38	2018/10/16~12/04 の火曜日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・外国語としての英語教育
- ・教育学
- ・言語学
- ・翻訳研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
経験の浅い教師にもできる英語での英語の授業ーbe going to の導入ー/2019/03/長崎国際大
学教育基盤センター紀要/pp. 67-77/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	ティーチング・ポートフォリオの導入、ホスピタリティ・ルーブリックの項目の再検討
全学共通教育委員会	副委員長	全学共通科目の適切な運営のための教務委員長として、副委員長の役割を務めている。
教職課程委員会	委員	教職課程再課程認定に向けて尽力した。
人事委員会	委員	適切な運営のために、委員として尽力した。
全学教育会議	委員	適切な運営のために、委員として尽力した。
カリキュラム委員会(学科)	委員長	国際観光学科のカリキュラムの適切な運営と、新年度からのカリキュラムの改善を行うなど魅力的な教育課程の構築に尽力した。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員長	グローバルツーリズムコースの円滑な運営に努めた。今年度コース所属の1年生は、39名を数え、大所帯となった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業 対策会議 ワーキンググループ(タイプ1)	ワーキンググループ長	タイプ1の事項の内容を精査し、対応を協議し、今年度のクリア事項、次年度に向けての対策等の策定に尽力した。
私立大学研究ブランディング事業ワーキンググループ	メンバー	大学生と子どもの共育プログラムによる「地方創生長崎モデル」の構築に関する研究の事業計画作成に尽力した。

(3) 課外活動の指導等

- ①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導
- ②TOEIC対策講座 担当
- ③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①本学開催のオープンキャンパス(1回～3回)において、英語教育、留学等の保護者説明担当
- ②第9回高校生外国語暗唱コンテストにおいて、グローバルツーリズムコースの概要説明担当

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
4	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎国際大学教員の日常業務	2018/04/21	長崎国際大学	長崎国際大学 (新任教員向けFD)
楽しく英語を学ぶために	2018/06/16	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
本学のアセスメント・ポリシーを踏まえたシラバス記載方法とそれに基づく成績評価	2018/09/26	長崎国際大学	長崎国際大学教務委員会主催FD
シラバス作成方法と成績評価	2018/11/28	長崎国際大学	長崎国際大学教務委員会主催FD

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
教育プログラム開発委員会	委員	2018/04/01～ 2020/03/31	長崎大学地方創生推進本部長
長崎県教育免許状更新講習連絡協議会	委員	2008/07 ～	長崎県内大学・短期大学理事長・学長会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平成30年度 長崎国際大学国際観光学会 評議員
- ②11月6日 福岡県太宰府高校 出張講義 国際系の学びについて

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、全学の教務委員長として、3ポリシーに基づく教育を軌道に乗せることに尽力した。ホスピタリティーブリックを使用しての省察は、多くの教員が対応に苦慮している現状は、変わらないように思う。この方式についての様々な意見があることも理解しているので、引き続き、出来るだけ多くの先生方の意見を参考にしながら、少しずつより良いものにしていきたい。その他の点においては、教務委員会の適切な運営のためには、3学部4学科のそれぞれの意見の調整も必要であり、困難な点もあるが概ね適切に運営することができたと思う。

学科のカリキュラム委員長としては、今年度も学科の教育課程の適切な運営に寄与できたものと考えている。旅行業務取扱管理者の取得者数増のためのカリキュラムの見直しも適切に行われ、次年度から新たなカリキュラムがスタートする。

グローバルツーリズムコース委員長としてのコース運営に関しても、今年度もグローバルツーリズムコースの授業を担当する教員の献身的な努力により、適切に運営することができた。グローバルの1年生は、今年度は39名のスタートであった。小さな学科くらいの規模になってきたが、一人一人の学生に丁寧な指導を続けていきたい。このような指導は、英語担当教員の一人一人の尽力なしでは、達成できないので、英語担当教員の協力を得て、今後とも努力していきたい。

上記以外の活動についても、教職課程の再課程認定の対応など多忙を極めた。このような、多忙の中でも、一人の教育者として、教育の質保証が適切になされるようさらに努力をしていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 中野 はるみ

1. 教育理念

学生の今できる力を確認後、今後の目標を定めさせ、本人の希望を叶える力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
日本事情 I	15/15(前期)	2	4	②③
日本理解B	15/15(前期)	2	9	②③
専門演習 I A	15/15(前期)	1	2	⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	⑥
アカデミックジャパニーズ I B	30/30(前期)	2	4	②③
日本語表現法	15/15(前期)	2	158	⑧
日本語教授法A	15/15(前期)	2	49	⑥
日本語入門A	15/15(後期)	1	3	②③
日本語入門B	15/15(後期)	1	3	②③
日本文化論	7/15(後期)	2	190	①②④
専門演習 I B	15/15(後期)	1	2	⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	⑥
アカデミックジャパニーズ I B	30/30(後期)	2	6	②③
日本語教授法B	15/15(後期)	2	33	⑥
日本語教育実習	30/30(通年)	2	22	⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケート前期は、「日本語表現法」(172名履修)と「日本語教授法A」(54名)で実施した。「日本語表現法」に関しては、満足度が4.2(留学生4.4)で、昨年より1ポイント上がっている。「日本語教授法A」に関しては、満足度が4.5(留学生4.6)で、昨年度より5ポイント上がっている。

授業アンケート後期は、「アカデミックジャパニーズ I B」(6名履修)と「日本語教授法B」(35名履修)で実施した。「アカデミックジャパニーズ I B」に関しては、満足度が4.8であった。「日本語教授法

B」に関しては、4.6（留学生4.8）で、昨年度より5ポイントあがっていて、最期良ければすべて良しとなった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

日本の労働力減少に役立つ外国人人材の養成は急務を要している。何よりも日本に馴染んで、日本人と共に共同できる人材を育てる必要がある。そのためには、日本の文化、習慣、日本語力を養成しなければならない。養成力プログラムを研究・開発する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
日本語教員養成課程委員会	委員長	本年度は、3年生の特別実習に25名の履修、4年次生の日本語教育実習に22名履修があり、修了生は22名となった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・ゼミ留学生の就職活動のために、面談の日本語力を養成した。
- ・海外の日本語学校で教員になりたい学生のために、就職先を斡旋した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・オープンキャンパスや日本語教育実習において、福岡の日本語学校教員や長崎日本語学院の教員との交流を深め、本学への入学を進めるべく奔走した。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎川棚医療センター地域医療支援病院運営委員会	委員	2018年4月～2019年3月	独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター院長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎川棚医療センター地域医療支援運営委員会では、長崎国際大学の薬学部薬学科と人間社会

学部社会福祉学科の実務実習先(2018年度4人+1人)のお礼と報告を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2019年2月には、ミャンマーのヤンゴン市にあるKAGAYAKI日本語学校(主催:Myat Kalayar)において、長崎短期大学に留学する学生や実習生に日本語を日本語会話や漢字を教授し、日本語を教えているミャンマー人日本語教師に日本語教授法のコツを教えた。また、タウンジ市内の日本語学校を訪問し、日本への留学・実習先選択事情などを聞いた。滞在中、本学の卒業生メイさん(海老沢ゼミ)や長崎短期大学の卒業生が会いに来てくれ、佐世保を懐かしんでくれた。

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

昨年度に研究の形態を終えたNIU異文化理解教室は、その一部を「地域連携活動」の形を取って継続したのだが、今年度の後継者の活動を見守り、留学生の選択などを支援した。

日本語教員養成課程においては、今年度は22名の修了生を輩出でき、1名はベトナムのダナンで教鞭を執ることになっている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 安部 雅隆

1. 教育理念

私は教育理念として2つの考え方を持っている。1点目は「論理的思考の修得」、2点目はこの論理的思考を基礎とした「学生自ら答えを模索する主体性の醸成」である。

上記の教育理念を具現化すべく、まず、講義系の授業ではその日の講義内容を体系的にまとめた冊子資料を私自身が作成している。それを基に講義を展開することにより、論理的な理解を促進するとともに論理的思考を修得してもらう。また、適宜練習課題の時間を設けることにより、その理解や思考をどのように使うのかを経験する。これにより、論理的理解・思考を実践する習慣を各学生に定着させることは無論、自ら難題に向かう姿勢や明確な答えのない事象に自分なりの答えを模索する姿勢を醸成することも目的としている。

また、ゼミ系の授業ではその教育理念はさらに顕著な形で体現している。各ゼミ内で毎回「ケーススタディ」と呼ばれる手法を取り入れており、受講者は教員が予め与えたケースを読んできてゼミに臨む。ケースに潜む解決すべき問題を抽出し、それらをどうやって解決へと導くかを各自で考えなくてはならない。これにより論理的思考力の他、自らその解決策を考える主体性を修得させることができる。加えて、各学生が考えた意見について他のゼミ員と討論することにより自らの考えをブラッシュアップできるのと同時に、他人の考えに対しても理解を示すことで、自らの考えに幅を持たせる意味合いも包含している。

2. 教育活動

(1) 授業 (科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑩⑫
経営学	15/15(前期)	2	178	③⑤⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	11	⑤⑥⑦
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑧
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	④⑤
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	6	①⑥
会計学	15/15(後期)	2	98	⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

①経営学(前期)

昨年3年ぶりに同科目を担当し、復帰して2回目の担当であったが、昨年の最高ポイントを0.1ポイント上回る高いポイントを獲得することが出来た。昨年からケース問題を解かせる試みを実施していたが、今年はさらに「respon」を採用し、視覚的にも訴える工夫を凝らしている。結果から言うとこの方法が功を奏していると考えている。新たな試みとして実施していることが、このように結果につながっていることは個人的にもモチベーションが上がる要因になっている。

②教養セミナー(前期)

前年度よりも満足度含めた各項目でポイント上昇が見られる箇所が多く、改善は一定の効果を出していることはうかがえる。しかしながら、まだまだ改善の余地は残されており、特に学生の自己満足がそう高くないのは、セミナーのあり方として問題視せざるを得ない事項だと考える。自身の教授法も含めてだが、セミナーの授業方針については継続審議事項とし、教養セミナーの質自体が年々向上することが望まれる。

③専門演習ⅠA(前期)

ゼミとしてはまずまずの結果だと考えている。昨年は人数が2名と少なかったためアンケートを実施しなかったため、経年比較はできないが、今年は11名と増えたので去年よりかなり展開方針を変えた。その分は上手く機能したのではないかと捉えている。ただ、内容理解に関して普通と回答した学生が2名いたのは、気がかりな所である。この点については後期以降考えなくてはならないだろう。

④専門演習ⅡA(前期)

ゼミに関して2年連続でアンケートをとって見たが、昨年より履修者の人数は倍以上に増えているものの、非常に高い数値を得ることが出来た。人数が増えたことで昨年よりも工夫を施した事項は多かったが、それを含め 授業内容が学生に対しきちんと伝わりゼミ自体がきちんと機能していることの表れであると考えている。また、授業方針としてアクティブラーニングを最大限活用しているが、それも履修者には好意的に受け止められているようで安堵している。

⑤会計学(後期)

今年度初めて担当した科目であり、資料作成等に非常に時間を割いたが、その分学生からの満足度は考えていた以上に高い数値を得ることができた。記述欄に「講義の進行が少し早い」という記述が散見したので、その点は反省点であるが、その他はポジティブな記述に終始しており、初年度担当科目としては評価しても良い結果が得られたと自負している。無論、まだまだ改善の余地はあると思うので、更なる質向上に努めていく所存である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎国際大学	茶道文化 I A	15/15(前期)	1	75
長崎国際大学	茶道文化 I B	15/15(後期)	1	59

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・企業経営
- ・企業会計
- ・学校経営
- ・学校会計
- ・大学評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
協働の重要性 ～多様で柔軟な大学創りを目指して～/2018年10月/教育学術新聞 第2744号
/4面/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	定例委員会への出席はもちろん、公開授業のコーディネート等全学や学科の内部質保証に尽力。また、2019年に控える「認証評価」受審の準備に取り組んでいる。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第67回 九州地区大学教育研究協議会(2018年9月開催)	実行委員長	本学開催の学会であったが、実行委員長として学会の運営や予算の組立・執行等に尽力した。

(3) 課外活動の指導等

- ①男子テニス部顧問
- ②女子テニス部顧問
- ③男子ゴルフ部顧問
- ④女子ゴルフ部顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保ロータリークラブ 広報活動委員会	委員	平成30年7月～現在に至る	佐世保ロータリークラブ
佐世保ロータリークラブ 親睦活動委員会	委員	平成30年7月～現在に至る	佐世保ロータリークラブ
佐世保ロータリークラブ ハワイ短期留学プログラム委員会	副委員長	平成30年7月～現在に至る	佐世保ロータリークラブ

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2018年5月19日 「ハイスクール茶会 in ハウステンボス」/ 実行委員として参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当授業については、昨年の満足度結果と比較するとすべての科目について上回っていた。また、本年度初めて担当した「会計学」も高評価を得た。昨年の反省がしっかりと活かされた証でもあり、この点は非常に嬉しく感じている。一方で、どの科目も改善の余地は残っており、来年度以降も授業形式や教授内容、使用する教科書について十分に検討を重ねた上で授業には臨むことで、更なる質の向上に努めるべきであると考えている。

研究活動については、教育学術新聞への寄稿を1本果たした。これは2015年より2年間出向していた日本高等教育評価機構で取得したデータを基にした部分もあり、掲載後は大きな反響をいただいた。ただし、これだけで十分な実績をあげたとは言い難く、来年度以降もより多くの研究活動及び論文執筆活動を進めていけるように引き続き努めていきたい。

その他大学運営活動や社会活動については多方面で活動させて頂いたが、主としては自己点検評価委員会委員、教育基盤センター副センター長を担当し(2018年7月まで)、それぞれ大学の内部質保証や学修支援の充実化に努めた。2019年度は認証評価受審を控えており、自身に課せられるであろう役割は大きなものになると気を引き締めている。また、社会貢献活動やボランティアについても佐世保ロータリークラブを通じて、一定程度はできていると感じている。

一方で、法人職員として、小中学校設立に代表されるような学園全体の経営計画の立案及びその具現化に向けた動きにも大きく関与しているため、大学業務との両立の難しさには常に直面させられている状況である。しかしながら、その状況については周囲から理解していただき、多大なサポートも頂けている状況には心から感謝するところである。

総じて、2018年度、一教員として果たした役割は、教育面および大学運営では想定通りの働きができたと自負するし、研究業績等の成果について不十分であるが、これまで無かった寄稿も実施できた。2019年度は大学の教育、研究および管理運営に対し幅広く活躍ができるよう精一杯奮闘したいと考える一方、同時に学園全体の管理運営や新たな展開にも寄与できるように精進していく所存である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 井上 英也

1. 教育理念

観光産業を日本の主産業への機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な“おもてなし”に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1. グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2. 経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3. 地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①④⑥⑦
起業論	15/15(前期)	2	73	②④⑥
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	10	②④⑥⑦
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	15	②④⑥⑦
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	12	⑥⑫
ホテルオペレーション	15/15(前期)	2	99	②④⑤⑥⑦
宿泊業論	15/15(前期)	2	84	②④⑤⑥⑦
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦
ブライダルマネジメント	15/15(後期)	2	87	②⑤⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	9	②⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	15	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	⑥⑫
Hotel Management	15/15(後期)	2	52	②④⑤⑦
ホテルビジネス英語	15/15(後期)	2	51	①②⑦⑨
ホテル管理論	15/15(後期)	2	62	②⑤⑥⑦
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2018年度にアンケートを実施した授業に対する満足度は以下のとおり。

【宿泊業論】

昨年度の4.2から4.4へと0.2ポイントではあるが向上する結果となった。受講者数が昨年から13名増えて100名を超え、一昨年52名から倍増することになった。満足度への悪影響を懸念したが、理解度の確認をグループで行うことなどを増やすことにより対応ができたことは、良い成果であった。

しかしながら、未回答者を含めると宿泊業への興味度合いが低い受講者が30~40%おり、大人数のクラスで幅広い受講生が学習意欲を高められるようにすることが課題となっている。準備学習としての課題の与え方、発表の機会を増やすなど、より多くの学生が興味を持ち続けられる工夫をしていきたい。

【起業論】

一昨年に開講し、初年度の受講者数は11名、昨年度は44名、今年度は79名に増加した。満足度の評価は、昨年度の4.4ポイントから0.3ポイント下がり4.1ポイントであった。本授業は、受講生を5名を上限とするチームに分け、それぞれのチームが主体的にビジネスプランをまとめ、それをプレゼンテーションすることまでを到達目標としているが、昨年度の6チームから17チームに増えたチームへの指導の手薄さが満足度の減少をまねいたと考える。

来年度は、クラス人数の制限、SAの導入など、授業運営の方法も検討したい。

【ホテル管理論】

昨年度の満足度4.5から今年度は4.2に0.3ポイント下降する結果となった。昨年度の結果を各項目別に比較すると、平均点がいずれの項目も0.2～0.3ポイント悪化している。満足度の平均点が悪化した原因として、昨年度は低評価の1ないし2が0だったのに対し、今年度は5名おり、不満をかかえた学生への対処ができなかったことが挙げられる。

本授業は、受講者との対話を通じてホテルの経営課題を掘り下げていくことを目指しているが、自由記述に見られたことだが、発言を強いられていると感じ、授業に入り込めなかった受講生に不満があったようだ。来年度はオリエンテーションにて授業の達成目標と運営方法を丁寧に説明し、ミスマッチがおこらないようにしたい。

【ホテルビジネス英語】

本授業は、ホテルのスタッフが最低限必要とされる業務での英会話力の取得を目的としている。そのため、ペアワークを多用し会話を実践することに重きを置いている。

昨年度は、4.6ポイントと予想以上に高い評価であったが、今年度も同じ評価結果を維持することができた。

本授業は、英会話初級者がホテルのスタッフとして外国人客に遭遇したときに最低限の対応ができるレベルを目指しているが、受講生の留学生の中には、レベルの高い学生もおり、より高度な会話にトライできる方法を検討したい。

【Hotel Management】

本科目は英語によりホテル経営を学ぶ実践的な授業である。受講者は、英語のレベルが高い留学生、留学経験のあるgreenグローバルツーリズムの学生、英語力に幅がある観光マネジメントコースの学生がほぼ同程度履修している。

初めてアンケートを実施したため経年比較はできないが、満足度の4.5は期待していた以上の評価であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	16

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス検定対策講座	8	10	2019年2月26日～3月1日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
- ② グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
- ③ 宿泊業におけるインバウンド戦略
- ④ 地域の観光振興 –Destination Management Organizationの在り方–

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	1	1	1	7万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
内なる国際化に向けたホテルの人材マネジメント/平成29年3月/長崎国際大学論叢第17巻/
133～147頁/単著/原著論文
教職協働で行う初年次教育 –ホスピタリティ概論の実践と課題–/平成30年2月/長崎国際大
学教育基盤センター紀要第1巻/55～80頁/共著/原著論文
地域の「稼ぐ力」を促進するDMOの在り方 –米国カリフォルニア州ナパ・バレーDMOの事例から
–/平成31年3月/長崎国際大学論叢第19巻/ ～ 頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
ホスピタリティを育む初年次教育の取り組み–ディプロマ・ポリシーの実質化を目指して–/平成30
年9月/第67回九州地区大学教育研究協議会(於 長崎国際大学)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市次世代創業者育成プログラム共同研究事業	佐世保市	平成29年4月1日～平成30年3月31日	7万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	出張講義、入学試験、オープンキャンパスなどの学科内調整業務
男女共同参画推進委員会	副委員長	企業の先進事例紹介のため企画および実施
教育基盤センター運営委員会	初年次・共通教育部門長	「ホスピタリティ概論」の授業企画および実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対策会議 グループ3	副グループ長	長期インターンシップ先の発掘など産学の関係構築

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校出張講義実績

1. 長崎県立清峰高等学校 / 平成30年6月19日 / 於:本学
2. 長崎県立大村城南高等学校 / 平成30年9月19日 / 於:本学
3. 長崎県立波佐見高等学校 / 平成31年3月12日 / 於:波佐見高校
4. 長崎県立佐世保中央高等学校 / 平成31年3月19日 / 於:佐世保中央高校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会	委員	平成28年10月～現在に至る	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会 会長
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会	代表理事	平成29年3月～現在に至る	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会 事務局長
長崎県観光審議会	委員	平成31年2月～現在に至る	長崎県文化観光国際部
国際観光都市佐世保構想研究会	委員長	平成30年12月～現在に至る	佐世保市政策推進センター
波佐見町上下水道事業運営審議会	委員長	平成31年4月～現在に至る	波佐見町役場水道課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

伊万里西ロータリークラブから以下のプロジェクト実施の依頼を受け、専門演習Ⅱのゼミ生と共に伊万里市長への提言を行なった。

プロジェクト名:「伊万里・長崎国際大学観光プロジェクト ー私たちの目で見た伊万里ー」

日程 :平成30年10月20～21日

主催 :伊万里西ロータリークラブ、伊万里観光協会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度の活動を以下の観点から点検・評価する。

1. 教育

過去2年、ホテル関連の科目、演習、課程全てにおいて、受講生が大幅に増加した。学科の学生が増加したことに加え、ホテル周辺業界への就職を希望する学生が増えたことが影響している。受講生の基礎知識をしっかりと固めると共に、変化の激しい業界の最新事例から将来を予測することを各科目の中で試みている。ゼミでは相応の知識の深化ができたが、大教室の授業では、学生の意欲に幅があり運営方法に検討が必要であった。

また、昨年度から教育基盤センターの初年次・共通教育部門長としての役割を担い、特に全学共通必修科目である「ホスピタリティ概論」に関し、授業の企画・運営に携わった。受講学生、教職員のアンケート結果では一定の評価を得たが、運営方法では課題が多く、来年度はその改善にあたる。

今年度の成果として特に挙げられるのは、専門演習の一環として参加した「九州地域ブランドコンペティション」において最優秀賞を受賞したことであった。ゼミに所属する学生の主体性を重んじることで創造性を育み、それを聴衆に伝えるコミュニケーション能力を育成したことに一定の評価を得たことは、来年度以降にもつながる成果であった。

2. 研究

今年度は、先に挙げた研究課題の中で、特に地域の観光振興について、米国の先進事例を調査することに多くの時間を費やした。日本版DMOのお手本となるカリフォルニア州サンフランシスコおよび周辺観光地のナパバレーを調査地に定め、現地にて対象DMOの運営について関係者からヒアリングを行なった。成果としては、研究ノートとしてまとめ、論叢に掲載することができた。

また、年度の後期から、長崎県、佐世保市、伊万里市などから観光振興に関する委員の依頼なども増えてきたため、来年度以降もこのテーマを深めて研究することとしたい。

3. 大学運営、社会活動、その他の活動

大学運営活動、社会活動は新たな担当が加わり、貢献できる活動を探り前向きに取り組んだ。

以 上

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 尾場 均

1. 教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」

地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力(社会人基礎力)を身につけるカリキュラムをつねに考えている。

社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	①⑤⑥⑦⑧⑩⑫
コンピュータ基礎演習 I A	15/15(前期)	1	88	③
コンピュータ基礎演習 I A	15/15(前期)	1	114	③
コンピュータ基礎演習 I A	15/15(前期)	1	127	③
コンピュータ基礎演習 II A	15/15(前期)	1	40	③⑪⑫
地域連携活動 I A	15/15(前期)	1	44	①⑪
地域連携活動 II A	15/15(前期)	1	5	①⑪
専門演習 I A	15/15(前期)	1	15	⑥⑪
専門演習 II A	15/15(前期)	1	7	⑥⑪
専門演習 III A	15/15(前期)	1	11	⑥⑪
映像文化論	15/15(前期)	2	111	②
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
コンピュータ基礎演習 I B	15/15(後期)	1	92	③
コンピュータ基礎演習 I B	15/15(後期)	1	82	③
コンピュータ基礎演習 I B	15/15(後期)	1	111	③
コンピュータ基礎演習 II B	15/15(後期)	1	18	③⑪⑫
地域連携活動 I B	15/15(後期)	1	39	①⑪
地域連携活動 II B	15/15(後期)	1	5	①⑪
専門演習 I B	15/15(後期)	1	9	⑥⑪
専門演習 II B	15/15(後期)	1	9	⑥⑪
専門演習 III B	15/15(後期)	1	11	⑥⑪
情報処理論	15/15(後期)	2	29	②
国内観光研修B(東日本)	30/30(通年)	2	53	①⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コンピュータ I A

今年度も情報化社会の様々な技術や最新情報の説明を取り入れ、演習だけではなく学生が興味を持つテーマで現在のIT社会について理解できるような説明を行った。今回も授業以外での情報機器などの質問も多く、ポートフォリオや研究室で学生への対応をした。昨年からは実践力を高める内容となっているが、学部・学科の実践に近い内容にすることができたことで、学生の学習意欲も向上す

ると感じた。昨年度は2学部が合同のクラスであったが、今年度は1学部でのクラスとなった。授業内容で使用するデータや用語、完成文章などが学部に関連する内容にしたことがスコアの向上となったと思う。また今年度はSTからTAに変更したことも学生の自由記述での満足度を伺えた。昨年は一部の学生の授業態度が悪いことが多く見受けられたが、そのようなこともなく、真剣に授業の中で課題に取り組む学生を多く見られた。

全体的にスコアは向上した。平均すると授業方法には問題がないと思われ、自由記述も満足度が高いことがわかる。但し、「授業の進み方」「話し方」が早いという自由記述が見られた。これまでの一番改善理由として取り組み、毎回アンケートを実施していたが、そのようなコメントも少なかったが、今回のアンケートでは数件みられた。アンケート時の授業内容にも影響されたと考える。特に熱意や視覚的な改善も今回の授業では効果があったと思われる。

映像文化論

今年度も1回の講義を1つのテーマで完結する授業内容と、時事映像なども取り入れ、新しい映像の準備など、毎回の講義内容を番組構成の手法で作ったことが評価されたと思われる。ドローンによる実践やARカメラでの撮影など先端技術をその場で見せることで学生は興味のある内容と評価したと思う。

今年度からの新しい取り組みとしてResponによる小テストを実施することにより、学生の授業に対する真剣度が高まったと思われる。また特性を活かして即時に回答を表示することにより、テレビ番組的なリアルタイムな授業内容となった。その場の質問なども手をあげて発言の苦手な学生にも対応できたと思う。教育の場でのICTの活用が十分に発揮されたと思う。

今回初めて2台のPCを使っでの授業に取り組んだことも効果があったと思う。

自由記述からの学生の要望や感想、評価を見えると学生が興味を持って授業に参加していたことがわかる。今回は特に授業での内容提示など昨年評価が悪い部分がすべて改善されたと思う。今年度は映像文化論に関連する活動で来年度の授業でも利用できる作品なども準備できたことで、学生が映像に興味を持つ授業内容を取り入れることができる。特に「全く眠くならない面白い授業だった。」の自由記述など、暗い部屋で映像を見ることで前年度も眠いというコメントも見られたため、映像の時間も考えたこともスコアに影響があったと思われる。眠くならないという意見は毎回の授業アンケートでも見られるようになり、映像提示の工夫やICTの活用など今後の授業で実践する。多くの受講者で私語も少なく、また新任教員も見学に来る内容であり視聴覚機器の使用に関しても学生への満足度は高いと思う。

教養セミナー

全学共通のカリキュラム内容であるため興味・関心についてのスコアは全体の平均値も低い。共通内容で、すべての内容を時間内で実施するには時間が短いことが昨年度に経験したため、宿題などに変更することで、学生の発表の時間などを多く取ることで、和やかな雰囲気でも課題に取り組むこと

ができた。昨年は自分の発表して他者の意見を聞く余裕がなかったように思われたが、今年度は改善できた。

指導内容も工夫したが、昨年より途中興味がなくなる学生や最初から諦める学生が少なかった。ただ、レベルの高い内容になると明らかに集中力がなくなる様子などが見られた。来年度は、わかりやすい用語や興味を持つ例題・例文などに置き換えて実施することも必要だと思う。また個別の対応も含め授業での学生対応を改善する。今年度は教員、学生同士のコミュニケーションが活発になるように工夫することを心がけた。学生とは確実にコミュニケーションはとれているが、学生同士のコミュニケーションは取れていないと感じている。

コンピュータ I B

毎回の授業の記録を残して予習・復習を促す内容を例年継続している。毎回の授業の記録を残して予習・復習を促す内容を例年継続している。この方法で多くの学生が授業の到達目標に達している。学生の自由記述からも満足度が高かったことがわかる。

前年同様にポートフォリオで提出課題と課題参照の回数が理解度や学習意欲に反映すると判断している。試験前で過去の提出物のデータを参照する学生も多く、成績も高いことがわかった。ただ強制ではないため、参照をしない学生、特に再履修の学生へ何らかの課題などにすることも考えたい。昨年度に見られた未完成での提出もほぼ無くなったことも、これまで授業が早いという意見を考慮して内容を変更したことが良かったと思う。

自由記述にもスピードが早いという内容は見られなかった。但し、「進むスピードをそろえてほしいです。」は90分の授業スピードではなく、復習を兼ねる授業内容での課題の提出時間の意見と思われる。

「授業内容は興味のあるものであったか」の問いに関して、自由記述に「社会人で役に立つ」記述が複数あることで、履修するすべての学生にその趣旨を理解してもらえる内容への改善も考える。コンピュータが苦手な学生にも興味ある内容も考えてみたい。

学部学科が異なる学生は授業内容が専門性を持たせた実践型の授業であるため、クラス編成も考える必要があり、学部学科での編成できない場合であれば、内容を改善する必要があると考えられる。自由記述も一部の感情的な意見もあるが全般的に評価は高いと思われる。

情報処理論

教科書や資料だけでなく、現社会に合わせた新しい機器の説明や実際に機材を操作して本物を見せることで、この分野に興味を持ってもらう工夫をしている。

採用している教科書が毎年3月に更新される内容で、この分野の技術革新に対応していること、そして専門用語や新技術が理解できるようになっている。それでも技術が進んでいる場合は補足の説明に加え、動画や実際の事例なども紹介するようにしている。時には時事的な内容も加えることで学生の満足度と真剣度が向上していると感じた。自由記述の「いつも新鮮」は情報教育には不可欠なこと

である。学生からのリアルタイムな質問に対しても対応できるように準備している。先端技術に触れる機会が少ないこともあるため、過去、現代、未来を正しく説明し、学生の情報社会を理解と対応を促す内容でVRやARなど、ロボット工学など今後も授業の中で紹介していきたい。

板書やパワーポイントの使用に関しては情報に関する講義であるため特に模範になるように準備した。講義中のスマートフォンの使用は講義中の学生の意見を共有するため使用を許可している。但し、意見を共有以外で操作する学生を見ることはなかった。

眠りする学生が少ないことは、授業のテンポや期待される新技術の紹介、また基本的な計算問題も必要性を明確することで学生の講義中の集中力を促すことになった。シラバスとの整合性は常に取れているが、内容もパターン化せずに授業内容や項目に応じた説明することで、最新技術の仕組みだけでなく、自ら生活に関わることを説明に加えることで興味を持つ内容になったと思われる。メディアで報道される情報技術に関する内容も、学生が理解できるように説明している。

自由記述は長年指摘されていた「説明が早い」は無くなった。

自由記述「参考になる事が多い」「おもしろい授業だ」「たくさんの情報を知る」など多くの肯定意見が見られた。特に「熱意の感じられる授業」に関しての評価も高かった。

パワーポイントや機器の準備など事前の準備には時間がかかるが、学生が興味を持つ内容のために、次年度も同じように進める。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	15/15(前期)	2	33

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
Adobe Illustrator講座	5	8	平成30年8月から31年3月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

ネットワークを利用した共同学習

「いつでも、どこでも、だれでも」情報機器が使える社会の実現には、環境や年齢に制約されることなくネットワークを利用した情報教育の方法や環境づくり、また情報機器と人間との接点であるインターフェイスを研究し、情報機器によって社会参加を支援すべきと考えている。

学生と教員、そして職員をつなぐ学びの場として、時間や場所にとらわれず、講義の予習・復習をはじめ、学習の履歴や記録を保管して、学びの内容の振り返りや、システム上で小テストの実施や、課題の提出に対して個別指導など授業を支えるシステムを研究する。

またネットワークを利用した共同学習は教員が学生に対して「教える」のではなく、教員を交えて学生同士が「教えあう」ものを促すことであると考えられる。通常の講義・演習以外にも地域連携活動など

の実践的な教育であるPBL(プロジェクト型学習)にも対応するシステムを研究する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

SNSを利用した学習システムの検討/平成30年11月/第18回長崎国際大学国際観光学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「起業部」設立支援事業～大学発ベンチャー創出を目指して～」	平成30年度 長崎国際大学学長裁量経費	2018年6月～2019年3月	70万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	副センター長	地域連携、広報に関するすべての事項

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学科観光マネジメントコース委員会	委員長	学科コースの運営・提案に関する事項
国際観光学科 企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項
カリキュラム委員会	委員	カリキュラムに関する事項

(3) 課外活動の指導等

ソフトボール部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

テレビ佐世保「佐世保だよ!全員集合」番組作成(月曜20時)/2019年1月/テレビ佐世保
長崎国際テレビ特番・テレビ佐世保特番等の番組出演による広報活動(出演 NIB長崎放送局 2
件 テレビ佐世保 6件)/2018年度/長崎国際大学
FM佐世保ラジオパーソナリティの活動(毎週日曜日60分生放送)/2018年度/FM佐世保
大学や自治体、企業の連携によるまちづくりの活動での新聞掲載。(長崎新聞1件 西日本新聞1件)
/2018年度/長崎国際大学
SNS、facebook等を使った広報活動(国際観光学科 公式アカウントの運営) /2018年度/長崎国際
大学
第7回Made in SASEBOフォトコンテスト開催/2018年11月/長崎国際大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
ICT・IoTが広げる未来への可能性	平成30年8月	平戸市教育センター	平戸市教育委員会
自分 再発見! 社会人基礎力講座	平成30年8月	長崎インターナショナルホテル	公益社団法人 大村青年会議所

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ボランティアパーソナリティ	パーソナリティ	2009/04/01〜	(株)FMさせぼ
佐世保市行政AI・IoTに関する研究会	委員	2018/10	佐世保市政策推進センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2018年度 佐世保市桜ヶ丘町 育成部長、佐世保市桜ヶ丘公民館
2018年①5月3日4日②11月3日4日③11月10日11日 地域新ブランド「佐世保たこ焼き」の広報活動
と「佐世保たこ焼きマップ」の作成。①JR佐世保駅、②長崎国際大学、③佐世保文化振興局
2018年7月1日 平成30年度若者育成支援事業。(SASEBO Collection ファッションショー開催)、長
崎国際大学
2018年7月15日16日 「SASEBOまちなかスタンプラリー」企画運営、まち元気向上委員会

2018年8月25日26日 「アメリカンフェスティバル 2018 IN SASEBO」企画運営、佐世保市青年会議所

2018年11月17日18日 「YOSAKOIさせぼ祭」企画運営、佐世保市

2018年11月24日 「NIUキッズキャンパス、教育資源を活かした企画」子供向けの市民公開講座を開講、長崎国際大学

2018年10月27日 AUGM長崎およびコンピュータ関連の研究会・ITセミナー等で活動、長崎県内Appleユーザグループ3団体

2018年12月1日「G1カレーグランプリ」企画運営、まち元気向上委員会

2018年12月5日「きらきらフェスティバルinSASEBO」企画運営、まち元気向上委員会

2019年2月2日3日「渋谷TANPEN映画祭CLIMAX at佐世保」企画運営、佐世保市、佐世保映画社

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

次年度は国際生物学オリンピックでの活動を予定している。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

●研究活動(学会・研究会発表)

①SNSを利用した学習システムの検討-第18回長崎国際大学国際観光学会

現在、長崎国際大学ではポートフォリオシステムが稼働し、学生と教員、そして職員をつなぐ学びの場として、時間や場所にとらわれず、講義の予習・復習をはじめ、学習の履歴や記録を保管して、学びの内容の振り返りや、システム上で小テストの実施や、課題の提出に対して個別指導など授業を支えるシステムである。また、スマートフォンの利用は年々増加し、幅広い年齢層でも利用されている。この研究では、学習者同士のコミュニティを提供する大学SNSと日本語試験や国家試験等にみられる多様な問題に対応した学習システムの検討である。

今後も社会人基礎力育成とPBLと関連したICTシステム開発なども研究する。

●大学運営面において

- ①地域連携センター副委員長として連携事業に携わった。「NIUキッズキャンパス」で子供向けの市民公開講座を開講した。
- ②観光ママネジメントの委員長として教務・学生・募集について教員を取りまとめ運営に従事できた。
- ③「企画・広報委員会」委員長で国際観光学科SNSを運営した。

●教育面において

今年度も専門演習(ゼミ)でのPBLの実践、講義科目の授業改善、ポートフォリオを活用した新しい授業実践に取り組んだ。また映像制作、番組制作において高度な技術習得の授業内容で教育した。

①ポートフォリオの活用

昨年度に実践したポートフォリオを活用した学生への教育サービス、PBL、学修評価を研究により、ポートフォリオの活用で学生生活記録、リメディアル教育、コミュニケーション能力や自主性、課題解決力などの社会人基礎力・ジェネリックスキルを備えた人材の育成での活用など様々な場面での実践的な活用方法を実践した。PBL、ICTについても継続して研究していく。

②社会人基礎力育成

アクティブラーニングによる実践的な教育で学生と行動する機会を作ることができた事と社会人基礎力を育成できた。ポートフォリオの活用やSNSにより、大学内外関係なく連絡を密にしているため、学生の小さな変化を気づくことができた。卒業研究の指導はポートフォリオを活用して、計画的に指導できた。PBLと情報システムの利活用により、学生への教育効果も向上した。各専門演習や地域連携の講義において社会人基礎力チェックシートを使った学生の教育効果を測定し、学生への教育効果も向上した。

③教育成果

地域連携活動によるPBLで社会人基礎力育成と学生の学びを評価する大会へ参加して受賞した。またテレビとラジオの番組を制作した。

1：扇精光グループ賞

COC+「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業:若者が輝く、若者で輝く長崎創生ー地方創生人材学士プログラム(平成27年度採択)」「ーラジオ番組からテレビ番組へー学生の視点から届ける地域情報ー」、2019年1月17日

2:審査員特別賞

長崎文化放送(NCC)が主催する「第14回NCCふるさとCM大賞」映像作品「ただいま、させぼ。」、2019年3月9日

3:テレビ佐世保番組を開始

月曜20時15分の地域情報番組を制作。LINEやポートフォリオを活用した学生との企画・撮影・編集を行なっている。2019年1月から

4:FM佐世保による地域からの情報発信

毎週日曜日60分の生放送は12年目590回を終え、スマホのアプリ開発により国境を越え全国からのメッセージをいただいている。LINEやポートフォリオを活用した番組作成を行っている。またネットTVでの配信も実施して、全国から多くのリスナーから暖かいメッセージをいただき、広報活動にも貢献している。

●広報活動・社会貢献面における地域連携活動の実践

①下記のイベントに社会人基礎力育成の教育の場として授業を実践した。

2018年(1) 5月3日4日JR佐世保駅(2) 11月3日4日長崎国際大学(3) 11月10日11日佐世保文化振興局

地域新ブランド「佐世保たこ焼き」の広報活動と「佐世保たこ焼きマップ」の作成。

2018年7月1日 平成30年度若者育成支援事業。(SASEBO Collection ファッションショー開催)、長崎国際大学

2018年7月15日16日 「SASEBOまちなかスタンプラリー」企画運営、まち元気向上委員会

2018年8月25日26日 「アメリカンフェスティバル 2018 IN SASEBO」企画運営、佐世保市青年会議所

2018年11月17日18日 「YOSAKOIさせぼ祭」企画運営、佐世保市

2018年11月24日 「NIUキッズキャンパス、教育資源を活かした企画」子供向けの市民公開講座を開講、長崎国際大学

2018年12月1日「G1カレーグランプリ」企画運営、まち元気向上委員会

2018年12月5日「きらきらフェスティバルinSASEBO」企画運営、まち元気向上委員会

2019年2月2日3日「渋谷TANPEN映画祭CLIMAX at佐世保」企画運営、佐世保市、佐世保映画社

②Made in SASEBOフォトコンテスト

応募数は「一般の部」52点、「高校生の部」15点、「小・中学生の部」6点の計73点ご来場の皆様の投票によって決まる「開国祭賞」も決定。今回の投票数は266件。

③ITセミナー「AUGM長崎2018Plus」

長崎県の情報に関するテーマで9月にITセミナー「AUGM長崎2018Plus」を実行委員長として開催した。全国から最先端の技術者やITジャーナリスト、クリエイターが佐世保に集まりセミナーを開催した。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 城前 奈美

1. 教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①②④⑤⑥⑦⑧⑩ ⑪⑫
経済学	15/15(前期)	2	133	②⑨
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	16	①⑧⑪⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	17	①④⑧⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	8	①⑥⑪⑫
観光経済論	15/15(前期)	2	78	②⑨
卒業研究	15/15(前期)	4	3	⑥⑫
旅行業法・約款	15/15(前期)	2	110	①②⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
地域観光研究A(アジア・オセアニア)	15/15(後期)	2	120	⑥⑨⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	14	①⑥⑪
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	15	①⑥⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	7	①⑥⑪⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥⑫
Japanese Economy	15/15(後期)	2	19	②⑤⑥
国内観光研修D(九州・沖縄)	30/30(通年)	2	30	①②⑦⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	5	⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(観光経済)	15/15(前期)	2/1・2年	1
地域観光開発特別演習	15/15(前期)	2/1・2年	1
観光経済特講	15/15(後期)	2/1・2年	1
観光事業特別演習	5/15(後期)	2/1・2年	1
観光経済特講	15/15(後期)	2/1・2年	2
特別研究	15/15(通年)	8/1~2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは、教養セミナー4.5、旅行業法・約款4.3、地域観光研究A(アジア・オセアニア)4.2であった。教養セミナーについては、昨年度より上昇し、どの科目も全体平均と同等であった。専門演習については、フィールド調査や学祭発表、論文発表大会への参加、釜山キャラバンへの参加など積極的に活動を行った。2年ゼミはJATA九州支部が主催する旅行プランコンテストで優秀賞を受賞することができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	88

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
NICEキャンパス	1	1	9/28
海外観光研修D(オセアニア他)の補助引率	6日間	22	2/23-28
博物館実習Aの補助引率	2日間	35	2/15-16
国内旅行業務取扱管理者の国家試験対策講座	14	116	4/16・23・30、5/14・21・28、6/11・18・25、7/2・5・9・16・23
国内旅行業務取扱管理者の模擬試験&解説	3日間	85	8/9、8/20、8/27
国内旅行業務取扱管理者の直前対策講座	5日間	90	8/28-9/1
日商簿記検定対策講座	12	16	10/15・22・29、11/5・12・19・26、12/3・10・17、1/21、2/1
日商簿記検定の直前対策講座	5日間	13	2/18-22

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・アジア諸国の観光経済
- ・DMO
- ・クルーズ

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
未定/2019/3/国際観光都市佐世保構想研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	副委員長	ボランティア活動引率(九州北部豪雨災害、西日本豪雨災害)、ボランティア人材バンクへの新歓祭での勧誘、開国祭でのパネル展示運営
学務委員会	委員	委員会出席
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	8件の研究倫理審査を担当
観光学専攻	副専攻長	専攻会議議題の確認作業、専攻内中間発表会の運営、入試問題の作問とりまとめ
カリキュラム委員会(学科内)	委員	委員会出席
研修・地域連携委員会(学科内)	委員長	2018年度「観光研修」「地域連携活動」の運営、2019年度「観光研修」「地域連携活動」プログラムの募集、学科会議への提案
旅行業務取扱管理者養成課程委員会(学科内)	委員長	旅行業務取扱管理者試験に向けた特別講座や直前対策講座、模擬試験の運営、講師。国試の団体受験申込。
観光マネジメントコース委員会(学科内)	委員	委員会出席
学事委員会(学科内)	委員	卒業生支援担当
将来構想委員会	委員	委員会出席
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	委員会出席、印刷所の相見積もり、等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①ハイスクール茶会ボランティア/2018年5月19日/ハウステンボス

②佐世保商業高等学校への出張講義/2019年3月14日/佐世保商業高等学校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
国家資格:旅行業務取扱管理者のススメ	1月12日	長崎国際大学	QSP地域活性化委員会
クルーズ観光について	3月14日	佐世保商業高校	佐世保商業高校

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市し尿収集運搬料金基準額検討委員会委員	委員	2015/06/01～ 2018/05/31	佐世保市長
佐世保市都市計画審議会	委員	2016/11/01～ 2018/10/31	佐世保市長
日商簿記検定委員	委員	2018/04/01～ 2019/03/31	佐世保商工会議所 会頭

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①日商簿記検定委員/本学会場の年間2回(2018年6月10日(日)、11月18日(日))の検定監督および採点/主催:佐世保商工会議所

②日本観光研究学会九州韓国南部支部副支部長/2018年6月23日(土)に支部会総会、シンポジウムに出席。2019年2月15～16日の釜山キャラバンを結成し、引率。/主催:日本観光研究学会

③九州北部豪雨災害ボランティア(2018年9月14日)、西日本豪雨災害ボランティア(2018年12月1～2日)に参加、引率。/主催:長崎国際大学ボランティアセンター

④QSP国際交流・観光・まちづくり委員会委員長校/旅行プランコンテスト(2018年12月8日)の開催、委員会の開催(2018年12月8日、2019年3月11日)/主催:QSP

- ⑤QSP地域活性化委員会委員／「みんなの学び」講師、委員会出席(2019年2月19日)／主催:QSP
 ⑥国際観光都市佐世保構想研究会研究員／5回の研究会に出席、2回のワーキンググループに出席。／主催:佐世保市政策推進センター

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
釜山キャラバン	九州産業大学学生と本学科学生が結成したキャラバンが、博多港と釜山港の開発について学び、東亜大学学生と交流する。	2月14～16日	日本観光研究学会九州・韓国南部支部

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、①旅行業務取扱管理者の国家試験合格者(国内28名、総合7名)を輩出することができ、正規カリキュラム以外の特別講座の質向上の成果が表れたこと、②ゼミ活動において、JATA九州支部が主催する旅行プランコンテストにおいて、優秀賞を受賞したこと、など、十分に学生と向き合い、成果を収めることができた。

大学運営活動については、全学的にはボランティアセンター業務に努め、大学院においては観光学専攻の運営、研究倫理委員としての倫理審査に努め、学科においては観光研修・地域連携活動、旅行業務取扱管理者養成課程を統括した。

また、社会活動として、QSP事業に多く取り組み、E地域活性化委員会委員として活動するだけでなく、D国際交流・観光・まちづくり委員会の委員長校としてのとりまとめをしながら、各種企画を実行することができた。

しかしながら、研究活動については、おろそかである事は否めない。教育活動や大学運営、社会活動のいずれかの業務を削減して研究活動に取り組むよう心掛けたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 新藤 照夫

1. 教育理念

授業内外での学生との双方向のコミュニケーションを重視し、個々の学生が主体的に学修でき、卒業までにそれぞれ独自のホスピタリティを獲得していくことができるよう、教員としてサポートを行っていくことを教育理念としている。授業においては、安心安全の場を設定し、学生が容易に発言できる環境を保持しながら、アクティブラーニングを通じてプレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力を育成することを主眼としている。

英語関連科目において具体的に実践したいことは、次の3点である。①英語により正確かつ迅速に情報を入手し、自発的に意思疎通を図れるようなバランスの取れた4技能の土台を定着させること、②その土台となる技能をもとに、専門領域に関する情報を英語を通じて受信・発信できる実用的な運用力への応用を図ること、③異文化背景を持つ他者との柔軟な異文化コミュニケーション能力の育成に努めることである。その結果、学生が自らのコミュニケーション能力によって得た情報や文化交流から、知見をより豊かにし、グローバルな視野のもと活躍できる人材になることを理想だと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑪⑫
英語演習 I A	15/15(前期)	1	33	①②⑪
英語演習 I B	15/15(前期)	1	29	①②⑨⑪
English Writing Skills I	30/30(前期)	2	35	①②④⑩
言語と文化	15/15(前期)	2	45	②⑦⑩⑪
旅行ビジネス英語	15/15(前期)	2	61	②④⑩⑪
英語コミュニケーションA	15/15(前期)	2	68	②⑦⑩⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	8	①②④⑤⑥⑪⑫
英語演習 II A	15/15(後期)	1	32	①②⑨⑪
英語演習 II A	15/15(後期)	1	22	①②⑨⑪
英語演習 II A	15/15(後期)	1	29	①②⑨⑪
英語演習 II B	15/15(後期)	1	33	①②⑨⑪
English Writing Skills II	30/30(後期)	2	33	①②④⑧
英語コミュニケーションB	15/15(後期)	2	54	②⑦⑩⑪
海外観光研修C(ヨーロッパ)	30/30(通年)	2	21	⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

専門科目における満足度が4.7という高評価を得たが、全学共通の教養セミナーAの評価が昨年度よりも低下したため、学科内での内容や手法の検討も含め、次年度に向けての改善が必要である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	インターミディエイトイングリッシュ I	15/15(前期)	1	44
福岡大学	インターミディエイトイングリッシュ III	15/15(前期)	1	39
福岡大学	インターミディエイトイングリッシュ IV	15/15(後期)	1	40
福岡大学	インターミディエイトイングリッシュ IV	15/15(後期)	1	36
環太平洋大学	異文化コミュニケーション論	15/15(集中)	2	9

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪の文化的差異

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands / 2019年3月 / 長崎国際大学論叢 第19

巻:1頁～10頁／共著／原著論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	副委員長	留学制度の整備、海外からの来客対応、留学生のイベント運営等に貢献した。
グローバル推進協議会	委員	国際化ビジョンに沿った活動の進捗状況を確認し、今後の欧米圏との交流拡大の策を検討した。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパスの責任者を担務し、新たな企画立案や運営に尽力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学改革総合支援事業ワーキング・グループ4	副ワーキンググループ長	副WG長として、全学的な運営および当該検討項目の具体的内容を精査し、加点項目増加へ努め、補助金受託に寄与した。
国際交流留学生支援センター	副センター長	副センター長としてセンター長の業務を支援し、国際交流業務に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部の部長・監督

180人以上の部員を擁する部の部長兼監督として、九州地区大学野球連盟北部ブロックの1部リーグ残留および新入部員53名の確保に貢献した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①NIBテレビ硬式野球部特集放映／4月

②硬式野球部高校生合同練習会／8月25日／長崎国際大学

③NCCテレビ硬式野球部特集放映／10月

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習「やり直し英語学」	8月11日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平成30年度春季公開講座「暮らしに役立つ異文化コミュニケーションスキル」	6月23日	長崎国際大学	長崎国際大学地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 実用英語技能検定試験「面接委員」／平成17年4月～現在／公益財団法人日本英語検定協会
- ② 九州地区大学野球連盟の理事および大会副実行委員長／平成27年8月～現在

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
第16回留学生日本語弁論大会	審査員および総評	11月3日	国際交流・留学生支援センター
中国瀋陽市大学生交流事業	学生の引率および交流事業のコーディネーター	9月20日～9月23日	佐世保市国際政策課

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

大韓日本文化学会海外理事／平成27年4月～現在

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学運営においては、GTコースの運営とともに、国際交流委員会副委員長(副センター長)としての任務、硬式野球部部長兼監督としての管理運営面で、全般的に十分に貢献できたものと思われる。教育面に関しては、とくにGTコースの学生を対象とした授業外の指導によるフォローを行うなど、きめ細やかな指導を実践したことで、授業アンケートの高評価とTOEICスコア上昇の結果を得たものと思われる。硬式野球部の部員への教育という面では、定期的な面談を行うなどし、学修面での支援に加え、部の方針の徹底、部員のニーズの把握に努めたことで、完成年度を迎え、ある程度の基盤を作ることができた。一方で、個人の研究面においては、昨年度と同様に計画通りに進まなかったことが反省すべき点である。教育および学内の重要な業務の着実な遂行に努めたことにより、自身の研究への時間をうまく取ることができなかった。今後は、教育および大学運営に尽力するとともに、時間管理を改善し、計画的に研究業績を収めるよう努めたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 谷口 佳菜子

1. 教育理念

- ①主体的に学ぶ姿勢・態度を身につけ、学んだ専門的知識や技能を実践的に活用できる人材の育成を行う。
- ②学生の個性を大事にし、自分の力を十分に発揮できるよう支援する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
学際連携研究	5/15(前期)	2	181	⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	13	⑦
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	⑥
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	10	⑥
Tourism Marketing	15/15(前期)	2	18	⑥
マーケティング論	15/15(前期)	2	77	④
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
観光史	15/15(後期)	2	198	⑩
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	3	②④⑥
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	15	⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	⑥
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	⑥
地域観光研究B(アメリカ)	15/15(後期)	2	57	⑥⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2/1・2年	3
観光事業特講	5/15(後期)	2/1・2年	3
事例研究(観光マーケティング)	15/15(後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「教養セミナーA」では、満足度は、4.8となり、前年度より0.4ポイント上がった。セミナーの学生同士

が仲が良く、セミナー内の雰囲気よかったことも満足度の要因であったと思う。今年度は前年度の反省から、①学生が打ち解けられるよう、早い段階からペアワークとグループワークを取り入れ、コミュニケーションの機会を多くとったこと、②学生の様子をよく見て進度を変えたり、内容を変更するようにしたこと、③各学生の提出物や受講態度等をよく見るように心掛けて指導や対応をすることができたことがよかった。今後も学生の様子をしっかりとみて対応できるようにしていきたいと思う。

「マーケティング論」では、全体の満足度は4.3（前年度4.1）となり、前年度より0.2ポイント上がった。授業の理解度は4.3であったが、プレゼンの結果や定期試験の結果をみると履修者に大きな差があったため、理解度を向上させるようにしていく必要があると感じている。また、一部の学生については学習意欲を向上させるような授業にできていなかったこと、学生の理解度にばらつきが出たことから、来年度はグループワークをしながらも、理解度の確認ができるような取り組みを行ってきたい。

「地域観光研究B（アメリカ）」では、満足度は4.5となり、前年度（4.2）を上回る評価を得ることができたのはよかったと思う。必ずしも授業内容に興味を持って履修した学生ばかりではなかったようであるが、授業内で積極的に発表した学生にポイントを付与する制度を導入することで、ある程度は授業への態度が変わった学生もいたように思う。この授業をきっかけにしてアメリカについてもっと知りたいと思ってもらえるように、授業の進め方にも留意して取り組んでいきたい。また、前年度に課題としていた授業の前半に主体的に学ぶ取り組みとして、グループワークによる観光資源の復習クイズを実現することができたことはよかった。学生の様子から、復習へのよいきっかけとなったように思うので、来年度も改善しながら取り入れていきたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	アメリカ経済論	15/15(前期)	2	13
長崎大学	アメリカ経済論	15/15(後期)	2	13

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
日本語検定対策講座	7	5~8	4/24、5/1、5/8、5/15、 5/22、5/29、6/5

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

アメリカ経営史、伝統産業の事業システムの研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
地域の「稼ぐ力」を促進するDMOの在り方ー米国カリフォルニア州ナパ・バレーDMOの事例からー/
2019年3月/長崎国際大学論叢/00/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学科で検討が必要な内容(フレッシュマンセミナーの計画・運営、奨学金等のデータ確認)について、他の委員と協力して取りまとめた。また、奨学金の面接を実施した。
学食・売店検討委員会	委員長	学食・売店検討委員会の会議を行い、100円朝食の内容や実施後のアンケート分析を協議した。また、第1回学食メニューグランプリを実施した。
駐輪場小委員会	委員	会議にて、駐輪場の増設に関して検討を行った。
カリキュラム委員会(学科)	委員(書記)	委員として、カリキュラムに関する協議を行った。また、書記として、委員会の議事録をまとめた。
学事委員会(学科)	委員	保護者会・卒業式を担当し、本学と地方会場の保護者会のとりまとめ、3月の学科および研究科の学位授与式のとりまとめを行った。
公務員・教養課程委員会(学科)	委員	公務員・教養課程の科目である日本語検定に関する対策講座を実施した。課程に関するカリキュラム等の協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ダンスサークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

柳川高等学校模擬授業/6月27日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/7月22日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/8月5日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/8月19日/場所:長崎国際大学

オープンキャンパス/3月23日/場所:長崎国際大学(予定)

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
様々な資料を用いた地理・歴史のアクティブ・ラーニング	6月2日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
NICEキャンパス「地域の魅力を掘り起こすー2020年オリンピック・パラリンピックに向けてー」観光マーケティング	11月30日	アルカスSASEBO3階会議室	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎国際大学国際観光学会評議委員会	委員	平成30年度ー現在に至る	長崎国際大学国際観光学会
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員長	平成30年度ー現在に至る	長崎国際大学国際観光学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
英語の学習サポートと交流 (異文化理解教室出前授業)	4年生の英語の授業において、留学生とグローバルツーリズムコースの学生による英語学習のサポートと、子供達と交流のために引率	6月27日、7月18日	佐世保市立江上小学校
ふれあい教室 (異文化理解教室出前授業)	香港出身の留学生とベトナム出身の留学生による出身地域および文化の紹介と小学生との異文化交流のために引率	6月28日	佐世保市立宮小学校
英語の学習サポートと交流 (異文化理解教室出前授業)	3年生とダービースクールの子供たちとの交流会でグローバルツーリズムコースの学生が英語のサポートを行なうために引率	11月21日	佐世保市立江上小学校
餅つきによる交流 (異文化理解教室出前授業)	5年生による餅つきによる交流会に留学生および日本人学生が参加するために引率	12月6日	佐世保市立江上小学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面に関して、今年度は、佐世保市立江上小学校との共同プロジェクトとして、異文化理解教室を「地域連携活動ⅠB」の授業にして実施することができた。前期に実施された異文化理解教室の出前授業はこれまで通りボランティアの形式で実施されたが、後期に行われた内容については多くを授業の履修者が中心となって実施することができた。しかし、授業化にあたって、いくつかの課題も見出されたことから、来年度は他の部署との連携および他の授業や学科の活動との関連から新たな実

施策を検討していきたい。

ゼミ活動では、2年生の佐世保市周辺の観光パンフレット作成に関して調査等は実施できたものの、成果物の作成途中となってしまった。また、3年生の前期の成果についてもほぼ仕上がった状態になっているため、2つについては来年度には完成させるようにしたい。一方、3年生の後期の活動では原ゼミと共同で佐世保市の空き家の活用に関する提案を行うことができた。10月30日に佐世保ラボに対して2つの提案をプレゼンし、12月8日には、佐世保市提案公募型協働事業「街に恋するリノベーション 空き家物件の未来を考えるシンポジウム」にて、学生が発表する機会を得ることができた。今後も学内外の関係部署・機関と協力し、ゼミ活動をさらに発展させていきたいと思う。

研究に関しては、共著で1本、執筆することができた。学科共同研究費を活用し、現地調査・分析した内容を発表できたことはよかった。また、近年研究できていなかったアメリカを対象とした内容をまとめ、さらに後期の授業ではその内容に関しても学生に伝えることができたのはよかったと思う。引き続き、研究活動に精進したい。

大学の運営面では、各委員会の様々な業務に関して、教職員と協力して丁寧にかつ着実に取り組むことができたことはよかった。来年度も運営面でも尽力したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 Thom W. Rawson

1. 教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。

誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。

私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。

We learn things best by doing those things ourselves.

In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences.

A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.

When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
英語演習 I A	15/15(前期)	1	31	①②
英語演習 I B	15/15(前期)	1	23	①②
Practical English I B	30/30(前期)	2	37	①②③④⑤
Practical English IIIA	15/15(前期)	1	19	②③④
English Reading Skills I	30/30(前期)	2	35	①④⑪
English Writing Skills III	30/30(前期)	2	19	④⑧
英語演習 II A	15/15(後期)	1	27	①②
英語演習 II B	15/15(後期)	1	23	①②
英語演習 II B	15/15(後期)	1	24	①②
Practical English II B	30/30(後期)	2	33	①②③④⑤
English Reading Skills II	30/30(後期)	2	32	①④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

Practical English I B

I scored a 4.8 for Q13 which means the curriculum and class content is very satisfactory for the students. Also, this is up from 4.4 in 2017. The vocabulary study method was changed for this year, so the students could work well with the new system. I focused heavily on the organization and clarity of the curriculum in order to help students to understand what they are expected to do in the class. There is a lot of face-to-face feedback for each student in this course. Students knew what to expect however the amount of work and the variety of projects made this course particularly challenging. Some of the projects were not as successful as they could have been and some students commented as such.

The curriculum is organized and everyday students were able to receive a report on their current standing in the classroom thanks to ICT integration of materials. Regularly about 1~2 hours of homework was given each week to support the week's learning. Also, a vocabulary quiz was given at the first class of the week which helped the attendance to be high. Emphasis was on building academic skills needed for time management and study management. There were many aspects of this course which required students to remain focused on the different topics.

Although the syllabus is written 100% in English, the content of the course reflected the syllabus very closely. There was no complaint about the amount of work given in any of the comments. Primarily, the projects need focus and attention so students can enjoy them more. I will work to improve the syllabus contents so students can better understand each lesson. I averaged 4.4 for this section (Q3~Q5) which is improved from 2017 (4.3) so I'm mostly satisfied.

The materials were accessible to students online using ICT by either a personal computer or smartphone. The average for this section is about 4.5 (Q6~Q11). I will continue to offer materials for this course supporting the classes for students. Being able to access class materials from any place is an important aspect of Active Learning. I feel it was very successful because it removes the need to spend valuable classroom time on administrative functions and instead attention can be given to individual student needs.

I have improved the curriculum for Practical English B course and made it more student-focused. Each student continues to be given a chance to succeed at their own level. I hope to continue to foster student motivation for learning English outside the classroom for use within the class activities. This is the key to Active Learning. The things I need to be aware of are not making the students busy with tasks that aren't supporting the learning goals of building their Academic Skills and clearly I've removed those tasks from the curriculum in this iteration.

英語演習 I A

I scored a 4.2 for Q13 which means the curriculum and class content is pretty satisfactory for the students. I focused heavily on the organization and clarity of the curriculum in order to help students to understand what they are expected to do in the class. Students knew what to expect however the amount of work and the variety of projects made this course particularly challenging. Some of the projects were not as successful as they could have been and some students commented that the work was a lot when compared with other classes similarly named.

The curriculum is carefully organized and students could report on their current standing in the classroom thanks to ICT integration of materials. Regularly about 1 hour of homework was given each week to support the week's learning. Also, a vocabulary quiz was given at the beginning of class which helped the attendance to be high in this class. This course offers a variety of reading, writing, and vocabulary skills assignments which are challenging for EFL students.

The content of the course reflected the syllabus very closely. There were more than a few complaints about the amount of work given in the comments. Mostly students compared their curriculum to that of their friends in other similarly named courses. Primarily, the projects need

focus and attention so students can enjoy them more. I will work to improve the syllabus contents so students can better understand each lesson. I averaged 4.1 for this section (Q3~Q5) so I'm mostly satisfied. This score is similar as in previous years.

The materials were accessible to students online using ICT by either a personal computer or smartphone. The average for this section is about 4.5 (Q6~Q11). I will continue to offer materials for this course supporting the classes for students. Being able to access class materials from any place is an important aspect of Active Learning. I feel it was very successful because it removes the need to spend valuable classroom time on administrative functions and instead attention can be given to individual student needs.

Overall I feel the English Exercises IA curriculum is well-planned and nicely delivered for students to enjoy English reading and writing skills practice with classmates. In the future, it would be nicer to have the curriculum more closely tied with the field of study for each group of students. I will continue to try and improve on this offering. Students reported the kind and simple explanations that I gave during class helped them to feel comfortable. Some students reported the class was challenging but also reasonably so.

Practical English IIIA

Despite the introduction of an exciting excursion project to a World Heritage site, the PEIIIA course overall satisfaction score dropped by 0.1 from 4.6 to 4.5. The course suffered from a clear direction in the curriculum which is a result of incomplete planning. Each week there are useful activities as one-shot lessons, but the overall direction students are moving in is unclear. However, students still reported an overall satisfaction with the course despite the shortcomings.

Students are given activities which support using English Presentation Skills. Students made weekly presentations both in class and for homework. They also participated in discussions based on more complex topics learned through watching TED (academic) videos in English prior to joining an Active Learning discussion group.

The syllabus loosely guided the class because of the challenge of working with students weekly. The scores decreased slightly from 4.4 to 4.0 which reflects the students misunderstanding of the direction of the newly added project. The previous year focused more on weekly discussions and this new project diverged from this path. Also, the syllabus was written entirely in English which may cause confusion for some students. I will work hard to improve the scores in this area.

Q6 - My lecture in 100% English was received fairly well (4.3) although that is down from the

previous year.

Q7 – 4.3 in enthusiasm shows that I tried hard to be positive and enthusiastic with students. This score was lower than in previous years.

Q8 – 4.2 – This score was lowest perhaps because the materials were created by me. In the future, it might be better to offer a textbook for students although I was not able to find a textbook to my expectations which may have benefitted them more than individually created materials.

Q9 – 4.4 – Materials were provided using ICT, so students had unfettered access although some didn't score this so high.

Q10 – At 4.4, I will try to improve classroom management, although most felt my management of the class was adequate.

Q11 – Students participated individually during this class and the score reflects this positively. I will work to create a more group participation effort if it makes sense for writing class skills development.

Overall, teaching English Presentation skills is one of the most difficult things to manage. I have a lot of things where I can improve. More one-on-one time with students, more group projects where peer assessment is used for student-to-student guidance, and efforts to make writing class more interesting in general are some of the paths to improvement which I continue to seek. I feel the curriculum was successful, but I won't stop trying to improve it each year.

英語演習 II A

I scored a 3.8 for Q13 which means the curriculum and class content is pretty satisfactory for most of the students however a few of them found it challenging and difficult. Students knew what to expect however the amount of work and the variety of projects made this course particularly challenging. Some of the projects were not as successful as they could have been and some students commented that the work was a lot when compared with other classes similarly named.

The curriculum is carefully organized and students could report on their current standing in the classroom thanks to ICT integration of materials. Regularly about 1 hour of homework was given each week to support the week's learning. Also, a vocabulary quiz was given at the beginning of class which helped the attendance to be high in this class. This course offers a variety of reading, writing, and vocabulary skills assignments which are challenging for EFL students but also caters to different student needs.

The content of the course reflected the syllabus very closely. There were a few complaints about the amount of work given in the comments. Some students compared their curriculum to that of their friends in other similarly named courses. Primarily, the projects need focus and attention so

students can enjoy them more. I will work to improve the syllabus contents so students can better understand each lesson. I averaged 4.2 for this section (Q3~Q5) which is higher than the previous year (4.1) so I'm mostly satisfied.

The materials were accessible to students online using ICT by either a personal computer or smartphone. The average for this section is about 4.3 (Q6~Q11) which is lower than in previous years (4.5). I will continue to offer materials for this course supporting the classes for students. Being able to access class materials from any place is an important aspect of Active Learning. I feel it was very successful because it removes the need to spend valuable classroom time on administrative functions and instead attention can be given to individual student needs.

Overall I feel the English Exercises A curriculum is well-planned and nicely delivered for students to enjoy English reading and writing skills practice with classmates across a variety of topics and opportunities. In particular, being able to exchange with students in another country using an online forum was very beneficial for the students. I will continue to try and improve on this offering. Students reported the kind and simple explanations that I gave during class helped them to feel comfortable. Some students reported the class was challenging due to the amount of work.

Practical English II B

The students gave the score of 4.6 for Q13 which means the curriculum and class content is very satisfactory for the students. Although the score is slightly lower than the two years ago (4.7), it has improved since last year (4.5). I feel like the curriculum is organized and easy for students to follow along. Students knew what to expect on a weekly basis however the amount of work and the variety of projects made this course particularly challenging.

The curriculum is organized and every day students could report on their current standing in the classroom thanks to ICT integration of materials. Regularly about 1.5 hours of homework was given each week to support the week's learning. This is actually less homework than the students had in the previous year. Also, a vocabulary quiz was given at the beginning of one of the classes which helped the attendance to be high in this class. Emphasis was on building academic skills needed for time management and study management. There were many aspects of this course which required students to remain focused on the different topics. We hope to continue using collaborative virtual exchange projects along with debate skills to continue to improve students' academic skills.

Although the syllabus is written 100% in English, the content of the course reflected the syllabus 100%. If students scored this lower they may have had difficulty to understand the syllabus, however, no student scored below a 3 and all except a few students scored it at 4 or 5. I will

continue to improve the syllabus contents so students can better understand each lesson. However, the average of about 4.5 for this section (Q3~Q5) is very satisfactory.

Basically, the materials were accessible to students online using ICT by either personal computer or smartphone. The average of this section is about 4.7 (Q6 ~ Q11) which is higher than the previous year's scores (4.6). Supporting materials for this course will continue to be made available to students. Being able to access class materials from any place is an important aspect of Active Learning. Students are also able to receive timely feedback on their assignments which helps them to focus and find areas where they can improve. It was very successful overall.

Overall the work continues in order to improve the curriculum for Practical English B course and hope to continue to foster student motivation for learning English outside the classroom for use within the class activities. This is the key to Active Learning. The things we need to be aware of are not making the students busy with tasks that aren't supporting the learning goals of building their Academic Skills. Also, keeping up with timely feedback helps to build a positive learning environment.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

英語教育EFL/ ESL

テクノロジー・ベースの学習

セルフアクセスによる自発的学習

International Virtual Exchange (IVE)

Extensive Reading (ER) and Extensive Writing (EW)

Learning Analytics (LA)

Massive Open Online Courses (MOOC)

Learning Tools Interoperability (LTI)

Learning Management Systems (LMS)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	12	3	3	135万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing
an Intensive English Program Curriculum/2019/03/31/長崎国際大学論叢 第19巻/n.a./共著
/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

With Skype or without Skype?: Effects of Multimodal Collaboration in a Telecollaborative Project
/ 2018/04/27 / 2018 Unicollaboration 3rd Conference: Telecollaboration and virtual exchange
across disciplines: in service of social inclusion and global citizenship

Google Classroom: An introduction to the LMS supported by Google suite of applications /
2018/06/08/2018 JALT CALL 25th Anniversary Conference

Online extensive reading - a digital approach supported with paper / 2018/06/09 / 2018 JALT
CALL 25th Anniversary Conference

Report on the Global Moodle Users Association / 2018/09/15 / Hokkaido Moodle Summer
Workshop

LTI-facilitated Speech Assessment Project Using Moodle Workshop / 2018/09/16 / Hokkaido
Moodle Summer Workshop

Supporting Extensive Reading and Writing using Moodle Database / 2018/09/16 / Hokkaido
Moodle Summer Workshop

Extensive Reading: Online and Paper-Based (Roundtable Exchange) / 2018/11/24 / 2018 JALT
National Conference - Diversity and Inclusion

Advanced Workshop - A better way to use the database module / 2019/02/27 / MoodleMoot
Japan 2019 - Workshops

Utilizing the Moodle Database Activity for Student-Centered Learning / 2019/09/28 /
MoodleMoot Japan 2019

Introduction to Learning Analytics with Moodle / 2019/09/28 / MoodleMoot Japan 2019

The International Virtual Exchange Project - Moodle in Action / 2019/09/28 / MoodleMoot Japan
2019

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(代表)	日本学術振興会	2018.04-2019.03	100万円
科学研究費補助金(分担/前橋工科大学)	日本学術振興会	2018.04-2019.03	10万円
科学研究費補助金(分担/室蘭工業大学)	日本学術振興会	2018.04-2019.03	25万円

(4) 国内外留学等 (留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	副委員長	会議に出席、英語抄録の校正
グローバルツーリズム委員会	委員	設計されたカリキュラム、学生の活動について報告された、顧問
企画・広報委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

平成30年度・国際観光学科共同研究計画書・黒島観光の国際化PRプロジェクト

平成30年度・国際観光学科共同研究計画書・初年次における英語の多読研修プログラム

私はグローバルツーリズムコース用のiPadを保守しています。ユーザープロファイルを設定し、アプリケーションをインストールしてアップグレードします。私はiPadがクラスのためにそれらを必要とする誰によってでも使用できる状態にあることを確認します。 / 2014年～現在

私は長崎国際大学と長崎短期大学のQ-LEARN Moodleウェブサイト管理しています。これらのウェブサイトは教師と生徒のためのMoodle Learning Management Systemです。教師と生徒はオンラインでコースにアクセスできます。このシステムは教室での能動学習をサポートします。 / 2014年～現在

私は長崎国際大学の教師と学生両方の技術的ニーズをサポートします。すべての生徒がGoogle

Suite for EducationにGoogle Mailアカウントを持っています。 私はすべての学生のためにこれらのアカウントを設定します。 私は学生と教師が彼らのGoogleアカウントに関して持っている技術的な質問に答えます。/ 2014年～現在

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

グローバルツーリズムコースのためのオープンキャンパスサポート。
第9回高校生外国語暗唱 コンテスト / 2018年11月 / 長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許更新講習	2018/08/11	長崎国際大学	長崎県教育員会の先生達
Extensive Reading: A 4-Skills Tool for EFL Learners	2018/08/28	長崎県教育庁	平成30年度教員の英語力向上研修会
Using MyMobileWorld: the Online Component for the English Firsthand Textbook	2019/02/18	京都産業大学	Pearson Japan

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
Moodle Users Association・実行委員会	秘書	2017年4月～現在	Moodle Users Association
日本ムードル協会・実行委員会	副委員長研究開発、MUAの連絡係	2015年2月～現在	日本ムードル協会
長崎NanKyu JALT全国語学教育学会	企画者	2016年4月～現在	JALT Nankyu 全国語学教育学会
アジア太平洋仮想交換機構 (APVEA) 諮問委員会	諮問委員	2015年7月～現在	Asia-Pacific Virtual Exchange Association

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎県立高等学校英語ディベート総合九州決勝 / 2018年11月 / 審判
長崎県立高等学校英語ディベート総合長崎決勝 / 2018年10月 / 審判

私は日本のMoodleユーザーのための積極的なボランティアです。私はMoodleインストールの設定、管理、トラブルシューティングの専門知識を持っています。先生と生徒がMoodleを使って学習する

のを助けます。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
プリンストン大学(アメリカ)と長崎国際大学交換	Skypeなどのツールを使用した仮想交換	2015年9月～現在	プリンストン大学と長崎国際大学
コベントリー大学(イギリス)と長崎国際大学交流	コベントリー大学のムードルサイトを利用して、学生同士がコラボレーションしてオンラインでつながる	2014年9月～現在	コベントリー大学と長崎国際大学
国際バーチャル交換プロジェクト - SENA (コロンビア共和国)および長崎国際大学交換	NIUの学生は、コロンビアや他の多くの国の学生とオンラインでコラボレーションし、交流します。	2016年9月～現在	SENA・コロンビアと長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

私はEnglish Firsthand Seriesサポートウェブサイト、MyMobileWorldのテクニカルアドバイザーを務めています。これはピアソンアジアによって開発されたウェブサイトで、日本とアジアの至る所で教師と生徒によって使用されています。/ 2017年～現在

私はXlearning Systems LLCによって開発されたXreading Extensive ReadingのWebサイトのテクニカルアドバイザーを務めています。このウェブサイトは日本とアジアのEFL学習者のための多読活動をサポートするために作られています。/ 2016年～現在

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

動、また大学の指示を分析するために私は学びの分析論を自身の研究に持ち込んだ。私は世界一人気のあるラーニングマネジメントシステム(LMS)である、「ムードル(MOODLE)」の国際的コミュニティにおいて積極的に活動を行っている。

私は大学の目的(ゴール)をサポートし続けて行くつもりである。茶道の集まりに積極的に参加しており、おもてなしの心やサービス精神を盛り込んでいる。授業や、また学部の教職員との関わりにもその技術を取り入れようとしている。グローバルツーリズムプログラムや大学全体の発展を進めるため、尽力していくつもりである。

Since I began working at Nagasaki International University, I have helped to design, deliver, and refine the Global Tourism Course curriculum for both 1st and 2nd-year students. I've also helped to design, deliver and refine the General English course curriculum for 1st-year students.

I've worked hard to make Active Learning a centerpiece in my education philosophy. I teach students how to learn new things and how to be active in their use of the language. I'm also focused on giving students frequent and timely feedback on their activities in order to complete the learning cycle -- assignment -- submission -- feedback -- learning.

By using technology, I help organize teachers and students. Teachers can more easily deliver curriculum using the Q-LEARN system which I set up in 2014 and continue to support each year. Students can also keep connected daily on Q-LEARN to see their course progress and to be in contact with their teachers. By making efficient use of technology for organizing classes, teachers are more able to spend 1-on-1 time with students for a more personal learning experience.

All of the research areas I'm focusing on are learning technology based. I use Virtual Exchange in the classroom to promote internationalization and real-world language use for students. I focus on Extensive Reading and Writing in English using technology to organize students and deliver meaningful feedback. I'm working with a team creating a Massive Open Online Course (MOOC) in English for the Hospitality Services Industry in order to give back to the community. I'm bringing Learning Analytics into my research in order to analyze student performance and predict future behaviors and academic indicators. I'm active in the international community for the most popular Learning Management System (LMS) in the world, Moodle.

I continue to support the goals of the university. I'm an active participant in the tea ceremony culture which embodies hospitality and services. I am trying to use these skills in my lessons and in my interactions with faculty and staff. I will continue to try hard to further the development of the Global Tourism program and the university as a whole.

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 原 哲弘

1. 教育理念

1. 知識と感情と意志の3つの区分

私の教育は精神世界を3つに区分して、それぞれの成長と状態を観察します。そして、それぞれは評価の方法が違ってきます。座学での取り組みは、知識の量で測り試験という手段で判断することができます。資格取得も同じです。しかし、生きていく上には問題を抱えた時に、自ら考え解決しなくてはならないことが多くあります。言い換えると意志の働きが必要となります。ある問題に対して、自ら取り組み、悩み、苦しみ、そして自ら判断する。判断した後には行動を起こし、実施した結果については、自ら責任を取る。これら一連の意志の働きを最重要視します。従って評価の方法は、試験だけでは測れません。そこには、教師が常に学生と並走しながら共に居ることが重要です。答えを与えるのではなく、並走することです。そうすることにより学生に安心感が生まれ意志の働きが強くなります。教師と学生の適切な関係、ゼミ内での学生の居場所づくり、そして長崎国際大学内における学生の居場所づくり、多様な学生がいる中で、居場所を作ることは学生が学ぶ上で重要な要素です。ですから一人一人違う方法となります。

2. 暮らしのデザイン

実務経験を活かしながら実践的な授業を行っています。それは、建築を通して都市や街を見て、さらに都市や街を見て建築を見る。山を見て樹木や、そこに咲く草を見る。大地を見て農作物を味わい、川の水源地を見て河口の海を体験する。いわゆる里海、里山の考えです。また縄文人を含む先人達の営みを知り、その知恵を現代の最先端の技術で再確認する。都市や街が発生するには必然性があり、都市全体と街の一角を比較する事で、大地の特性が浮かび上がります。地歴や史実から見えてくる人々の営みは、他との比較からではなく独自の世界観を生み、土地の持っている唯一無二の社会や景観が観光につながります。地球温暖化に対する循環型社会、少子高齢化に対する地域ネットワークなどサステナブルな視点で時間軸と自然軸、それに長期的な視点に立つ経済軸を企画・創造してでき上がった景観(暮らしのデザイン)が、無くしてしまった大切なものの再生となる事を期待して教育を行っている。

3. 地域との連携

自ら考え、自ら創造し、自ら判断し、自ら行動し、そして自ら責任を取る。成長のキッカケづくりを中心とした教育をしている。その手段として地域に出かけフィールドワークをすることは、学生の成長を促します。大学に居ると全員が国際大学生であり、年齢もほぼ同じ年齢です。しかしフィールドワークでは、高齢者も多く年齢層が幅広い、従って大学生としての自覚が求められ、言葉遣いも細心の注意が必要となります。特に留学生にとってフィールドワークは、社会人に日本語で話すことから事前に練習を重ね、しかも精神的勇気も必要となります。心が折れそうな経験もあるが、自らの日本語が市民

に通じた時の達成感には、本人の心の成長を見ることができます。少子高齢化、後継者不足の地方都市住民にとっては二十歳前後の年齢と触れ合うことは少なく、市民にとっては大学生と会話するだけでも大歓迎なのです。そして二十歳前後の視点で町の問題点や魅力を語れば、街にとっても助かります。学それは学生のニーズを知り、マーケティングすることで若者に対する経営戦略が立てやすくなるのです。従って地域と連携する教育は、学生と市民との双方型の魅力の発見と達成感が得られる教育方法だと言えます。在学生には、中国人(台湾、香港を含む)、韓国人、ベトナム人、ミャンマー、ネパール、インドネシアなど多国籍となっています。更に佐世保市は米軍基地があることでアメリカ人もいます。観光分野ではインバウンド観光を学ぶ環境として適していると言えるでしょう。異文化を理解し、共存することが平和教育には欠かせません。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	1/15(前期)	2	503	④
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	②⑥⑪
地域連携活動ⅠA	15/15(前期)	1	38	①②⑤⑥⑦⑩
地域連携活動ⅡA	15/15(前期)	1	3	①②⑤⑥⑦⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	①②⑤⑥⑦⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	18	②④⑤⑥⑪⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	21	②⑤⑥⑦⑪⑫
観光事業論	15/15(前期)	2	248	①②⑨⑪
卒業研究	15/15(前期)	4	2	②⑥⑪⑫
環境デザイン論	15/15(前期)	2	61	①②③⑤⑥⑧⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	②③④⑤⑥⑪
地域の理解と連携	6/15(後期)	2	200	②④⑥
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	44	①②⑤⑥⑦⑩
地域連携活動ⅡB	15/15(後期)	1	3	①②⑤⑥⑦⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	16	①②④⑥⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	20	②④⑥⑪⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	④⑥⑦⑫
地域振興論	15/15(後期)	2	117	①②③④⑧
卒業研究	30/30(通年)	4	17	②⑤⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

①環境デザイン論(72人)

年度種類満足度(No13)

講義型

H28年度 4.4 ⇒ H29年度 4.3 ⇒ H30年度 4.3

日本人に対して満足度を如何に上げるのか、それが今年度の課題であった。そして授業への参加意欲と理解度を上げることを目標とした。しかし、思うようにできなかったのが反省点である。manabaによるアンケートから理解できたのは履修目的が「試験が無いから単位が取りやすい」という意見が多かった。これが思うようにできなかった理由である。つまり授業内容にそれほど興味がなく単位取得だけが目的の学生が多いということは、いくら授業内容を工夫しても無駄であるということである。留学生に対しては授業内容よりも日本語能力の向上と就学意欲を持たせることに基準を合わせ、ゆっくりとはっきりと話すことが必要である。逆に日本人には、それが物足りないと感じるのかもしれない。従って、次年度は履修選択時に興味を持たせる授業内容とし、やはり単位取得だけが目的で履修しないようなシラバスを工夫して、テストを課すことも考えなければならない。

②観光事業論 (271人)

年度種類満足度(No13)

講義型

H28年度 4.2 ⇒ H29年度 4.1 ⇒ H30年度 4.3

授業の充実を図り、1. 新聞記事の紹介、2. 事前にmanabaに授業内容を掲載、3. 復習としてに毎回、小テスト実施、4. 視覚言語の充実、5. 同時期の観光動向説明を行った。やはり今、起こっている事象や地元長崎県に関する観光の説明は学生達に好評であった。また私語や眠気が散見されるときに、抜き打ちアンケートを実施して全員が参加する機会を設けた。manabaによる小テストは、採点結果が違う時があり、こちらの操作に問題があるのか、manabaの限界なのか工夫をしないといけない。さらにスライドの見やすさを工夫しないといけない。

③地域振興論(156人)

年度種類満足度(No13)

H28年度 4.3 ⇒ H29年度 4.1 ⇒ H30年度 4.2

国際観光学科のコース選択必修科目なので、あまり興味が無くても義務として履修している学生が多く見受ける。特に授業アンケートだけでなく試験の成績が、平均点で20点ほど例年と比べると低い結果となり驚いている。言い換えると今年度の学生は、授業に出ているけれど理解度が低いという事だ。更に留学生には、非漢字圏がいるので、理解度が低い学生から高度な学生まで混在している。更に月曜日1限1101教室という条件が授業に出ただけとも言える。次年度は、留学生に対しては【声掛け作戦】とし、日本人に対しては小テストアンケート作戦で臨みたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| ① 宣教師と日本の建築職人たち | (人と材料と技術) |
| ② 海洋ルート(佐世保湾と大村湾)から見たツーリズム | (メビウス航路) |
| ③ 日本と韓国間の現在に至る歴史的資源から見る国際交流 | (平和への解決方法) |
| ④ 第6次産業を活用したグリーンツーリズム | (「さいかい元気村」の着地型観光) |
| ⑤ 佐世保市-大宮市場、早岐商店街の再生計画 | (ネットワーク社会) |
| ⑥ 平戸市的山大島におけるアート・プロジェクト | (アート・プロジェクト) |
| ⑦ 川棚町片島魚雷発射試験場跡の活用計画 | (近代化遺産の活用) |
| ⑧ 海に育てられた早岐(国際観光学園都市構想) | (まちづくり) |
| ⑨ 国境観光と防衛力 | (平戸市クロスボーダーツーリズム) |

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
西海市の生活の芸術者たち 第14巻 観光学論集/2019年3月31日/長崎国際大学国際観光学会
/53頁～60頁/単著/論文
対馬クロスボーダーツーリズム/平成31年3月29日/九州地区大学教育研究協議会/240頁～244
頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

里山・里海の観光地経営(DMO)に関する研究/2019/2/17/第1回横瀬地区地域づくりシンポジウム

横瀬浦天主堂に関する研究/2018/10/27/第4回 国際観光研究所シンポジウム

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
街の恋するイノベーション	佐世保ラボ	10月から12月	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際観光学科運営委員会	委員長	長崎と天草地方の潜伏キリシタン遺構に関するシンポジウムで講演した。
研修・地域連携委員会	委員	全国グリーン・ツーリズムネットワーク長崎のシンポジウムで講演した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
さいかい元気村	ゼミ担当教員	第6次産業の創出(ゼミⅡA,ⅡB)
全国グリーンツーリズム長崎	ゼミ担当教員	平成30年11月21日(水)全国グリーンツーリズム大会の運営補助を実施した。参加学生50名
川棚竹灯籠祭り	ゼミ担当教員	「第4回片島・竹灯籠祭り」11月23日(土)～24日(日)自治体、消防署、波佐見川棚JA共同体、大学生
早岐まちづくり(国際観光学園都市)	ゼミ担当教員	地域の人々と「顔と顔が解る関係」を市民と協働で行う取り組み。教養セミナー単位

(3) 課外活動の指導等

八の子島みなとまつり協議会/西海市民に対する運営補助活動

平成30年12月23日(日) 場所:西海町横瀬浦港ターミナル

八の子島ふるさと祭り:学生によるMC活動

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①保護者会(国内・本学) :平成30年10月28日(日)

②オープンキャンパス :平成30年7月22日、8月5日、19日、平成31年3月23日(予定)

③高校出張講義 :平成31年3月11日(月)

(佐賀清和高等学校)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	9

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
西海の生活の芸術者たち	2018年／11月21日	西海市西海町横瀬 西公民館	西海GT協議会
里山と里海の観光地経営 (DMO)	2019年／2月17日	西海西海町横瀬東 公民館	西海市西海町横瀬 市民(老人クラブ、東 と西の地区長)
街に恋するイノベーション	2018年／12月8日	佐世保市中央公民 館	佐世保ラボ(商工会 議所、市役所ほか)
横瀬浦天主堂	2018年／10月27日	大学 1101教室	国際観光研究所自 主事業

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市文化的景観保存推進 委員会	委員	2015/03/01～ 2020/03 /31	佐世保市教育委員 会
前畑弾薬庫跡地利用構想検討 有識者会議	委員	2016/11/01～ 2019/03/31	佐世保市長
大学生観光まちづくり運営協議 会	委員	2018/4/1～ 2020/3/31	長崎県ステージ運 営委員会
佐世保市景観審議会委員	委員	2015/3/1～2020 /03/31	佐世保市まちづくり 整備課
長崎県独立行政法人高齢・障 害・求職者雇用支援機構運営 協議会佐世保職業能力開発促 進センター部会	委員長	2015/4/1～2020 /3/31	ポリテクセンター佐 世保
長崎県宮村川系河川整備計画 検討委員会	委員	随時	長崎県土木部
中央公園整備及び管理運営事 業者選定委員会	委員	2018/10/1～選定 終了まで	佐世保市企画部政 策経営課
八の子島ふるさと祭り委員会	委員	2018/12/1 ～ 随時	八の子島ツーリズム 協議会
西海市横瀬地区地域おこし運 営委員会	アドバイザー	2019/1/20 ～ 随時	横瀬地区地域おこ し委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

1) 青森県おいらせ町ふるさと大使 2021年2月5日まで

年に1回の北の青森県との交流会、および九州と青森との交流促進を図ることが私に課せられた使命と言える。

2) 片島竹灯籠祭り 2016年～

魚雷発射試験場跡地利用でイベントをゼミ活動で川棚市民と始める。2018年度で4回目となり、来場者数も3000人を超える状況となり、知名度も増してきている。

3) 早岐まちづくり

早岐街づくりは、「国際観光学園都市構想」の一環として始まり、地域の協議会と連携しながら進めている。早岐茶市、早岐駅前開発、早岐川治水工事、などなどプロジェクトがあり、学生の視点を入れたまちづくりに取り組んでいる。

4) 佐世保市空き家対策

昨今、日本中の地方都市で問題になっている「空き家対策」を佐世保市でも国際観光学科として取り組んでいる。今年には佐世保ラブ(商工会、市役所、建築士会など)が主催となって夜店通りの呉服店、住宅を「街に恋するリノベーション」というテーマで企画提案を行った。

5) 西海市西海町における街づくり、街おこし

西海市グリーンツーリズム全国大会の協力と講演会、各種イベントの協力と実施、ユーモア通りのアートプロジェクトなど農業、漁業、商工観光、町内会、社会福祉協議会など多方面にわたる連携活動を行っている。

6) 熊本震災ボランティア活動

8月13日(月)震災後の南区富合町にて、建築設計の相談と指導を行っている。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
対馬おっどん祭り	日韓合同(釜山・新羅大学)によるイベント活動	2018年8月16日～8月20日	対馬市青年商工会

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞 受賞 平成30年6月27日

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教養セミナーを含む専門演習

今年度は、大学生による観光まちづくりコンテスト、全国グリーンツーリズムin長崎、対馬「おっどん祭り」、片島竹灯籠祭り、八の子島港まつりの6つのプロジェクトを同時にシフトや内容を組み込みながら取り組んだ非常に多忙な年であった。特に心がけているのは、一人一人学ぶことができる環境づくりに気を配っている。

それは精神的に安定した学びの環境を与えることにある。国別、性別、年齢別、既婚経験者、アルバイトの有無、などなど多岐に渡る個人特性があるのに配慮して、各自に適したスケジュールと課題を課した。

2. 講義型授業の把握と改善方法

1) 授業開始前

①少なくとも事前学習ができるように一週間前にポートフォリオにPDFデータを掲示した。

②教室には10分前に到着し、プロジェクターなどの設定を確認し定時に授業ができるように準備した。

2) 授業開始 20分間

①新聞記事など、現在起こっている事象を説明する。 5分程度

②試験に備えて毎回、小テスト形式で前回の授業復習を繰り返す。15分程度

3) 出席を取る 5分間

①タッチ式、レクシオンカード式だけでなくマナビポートフォリオを活用して出席を取る。番号の告知。

②同時にアンケートを取る、例えば質疑応答形式などである。

4) 授業再開 60分間

①配布したプリントに沿って講義を開始する。

②写真、ビデオなどを多用して視覚的に理解できるように促す。

③データは、最新のものに差し替える。

④私語があった場合は厳しく指摘する。度重なる学生は、減点対象となることを告知する。

⑤小テスト時の巡回など、教室内を巡回するようにする。

⑥学生とのコミュニケーションをとる。質疑応答形式など。

⑦学生に対しては到達目標を明確にする。ルーブリック表の配布

⑧ポートフォリオに授業の感想・要望等が毎回、書けるようにする。

- ⑨授業の理解度は、小論文テストを実施して確認する。3回/15回程度
- ⑩授業参加意欲を出すために網掛け、および「 」部分の設問を設ける。
- ⑪授業内容は、パソコンを利用するハイブリッド部分と手書きのアナログ部分を併用する。

5) 授業終了後 授業当日

- ①出席の確認とコメント
- ②ポートフォリオに教室と学生だけが交流できるサイトを作る。
- ③小論文をポートフォリオで意見交換する。

特に、昨年に引き続きアンケートのコメント欄に記述がみられた効果的だった授業方法は、1週間前に授業で配布するプリントをmanabaに掲載して学習を促したことである。それによって予習だけでなく復習も容易に行うことができ、しかもいつでもどこでも、できる環境にしたことが履修学生にとって良い結果となった様である。

3. 地域との連携

多くの市民からの要望にできるだけ応えるように取り組み、その要望は年々成果を上げ要望が多くなってきている。

○佐世保市 「国際観光学園都市構想」

早岐街づくり協議会と佐世保ラボとの連携

観光学科の教養セミナーのフィールドワークを早岐街づくりをテーマとして取り組み、その成果を全体発表会や小冊子にして佐世保市に還元した。また佐世保ラボと共同でシンポジウム「街に恋するリノベーション」を行い、空き家対策をゼミで企画提案した。

○西海市 「第6次産業」の開発

「八ノ子ふるさと祭り」への協力や「さいかい元気村」を中心としたGT全国大会補助、さらに横瀬浦天主堂の発掘調査を西海市教育委員会に申し出て平成31年4月以降に発掘する予定となった。

○川棚町 「近代化遺産の活用」

川棚町片島魚雷発射試験場跡を平和利用する「第4回竹灯籠祭り」を11月23日(土)～24(日)に開催。平成30年度は、開催期間が2日間で入場料を300円徴収した。学生たちは、アンケート班、竹灯籠班、着火班、など様々な部署で活動を行った。また地元JA、消防隊員、企業が協力して開催しており、まさに産官学民が一体となった理想的なイベントとなっている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 三浦 知子

1. 教育理念

大学での教育において最も大切な点は、学生が自主的に学ぶことができる環境をつくることである
と考える。大学4年間の学生の成長の可能性は計り知れない。きっかけをつくるのは教員側にあるが、
自主的に学ぶことができるように、できるだけそのプロセスをわかりやすく解説し、普段担当する科目
では、日頃から主体的な学びを進めていけるようなツールを用意し、学生をサポートするというスタ
ンスでいたい。

これからの社会は予期できない課題に直面することが多くなる。またその課題を解決するために柔
軟な発想やさまざまな知識の融合が求められる。こうしたことから、特にゼミ活動では毎年、特定の地
域課題をテーマに設定し、調査を行い、調査した結果を、文献等を参考にしながら論文にまとめる作
業を学生に毎年課している。また、3～4人くらいを目安にグループで取り組ませ、協働する楽しさや
難しさも同時に学ぶよう心がけている。学生の自主性がこれからますます求められると考えている。

学科の実習委員長としても、インターンシップを重要視している。学生の希望している職種を知り、
相手先の実習内容を把握し、実習先に足を運び、大学の学びと就職の間をつなぐ機会を模索して
いる。とりわけ旅行業関連企業については、自分自身の経験や関連の授業を数多く担当しているこ
とから、さらなるブラッシュアップを試みたい。

観光の形態が団体から個人へとシフトし、以前のアウトバウンド主体から、日本を訪問する(インバウ
ンド型)スタイルが今後さらに主流となる。このような社会の変化によって、あらゆる日本人が「観光」に
関係するようになる。その変化に対応でき、柔軟な考え方をもち、適応能力や異文化理解力の高い
学生を育てる教育を行いたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	⑤⑦
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	2	⑥⑧
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	2	①⑥⑧
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	3	①⑥⑧
Aviation Industry	15/15(前期)	2	16	①⑤⑥
海外観光資源B	15/15(前期)	2	78	①⑧⑨
海外旅行実務Ⅱ	15/15(前期)	2	34	①⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	⑤⑦
国際観光論	15/15(後期)	2	192	⑨⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	2	⑥⑧
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	3	①⑥⑧
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	3	①⑥⑧
旅行業論	15/15(後期)	2	109	⑨⑩
海外旅行実務Ⅰ	15/15(後期)	2	65	①⑧⑨
インターンシップB	5/15(通年)	2	38	④⑦⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	3	①②⑥
長期インターンシップ	5/15(通年)	12	1	④⑦⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(旅行業)	15/15(前期)	2/1・2年	1
観光事業特講	5/15(後期)	2/1・2年	3
旅行業特講	15/15(後期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

例年同様、国家資格を目指す学生以外でも該当科目は、留学生や運動部所属の学生も多く参加する科目するため、多様性に順応できるように内容を工夫したい。観光資源については、学生が楽しんで新しい資源を覚えていけるよう、エピソードなども織り交ぜて今後も進めていきたい。学生によるプレゼンテーションは、授業に対しての参加意識が高まったように感じており、次年度も継続したい。

「海外旅行実務Ⅰ」、「海外旅行実務Ⅱ」、「海外観光資源B」については、副教材として、ポートフォリオを利用しながら、反復演習ができるよう、ドリル等の充実をはかっていきたい。

「旅行業論」については、ゲストスピーカーと通常の授業の接続をはかり、よりアクティブラーニングの比重を増やしていきたい。

インバウンド観光が順調に伸びているため、必修科目である、「国際観光論」では、引き続き訪日観光にウエイトを大きく指導していきたい。引き続き動画資料を多用し、興味を持って授業に取り組める

ようにしていきたい。テキストを使用しない「国際観光論」については、よりポイントがつかみやすくなるよう、授業時のスライド等もさらに改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合旅行業務取扱管理者試験補講	24	16	4月24日～10月5日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 都市と農山漁村のパートナーシップ

人口減少、高齢化の中で、農山漁村では定住人口が減少の一途をたどっている。また第1次産業である農山漁業は後継者不足等の深刻な問題を抱えている。一方、地方創生は日本の将来のカギとなり、全国でさまざまな取り組みが模索されている。都市住民がいかに農山漁村や産業を支えていくことができるかについて、複数の先進事例を参考にその仕組みについて研究している。

② 「食」による地域振興

①とも関連し、国内の第1次産業の衰退が顕著であるが、地方特有の「食」や「食文化」は魅力の源でもあり、インバウンド観光の発展にとっても重要である。第1次産業の維持発展のためにも、特に観光客を意識した「食」との連携を深め、情報の発信方法や連携体制について研究している。

③ インバウンド(着地型)観光、DMO研究

インバウンド(訪日)観光客の急増により、観光客の過密や地域での観光人材不足等の課題が生じている。自立した地域経営のためには、地域をまとめる組織が必要であり、現在各地で日本版DMOが認定されている。とりわけ地方都市におけるインバウンド観光戦略、着地型観光とDMO経営の分析を進めている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	2	3	1	1	439万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

A Study for the impact of Farmer-Consumer Partnership in Yuza town, in Yamagata prefecture/
2018年9月/The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia,/1-14/単著/論文
生活クラブ生協と遊佐町の産直提携にみる連帯構築/2018年12月/日本観光研究学会・第33回
全国大会研究学術論文集/201-204/単著/論文

全麵協のあゆみとそばによる地域振興に関する一考察/2018年12月/日本観光研究学会・第33
回全国大会研究学術論文集/205-208/共著/論文

中国における地域文化の観光学及び博物館学的研究－雲南省大理を事例として－/2019年3月
/長崎国際大学論叢第19巻/未定/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

A Study for the impact of Farmer-Consumer Partnership in Yuza town, in Yamagata prefecture/
2018年9月/The 5th International Conference on Social Enterprise in Asia,

全麵協のあゆみとそばによる地域振興に関する一考察/2018年12月/日本観光研究学会・第33
回全国大会

生活クラブ生協と遊佐町の産直提携にみる連帯構築/2018年12月/日本観光研究学会・第33回
全国大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費基盤研究(C)「食と農をつなぐ都市農村協働プロセスに関する研究」	独立行政法人日本学術振興会	2016～2018年度	439万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	論叢出版にあたり、特に国際観光学科内の論文等の調整や助言を行った。
実習委員会(短期主担当)	委員長	実習委員、該当学生のゼミ担当教員と協力し、長期インターンシップ(HTB) 7名、(ホテルオークラJR HTB) 6名、(ニュージーランド) 1名、インターンシップ38名の学生の実施と実習先開拓、学生指導に貢献した。
国際観光研究所運営委員会	委員	10月27日(土)に国際観光研究所シンポジウムを準備・開催し、司会進行をつとめた。
旅行業務取扱管理者養成課程委員会	委員	総合旅行業務取扱管理者試験に向けて、授業、補講、オンラインでの学習指導を行い、学生の自主的な学修に貢献した。結果として6名の合格者、2名の科目合格者を輩出した。
長崎国際大学国際観光学会	編集委員	編集委員として、観光学論集の発行に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・「大学生観光まちづくりコンテスト2018」にゼミの2～4年生で参加した。チーム名をNIU T-yamanekoとし、現地調査実施し、『韓対交流サイクルを維持するまちづくり』を企画提案した。9月7日の長崎国境離島ステージ本選で、ポスター発表を行った。
- ・日本観光研究学会 九州・韓国南部支部主催の「第11回 大学生論文発表大会」(2018年12月1日九州産業大学にて開催)に、2年生のゼミ学生2名、3年生のゼミ学生2名が論文を発表した。
- ・「長崎県・佐賀県を中心とする着地型旅行プランコンテスト」にゼミの2, 3年で作成したプランを応募した。第一次選考を通過し、12月8日(土)に第二次選考でプレゼンテーションを行った。ツアー・タイトル「4日間で巡る二千年の肥前の歴史」は奨励賞・長崎国際大学国際観光学科賞を受賞した。
- ・12月9日(日)に開催された対馬学フォーラム2018(主催:対馬市)にてポスター発表を2年生のゼミ生2名が行い、市民に向けて対馬税導入の提案を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①九州文化学園高等学校進学説明会/6月8日/場所:九州文化学園高等学校
- ②出張講義(進学ガイダンス)/7月6日/場所:筑水高等学校(久留米市)

③オープンキャンパスにてエアライン業界の説明/8月5日,8月19日/場所:長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市観光施設設置及び企業立地奨励措置審議会	会員	2018/08/15～ 2019/03/31	佐世保市長
平戸市文化財審議会	委員	2018/04/01～ 2018/03/31	平戸市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

地域情報誌「みたかのみかた」発行人
東京TAMAタウン誌会会員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、例年参加している大学生論文発表会に加えて、大学生まちづくりコンテスト、旅行プランコンテスト、対馬学フォーラムと、複数のイベントにゼミで参加することができ、ゼミ活動が大変有意義だった。一方で構成人数が少なかったため、一部の学生には負担が重くなってしまったが、学生がまとめた対馬市への提案については大学院レベルのものであり、今後も対馬市とも連携しながら、より精査していきたい。

担当している授業については、年々登録している学生数が増加傾向にあるものの、アクティブラーニングを取り入れるように努力している。今年度は「海外観光資源B」、「旅行業論」でアクティブラーニングを試すことができたので、次年度も引き続き積極的な学びに結びつくとすることができるように進めていきたい。

総合旅行業務取扱管理者試験については、今年度は合格者が6名、科目合格者2名という結果だった。4年生を中心に、自ら合格に向けて勉強するというよい雰囲気、当日まで迎えることができた。国際航空運賃の出題傾向が毎年変化しており、海外旅行実務科目については苦手科目を作らないようにしていく工夫が必要であり、次年度もよりいっそう指導を強化していきたい。

実習委員長として、就職活動への連携も意識しながら、インターンシップについて、学生、企業、大学の三方面から引き続き詳細な考察を行った。学科内だけでなく、今後はキャリアセンターとも連絡を密に行い、幅広くインターンシップの機会を学生に提供できるようにしていきたい。

研究に関しては採択科研費が3年目の最終年度だったため、これまで以上に積極的に調査・研究を進めた。国際学会での発表を含め、研究成果について3本の研究発表を行うことができた。最終的な研究成果をまとめる一方で、新たな研究費獲得に向けて、計画的に準備していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 宮良 俊行

1. 教育理念

私の教育理念は、目的を果たすために最も有効な方法を使用しつつ、それを実生活に活かすことによって、人間と社会の進歩・発展に貢献することである。

よって、授業では、生涯スポーツ社会の実現を目指した「する」、「みる」、「ささえる」の立場で活躍できる人材の養成に重きをおいた授業を展開します。

学生には、「スポーツの素晴らしさ、大切さを正しく伝えることができるメッセンジャー」になるためにスポーツに関連する科目を十分理解し、実践できるように学んでほしいと考えており、そのために、基礎知識の習得やその知識を活かした実践を重要視した授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ社会学	15/15(前期)	2	121	④⑤⑥⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪
スポーツマネジメント	15/15(前期)	2	73	④⑤⑥⑩
スポーツ医学	4/15(前期)	2	49	②⑩⑪⑫
ジョギング・ウォーキング	10/15(前期)	1	76	⑩⑪
球技A	15/15(前期)	1	46	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	7/15(前期)	2	13	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅰ	1/15(前期)	2	17	⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	25	④⑤⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩⑪
地域スポーツ	15/15(後期)	2	6	④⑤⑥⑩
地域スポーツ	15/15(後期)	2	100	④⑤⑥⑩
コンディショニング	15/15(後期)	1	53	⑩⑪
器械体操	15/15(後期)	1	24	⑪⑫
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	14	⑤
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	13	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅰ	1/15(後期)	2	12	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅱ	8/15(後期)	2	8	⑨⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	15	③⑤
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	⑥⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	⑥⑦
教育実習B	80/80(通年)	2	1	⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の内容や方法に関しては、授業アンケートにて高い評価を受けているので、今後も継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	保健体育(高校3年生対象)	32/32(通年)	なし	88名

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

地域スポーツ:「地域におけるスポーツ振興」→総合型地域スポーツクラブを活用したスポーツ振興について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

元嶋菜美香, 宮本 彩, 田井健太郎, 熊谷賢哉, 宮良俊行:地域スポーツ教室における指導者意識が参加者の満足度に与える影響. /2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要第2巻/印刷中/共著/論文

大学における野外活動実習の展開と効果の検証ーキャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノースポーツ実習を対象としてー. /2019年3月/第67回九州地区大学教育研究協議会発表論文集. /印刷中/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

形成的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の満足度評価/2018年9月/九州体育・スポーツ学会67回大会

大学における野外活動実習の展開と効果の検証ーキャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノースポーツ実習を対象としてー/2018年9月/第67回九州地区大学教育研究協議会

大学キャンプ実習の心理的効果およびその持続性/2018年9月/九州体育・スポーツ学会67回大会

熊本県南関町における体育、スポーツ環境整備に関する事例報告 -行政、学校、総合型クラブの連携のあり方について- / 2018年9月 / 第67回九州地区大学教育研究協議会

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等 (留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	副委員長	佐藤委員長の補佐を行う。
教職課程委員会	委員	特にありません。

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

女子バレーボール部監督

男子バレーボール部部长

長崎県成年女子6人制バレーボールチーム監督

(4) 広報活動等 (募集・就職活動を含む)

① 土・日曜日を中心に長崎県内外の高校女子バレーボール部との練習試合年間約20日、高校生との接触延べ約400人→学生募集を兼ねる

② 高校出張講義 / 日付: 2月8日 場所: 長崎県立国見高等学校

日付: 2月14日 場所: 長崎県立口加高等学校

5. 社会活動

講演 / 講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
体育・スポーツに関する最新情報 「コンディショニング」	2018年8月17日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

親子対象 運動スポーツ教室「チャレンジスポーツ」 指導(担当2回)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特にありません。

7. 受賞等

平成30年度国民体育大会 第38回九州ブロック大会 第3位

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学教員生活10年間が終了するが、まだまだ教育、研究、地域貢献、全ての面において力量が足りない。特に研究分野の努力をもっとすべきである。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 内田 智子

1. 教育理念

私の教育理念は、「主体的に学ぶ学生」を育成することである。

私の専門分野は日本語学であるが、日本語は、学生たちにとって内省が可能な分野である。よって、授業では、一方的な知識の伝達ではなく、学生個人が自らの日本語を内省し、そこから気付きを得られるようなスタイルを作り上げたいと考えている。その実現のために、学生個人が内省によって答えを発見できる課題を課すように心がけている。

一方で、留学生にとっては、日本語は外国語である。日本語に自信のない留学生も積極的に参加できるよう、母語との比較対照を行わせ、それを日本人学生にも還元することで、より大きな視野から日本語を観察できる学生を育成したいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑩⑫
日本理解A	15/15(前期)	2	2	②④⑪
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	9	②④⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	18	④⑥⑦⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	23	④⑥⑩
卒業研究	15/15(前期)	4	3	④⑩
アカデミックジャパニーズⅠA	30/30(前期)	2	9	①②⑨⑩
日本語コミュニケーションA	15/15(前期)	2	129	②④⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	②⑥⑩
日本文化論	8/15(後期)	2	190	①②⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	10	④⑥⑦⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	17	④⑥⑩⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	21	④⑥⑩⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	④⑥⑩
アカデミックジャパニーズⅠA	30/30(後期)	2	6	①②⑨⑩
日本語コミュニケーションB	15/15(後期)	2	111	②④⑩
日本語教育実習	30/30(通年)	2	22	①④⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	20	④⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートに関しては、前期は「教養セミナーA」と「日本語コミュニケーションA」、後期は「日本語コミュニケーションB」において実施した。

日本語コミュニケーションの科目は、受講生の大半を留学生が占めており、留学生をターゲットとした授業展開を行い、留学生からは比較的高い評価が得られた。一方で、日本人学生の評価は留学生より若干低く、両者にとって満足度の高い授業をどのように作り上げていくかが今後の課題である。

教養セミナーは、日本語力が低い留学生のみで編成された特別クラスを担当した。全学レベルでのテキストをそのまま使用できないため、独自のカリキュラムを作成した。大学生活及び日本の生活への適応が最大の課題であり、今後内容をブラッシュアップしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
インターンシップ事前指導	2	7	2018年6月26日
インターンシップ指導	4	2	2018年7月25～26日
上海大学博物館学研修 日本語講座	3	10	2018年7月19日～23日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

近世～近代にかけての日本語学史

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

拗音の認識の変遷と五十音図/2018年6月/筑紫日本語研究2017/109-119/単著/発表記録

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

拗音の表の成立過程/2019年2月/長崎国際大学 第19回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	開国祭での展示、熊本県益城町への学生引率等で貢献した。
学科会議事務局(学科)	書記	学科会議の議事録作成及び学科会議のスムーズな運営。
日本語教員養成課程委員会(学科)	委員	教育実習の引率、指導等を行った。
ピアサポートセンター委員会(学科)	委員長	ピアサポート活動のコーディネート業務、保健室と連携しての支援体制の構築。
教育基盤センター運営委員会(全学委員、学科内初年次教育委員)	委員	教養セミナーのテキスト作成、入学前教育の運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
高等教育の質向上専門委員会	委員	留学生用のアプリ開発サポート
学生生活サポート室	委員	前期に週1時間、学生生活サポート室勤務
教養セミナーワーキンググループ	委員	教養セミナーAのテキスト作成

(3) 課外活動の指導等

ビブリオバトル同好会 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

11月18日(月)／熊本県益城町エイサーサークル訪問引率

2月7日／日本語スピーチコンテスト審査委員／長崎日本語学院

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日韓協働学習プロジェクト	済州大学校(韓国)で、日本語教育実習時に、10時間分の日韓協働学習を実施した。	2018年9月10日～20日	済州大学校日本語日文学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学で3年目となり、全学規模の取り組みに関わることも多くなってきた。特に今年度は、配慮申請が出ている学生や他学部の留学生のサポートに携わることも多かった。他学部他学科の取り組みについての理解が深まり、様々なことを多角的に見ることができるようになった。

授業及び教育活動に関しては、ようやく自分なりの授業スタイルが確立できたように思う。今後は学生からの声によく耳を傾け、クラス規模や学生のレベルに合わせた授業を作り上げていきたい。また、今年度は初めて卒業研究の指導を担当した。対象の学生が20名と多かったこともあり、後期は毎日数名の個別指導を行ったものの、十分な指導ができたとは言い難い。来年度も15名以上を担当する予定であり、前期からのスケジュール管理を考えていきたい。

現段階では、留学生の日本語力向上が最大の課題である。学科内のみならず、教育基盤センターやタイプ5の中でも対応策が求められているため、来年度はシステムを最大限に利用しながら、有効な方法を考えていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 乙須 翼

1. 教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどのような特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史(文化や宗教も含む)や社会(法や制度、政治など)との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人(市民)として生きていくために最後に学ぶ場所であると考え、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するということである。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①②④⑤⑥⑦⑧⑩ ⑪⑫
教育学	15/15(前期)	2	77	④⑪
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	3	①④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	4	⑥⑩⑫
卒業研究	15/15(前期)	4	2	⑩⑫
教師論	15/15(前期)	2	39	①②④⑤⑥⑦⑨⑩ ⑪⑫
教師論	15/15(前期)	2	50	①②④⑤⑥⑦⑨⑩ ⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	1	④⑥⑩⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	4	⑥⑩⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	15/15(後期)	2	248	④⑥⑩⑫
教育原理	15/15(後期)	2	45	①⑥⑨
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	①⑤⑦⑩⑫
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	6	⑦⑩⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	2	⑩⑫
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	⑥⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	⑪
教育実習B	80/80(通年)	2	1	⑪
栄養教育実習	40/40(通年)	1	6	⑪
事前・事後指導(栄養)	2/8(通年)	1	6	⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度、教育学および教育原理の授業において、満足度が過去最高となり、いずれも4.5を超える結果となった。授業内容や授業方法について大きな変更を加えている訳ではないが、数年前から取り入れている授業ノートや予習シートの効果が出てきている、またそれらを活用した授業に自分自身も慣れてきているという部分が大いのではないかと考えている。したがって、総体的には今年度の授業アンケートの結果は満足できるものであった。

少し具体的に見てみると、今年度の授業に関しては、準備学習をして臨んだと回答する学生の割合が多かったのが特徴的であった。この点はこれまでなかなか数字が上がってこなかった部分でもあり、今年度最も嬉しい部分でもあった。先に述べた予習シート等の成果が出てきていることもさりながら、教育学に関しては、社会福祉学科のスクールソーシャルワーカーを目指す学生や教職を目指す学生が受講生の大部分を占めるようになってきているという点も関連していると考え。比較的受講する学生の意識が高いためこのような結果になっていると考えることができ、授業者としてはとても授業しやすい環境での授業をさせてもらっている。

今年度の反省点、あるいは次年度に向けた課題としては、教職科目の年次配当変更に伴う授業内容の難易度の調整がある。今年度から教師論が1年次前期配当になったことにより、教育原理の学生の理解度、また授業の満足度は上がったが、その一方で教師論については2年生と同じ内容で実施したため、やや1年生には難しい内容となってしまった。また、教師論を受講する1年生前期の段階では教職課程学生の教員免許取得に対する意識も2年生に比べればかなり低い、あるいはまだ意識が浅薄である。そのため次年度については1年生という部分を加味した授業の進め方を工夫していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	36
長崎外国語大学	教育原理	15/15(集中)	2	17

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験対策講座	3	のべ約30名	3月11・18・20日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① アメリカの近代家族・公教育成立期における子ども観および貧困児等に対する教育的救済の特徴の解明
- ② 学生の成長を軸に据えた初年次教育の開発と実践

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	5	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
「第2章 救済と教育－18世紀後半フィラデルフィアの弱者救済活動にみる子ども・教育・家族」『孤
児と救済のエポック 16～20世紀にみる子ども・家族規範の多層性』/共著/2019年2月/勁草書
房/73-152

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「初年次教育科目『教養セミナーA』の実践と課題－学生の成長実感と教員のプログラム評価に着
目して－/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第2巻/13-26頁/共著/論文
「ホスピタリティを育む初年次教育の取り組み－ディプロマ・ポリシーの実質化を目指して－」/2019
年3月/第67回九州地区大学教育研究協議会発表論文集(2018)/160-166頁/共著/報告
「初年次・キャリア・学際部会(A)の報告」/2019年3月/第67回九州地区大学教育研究協議会発
表論文集(2018)/182-183頁/単著/座長報告
「初年次教育の深化に向けて－ホスピタリティ概論の分析から－」/2019年3月/長崎国際大学教
育基盤センター紀要 第2巻/27-54頁/共著/論文
「初年次・共通教育部門の活動報告」/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第2巻
/117-123頁/共著/報告
「教職等支援部門の活動と今後の課題」/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第2
巻/124-127頁/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
「ホスピタリティを育む初年次教育の取り組み－ディプロマ・ポリシーの実質化を目指して－」/2018
年9月/第67回九州地区大学研究協議会系列別部会
「建学の精神の徹底と卒業に向けた意欲喚起を図る初年次教育の現状と課題」/2018年12月/大
学教育学会2018年度課題研究集会(ポスターセッション)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員	IRコンソーシアムによる学生調査の結果から国際観光学科生の特徴および経年推移を分析し、学科会議にて報告を行った。
教職課程委員会	副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程再課程認定申請書類作成時のチェック及び文部科学省からの修正要請への対応などを教務課担当課員と協力して行った。 ・教職課程運営に関わる諸業務(教育実習、介護等体験、履修カルテ、教職実践演習等)を委員長と共に行った。
教育基盤センター運営委員会	教職等支援部門 部門長・教養セ ミナーWG長・教 育基盤センター 紀要編集副委員 長	<ul style="list-style-type: none"> ・部門長として教職学生向けの課外講座の立案・実施をキャリアセンター等と協力して行った。 ・初年次・教養教育部門内の教養セミナーWGのWG長として教養セミナーの授業計画の立案、テキスト等教材の作成・配信、アンケートの作成・実施・分析などを行った。 ・教育基盤センター紀要編集委員会副委員長として、委員長と共に紀要の査読事務・編集事務等を行った。
初年次教育委員会(国際観光学科内)	委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・教養セミナーAについては全学WGによる運営方針に基づき学科内での授業実施のコーディネートを行った。また担当教員への連絡等を逐一行った。 ・教養セミナーBについては国際観光学科独自のセミナープログラムの立案・調整・実施ならびにテキストの作成を行った。また合同セミナーの調整や連絡、運営なども行った。
共同研究予算委員会(国際観光学科内)	委員	学科共同研究予算の執行状況の確認等を委員会として行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター内教養セミナーワーキンググループ	ワーキンググループ 長	活動内容は委員会活動の教育基盤センター運営委員会の活動として記載

(3) 課外活動の指導等

教職学生向けの外部講師による教員採用試験対策講座の立案を行い、キャリアセンターとの共催にて3月に特別講座を実施した。実施にあたり、時事通信社との交渉、キャリアセンターとの連絡、学生への周知・連絡等を行い、特別講座の円滑な実施に貢献した。また、特別講座に続く教員採用試験対策講座として教育論作文講座と過去問模試を2回3月に実施した。

教職学生については、4月ならびに9月に新規教職学生向けに履修カルテ説明会を開催し、履修カ

ルテ入力指導を昼休み等を用いて行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

募集活動の一環として、3月に九州文化学園高校1年生の学園内進学説明会にて国際観光学科の紹介を行った。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習(講座名:子ども達と学校教育)	8月23日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
早岐小学校学校評議員	評議員	平成30年4月～平成31年3月(平成23年度より継続)	佐世保市教育委員会
早岐小学校学校支援会議「早岐っ子会」	委員	平成30年4月～平成31年3月(平成29年度より継続)	佐世保市立早岐小学校

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学会等の活動として下記の活動を行った。

- ・2018年度九州地区大学教育研究協議会(於:長崎国際大学、平成30年9月)での準備委員会委員、ならびに全体会シンポジウムの司会兼コーディネーター、系列別部会(初年次・キャリア・学際(A))司会兼系列別部会統括
- ・2018年度大学教育学会課題研究集会(於:長崎国際大学、平成30年12月)での準備委員会委員
- ・九州教育学会理事(長崎県選出)ならびに2018年度九州教育学会総合部会担当理事

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は教育、研究、大学運営の全てにおいて様々な活動を行い、実績も多数残すことができたと考えている。

教育活動に関しては、教養セミナーのプログラム作成・テキスト作成・授業運営に多くの時間を割いた1年であった。全学的な教育プログラムの立案と実施ということでプレッシャーもあり、全てがうまくいったとは言えないが、ワーキンググループの他の先生方と協力しながら昨年度よりは円滑な教養セミナー運営になったのではないかと考えている。また自身の授業に関しては、一つ一つの授業内で学生へのフィードバックを丁寧に行った結果、学生の授業評価も高いものとなり、ここ数年行ってきたワークシート等を用いた授業改善の効果が出たと考えている。

研究活動については、十分とは言えないものの、上記に関連する初年次教育および大学教育の論文ならびに発表・司会もいくつか行い、大学としてのアピールもできたと考えている。また自身の専門領域に関しては、昨年度末から準備を進めていた共著での著作を発行することができた。論文執筆や研究に関してはもう少し時間を充てることができればと思うが、そういった中で共著も含めて多くのペーパーを残すことができた点は今年度評価して良い部分ではないかと考えている。

大学運営に関しては、教育基盤センター運営委員会の委員として、大学教育に関連する学会等での学会事務やコーディネーター、初年次教育関連の発表や教養セミナーのテキスト作成など、多くの活動を行った。また、教職課程委員会の副委員長として昨年度から準備を進めてきた再課程認定への対応を引き続き行い、文科省への問い合わせへの対応等を経て、無事に課程認定書の受領までこぎつけることができた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 川上 直彦

1. 教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力(①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力)を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業(世界文化遺産論、美術と観光、世界史、世界遺産保全管理論、History A & B)および専門演習IA～IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組ませることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力について、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業(英語演習IA～IIB)においては、③と⑤を重視している。③コミュニケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
英語演習 I A	15/15(前期)	1	30	①②
英語演習 I B	15/15(前期)	1	22	①②
専門演習 I A	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習 II A	15/15(前期)	1	2	①⑤⑥
History A	15/15(前期)	2	8	①⑤⑥⑨⑩
美術と観光	15/15(前期)	2	138	①⑨
世界史	15/15(前期)	2	43	①④⑥⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
世界文化遺産論	15/15(後期)	2	106	①⑨
英語演習 II A	15/15(後期)	1	28	①②
英語演習 II B	15/15(後期)	1	30	①②
英語演習 II B	15/15(後期)	1	25	①②
専門演習 I B	15/15(後期)	1	4	①⑤⑥
専門演習 II B	15/15(後期)	1	4	①⑤⑥
History B	15/15(後期)	2	5	①⑤⑥⑨⑩
海外観光研修C(ヨーロッパ)	30/30(通年)	2	10	⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

以下のとおり、授業アンケートによる評価を得た。

- ①History A(理解度4.8、満足度4.7)
- ②世界文化遺産論(理解度4.0、満足度3.9)
- ③教養セミナーA(満足度4.0)

①について、今年度から担当となった英語による講義なので、欧米からの留学生が満足できるレベルの講義の準備に努めた。結果、授業評価アンケートにて非常に高い評価を得ることができた。また、History Aを受講したアメリカ人の交換留学生が、私の指導の下、2020年度4月より本学大学院への進学を現在希望するに至っている。これらの点において、努力が報われたと感じている。

②について、今回はじめて、本科目で満足度が、4.0を下回った。昨年までとの違いとして、無断欠席、

遅刻、授業中の居眠りと携帯使用に関して非常に厳しく指導した。また、課題についても質・量ともに増やした。そのため、一部のやる気のない学生が、低い評価をつけたのではないかと想像している。来年度も同じスタンスで授業を展開したいと考えるが、やる気のある学生がもっと伸びるよう、アクティブラーニングをつうじたやる気のある学生とのコミュニケーションを増やし、満足度のアップを図りたいと考えている。

③について、昨年度と比べ、「0.1」ポイント向上した。毎年のことだが、必ず何人かは、授業内容に興味を示さない学生がいる。それらの学生にどう興味を持たせられるか重要であると感じている。そのような学生にはコンスタントに声をかけ、励ましながら授業を展開させ、満足度を向上させたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
英語スキル向上を目的とした課程外教育E-up	1	20	前・後期週1回

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、「楔形文字史料とGISを活用した南メソポタミアにおける考古・歴史地理学研究」である。人類史上最古の帝国と定義可能な社会体制は、イラク共和国にあるメソポタミアに約4300年前に出現した。人類最古の帝国の中心都市、すなわち人類最古の首都と定義づけ可能な古代都市「アガデ」が建設されたことが、楔形文字史料の記述からわかっているが、未だ発見されていない。先行研究から、「アガデ」は、南メソポタミア北中部域を流れる現在のティグリス川流路から、最大25キロ程東部域を流れていた同河川の古代流路東岸にその所在地があると考えられてきた。しかし、近年、ティグリス川の古代流路は、現在の流路の東部ではなく、西部域にあった可能性が示された。本研究は、考古・歴史地理学的観点から、「アガデ」の所在地域に関し、東部に加え西部域の推定を初めて試みる研究である。更に、推定した「アガデ」の所在地域のDEM(数値標高モデル)データを、GIS(地理情報(処理)システム)で3D地形画像化し、衛星画像を重ね、「アガデ」と推定可能な遺丘群の探査についても初めて実践することから、探索的で、芽生え期の挑戦的研究と位置付けられる。そして最終的に、今後の現地探査に向け、「アガデ」と推定可能な遺丘群の分布図を作成する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
楔形文字史料とGISを用いた南メソポタミア北中部域における考古・歴史地理学研究	平成31年度科学研究費(挑戦的萌芽研究)	2019年4月～2021年3月	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会(全学・学科・大学院))	委員	学科における研究論文9本と卒業論文17本、また大学院において10本未満の論文の研究倫理の妥当性の審査を行い貢献した。
グローバル・ツーリズム委員会(学科)	委員	① 高校生暗唱コンテストの運営業務全般を担当し、主軸となって、来季以降のグローバルツーリズム・コースへの学生確保に向け大きく貢献。 ② 前期・後期の国際観光全学生対象の英語試験(CASECテスト)運営・管理業務全般を主軸として担当。 ③グローバルツーリズムコースの新1年生歓迎バーベキューパーティー運営業務全般を主軸となって運営。
募集委員(学科)	委員	高校への出張講義の運営業務、および自身も出張講義・大学説明を3回行い協働・参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 本学のオープンキャンパス時に実施された高校生を対象とした暗唱コンテスト運営業務全般を担い、来季以降のグローバルツーリズム・コースへの学生確保に向けた広報活動に大きく貢献した。
- ② 高校への3度の出張講義・大学説明会をつうじて、来季以降の博物館学芸員課程とグローバルツーリズム・コースへの学生確保に向けた広報活動に大きく貢献した。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
5	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
出張講義「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」	2018年7月5日	福岡市立福岡西陵高校	福岡市立福岡西陵高校
平成30年度教員免許更新講習「アジアに興った古代文明の文化遺産研究」	2018年7月14日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平成30年度上海大学博物館研修講義「古代オリエント史概論」	2018年7月19日	長崎国際大学	長崎国際大学・上海大学
NICEキャンパス講義「UNESCO世界文化遺産の本質とその課題・問題点」	2018年9月16日	長崎国際大学	長崎国際大学
出張講義「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」	2018年12月5日	佐賀県立白石高校	佐賀県立白石高校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

一般財団法人日本国際協力システムの要請により下記2つの日本国政府国際協力案件においてアドバイザーを務めた。

- ①独立行政法人日本国際協力機構(JICA)案件「マチュ・ピチュ歴史保護区ビジターセンター機材整備計画」
- ②独立行政法人日本国際協力機構(JICA)案件「イラン国立博物館機材整備計画」

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

【①教育】本年度は、新たに7科目を担当することとなり、年間を通じ、休日・祝日の多くを返上し、終始これらの科目の準備作業に時間の多くを費やした。準備作業に関しては、非常に大変であったが、自身の専門科目を多数持たせていただけというチャンスをいただき非常に感謝しているとともに、準備作業をつうじ、自身の専門の学問に深く、広く携わることができ、非常に充実した1年間であった。

その中でも、History Aについては、授業評価アンケートにて高い評価(理解度4.8、満足度4.7)を得ることができた。また、History Aを受講したアメリカ人の交換留学生が、私の指導の下、2020年度4月より本学大学院への進学を現在希望するに至っている。これらの点において、努力が報われたと感じている。

しかし、History Bに関しては、時間制限があり、納得する講義の準備を達成することができなかったのが、非常に悔やまれる。来年度は履修生が満足できる講義を展開できるように継続して努力していきたい。また、アメリカ人留学生の本学への進学が決定すれば、2020年4月までに、新たに英語での大学院レベルの授業・演習の準備作業を進めていかなければならないため、本点に関しても、努力していきたい。

【②研究】研究に関しては、上述にあるように年間を通じ、講義の準備にかなりの時間を取られ、「査読有り論文の掲載」という目標を達成することができなかったのが非常に悔やまれる。しかし、時間がないながらも、2名の専門の査読者から「研究ノート」と評価された論考を権威ある学会誌に最低限投稿した努力に関しては、評価に値すると考える。研究に関しても、来年度に繋げ、継続して努力していきたい。

【③社会貢献】 昨年に引き続き、長崎県教員免許更新講習の講義を通じ社会貢献をすることができた。

【④大学運営】 グローバルツーリズム委員(学科)として、高校生暗唱コンテスト等の運営業務に積極的に携わった。研究倫理委員(全学・学科・大学院)として、教員と学生が行う研究の倫理審査(教員9件、学生17件)を厳正に実施した。上海大学博物館との提携に係る関連業務(講義2コマ)、また募集委員(学科)として、出前講座や入試関連業務にも積極的に貢献することができた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 小島 大輔

1. 教育理念

本学におけるわたしの教育に関する責任は、人文地理学を学術のベースとして担当科目を全学科学生、スポーツツーリズム履修学生、教職課程履修学生などの対象別に学生に合わせて教示することである。ディプロマ・ポリシーのもとで、学術的視点でそれぞれの学生が各科目で最低限身につけてほしい能力を修得するために到達目標を設定している。

専門力に関する基礎的知識の評価については、採用試験・資格などにかかる科目は、知識の定着のために、持ち込みを不可とし、用語を中心として基礎的知識をどれだけ有しているかを問う形式にしている。そうでないものは、知識を体系がどれだけ出来上がっているかを問うために、持ち込みを可とし、その情報から用語をどれだけ類別・区別できるかという形態にしている。

一方、授業問題の捉え方、解決の方法を実践させたい。私は、教育の大観的な目標として、「教育の地域資源化」と「地域の教育資源化」を目指して大学教育に従事している。それは、これが二つの側面から社会的要請があるからである。一つは、社会人基礎力を養う有効な手段として、近年新しい形態のインターンシップなどとして注目されている課題解決型学習(PBL)の実践という側面である。もう一つは、近年「場の教育(PBE: Place Based Education)」として「より戻し」が図られている地域と／の教育の関係変化という側面である。

具体的には、PBL・PBLの段階的取組みを実践していきたい。第一のレベルは、初年次教育の際に実施している調べ学習を通じた地域の理解である。第二レベルは、2年次のゼミにて実施していたジェネラルサーベイおよび移動巡検である。第三のレベルは、2年次のゼミにて実施していたテーマ別に調査する調査巡検である。第四のレベルは、実習科目において実施していた地域を志向した課題解決型学習である。私は、大学が非常に優良な教育の場として地域とどのような関係性を築いていくかが、重要な課題であることを常に認識している。さらに、これらの実践によって地域資源としての大学・大学生という認識が広がれば、地域を舞台としたより実践的な活動が可能になり、さらには学生が当事者となる可能性も現れる。この実践は、地域に根差した研究教育活動を行っている地理学の分野の使命の一つと考えている。

また、この教育手法は実践研究と親和性が高い。そこで、研究と教育を完全に分離せず、可能な限り学生を研究に関与させる機会を設けたい。この場合、大学周辺の地域をフィールドとした学生と協同した地域研究、地域課題の解決の成果を残していきたい。学生の氏名を上げた文章等が残ることによって、学生のモチベーションも向上し、また就職活動などの素材にもなり得る。私が目指す教育姿勢と学生の目標が収斂することで活動のパフォーマンス向上も期待できる。学生と向き合う時間を十分に設け、学生の成長と共にスタッフとして成長しその喜びを分かち合っていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	②
Tourism Geography	15/15(前期)	2	11	②⑥⑪
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	7	⑥⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	7	⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	9	⑥⑫
長崎研究	4/15(前期)	2	123	②
卒業研究	15/15(前期)	4	1	⑥
スポーツツーリズム	15/15(前期)	2	106	②
観光学概論	15/15(前期)	2	238	②
社会科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	7	③⑤⑥⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑤⑥⑫
地域連携活動ⅠB	3/15(後期)	1	3	⑥⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	7	⑤⑪⑫
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	5	⑤⑥⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	9	⑥⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥
地誌	15/15(後期)	2	121	②③
長期インターンシップ	9/90(後期)	6	12	⑦⑫
長期インターンシップ	9/90(後期)	6	1	⑦⑫
社会科教育法Ⅱ	15/15(後期)	2	7	③⑤⑥⑪
教職実践演習(中・高)	15/15(後期)	2	14	⑥
教職実践演習(栄養教諭)	15/15(後期)	2	6	⑥
国内観光研修D(九州・沖縄)	30/30(通年)	2	30	⑥⑦
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑥
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	④
教育実習B	80/80(通年)	2	1	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期の授業アンケートは、「観光学概論」において実施した。今年度の授業は過去最大のクラスサイズだった。授業平均よりやや評価の高かった昨年度の授業内容・方法を基礎にして今年度授業を行ったが、多くのポイントを減じる結果となってしまった。今年度は前期開講という開講時期の変化が

あり、これが授業にどのような影響があるか、確認することができた。そこで、次回は以下4点の向上策を実践していきたい。第1に、ポートフォリオの「小テスト」での授業キーワードの確認を徹底し、＜準備学習(予習・復習)＞のポイント向上に併せて、単位取得率向上を目指したい。具体的には、まず本年度同様に毎回授業のはじめに前回の授業キーワード確認記入者数の公表と評価点であることの確認をしたい。その際、今年度は数字のみで示していたが、グラフなどで視覚的に表示し取り組み数の向上の励ましを行いたい。第2に、確認した授業キーワードの定期試験活用を促したい。今年度は、配布資料にメモする書きこみ欄を設けたが、次回は穴埋め形式にして定期試験への有用性、使い勝手を向上させ、評価基準を下げることなく単位取得率の向上を図りたい。第3に、授業の流れの改善策として、「①前回の復習→②授業テーマとキー発問→③作業・課題が2回以上ある展開→④まとめ」というパターン化を図り、またそのアウトラインの提示を徹底したい。これによって、作業・課題などの話して良い時間と、聞く時間のメリハリをつけ、集中力の継続と「ガス抜き」の効果を図りたい。第4に、リアルタイムに実施可能な何らかの相互コミュニケーション方法を1回は試行的に実施したい。これを、授業アンケートで得られない学生の反応・印象などの情報収集を即時に入手することと、授業への主体的な参加の促しとして活用したい。

また、前期は「教養セミナーA」においても実施した。授業内容が変わったが、昨年度から満足度を向上させることができた。ひとまず、本年度の授業内容・方法を基礎にして、以下3点の向上策を実践していきたい。第1に、内容の大きな変更がない限り毎時の授業の展開に余裕をもたせるように努めたい。第2に、授業時の時間的な余裕を、受講生の疑問・質問や相談に対応する時間に充て、学生のスタートアップの不安を取り除きたい。授業外での対応も今年同様に実施したい。第3に、評価についてなるべく早く周知し、受講態度の向上を図り、また授業のメリハリをつけたい。

後期の授業アンケートは、6年ぶりに「地誌」において実施した。今年度の授業は過去最大のクラスサイズだった。また、教職課程の再課程認定への対応のため、新学習指導要領の内容を意識した内容編成に変更しており、授業アンケートの結果について予想できない点があった。結果としては、クラスサイズの拡大に合わせて変更した授業内容と授業方法が一定の効果を示し、学科における科目の位置付けが変更後も満足度の向上を図ることができた。とくにアクティブラーニングは授業態度や興味に効果が大きいと、継続を図りたい。一方、それに伴って私語対応への取り組みが必要になっていくことが予想される。そこで、次回は他の科目でも実施予定の以下2点の向上策を実践していきたい。第1に、授業の流れにメリハリをつけ、ワークする時間と話を聴く時間という意識付けを試みたい。方法として、他の授業と同様「①前回のふりかえり→②授業テーマとキー発問→③作業・課題が2回以上ある展開→④まとめ」という授業のパターン化を図り、またそのアウトラインの提示を徹底したい。これによって、作業・課題などの話して良い時間と、聞く時間のメリハリをつけさせ、集中力の継続と「ガス抜き」の効果を図りたい。第2に、映像資料の視聴時などにリアルタイムに実施可能な何らかの相互コミュニケーション方法を1回は試行的に実施したい。これを、授業アンケートで得られない学生の反応・印象などの情報収集を即時に入手することと、授業への主体的な参加の促しとして活用したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	環境論	15/15(前期)	2	35
愛媛大学	国際観光論	15/15(前期)	2	31
長崎県立大学	人文地理学	15/15(後期)	2	163

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①都市と観光
- ②地域研究(カナダ)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
パネルディスカッション「西海の宝物と未来への活かし方」報告/2019年3月/『観光学論集』14巻
/印刷中/共著/地域観光情報

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Long-term changes in inbound tourist gateways to Japan / 2019年8月 / 2018 IGU Regional
Conference C16-SP4. Tourism Spaces and Collaborative Economies@Quebec City

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
世界遺産の創造と場所の商品化に関わる理論的・実証的研究	日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(A) (研究協力者)	平成27～30年度	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康調査」実施 ・九州地区大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-LINKS)ポスターセッション発表準備 ・『キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより』作成 ・修学支援費申請学生との面接 ・配慮申請者との面接 ・合理的配慮の提供内容決定会議 ・学外実習等に関する学外機関への情報提供内容検討会議
教職課程委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史・社会科担当 ・介護等体験指導・実習先への挨拶 ・教育実習指導・実習先への挨拶
学事委員会(学科)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季オリエンテーションおよび春季オリエンテーションのとりまとめ・企画を担当した。
実習委員会(学科)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・長期インターンシップの主担当 ・産学協働人材育成コンソーシアム主催の研修会に参加
ピア・サポート委員会(学科)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポートの全学組織の運営 ・NIUピア・サポート学生組織顧問 ・ピア・サポート担当教員の意見交換会実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学長裁量経費「学生のホスピタリティを育むユニバーサルキャンパスづくり」	分担者	<ul style="list-style-type: none"> ・①(障がいの有無に関わらず,)全ての学生が当たり前で学ぶことのできるユニバーサルキャンパスの実現ために、ピア・サポート活動の継続的な実施とさらなる発展のための体制整備を行うこと、②ピア・サポート活動を、より学生が実施主体となる組織として体系化していくことを通して、学生のホスピタリティの育成に寄与すること、の2点を目的とする取り組みの分担者を担当した。 ・主担当として、NPS執行部を中心とした本学におけるバリアフリーマップの作成に以下4点で関わった。①先進校視察同行、②バリア状況調査サポート、③地図化の助言、④チェック時の指摘・修正
九州西部地域大学・大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム 国際交流・観光・まちづくり【専門】委員会	担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務責任者連絡会議陪席 ・推進協議会陪席 ・委員会2回開催(司会) ・行政機関への挨拶・協議 ・委員長校担当としての申請書作成における各大学との内容調整 ・旅行プランコンテスト実施(企画・運営・司会)
九州西部地域大学・大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム 地域産業活性化【専門】委員会	担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務責任者連絡会議参加 ・推進協議会参加 ・委員会出席 ・公開講演会運営(運営・司会)
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター学生生活サポート室	室員・室長	<ul style="list-style-type: none"> ・後期週1回学生生活サポート室に詰め、学生の相談対応および各種サポート ・学生生活サポート室員の意見交換会実施

(3) 課外活動の指導等

- ①陸上競技部 部長兼監督兼短距離ブロック・コーチ
- ②NIUピア・サポート学生組織顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①進路ガイダンス(観光文化学)/11月24日/福岡県立博多清松高等学校
- ②オープンキャンパス(学科企画の一部担当:教職課程(社会)担当学生への指導)/8月6日/長崎国際大学
- ③オープンキャンパス(学科企画の一部担当:ポスターセッションの進行係)/8月19日/長崎国際大学
- ④オープンキャンパス(学科企画の一部担当(予定):教職課程(社会)担当学生への指導)/3月23日/長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	7

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
パネルディスカッション「西海の宝物と未来への活かし方」	平成31年11月21日	西海市横瀬浦コミュニティセンター	第17回全国グリーンツーリズム・ネットワーク長崎大会西海分科会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市環境政策審議会	委員	2017/06/20～現在に至る	佐世保市長
佐世保市環境教育等推進協議会	会長	平成25年6月～現在に至る	佐世保市
佐世保市国際観光都市佐世保構想研究会	委員	平成30年12月～現在に至る	佐世保市
西海地域づくり研究会	事務局員	平成26年3月～現在に至る	西海地域づくり研究会
九州学生陸上競技連盟	評議員	平成26年4月～現在に至る	九州学生陸上競技連盟
長崎陸上競技協会理事会	常任理事	平成26年4月～現在に至る	長崎陸上競技協会
長崎国際大学国際観光学会編集委員	委員	平成22年度～現在に至る	長崎国際大学国際観光学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
異文化理解教室	留学生による出身地や文化の紹介、ゲームを通じた交流	11月2日	佐世保市立江上小学校5年生
異文化理解教	室留学生による出身地や文化の紹介(展示)、ゲームを通じた交流(ワーク)11月3日	長崎国際大学開国祭
異文化理解教室	留学生による自国の文化の紹介、出身地の遊びを通じた小学生との交流	2月5日	佐世保市立春日小学校5年生

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、授業アンケートは「観光学概論」は昨年度より低下、「教養セミナーA」昨年度より向上、「地誌」は6年前より向上という結果だった。講義科目において私語対応への指摘があったため、次年度はアクティブ・ラーニングを継続しつつメリハリのある授業づくりに努め、満足度の向上に努めたい。

研究活動については、昨年度最終年度であった科学研究費の研究成果の学会発表1件、およびシンポジウム報告の執筆1件にとどまってしまった。後述の大学運営活動に多くのエフォートを割いたことが直接の要因である。次年度は、大学運営活動の効率化を図り、本活動のエフォートを大きくしたい。

大学運営活動については、全学委員会ではCHサポートセンター学生サポート室長として、学生生活サポート室、全学のピア・サポート活動の運営に携わった。また、昨年度に引き続きCHサポートセンター運営委員会の委員を中心にした学生支援に関する学長裁量経費のプロジェクトにおいてバリアフリーマップの作成を担当した。また、教職課程委員会では、社会・地理歴史の教科指導を担当し

た。学科内の委員会活動は、学事委員会では秋季・春季オリエンテーションのとりまとめを担当し主担当者のサポートをした。実習委員会では長期インターンシップの主担当を担当し、またインターンシップ担当者として研修会にも参加した。加えて、QSPの2つの委員会の担当として、委員会参加や計画・実績の作成と学外との連絡などを担当した。また、陸上競技部の好成績が続いているため、成績の維持が引き続いての課題になっている。以上のように、かなりのエフォートが大学運営活動に費やされた。次年度も大きな変化はないようなので、効率化を図り他の活動へのエフォートを大きくしたい。

社会活動については、西海における活動が低調になってきたところだが、パネルディスカッションの依頼があり、新たなネットワークを構築することができた。今後の展開に活かしていきたい。

国際交流については、授業の一環およびボランティア活動として異文化理解教室を実施した。学外の委員は昨年と継続して1件増加した。

次年度は、QSPの活動が活発化し全体量が本年度より大きくなることが予想されている。効率化を図ることで各活動のエフォートのバランスをとり、各活動のパフォーマンス維持に努めたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 柴田 あづさ

1. 教育理念

私は、留学生の日本語教育と、学部生の日本語教員養成課程を担当する立場から、それぞれに異なる教育理念がある。

まず、留学生に対する日本語教育の教育理念は、「日本の大学教育に対応できる日本語力を育成すること」である。そのため、授業では、新聞記事やドキュメンタリー番組、映画といった生教材を多く取り入れ、日本人の使う自然な日本語に慣れ、これと同様の能力の獲得を促す。

次に、日本語教員養成課程の担当授業の教育理念は、「国内外の日本語教育に貢献できる人材を育成すること」である。そのため、授業では、実際の学習者と接触する機会を設け、日本語教員となるためには、どのような資質を備えるべきか、リフレクションを課して気づきを促す。そして、得られた気づきから、学生の主体的な態度を引き出すとともに、体系的に整理された知識・技術を伝え、専門力と、課題を解決する力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーB	15/15(前期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
日本事情 I	15/15(前期)	2	2	⑤⑥⑦⑫
日本事情 II	15/15(前期)	2	58	①②⑤⑥⑨⑩
日本理解A	15/15(前期)	2	9	④⑨⑩
日本理解B	15/15(前期)	2	2	②③
専門演習 I A	15/15(前期)	1	5	②④⑥⑩
専門演習 II A	15/15(前期)	1	9	①②③⑤⑥⑦
日本語の研究A	15/15(前期)	2	25	①②④⑧⑨⑩
教養セミナーA	15/15(後期)	1	6	①⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫
日本事情 I	15/15(後期)	2	7	⑤⑥⑦⑫
日本事情 I	15/15(後期)	2	25	①②⑤⑥⑨⑩
日本理解A	15/15(後期)	2	7	④⑨⑪
日本理解B	15/15(後期)	2	7	④⑨⑪
専門演習 I B	15/15(後期)	1	10	②④⑤⑩
専門演習 II B	15/15(後期)	1	7	①②③⑤⑥⑦
日本語の研究B	15/15(後期)	2	31	①②④⑧⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前後期とも、授業アンケートの全項目の平均値は4.0以上であった。なかでも、後期の「日本語の研究B」のアンケートでは、「日本語を留学生に教えるという貴重な体験ができてよかった」「活発な授業で、楽しかった」というコメントがあり、履修学生たちが積極的に授業で学んでいたことがわかった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

日本語教育学でも特に留学生と日本人大学生の協働による劇創作をとおした学びに注目し、学習が進む過程の可視化を、複線径路・等至性モデリングを用い、その要因を認識するための研究を行っている。また、日本語教員を目指す大学生が必要な資質を深く認識できるよう、教育実習や、学習者との日本語交流の際のリフレクションを重視した教育活動を実践している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

日本語学習における関西弁劇創作の教育効果-複線径路・等至性モデリング分析から見る留学生4名の変容過程から-/2018年8月/日本語教育学会/62-77/単著/研究論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

交換留学生の日本留学による変容の多面的分析/5月/The 24th Princeton Japanese Pedagogy Forum

日本留学や日本語学習における関西弁劇創作の教育効果-複線径路・等至性モデリング分析から見る留学生Dの変容過程から-/8月/東アジア日本語教育・日本文化研究学会第22回国際学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	会議への参加
実習委員会	委員	長期インターンシップの運営
日本語教員養成課程委員会	委員	生け花および料理教室の開催支援、引率
大学院専攻科委員会	書記	開催案内と会議資料、議事録の作成、発表会の準備

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ようこそJAPAN外国語コンテスト	委員	実施内容の検討

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①The 24th Princeton Japanese Pedagogy Forum参加時の広報活動/5月12日、5月13日

②ハイスクール茶会への参加/5月19日

③オープンキャンパスでの日本語教員養成課程の紹介/7月21日、8月5日、8月19日、3月23日(予定)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

「SENSEIメーリングリスト」の管理および運営(2002年～<ブラジルを中心とした南米の日本語教師の情報交換を目的に開設)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本語による諸活動	本学日本語教員養成課程の履修学生と米国セントラルフロリダ大学の日本語学習者とが、インターネット電話をとおして、知り合い、協働で動画を制作した	6月20日～7月26日	柴田あづさ・ウィーラー美穂子

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は着任一年目であり、初めて担当する授業の準備と、委員会の仕事を覚えこなすことに、日々追われて過ごし、私自身の中では達成感を覚えるよりも、消化不良の一年であった。そこで、次年度の教育活動に関しては、今年度の授業内容をよく精査し、本学の学生により適したものになるよう発展させる。研究活動に関しては、今年度は劇創作の活動における4名の留学生の変容の可視化に関する論文を執筆したが、次年度は、3年半にわたって行った留学生と日本人大学生の協働による劇創作の教育活動を総括する論文執筆を目指す。大学運営、とりわけ委員会活動に関しては、今年度は仕事の内容を覚えこなせるようになることが目標であったが、次年度は、効率的に業務を遂行し、会のよりよい運営に貢献できるようになることを目指す。社会活動に関しては、南米の日本語教員の情報交換網である「SenseiML」のサーバーの移動を行い、現在発生している特殊文字の文字化けの問題に対応する。国際交流に関しては、次年度は2年生および3年生ゼミ生を中心に、大学内での国際交流イベントの企画を計画し、実行する。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 田井 健太郎

1. 教育理念

私は身体教育および教員養成に携わる者として、専門知識や専門技術を学ぶとともに社会の構成員として責任ある行動をとることができる人間を育てる。

そのためには、学問知識体系の伝達だけでなく、人間の心情の理解、社会情勢への対応、コミュニティの形成などを実践できる社会人となるように学生を教育する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥⑩⑫
スポーツ原理	15/15(前期)	2	78	②
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	13	⑤
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	11	⑤
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	13	⑤
マリンスポーツⅢ	15/15(前期)	1	5	⑫
キャンプ実習指導援助	15/15(前期)	2	7	②④
水泳	15/15(前期)	1	19	⑫
保健体育科教育法Ⅲ	14/15(前期)	2	13	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅰ	8/15(前期)	2	17	⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑩⑫
スポーツ運動学	15/15(後期)	2	16	⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	13	⑤
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	11	⑤
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	13	⑤
スポーツ指導論	15/15(後期)	2	50	②
器械体操	14/15(後期)	1	24	⑪⑫
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	14	⑦⑩
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	6	⑤
保健体育科教育法Ⅳ	13/15(後期)	2	13	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅰ	6/15(後期)	2	12	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅱ	6/15(後期)	2	8	⑨⑩
スノースポーツ	15/15(通年)	1	6	④⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	13	⑫
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	④
教育実習B	80/80(通年)	2	1	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

- ・ スポーツ原理(授業アンケート、総合満足度4.3)

毎授業の導入時に、学生の前回授業への質問、感想、意見を紹介し、それにコメントを加えた。このことで、学生の講義内容に対する考察を促し、また前回からの流れを復習することを促した。

- ・保健体育科教育法 I (授業アンケート、総合満足度 4.5)

関係法令、学習指導要領と現場での指導実践が結びつくよう講義を行った。指導実践、授業運営を定義づける各種法令の理解を促し、自ら計画、実践することができるよう促した。教育実習を見据え、講義内容と教育現場の関連を伝えることも加えた。

- ・教養セミナーA(授業アンケート、総合満足度4.8)

シラバスに則り、新入学生に大学での学びの目的、方法を伝えた。クラス内で理解、進度が大きく異なり、授業満足度にバラツキがあった。来年度は、適宜授業方法を変化させながら対応したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等学校	保健体育	27/30(通年)	4	84
九州看護福祉大学	体育原理	15/15(前期)	2	4
放送大学	身体運動文化の理解	8/8(後期)	1	15

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
教員採用試験対策講座	20	20	4月～7月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- i. 近世武芸概念の形成過程についての研究
- ii. 身体教育に関する研究
- iii. 空手道に関する研究
- iv. 大学教養教育に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	6	2	2	54万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Comparison of Nutrient Intake between Japanese Female Elite and Collegiate Karate Players /

May,2018/J Athl Enhanc 7/2/共著/paper

台湾におけるスポーツ哲学研究の動向. 体育・スポーツ哲学研究/平成30年6月/体育・スポーツ哲学研究40(1)/13-24/共著/報告

nutrient Intake and Body Composition of World Karate Champions:4 Case Reports/Sep,2018/J Athl Enhanc 7/4/共著/paper

Safety Aspects of Karate As Physical Education and an Extracurricular Activity/Sep,2018/Euro J Phy Ed Sp Sci 4(11)/28-36/共著/paper

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

空手道競技者のグリット, フロー, SOCの関係/平成30年9月/第51回日本武道学会大会

空手道競技者の踏み込み動作における下肢筋電図活動と動作の解析/平成30年9月/第51回日本武道学会大会

大学における野外活動実習の展開と効果の検証ーキャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノースポーツ実習を対象としてー/平成30年9月/第67回九州地区大学教育研究協議会

大学での体育を生涯スポーツにつなげるためにはースポーツフィッシング開講などの広島修道大学の取り組みー/平成30年9月/第67回九州地区大学教育研究協議会

形式的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の満足度評価/平成30年9月/第67回九州・体育スポーツ学会大会

大学キャンプ実習の心理的効果およびその持続性/平成30年9月/第67回九州・体育スポーツ学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平成30年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	常葉大学	H30	37万円
平成30年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	広島大学	H30	17万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特になし
ハラスメント対策委員会	副委員長	特になし
教育基盤センター運営委員会	委員	特になし
学事委員会(学科)	委員長	特になし
スポーツツーリズムコース委員会(学科)	委員	特になし
スポーツ指導者養成課程(学科)	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

空手道部 監督

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・長崎県、高体連各種空手道大会にて学生募集活動/年20回程度

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許更新講習 体育・スポーツに関する最新情報「体育・スポーツ原理」	7月28日	五島高校	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本体育スポーツ哲学会	常任理事	平成29年4月-	日本体育スポーツ哲学会
長崎県空手道連盟	理事・事務局次長	平成24年9月-	長崎県空手道連盟
佐世保市空手道連盟理事会	理事	平成24年4月-	佐世保市空手道連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

「NIUチャレンジスポーツ」担当講師

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面:スポーツ関連専門科目において社会のニーズ、学生のニーズに合わせて講義をすることができた。教員志望学生に対して、ゼミ、課外活動を通じての学習指導などを行うことができ、担当する四年生では、一般企業、実業団スポーツチーム、公共スポーツ施設に採用内定した。学生の進路希望に沿って教育計画を立案したい。

研究面:今年度の研究活動は停滞した。計画した研究が予想したように進まなかったことが反省である。成果の公表を含めてしっかりと行いたい。

社会面:長崎県空手道連盟理事として各種大会、セミナーの活動を中心に、大会運営、強化両面で長崎県、佐世保市への貢献に努めた。また、今後も地域の指導者講習会、スポーツ教室を通じて研究成果などを還元していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 Brendan Van Deusen

1. 教育理念

My educational philosophy is based on the principle of active learning. Especially for English as a foreign language, students need to do real communicative tasks, and improve based on feedback. As a teacher, this places several responsibilities on me. First, I need to design my classes in a way that I am not talking only as much as necessary, and for as much as possible, students are working on tasks to help them grow. Second, I must provide feedback to students in a timely and helpful manner. This means that before and after class, I need to work very hard to provide the support necessary to help students grow. Whether or not students are good at English at the beginning of the semester is not important. The most important is that they continue to grow.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	11	②④⑤
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	④⑤⑦
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	1	④⑤⑦
Practical EnglishⅠA	30/30(前期)	2	37	②③④
Practical EnglishⅢB	15/15(前期)	1	19	⑤⑧
English Writing SkillsⅠ	30/30(前期)	2	35	④⑩
英語演習ⅡA	15/15(後期)	1	31	①②
地域連携活動ⅠB	15/15(後期)	1	3	⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	4	②④⑤
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	10	⑦⑪⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	1	④⑤⑦⑫
Practical EnglishⅡA	30/30(後期)	2	33	②③④
English Writing SkillsⅡ	30/30(後期)	2	33	④⑧
卒業研究	30/30(通年)	4	1	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

専門演習ⅡA

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Students rated this class 4.6/5 for satisfaction.

This class focusses on academic research skills necessary for students to successfully work toward their final undergraduate thesis in English. Students have very different levels of experience about this. Combined with various levels of English, this semester functions as a needs analysis for students moving forward.

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法(1000文字以内)

This was the first time to have international students in my seminar class. I have learned a lot about how to support them. In general, I plan to introduce the principles of research skills more concretely.

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q3 was rated as 4.7/5. As a seminar conducted in a foreign language, there will always be some points that students do not understand. It is a fine balance. Generally the level of students is quite high.

Q4 was rated as 4.4/5. In general, the syllabus was followed accurately. I adjusted the syllabus schedule to meet students' needs when necessary.

Q5 was rated as 4.4/5. Students had a lot of choice about projects and group discussion topics.

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q6 was rated as 4.9/5: As mentioned above, I try to challenge students to listen to my English. I do not speak Japanese in the classroom.

Q7 was rated as 4.8/5: I am very happy that my excitement and positivity was felt by the students.

Q8 was rated as 4.1/5: We did not use a textbook. Students were challenged to find research from sources.

Q9 was rated as 4.4/5: We used a combination of 9learn.net and Google Classroom.

Q10 was rated as 4.3/5: As our class was in the late morning, lateness was not such a problem.

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

This feedback is very valuable. I am grateful to the students.

Practical English IIIB

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Students rated this class 4.0/5 for satisfaction.

This class focusses on vocabulary and academic skills necessary for students to succeed in a foreign classroom. We also spent most of the semester collaborating with the Kuroshima Tourism Association on a project to promote Kuroshima tourism in English. In this context, active

participation is the only way to succeed. In some cases, students are challenged to go beyond their limits.

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法(1000文字以内)

I will work with the other Global Tourism teachers to adjust how this class integrates with the other classes. In particular, perhaps this class was too integrated with the other classes. There were some times when this class and Practical English IIIA could have had clearer information about the Kuroshima project. I have already discussed the issue with other teachers and this will be fixed next year.

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q3 was rated as 4.0/5. As a foreign language class, there will always be some points that students do not understand. It is a fine balance.

Q4 was rated as 4.4/5. After last year's Practical English 3B, I adjusted the syllabus of this class to meet student's needs. Moreover, the syllabus schedule was adjusted to meet students needs when necessary.

Q5 was rated as 3.9/5. Students had a lot of choice about projects and group discussion topics.

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q6 was rated as 3.9/5: As mentioned above, I try to challenge students to listen to my English. I do not speak Japanese in the classroom.

Q7 was rated as 4.4/5: I am very happy that my excitement and positivity was felt by the students.

Q8 was rated as 4.2/5: We used a vocabulary website every week.

Q9 was rated as 4.3/5: We used a combination of 9learn.net, Google Docs, and wordengine.jp

Q10 was rated as 4.0/5: As our class was in the afternoon, lateness was not such a problem.

Q11 was rated as 4.1/5: Our class was structured around a large group project and they had much time to work in groups.

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

I am grateful for the feedback received, especially about how to improve the class.

英語演習ⅡA

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

This class was rated 3.8/5 for satisfaction (Q13). This class prepares students for to communicate with mostly reading and writing. We focused on online virtual exchange with students in Columbia.

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法(1000文字以内)

This class consisted of standard level Tourism students. Although English was difficult for them, they participated actively in the class. I would like to improve the class by finding ways to support their grammar and vocabulary more.

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q3 was rated as 3.6/5: There were plenty of opportunities for review in this class. We spent two weeks per unit to allow us to focus on the content.

Q4 was rated as 3.7/5: The class followed the syllabus closely. Due to some business trips by the teacher, the schedule was adjusted accordingly and with minimal disruption.

Q5 was rated as 3.6/5: We focused on communication about everyday topics that would likely be interesting to students. There were opportunities to personalize the content as they wished

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q6 rated as 3.6/5: Teaching a foreign language requires a fine balance of communicating and challenging students to understand. I used mostly English to communicate to students.

Q7 rated as 4.0/5: I am happy that students felt my excitement and positivity.

Q8 rated as 3.7/5 & Q9 rated as 3.9/5: We continued a similar project to the spring and 9Learn.net LMS from the spring, so students were familiar with the content.

Q10 rated as 4.0/5: I had few problems with lateness but dealt with the problem as best we could. The students were generally on time and engaged.

Q11 rated as 3.9/5: Although this is a standard level class, I tried to allow students to check communicate and discuss with real people overseas as much as possible.

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

This was a challenging course for many students. I am pleased that students enjoyed the class.

専門演習ⅡB

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

This class was rated 4.5/5 for satisfaction (Q13). This class prepares students for to do research in English. We also focused on online virtual exchange with students at Princeton University.

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法(1000文字以内)

This class consisted of Japanese and international students. Although English was no so difficult for them, some were not familiar with research skills. I would like to improve the class by finding ways to support their progress.

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q3 was rated as 4.6/5: There were plenty of opportunities for review in this class. We spent two weeks per unit to allow us to focus on the content.

Q4 was rated as 4.3/5: The class followed the syllabus closely. Due to some business trips by the teacher, the schedule was adjusted accordingly and with minimal disruption.

Q5 was rated as 4.3/5: We focused on how to research topics that would likely be interesting to students. There were opportunities to research topics according to their interest.

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

Q6 rated as 4.6/5: Teaching a foreign language requires a fine balance of communicating and challenging students to understand. I used mostly English to communicate to students.

Q7 rated as 4.4/5: I am happy that students felt my excitement and positivity.

Q8 rated as 4.4/5 & Q9 rated as 4.5/5: We continued a similar project to the spring and 9Learn.net LMS from the spring, so students were familiar with the content.

Q10 rated as 4.1/5: I had few problems with lateness but dealt with the problem as best we could. The students were generally on time and engaged.

Q11 rated as 4.4/5: Students had opportunities to communicate with American students via a collaborative project.

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

This was a challenging course for many students. I am pleased that students enjoyed the class.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	英語C	15/15(前期)	1	11
佐賀大学	英語B	15/15(後期)	1	2
佐賀大学	英語D	15/15(後期)	1	17

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
FD英語による教授法	1	15	9月27日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

English as a Foreign Language (外国語として英語教育)

Virtual Exchange (バーチャルエクスチェンジ)

Extensive Reading (多読)

Task Based Language Teaching (タスクを基にした学修)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	7	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Preparing students to Study Abroad in the Netherlands/2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻
/準備中/共著/研究論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an
Intensive English Program Curriculum/2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻/準備中/共著
/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

With Skype or Without Skype? Effects of multimodal collaboration in a telecollaboration project/
2018年5月/Unicollaboration 2018 (ポーランド)

Teaching a seminar class at a Japanese/2018年5月/全国言語教育学会2018 PanSIG

IELTS preparation through video journaling/2018年5月/全国言語教育学会2018 PanSIG

An introduction to Extensive Reading/2018年9月/第67回九州地区大学教育研究協議会

Teaching a seminar class at a Japanese/2018年11月/全国語学教育学会・第44回年次国際大会
教材展示会

Training EFL Teachers to Use ER for the First Time/2018年11月/全国語学教育学会・第44回
年次国際大会教材展示会

Utilizing the Moodle database for student reporting and study tracking/2019年3月/MoodleMoot
Japan 2019, 日本ムードル協会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	大学に関する広報
GTコース委員会	委員	GTコースに関する事情、高校生暗唱コンテスト、Global Leadership Forum
国際観光学科OPC委員会	委員	OPC計画、運営
学部教授会	準備担当	会議資料作成、宴会幹事

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

GTコース、E-UPランチと自習、毎週

GTコース歓迎BBQ、4月17日、場所:本学

GTコースクリスマスパーティ、12月20日、場所:本学

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

国際観光学科進学ガイダンス(ミニオープンキャンパス)、3月6日、場所:九州文化学園

高校生外国語暗所コンテスト、11月4日、場所:本学7201教室

2018年にNIUGLOBALのインスタに110回投稿をしました(閲覧回数53,803)。そしてHP (www.niuglobal.jp) はブログを実施し、維持、更新、拡張も行いました。YouTubeのチャンネルの維持をしました。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
4	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
5 steps to becoming a global citizen	7月12日	川棚高等学校	川棚高等学校
5 steps to becoming a global citizen	10月20日	夢ナビライブ福岡(マリンメッセ)	夢ナビ
Extensive Reading: a 4 skills tool for EFL learners	8月28日	平成30年度教員の英語力向上研修会(大村高等学校)	長崎県教育庁
教員免許状更新講習	6月16日	教員免許状更新講習「英語指導力向上のための背景知識B」	長崎県教育庁

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
GCN学生カンファレンス	スペインのバレンシア市で6カ国から大学生26名が参加した。社会的責任についてのグループワーク、文化社会体験活動をした。GTコース学生3名が参加をしたため、様子の確認をした。PRをするため、写真とビデオ撮影し、GCNのHPとNIUのSNSに載せた。2020年に本学で開催予定であるので、準備と運営について学んだ。	10月28日～11月2日	グローバル・カレッジ・ネットワーク(GCN)
GCN教職員カンファレンス	以下の点が了承された。詳細は12月の国際交流委員会に報告をしました。 1 マルチデスティネーション留学プログラムの内容と実施する方法 2 スタッフ・エクスチェンジ・プログラム 3 GCN General Agreement 4 3年間カンファレンススケジュール(2019年イギリス、2020年NIU & NJC、2021年オランダ) 5 GCNについての認識を高める方法	10月28日～11月2日	グローバル・カレッジ・ネットワーク(GCN)
川棚中学校イングリッシュ・キャンプ	キャンプは12月10日に開催された。中学校1年生128名と本学生(GTコースと留学生)40名が英語で交流した。10月から川棚中の渡辺先生との打ち合わせが始まった。	10月～12月	川棚中学校
プリンストン大学との交流	ゼミ生とプリンストン大学生とのオンラインツール(メールとスカイプ)を使用したグループプロジェクトを行った。	9月～1月	Van Deusenとプリンストン大学松井先生

南米コロンビアとの交流	本学生とコロンビアの大学生とのオンラインツールを使用したグループプロジェクトを行った。	9月～12月	室蘭工科大学
江上小学校インターナショナル・デイ	インターナショナル・デイは11月15日に開催されたが、打合せと準備等が9月から始まった。本学留学生が小学生との交流会を行った。	9月～11月	江上小学校
江上小学校国際交流会	小学校6年生が留学生との交流会をした。	1月22日	江上小学校
波佐見東小学校国際交流会	小学校6年生が留学生との交流会をした。	12月1日	波佐見東小学校
雛祭りお茶会	毎年、米軍基地の子供たちと本学生が茶道と伝統できな遊びを通じて、交流会を行う。	3月8日	本学と佐世保米軍基地ユースセンター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

常に国際交流・留学生支援センターへのサポートをします。

協定書の確認

様々な翻訳および通訳

海外からのお客さんへの対応

派遣留学選抜インタビュー

英語圏からの交換留学生の募集と対応

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学で勤務するにあたり教育、研究、業務、社会貢献が重要だと考えている。改善すべき点はさらに多くの論文を発表することである。来年取りかかる予定の研究計画をいくつか検討中である。今年度は指示を待って行動するのではなく、主体的に大学の運営に尽力をしました。特に、英語圏留学生が満足になる為に、様々な手配と支援の尽力をしました。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 松本 知子

1. 教育理念

私自身の専門は、英語学(統語論)・映画を用いた英語教育である。その中でも特に非定形節の統語構造や、映画を用いた効果的な英文法の指導法の研究を行っている。私の教育の理念の大きな支えとなっているものは、程度の差はあれ、そこから派生する「英語の理解や異文化的体験の楽しさ」を学生にも同じように実感してもらいたいという点に尽きる。私は全学共通科目としての英語とグローバルツーリズムコース専門科目のEnglish Reading SkillsとEnglish Writing Skills、教職(外国語)を取得する際に必要な英語学の授業を担当しているが、共通して言えることは、学生が英語を使って社会の多様な価値観や文化と触れ合うことで、国際的な視野を広げ、さらには異文化間コミュニケーションを円滑に行う手助けをしたいと願っている点である。授業で、英語という道具を通じて異文化に触れ、それを理解する楽しさを感じてもらえるのではないかと考えているからである。

このような教育理念のもと、私は、授業で、「英語の授業では英語で考え学ぶ」という姿勢で授業に取り組む雰囲気を作り、多少なりとも英語に触れる機会を多く作っている。そして、英語のインプットの量を増やすことを重視している。インプットの量の不足を補うために、私はeラーニングを活用することになっている。近年はeラーニング教材を備えたテキストが多く使われるようになってきており、可能な限りそのようなテキストを採用することになっている。

特に英語力が低い学習者に顕著な特徴として、英語を学習する習慣が身につけていないことが挙げられる。さらには、英語の学習方法が分からないという学生も少なからず存在する。そこで、私はeラーニングを活用したリスニング問題、語彙問題を出したりするなどして、英語学習を習慣化することを目指している。

英語教育においては、大量のインプットだけではなく、適切なアウトプットも必要である。それによって、理想的には修得した知識を定着する手助けとなるからである。そこで、毎回異なるテーマで出来るだけ学生が自分の意見を表現するようなタスクを取り入れ、発音の間違いや文法の誤りなどの些細な点を気にすることなく、修得した語彙や文法形式を活用した発表が出来るような機会を設けている。そのテーマは、正答がないものや解釈が分かれるもの、価値観によって回答が異なるものなどを意図的に選択している。そして、「なぜそう思うのか」という点をできるだけ3点ほど常に明らかにするように学生に指導している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑩⑫
英語演習 I A	15/15(前期)	1	25	①②⑥
英語演習 I B	15/15(前期)	1	30	①②④⑨
English Reading Skills I	30/30(前期)	2	35	①⑤⑥⑦
English Writing Skills III	30/30(前期)	2	19	④⑧
英語学B	15/15(前期)	2	31	①②⑤⑥
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①②⑤⑥⑦⑩⑫
英語演習 II A	15/15(後期)	1	43	①②④⑥
英語演習 II A	15/15(後期)	1	18	①②④⑥
英語演習 II B	15/15(後期)	1	39	①②④⑨
英語演習 II B	15/15(後期)	1	22	①②④⑨
英語演習 II B	15/15(後期)	1	28	①②④⑨
English Reading Skills II	30/30(後期)	2	32	①⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

準備学習

準備学習の量が多すぎるという意見をもらった。課題をすることでどのような力が身につくのかという動機付けに関する説明をもっとしておくべきであった。

シラバスとの整合性

シラバスの記載よりも進度が遅くなってしまった。時間管理を見直す必要がある。

遅刻や私語

私語を止めるための工夫が足りなかった。静と動のめりはり、学生の活動量を増やす、机間巡視の回数を増やす必要がある。

総じて、めりはりのはる授業、変化のある授業、学生と十分にコミュニケーションをとる授業をする必要があるということを今期特に学んだ。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学 教養教育	総合英語I(経 E4)	15/15(前期)	1	45
長崎大学 教養教育	総合英語I(薬 P1)	15/15(前期)	1	46
長崎大学 教養教育	英語コミュニケーションⅢ(環 2K1)	15/15(後期)	1	45
長崎大学 教養教育	総合英語Ⅲ(工2T(英10))	15/15(後期)	1	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
TOEIC勉強会	2	8	12/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①非定形節の統語構造研究
- ②映画を用いた英語教育
- ③Extensive Reading(多読)の活用法

時制要素を含まない非定形節(不定詞節や仮定法現在節など)の統語構造に関心を持っています。統語構造と意味との関連性に着目し、様々な文法現象の解明、ミニマリストプログラムへの理論的貢献を行うことを目的に研究をしています。また、映画を使った英文法の効果的な指導法についても研究しています。仮定法や前置詞といった習得が難しいといわれている文法項目を取り上げ、その使われる直感をとらえられる指導法を研究しています。Extensive Reading(多読)については、どのようにして学校全体の教養英語の授業で組み込んでいくか、また、Moodle Databaseを活用して、どのような学生主体の活動が可能であるかについて研究しています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	4	1	1	286万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Bridging Grammar and Communication: Focusing on the Preposition Of / 2018年3月 / STRM Journal, Vol. 19, No. 2 / 21頁～46頁 / 共著 / 論文

推量を表すmustに関する一考察—未来時への言及の観点から—/2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻/10頁/単著/論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum/2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻/13頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Searching for New Ways to Teach Grammar: Focusing on Auxiliary Verbs/2018年6月28日/The 16th Asia TEFL International Conference (at University of Macau)

willのレトリック/2018年10月27日/第24回映像メディア英語教育学会全国大会(於 京都外国語大学)

Training EFL Teachers to Use ER for the First Time/2018年11月25日/全国語学教育学会・第44回年次国際大会教材展示会(於 静岡コンベンションアーツセンター(グランシップ))

Utilizing the Moodle Database Activity for Student-Centered Learning/2019年2月28日/Moodle Moot 2019(於 静岡理工科大学)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
Development of a Massively Open Online Course (MOOC) for Language Training to Support the Globalization of the Hospitality Services Industry	独立行政法人 日本学術振興会	2018年4月～2020年3月	286万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
トロイ大学	英語による教授法	2018年8月20日～8月31日

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	入試担当者斡旋や出張講義の調整、高大連携関係
教育基盤センター委員会(IR委員)	委員	活動報告の確認、アンケート結果の分析の補助を行った。
学事委員会オリエンテーション担当(学科)	責任者	学生がスムーズに動けるように、春季・秋季オリエンテーションの計画を十分に練った。
募集委員会(学科)	委員	進学説明会や出張講義、AO入試等の調整を行った。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員(書記)	コースとしての動きを理解するように努めながら、書記の職務を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

TOEICクラブ 顧問

正式なクラブではないが、学生が自主的にTOEICの勉強会を開く際、無償で授業を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①佐世保実業高校訪問・ご挨拶/7月23日/場所:佐世保実業高等学校

②九文高校との高大連携授業/3月6日/場所:九州文化学園高等学校

③佐世保実業での進学説明会/3月14日/場所:佐世保実業高等学校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
英語であそぼう	2018年7月28日	長崎国際大学3301 教室	長崎県教員免許状 更新講習連絡協議 会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	2017/09/01～ 2020/03/31	長崎県県民生活部 長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
アメリカ短期留学(トロイ大 学)	トロイ大学での短期留学 引率	2018年8月20日～8 月31日	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞(学生による授業アンケート部門)受賞 第25号 表彰状 授与

8. 活動全般についての自己点検・評価

<公務>

今年度は3年目の教員として、入試募集委員会の委員が継続となり、また、海外入試の担当や語学留学の引率など様々な仕事をいただき、何事も早めに取り組むようにした。入試募集委員の仕事については、入試担当者や出張講義の担当者の調整を迅速に行った。学科内委員会では春季・秋季オリエンテーションの責任者として、教務課や国留センターとの日程調整を早めに行い、学生と先生方がスムーズに動けるように工夫を凝らした。今後も先生方にわからない点をお尋ねし、ご助言をいただきながら、自分の意見も大事にして、委員会の仕事に携わっていきたい。仕事内容がわかってきたので、今後、自分の意見も積極的に発言したい。

<研究>

単独での論文の執筆が思ったように進められなかった。早朝、スキマ時間を最大限に活用して、論文読み、書きの時間を少しでも確保できるようにしたい。採択された科研費については、多くの時間を費やし、オンラインでの授業作りに励んでいる。今年度は英語教育に関する研究に努めたが、今後も継続しながら、専門の英語学の研究も腰を据えて行う予定である。

<教育>

英語のネイティブの先生方と学生について話をする事が多く、授業の手法や学生への声のかけ方など学ばせていただける機会があったことをありがたく思った。年数が長くなるほど自己流に陥ってしまう傾向があるため、このように教えながら学ぶ機会はとても必要だと反省も兼ねて強く思った。英語演習については、ネイティブの先生方と同じ教科書を使い、e-learningを活用して授業を行うことに慣れてきた。今後は、自分の色が出せるように工夫をして授業に臨みたいと思う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 森尾 真之

1. 教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
 人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
 そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
 そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。

1. 「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
2. 「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
3. 「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥⑩⑪⑫
観光ビジネス実務論	15/15(前期)	2	130	①②⑩⑪
国内観光資源	15/15(前期)	2	120	①②⑩⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
キャリア開発B	15/15(後期)	2	277	①②⑥⑩
テーマパーク論	15/15(後期)	2	135	②③⑥⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

一般専門講義については、観光学科における実務講義の入門編として、旅行業・観光業に興味を持つ一歩としてふさわしい内容の講義にすることで、観光事業全体へのキャリアパスをイメージできる講義としたい。今回は初めて新たに作成したシラバスであったため、次年度以降はさらに体系的な講義のデザインが求められる。特に試験的に試みた外部の実務家による講義も、さらに具体的な事象に踏み込んだ内容にすることで、学生の理解と関心を深め、各事業者の人材確保に資する取り組みも含め、さらなる協力が得られるよう交渉を重ねていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
旅行業務取扱管理者受験者補講	20	80	4月～8月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「MICE施設を中心とした持続可能な観光地経営について」

単なる会議施設だけではなく、観光地としての価値を最大化するためのMICE装置を備えたリゾート観光地経営について、DMOのイメージ創出の戦略や工夫などを欧州の先進的な事例の研究を通して、現在佐世保市で計画中の統合型リゾート(IR)における最適な運営デザインを考える上での参考アイデアとしたい。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	沖縄地区旅行会社訪問(JTBなど) NAGASAKIしごとみらい博への学生参加

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
研修・地域連携委員会	委員	本年度実施分の旅行実施内容の確認 来年度実施内容・学生向け案内書面の検討
研究ブランディングWG	委員	「こども観光大使」による企画提案
IR研究会	委員	県IR推進課による寄付講義の実施など
IBO2020実行委員会	委員	2018国内予選視察、旅行業者・事務局との連絡調整コーディネート
QSP旅行プランコンテスト	委員	学生へのプラン作成指導、コンテスト開催準備など

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①進学ガイダンス参加/4月26日/聖和女子高校
- ②進学ガイダンス参加/11月10日/福岡県立北九州高校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
QSP第3回講演会「旅行業務取扱管理者」と地域貢献への活用 法」	1/12	本学	QSP
キャリアコネクトカフェ佐世保	3/20	佐世保市内	長崎県総合就業支援センター

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、講義の活性化を図るため更なる外部実務者との連携とアクティブラーニングの要素を増やしていきたい。

研究活動については、複数のテーマの研究を進め、最終的に地域課題の解決と地域観光の在り方に迫る具体的な成果を求めていきたい。

大学運営活動については、就職委員会の活動として、採用型インターンシップや旅行・観光業との採用における接点を増やし、同業界への就職率を上げることで国際観光学科のブランディングに資する活動を行いたい。

社会活動については地域自治体や関連機関との連携を深め、連携して学生が活躍できる場を創出し、人材育成と地域の活性化につながる活動をすすめたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 John Patrick Owatari-Dorgan

1. 教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標にしているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気をはかっています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
英語演習 I A	15/15(前期)	1	41	①②
英語演習 I B	15/15(前期)	1	25	①②
Japanese Culture A	15/15(前期)	2	31	②⑤⑥
Practical English I A	30/30(前期)	2	37	②③④
Practical English I B	30/30(前期)	2	37	①②③④⑤
English Reading Skills III	30/30(前期)	2	19	①④⑤⑪
英語演習 II B	15/15(後期)	1	30	①②
英語演習 II B	15/15(後期)	1	21	①②
Japanese Culture B	15/15(後期)	2	20	②⑤⑥
Practical English II A	30/30(後期)	2	33	②③④
Practical English II B	30/30(後期)	2	33	①②③④⑤

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート／授業改善と教育効果)

Practical English IA – I believe that students were very satisfied with this class. There is a lot of work to for students to do in this class so that may have lowered their satisfaction. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to provide students with more face-to-face feedback and make the class activities more engaging. Moreover, I will also work to include more active learning in the class. I will also try to help students understand the connection between the class activities and their study abroad opportunities. I think this will improve student satisfaction and give them better motivation. Furthermore, I plan to try to make the materials more closely connected to the students' English levels. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students to understand. Some students had difficulty understanding the purpose of the assignments. I will try to make the purpose more clear and explain the reasons for my assignments better. Moreover, I will try to communicate more clearly with students about the requirements of the class and the homework. I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class. In the future, I hope to increase student satisfaction with these elements in the class by developing stronger relationships with the students. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class. Finally, I will make an effort to make sure that the students understand what I am saying in class.

English Reading Skills III – I believe that students were very satisfied with this class. Of course, I would like to continue to improve this class. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. In this class, students are required to do a significant amount of work and that may have lowered their satisfaction. To improve student satisfaction with this class, I will try to make the activities more engaging and use more active learning techniques. Furthermore, I will try to offer the students more personal feedback. Finally, I will try to reduce the amount of work that students must do in a relatively short period of time. I believe that students were dissatisfied with the intense homework in the class. Overall, I believe that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve student opinions of the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students. Many students seemed to enjoy the content of the class. For example, one students said “楽しく授業をしています。” Students especially liked learning about new English words. One student said, “分からない単語を教えてくださいるので良かったです。” In general, students were happy with the content. I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class but I have room to improve in these areas. I believe that students were satisfied with these because the

class was run very consistently without any major issues or difficulties. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.

英語演習 I A - I would like to raise student satisfaction next year. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because they thought the material was too difficult and had too much homework. Furthermore, I think some of the students were not satisfied because the class did not include enough Japanese and they didn't understand the work. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to make the homework and activities easier to understand. I cannot reduce the amount of work but I can make it easier for students to do. Although I mostly use English in class, I will try to use more Japanese. I will also try to give the students more face-to-face feedback. I believe that doing these things will make the students more satisfied with this class. I also think that students had some trouble with the virtual exchange activity. I will try to help them understand it better next year. Lastly, I continue to try to make the difficulty of the class match student levels. Overall, I believe that the students were satisfied with the content and design of the course. Since this class is an English language class, it is natural that the material was difficult for students to understand. Many students expressed that they thought the class was fun. For example, "楽しくて良いと思う。" Some students found the activities difficult. One student said, "わかりやすかった。" So, I hope that I can make more students feel that way. I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, and teaching methodology in class but I need to improve. Students seemed satisfied with my communication and my management of the class. For example, one student said, "日本語もまぜながら授業をしてくれるからわかりやすい。" Next year, I will do my best to improve my explanations and help students to understand the topics of the class. I will also try to spend more time with student who are having difficulty. Lastly, I would like to develop a stronger relationship with the students in class. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with the class.

英語演習 I B - I would like to raise student satisfaction next year. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not satisfied with the class because they thought the material was too difficult and had too much homework. Unfortunately, the students must study English that is sometimes difficult for them. Also, many students didn't seem to be interested in studying English but they must. I will try hard in the future to help them understand the importance of English. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to make the homework and activities easier to understand. I cannot reduce the amount of work but I can make it easier for students to do.

Although I mostly use English in class, I will try to use more Japanese. I will also try to give the students more face-to-face feedback. I believe that doing these things will make the students more satisfied with this class. Lastly, I continue to try to make the difficulty of the class match student levels. I will also try to develop more interesting activities to improve student satisfaction. I will make an effort to make that content and design of the class more interesting for students. Since this class is an English language class, it is natural that the material was difficult for students to understand. One student wrote, "英語が多く分かるところと分からないところがある。" I will try to improve the curriculum to make it easier to understand and also more interesting for students in the future. In general, I think many students enjoyed the class. For example, a student wrote, "楽しく英語を学ぶことができています。" I believe that most students liked my communication style and teaching methods. Students mostly seemed to have trouble with understanding my explanations. Next year, I will do my best to improve my explanations and help students to understand the topics of the class. I will also try to spend more time with student who are having difficulty. Lastly, I would like to develop a stronger relationship with the students in class. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with the class.

Japanese Culture B - I am happy to see that students are generally satisfied with the class. Of course, I would like to raise student satisfaction a little bit higher. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because they thought the material was too difficult and had too much out of class reading. In general, students commented that they thought the class was interesting. In order to raise student satisfaction, I will try harder to make the reading material in the class more accessible. I will also try to develop new discussion activities to help students feel more engaged with the material. I will also try to use more diverse types of materials such as videos, magazines and comics in the class to help students understand. Furthermore, I will try to reduce the amount of material to give students more time to think and discuss. Lastly, I want to try to make a wider variety of classroom activities to prevent students from feeling bored with the class. I believe that students found the material a little difficult to understand. As a result, some students probably didn't think the material was interesting. I will continue to try and simplify the reading material to improve student interest and understanding. I will also try to use more creative methods and materials to help them understand and remain interested. Moreover, I will try to do a wider variety of activities in class to improve interest. I think it is important for the class to be both fun and informative. It seems that students were mostly satisfied with the presentation of the materials and the in-class experience. I noticed that my scores were lowest on the section about materials and about the section about understanding my lectures. To fix this, I will try to make the materials more interesting for students. In general, I think I need to find ways to help students become better prepared before the start of class. I will also try to slow the class down and take

more time to explain important concepts to students. Furthermore, I will try to give student more time to engage with the material during group discussions and debate.

Practical English II A – I believe that students were generally satisfied with this class. Of course, I would like to continue to improve this class. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. There is a lot of work to for students to do in this class so that may have lowered their satisfaction. Also, I believe that providing more support and better explanations for students during the activities could help raise their satisfaction as well. I will try to do that in the class next year. Additionally, students were asked to complete a very long and difficult project this semester. I think have a long project with very little feedback in the middle produces some dissatisfaction. I will try to provide more regular feedback next year. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to provide students with more face-to-face feedback and make the class activities more engaging. Moreover, I will also work to include more active learning in the class which will help students feel like they are learning more. Additionally, I will try to provide the students with more timely feedback so that they feel like I am paying attention. I will also try to help students understand the connection between the class activities and their future plans which will make the class seem more useful to students. I think this will improve student satisfaction and give them better motivation. Furthermore, I will continue to adjust the activities to better match the levels of the students. In general, I believe that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve student opinions of the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students to understand. Some students had difficulty understanding the purpose of the assignments. They talked a lot about the meaning of the assignments in the comments. I will try to make the purpose more clear and explain the reasons for my assignments better. Moreover, I will try to communicate more clearly with students about the requirements of the class and the homework. In general, I will also try to provide more support for students while they are working on their assignments. I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class but I have room to improve in these areas. I believe that students were satisfied with these elements because the class has followed the same plan for several years and went very smoothly with very little trouble. Students seemed to have the most problems with three areas of the class; understanding, material design and attendance. To deal with these problems, I will try to spend more time on face-to-face interaction with the students. In the future, I hope to increase student satisfaction with these elements in the class by developing stronger relationships with the students. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.

英語演習ⅡB - I would like to raise student satisfaction next year. It would be best if student satisfaction for the class were 100% and I will strive for that in the future. I believe that some of the students were not 100% satisfied with the class because they thought the material was too difficult and had too much homework. Furthermore, I think some of the students were not satisfied because the class did not include enough Japanese and they didn't understand the work. Unfortunately, students wrote very few comments so it is difficult to determine why they weren't satisfied. To improve student satisfaction in this class in the future, I will work to make the homework and activities easier to understand. I cannot reduce the amount of work but I can make it easier for students to do. I think students will be more satisfied if I spend a longer time explaining the activities. Although I mostly use English in class, I will try to use more Japanese. I will also try to give the students more face-to-face feedback. I believe that doing these things will make the students more satisfied with this class. Lastly, I continue to try to make the difficulty of the class match student levels. Overall, I believe that the students were satisfied with the content and design of the course. Since this class is an English language class, it is natural that the material was difficult for students to understand. Students marked that the content of the class was not as interesting as they would have liked. I believe that this may be because I tried to teach too much material during the semester. In the next year, I will try to slow the material down and spend more time on each topic. I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, and teaching methodology in class. Students seemed satisfied with my communication and my management of the class. Students were least satisfied with the way that attendance and disruption were handled. Next year I will work to help students better understand the attendance policy of the class. I will also do my best to improve my explanations and help students to understand the topics of the class. I will also try to spend more time with student who are having difficulty. Lastly, I would like to develop a stronger relationship with the students in class. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with the class.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	Intercultural Communication III	15/15(前期)	1	30
佐賀大学	Western Culture	15/15(前期)	1	36
佐賀大学	Cultural Metaphors	15/15(後期)	1	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①外国語として英語教育
- ②異文化間コミュニケーション
- ③英語多読
- ④日本の文化
- ⑤海外留学
- ⑥テクノロジーで学習

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	4	1	1	42万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Preparing Students for IELTS with Weekly Video Journals / 2018年8月 / 2019 KoTESOL Conference Proceedings/N/A/単著/論文

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands/2019年3月/第十九巻 長崎国際大学論叢/N/A/共著/論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum/2019年3月/第十九巻 長崎国際大学論叢/N/A/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Implementing and Active Learning Video Project for EFL/2018年2月/第14回 CamTESOL

IELTS Preparation through Video Journaling/2018年5月/全国言語教育学会2018 PanSIG Conference

Using Bibliobattles to Engage Students with Extensive Reading/2018年12月/8th ICRTTEL 2018 - International Conference on Research in Teaching, Education & Learning

Training EFL Teachers to Use ER for the First Time/2019年11月/全国語学教育学会・第44回 年次国際大会教材展示会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(分担)	日本学術振興会	2018年4月	42万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学部教授会運営	準備担当者	会議資料を準備する
研究倫理委員会	委員	研究倫理書類を確認する
グローバルツーリズム委員会	委員	GTコースの開発を続けます。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

GTコースのイベント企画および参加
 黒島観光の国際化PRプロジェクト
 初年次における英語の多読研修プログラム

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

NIU暗唱コンテスト 共同主催者
 留学生への学校案内パンフレットの編集
 佐世保米軍基地でのひなまつり茶会 共同主催者
 GTコースのSNSの管理補助など

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
English Training for Homestay	2018年12月～ 2019年2月	山内町 農村環境改 善センター	たけおワールドフレ ンズ
Sasebo City Elementary School Teacher Training	2018年7月28日	長崎国際大学	Sasebo City

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月～現在	全国語学教育学会
たけおワールドフレンズ 運営 委員会	運営委員	2009年4月～現在	たけおワールドフレ ンズ

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会 佐賀県大会 審査員
 第13回 佐賀県高校生ディベート大会 審査員
 医療従事者のための英会話指導

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
コベントリー大学とのオンラ イン交流	グローバルツーリズム学 生達がコベントリー大学 の学生とのオンラインで 交流	2014年6月～現在	C o v e n t r y University, UK 長崎国際大学
プリンストン大学オンライン 交流	グローバルツーリズム学 生達がプリンストン大学 の学生とのオンラインで 交流	2015年10月～現在	P r i n c e t o n University, USA 長崎国際大学
SENAオンライン交流	英語演習IAとグローバル ツーリズム学生達がコロ ンビアの学生とのオンラ インで交流	2015年10月～現在	SENA, Colombia
トロイ大学との夏期英語プ ログラム	グローバルツーリズム学 生は1ヶ月間トロイ大学で 勉強する。	2018年8月	Troy University, USA

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎国際大学の留学アプリケーションを英訳

トロイ大学との夏期英語プログラムに取り組み

アメリカの複数の大学を訪問をすることで、本学の留学の機会を増やすことにも貢献した。

(Winona State University & Troy University)

7. 受賞等

8th ICRTTEL 2018学会(タイ)にて、研究発表者として賞(Award of Honour)をいただいた

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、三つの論文と数々の国内と国外の国際的なプレゼンテーション(学会)に参加した。日々の仕事の中で、いつも心がけていることは、NIUとGTコースがより向上できるには、どうしたらいいか、NIUがより国際的な大学になるにはどうしたらいいか、ということである。特に、GTコースのカリキュラム作成と英語演習クラスの充実には、力を入れている。また、アクティブラーニング、多読、語彙力向上にも特に力を入れた。日本文化AとBのカリキュラムも工夫した。一人一人の学生と向き合い会って話をしたりすることで、その学生がどうやったらうまくいくのかを心がけて、サポートするようにしている。学生に対して、意味のある具体的なフィードバックを与え、それが学生の英語力向上や学力向上に繋がると信じ、日々、心がけ実践している。

TOEICの出版本に、問題作りを始めた。

自身の研究は、カリキュラムの向上、フィードバックの向上、また新しい指導法に重点をおいて研究を行なっている。NIUがより国際性豊かな大学になるために、アメリカの数々の大学を訪問し交渉し、より交換留学を活発にしたり、会話などのオンライン上でのやりとりを行なったりしている。教員としてだけでなく、NIUにとってもより役に立つ一員になるために、色々なイベントにできるだけ関わりを持ち参加をし、また地元武雄や佐世保にとってもより役立つ人間になるために活発的に活動しようと心がけている。まだまだではありますが、日本語力向上にも、日々努力をしているところで、もう一度、三級を受けます。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 中島 金太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、理論と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

私の担当する博物館学芸員課程は、国家資格である「学芸員」資格取得のための専門的な過程である。学芸員は博物館に関する専門家であり、博物館・美術館はもちろん動物園や水族館に勤務する際にも必須の資格である。資格の取得が就職に結びつく課程であることから、全国的に見ても学芸員を退職した者が自身の経験を基に博物館学を講じている傾向が強い。博物館の実務家教員は、豊富な経験を基にした実務論を教授できる一方で、理論教育が不十分であることが多々指摘されている。博物館学芸員課程は、実務に耐えられる学芸員を養成することが求められる傾向にあるが、裏付けとなる理論を知らずして円滑な実務は不可能であり、理論と実践力の両輪が学芸員養成には必須であると私は考えている。

例えば「展示」は、モノを並べるだけであれば誰でもできるが、各資料の性格や年代、地域性を把握し、他の資料との組み合わせや地域との関連性を考えたうえで展示を行うことで、資料だけでなくその背景までも理解できる展示を作ることができる。また博物館で資料を扱ううえで「保存」が大きな要素となるが、資料を形成する素材の特性を把握し、食害する虫や適切な温湿度の知識を得ることで、より適切な管理・運用が可能となるのである。

このような博物館学の理論を理解し、取り扱い方法などの実践的技術を習得することが、実務に耐えられる学芸員の養成に繋がるのである。一方、実践力については博物館の現場で日々研鑽することで身につくことが期待できるが、理論については自ら学習しない限り大学卒業後に涵養することが難しいことから、私の授業では十分な理論を学習できるような授業構成を意識している。

私の担当する学芸員関連の授業は、講義形式の「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」と実習形式の「博物館実習A～C」がある。これらの科目に加え、「文化財保護論」「民俗学」の2科目の講義科目を講じている。

講義科目ではパワーポイントを使用し、私がこれまで実地調査した事例と写真を多用しながら、各講義テーマの理論を理解できるよう心掛けている。学生からの意見では、一回あたりの学習内容が多いとの指摘があるものの、90分という限られた時間内で理論を教授するためには、内容を多く盛り込まざるを得ない。また、ディスカッションなどによる課題解決は殆ど行わず、講義形式の授業にポートフォリオを組み合わせた授業を行っている。ややもすれば一方的な授業になりかねないが、少しでも多くの事例と知識を学生たちに享受してほしいとの考えから当該形態を採用している。

逆に実習科目では、10名程度の少人数クラスで密度の濃い双方向的な授業を意図している。特に「博物館実習B」では、実際の博物館で勤務する「博物館実習C」の受講に向けて、学芸員として必要な資料の取り扱い方法を指導しているが、資料を取り扱う上で事故があってはならないので、学生の進捗状況をつぶさに確認しながら授業を行っている。当該授業でも、各資料の取扱いに先立って、資料に関する知識や取り扱いの理念等を講義したうえで実習させ、知識と技術の両者を取得で

きるよう心掛けています。

上記に加え、学生たちには長崎や九州だけといった狭い視野ではなく、日本全国的あるいは世界を視野に入れた博物館活動ができる人材となつてほしいと考えています。このため、学生たちには馴染みがない可能性があるものの、日本の各地の事例や中国・韓国の事例等も授業内で積極的に使用している。豊富な事例を基に知識を享受することで学生自身の視野を広げ、広く興味を持ってもらい、活躍の幅を広げることも、私が学生に望むことである。

以上、理論と実践力を兼ね備えた人材育成、および視野の広い人材の育成が、私の基本的な教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	④⑤⑥⑦⑫
文化財保護論	15/15(前期)	2	103	②⑨⑩
博物館展示論	15/15(前期)	2	56	②⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑫
民俗学	15/15(後期)	2	176	②⑦⑨⑩
博物館情報・メディア論	15/15(後期)	2	59	②④⑤⑥⑦⑨
博物館経営論	15/15(後期)	2	92	②⑦⑨
博物館実習A	30/30(通年)	1	32	④⑤⑦
博物館実習B	30/30(通年)	1	12	②⑤⑥⑦⑨⑪
博物館実習B	30/30(通年)	1	8	②⑤⑥⑦⑨⑪
博物館実習C	30/30(通年)	1	28	⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は着任初年度であったため、日々講義資料作成に追われていたように感じる。資料作成時には良いと思っけていても、授業を実践して初めて気づく不具合や、受講生からの講義資料に対する指摘等もあり、到らない点が散見されたと反省する。

授業アンケートを確認する限りでは、講義科目では平均4.3、実技科目は4.7とおおむね高い評価を得られたため、次年度はより良い評価を得られるよう努力していきたい。特に「博物館実習B」は、少人数の実技科目故に密度の濃い指導ができ、結果的に高い評価を得られた。

一方問題点としては、「授業のスピード(話のスピード、スライドのスピード)が速すぎる」、「授業の最

後になるとスピードが上がり、筆記しづらい」との指摘が複数挙げられた。伝えたい内容を授業時間
にうまく配分できなかつたことが問題であると考えられ、今後確実に修正しなければならないと感じて
いる。

次年度以降は、本年度の問題点を修正し、より良い講義を模索していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
博物館実習Bに関連する資料取り扱い・二次資料製作の補修	2	3	12月17日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 地域博物館史の研究

- ・地域博物館の発達史
- ・長崎県の博物館史
- ・博物館学史

② 観光と博物館

- ・観光地の発達と博物館
- ・観光型博物館の用語に関する研究
- ・驚きと発見をもたらす博物館展示論

③ 考古学

- ・環頭大刀に関する研究
- ・経塚および鏡に関する研究
- ・横瀬浦天主堂に関する考古学的研究(原准教授との共同事業)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	3	0	3	1	3	3	118万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
『博物館と観光 社会資源としての博物館論』/共著/2018年9月25日/雄山閣/共著:67～77頁
『京都学研究と文化史の視座』「観光型博物館に関する一考察—語句の整理を中心として—」/共著/2019年3月25日/芙蓉書房出版/共著:625～642頁
『改訂増補版 博物館実習教本』/編集/2018年9月25日/長崎国際大学博物館学芸員課程/57頁
『野外博物館事典 平成30年度中間報告』/共著/2019年3月31日/國學院大學博物館学研究室/確認中

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「上海大学との連携事業による博物館学芸員課程の質的向上についての研究」/2019年3月31日/『全博協研究紀要』第20・21合併号/53～64頁/共著/論文
「陝西省・甘肅省・ウイグル自治区の観光における博物館活用の研究」/2019年3月31日/『長崎国際大学論叢』第十九卷/確認中/共著/研究ノート
「寒河江市平塩熊野神社境内地経塚2号経塚発掘調査報告(概要)」/2018年11月30日/『山形考古』第48号/確認中/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
「上海大学との連携事業による博物館学芸員課程の質的向上についての研究」/2018年10月12日/平成30年度全国大学博物館学講座協議会西日本部会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
上海大学との連携事業による博物館学芸員課程の質的向上についての研究	平成29年度全国大学博物館学講座協議会西日本部会研究助成	2017年10月～2018年9月	18万円
地域文化資源を活用したMLA連携による博物館展示教育の実践	平成30年度長崎国際大学学長裁量経費	2018年5月～2019年3月	70万円
陝西省・甘肅省・ウイグル自治区の観光における博物館活用の研究	平成30年度国際観光学科共同研究費	2018年4月～2019年3月	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	9月に福岡県朝倉市杷木地区、12月に岡山県倉敷市真備町の現地ボランティアに参加。また、開国祭のボランティアセンターの展示製作に主体的に携わることができた。
学科会議運営委員会	委員	書記として学科会議運営に参画した。
学科共同研究費予算委員会	委員	学科共同研究費の予算編成、執行確認等委員会の事業に主体的に取り組んだ。
博物館学芸員課程委員会	委員	博物館学芸員課程の円滑な運営のために委員会活動を主体的に実施した。
オープンキャンパス委員会(学科)	委員	オープンキャンパスの実施に際して活動を実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ①古文書勉強会 顧問(平成31年度に同好会申請予定)
- ②シンポジウム「梅谷庄吉の時代とメディア」(本学後援)への学生引率(12月23日)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①佐世保東翔高校進学相談会/7月19日/佐世保東翔高等学校
- ②オープンキャンパスでの波佐見町との連携事業PR/7月22日～8月5日、10月9日～11月4日/大学図書館ラーニングコモンズ
- ③波佐見町と連携した公開講座の実施/10月20日/長崎国際大学1101教室(地域連携室主催)

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許更新講習会「博物館の歴史と機能－博物館の果たすべき役割とその活用」	8月4日	長崎国際大学3303教室	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町歴史文化交流館(仮称)建設検討委員会	アドバイザー	平成30年度～現在に至る	波佐見町教育委員会
長崎国際大学国際観光学会	幹事	平成30年度～現在に至る	長崎国際大学国際観光学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①6月16日～17日「全国大学博物館学講座協議会全国大会」を本学で開催。大会実行委員として大会運営に参加。

②9月14日「平成29年九州北部豪雨」災害ボランティアに参加。(福岡県朝倉市杷木地区)

③12月1日～2日「平成30年西日本豪雨」災害ボランティアに参加。(岡山県倉敷市真備町)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
平成30年度上海大学博物館学研修の受け入れ	平成28年度より実施している上海大学博物館学研修を本年度も受け入れ、当方は事務関係業務、見学研修の引率等を主に担当した。	7月16日～8月4日	長崎国際大学博物館学芸員課程
平成30年度観光研修A(上海コース)の実施	国際観光学科の科目「海外観光研修」の一環として中国上海市を訪問し、上海大学と本学の学生の交流を交えた研修を実施した。	9月3日～7日	長崎国際大学国際観光学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、地域との連携活動、研究活動、学会運営などの面で力を発揮することができた。

地域との連携は、学長裁量経費にかかる事業として、波佐見町と協働した企画展示2回、公開講座1回を実施し、1月末～2月末には波佐見町域の石造文化財の悉皆調査を実施した。また、10月26日には波佐見町と本学の包括連携協定の締結が実現し、概ね順調に事業推進および学生指導を行うことができた。学長裁量経費は単年度事業だが、次年度以降も波佐見町との連携事業を継続していく予定である。本年度は波佐見町との連携が主であったが、次年度は西海市との共同事業も計画しており、今後も様々な地域と連携した活動を実践していきたい。

研究活動では、助成金の獲得、論文執筆など、比較的充実した研究成果を収めることができた。本年度中には、単行本2冊、教本1冊、論文2編、報告1編を執筆・発表することができた（一部は年度末発行）。左記の論文等に加え、印刷待ちの単行本(共著) 1冊と報告1編があり、比較的充実した研究活動を実践できたといえる。しかし、助成金や上海大学博物館学研修などの付帯的な内容の研究が多かったことから、次年度は本来の研究テーマである博物館史研究についても実践していきたい。

学会運営は、6月に全国大学博物館学講座協議会の全国大会を本学で開催し、成功裡に終了することができたことが大きい。また、長崎国際大学国際観光学会の幹事として、円滑な学会運営に協力していきたい。

一方、講義の面では、本年度は着任初年度であったため、日々講義資料作成に追われていたように感じる。講義を実践して初めて気づく不具合や、受講生からの講義資料に対する指摘等もあり、至らない点が散見されたと反省する。次年度以降は、本年度の問題点を修正し、より良い講義を模索していきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 宮本 彩

1. 教育理念

「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」を教育の柱として、学生のホスピタリティの伸長を支援する。また、学生たちが高い専門性と幅広い見識を獲得できるよう、体系的に整理された知識・技能を伝えるとともに、講義の中にディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、多様な視点での課題認識および課題解決を図る能力を育成する。

教員である私自身も常に学ぶ姿勢・意欲を持ち、学生とともに「学ぶ楽しさ」と「探求した先に見える自分たちなりの答え(納得)」を追求していきたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	32	④⑤⑪
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	28	④⑤⑪
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15/15(前期)	1	39	②④⑤⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	15	①④⑤⑥
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	12	①④⑤⑥⑪
バイオメカニクス	15/15(前期)	2	73	①②⑤⑩
レジスタンストレーニング(理論・実践)	8/15(前期)	2	35	④⑩⑪
エアロビクス(陸上・水中)	6/15(前期)	1	11	④⑪
ジョギング・ウォーキング	6/15(前期)	1	76	⑩⑪
陸上競技	15/15(前期)	1	43	②④⑤⑦⑪
陸上競技	15/15(前期)	1	5	②④⑤⑦⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	33	④⑤⑪
スポーツ実習B	15/15(後期)	1	34	④⑤⑪
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	15	①④⑤⑥
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	12	①④⑤⑥
測定評価	15/15(後期)	2	74	④⑤⑥⑩⑪
球技C	3/15(後期)	1	25	②⑩⑪
スポーツ実習D(スキースノーボード実習)	15/15(通年)	1	31	②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

実技科目(スポーツ実習や陸上競技等)については、昨年度と同様に概ね全体平均と同等の満足度が得られた。身体をめいっぱい動かしたいという学生のニーズにあった授業展開ができていると考えている。

講義科目(バイオメカニクス及び測定評価)については、昨年度の満足度が全体平均を下回る結果であったことから、今年度は講義の順序ならびに課題の説明等を工夫した。このことが功を奏したのか、今年度は概ね全体平均と同等の満足度が得られた。また、今年度は、自己点検評価委員会の公開授業(前期・バイオメカニクス)に当たったため、多くの先生方から授業の展開等に対する貴重なご意見をいただいた。これらご意見を、来年度以降の授業運営に反映させていきたいと考えている。特に、授業開始時に集中しきれていない学生への対応が不十分だったことについては、早急に改善したいと考えている。

今年度より専門演習ⅠとⅡを受け持つようになった。専門演習Ⅰでは15名、専門演習Ⅱでは12名の学生を抱えている。通常の授業以上に学習や取り組みに対する意欲・関心に差があり、苦慮した。今年度は、作文(ライティング)を中心に授業を展開したが、来年度以降は、学生が苦手とする論文読解(リーディング)も加え、明確な課題設定に向けて取り組ませたいと考えている。

学生との距離が近く、甘えを生じさせている部分もあるように反省しているが、良好なコミュニケーション・人間関係を基に、ある一定の量を課している授業課題を取り組ませることができていると思っている。今後も、できる限り個々の学生と向き合い、それぞれの意欲や能力を加味した上で、教育していければと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	健康と運動	15/15(後期)	2	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
スポーツツーリズムコースイベント「トップアスリートから学ぶ」 主担当	2	72	12/09

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技パフォーマンスを評価することを研究のメインテーマとしている。研究対象はさまざまであるが、近年は障がい者サッカーの1つであるアンプティサッカーの研究に注力している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	1	1	1	45万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Differences in sprinting performance and kinematics between preadolescent boys who are fore/mid and rear foot strikers./2018年10月/PlosOne/e0205906/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
アンプティサッカー競技者が考える重要な競技パフォーマンス/2018年12月2日/日本アダプテッド体育・スポーツ学会 第23回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
アンプティサッカーにおける方向転換走の重要性の検証	長崎国際大学 学長裁量経費(科研費チャレンジ)	2018/6/27～ 2019/3/31	45万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	委員会主催イベントへの学生動員や当日の運営を行った。
国際観光学科 会議運営	会議資料	定例及び臨時学科会議の資料の取りまとめを行った。その他、試験監督の振り分け、専門演習希望調査の取りまとめ等の学科内業務を行った。
国際観光学科 学事委員会	保護者懇談会ならびに卒業式担当	本学開催の保護者懇談会の準備を行った。卒業研究の論文要旨集の取りまとめ及び卒業式の準備を担っている。
国際観光学科 スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの円滑な運営ならびに教育充実に向けて取り組んだ。 コース主催イベントの企画・運営ならびに地域貢献活動の一環として実施しているチャレンジスポーツの運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

駅伝部 部長

学生会執行部主催バトンタッチセミナー基調講演「強化部が担うべきリーダーシップを考える」を担当/2019年2月8日/長崎国際大学2101教室/学生会執行部からの依頼

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

久留米高校への出張講義(テーマ:スポーツパフォーマンスを評価しよう)を担当/2018年12月8日/場所:久留米高校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
NSCAジャパン九州地域ディレクターセミナー	2018/11/25	長崎国際大学4101教室	特定非営利活動法人NSCAジャパン
平成30年度教員免許更新講習「幼児期とスポーツ」	2018/06/30	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大会帯同スタッフ	スタッフ	2018/10/23～ 2018/11/07	日本アンパティサッカー協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特筆すべき事項なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】

着任2年目となった今年度は、昨年度の反省を活かして取り組んだものの、学年ごとにカラー（雰囲気ややる気など）が異なり、今年度は今年度で新たな課題が表出したように感じる。来年度も工夫と改善を続け、少しでも学生たちの学びにつながる授業や取り組みができるようにしていきたいと考えている。

【研究活動】

学長裁量経費に採択いただいたこともあり、積極的に発表・公表することができた(学会発表1件、論文採択2件)。また、来年度以降の研究基盤の構築に向けた取り組みもできた。

【大学運営活動】

昨年度の経験等を基に自らの職務を遂行してきたが、いくつかミスもあった。来年度以降も、報告・連絡・相談を怠らず、円滑な大学運営に向けて与えられた業務分掌を果たしていきたいと考えている。

【社会活動】

研究対象としているアンプティサッカーのワールドカップ(世界大会)が4年ぶりに開催され、日本代表チームの大会帯同スタッフとして活動した。2週間にもおよぶ大会帯同を許可してくださった理事長ならびに学長に心から感謝する。今後も障がい者スポーツの普及等の取り組みを続けていきたいと考えている。また、本学教育活動の中でも、社会活動での経験を活かした取り組みをしていければと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 元嶋 菜美香

1. 教育理念

私の教育理念は、アクティブラーニングを通して学生の主体的な態度を形成したうえで、専門的な知識および技能を伝え、課題解決力を育成することである。

よって講義系の授業では、講義の中に演習を取り入れ、課題解決を通して情報収集能力および専門力を育成することを重視する。実習系の授業では、グループ活動を中心に授業を展開し、コミュニケーション力および協働・課題解決力を育成することを重視する。ゼミでは、学生の主体性を引き出すための予習を課し、それを基にグループ討議およびプレゼンテーションを行うことで、専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力を育成することを重視する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ実習A	15/15(前期)	1	22	④⑤⑪
スポーツ実習C(キャンプ実習)	15/15(前期)	1	39	②④
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	13	①⑤⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	9	①⑤⑩
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	①⑤⑥⑧
スポーツ医学	1/15(前期)	2	49	②⑩⑫
エアロビクス(陸上・水中)	6/15(前期)	1	11	②④⑥⑪
学校保健学	7/15(前期)	2	16	②⑤
マリンスポーツⅠ	15/15(前期)	1	28	①⑫
水泳	15/15(前期)	1	19	⑫
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	13	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	17	⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	14	①⑤⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	9	①⑤⑩
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	10	①⑤⑥⑧
スポーツ心理学	15/15(後期)	2	75	⑤⑥⑩⑫
武道	15/15(後期)	1	8	④⑪
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	14	⑦⑩
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(後期)	2	13	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅰ	9/15(後期)	2	12	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅱ	15/15(後期)	2	8	⑨⑩
スポーツ実習D(スキースノーボード実習)	15/15(通年)	1	31	④⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	10	⑥⑫
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	④
教育実習B	80/80(通年)	2	1	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期の授業においては、学生の反応を見ながら実技・実習系の授業を展開し、各授業の満足度は

教養セミナーA 4.5、スポーツ実習A4.8、学校保健学4.7、エアロビクス4.8という結果であった。特に教養セミナーでは、学生が主体的に調べる、発表するという時間を確保すべきであったと考えられる。後期の授業においては、アクティブラーニングを意識し、ディスカッションやディベート、相互指導などを行い、スポーツ心理学4.7、武道5.0という結果であった。スポーツ心理学では、学生の興味を引くだけでなく、先行研究に基づいた専門的な知識も教授すべきであったと考えられる。教職に関わる授業の満足度は、保健体育科教育法Ⅰ4.8、保健体育科教育法Ⅱ4.8という結果であった。過去問を使用するなどして学生の意識を高めることを意識したが、教員採用試験の過去問分析などを通して学習意欲を高める必要があったと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

地域スポーツが児童・生徒の心理におよぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	6	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
中学校剣道授業が生徒の共感性に与える影響/平成31年/長崎国際大学論叢第19巻/印刷中
/共著/論文
地域スポーツ教室における指導者意識が参加者の満足度に与える影響/平成31年/教育基盤セ
ンター紀要第2巻/印刷中/共著/論文
教員養成課程における水泳模擬授業に関する一考察—授業場面、形成的授業評価、観察者授業
評価を用いた授業事例をもとに—/平成31年/教育基盤センター紀要第2巻

／印刷中／共著／論文

教員養成・研修の一体的な取り組みとしての授業研究会―「保健体育授業研究会2018」を事例として―／平成31年／教育基盤センター紀要第2巻

／印刷中／共著／論文

大学における野外活動実習の展開と効果の検証 ―キャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノースポーツ実習を対象として―／平成31年／第67回九州地区大学教育研究協議会発表論文集

／印刷中／共著／論文

保健体育科における授業観察の「転換」の必要性―附属中学校における教育実習の授業分析から―／平成31年／長崎大学教育学部教育実践研究紀要／印刷中／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

大学における野外活動実習の展開と効果の検証―キャンプ実習、マリンスポーツ実習、スノースポーツ実習を対象として―／平成30年9月15日／第67回九州地区大学教育研究協議会

形成的授業評価票を用いた地域スポーツ教室の満足度評価／平成30年9月16日／第67回九州体育・スポーツ学会

大学キャンプ実習の心理的効果およびその持続性／平成30年9月16日／第67回九州体育・スポーツ学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学園祭、学生委員会担当
オープンキャンパス委員会(学科内委員会)	委員	4回のオープンキャンパスの立案、運営
スポーツ指導者養成課程委員会(学科内委員会)	委員	コースイベントの立案、運営
長崎国際大学国際観光学会	幹事	評議員の業務補佐

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

剣道サークルの監督として指導および運営を行い、全九州学生剣道大会(個人戦、団体戦)へ大会引率を行った。

野球部副部長として、コンディショニングチェックおよび面談の運営補助をおこなった。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

スポーツツーリズムコースのSNS(Facebook)の記事作成を担当した。

チャレンジスポーツを実施・運営し、長崎新聞に記事が掲載された/平成31年1月6日

松浦高校出前講座/6月12日/松浦高校

佐賀神崎高校出張講義/11月20日/神崎高校

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市し尿収集運搬に係る検討委員会	委員	2018/06/01～ 2020/05/31	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

6月2日～12月15日(全20回)「チャレンジスポーツ」指導補助・運営として参加 主催:長崎国際大学
共催:総合型地域スポーツクラブきずな、いむらスポーツクラブ、ARROWS NAGASAKI

12月9日「スポーツフェスタ」運営補助として参加 共催:長崎国際大学・総合型地域スポーツクラブ
きずな

6月30日・10月20日・12月22日「主催事業・開放事業」キャンプボランティアとして参加 主催:長崎
県西彼青年自然の家

11月11日「第69回長崎県民体育大会」剣道競技選手として参加 主催:長崎県体育協会

12月16日「平成30年度県下剣道祭」剣道競技選手として参加 主催:長崎県剣道連盟

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学平成29年度(2017)年度ベストティーチャー賞 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

授業について、今年度は単位認定者としてオムニバスを含め28科目の授業を担当させていただいた。授業準備等に多くの時間を割き、アクティブラーニングを多く取り入れたことで、目標としていた満足度4.5を達成することができた。また、ベストティーチャー賞を受賞することができた。

研究においては、発表3本、投稿論文6本(筆頭2本)を執筆することができた。次年度は、論文執筆1本、発表3本を目標とする。また、今年度と同様に科研費をはじめとした委託研究・外部資金への応募を行い、博士論文執筆に多くの時間を割きたい。

全学委員会においては、学生委員として学園祭運営および学生会の関連行事に積極的に従事することができた。学内運営においては、学科内委員会としてオープンキャンパスの運営担当として貢献することができたと考える。

社会活動においては、地域貢献としてスポーツ教室を運営し、スポーツ指導および受付・会計業務を担当した。今年度は主にスポーツツーリズムコースの学生のアクティブラーニングの一環として学生指導に力を入れ、長崎新聞に記事が掲載されるなど、一定の成果を上げることができたと考える。また、キャンプボランティアとして学生を地域のイベントに参加させ、地域貢献に従事することができた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 木村 勝彦

1. 教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマンイズムの精神と異なる価値観に対する涵養の精神とを涵養することにより、以下のような人材を育成することにある。まず、歴史上に展開されてきた哲学のさまざまな知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底して考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成することである。また、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の尊厳性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマンイズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成することである。さらに、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	1/15(前期)	2	503	①⑧
倫理学	15/15(前期)	2	101	①⑧
観光倫理	15/15(前期)	2	205	①⑧
哲学	15/15(後期)	2	73	①⑧
道德教育研究	15/15(後期)	2	22	①②③⑤⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
事例研究(観光倫理)	15/15(前期)	2/1・2年	3
観光倫理特講	15/15(後期)	2/1・2年	1
観光倫理特講	15/15(後期)	2/1・2年	3
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

○ 授業アンケート

今年度は前期に「倫理学」と「観光倫理」、後期に「哲学」と「道德教育論」の授業アンケートを実施した。結果は総合満足度が「倫理学」で4.1、「観光倫理」で4.4、「哲学」で4.2、「道德教育論」で4.3となっており、「観光倫理」はまずまずの評価を得られたと言ってよいであろうが、それ以外に関しては

予想・期待をはるかに下回る結果となってしまった。国際観光学科4年次生の必修科目である「観光倫理」に関しては、1～13の評価項目すべてにおいて4点台をマークしており、学生の授業に対する取り組み姿勢も含めて、ほぼ予想通りの結果であった。とは言え、前年度よりも総合満足度が0.1ポイント低下している点や、個々の項目において4.5以上をマークしたものが一つのみであったことは、昨年度に比して評価が下がっていることを示しており、反省すべきことと認識している。また「倫理学」と「哲学」はいずれもこれまでの評価値をかなり深刻に受けとめている。授業内容や配布プリントの内容・分量等に関してはこれまで改善に努めて来ており、一定の成果を挙げたものと考えていたが、今年度は初期の評価結果を獲得することができなかった。1～13の学習自身の予習・復習に関わる質問項目1において3.9であったのを除けば、すべて4点台であったが、3を付ける学生が多かった点がこうした結果につながっているものと思われる。また「哲学」についても「倫理学」とほぼ同様の傾向が見られ、1～13のすべての質問項目で4点台を得たものの、評点3を付ける学生の多さが全体としての評価の伸びを妨げる結果になっている。総じて、これら二つの科目に関しては自由記述の内容等から、非常に高い関心と意欲をもって聴講している学生と、主体的な学習意欲の欠如や理解力が不足している学生との二層の隔離が大きくなっており、いわゆる授業内容に付いていくことのできない学生が増加していることがうかがわれる。この点については真摯に受けとめ、次年度以降の授業改善につなげていきたいと考えている。そして「道德教育論」についてであるが、教職課程の教職に関する科目であるこの授業については、より高い評価が得られると考えていたし、また高い評価を得て当然であると理解しているが、予想外の結果に当惑を禁じ得ないでいる。個々の質問項目1～13のすべてで4点台を示しており、特に学生の予習・復習に関する項目1で4.4、学生の授業態度に関する項目2で4.5を示しているなど、平均値以上ではあるものの教職課程科目としての特質に鑑み、より高い評価が得られるよう、改善を重ねていきたい。特にこの科目については、授業方法に関する評価がやや低い傾向にあるが、この科目では小職の他の科目には不足しがちなアクティブ・ラーニングを中心に据えているため、何をどのように変更すべきか苦慮するところであるが、検討していく所存である。今後は授業内容の精選と授業方法のより一層の向上に努力すると共に、概して小職の授業における不十分な点と認識しているアクティブ・ラーニングの積極的な導入によって学生の授業参加度を高め、総合満足度や理解度においてさらに高い評価を得られるように努めていく。また、予習・復習や授業ごとの確認テストの実施を厳密化するというのを、昨年度この項目に関して述べたが実行することができなかったため、その実行に努めて学生の主体的学修を促す所存である。

○ 授業改善と教育効果

1) 全学共通科目

「倫理学」では、「よく生きる」ことの意味を問う倫理学の学問としての特質を序論として述べた後、特に西洋倫理思想史の主要な学説について紹介した。古代ギリシアの価値観とキリスト教の価値観とが切り結ぶかたちで成立した西洋の倫理思想が、現代社会に生きるわれわれにとっても大きな影響力を有し続けていることを、「人格」概念に的を絞りながら考察することにより、学生たちの関心を引き付けることができた。後半には生命の選択や死の判定といった問題をめぐる「生命倫理」を取り上げたが、学生たちは高い関心を持ち、熱心な受講態度で授業に臨んでいた。授業方法としては、パワーポイントを利用して内容を体系的にまとめ、重要語句をプリントに記入させるというかたちをとってお

り、関連する画像や写真をも画面に提示することによって、特に生命倫理に関しては具体的なイメージを抱かせ、高い学習成果を得ることができたものと考えている。「哲学」では、その語源であるフィロソフィアがどのような知的態度であるのかから説き起こし、「存在とは何か」を問う存在論と「認識の起源」を問う認識論との二つの基軸をめぐって西洋哲学史の主要な学説を紹介した。特に、多くの基本的概念を措定することにより現代思想の直接的な出発点となっている近代以降の哲学について考察することに重点を置いた。哲学という学問の特質として、独自の用語・術語や概念を駆使し、高度に抽象的な思弁を要求するため難解な面も少なくなかったと思われるが、学生たちは静かで熱心な受講態度で授業に臨んでいた。授業方法は「倫理学」と同様であるが、特にカントやヘーゲルのように高度に思弁的な学説を解説する際の図解において、パワーポイントの利用効果は高かったと言うことができよう。

2) 人間社会学部国際観光学科専門科目

「観光倫理」では、国内外のさまざまな具体的事例を挙げながら、観光そのものの倫理的問題性や観光開発に伴って生じてくる課題について論じた。内容的には例年、国際観光学科の4年次生で唯一の必修講義科目であることに鑑み、学科におけるこれまでの学びの総括としての意味をもたせながら、一部では大学院レベルに相当する内容も含めて講義を展開している。受講する学生たちは熱心な受講態度をもって授業に臨み、内容についても高い理解度を示しており、そのことが高い授業評価にも反映していると言えよう。人間の死や戦争・災害などに関わるダークツーリズムの倫理的問題については、特に高い関心と真摯な受講態度を示していたが、全15回にわたって概ね良好な状況であった。授業方法としては、パワーポイントを利用して内容を体系的にまとめ、重要語句をプリントに記入させるというかたちをとっており、具体的事例の提示が必要となるこの授業では高い教育効果を発揮したものと考えている。

3) 教職課程科目

「道徳教育論」では、まず新学習指導要領における「道徳科」の意義と位置づけについて述べた後に、道徳科の授業における教材・資料の選択の仕方や授業内容の組み立て方について解説した。次に、全員に学習指導案を作成させ、hつ票と相互批評を体験させることにより、生徒にとって有意義で魅力的な「道徳科」の授業とはいかにあるべきかについて考えさせた。この授業の眼目は、「道徳科」の授業の技術的向上や知識の獲得もさることながら、人間としての生き方や価値観に関わる「道徳科」の教育的意義についての認識を深めさせることにあった。例年この授業では、ほとんどの学生が途中離脱することなく熱心に受講していたが、今年度は当初30名が履修登録をしていたにもかかわらず、当初からの履修放棄や途中からの履修放棄をする者が多く、結局22名にしか単位を出すことができなかった。単位を出した者の中にもレポート提出を怠る者が含まれていたりなど、教職課程で学ぶ学生としての心構えに疑問を呈せざるを得ない状況であった。多くの学生は熱心かつ真摯に授業に取り組み、きちんとした成果を挙げていたが、教職課程履修者の中に意識の低い者が増加しつつあることは非常に憂うべきことである。

4) 大学院人間社会学研究科修士課程観光学専攻

「観光倫理」では、現代観光における倫理的問題をめぐってテキスト講読と解説を行った。受講生は極めて熱心に授業に取り組み、毎回の予習・復習も各自着実にこなしたほか、期末に提出させた

レポートの内容も興味深く高度なものであった。「事例研究(観光倫理)」では、「観光倫理」で論じた問題を個々の具体的事例に即して詳細に検討した。受講生それぞれの研究テーマに関する事例の報告も交えて議論を行い、充実した内容の授業になったと言えるであろう。受講生は熱心に事例報告と議論に臨み、期末に提出させたレポートも修士論文の内容につながり得るものであった。

5) 大学院人間社会学研究科博士課程地域マネジメント専攻

今年度は小職の授業では受講者がいなかった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
教員免許状更新講習(道德科)	2	40	2018/08/03
上海大学研修団に「日本文化論」講義	2	35	2018/07/20

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 宗教現象についての哲学的考察
- ② 宗教と観光の関係に関する研究
- ③ 観光倫理の構築に関する研究
- ④ ダークツーリズムの倫理的問題性に関する研究
- ⑤ 長崎のカトリック教会群とキリスト教関連遺産に関する研究
- ⑥ 道德教育の今日的意義と推進に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「絆」回復の試みとしての徳育/2018/12/07/『徳育』第6号/1頁/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

禅の教えと茶の哲学/2018/08/18/佐賀大学フォーラム「茶・藝・道—売茶翁と現代ストリート文化—」

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員長	国際交流のあり方と海外大学との協定締結に関する審議検討の統括
教員資格審査委員会	副委員長	教員の新規採用・昇格における資格審査に関わる審議検討の統括補助
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの運営と学生支援のあり方に関する審議検討
研究ブランディング事業実施委員会	委員	研究ブランディング事業の申請業務に関する審議検討
防火・防災委員会	委員	学内の防火・防災のシステム構築と避難訓練等の実施に関する審議検討
危機管理委員会	委員	学内の危機管理のシステム構築とその運用に関する審議検討
人事委員会	委員長	各学部・学科における教員の新規採用・昇格人事の計画および選考手順に関する審議検討
輸出管理委員会	委員長	教職員および学生の海外渡航等に伴う科学情報等の輸出管理に関する審議検討の統括
グローバル推進協議会	委員	本学のグローバル化推進のための方針策定や構想に関する審議検討
全学教育会議	委員	本学の教育のあり方に関する全体的な方針の策定と進捗状況の確認に関する審議検討
自己点検・評価委員会	委員	本学の教育・研究に関する自己点検・評価の方針策定と実施状況の確認に関する審議検討
国際交流・留学生支援センター	センター長	国際交流および留学生支援に関する業務の統括
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター	センター長	健康管理や学修支援、カウンセリングなど学生支援に関する業務の統括

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	会長	長崎県に誘致が期待されているIR(Integrated Resort 統合型リゾート)のメリット・デメリットを、学術機関として学問的に検討し、自治体等に提言を行う。
NIU-IBO2020実行委員会	委員長	2020年に本学で開催が予定されている「生物学オリンピック」の実施に関する諸事項を検討し、実施計画を策定・遂行する。

(3) 課外活動の指導等

- ① アーチェリー部顧問
- ② 硬式野球部顧問・部長
- ③ サッカー部顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 同窓会誌挨拶文「さらなる高みへ」/2018年10月/長崎国際大学同窓会「悠和会」/『長崎国際大学同窓会誌』Vol.14、2頁。
- ② 「IR研究会」設置に関して長崎新聞よりの取材・記事に掲載/「長崎国際大が研究会設置」/『長崎新聞』平成30年6月10日(日)版
- ③ 長崎国際大学同窓会沖縄支部会及び同窓会/2018年7月7日/沖縄県那覇市・沖縄県市町村自治会館(南部合同庁舎)/同窓会理事及び副学長として参加・説明
- ④ 長崎国際大学保護者懇談会沖縄会場/2018年7月7日/沖縄県那覇市・沖縄県市町村自治会館(南部合同庁舎)/副学長として参加・挨拶
- ⑤ 長崎国際大学保護者懇談会鹿児島会場/2018年10月13日/鹿児島県鹿児島市・鹿児島商工会議所ビル/副学長として参加・挨拶
- ⑥ 長崎国際大学保護者懇談会熊本会場/2018年10月14日/熊本県熊本市・TKP熊本ガーデンシティ/副学長として参加・挨拶
- ⑦ 長崎国際大学保護者懇談会本学会場/2018年10月28日/長崎国際大学体育館・2101教室/副学長として参加・挨拶
- ⑧ 長崎国際大学福祉作文コンクール/2018年11月3日/長崎国際大学1101教室/「開国祭」において社会福祉学科主催、副学長として表彰・挨拶
- ⑨ 留学生日本語弁論大会/2018年11月3日/長崎国際大学1101教室/「開国祭」において国際交流・留学生支援センター主催、センター長として審査委員長を務め挨拶・審査・表彰

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	10

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎のキリシタン文化とカトリック教会群	2018/08/28	時津町公民館	時津町・「シルバー時津」高齢者教室
徳育について	2018/09/03	佐世保中央公民館	佐世保市社会教育課
徳育推進活動の新たな一歩のために(座談会コーディネーター・司会・総括)	2018/09/29	佐世保市体育文化会館コミュニティセンター	徳育推進会議・佐世保市

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市総合計画審議会	会長・委員	2015/11/01～ 2019/12/24	佐世保市長
佐世保市市民協働推進委員会	会長・委員	2016/07/01～ 2018/06/30	佐世保市長
評価システム改善検討委員会	委員	2018/04/01～ 2020/03/31	公益社団法人日本高等教育評価機構
佐世保徳育推進会議	会長	2011/04/01～現在	佐世保徳育推進会議事務局
学校法人九州文化学園評議員会	評議員	2017年/04/01～現在	学校法人九州文化学園
長崎国際大学同窓会「悠和会」	理事	2010/04/01～現在	長崎国際大学同窓会「悠和会」
日本宗教学会	理事・評議員	2010/04/01～現在	日本宗教学会
西日本宗教学会	運営委員	2013/04/01～現在	西日本宗教学会
西海まちづくり研究会	副会長	2013/04/01～現在	長崎国際大学・西海市社会福祉協議会・西海市観光協会
長崎県日中親善友好協会佐世保支部	理事	2018/07/09～現在	長崎県日中親善友好協会佐世保支部長(佐世保市長)

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
佐世保市の中国・瀋陽市公式訪問団	佐世保市企画部国際交流課と共に、瀋陽市を公式訪問・視察	2018/05/15～18	佐世保市企画部国際交流課、瀋陽市
瀋陽医科大学、瀋陽師範大学との交流協定締結	佐世保市・瀋陽市の斡旋で、社会福祉分野での学術交流の協定締結	2018/05/16	佐世保市企画部国際交流課、瀋陽市
2018日中私立大学学長シンポジウム	中国・上海市の私立大学関係者とのシンポジウムに参加、交流報告	2018/06/0～04	上海私学教育協会、和風教育集团
中国・上海大学博物館課程学生の研修プログラム	本学と交流協定を締結している上海大学の学生研修に対応	2018/07/17～30	国際交流・留学生支援センター、国際観光学科
中国・上海大学社会学院学生の研修プログラム	本学と交流協定を締結している上海大学の学生研修に対応	2018/07/19～24	国際交流・留学生支援センター、社会福祉学科
中国・瀋陽市科匪高校日本語スピーチコンテスト	日本語スピーチコンテストの審査委員長として挨拶・講評	2018/11/30	国際交流・留学生支援センター、科匪高校
中国・撫順職業技術学院表敬訪問	本学と交流協定締結を希望する大学への表敬訪問と協議	2018/11/30	国際交流・留学生支援センター
中国・上海工商外国語職業学院表敬訪問	本学と交流協定締結を希望する大学への表敬訪問と協議	2018/12/03	国際交流・留学生支援センター
中国・広東文理職業学院、嶺南職業技術学院、広州城建職業学院表敬訪問	本学と交流協定締結を希望する大学への表敬訪問と協議	2018/12/23～26	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
2018日中私立大学学長シンポジウム	長崎国際大学の国際交流の理念と実績について発表	2018/06/03	中国・上海建橋学院	上海私学教育協会、和風教育集团

(3) その他特記すべき活動

- ① 中国・厦門大学嘉庚学院客員教授、2013/09～現在
- ② 長崎留学生支援コンソーシアム総会参加、長崎大学事務局第5会議室、2018/03/19
- ③ 日中友好親善協会佐世保支部理事、2018/07/09～現在
- ④ 日中友好親善協会佐世保支部理事会、総会参加、佐世保JA会館、2018/07/09
- ⑤ 私立大学協会「国際交流推進協議会」参加、アルカディア市ヶ谷、2018/09/18

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、副学長として国際交流・留学生支援センター長とキャンパスライフ・ヘルスサポートセンター長を兼任することになったほか、国際交流委員会、輸出管理委員会、人事委員会の委員長をも兼任したため、それぞれのセンター・委員会に関する業務と会議が増加した。副学長として担うべき全学的事項の所掌や、全学教授会の議題整理及び議事進行等が中心的な業務であったが、それに関連して人事委員会の統括、国際交流・留学生支援の業務、学生支援及び保健管理の業務には多くの時間と労力を費やさなければならなかった。また輸出管理委員会に関しては今年度の起ち上げであり、規程や業務遂行の手順に関する合意事項等、基本的な体制作りからはじめなければならなかったが、概ね所期の成果は達成できたものと考えている。

センター長としての業務のうちまず国際交流の面では、大学間基本協定締結や留学生募集、表敬訪問のほか、佐世保市との共同事業による佐世保市訪問団の一員として瀋陽市を訪問し、同市の福祉系学部を有する2大学との交流を行ったほか、中国私立大学協会の主催による日中私立大学学長シンポジウムへの参加等で実績を挙げることができた。中国に数回渡航したほか、海外からの賓客・来学への応接・交渉にも従事した。特に、佐世保市が姉妹都市協定を締結している中国瀋陽市に関しては、上述の佐世保市訪問団としての来訪のほか、在瀋陽日本国総領事館・奥領事の佐世保訪問の事業にも立ち会うなどした。また日中友好親善協会佐世保支部の理事も今年度から委嘱される等、国際交流に関しては一定の貢献を果たすことができたとして自己評価している。留学生募集においては1年次生の募集、3年次編入生の募集では多くの優秀な留学生の獲得を実現させており、その点では大学の国際化推進に少なからぬ貢献をしているものと自負している。また本学の国際交流そのものは、学生の派遣・受入れのみならず、教育・研究の両面において年々活発になりつつあり、その傾向を今年度も推進し得たものと考えている。次にキャンパスライフ・ヘルスサポートセンター長としての業務に関しては、合理的配慮の必要な学生の支援に関して非常に多くの打ち合わせや会議を主催したほか、規程の整備、配慮申請に関する書式の作成などを進め、学生支援の組織的体制作りを促進することができた。また合理的支援に関する各種FDの実施やイベントの実行も積極的に遂行し、本学の特色の一つともなっているピアサポーター制度の整備・発展を進めることもできたとして自負している。キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの運営に関しては、教職協働の実現が他の分野にも増して要求されることが多いが、センター長として教員と職員の関係構築や親睦に貢献し得たのではないかと考えている。

学外から委嘱された委員等のうち、公益財団法人日本高等教育評価機構の評価員については、今年度も評価団長として評価チームをまとめて評価対象校への実地調査や意見調整を行う等、認証評価の作業に多大な時間と労力を割かれることとなった。平成29年度から委嘱された同機構の評価システム改善検討委員会については、今年度も継続して委員を委嘱され、機構による機関別認証評価第3クールに向けて策定した評価基準等の実効性等に関する審議に参画した。ほぼ毎月委員会に出席する必要があり、評価員の業務とも併せて負担は大きかったが、日本高等教育評価機構内

においては一定の評価を得られたものと考えている。

また佐世保市から委嘱を受けていた「総合計画審議会」会長と「市民協働推進委員会」会長のうち、後者については今年度6月で任期が終了したが、任期中に「市民協働ハンドブック」を完成に至ったことは佐世保市にとっても大きな意義を有するものと自負している。一方の「総合計画審議会」については「第7次佐世保市総合計画」の策定を進めており、その作業を会長として取りまとめるという大役を担っているが、作業は順調に進んでいる。さらに会発足当初から7年間務めている「佐世保徳育推進会議」会長の職務についても、毎月2度の委員会審議や各種イベントへの参加等に多くの時間を割かなければならなかったが、「徳育通信」「徳育カレンダー」の発行・頒布等で着実な実績を出していると言ってよいであろう。

他方で今年度もまた、学内の役職や学外からの委嘱業務等で多忙であったため、研究に十分な時間を割くことができず、研究業績を上げることが出来なかった点については痛切に反省している。大学院の指導では現在は修士課程の留学生一人を主担当として指導しているに過ぎないが、昨年度博士の学位を取得した留学生が中国の国立大学で専任講師の職に就いたほか、一昨年度に学位を取得した日本人卒業生が平成31年度より福岡県の私立大学に専任講師として着任することが決まった。学部の頃から一貫して指導してきた学生が大学教員となるということに、本学で教育に従事してきた教員としては非常に大きな喜びを感じているところである。現在でも、小職は業務に比して多くの授業を学部・大学院で担当しているが、それらに全力で取り組み、学生による授業アンケートでは上々の評価を獲得できた。これも何にもまして喜ばしいことであり、来年度もさらに授業回線に努めていく所存である。来年度も体調管理・授業管理に留意しつつ、教育・研究の両面で十分な実績を上げることができるよう努力していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 坂本 雅俊

1. 教育理念

本学の3ポリシーを実現するための教育に全力を尽くす。

開学時の提言に従い、長崎県北部で不足している指導的能力を備えた社会福祉人材を育成する。

社会福祉学専攻において、社会福祉学研究者を育てる。

地域社会に対して、ボランティア活動や審議会活動等に積極的に取り組むことで社会貢献する。

学生主体の授業や課外活動を行い、学生の成長を自分の喜びとする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
ボランティア論	12/15(前期)	2	58	②⑦⑩
高齢者福祉論	5/15(前期)	2	48	①②④⑤⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	4	②④⑥⑦
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①④⑥
健康・生きがいづくり総論	8/8(前期)	1	43	①②⑨
保健医療サービス論	15/15(前期)	2	63	①②⑥⑨
社会福祉総合演習(福祉共通)	2/15(前期)	1	36	①②③④⑧⑨⑪⑫
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	1/15(後期)	1	7	④⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	4	②④⑥⑦
相談援助の基盤と専門職B	4/15(後期)	2	56	①
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	①②③④⑧⑨⑪⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫
生きがい情報士実習	15/15(通年)	1	1	⑦⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
高齢者福祉特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
地域福祉政策特別演習	8/15(前期)	2/1・2年	1
事例研究(高齢者福祉)	15/15(後期)	2/1・2年	1
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	-
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	1
特別研究指導Ⅲ	15/15(通年)	4	0

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義科目では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、双方向授業としてライブ感を活かす工夫を行った。また、パワーポイントを活用して教科書の内容を補足説明を行うことで、理解しやすい授業を行った。授業アンケートにおける学生の声を受けて、レポートを課すことで自宅学修を促した。

年度毎に学生の授業に対する満足度の点数も少しずつ上昇しており、自己点検・評価の教育効果を感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
嬉野医療センター附属 看護学校	社会福祉論	6.5/6.5(前期)	2	41

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者支援学 ソーシャルワークに関する調査 医療ソーシャルワーク

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	1	1	1	1	62万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

21世紀の現代社会福祉用語辞典/共著/2019年3月31日/学文社/473

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

地域の抱える多問題・病巣への介入について～スクールソーシャルワーカー(養成)に期待するもの
～/2019年3月31日/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要/10/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

児童生徒の抱える問題と養護教諭のスクールソーシャルワーカーに対するニーズ/2018年8月31日
/一社 日本福祉学習支援学会東京大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2018年度(後期)一般公募「在宅医療研究への助成」(共同研究)	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	2019年2月22日～2020年3月31日	62万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	なし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
利益相反マネジメント委員会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
スーパービジョンセミナー	2018年12月14日	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会
社会福祉士実習指導者講習会	2019年2月10日	長崎県総合社会センター	一社 長崎県社会福祉士会(後援:公益社団法人日本社会福祉士会)

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
西海市社会福祉協議会	評議員	2014/05/27～ 2021/03/31	社会福祉法人西海市社会福祉協議会会長
長崎県国土利用計画審議会	委員	2017/04/01～ 2020/03/31	長崎県知事
西海市地域福祉推進会議	委員	2018/02/01～ 2020/01/31	西海市福祉事務所長
佐世保市国民健康保険運営協議会	委員	2018/04/01～ 2021/03/31	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- 1) 特定非営利活動法人フリースペースふきのとう 副理事長を担当している。(団体では、「平成30年度子供と家族・若者応援団表彰 内閣府特命担当大臣表彰[子供・若者育成支援部門]」平成30年11月21日受賞した。)
- 2) 日本福祉学習支援学会において理事長として子どもの学習支援に関する研究活動に携わった。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

学部における諸活動の他に、社会福祉学専攻長として運営を行った。本年度は社会福祉学専攻のウェブサイトを専攻会議において議論した上で改訂し、受験生が応募しやすい内容に変更した。また、履修証明プログラムにおいては、平戸市社会福祉協議会との連携により継続して履修者を受入れた。全学的には全学共通科目の「ボランティア論」におけるボランティア実習を学生が行った際、平戸社協をはじめ長崎県内の各機関の協力を得て連携を行うことができた。全体の総括としては、学部の1年生から博士課程3年生までの幅広い層の学生を担当させていただき教育活動を行うことができた。その際、異年齢の学生同士が交流できるよう、研究会の参加などでの機会を設けた。また、学会では、理事や評議員を務めることで、社会福祉学の学術発展に尽力できた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 高島 恭子

1. 教育理念

私の教育理念は、人間尊重を基礎とし、主体的に社会に貢献するために共に学ぶことである。講義系の授業では、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格できる程度の知識を身につけて欲しいと考えており、そのために講義を通してワークシートを完成させる、講義後にはふりかえり問題に取り組むなど、知識の取得・整理に自分で取り組む授業方法を行う。演習・実習系科目では、学んだ知識を用いて考え、主体的に他者に働きかける意欲と態度を身につけ高めてほしいと考えており、そのために事例検討やその他の課題にグループで取り組み、その後自身の取り組みについて振り返り、文章にまとめ発表し、グループで共有する授業方法を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
障害者福祉論	15/15(前期)	2	65	①④⑩⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	3	⑤
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	13	⑦⑩
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	17	①②④⑦⑪
相談援助実習の理解	15/15(前期)	1	77	①②④⑤⑥
精神保健福祉論	8/15(前期)	2	43	④⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①⑦⑫
精神保健福祉援助演習(基礎)	15/15(前期)	1	10	⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	⑪
社会福祉総合演習(精神)	4/15(前期)	1	6	①⑥
障がい者スポーツ	3/15(後期)	2	39	④⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	3	⑫
相談援助の理論と方法ⅠB	15/15(後期)	2	60	①④⑪
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	①④⑦
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	17	①④⑦
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	7	⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	2	⑥⑪⑫
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
精神保健特講	15/15(前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケート評価はよくはなく、学生自身も何を求めているのかわからないように感じた。そうであれば、教科書という限定されたものを学ぶ科目とした方が、学生にとっては安心して取り組めると考えられる。改善策として、教科書を読ませ補足しながら教科書を学ぶ、教科書から離れないよう心掛けた教材開発をしたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援夏季集中講座補講	9	36	8/23,9/6,10/15,10/22, 10/25,11/1,11/15,11/29, 12/13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 知的障がいのある人の意思決定支援
- ② 障害者権利条約の国際的な進捗と社会開発
- ③ 精神保健福祉に関わる地域資源の開発と発展
- ④ 発達障害を持つ学生のキャリア支援
- ⑤ 福祉現場実習における学生及び実習先(施設・機関)の実習担当職員への支援のあり方

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	3	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
『ダウン症をめぐる政治 誰もが排除されない社会に向けて』(翻訳) /共著/18/09/明石書店/
43頁～57頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「デンマーク 38デンマーク市民団体の共同提出の平行レポート(2013年12月)」(翻訳) /2018年3月/日本障害者協議会ホームページにて公開/52頁/共著/翻訳
「韓国 平行レポート(初回審査・事前質問事項後)(2014年9月)」/2018年4月/日本障害者協議会ホームページにて公開/76頁/共著/翻訳
「イタリア 締約国報告への事前質問事項のための、国連障害者権利委員会への、イタリア障害者フォーラム(FID)からの報告(2016年1月18日)」/2018年10月/日本障害者協議会ホームページにて公開/109頁/共著/翻訳

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
「大学における発達障害・発達障害傾向がある学生への就職支援」/2018年6月10日/大学教育学会第40回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員長	例年通りの業務を滞りなく行うことができた。すなわち、学内の研究環境向上のため委員と協力し、長崎国際大学論叢への投稿を呼びかけ、18本の投稿論文を得た。2019年2月28日に第19回学術研究報告会を実施した。社会福祉学科の学科研究活動を取りまとめ原稿を作成した。
IRセンター	委員	学修時間、学生個別のきめ細やかな指導とその記録、ルーブリック評価、100冊読書など、大学全体の課題を学科内で共有し、学科の議論を委員会に戻せるよう努めた。
研究ブランディング事業実施委員会	委員	特記すべきほどの活動を行うことはできなかった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科運営委員会	委員	学科運営のために、委員会において毎月、学科内の課題と取り組みを整理した。
教育内容向上委員会	演習部会部会長、専門演習部会委員、卒業研究部会委員	配慮学生を考慮しながら「相談援助演習Ⅰ」「相談援助演習ⅡA・ⅡB」「相談援助演習ⅢA・ⅢB」のクラス分けを行った。科目間の担当内容の確認を行い、科目担当者間でプログラム内容と進行が平準化される仕組みづくりに貢献した。
実習委員会	委員長	社会福祉士部会において、野田部会長が相談援助実習の運営を円滑に行えるよう、相談役になる等補助した。
実習委員会(精神保健福祉士部会)	部会長	精神保健福祉士部会では、担当者の打ち合わせをもち、実習の円滑な準備と進行に努めた。「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」の体験的学習の企画運営、外部講師の調整と依頼を行った。実習機関(医療機関)を1件開拓した。
学科倫理委員会	委員	学部生から5件、教員から11件の申請があり、審査の結果、承認した。
人間社会学部倫理委員会	委員	8件の申請があり、審査の結果、承認した。
健康栄養学科・健康管理学研究科研究倫理委員会	委員	学科審査委員とし倫理審査に参加した。

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

長崎県立大村城南高等学校大学訪問 模擬授業講師担当/2018年9月19日/場所:長崎国際大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
6	10

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度佐世保市・佐々町障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議講演「障害者の意思決定支援」	2018年8月4日	佐世保市労働福祉センター	長崎県手をつなぐ育成会
平成30年度教員免許状更新講習会「スクールソーシャルワーカーの視点と活用」	2018年8月20日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平成30年度諫早市・雲仙市障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議講演「障害者の意思決定支援」	2018年10月20日	諫早市健康福祉センター	長崎県手をつなぐ育成会
平成30年度新上五島町障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議講演「障害者の意思決定支援」	2019年1月26日	新上五島町石油備蓄記念会館	長崎県手をつなぐ育成会
平成30年度壱岐市障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議講演「障害者の意思決定支援」	2019年2月2日	石田農村環境改善センター	長崎県手をつなぐ育成会
平成30年度平戸市民生委員児童委員協議会連合会県委託研修会「住民に寄り添う民生委員児童委員活動を目指して」	2019年2月15日	平戸文化センター	平戸市民生委員児童委員協議会連合会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市障害者計画及び障害福祉計画策定委員会	委員	2015/12/01～ 2018/11/30	平戸市長
佐世保市保健福祉審議会 身体障害者福祉専門分科会	委員	2015/04/01～ 2020/03/31	佐世保市長
社会福祉法人 あい里	理事	2017/04/01～ 2019/06/30	社会福祉法人 あい里 理事長
社会福祉法人宮共生会	評議員	2017/04/01～ 2022/03/31	社会福祉法人 宮共生会 理事長
第五期長崎県教育振興懇話会	委員	2017/11/01～ 2018/10/30	長崎県教育委員会 教育長
抄録原稿査読小委員会	委員	2018/03/01～ 2018/09/15	公益社団法人日本精神保健福祉士協会
第54回全国大会・第17回学術集会運営委員会	委員	2018/02/27～ 2018/09/15	公益社団法人日本精神保健福祉士協会
佐世保市上下水道事業経営検討委員会	副委員長	2013/11/1～ 2018/10/30	佐世保市水道事業及び下水道事業管理者
特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会	理事(国際委員会)	2011/1/22～	特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会会長
長崎県精神保健福祉士協会	理事	2014/6/15～	長崎県精神保健福祉士協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2018年10月8日「第21回ウォーキング&ゲームラリー」実行委員として参加(佐世保市文化体育会館)、主催:佐世保市
- ②2019年2月11日「第24回心の健康づくりフェスティバル」実行委員として参加(アルカス佐世保)、主催:心の健康づくりフェスティバル実行委員会、NPO法人チーム4×4
- ③NPO法人チーム4×4理事

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、精神保健福祉士養成の「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」及び「同ⅡA、ⅡB」のプログラムが科目担当の先生方のご協力を得ながら安定し、良好に機能した。「精神保健福祉援助演習」の内容について、精神保健福祉援助実習を念頭に置いたコミュニケーション技術や事例の概要に絞ることができた。今年度担当した「相談援助演習Ⅲ」では、科目担当教員とともに学生が積極的に事例検討に参加し毎回レポートを記述する形をとり、学生が自分自身の成長を確認できるプログラムとなった。講義科目ではマナバに毎回復習問題を載せるなどして、学修を促した。しかし、学生の関心、意欲の多様化に対処できなかったと感じる。多様な学生が関心をもって取り組むことができ、教科書を学ぶような教材の工夫に取り組みたい。

研究活動では、障害者権利条約締約国から国連に提出されるパラレルレポートの翻訳に取り組んだ。各国の状況の違いなどが読み取れたが現在は一次資料の状態であるので、研究論文としてまとめたい。その他、昨年度から取り掛かっていた翻訳を出版することができた。

大学運営活動では、複数の委員会の役割を誠実に行うことができた。また精神保健福祉援助実習に関連して、佐世保市内のNPO法人4×4や当事者の会、家族会などと関係を深めることができ、実習先として医療機関1か所(大村共立病院)と提携を結ぶことができた。

社会活動では、長崎県手をつなぐ育成会と取り組んでいた「意思決定支援」の活動が最終年度となった。グループワークや質疑応答を通して現場の状況や考えを学ばせて頂きながら、現場の方同士の交流を促進し県内の「意思決定支援」の推進に貢献することができたと感じる。9月に長崎で行われた日本精神保健福祉士協会全国大会では、多くの学生の参加を得、人とのつながりを広げることができた。

全体として、教育活動、社会活動、研究活動それぞれに力を入れ、進展することができた。研究活動に力を入れることが教育活動や社会活動の実質を作り、全体をよくするとの実感を含めた一年であった。教材研究を進めるとともに、研究活動に力を入れ、そこで得たものに基づいて教育活動、社会活動を広げることを基本とし、地域社会に貢献できる確かな専門職の養成を心がけたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 中村 龍文

1. 教育理念

すべては基本から → 基本の徹底的な習熟を目指した教育

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
介護概論	4/15(前期)	1.5	105	②③⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	5	④⑤⑥⑦⑪⑫
発達と老化の理解 I	5/15(前期)	2	14	①②③⑩
認知症の理解 I	10/15(前期)	2	31	①⑨⑩
障害の理解 I	10/15(前期)	2	33	③⑤⑨⑩
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
国際コミュニティ・ケア論	1/15(前期)	2	3	⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	⑧
医学概論	15/15(後期)	2	49	①②③⑨
専門演習B	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
発達と老化の理解 II	5/15(後期)	2	13	①②③⑩
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	6	③⑤⑨⑩
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑧
卒業研究	30/30(通年)	4	4	④⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉と医療特別演習	15/15(前期)	2/1・2年	1
特別研究指導 I	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度も例年通り、授業教材をポートフォリオに1週間前アップロードし、出来るだけ予習・復習がやり易いように務めたが、認知症の理解では約3割の学生で、また医学概論では6割の学生で十分な理解が得られず、期待した効果が得られなかった。今後は学習意欲のあまりない学生にどのように対処していくかが大きな課題である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学医学部 保健学科	運動系障害講義	1/15(後期)	不明	不明

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士試験対策講座	1	6	2018.6.27
介護福祉士国家試験対策講座	1	3	2018.12.27

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

HTLV-I関連脊髄症の病態解明と治療法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	1	1	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Efficacy of mirabegron for overactive bladder with human T-cell lymphotropic virus (HTLV) - 1 associated myelopathy. / 2018.2 / LUTS / 1111 / 共著 / 原著

Detection of human T lymphotropic virus type-I bZIP factor and tax in the salivary glands of Sjögren's syndrome patients. / 2018. 112 / Clin Exp Rheumatol / 51-60 / 共著 / 原著

Role of integrin signaling activation on the development of human T-cell leukemia virus-1 (HTLV-1)-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis: Its relationship to HTLV-1-infected CD4+ T cell transmigrating activity into the tissues. / 2018.34 / AIDS Res Hum Retroviruses. / 331-336 / 共著 / 総説

Distinct gene expression signatures induced by viral transactivators of different HTLV-1 subgroups that confer a different risk of HAM/TSP. / 2018.15 / Retrovirology. / 72 / 共著 / 原著

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

教育講演—長崎県に多い神経難病HTLV-1関連脊髄症について / 2018.9.11日 / フォーラム
2018:衛生薬学・環境トキシコロジー

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) HAMならびにHTLV-1陽性難 治性疾患に関する国際的な総 意形成を踏まえた診療ガイドラ インの作成	厚生労働省	平成30年4月1日～平 成31年3月31日	35万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特になし
研究ブランディング事業実施委 員会	委員	特になし
発明等審査委員会	委員	特になし
全学教育会議	委員	特になし
社会福祉学科倫理委員会	委員長	特になし
人間社会学研究科倫理委員会	委員長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
ケアマネージャー試験直前対策講座	2018.7.27 2018.8.3	やまずみ荘 ユニット館	社会福祉法人 三 省会 やまずみ荘

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県指定難病審査会	委員	2017/01/01～ 2018/12/31	長崎県知事
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2015/06/01～ 2019/05/31	公立学校共済組合 長崎支部長
長崎県指定難病審査会	委員	2019/01/01～ 2020/12/31	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は論文数としてはFirst author の総説1編を含めてある程度目標を達成できた。しかし、外部資金の獲得額は年々減少しつつある。今後はより一層の努力が必要である。また、教育活動については、レベルに合わせた講義が出来ず、十分に活動できなかった。最近では、勉学に対する意欲において学生間で較差が生じている印象である。それをどのようにして解決していくか、今後の大きな課題である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 大島 啓

1. 教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境(経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体)から捉える視点を獲得することである。複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
社会福祉原論B	15/15(前期)	2	66	②
専門演習A	15/15(前期)	1	2	⑥
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	2/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
社会学概論	15/15(前期)	2	112	②
社会学	15/15(後期)	2	61	②
社会の理解	15/15(後期)	2	39	②
社会福祉原論A	15/15(後期)	2	76	②
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	39	⑪
専門演習B	15/15(後期)	1	2	⑥
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	9	⑥⑦⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	7/15(前期)	2/1・2年	4
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
社会福祉思想特別演習	15/15(後期)	2/1・2年	1
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今期学部・大学院では、昨年度と同様の授業を担当した。「社会学(福祉)」は福祉学科の必修科目扱いであるが、準備を完遂し比較的好評のうちに終えることができた。国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施し、好評を得た。またパワーポイントも毎回使用した。「社会学概論」は観光学科の教職科目であるが、比較的自由な授業内容にペアワーク等も導入して、大変好評であった。「障がい者スポーツ」(オムニバス)では取りまとめ役を担当し、他の担当教員や外部講師との連絡・調整等の業務が煩雑ではあったものの、無事やり終えることができた。「社会福祉原論AB」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施し、例年と同等かそれ以上の好評を得た。今年もパワーポイントを使用した。「社会の理解」は、比較的コンパクトな内容にまとめることができた。「卒業研究」と「専門演習」では、できるかぎり意見交換の時間をとり、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう努めた。特に「卒業研究」は9名という大所帯ではあったものの、卒業論文の提出という形で無事成果をまとめることができた。大学院の科目は院生に資料作成を義務づけ、その資料を基に丁寧に指導することを心掛けた。担当の中国人院生(社会人)1人が執筆時間の不足から、昨年度修論提出に至らなかった事態を反省して、今年度は指導に注力した結果、無事修士課程を修了したことには満足している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①現代ドイツの社会理論 ②福祉専門職の社会的承認

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(全学)	委員	入試募集委員会から学科への業務の伝達や担当調整、オープンキャンパスの業務を担当した。またウェスレヤン大学のオープンキャンパスを見学し、レポートを提出した。
作問委員会(全学)	委員	「世界史」の入試問題を作成した。
専門演習委員会(学科内)	委員長	来年度の3年生のゼミ配属作業の取りまとめを担当した。
倫理委員会(学科内)	委員	学会内における教員と学生の調査研究の倫理審査を担当した。
実習委員会(学科内)	委員	社会福祉士の相談援助実習の業務を担当した。
学内学会委員会(学科内)	委員	学内学会シンポジウムのコメンテーターとして、積極的に協働・参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	グループメンバー	長崎県と市が進めるIR構想を検討する研究会のメンバーとして、研究会に参加した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①第5回社会福祉学科・福祉作文コンクール責任者/11月3日 場所:本校
- ②オープンキャンパス参加者にイベント告知のDMを郵送する事業の責任者

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習 「子どもと貧困」	9月22日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
第25回佐々町社会福祉大会記念講演	11月17日	佐々町文化会館	佐々町社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	平成29年4月1日 ～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①12月7日「南高愛隣会卒業生講話会」担当として参加、主催:南高愛隣会
- ②7月24日「上海大学・長崎国際大学 短期研修プログラム修了式」に司会として参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ①所属する西日本社会学会で、選挙管理委員長を拝命した。
- ②所属する日本分析学会の学会誌第47号の特集コーディネーターを拝命した。
- ③第19回学術研究報告会の座長を担当した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、学生の授業の満足度平均3.8以上という目標をクリアした。大学院教育においては、担当する修士課程院生を秋季に修了させた。研究面では、所属する二つの学会で選挙管理委員長と学会誌の特集コーディネーターを拝命し、また専門の独語文献の翻訳作業を進めた。学校運営面では、入試募集委員や作問委員、専門演習部会長、学内学会のコメンテーターなどの役割を果たすとともに、社会福祉士国家試験対策の業務を遂行しつつ、「障がい者スポーツ」や「福祉作文コンクール」の総合責任者として、業務を遂行した。またオープンキャンパス参加者にイベント告知のDMを郵送する事業や、社会福祉法人・南光愛隣会の卒業生講話の責任者も担務した。地域貢献の面では、佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会の運営委員として、各種の会議や行事に参加し、また今年度の教員免許状更新講習会の講師を務めた。さらに佐々町社会福祉大会で記念講演を行った。

勤務5年目で担当科目が固定してきたため、授業準備に費やす時間や労力を幾分省力化できるようになったのは、良い点であると考え。指導する中国人院生(社会人)を無事秋季に修了させることができた点や、福祉作文コンクールを成功裏に終えることができた点、あと(昨年度のことにはなるが)査読を経て研究論文を学会誌に掲載することができたことには満足している。一方、教員の出入りが激しい学科において、お互いを思いやったり連帯感を形成したりすることが万事難しくなってきたことを痛感した一年でもあった。日々増加する業務と格闘しながら、来年度も引き続き正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標(定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など)の達成を目指したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 韓 榮芝

1. 教育理念

教育の理念は、以下のような3点を主としている。

- ・学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- ・コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。
- ・学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①②③⑤⑥⑦⑧⑩ ⑪⑫
中国語 I A	15/15(前期)	1	52	①②③⑧⑨⑩
中国語 I A	15/15(前期)	1	29	①②③⑧⑨⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	4	①②③④⑤⑧⑩⑪ ⑫
相談援助演習 II A	15/15(前期)	1	15	①④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導 II A	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑩
地域福祉論A	15/15(前期)	2	70	①②③⑧⑨⑩
国際コミュニティ・ケア論	15/15(前期)	2	3	④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	③⑧
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑫
中国語 I B	15/15(後期)	1	47	①②③⑥⑦⑧⑨⑩
中国語 I B	15/15(後期)	1	8	①②③⑥⑦⑧⑨⑩
キャリア開発B	15/15(後期)	2	277	②⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑦⑩ ⑪
相談援助演習 II B	15/15(後期)	1	14	②④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導 I	15/15(後期)	1	10	①⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導 II B	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
地域福祉論B	15/15(後期)	2	75	①②③④⑥⑧⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	6/15(後期)	1	34	②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑥⑧⑨⑩⑪⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	15/15(前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

中国語の授業に関しては、通年を通して受講生が年々増えたことに大変喜ばしいことだと思う。その中で本当に中国のことや中国語に興味を持って授業を望んできた学生も多い。それらの学生は真面目に取り組んでくれて本当に上手に話せるようになり、中国語に興味をさらに湧くようになる。但し一部分の学生は単に単位を取るためにということもあり、授業中に居眠りしたり携帯電話を触ったり注意しても改善が見られないこともある。中国語が難しいとよく言われているが、これからはより多くの学

生が授業に集中でき、興味関心を持てるように授業方法や内容を編成していくことを工夫していかなければならない。

地域福祉論A/Bの授業では、授業評価が全体の平均より低いことを真摯に受け止めて、これからの改善策をしっかりと考えていかなければならない。まず相互授業や授業参観に参加し、教員間の交流を通じて授業の進め方や学生が主体的に授業内容に興味や関心を持てるように工夫していきたい。また、グループワークの進め方を検討し、学生とのコミュニケーションを十分にとりながら学生の満足度のアップに繋げていきたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
事例研究(地域福祉計画)	15	1	2018年度後期
社会福祉士国家試験勉強会	8	3	2018年度10月一週に1回

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 1 中国の「黒護工」の現状と課題 その2
- 2 日中の社会福祉学に関する研究・交流活動の取り組みについて その2

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	留学生学習支援・募集、連絡、通訳など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学学内学会委員会	委員	学内学会の運営、大会の企画、司会、通訳など 学内学会研究紀要の編集、翻訳、ニュースレターの作成、編集
学生支援委員会SA	委員	障害などを持つ学生の支援、留学生の学習支援、生活支援活動
上海大学短期研修委員会	委員	2018年上海大学社会学院短期研修の企画、引率、通訳、連絡調整など
NIUソーシャルワーク海外研修委員会	委員	2018年NIUソーシャルワーク海外研修の引率、通訳、研究発表など

(3) 課外活動の指導等

- ・中国人留学生の生活指導(アルバイトの紹介、生活相談など)
- ・書道サークルの顧問及び書道展の開催
- ・中国人留学生の就職や進学指導

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・オープンキャンパスの資料作成、運営など
- ・中国瀋陽市との交流活動を通して大学の紹介、学生の募集
- ・上海大学社会学院との活動を通して大学の紹介、学生の募集

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
日中平和友好条約提携40周年シリーズ 「日本の養老事業の現状と将来ー在宅養老サービスモデルを中心にー」	2018年5月16日	瀋陽市日本領事館館内	瀋陽市日本領事館
NIUソーシャルワーク海外研修研究会 「日本の地域福祉について」	2018年8月12日	上海大学社会学院研究棟	上海大学社会学院
平成30年度長崎県児童厚生員等研修会講座「地域福祉活動」	2018年11月8日	佐世保市労働福祉センター	長崎県子ども政策局

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域密着型サービス等の運営に関する委員会	委員	2017/05/01～ 2019/05/15	佐世保市
長崎県日中親善協議会「第39回長崎県中国語コンクール」委員会	審査員	2019年2月17日	長崎県日中親善協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・佐世保市役所瀋陽市との経済交流に関わる活動の参加
- ・早岐警察署警察官との連携交流活動
- ・本大学の教員、学生、地域の方に中国語講座の開催
- ・中国北京高齢者健康管理協議会との交流活動・通訳

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院海外短期研修	学術研究、学生交流プログラムの作成、通訳、学生・大学院生間の交流、福祉施設見学の案内、引率、通訳	2018年7月18日ー7月28日	人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育面においては、学生の実情に応じ適時に指導を行った。特に欠席の多いゼミ生・留学生に対してよりきめ細やかな支援(学習のみならず生活支援や心のケアも含め)を行った。結果、欠席を減ることになり、安心して学業に集中し単位取得数も増え離脱防止に繋がった。

課程外教育では、月に2回の中国語講座を開き、受講生が自由に参加でき(参加人数は少ない)、語学力向上に繋がった。また、国家試験のゼミ勉強会や合宿を行い、国家試験の成績アップに繋がった。

国際的人材を育てていくために、NIU上海大学ソーシャルワーク研修や上海大学社会学海外短期研修の企画案の作成、引率者及び通訳者として、また日中間の学術研究のため、「日本の地域福祉」について発表を行った。

・運営に関しては、前年度と同様に、①国際交流委員の業務遂行ができ、社会福祉学科の留学生募集や学習支援に務め、留学生の満足度が高くなった。②社会人向けの語学支援を行い、異文化交流・理解することができた③書道サークル活動においては、地域の公共場で書道展を開き、大学の知名度をアップさせる。④上海大学社会学院短期研修のプログラム作成・運営、引率、通訳などを務めた。⑤佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加し、「日中高齢者福祉の比較研究」を題として講演を行った。

・研究面では、学内学会研究大会の企画、運営、学内学会の海外講演者の通訳、邦訳などを行った。また、講師として長崎県放課後指導員養成講座に参加した。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 脇野 幸太郎

1. 教育理念

- ・学生が自ら学び、考え、解決し、理解する。これらのことを通じて、「学ぶことの意義と楽しさ」を体感してもらえらるような教育を行うこと。
- ・社会人として、「切り替え」のできる力(やるときはやる、楽しむときは楽しむ)を身につけてもらうこと。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
日本国憲法	15/15(前期)	2	112	②③④⑪
公的扶助論	15/15(前期)	2	54	②③⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	7	②③④⑥⑧
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	④⑥⑩⑫
社会保障論B	15/15(前期)	2	58	①②③⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	6	⑤⑥⑦⑧
社会福祉総合演習(福祉共通)	2/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
法学	15/15(後期)	2	80	②③④⑨⑪
家族法	15/15(後期)	2	13	①②③⑨
専門演習B	15/15(後期)	1	7	②④⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	①④⑥
社会保障論A	15/15(後期)	2	62	①②③⑨
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	⑤⑥⑦⑧
社会福祉法制論	15/15(後期)	2	19	①②③⑧⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	12	⑥⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	5	⑦⑫
福祉科教育法	15/15(通年)	4	2	①②③⑤⑦⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会保障特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
地域マネジメント論特別演習	15/15(前期)	2	2
地域福祉政策特別演習	15/15(前期)	2/1・2年	1
事例研究(社会保障)	15/15(後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業評価アンケートの満足度・理解度の結果は、前年度を大きく下回った(特に後期)。授業内容や方法は大きく変更してはいないが、課題はむしろそのあたりにあると考えられる。学生の興味・関心を引き出したうえで、真の理解が得られる授業内容・方法を工夫したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康Ⅱ	12/12(後期)	2	15
山口県立大学大学院	社会保障学講究	15/15(春季集中)	2	1

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会保障受験対策講座(通称「寺子屋」)	7	20	1月9日、16日、23日、30日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・介護保険制度、生活保護制度の日独比較研究
- ・地域と社会保障に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	5	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
トピック社会保障法 第12版/共著/2018年4月1日/不磨書房/222-254

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
日中の社会福祉学区に関する研究・交流活動の取り組みについて—中国上海大学社会福祉学短期研修の実践活動を通して—/2018年3月10日/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要第13号第14号(合併号)/123-133/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

介護人材確保・評価の手法としての処遇改善加算のあり方—介護職員のキャリアアップとの関係に

着目して—

／2019年7月24日／長崎国際大学社会福祉学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価報告書作成業務を行い、教育内容の質の向上に貢献した。
広報委員会	副委員長	広報催事(福祉作文コンクール)運営を行い、学科・大学の広報に貢献した。
学科内国家試験合格支援委員会	副委員長	委員長を補佐し、社会福祉士国家試験対策に後見した。
学科運営委員会	委員	委員として学科運営に貢献した。
学科内卒業研究(4年)部会	部会長	卒業研究の庶務、とりまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	メンバー	長崎県、佐世保市、商工会等のメンバーとともにIR誘致の諸問題について検討
将来構想検討委員会	委員	大学の将来構想について検討
入試問題作成者	科目責任者	問題作成および担当者間の連絡・調整

(3) 課外活動の指導等

①吹奏楽部顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①進学説明会参加／6月7日／場所:佐世保市体育文化館

②大村城南高校出前授業／11月29日

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	8

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平戸市社会福祉協議会役職員研修会	8月24日	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市社会福祉協議会 させば成年後見センター 運営委員会	委員長	2018/04/01～ 2020/03/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
佐世保市保健福祉審議会	委員長	2015/04/01～ 2020/03/31	佐世保市
長崎県介護保険審査会	委員	2017/04/01～ 2021/03/31	長崎県知事
佐世保市社会福祉協議会	理事	2017/06/01～ 2019/05/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
長崎保護司選考会	委員	2012/4/11～	法務大臣
社会福祉法人清風園	第三者評価委員	2015/4/1～	社会福祉法人清風園理事長
東彼杵町総合戦略策定委員会	委員	2015/4/1～	東彼杵町長
平戸市社会福祉協議会	評議員	2018/4/1～	平戸市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①大村市選挙管理委員会・同教育委員会「票育活動」における学生指導、自治体との連絡調整

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
中国・上海大学短期社会福祉研修	短期研修における授業等	7月19日～28日	社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育活動については、授業評価アンケート満足度での低下傾向がみられ、受講者のニーズに必ずしも対応できていないことが明らかとなった。アクティブラーニング手法の積極的導入や授業内での国試対策の強化、ポートフォリオを活用した予習など、理解度と満足度を高める工夫と努力を行っていききたい。

・毎年のことながら、研究活動が全く停滞していた。取り組みたい課題は山積しているので、時間の使い方などを工夫し、来年度こそは目に見える形で成果をあげていききたい。

・学内業務については、自己点検・評価委員、広報委員としての活動や学科内での業務など、一定の貢献ができたと思っている。来年度の認証評価受審を控え、さらに積極的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 安藤 佳珠子

1. 教育理念

私の教育理念は、以下の3点である。

1. 実践力のある専門職養成

私は、資格取得を目指した精神保健福祉士・社会福祉士の養成ではなく、実践力のある専門職の養成をしたい。私はこれまで精神科ソーシャルワークの実践の中で学んできた。ソーシャルワークの楽しさを知る一方で、質を十分に担保できずにいるソーシャルワーカーの現状に憤りを感じていた。他職種から見ると、ソーシャルワーカーは「社会資源を教えてくれる人」「手続きをしてくれる人」という認識でとどまており、「生活を一緒につくっていく人」「地域を一緒につくっていく人」「言葉を一緒につくっていく人」という社会変革をイメージするような認識には至っていない。これは、これからのソーシャルワーカーの課題であり、社会変革を実践できるようなソーシャルワーカーの養成が問われている。

2. 誰も排除しない小集団の授業運営

なかでも、学生たちが集団のなかで育っていくことを保障する養成を展開したい。ソーシャルワーカーにとって、学生時代どのような集団で育ってきたのかが、ソーシャルワーカーとしての育ちに大きな影響を与えるのではないかと考えるからだ。こうした教育は、エンパワメントにおけるマイクロ・メゾの関連や、集団における自己効力感、「誰も排除しない」というソーシャルインクルージョンの理念などの理解を深めることにつながる。

ゼミ運営では、誰も排除しないゼミづくりを目標に取り組んできた。ゼミは、真面目に取り組む学生だけではなく、サボる学生、課題をやってこない学生、発言しない学生などがおり、またメンバーの好き嫌いもあるなかで運営される。そのため、秋には「ゼミをアセスメントし、このゼミをどのようにしたいか」という課題を出し、グループで取り組んでいる。一人一人のニーズやゼミ全体のニーズを検討するなかで、お互いを理解し合い、その上で、ゼミを一人一人が主体的に運営するためにはどのようにしたらいいのかについて議論することを目的としている。

3. 地域と協働した教育実践

また、地域に貢献できる学生の育成や教育実践を展開したい。今年度、ゼミで、長崎国際大学ボランティア活動企画コンテストで最優秀賞を取り、中国人の家族を対象として、学生主体で、お弁当づくりと遠足を企画した。当初、子ども食堂を企画するなかで、中国人家族と出会ったが、学生たちが、母親たちとかがかわるなかで、中国ではお弁当をつくる習慣がないという聞き取りに基づいて、計画したものである。学生たちは、そのかわりのなかから、母親たちが抱える文化的な問題とともに、日本文化を理解していただくだけの時間的・経済的余裕がないことにも気づいていった。12月の開催にもかかわらず、合計40名の参加となった。こうした地域での実践によって、学生たちが自然と地域のニーズを見

つけていく姿を見て、若者と地域と学校を結ぶ教育実践を今後も展開していきたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
ボランティア論	8/15(前期)	2	58	②⑦⑩
スクール(学校)ソーシャルワーク論	15/15(前期)	2	5	①④⑤⑩
スクール(学校)ソーシャルワーク論	15/15(前期)	2	5	①④⑤⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	2	④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	17	⑤⑥⑦
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅠA	15/15(前期)	2	9	①⑤⑥⑨⑩
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅡA	15/15(前期)	2	6	①⑤⑥⑨⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	④⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉援助演習(専門)A	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習(精神)	5/15(前期)	1	6	①⑥
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
スクール(学校)ソーシャルワーク演 習	15/15(後期)	1	7	④⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	2	④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	17	⑤⑥⑦
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅠB	15/15(後期)	2	6	①⑤⑥⑨⑩
精神保健福祉の理論と相談援助 の展開ⅡB	15/15(後期)	2	6	①⑤⑥⑨⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	⑫
精神保健福祉援助演習(専門)B	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	6	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

以下、授業アンケートにおける「授業に対する満足度の評価結果」を示す。

アンケート結果によると、授業に対する満足度は、比較的高いようである。

【2017年度】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A	3.9
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B	4.8
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	4.1
精神保健福祉援助演習(専門)A	4.6
精神保健福祉援助演習(専門)B	4.6
スクール(学校)ソーシャルワーク論	4.7
地域福祉論B	4.1
教養セミナーA	3.8

【2018年度】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A	4.8
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B	4.9
精神保健福祉援助演習(専門)A	4.8
精神保健福祉援助演習(専門)B	4.5
教養セミナーA	4.7

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
実習計画書の指導	15	6	2018年6月～7月
実習報告書の指導	15	6	2018年9月～11月
国家試験対策	15	6	2018年4月～2019年2月
2019年新生歓迎会準備	5	20	2018年2月～3月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

青年期における集団形成と人格発達の関連

これまで、摂食障害やひきこもり、家庭内暴力、統合失調症、社会不安障害などを呈する若者と出会ってきました。彼らとの出会いのなかで、彼らは育つ場を奪われているのではないかという問いをも

つようになりました。育つ場とは大それたものではなく、ごくごく日常的な会話—例えば「昨日、何のTV見た?」「今〇〇が欲しいの」「友だちにこんなこと言われた」「家族と喧嘩した」「バイトで褒められた」など—で構成される場です。私たちは日々、無数に交わされる日常的なやりとりによって生活をし、育っていきます。しかし、障害や病気によって、他者とのかかわりが制限され、日常的なやりとりは大幅に減ってしまいます。それが何年も続けば、育ちに大きな差異が生じます。残念ながら、こうした育ちへの支援が十分に機能しているとは言えません。

私は、彼らの育ちを保障するためには、仲間づくりが必要であると考えています。「仲間のなかで育つ」ことが、日常的なやりとりを彼らの生活に取り戻すことだからです。そのため、彼らが仲間づくりの中でどのように育っていくのかを明らかにする研究をおこなっています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	0	0	2	2	430万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:〇頁～〇頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:〇頁～〇頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

【査読付】安藤佳珠子「自己を規定することを求められる若者たち—非正規雇用にみる「自分がどんな人間かわからなくなることの頻度」/2019年3月/『社会福祉学会研究紀要』第13巻・14巻合併号/1-15/単著/原著論文

【査読付】安藤佳珠子「不登校やひきこもりの子ども・若者を対象としたソーシャルワークの課題—メゾ領域に焦点をあてて—/2019年3月/長崎国際大学『長崎国際大学論叢』第18巻/123-134/単著/原著論文

【査読付】安藤佳珠子「語りのなかで育つ摂食障害の若者とソーシャルワーカー—若者の福祉文化の形成を求めて—/2019年3月/『福祉文化研究』第27巻/60-74/単著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
特別研究員奨励費	日本学術振興会	2011年4月～2013年3月	300万円
JSPSS科研費 若手研究	日本学術振興会	2019年4月～2022年3月	130万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
韓国中央大学大学院・ソウル市立青少年職業体験センター	若者のひきこもりの支援の実践妥当性に関する日韓比較研究—集団参加効果の実証化—	2011年8月～2012年3月

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	委員

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
オープンキャンパスワーキンググループ	リーダー	2018年第2回オープンキャンパスにおける学科プログラム運営
教養セミナー部会	委員	教養セミナー部会への参加
専門演習部会	委員	専門演習部会への参加
スクール(学校)ソーシャルワーク部会	部会長	スクール(学校)ソーシャルワーク実習における必要事項の検討
教育向上委員会	委員	教育向上委員会への参加
精神保健福祉士国家試験合格支援委員会	委員	精神保健福祉士国家試験合格支援委員会への参加
学生支援委員会	委員	学生支援委員会への参加
ボランティア研究センター	委員	ボランティア研究センターへの参加
子ども食堂委員会	委員	子ども食堂委員会への参加
保育士講座	委員長	保育士講座の企画・運営
精神保健福祉実習部会	委員	精神保健福祉実習部会への参加

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①清峰高校大学見学会の講師/2018年6月/長崎国際大学
- ②オープンキャンパスにおける模擬グループワークの実施/2018年8月/長崎国際大学
- ③清峰高校大学見学会の講師/2019年6月/長崎国際大学
- ④オープンキャンパスにおける模擬グループワークの実施/2019年8月/長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
8	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子どもの学びを支える-スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働-	2017年8月	長崎国際大学	長崎県教育委員会
スクールソーシャルワーカーの視点と活用	2017年8月	長崎国際大学	長崎県教育委員会
ひきこもりの当事者、その家族の悩みに応える国民年金学習フォーラム	2017年9月	アルカス佐世保	NPO法人フリースペースふきのとう
ひきこもりの若者の国民年金料免除の手続きとソーシャルワーク	2017年12月	長崎県県央保健所	長崎県県央保健所
不登校・ひきこもり支援におけるアウトリーチ実践者養成講座	2018年2月	佐世保市中部地区公民館	NPO法人フリースペースふきのとう
子どもの学びを支える-スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働-	2018年8月	長崎国際大学	長崎県教育委員会
スクールソーシャルワーカーの視点と活用	2018年8月	長崎国際大学	長崎県教育委員会
学校と福祉の連携	2018年8月	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市子ども・子育て会議	委員	2017/04/07～ 2019/08/31	佐世保市長
ふくし教育推進委員会	副委員長	2018/06/01～ 2020/03/31	佐世保市社会福祉協議会 会長
佐世保市地域自立支援協議会	委員	2018/09/01～ 2021/08/30	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2018年12月「くじゃく園で遠足！」の実施

: 中国人の母親とその子どもを対象に、お弁当づくりと遠足を学生主体で実施した。

②2019年2月～「ひきこもりの若者の家族勉強会の実施

: 2か月に1回、ひきこもりの子どもをもつ家族と勉強会を実施している。

③2019年11月「平成28年熊本地震仮設住宅訪問エイサーサークルボランティア」の実施

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会福祉学科プログラム	「子どもの貧困」をテーマに上海大学の学生に講義を実施し、ディスカッションを行った。	2018年8月	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
くじゃく園で遠足	中国人の母親とその子どもを対象に、お弁当づくりと遠足を学生主体で実施した。	2018年12月	長崎国際大学
上海大学社会福祉学科プログラム	上海大学の学生と本学の学生が、「精神保健福祉士の国家資格化」をテーマにした講義を受け、ディスカッションを行った。	2019年7月	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科
上海大学の学生の子ども食堂への参加	上海大学の学生に本学の子ども食堂に参加してもらい、地域の子どもとその親、本学学生と交流を図った。	2018年8月	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2018年度 長崎国際大学大学 ベストティーチャー賞 受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

2年目ということもあり、私自身もリラックスして活動をすることができた。教育においては、グループワークを取り入れたアクティブラーニングを軸に展開している。教員が、グループの力動を、アセスメントし、適切な指導をすれば、学生たちのグループは安定し、積極的に活動することを学ぶことができた。次年度の福祉学科の新入生歓迎会は、私が担当する学生たちが中心となり、進めていくこととなった。学生たちにとって、授業が主体性を育む機会となっていることを願う。また、2018年度はベストティーチャー賞も受賞しており、学生への指導が賞として結果となったことも喜ばしいことである。

さらに、研究に関しては、年3本の原著論文を執筆し、科学研究費も獲得している。地域貢献に関しては、長崎県のひきこもりの家族会と、2か月に1回勉強会を実施している。

全体を通して、まだ2年目ということもあり、教育—研究—地域貢献が十分に連動しているとは言い難い。少しずつではあるが、「この地域にはどのような人材が求められるのか」「どのような生活課題があるのか」「どんな研究が地域の課題に貢献できるのか」という問いをもつようになっている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 石橋 亜矢

1. 教育理念

建学の精神に基づいて、豊かな感性と高い倫理性を備え、社会的責務に対する自覚を身につけた人材の育成。

地域社会における情勢や文化に対して学問的探究心を持ち、共感・共鳴できる感性を養う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	①②⑤⑩⑪
キャリア開発C	3/15(前期)	2	317	①②⑩
介護概論	5/15(前期)	1.5	105	②⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	3	②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
介護における医療的ケア I	30/30(前期)	4	3	②③⑦⑧
介護概論ⅡA	15/15(前期)	2	5	①⑥⑨⑩
介護概論ⅢA	15/15(前期)	2	3	①②③⑤⑥⑦⑧
認知症の理解 I	5/15(前期)	2	31	①⑨⑩
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	39	⑪
専門演習B	15/15(後期)	1	3	①②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
介護における医療的ケアⅡ	15/15(後期)	2	3	②③⑦⑧
介護概論ⅡB	15/15(後期)	2	3	①⑥⑨⑩
発達と老化の理解Ⅱ	10/15(後期)	2	13	①②③⑩
認知症の理解Ⅱ	15/15(後期)	2	12	①⑨⑩
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	7	②④⑥⑦⑧⑩⑫
生活支援技術ⅡB	15/15(後期)	1	13	①②③⑦
社会福祉総合演習(介護)	5/15(後期)	1	3	①④⑪
介護実習Ⅰ	180/180(通年)	4	3	④⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90/90(通年)	2	3	①④⑫
介護実習Ⅲ	180/180(通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の満足度は点数から見れば概ね得られていたようだ。

授業は、アクティブラーニングを取り入れた授業の展開を図るように努めている。必ず、初回の授業で、本授業のマナーをきちんと伝えているので、授業態度は非常に良い。

授業評価は試験だけではなく取り組む姿勢や、マナバでの課題も大切であることを伝えていたので、毎回、課題は提出されていた。受講学生は、部活動生、国家資格を要・不要としている学生で、当初学ぶ姿勢に対する温度差はあったが、授業のマナーにも慣れ学ぶ姿勢や意欲を感じてきた。

また、授業はアクティブラーニングを取り入れることに学生も慣れ、役割を学生自身で決めたり、これまで話したことのない学生との交流も芽生え、わからない事を聞き合う仲になり、試験勉強等の意欲向上にも繋がったと考える。

前回の授業アンケートの学びから、予習・復習の徹底を考え、マナバによる課題と授業評価に課題の成績も取り入れたことで、課題や予習は必ずするものだと認識ができてきた。

アンケートの評価結果は、前回より点数があがってはいるが、学生が授業を受けた態度(準備学修)についての評価は、他の点数と比べて低いので改善していく必要がある。

但し課題はきちんと提出され、授業態度も良いので、そこは学生を評価をしている。また来年度よりカリキュラムが変更となり教科書も変更するのでページ数を明らかにし、準備学修の内容(課題)に対して、学生が学修した感(満足感)が得られるような工夫を検討していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
医療的ケア(実技)	6	3	10月13日、11月10日、17日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

長崎国際大学子ども食堂における学生主体の取り組みと今後の課題

長崎国際大学子ども食堂の取り組み

介護老人福祉施設における介護職の医療的ケアの実践力向上プログラムの開発

がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究/2019年 2月28日/学
術研究報告会/web/単著/論文
長崎国際大学子ども食堂における学生主体の取り組みと今後の課題/2019年/長崎国際教育基
盤センター紀要/掲載予定/共著/研究ノート
第1回 社会福祉学科による学内合同企業説明会の活動報告～社会福祉学科とキャリアセンターと
の活動を通して～/2019年/長崎国際大学社会福祉学会第15号/掲載予定/共著/活動報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
長崎国際大学における子ども食堂の取組み/2018年12月22日/九州大学Qカンファレンス2018
がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究/2019年2月28日/第19
回 長崎国際大学学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	平成30年6月25日 第一回合同企業説明会を企画し実施する。
子ども食堂委員会	副委員長	平成30年度 子ども食堂を本学で3回実施 12月22日 本学の子ども食堂の取組みについて九州大学で開催されたQカンファレンスにおいて発表。
国家試験合格支援委員会	委員	年間を通して、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の受験者に国家試験対策を講じた。
介護クラス委員会	委員	介護クラスの学生対応(実習報告会の責任者として、実習施設の指導者にご参加頂き実施した。本年度よりパワーポイントを使用しての発表とした。)
CHサポートセンター運営委員会	委員	平成30年度、1年間CHサポートセンター室にて相談業務を実施した。
在宅医療・福祉コンソーシアム運営委員会	委員	長崎大学を拠点として、長崎県立大学、本学の大学生を対象に、在宅医療・福祉早期体験学習(長崎市内の地域包括支援センター、訪問看護ステーション)を実施。運営会議への参加と体験学習での指導を実施する。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
子ども食堂	講師	平成30年度 子ども食堂を本学で3回実施した。感染対策研修を実施し、感染が蔓延しない様にした。
オープンキャンパス	講師	7月22日・8月5日・8月19日・3月23日のオープンキャンパスのワーキンググループとして活動した。

(3) 課外活動の指導等

8月22日～24日 3日間

長崎コンソーシアム研修に学生参加の引率 場所:長崎大学

対象:長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学の大学生

プログラム

2日間 地域包括支援センター、訪問看護ステーションに実習

最終日 学生間で実習の学びをまとめ、報告会・ディスカッション・引率教員からの指導

(本学の対象者:薬学、社会福祉学科)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

子ども食堂～本学において、子ども食堂を3回実施した。対象者は地域の子ども児童養護施設の子どもで、参加者を本学HPにて募集した。

エルネック研修～本学において、緩和医療学会研修を実施した。

エンドオブライフケアを行う地域の(佐賀県・長崎県)看護職を対象に企画し募集した。

長崎国際大学研究シーズ集～石橋研究室(社会福祉)を紹介し、多くの企業に閲覧する。

高校訪問～平戸高校に学生募集にて 平成31年3月18日

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
9	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「隣接医学」	平成30年5月1・8日	九州文化学園歯科衛生士学院	九州文化学園歯科衛生士学院
「ヒヤリハット研修」	平成30年9月4日	平戸社会福祉協議会	平戸社会福祉協議会
秋季公開講座 「輝いて生きるには」	平成30年9月29日	長崎国際大学	長崎国際大学
「ELNEC研修」	平成30年10月20日・27日	長崎国際大学	緩和医療学会
救急救命講演会	平成30年11月20日	佐世保広田町	佐世保市
第19回学術研究報告会「がん終末期医療に携わる訪問看護師のストレスと関連要因に関する研究」	平成30年11月20日	長崎国際大学	長崎国際大学
長崎国際大学子ども食堂の取り組み	平成30年12月22日	九州大学	九州大学
「日本における老年看護学」	平成30年9月11日	中国上海大学	中国上海大学
介護支援専門員試験対策講座	平成30年8月9日	特別養護老人施設やまずみ荘	特別養護老人施設やまずみ荘

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ作戦推進会議委員会	長崎県高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ作戦推進委員	2018/04/01～ 2019/03/31	長崎県福祉保健部長
介護認定審査会委員	介護認定審査会委員	2019/03/16	長崎県長寿社会課長
佐世保市介護認定審査会委員	介護認定審査会委員	2019/3/11、3/19、 3/26	佐世保市長寿社会課介護保険係

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

平成30年 7月23日、11月18日、12月22日 「子ども食堂」 企画・運営を学生と一緒にやり、地域の子どもや養護施設の子どもを対象に実施し、副委員長として参加。主催:長崎国際大学社旗福祉学科

平成30年9月29日 秋季公開講座テーマ「輝いて生きるには」を実施。長崎大学教授、佐世保医療センター医師に講演頂き司会を務める。主催:長崎国際大学

平成30年10月20日・27日 「ELNEC研修」を地域の看護師を対象に企画・運営し、本研修の代表として講師を務める。主催:長崎国際大学

平成30年10月21日 「佐世保市釜墓地の清掃ボランティア活動に救護」として参加。主催:佐世保市

平成30年11月20日 「救急救命講演会」研修・企画・運営し講師として参加。主催:佐世保市

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
NIU海外ソーシャルワーク研修	上海大学と長崎国際大学の教員と学生との交流	平成 30 年 9 月 10日(月)～ 平成 30 年 9 月 14日(金)	中国 上海大学

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
NIU海外ソーシャルワーク研修(2018年)	長崎国際大学より「日本における老年看護学」について講演	平成30年9月10日～9月14日	中国・上海大学	中国上海大学

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学入職後2年が経過する本年度(平成30年度)は、昨年度の経験を活かし、大学における教育活動に積極的に参加した。

まず、就職委員として、キャリアセンターとともに社会福祉学科初となる合同企業説明会を行った。学科の先生方の協力を頂きながら盛大のうちに終え、本学科の論文集に説明会について掲載した。

また、国際交流として、NIU海外研修(於:中国の上海大学)では、「日本における老年看護学」に関しての講演依頼があり実施した。本研修では、学生の体調管理の役割を担うべく学生引率を行ったが、実際に体調不良を起こした学生の対応をする場面もあった。

秋季公開講座では今回、長崎大学、佐世保医療センターと連携し、「輝いて生きるには ～クオリティの高い人生をめざして～」をテーマに市民向けに講演を行った。

子ども食堂では、年3回の行事を本学で実施し、学生募集、学生への研修、および対象の子どもたちへの広報活動を行った。

また、本年度は、サポートセンターの一員として、学生の支援を行っており、障がいを抱えている学生ならびにメンタル面でのフォローが必要な学生に対し、真摯な態度で接しながら、充実した大学生生活を送ってもらえるよう支援を実施した。それにより大学内の動きを知ることもできた。

地域貢献としては、佐賀・長崎県の地域の看護師を対象に、福岡、佐賀(石橋)、長崎県の認定看護師、専門看護師が講師を務める形で「ELNEC研修」を開催した。そこで、地域の病院でがんサロンを立ち上げる案を聞いたが協力していきたい。

また、31年度より佐世保市の介護保険認定審査委員会で認定審査委員として活動する予定となっているが、今月からそのための研修を受講しているが、即戦力として円滑な業務を提供できるようにしていく。

教育面では、本学科の国家試験対策委員として学生の国家資格取得のサポートを行った。主に介護福祉士の全員合格と介護クラスの学生においてはダブル合格100%を目指し、学生のモチベーションの維持・向上を図りながら包括的に国試対策を展開した。その結果、介護福祉士の合格率は100%とダブル合格100%と好成績を収めた。受験学年だけでなく2年次から早期に国家試験対策を行うことで、国家試験に対する意識を高め、確実な理解につなげていけるよう、次年度も引き続き実施していきたい。また、こうした取り組みにより将来地域で活躍できる人材の育成に貢献したい。

そして、本年度は公開授業を実施したが、先生方から頂いたご評価、ご指摘を、今後につなげていきたい。学生からのアンケート評価でも評判が良かったので、さらに工夫をしていきたい。

研究面では、医療的ケアの教育プログラム開発研究について科研に応募した。また、合同企業説明会や子ども食堂の活動報告を論叢に掲載し、九州大学のポスター発表では活動報告等を行った。

その他、企業向けの研究シーズ集で私の研究を紹介していただいた。本学の学術研究では、「がん終末医療における訪問看護師のストレス」について発表を行った。

来年度は二本の学会発表を控えているので、継続して書き足していきたい。また、来年度の課題としては早期に博士課程論文に取り組むことである。

今年度行った活動を来年も継続していけるように、上司との報連相を怠らずに前向きに取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 浦 秀美

1. 教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観(介護観)を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸にしつつも最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習A	15/15(前期)	1	3	⑤
介護概論ⅠA	15/15(前期)	2	13	②⑤⑨
介護援助技術	15/15(前期)	1	9	②⑥⑦⑩
介護総合演習Ⅲ	15/15(前期)	1	3	④⑥⑩⑫
生活支援技術ⅡA	15/15(前期)	1	13	②⑨⑪
生活支援技術ⅢA	15/15(前期)	1	5	②⑤⑦⑩⑪
介護過程ⅡA	15/15(前期)	1	3	④⑤⑥⑦
介護過程ⅢA	15/15(前期)	1	3	④⑤⑥⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
介護福祉論	15/15(後期)	2	60	②③⑨
専門演習B	15/15(後期)	1	3	⑤
介護概論ⅢB	8/15(後期)	2	3	②⑤⑪
介護過程Ⅰ	15/15(後期)	1	3	④⑤⑥⑦
生活支援技術ⅢB	15/15(後期)	1	3	②⑤⑦⑩⑪
社会福祉総合演習(介護)	5/15(後期)	1	3	①④⑪
介護総合演習Ⅰ	30/30(通年)	2	3	⑤⑥⑦⑫
介護実習Ⅰ	180/180(通年)	4	3	④⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90/90(通年)	2	3	①④⑫
介護実習Ⅲ	180/180(通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

介護概論ⅠA

本科目も他の科目のこれまでの授業アンケート結果と然程変わりはなく、おおよそ平均値を上回る結果となった。

自由記述に、「90分座り続けると眠くなるので工夫を」というものがあった。また、「アクティブラーニングが全くできていないと感じた」というものもあった。自身としては、前回の授業で学んだことを復習という意味合いで確認し、その際に学生に問いかけ、答えさせるということにより眠気への対応やアクティブラーニング(本科目においては、ディベート、小テスト、興味を持たせる介護の現在、取り組みについての情報提供)はしてきたが、時にディベートについては回数が少なかったのかもしれない。こ

の他にも工夫が必要ということが把握できたので検討していきたい。

そして、本科目は予習と復習を学生自身が意識的に捉えることを念頭に置き、予習・復習シートを作成し取り組んだ。他の科目でも実施しているが、今後も学生の学修への取り組み意欲向上のために工夫を重ねていきたいと考えている。

教養セミナーA

昨年度同様、今年度も共通シラバスにて取り組み展開した。昨年度担当したこともあり、今年度はよりアレンジを加えながら展開ができたと考えている。今回も高評価であったことは率直に嬉しかった。担当している学生全員が他者のことを気にかけてくれたことはセミナー運営に大きく影響を及ぼした。教員自身も全員を巻き込みながら演習展開していたが、学生が自発的に全員を巻き込むアクションをおこしてくれた。穏やかで楽しく、和気あいあいとした雰囲気が構築できた。

いつでも傾聴ができる姿勢を受講学生に示すことを意識していたことがよかったのか、昨年度よりもセミナー時間外での相談、オフィスアワーの活用などもできた。本科目に限らず、受け入れる・受け止める姿勢を伝えつつ、大学生活が円滑に送れるためにできることを常に考え、調整し、挑戦していきたいと考えている。

介護福祉論

本科目において、全般的にはある程度の質を維持した授業展開ができていたことが評価により認識できた。

本科目は法制度などを取り扱ったり、専門用語を使用できるようになるための授業を展開している。また、受講学生の「介護」への苦手意識やネガティブ意識もあることから、意識の変容についても例年通り意識しながら授業展開を行った。授業で使用するテキストの他にも、より理解の深まる本の紹介や、利用者も実際使用しているエンディングノートや福祉用具など「実物」を極力見せ、触れさせて授業ができたことは、理解の深化につながったと評価している。

今後は、配付プリントの工夫や授業の進め方、介護のイメージの変化につながるような授業を行っていきたいと考えている。また、学生と教員、学生同士の双方向で意見交換やディスカッションも取り入れた授業を展開させていきたい。そして、本科目は国家試験の出題科目でもあるので、さらに出題項目の分析なども加えて、学生に授業の中で情報提供し、卒業年次まで継続した学修をしていく必要があることを伝え、学ばせていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
介護実習報告書作成の補習	1	1	2018年7月5日、7月17日、8月2日、8月6日、9月18日、9月26日
介護福祉士国家試験特別講座	2	3	2018年9月10日、9月12日
介護福祉クラス学生 社会福祉士国家試験対策支援	2	2	2019年1月28日、1月29日、1月30日、1月31日
生活支援技術ⅢB 実技チェック前補習	1	1	2019年1月23日
生活支援技術ⅢB 実技チェック(インフルエンザによる欠席に伴う補い実施)	1	1	2019年2月1日
生活支援技術ⅢB 実技チェック(再チェック)	2	2	2019年2月6日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

介護福祉
 介護福祉教育
 介護福祉士養成教育
 福祉分野における現場実習と教育
 福祉分野における人材養成(育成)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 精神保健福祉士国家試験模擬問題集 専門科目 2019/共著/2018年7月30日/中央法規出版
 株式会社/(問題)68、116-118(解答)90-91、163-165

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
社会福祉学科運営委員会	委員	学科会議開催前の委員会開催時、資料確認や、審議事項・報告事項の精査に取り組んだ。
介護福祉クラス委員会	委員長(教務主任)	定例社会福祉学科会議及び臨時社会福祉学科会議に向けた審議事項・報告事項の整理を行った。また、委員会開催における日程調整と審議進行、資料作成を行った。
教育内容向上委員会	委員	介護福祉士養成課程におけるカリキュラム改正に伴う読み替え科目の検討と提案を行った。
介護福祉士国家試験合格支援委員会	委員	①社会福祉総合演習(介護)のプログラム調整、②模擬試験に向けた調整(実施日提案、費用支払い等手続き、外部への広報等)、③社会福祉学科会議資料の作成、④個別面談概要作成等に取り組んだ。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①介護職員初任者研修課程における介護技術習得(入浴介護・身体の清潔)／九州文化学園高等学校／7月9日／場所:長崎国際大学介護実習室及び入浴実習室、家政実習室

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①九州文化学園高等学校進学説明会／2018年6月8日／九州文化学園高等学校体育館

②介護の魅力フェア／2018年7月12日／シーハット大村

③九州文化学園高等学校進学説明会／2019年3月4日／長崎短期大学大講義室

④平成30年度長崎県地域医療介護総合確保基金事業介護福祉士養成施設説明会／2019年3月18日／長崎県立平戸高等学校

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度 長崎国際大学春季公開講座 知っておこう介護予防、自身でできる介護予防	2018年6月16日	長崎国際大学	長崎国際大学
教員免許状更新講習会	2018年8月20日	長崎国際大学	長崎県教育委員会
平成30年度 介護福祉士実習指導者講習会	2018年11月24日	長崎短期大学	公益社団法人日本介護福祉士会・一般社団法人長崎県介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
入所検討委員会	第三者委員	2015年12月18日～現在に至る	特別養護老人ホームサンホーム江上 石本直大理事長
平成29年度介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	2016年10月7日～現在に至る	一般社団法人長崎県介護福祉士会
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会九州ブロック	監査員	2018年5月7日～2019年4月25日まで	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会九州ブロック

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院 2018年度長崎国際大学社会福祉学科短期研修	介護全般に関する説明と解説、質疑応対、福祉用具と介護演習施設の案内(介護実習室・入浴実習室)を行った。	2018年7月19日(木)	長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

昨年度も多忙を極めた一年であったと締めくくったが、今年度は昨年度をさらに上回る多忙さがあったと感じている。その要因として、介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に伴う、読み替え科目の検討やシラバス再編の手続きが挙げられる。改正手続きに向けて、教務課を始めとした他部署と連携を図るとともに、社会福祉学科教員にも協力を仰ぎ手続きを進めることができた。自身としては他部署や学科教員と連携を図ることができたと考えていたが、学科教員とはさらに連携を図りながら手続きに事を運んだ方がよかったかもしれない案件もあり、いずれにしても大変良い学びの機会となった。

学生との関わりとしては一年生、三年生のゼミを受け持ち、学生との適度な距離感を図ることを念頭に置いて関わった。適度な距離を確保しながら学生の主訴をキャッチするようなアプローチに尽力し、実践できたと考えている。一年生ゼミには配慮を要している学生が所属していたこともあり、学科内に設置されているSA制度を活用しながら当該学生の不安感の軽減や初年児教育に寄与できたと考えている。

介護福祉士養成に係る教務主任として、前年度からの課題でもあった専任教員との連携、それぞれの教員の思いを汲み取り、調整を図ることも努力した。報告・連絡・相談を求め取り組み情報共有を図ることを目標にしたが、報告をいただけなかった案件もあり、主任への信頼をいただけていなかったとも考えられる。十分な協力体制関係には至らなかったと反省している。来年度は新たな専任教員を迎えることになることから、その先生が馴染みやすい環境を整えることにも尽力し、現在連携・協力体制の図ることのできている専任教員と共に介護福祉クラス所属学生増加に向けての取り組みも強化していきたいと考えている。また、介護福祉士国家試験合格率100%を継続するべく対策も講じていきたい。そして、養成教育の柱ともいえる実習教育についても環境を整備していきたい。学生数を増やしていくと同時に実習施設が必要となることから、今年度末に取り組んだ介護実習施設の新規開拓を来年度も行い、学生が実習に集中できる実習先獲得に奔走したい。

反省点は研究面である。自身の経験や取得資格を活かした模擬問題の作成、出版できたことは評価したいが、共著や単著としての論文作成は叶わなかった。来年度は学科共同研究費を獲得して国

家試験もしくは実習に関する研究をする計画をしているので、最低でも共著を執筆できるように努力したい。また、先に挙げた模擬問題作成については先方からの求めがある限りは継続していく。模擬問題集の作問から模擬試験の作問、そして国家試験作問といった発展的な展開につながる可能性もあると考えられるため、これまで以上に意識的に積極的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 Virág Viktor

1. 教育理念

文化や性の多様性の尊重を含めて、グローバル時代において有資格の対人援助人材に求められる専門的な力量を身につけるために、個別にあるいは他者と共に主体的に取り組む機会を提供する教育に従事する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
社会福祉調査論	9/15(前期)	2	50	①④⑤⑥⑦⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅠA	15/15(前期)	2	65	①④⑤⑦⑨⑩
相談援助の理論と方法ⅡA	15/15(前期)	2	50	①④⑥⑨
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	15	④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①④⑥
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪⑫
国際コミュニティ・ケア論	13/15(前期)	2	3	④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	15/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑥⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅡB	15/15(後期)	2	46	①④⑤⑨⑩
相談援助演習Ⅰ	15/15(後期)	1	11	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	10	①⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	15/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前年度までの経験、学生の成績、授業評価の結果を踏まえ、今年度中は全体的に国家試験に向けた定期的な学習を促す教育を実施した。第一に、講義科目(相談援助の理論と方法、社会福祉調査論など)において、小テストと過去問題を解く及び解説する時間を増やし、授業評価と学生の成績面でも昨年度より良い結果につながった。続いて、実技科目(相談援助演習、相談援助実習指導など)では、教員が発言する時間を減らし、グループで取り組めるPBLの機会を多く提供し、学生の専門職を目指す者としての成長と社会的なスキルの向上がみられ、学生の実感と授業評価にも改善がみられた。最後に、ゼミ科目(教養セミナー、専門基礎演習、専門演習)において、頻繁に学生に問いかけるようにし、個別の主体性の発揮と共に、お互いを知る機会と団結力の形成の効果がみられ、学習の成果物(卒業論文、レポート、発表、その他の課題)のレベルも、授業評価も上がった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
一橋大学	Global Leaders Program	2/15(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士国家試験合格支援	2	数名	5/30、6/6
社会福祉士国家試験合格支援(前期追加学修時間)	4	35	6/8、7/13、7/20
社会福祉士国家試験合格支援(夏季集中講座)	2	24	8/22、8/23
社会福祉士国家試験合格支援(夏季集中講座補講)	2	15	10/11、10/29
社会福祉士国家試験合格支援(後期追加学修時間)	4	35	11/12、11/26、12/10、1/10
社会福祉士実習計画指導	7	6	5/24、5/29、6/1、6/4、6/11、7/26、9/24
社会福祉士実習報告指導	9	6	11/9、11/12、11/14、11/15、11/19、11/26、11/27、11/28、12/7
ゼミ生個別指導(履修、生活、異動、卒業論文など)	12	1	4/12、7/12、9/7、9/8、9/29、10/1、10/4、10/18、10/23、11/6、2/19、3/6

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 多様性に配慮したソーシャルワーク
- ② 国際社会福祉

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	7	2	4	11	8	3,833万円 1,500米ドル

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:〇頁～〇頁)

多様性時代のソーシャルワーク:外国人等支援の専門職教育プログラム/単著/2018年8月/中央法規出版/260

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:〇頁～〇頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

対人援助実践における多様性(diversity)概念の範囲:ソーシャルワーク専門職に係る倫理文書等の国際比較/2018年9月/保健と科学/580-587/単著/論文

国家試験内容の深化を目的とした学生発表とリアルタイム・テストの活用/2019年3月/長崎国際大学基盤センター紀要/未定/単著/未定

長崎国際大学子ども食堂における学生主体の取り組みと今後の課題/2019年3月/長崎国際大学基盤センター紀要/未定/共著/論文

社会福祉系学生の進路傾向と国家資格取得状況:希望及び決定進路と社会福祉士国家試験/2019年3月/長崎国際大学論叢/未定/共著/論文

Raising Social Work Students' Sense of Belonging to the International and National Professional Community: Utilization of Japanese Social Worker Day and World Social Work Day for Extracurricular Learning/2019年3月/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要/未定/単著/論文

World Social Work Day Event in Tokyo:Examining the Global Definition and its Asia Pacific Regional and Japanese National Amplifications in relation to Social Work Practice/2018年5月/CHECK IT OUT! APASWE/電子版/単著/学会等報告

多様化するソーシャルワークの対象者と担い手/2018年9月/日本ソーシャルワーク学会通信/12/単著/学会等報告

社会の中の多様性に対応したソーシャルワーク教育の原点/2018年10月/ソーシャルワーク研究/73-76/単著/書評

社会福祉教育・研究に係る最新の国際動向/2019年1月/日本社会福祉教育学会ニュースレター/6-7/単著/学会等報告

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

Sexual Diversity in Japan and Social Problems in LGBT Communities／2018年7月／Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development

北方先住民族のソーシャルワークに関する国際比較研究:日本のアイヌとフィンランドのサーミに焦点をあてて／2018年7月／日本ソーシャルワーク学会

Awareness Raising for Social Work Students towards Heightened Professional Identity／2018年8月／Asia Future Conference

社会福祉系学生の国内外専門職コミュニティへの帰属意識向上:課外学習における日本ソーシャルワーカーデーと世界ソーシャルワークデーの活用／2018年9月／日本社会福祉教育学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
【単独】東アジアの大都市圏に居住する先住民族に対応したソーシャルワーク実践モデルの検討:先住地域から離れて生活するアイヌと台湾原住民の相談実践から	ひと・健康・未来研究財団	2018年9月～2019年8月	100万円
【共同】Research on Models of Social Work and Curriculum Development for Global Social Work	国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)	2019年1月～2020年6月	1,500米ドル
【共同】産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出(「認知症対策としての研究開発状況に関する調査」班)	国立研究開発法人日本医療開発機構(AMED)	2017年10月～2027年3月	3,500万円
【共同】Developing Social Work Practice Models and Educational Curricula Responding to a Global Society	日本学術振興会(科研費)	2018年10月～2022年3月	0万円
【共同】多文化共生ケアシステムにおけるグローバル・ソーシャルワークの理論的・実証的研究	日本学術振興会(科研費)	2019年4月～2022年3月	0万円
【単独】International Study on the Development of Indigenous Social Work Models	日本学術振興会(科研費)	2019年4月～2023年3月	0万円
【共同】国際的な学生リーダーの育成事業	社会福祉学科	2018年4月～2019年3月	20万円
【共同】長崎国際大学の子ども食堂の活性化に向けたフィールドワーク	社会福祉学科	2018年4月～2019年3月	13万円
【共同】ソーシャルワーク活動における国際的な学生リーダーの育成	学長裁量経費	2018年6月～2019年2月	50万円
【共同】「起業部」創立支援事業:大学発ベンチャー創出を目指して	学長裁量経費	2018年6月～2019年2月	100万円
【共同】「子どもの貧困問題」にかかわる調査研究:子ども育成の視点から	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	2018年9月～2019年3月	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
東京	東京のアイヌ相談員の実践知に関するインタビュー調査	2019年2月中10日間
台北	台北の台湾原住民相談員の実践知に関するインタビュー調査	2019年3月24日～2019年3月30日
ブダペスト	ハンガリーの認知症対策に関する調査	2019年1月2日～2019年1月5日
ベルファスト	北アイルランドの紛争解決ソーシャルワークに関するフィールドワーク	2018年7月3日

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
【全学】地域連携センター	委員	なし
【学科】教育内容向上委員会	委員	なし
【学科】専門基礎演習部会	部会長	2年生主任
【学科】専門演習部会	委員	なし
【学科】教養セミナー部会	委員	なし
【学科】相談援助演習部会	委員	相談援助演習ⅡA及び相談援助演習ⅡB担当
【学科】実習委員会社会福祉士部会	記録係	議事録作成担当
【学科】IR・AP事業等委員会	委員	委員長補助
【学科】国家試験合格支援委員会	委員	委員長補助
【学科】社会福祉士国家試験合格支援委員会	委員	委員長補助
【学科】卒業生等連携委員会	委員	なし
【学科】子ども食堂委員会	委員	QSP連携担当
【学部】学部教授会担当委員会	委員	次第案作成担当
【学科】福祉作文コンクール委員会	委員	学校訪問・審査員・当日司会担当
【学科】海外ソーシャルワーク研修委員会	委員長	中国・上海訪問
【学科】上海大学受入委員会	委員	委員長補助
【全学】産学連携専門委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
【全学】私立大学等改革総合支援事業タイプ5「プラットフォーム」形成ワーキンググループ	メンバー	「子ども育成」専門委員会担当
【学科】オープンキャンパス・ワーキンググループ	メンバー	第3回担当
【学科】将来構想を考える会	メンバー	ワークショップ補助

(3) 課外活動の指導等

- ①NIU海外ソーシャルワーク研修 担当
- ②ふくし作品コンテスト 担当
- ③世界ソーシャルワークデー動画プロジェクト 担当

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①全オープンキャンパスふくし作品コンテスト作品集配布/7月22日・8月5日・8月19日・3月23日
- ②福祉作文コンクール学校訪問/5月22日/広田中学校
- ③ソーシャルワーク合同世界会議(アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟ブース)本学案内英文冊子配布(100部)/7月4日~7月7日/ダブリン
- ④第2回オープンキャンパス社会福祉士ブース担当/8月5日/本学
- ⑤第3回オープンキャンパス全体司会・学科説明・ふくし作品コンテスト作品紹介担当/8月19日/本学
- ⑥開国際「福祉作文コンクール表彰式」司会/11月3日/本学
- ⑦開国際「NIU海外ソーシャルワーク研修報告会」司会・報告資料集配布/11月3日/本学
- ⑧取材「平等な社会の実現を模索:文化・民族に対する感受性と力量を高めることが不可欠」/2月1日/長崎新聞NR
- ⑨世界ソーシャルワークデー動画国内外配信(2件)/3月19日/オンライン
- ⑩第4回オープンキャンパス全体プログラム総括担当・動画上映/3月23日/本学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	7

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
グローバル化を意識したソーシャルワーク	2019年3月21日	アルカス佐世保	県北に在住・在籍する相談員の集い

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW)アジア太平洋地域	会長補佐	2015年6月～2018年 7月	日本ソーシャルワーカー連盟
アジア太平洋ソーシャルワーク 教育連盟(APASWE)	理事	2017年9月～現在	役員選挙当選
日本ソーシャルワーク教育学校 連盟国際関係委員会	委員	2017年4月～現在	国際関係担当理事
日本ソーシャルワーカー連盟国 際委員会	委員	2015年6月～現在	国際委員長
日本ソーシャルワーカー協会国 際委員会	委員	2018年8月～現在	会長
日本社会事業大学社会事業研 究所	研究員	2015年4月～現在	所長
日本社会福祉教育学会査読委 員会	委員	2018年11月～現在	会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2015年4月～現在 国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)・日本ソーシャルワーカー連盟・日本
ソーシャルワーカー協会会員
- ②2018年9月15日 QSP「認知症予防推進のための多職種協働研修会」実施運営
- ③2018年11月18日 長崎国際大学子ども食堂実施運営

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
NIU海外ソーシャルワーク 研修	海外研修(訪問)	9月10日～9月14日	長崎国際大学・上海 大学
国際社会福祉研修	海外研修(受入)	7月18日～7月28日	上海大学・長崎国際 大学
グローバルなソーシャル ワーク実践講座	グローバル定義と実践の 検証	12月2日	日本ソーシャルワー ク教育学校連盟
国際ソーシャルワーカー連 盟(IFSW)事務局長会談	訪日対応	12月18日	日本ソーシャルワー ク教育学校連盟

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
Asia Pacific Joint Regional Social Work Conference	顧問委員・グローバルアジェンダ担当・プレ企画担当	2019年9月18日～20日	インド	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE)
国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW) セミナー	翻訳・実施運営・通訳	1月13日	明治学院大学	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development (IFSW関連)	総会傍聴	7月1日～2日	ダブリン	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development (APASWE関連)	理事会出席・ブース担当	7月4日～7日	ダブリン	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE)
Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development (IFAP関連)	理事会傍聴	7月5日	ダブリン	国際ソーシャルワーカー連盟 アジア太平洋地域 (IFAP)
Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development (IASSW関連)	総会出席・理事会傍聴	7月6日～7日	ダブリン	日本ソーシャルワーク教育学校連盟
Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development (HKSWA関連)	香港政府労働福祉部昼食会参加	7月6日	ダブリン	香港ソーシャルワーカー協会 (HKSWA)
Asia Future Conference	学術委員	2020年1月9～13日	フィリピン	渥美国際交流財団
Asia Pacific Joint Regional Social Work Conference	開催国審査員	2021年	未定(審査対象)	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE)
Indigeneity in Asia and Pacific Social Work Webinar	担当	6月26日、10月24日、2月19日	オンライン	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE)

(3) その他特記すべき活動

①3月19日 世界ソーシャルワークデー動画国際配信

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】担当科目数とコマ数が増加した中、教育理念に基づいて授業を行ない、アクティブラーニングの機会を増やした。授業評価の結果も、学生の知識等の修得度も向上がみられた。授業外教育の機会が増え、ゼミ生や実習生の個別対応に、保育士と社会福祉士の国家試験合格支援に専念し、これからも活動を継続していく。

【研究活動】国内外の学会発表等や論文等も、助成研究事業等も、留学等も増加した。特に、単著出版と複数の国内外共同研究の機会拡大が大きな成果である。他に、学術界における活動の一環として、国内外の学会等の委員等を務めた。全体的に、多様性、特にアイヌをはじめとした先住民族等のマイノリティに配慮したソーシャルワークの研究を深め、参加型実証研究を進めた。

【大学運営活動】全学とも学科とも委員会等の役割が増えた。また、学生の意識向上と学科のイメージ・アップにつながる複数の国際的な課外活動を担当し、これらの成果物も含めて、定員充足を念頭に、広報活動において国内外に情報発信を行った。今後もこれらの活動を継続する予定である。

【社会活動】依頼講演を引き受けるとともに、業界団体の委員等の立場で、アジア太平洋地域及び国際社会に貢献する各種事業に関わっており、国内ではアイヌの語り合い会の企画を進めている。また、地域では子どもと認知症関連の企画に携わっている。これらの活動をこれからさらに深めていく。

【国際交流】本学と上海大学が進めている各種交流事業において訪問研修を担当し、受入研修の補助を行った。また、日本ソーシャルワーク教育学校連盟と日本ソーシャルワーカー連盟を通じて、リージョナルとグローバルな業界団体において複数の国際活動に従事している。その中で、国内外の国際学会等において、学術等委員、顧問員、開催国審査委員、各種企画の担当者を務めている。なお、学生と作成した動画の国際配信を行った。今後もこのような機会を設けるようにする。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 金澤 由佳

1. 教育理念

大卒は、本学の人間尊重を基本理念とし、ホスピタリティの獲得という到達目標を掲げる。

さらに、社会福祉学科教員として、学生が社会福祉および関連する領域の専門的知識を修得し、活躍できる人材となれるよう努める。

具体的には、授業、その他の活動でも学生、教員全員が参加する場となるように心掛ける。

1. 専門力…教科書を中心に進める、生の現場(臨床)を知る
2. 情報収集、分析力…学生自身が情報を集めてともに問題解決能力を養う
3. コミュニケーション力…教員、友人、現場(臨床)の方とコミュニケーションを図る
4. 協働・課題解決能力…他人と協働で問題解決することができるようにする
5. 多様性能力…より広い知識をつける

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
更生保護論	15/15(前期)	1	49	①④⑤⑥
精神保健A	15/15(前期)	2	40	①④⑤⑥⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑦
精神医学A	15/15(前期)	2	55	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	4/15(前期)	1	6	④⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉制度論A	15/15(前期)	2	55	①④⑤⑨⑩
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	⑤⑥⑦⑧⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習(精神)	5/15(前期)	1	6	①⑥
権利擁護と成年後見論	15/15(後期)	2	69	①④⑤⑥
精神保健B	15/15(後期)	2	38	①④⑤⑥⑩
障がい者スポーツ	2/15(後期)	2	39	⑪
専門演習B	15/15(後期)	1	7	⑤⑥⑦⑧⑩
精神医学B	15/15(後期)	2	45	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	7	①⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	⑫
精神保健福祉制度論B	15/15(後期)	2	48	①④⑤⑨⑩
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	⑤⑥⑦⑧⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	2/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	6	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

国家試験科目でありながら、学生にとって身近な「(テクニカル)単語」ではないので丁寧に授業を展開してきました。担当科目は講義科目のため、どうしても説明が多くなるので教科書を使いマークしながら学生を集中させる努力をしました。講義科目ながらできる限りワークを取り入れ事例にたくさん触れてもらいアクティブに行っていました。詰め込みだけではなく、こうして学生が意見をお互いに出し合う時間も作っていきたいと思います。

また、全ての学生が国家試験を受ける学生ではないので、はじめにブレインストーミングで話し合いをさせたり楽しさも忘れないように工夫してきたつもりです。しかし、楽しさを重視すると成績優秀者たちが飽きてしまうのではないかと難しさが残っている。授業展開のスキルが必要である。

そして、担当科目はほとんどが国家試験科目ですが、国家試験レベルまで到達できたかと問

われると分野によってムラがあるので反省している。時間を上手に配分して国家試験のためのコアな時間も作りたいと思います。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援夏季集中講座	2	30	2018年9月27日、10月18日
精神保健福祉士国家試験対策補講	2	6	2018年9月18日
社会福祉士国家試験合格支援後期追加学修	4	30	2018年11月1日、11月15日、11月29日、12月18日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

精神障害者、触法精神障害者に対する強制的な医療

- ・精神保健福祉法
- ・医療観察法
- ・社会復帰

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
久塚純一先生古稀論文集/共著/未定/成文堂/未定

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
沖縄宜野湾市	沖縄在住米軍の実態調査	2019/3/9～3/12

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	春・夏のオープンキャンパス、入試業務、センター試験業務、教員の出張依頼などを精一杯行いました。
倫理委員会	委員	調査等の倫理審査。
学内学会委員会	委員	上海からの留学生のおもてなしと発表。
福祉作文コンクール	委員	開国祭で開催されるコンクールに向けて、作文の審査と表彰式の準備。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

該当事項なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

学生募集のためにプロジェクトをドクモカフェと協働して計画した。来年度から始動予定である。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック精神保健福祉士養成教育・研究部会研修会パネリスト	平成31年2月28日	九州産業大学	九州産業大学人間科学部臨床心理学科
Japanese and Chinese Compulsory Medical Treatment	平成30年7月20日	長崎国際大学	本学社会福祉学科

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市人権施策審議会	委員	平成29年10月1日～現在に至る	佐世保市長
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	平成29年11月10日～現在に至る	佐世保市長
福岡地方自治研究所	研究員	平成29年～現在に至る	所長 久塚純一
ソ教連九州ブロック担当委員	委員	平成30年～現在に至る	本学社会福祉学科

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・9月13～15日 「日本精神保健福祉士協会全国大会」 運営ボランティア委員として参加
- ・10月8日 「ウォーキングゲームラリー」 運営ボランティア委員として参加
- ・2月11日 「心の健康フェスティバル」 運営ボランティア委員として参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

該当事項なし。

7. 受賞等

該当事項なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】

わかりやすい授業、興味をもたせる授業、そして国家試験に対応できる力をつける授業を引き続き目指していきたいと思う。授業の準備にできる限り時間をかけたいと思う。

【研究】

年度内に博士学位を取得するつもりでいたが、間に合わなかったので来年度は必ず取得するつもりである。また、博士論文が終わったら、学科の先生との共同研究にも力を入れて発表していきたいと思う。

【業務】

学内業務でとくに力を入れていたのは、入試募集委員会である。オープンキャンパス、入試業務、学科の先生への出張依頼など責任をもって取り組んだ。(来年度も継続とのことなので)さらに良い学科になるように自分ができることを委員として行っていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 種橋 征子

1. 教育理念

社会福祉における援助は、クライアントがワーカーとの関わりを通して安心感や自信を得ることで、自分の生活課題や現実に向き合い、自分の居場所を得たり、生活を立て直していくことを支えることである。そして、ワーカーはそういったクライアントの変化に援助のモチベーションを高めるなど、関わりを通じ、互いに成長する中で援助は展開される。そのような援助を展開していくために、学生には同じ痛みを抱える存在としての自他の対等性や、人は誰しも、関わりを通して変わることができる可能性を持っていることなど、確固たる人間観や援助観を醸成できるよう教育していきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	④⑦⑫
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	①④⑥⑦
福祉経営論	15/15(前期)	2	47	①⑤
福祉行財政と福祉計画論	15/15(前期)	2	50	①
社会福祉総合演習(福祉共通)	15/15(前期)	1	36	①④⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
社会福祉発達史	15/15(後期)	2	8	①②
相談援助演習Ⅰ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑩⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	5	④⑥⑩⑪
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	③⑤⑥⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	15/15(後期)	1	34	①④⑪
相談援助実習	90/90(通年)	4	5	⑪⑫
福祉科教育法	15/15(通年)	4	2	①②③④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉政策経営特講	15/15(前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義科目である「福祉経営論」「福祉行財政と福祉計画論」「社会福祉発達史」は、いずれも理解度、

満足度とも3点台であった。特に国家試験科目である「福祉経営論」「福祉行財政と福祉計画論」は、学生にとって難易度が高い科目である。また、歴史は好き嫌いのはっきり出る科目でもある。

しかし、「教員の話し方」や「熱意が感じられるか」の評価については、4以上の科目もあるため、来年度は、この評価を受けた授業に対する姿勢はそのままに、「わかりやすさ」を意識して授業づくりを行っていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
椋山女学園大学	ソーシャルワーク演習Ⅱ	15/15(集中)	1	14

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験科目補習		35	夏期休暇2日、冬期休暇2日、後期木曜1時間目等

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「介護福祉施設における理念浸透の研究」

本研究の目的は、介護福祉施設における理念浸透の実態とその阻害要因を明らかにすることである。理念浸透の実態は、事業所として経営理念をどう職員に伝えマネジメントに反映させているのか(制度化)、各職員が理念をどう理解し、援助に際してどう体现しているのか(内面化)、組織、個人の二つの側面から明らかにすることである。

「介護職員に対する『ケア』の概念についての研修プログラムの開発」

本研究では、介護労働者が援助の基盤となる価値として「ケア」の概念を理解し、内在化するための教育、研修方法を開発する。申請者は今までに、介護老人福祉施設の利用者と介護職員の互いの認識から「ケア」の概念を明らかにし、2013年にその概念を用いた研修プログラムを1施設10名の介護職員に実施し、研修方法の課題を考察している。本研究では、そこで得られた課題(利用者との関わりを経験を振り返る際の概念化の困難さ等)を検証し、克服する形で研修方法を開発する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	260万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
介護職員間で実施する「ケア」の概念を内在化させるための研修方法に関する研究/2019年3月/
長崎国際大学論叢 19号/印刷中/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護福祉施設における理念浸透の研究	文部科学省	平成29年4月～平成32年3月	260万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメントの相談に対し、ヒアリングを行った

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加 特に社会福祉士のプログラムを担当

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度第51回佐世保市老人福祉大会「認知症の方の理解」	11月22日	アルカス佐世保	佐世保市・佐世保市老人クラブ連合会
平成30年度 主任介護職員研修会「自身のリーダーシップと職員のモチベーションの向上を目指して」	2月14日	長崎市社会福祉協議会	長崎市老人福祉施設協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

平成30年7月

日本社会福祉学会 学会誌投稿論文の査読を担当

平成30年9月1日・2日

第26回日本介護福祉学会大会 桃山学院大学

第1分科会「介護福祉学基礎・思想」座長担当

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

日本ソーシャルワーク学会 第35回大会(平成30年7月21日・22日) 学術奨励賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

(教育) 授業評価では、経営論・行財政とも説明が難しく、レジュメも字ばかりと不評であったが夏期休

暇以降、国試受験生には補講で何度も繰り返し説明しフォローした。レジュメもテキスト代わりになることが理解してもらえた。国家試験対策は前任校での経験を活かし、他の先生と協力し補講やチェックテストを実施した。

(研究)本年度予定していた科研のインタビュー調査を2施設分実施した。昨年度データの分析はまだ終わっていない。別テーマの調査による論文1本を本年度の長崎国際大学論叢に投稿した。

(社会貢献) 10月平戸市社会福祉協議会の会議に講師として参加した。11月佐世保市老人クラブ連合会主催「佐世保市老人福祉大会」にて、55分、認知症に関する講演を行った

(大学運営)ほとんどの学校行事に参加した。オープンキャンパスでは任された役割を果たした。「子ども食堂」は委員ではないが、毎回当日ボランティア教員として会場設営、見守り等の役割を行った。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師/カウンセラー 氏名 中村 美穂

1. 教育理念

私の教育理念は、学生が主体的に学ぶ環境を提供し、自分で自分の生きる道を選び決める過程を支援することと考えております。

大学という場における教育目標の一つは、学生の社会的自立であるとされます。それゆえ、学生には、学生自らが積極的に学ぶ姿勢を重視します。それは、学生が社会人として、目前の課題を自分で解決しようとする熱意や努力につながると思うからです。

また、学究活動においては、学生が自分の意思を自由に表現することや、学生同士が相互に交流を図ることを重視します。社会生活を営む上では、自分を取り巻く周囲、さらには自分自身と上手く付き合っていく必要があると思うからです。

そのため、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ると同時に、それを活かして、大学生活における人間関係上の課題などを現実的に解決できるよう手助けする必要があると考えております。

以上より、私は、心理学(臨床心理学)という専門領域を活用し、次の2点について、真剣に取り組みたいと思います。

(1) 私の専門領域である心理学、臨床心理学、学校臨床心理学などの分野における知見を広く紹介し、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ることができるよう支援します。

(2) 人の心理などに関する課題について実践的に取り組む学究活動を提供し、学生が大学生活などでの現実的な課題を解決することができるよう支援します。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
心理学	15/15(前期)	2	109	②③④⑥⑩
心理学	15/15(後期)	2	152	②③④⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生が授業を通して、心理学を学び、それを活かして豊かな大学生活を送る(生きる)ことを重視して、授業を行いました。しかし、大人数クラスでの授業においては、学生それぞれの特性や強みなどを十分に理解して教育することは極めて難しいと感じました。

授業に対する満足度は前期及び後期ともに平均域にありましたが、引き続き、アクティブラーニングを中心とした授業における取り組みなど、継続的な努力が必要であると考えております。

その具体的な方策としては、アクティブラーニングなどに関する研修を重視し、積極的に参加するなどして、自己研鑽することが必要不可欠であると考えております。

また、教員であると同時に、学生相談室の専任カウンセラーである立場から、授業におけるコメントシートを活用するなどして、学生集団のみではなく、学生個人へ働きかける教育手法を工夫することも重要であると考えております。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

私はこれまで学校臨床心理士として、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校などで多くの子と親、教師と出会い、こころの声に耳を傾けてきました。そのような生身の人間の内的なこころの世界に寄り添う中で、子と親がどのような心理的援助を求めているのか、また、教師が学校臨床心理士に対してどのような役割を期待し、学校という場ではどのような学校臨床心理士の機能が有効なのかを考えるようになりました。そのような子と親、教師からのニーズに応えるため、学校臨床心理学という観点からの研究活動に取り組んでいるところです。特に、子と関わっている親や教師などへの心理臨床的アプローチとされる、「コンサルテーション」モデルの開発などに尽力しております。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
学校臨床心理士による高校卒業者への支援におけるロールレタリング実践事例/2018/九州大学
総合臨床心理研究/139-149/単著/論文
学内外のリソースを活かした「顔の見える」援助ネットワークづくりの試み/2018/九州大学総合臨
床心理研究/151-162/単著/論文
学校臨床心理士が子どもの問題状況に応じて活かす学校や教師とのコンサルテーションに関する
文献検討/2018/九州大学心理学研究/76-86/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	運営委員	CHサポートセンターの運営に関する会議などへの参加など。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
女性研究者支援相談員	女性研究者支援相談員	研究者である教員(女性)による相談業務を担当している。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
高等教育機関における学生相談の現状と課題	2018年7月14日	健和看護学院	学院長

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院人間環境学府 附属総合臨床心理センター	相談員	2017～	九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、「心理学」に対する学修者の理解と学生生活での活用を促したことによって、早期の学校不適応の予防と支援を行うことができたと考えております。しかし授業アンケートでは、満足

度の平均値が4.2となりました。積極的なアクティブラーニングの活用など、さらなる授業改善を図っていく必要があると考えております。

大学運営面では、CHサポートセンター運営委員会の一員として出席し、本学における学生支援、特に障がい学生支援の在り方についての理解を深めることができたと考えております。また、女性研究者支援を担当することとなり、女性が研究者として働く上でのメンタルヘルスなどに関する相談業務に取り組むことにも心がけました。・社会貢献事業においては、看護専門学校などの教育機関における講師などを担当しました。また、学生と関わる教員へのコンサルテーション活動を通して、学生相談活動に対する教員のニーズを探索的に検討するなど研究活動への展開も試みました。

研究面では、単著論文を長崎国際大学論叢と教育基盤センター紀要において、採択となりました。さらに、心理臨床学研究、九州大学心理学研究及び九州大学総合臨床心理研究と3本採択、心理劇研究で1本審査中となっております。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 野田 健

1. 教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に応じていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
学際連携研究	3/15(前期)	2	181	⑩
介護概論	6/15(前期)	1.5	105	②⑦
就労支援サービス論	8/8(前期)	1	45	①
専門演習A	15/15(前期)	1	9	⑥⑩⑫
相談援助の基盤と専門職A	15/15(前期)	2	59	①
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	17	⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①④⑥
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	⑥⑦⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	15/15(前期)	1	36	⑧⑨⑫
福祉の哲学・倫理	15/15(後期)	2	20	①②⑤
専門演習B	15/15(後期)	1	8	⑥⑫
相談援助の基盤と専門職B	15/15(後期)	2	56	①
相談援助演習Ⅰ	15/15(後期)	1	12	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	14	⑤⑥⑦
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	10	①⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑥
社会福祉総合演習(福祉専門)	15/15(後期)	1	34	⑧⑨⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	7	⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「相談援助の基盤と専門職A」、「相談援助の基盤と専門職B」、「相談援助演習ⅡA」、「福祉の哲学・倫理」「専門基礎演習B」の授業評価は、いずれも5点満点中4点であった。

授業改善点について、今年度は学生が能動的に学修できるよう、ワークシートやポートフォリオを活用するようにしたが、授業評価は昨年度と変化は見られなかった。そのため、来年度は授業の方法ではなく、学生ニーズをその都度確認していきながら授業の内容を充実させていく必要があると考える。

教育効果について、今年度はどの授業でも一貫して「福祉マインド」をいかに醸成していくかに焦点を当てながら行ってきた。そうした意図はある程度学生に伝わったように思えるが、明確に確認をしなかったため、来年度は学生とより対話的な授業を行い、学生の成長を確認していく必要があると考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国家試験合格支援(追加学修時間)	45	36	通年

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 共感についての考察
- ② 介護福祉士の専門職性の検証

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
社会福祉系学生の進路傾向と国家資格取得状況—希望及び決定進路と社会福祉国家試験—/
2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻/111頁～124頁/共著/論文
初年次教育の深化に向けて—ホスピタリティ概論の分析から—/2019年3月/長崎国際大学教育
基盤センター紀要第2巻/27頁～54頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
ソーシャルワーク活動における国際的な学生リーダーの育成	長崎国際大学	2018年度	50万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生生活を守るために、委員会通常業務(会議やフレッシュマンセミナー、学内清掃活動の運営・参加)を行い、大学運営に貢献した。
教育内容向上委員会(学科内)	委員	学科の教育上の課題を解決するために、改善案等を提案し、教育内容の向上に貢献した。
実習委員会(学科内)	委員兼社会福祉士部会長	相談援助実習の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。
学科内就職委員会(学科内)	委員	学生の就職活動を円滑にするために、社会福祉学科合同企業説明会の準備・運営を担い、学生の就職活動に貢献した。
国家試験合格支援委員会(学科内)	委員長	学生が国家試験に合格するために、委員会メンバーと様々な取り組みを立案・実施し、学生の国家試験合格率向上に貢献した。
介護クラス委員会(学科内)	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生生活サポート室	学生生活サポート室室員	毎週1時間の時間、学生生活サポート室来室者に対して、学業や大学生活等に関する相談・支援を実施した。

(3) 課外活動の指導等

- ①福祉施設見学(社会福祉法人福祉松快園)の引率(2018年11月3日)
- ②チームヤングコーン・ボランティア同好会のサポート(通年)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①社会福祉学科合同企業説明会の準備・運営(2018年6月25日)
- ②長崎県介護福祉士養成施設入学者確保支援事業にて長崎県立上五島高等学校での介護福祉士ガイダンス(2019年3月9日)

③長崎県立佐世保商業高等学校1・2年生への進路ガイダンス(2019年3月18日)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域密着型サービス事業者等審査委員会	委員	2018/10/12～ 2019/03/31	佐世保市
佐世保市生活困窮者自立相談支援業務 支援調整会議	委員	2018/06/28～ 2019/03/31	佐世保市社会福祉協議会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 仏教看護・ビハーラ学会の編集委員会編集作業委員(通年)
- ② 子ども食堂のボランティア参加(2018年11月18日、12月22日)
- ③ 長崎県介護福祉士養成施設入学者確保事業への協力(長崎県立上五島高等学校で講演:2019年3月10日)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院2018年度長崎国際大学社会福祉学短期研修の引率	左記研修のプログラムの1つである雲仙と南高愛隣会の見学の引率	2018年7月23日	上海大学・長崎国際大学
NIU海外ソーシャルワーク研修の引率	左記研修(上海大学との交流や中国の社会福祉機関の視察等)の引率	2018年9月10日～9月14日	長崎国際大学・上海大学

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

活動全般を4つの項目に分けて自己点検すると、下記のとおりになる。

①教育活動:授業アンケートの結果から、次第点が付くといったところである。

②研究活動:昨年度は、書評1本、研究発表2本、学术论文2本(単著1、共著1)であったことを考えると、今年度は学术论文2本(いずれも共著)であり、非常に少ないといえる。

③社会活動:今年度は、佐世保市社会福祉協議会と佐世保市の活動に委員として参加したため、一定の社会貢献はできたと考える。

④大学運営:行事や委員会等にほぼ参加し、担当業務を滞りなく行ったが、多々ある役割の中で国家試験合格支援委員会に大半の時間を費やした。

以上4つの項目のうち、今年度は④大学運営に最も時間を割いた。その理由は、学生の最大のニーズでもある3福祉士の国家試験合格を目指した国家試験合格支援委員会の活動を自分自身の業務の中心に据えたからである。結果、4項目のうち、①教育活動と③社会活動は最低限の役割は担えたと思われるが最良ではなく、②研究活動はおろそかとなった。また、大学運営の国家試験合格支援についても、今年度が初めての委員長ということで手探りなことが多く、最良の取り組みができたわけではなかった。

については、今年度1年間の経験を来年度どのように活かすのかが非常に重要である。いずれの項目も効率的・効果的に今年度以上の成果が上げられるよう努めなくてはならない。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 柳詰 慎一

1. 教育理念

- ・生徒から学生へ、子どもから社会人へ・礼に始まり礼に終わる
 - ・自己で情報を収集し、分析し、判断し、動くことが出来る学生の養成
 - ・社会人としての基礎を身につかるためにさまざまな失敗体験を学生の間に行うことができる環境の提供
 - ・自己認識・自己分析を通じて、自分自身で成長出来る環境の提供
 - ・等身大の学生を認め、大学だけでなく地域住民や利用者などさまざまな人との関わりを通して、学生自身で過不足に気付かせて、仲間と共に人の輪の中で育む環境の提供
 - ・教育とは人の変革を意味し、心身共に成長をさせること
- そのために、教育には情熱が必要であると考え

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①
コミュニケーション技術	15/15(前期)	1	5	①④⑤
生活支援技術 I A	15/15(前期)	1	13	①④⑧
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪
国際コミュニティ・ケア論	5/15(前期)	2	3	①②
生活支援技術IVA	15/15(前期)	1	5	①④⑧
介護過程ⅢB	8/15(前期)	1	3	①④⑦
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②⑦⑩⑫
地域の理解と連携	5/15(後期)	2	200	③
障がい者スポーツ	2/15(後期)	2	39	⑪
相談援助演習 I	15/15(後期)	1	13	⑤⑥⑦
介護概論 I B	7/15(後期)	2	13	①④⑧
介護概論ⅢB	8/15(後期)	2	3	①④⑦
生活支援技術 I B	7/15(後期)	1	12	①④⑧
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑦⑪⑫
生活支援技術IVB	15/15(後期)	1	3	①④⑧
介護過程 II B	15/15(後期)	1	3	①④⑤
社会福祉総合演習(介護)	5/15(後期)	1	3	①④⑪
介護総合演習 II	30/30(通年)	1	3	①④⑤
介護実習 I	180/180(通年)	4	3	④⑦⑪⑫
介護実習 II	90/90(通年)	2	3	①④⑫
介護実習Ⅲ	180/180(通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

平均4.6～4.8の高い評価から本年度は4.3の低い評価。

自由記述も「教科書を読ませるなど、生徒が深い学習を出来るような授業を行っていただいたので、こちらも全力で取り組むことができた」過去最低のたった一人だけのコメントであった。

他の授業アンケートは毎年、私自身も手応えのある高い評価を頂いている。

その理由は、「出来る限り学生のモチベーションが上がる工夫」として、

授業導入時に様々な取り組みを実施した。

しかし、本年度は、学生の反応が今一であった。

学生たちが遠慮せず、主張しやすいように、また議論しやすい様に、特に雰囲気づくり・環境づくりに努めた。

授業形態としては、同科目の他の2クラスと共同で演習を実施するなど実験的な取り組みを行った。毎年、実習という介護養成課程における中間評価を意識して、学生たちに全力で取り組んでいあるが、とても難しい科目であり、意欲の有無で反応が異なる、演習科目が中心であるが故に、私自身苦戦しながら授業を展開していた。本年度も全員が理解し満足してもらえる様に、改善を継続していったが、力不足で申し訳なかったと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

介護に関すること

- ・介護福祉士等介護職員の現状について(労働福祉)
- ・社会福祉士等生活相談員の現状について
- ・地域住民同士の支え合いについて(地域生活支援コーディネータ事業)
- ・海上自衛隊退職自衛官の介護・福祉職への再就職について
- ・介護や福祉業界の職員研修について
- ・地域包括支援センター業務について

ボランティアに関すること

医療・福祉等従事者のネットワーク作りに関すること

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学食検討委員会 学生会担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科内学生支援委員会	委員	SA担当として企画・運営を行う
社会福祉学科ボランティア研究センター委員会	委員長	ボランティア依頼先へ連絡・調整後、学生を引率し活動を行う。ボランティア活動保険の加入手続きなどを行い、地域や施設から27行事のボランティア依頼があり、学生と共に参加した。
オープンキャンパスワーキングチーム	委員	入試募集委員会と連携し、社会福祉学科の1回目と3回目のオープンキャンパス企画・運営した

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学 空手道部コーチ

よさこいサークル「YOSAこくさい」顧問

ボランティアサークル「チームヤングコーン」同好会 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

長崎県福祉保健部長寿課主催 高校生進路相談会/3月14日/島原翔南高校

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
7	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
大村市社会福祉協議会 ボランティア養成講座	7月14日	大村市社会福祉協 議会	大村市社会福祉協 議会
福祉・介護講習会 介護・福祉施設研修	7月28日	海上自衛隊佐世保 地方総監部／特別 養護老人ホームや まずみ荘	海上自衛隊佐世保 地方総監部
医療・福祉セミナー	7月29日	平戸市社会福祉協 議会	平戸市社会福祉協 議会
介護職員 職員研修会	10月24日/10月29日 /1月16日/1月30日 /3月18日	株式会社 ふくしあ	株式会社 ふくしあ
介護福祉士実習指導者講習会	11月24日	長崎短期大学	長崎県介護福祉士 会
第1.2学年「介護福祉に関する 講演会」	3月9日	長崎県立上五島高 等学校	長崎県福祉保健部 長寿社会課
介護福祉士養成施設の出張合 同説明会	3月14日	長崎県立島原翔南 高等学校	長崎県福祉保健部 長寿社会課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
評議員選任・解任委員	委員	2017/04/01～ 2021/03/31	社会福祉法人 あい 里 理事長
佐世保市小値賀町介護認定審 査会	委員	2017/04/01～ 2019/03/31	佐世保市長
佐世保市地域包括支援セン ター運営協議会	委員	2018/06/01～ 2021/05/31	佐世保市長
佐世保市保健福祉審議会	委員	2017/07/01～ 2020/03/31	佐世保市長
佐世保市高齢者虐待防止ネット ワーク委員会	委員	2018/06/01～ 2020/03/31	佐世保市長
介護保険制度における地域密 着型事業所運営委員会	委員	2018/04/01～ 2019/03/31	特別養護老人ホー ム サンホーム江上

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

開催日	活動事業者名	行事名	活動内容	参加人数
1 4月22日(日)	波佐見町社会福祉協議会	第26回ふれあい運動会	運動会準備・運 営・片付け・撤収	14

- 2 5月26日(土) 長崎県立川棚特別支援学校 第46回 運動会 運動会準備・運営・片付け・撤収 8
- 3 6月23日(土) NPO法人 佐世保空襲を語り継ぐ会 第35回佐世保空襲を語り継ぐ市民の集い
市民の集い会場設営及び終了後撤収作業(体育館床のシート敷き、椅子120脚並べ) 17
- 4 7月14日(土) 大村市社会福祉協議会 ボランティア講座 ボランティアについての講座・ボランティア体験談・意見交換 13
- 5 7月21日(土) シオンの園/西九州大学 シオンの園オレンジカフェ “利用者・家族・地域住民との交流・運用
西九州大学 学生交流” 2
- 6 7月23日(月) “上海大学 交換留学生
社会福祉学短期研修研究” “留学生プログラム
国立公園雲仙の火山と温泉を学ぶ” 上海大学交換留学生プログラム・交流・運営 5
- 7 7月29日(日) “佐世保市立 祇園小学校
情緒障害通級指導教室 まどか教室” “まどか教室3校合同
サマーレクリエーション” 準備、運営、子供達の観察 6
- 8 7月28日(土) 特別養護老人ホーム やまづみ荘 夏祭り 準備、運営、子供達の観察 3
- 9 8月4日(土) 小規模多機能ホーム 風の森 納涼祭 模擬飲食店(屋台形式)の接客対応(いわゆる店番) 6
- 10 8月5日(日) 特別養護老人ホーム海南荘 海南荘夏祭り 納涼大会の準備、利用者の介助 5
- 11 8月22日(水) 特別養護老人ホーム やまづみ荘 地域・利用者交流会 利用者・家族・地域住民との交流・運用 3
- 12 8月25日(土) ハッピーライフ小佐世保 夏祭り 模擬飲食店(屋台形式)の接客対応(いわゆる店番) 3
- 13 8月25日(土) 山祇地域包括支援センター お神輿まわり お神輿担ぎ手 10
- 14 9月15日(日) 介護付き有料老人ホーム はなの杜 納涼祭 模擬飲食店(屋台形式)の接客対応、地域住民利用者交流 0
- 15 8月26日(日) 波佐見町社会福祉協議会 24時間テレビチャリティーボランティア チャリティーボランティア活動 14
- 16 9月15日(土) 地域産業の活性化事業 認知症予防推進のための多職種協働研修会 運営・片付け・撤収 12
- 17 10月6日(土) 世知原福祉会 第6回 せちばるふくしまつり 運営・片付け・撤収 12
- 18 10月13日(土) 社会福祉法人 蓮華園 運動会 運営・片付け・撤収 2
- 19 10月21日(日) 波佐見町社会福祉協議会 “介護福祉フェスタ
認知症をもっと理解しよう” ブース担当・運営・片付け・撤収 12
- 20 10月27日(土) “こども発達支援センター

- ホープ” 児童・保護者レクリエーション 利用児童との交流・道具準備・片づけ・運用 5
- 21 11月3日(土) 長崎国際大学(やまびこ学園) 開国祭 児童との交流・見守り 4
- 22 11月11日(日) 長崎県立川棚特別支援学校 第川棚けんきまつり 舞台発表 道具係り、児童生徒が行うバザーなどの手伝い 7
- 23 11月11日(日) 川棚町社会福祉協議会 ”第11回いきがいセンター
ふれあい祭り” 現地住民との交流・道具準備・片づけ・運用 2
- 24 12月1日(日) 西九州大学 認知症予防推進プログラム 西九州大学教員・学生連携 4
- 25 12月26日 特別養護老人ホーム 海南荘 お餅つき 利用者対応・もちつき 2
- 26 12月28日 特別養護老人ホーム やまずみ荘 お餅つき 利用者対応・もちつき 8
- 27 3月10日 針尾地区自治協議会 針尾うずしおまつり 現地住民との交流・道具準備・片
づけ・運用 10

平成30年度「長崎県北に在住・在籍する相談員の集いSINCE1999」

- 1 4月27日 長崎国際大学 介護と医療について 特別用具老人ホームやまずみ荘 平松克
昌/佐世保共済病院 加藤美紀
- 2 5月25日 長崎国際大学 ストマについて 株式会社ITI 山本美恵子
- 3 6月29日 長崎国際大学 放課後デイサービス・相談支援事業について 株式会社わかば
山田正道
- 4 7月27日 長崎国際大学 健康について 佐世保共済病院 森木達彦
- 5 8月11日 佐世保四ヶ町 納涼・交流会 県北の集いメンバー全員
- 6 8月24日 長崎国際大学 養護老人ホームとはなんぞや 佐賀向陽園 早川清十郎
- 7 9月20日 佐世保市消防局 佐世保市消防局とは 元佐世保市消防局次長 村岡昭治
- 8 10月26日 長崎国際大学 佐世保刑務所について 佐世保刑務所 松山志保
- 9 11月30日 長崎国際大学 在宅における理学療法士の取組と役割 訪問看護リハビリステー
ションエール 金子佳奨
- 10 12月6日 佐世保四ヶ町 きらきらフェスティバル 県北の集いメンバー全員
- 11 1月25日 長崎国際大学 福祉と行政の未来について 長崎友愛会 湊浩二郎
- 12 2月15日 長崎国際大学 災害時の避難所運営を体験しよう 長崎国際大学 脇野幸太郎
- 13 3月21日 アルカス佐世保 つながるプロジェクト 県北の集い20周年特別記念大会 県北の集
いメンバー全員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

①教育面…授業はアンケートの数値は軒並み過去最低。先生方と意見交換・情報を行い見直し・改善を図る。介護福祉クラスは教員間の連携を密にしながら運用した。特徴・特性を抱えた学生が所属し、介護技術系で学生の技術習得に困難さがあり、実習は、実習先と連携を例年より倍に密に図り、学生への指導は例年の3倍の時間と内容で対応。

②研究面…包括協定で西九州大学との研究の準備を実施。単著論文作成は未実施。

③大学運営…SA運営が大苦戦。学生対応で苦慮する。初の中国・上海への海外ソーシャルワーク研修引率、初のQSP本学での事業運用の実施。

④社会貢献活動…佐世保市虐待防止ネットワーク委員等を拝命する。大村市社協・時津町包括支援センター依頼の養成講座の講師、海上自衛隊員再就職支援事業運営、九州文化学園調理師専修学校歯科衛生士学院も担う。研究は単著並びに博士課程の準備で終了。

本年度の新規事業、「NIU海外ソーシャルワーク研修」で、中国・上海の福祉を学ぶために、上海大学の留学生と関わりを行い、事前準備・教育を実施。学生指導は、授業だけでは特徴・特性のある学生は課題達成が難しく、昨年同様に学生のゼミ担当教員、CHサポートセンターにも協力を得ながら実施した。実際に保護宅へ訪問し保護者とも連携・協力を得ながら、学生の課題克服を目指し全力で実施。具体的に、実習指導・準備は通常3倍、実習先との調整は2倍。学生が実習終了後、本学へ戻り記録・軽食を準備するなど万全な体制で実施。休日や夜間補講も実施し学生と共に努力を重ねた結果、無事に終了。

新規事業で、西九州大学との「QSP事業」を9月に実施した。佐世保市早岐・山祇・相浦・大野地域包括支援センターを中心とした25名の行政・福祉事業関係者、本学16名の教員と学生12名で準備期間が2ヶ月無い中、総務課・本学科教員と学生たちの熱心な協力で何とか実施が出来た。本年度も、本学教職員、実習機関や行政、地域住民、そして本学の学生たちやOB/OGたちから多大な協力を得て、支えて頂き何とか終わることが出来たが、私の自身の力量不足を痛感したため、本年度で辞する事を決意する。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 柳 智盛

1. 教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学(臨床心理・障がい児者心理、教育心理)の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
心理学	15/15(前期)	2	60	③⑤⑦⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	11	⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	3	①④⑤⑥⑦
障害の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	33	③⑤⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1/15(前期)	1	36	②⑨
臨床心理学	15/15(前期)	1.5	121	③⑤⑦⑩
教育心理学	15/15(前期)	2	50	③⑤⑩
教育相談(カウンセリングを含む。)	15/15(前期)	2	28	③⑤⑩
児童心理学	15/15(後期)	2	44	③⑤⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	11	⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	3	①④⑤⑥⑦
障害の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	33	③⑤⑨⑩
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	6	③⑤⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉専門)	1/15(後期)	1	34	⑨
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	⑤⑦⑩
教職実践演習(栄養教諭)	3/15(後期)	2	6	⑤⑦⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	8	④⑥⑪⑫
相談援助実習	90/90(通年)	4	3	⑪
事前・事後指導	8/8(通年)	1	27	④⑦
教育実習A	120/120(通年)	4	26	④
教育実習B	80/80(通年)	2	1	④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
発達心理特講	15/15(前期)	2/1・2年	1
福祉と心理特別演習	15/15(後期)	2/1・2年	1
特別研究	15/15(通年)	8/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートにおいては、心理学、児童心理学、教育心理学など中心アンケートを実施した。満足度の平均が4.1～4.3の結果であった。授業では、心理・諸問題についてのより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に福祉学科専門科目においては、社会福祉士国家試験での定番問題と関連づけて説明すること、教職科目においては児童生徒の心理的支援の事例などを用いてグループワークを行うことで学生個々の意見を述べさ

せることでより授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学園	心理学	15/15(後期)	2	40
九州文化学園調理師専 門学校	高齢者の心理(介護食)	2/15(後期)	1	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験対策講座	7	36	8/23、9/25、10/9、11/13、 11/27、12/11、1/4

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

2. 発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的变化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

3. 高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

障害者差別解消法の施行に伴う高等教育機関に求められる障がい学生支援～長崎国際大学の取組～/2018年9月14日/大学教育学会-大学教育研究協議会-

NIUピア・サポート学生組織の活動内容について/2018年12月22日/九州地区大学教育改善FD・SDネットワーク

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎国際大学学長裁量経費 「学生のホスピタリティを育むユニバーサルキャンパスづくり」	長崎国際大学	2018年5月～2019年3月	70万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特に教務委員として学科のカリキュラムの検討、来年度から実施する卒業研究外部評価について検討を行った。
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	副委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート体制の構築を図った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
将来構想委員会	委員	本学の将来構想のビジョンについて議論し、検討・改善を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夢ナビライブ2018福岡会場にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して、本学について紹介した。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習会	2018年8月28日	長崎国際大学	長崎国際大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市いじめ防止対策推進委員会	委員長	2018/07/17～ 2020/07/16	佐世保市教育委員会教育長
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2018/04/01～ 2019/03/31	九州大学附属総合臨床心理センター長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2015年4月～現在に至る/佐世保市学習支援会/学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役/佐世保市生活福祉課学習支援委員会

②2015年4月～現在に至る/九文事例検討会/アドバイザーとして参加/九州文化学園所属教職員

③2015年4月～現在に至る/自閉症児の余暇活動/活動企画者及び相談役として参加/長崎県自閉症親の会佐世保支部

④2018年4月～2018年12月/Reaching out to People(難病患者の会)/委員/佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2018実行委員会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
NIU海外ソーシャルワーク研修in中国	中国の上海大学との学術交流及び近隣自治体の福祉について視察を行った。	2018/09/10 ~ 2018/09/14	長崎国際大学社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストアウトリーチ部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年10名(1名は秋に卒業)、3年11名の指導を行った。卒業論文では、全員が専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。特に、担当ゼミ生のうち配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に7名が社会福祉士国家試験に挑戦し、4名が合格した。その内1名は精神保健福祉士も合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かして、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。

社会活動としては、昨年度の引き続き「佐世保市いじめ防止対策推進委員会」の委員長として、昨年度作成した佐世保市の学校教育現場に提言書の確実な実行などについて委員長として引き続き検証する役割を果たすことができた。また、地域の障害児・者を対象としてボランティア活動を同法人内の長崎国際大学・長崎短期大学・九州文化学園高校の学生・生徒たちと一緒に継続的に取り組むことができた。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上のに向けたFD・SDを企画実施し、ピア・サポート学生の育成及び体制構築を図ることができた。また、今年度より社会福祉学科の副学科長として学科長を支えることができたことは、貴重な経験となったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 助教 氏名 斐 孝承

1. 教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力(連携)できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。

この理念を実現するために、①多様性を知る&理解すること、②お互いが分かり合うこと(コミュニケーション力を高める)、③社会現状(課題など)を、的確に分析し、社会福祉を探究すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑪
社会福祉調査論	8/15(前期)	2	50	①②③④⑤⑥⑨⑩
高齢者福祉論	10/15(前期)	2	48	①②④⑤⑥⑨⑩
相談援助演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	①④⑥
相談援助実習の理解	15/15(前期)	1	77	②④⑥⑦⑧⑨⑩
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	7	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	2/15(前期)	1	36	②⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	②③④⑤⑥⑦⑩⑫
児童福祉論	15/15(後期)	2	58	①②④⑤⑥⑦⑨⑩
相談援助演習Ⅰ	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡB	15/15(後期)	1	13	②⑤⑥
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	10	①②⑤⑥⑦⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	7	④⑤⑥⑦⑩
加齢と障害に関する理解	5/15(後期)	2	6	②⑤⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	2/15(後期)	1	34	②⑨
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義式である児童福祉論は、1年生を対象としている。また、社会福祉士国家試験科目であるため、授業内容は、厚生労働省が指定している内容を多く含めている。そのため、本授業では、学生の児童福祉への関心を高めながらも、専門的知識を伝達していく必要がある。今年度の授業では、多様な視聴資料、配布資料を提示しながら授業を行った。その結果、全体的な満足度4.2点であったものの、すべての学生から「とても満足」という評価を得られることはできなかった。今後、学生主体の授業を行い、満足感を高めていきたいと考える。

前期の講義式授業の評価に比べて、後期の授業評価が若干高くなっている。しかし、「とても満足している」評価をした学生数が、全体の受講生の3分の1程度であることは、今後授業を改善していく必要があると考える。

改善策としては、学生が取り組む課題を提示し、自らの力で解決していく方式の導入を試みる。自由記述に書かれた意見では、携帯使用への指導の不満が2件あったが、指導方法と言葉を選ぶ必要がある。しかし、授業放棄にならないように、指導を続けるつもりである。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 1) 介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究
- 2) 子ども食堂の大学生の主体的な取り組みの効果に関する研究
- 3) 障害児を持つ親のレスパイトに関する研究
- 4) 子ども育成に関する地域のニーズ
- 5) 海外におけるギャンブル依存症の支援取り組みに関する研究
- 6) 認知症ケアに関する東アジア比較

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	3	3	191万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
長崎国際大学子ども食堂における学生主体の取り組みと今後の課題/2019年3月/長崎国際大学
教育基盤センター/79頁～90頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
長崎国際大学における子ども食堂の取り組み/2018年12月22日/Q-conference2018

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究	日本学術振興会科学研究費	3年	91万円
ソーシャルワーク活動における国際的なリーダーの育成	長崎国際大学・学長裁量経費	1年	50万円
QSP「子ども育成」専門委員会共同研究	QSP「子ども育成」専門委員会	1年	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書委員であり、その業務を順調に進めている。
子ども食堂委員会	会長	子ども食堂の委員長として、ボランティア学生応募からはじめ、3回の子ども食堂を開催した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP「子ども育成」専門委員会共同研究会	共同研究者	子ども育成専門委員会共同研究者として、調査を含め、他学校の教員と研究を行っている。
長崎IR研究会	共同研究者	長崎IR研究会に所属し、海外のギャンブル依存症に対する支援などを共同研究している。
2018年度第4回オープンキャンパス	主担当	第4回のオープンキャンパスの主担当として、企画と準備を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①世界のソーシャルワークディへのメッセージ動画を作成し、3月11日(月)に完成し、国際発信を行うことによって、学校及び学科の広報活動を促した。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
認知症ケアにおける日韓の現状と課題	2018年10月3日	韓国ソウル市立西部療養センター	社会福祉法人青山里会 & ソウル市立西部療養センター
平成30年度 教員免許状更新講習(子どもと貧困)	2018年9月22日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習会連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
NIU海外ソーシャルワーク研修(上海大学)	引率及び交流	2018年9月10日～9月14日	長崎国際大学社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2011年度から、「日韓における介護職員の国際交流研修」を年2回以上行っている。この事業は、日本社会福祉法人青山里会と韓国ソウル市立西部老人専門療養センターを中心で行っており、全体的なコーディネートとプログラム検討及び講義を担当している。2018年度は、上記の事業を日韓で2回の研修を行った。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年、まず、本校のプラットフォームの事業にも位置付けている「子ども食堂」の成功と発展のために、全力尽くしました。昨年度まで、多様な課題があった「長崎国際大学の子ども食堂」を、今年から委員長として担当し、学生主体と他学科まで広げて行いました。そして、一定の研究成果を学会発表と論文で報告しています。

2つ目は、日本学術振興会科学研究費(若手研究)を3年間で429万円獲得し、社会的に必要な研究も積極的に取り組んでいます。今年、韓国における実践共同体の調査を行い、分析を行いました。4月の韓国社会福祉学会で発表を行う予定であります。また、それ以外の研究活動でも、積極的に参加し、プラットフォームおよび本校の研究会(IR研究会、QSP子ども育成専門委員会共同研究など)にも積極的に参加し、学校のプラットフォームが成功できるように努力しています。

3つ目は、社会福祉士国家試験については、学科の合格支援プログラムの科目担当(児童福祉論、調査論)をしており、それ以外に、学生を集め研究室で勉強会をやるなど、後方支援を積極的に行っています。

4つ目は、8年目となる「日韓介護職員の国際研修交流」を行い、福祉現場への社会貢献も行っています。この活動は、今度長崎国際大学と連携して事業を発展していく予定であります。

しかし、まだ、2年目であるため、経験不足の側面による、授業の不十分さは授業アンケートでも見られていると考えられるので、来年度は、教育面の成長ができるように努力したいと思います。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 助教 氏名 細野 広美

1. 教育理念

私の教育理念は、物事を主体的に柔軟に考え、まずやってみる(行動する)ことができる人材を育てることです。そのため、私の授業では、その人(学生)らしさをのびのびと発揮でき、様々なチャレンジができる環境設定をすることを重視しています。

私が担当する講義系科目は、主に初年次学生が履修することが多い全学共通科目と、主に精神保健福祉士を目指す学生が受講する精神保健福祉士養成のための専門科目が中心となっています。初年次学生を対象とした全学共通科目においては、一般教養としての知識を身につけることはもちろんですが、高校から大学という学びの大きな転換を通じて、「自ら」「主体的に」学ぶ姿勢を身につけること、同年代他者とのコミュニケーションの機会を通して、自分自身について知る・気づく機会を持つことが重要だと考えています。そのため、私の授業においては、ほぼすべての科目・コマ内で(講義系科目においても、大人数講義においても)、ペアワークやグループワーク、ロールプレイなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れています。様々な学びの形式を取り入れることで、個々の学生が自身の課題に応じてチャレンジできる機会を提供し(例:コミュニケーションの苦手さを自覚している学生が、他学科の学生とワークに取り組む/ワークを通じて相手や自分の強みや課題に気づくなど)、学生の学修全般への意欲喚起や体験的に学ぶことでの知識の定着、青年期の発達課題でもある「自分とは何者か」という問いに向き合う姿勢などを学んでほしいと考えます。この理念は、ゼミ活動にも共通しており、様々なことに挑戦する素地としての基礎学力の育成を意識しながらも、学生個々に合わせて明確な課題を設定し、ゼミの仲間と共に課題に取り組む中で、自己理解や他者理解を深めていくことを常に念頭に置いて授業を進めています。さらに、精神保健福祉士養成のための専門科目においても、学生が精神保健福祉士—精神保健福祉分野、ひいては対人援助職の専門家—として活躍していくために重要な「自己覚知」を深めることを重視しています。そのため、国家試験対策としての知識を定着させることを前提としながらも、学生の興味関心をより喚起し、資格取得への意識を高めるために、教育的視点はもちつつも、対人援助職の専門家の先輩として学生と対峙し、実例や実体験を可能な限り(患者等から許可が出ている範囲で)開示したり、ロールプレイなどのより実際に近い形での学びの場や、実習やボランティア活動などで現場(当事者や支援者を含む)に触れることなどを通して、「自分らしく」「行動する力」を養って欲しいと考えています。

上記のような教育理念のもと、授業時間外においても、学内外問わず様々な活動(自閉症、難病、精神障害、生活困窮、肢体不自由等を対象としたボランティア活動や学内でのピア・サポート活動など)に参加する機会を、積極的に提供するようにしています。これは、実際に当事者と接したり、自分たちで組織を作っていくことが、学生が幅広い視野と柔軟性、物事への取組の主体性などを育てるのに役立つと考えるからです。

授業や課外での活動等への参加を通して、学生がのびのびと、その子らしく育っていってくれることを期待します。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	④⑤⑥⑦⑨⑩⑫
精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	15/15(前期)	2	41	②⑤⑥⑨
精神保健福祉論	9/15(前期)	2	43	②④⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	①⑦⑫
精神保健福祉援助演習(基礎)	1/15(前期)	1	10	⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	②⑤⑥⑩⑫
社会福祉総合演習(精神)	5/15(前期)	1	6	①⑥
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	②⑤⑦⑨⑩⑫
心理学	15/15(後期)	2	65	②④⑤⑦⑨
キャリア開発Ⅰ	15/15(後期)	2	248	②⑤⑥⑨⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	7	①⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	6	⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	②⑤⑥⑦⑨⑫
臨床心理学	15/15(後期)	2	31	②⑤⑦⑨⑩⑪
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	14	②⑤⑦⑫
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	6	⑨
精神保健福祉援助実習B	75/75(通年)	5	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを行ったのは、前期「教養セミナーA」「精神保健福祉論」「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」「専門基礎演習A」、後期「心理学」「臨床心理学」「専門基礎演習B」の7科目である。「教養セミナーA」「専門基礎演習A」「専門基礎演習B」は、いずれも少人数クラスによる通年のゼミ形式の授業であり、満足度4.8～4.9と高い評価であった。また、他の4科目は講義形式の授業であり、満足度4.1～4.9とバラツキがみられた。講義形式の授業においては、基本的にはPPT資料を用いながら、ペアワークやグループワーク、体験的学習等を積極的に取り入れた授業展開を工夫した。前期の2科目(「精神保健福祉論」満足度4.1、「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」満足度4.3)については、精神保健福祉士の専門性について学ぶ社会福祉学科の2年生を主な対象とした講義である。自由記述をみると、グループワークや調べ学習について好意的な意見が多いが、自由記述に記載していない群の学生の中には、ワークへの苦手意識等があった者もいたのではないかと推察する。両科目共に、精神保健福祉士の国家試験受験に必要な専門科目であるが、受講生のモチベーション

は様々であり(必ずしも資格を取得したい人ばかりではない)、今後学年や受講生のカラーなども加味しながら、授業のねらいやレベルの焦点づけ、授業の内容、構成について検討していく必要がある。後期の2科目(「心理学」満足度4.7、「臨床心理学」満足度4.9)については、主に健康栄養学科の学生を対象とした科目である。両科目共に、自身の専門性を最も活かすことのできる科目であり、実例や体験型ワークなどを随時取り入れることができたことが、満足度の高さに影響したものと考えられる。また、「心理学」については、昨年度までは国際観光学科と合同での科目であったが、今年度より学科毎での受講となったことで、集団のまとまりや均一性があり、授業のレベル設定のしやすさにも影響したものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
「心理学(栄)」の補修	1	11	2018年11月14日
2018年度保育士対策講座「保育の心理学」	1	20	2018年5月16日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 思春期・青年期発達障害児者への臨床心理学的援助に関する研究
- ② 心理劇、動作法などのアクション・メソッドの理論と実践に関する研究
- ③ グループセラピープログラムの開発と実践応用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	1	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「初年次教育科目「教養セミナーA」の実践と課題ー学生の成長実感と教員のプログラム評価に着目してー」/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要第2巻
/13～26頁/共著/原著

大学におけるハラスメント相談・防止体制および相談員の役割に関する検討／2019年3月／学生相談研究第39巻第2号／95-105頁／共著／原著

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

長崎国際大学 NIUピアサポート学生組織の活動内容について／2018年12月／Q-Conference2018

障害者差別解消法の施行に伴う高等教育機関に求められる障がい学生支援～長崎国際大学の取り組み～／2018年9月／第67回九州地区大学教育研究協議会

建学の精神の徹底と卒業に向けた意欲喚起を図る初年次教育の現状と課題／2018年12月／大学教育学会2018年度課題研究集会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学生のホスピタリティを育むユニバーサルキャンパスづくり	長崎国際大学平成30年度学長裁量経費(代表者)	2018年6月～2019年3月	70万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	配慮が必要な学生についての教職員への情報提供のための資料作成・説明会の担当の他、ピア・サポート活動の組織(NPS学生組織)作りや研修会の企画、全学的な学生支援体制整備に向けた検討等に関わった。
教育基盤センター	兼任	学習支援部門の担当教員として、ラーニングコモンズスタッフ学生の研修会の企画・実施や、次年度に向けての体制整備に関わった。
将来構想委員会	委員	本学の将来構想のビジョンについての議論・検討に携わった。
教養セミナー部会(学科)	委員長	学科の教養セミナー部会の長として、1年生全体の統括・相談役、教養セミナーの運営の中心としてかかわった。
教育内容向上委員会(学科)	委員	学科の教育内容向上のため、1年生部会長として意見を提出した。
実習委員会(精神)(学科)	委員	精神保健福祉士の実習に関する検討・運営に関わった。
国家資格合格支援委員会(精神保健福祉士部会)	委員(部会長)	精神保健福祉士の国家試験合格に向け、勉強会の実施や学生の成績分析などを担当した。精神保健福祉士部会の委員長として、全体会議に出席し、学科全体の方針についても検討した。
学生支援委員会(学科)	委員	配慮が必要な学生の支援に関わり、学生からの相談と、教員間での連携等を行った。
保育士講座(学科)	委員	保育士講座の担当として、講座のマネジメントや学生からの問い合わせ相談等に関わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障がい学生に対する修学支援費WG	委員	「長崎国際大学障がい学生に対する修学支援費支給内規」の改正を検討した。
学生の自殺(企図・未遂)に関するマニュアル(教職員用)の改正WG	委員	「学生の自殺(企図・未遂)に関するマニュアル(教職員用)」の改正の検討に携わった。
教養セミナーWG	委員	教養セミナーAの全学科共通で進めるプログラムの内容検討に携わった。
学長裁量経費(学生のホスピタリティを育むユニバーサルキャンパスづくり)に基づく全学的な学生支援体制の検討 ※再掲(委託研究・外部資金採択等)	代表者	学内のピア・サポート活動の体制整備や、NPS学生組織の立ち上げ、研修会の企画、他大学視察、研修会への参加や、バリアフリーマップ作成に向けた会議、ピア・サポートにかかわる学生に対するアンケート調査等に関わった。
QSP 子ども育成部門 研究会	委員	QSP関連事業の、子ども育成部門で行っている研究会にて、地域の子どもの生活課題を明らかにするためのアンケート調査の企画・関連する研究会に定期的に参加した。

(3) 課外活動の指導等

①NIU ピア・サポート学生組織(CHサポートセンターの附属組織) 立ち上げ

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①精道三川台中学高等学校 出前授業/8月9日/精道三川台中学高等学校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
6	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保市障害児(者)地域療育支援事業(ぎゅうぎゅう広場)	(※月1回開催) 4月21日、5月26日、6月16日、7月21日、9月29日、9月30日、10月20日、11月17日、12月15日、2月23日	佐世保特別支援学校	佐世保市子ども育成課
平成30年度 教員免許状更新講習会 子どもの学びを支える講義2「スクールカウンセラーの役割と連携」	8月28日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平戸市ファミリーサポート・センター事業協力会員講習会「子どものこころの発達とその問題」(第1回)	7月13日	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
精道三川台中学高等学校 出前授業「発達障害の心理と対応ー明日から使える対応のヒント集」	8月9日	精道三川台中学高等学校	精道三川台中学高等学校
平戸市ファミリーサポート・センター事業協力会員講習会「子どものこころの発達とその問題」(第2回)	12月4日	平戸市社会福祉センター	平戸市社会福祉協議会
日本臨床心理劇学会2018年度夏季ワークショップin熊本「初体験コース」講師	6月23日、24日	熊本保健科学大学	日本臨床心理劇学会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学附属臨床心理センター	センター研究員	平成25年4月～現在に至る	総合臨床心理センター長
福岡女学院大学 臨床心理センター	面接指導員	平成30年4月～現在に至る	臨床心理センター長
日本臨床心理劇学会	理事	平成30年4月～現在に至る	日本臨床心理劇学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2016年4月～現在に至る／年2回開催／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員
- ②2016年4月～現在に至る／月1回開催／自閉症児の余暇活動(どれみふぁくらぶ)／活動企画の補助、相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部
- ③2018年4月～2018年12月／月1回開催／Reaching out to People(難病患者の会)／委員／佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2018実行委員会
- ④2017年3月～現在に至る／脳損傷患者「ぶらむ」交流会／相談役として参加／脳損傷患者「ぶら

む」

- ⑤2017年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会
- ⑥2010年4月～現在に至る／福岡発達障がい者親の会「たけのこ」アカデミックスキル研修会 (TRG)／スタッフ兼アドバイザー／福岡発達障がい者親の会「たけのこ」
- ⑦2017年9月～12月／障がい者啓発事業／活動企画の補助、相談役、ボランティア学生のとりまとめとして参加／佐世保市福祉活動プラザ
- ⑧2003年4月～／自閉症児のための療育グループ「土曜学級」ボランティアスタッフ
- ⑨2016年4月～現在に至る／月1回開催／佐世保市障害児(者)地域療育支援事業／スーパーバイザー
- ⑩2018年4月～現在に至る／川棚町学習支援会(川棚町生活困窮者の子どもの学修支援事業)／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／アドバイザー／NPO法人地球っ子
- ⑪2018年10月8日 ウォーキング&ゲームラリー(精神障害に関する啓発イベント)／ボランティアスタッフ&学生引率
- ⑫2018年11月23日 にじいろサロン(自閉症の子どもを持つ保護者の会)イベント／ボランティアスタッフ&学生引率
- ⑬2019年2月11日 心の健康づくりフェスティバル(精神障害に関する啓発イベント)／ボランティアスタッフ&学生引率

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

- ①2018年6月 長崎国際大学ベストティーチャー賞(学生による授業アンケート部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育・大学運営・社会貢献・研究の4つの側面から今年度の活動を振り返る。

教育面では、学生の関心を引き出すための授業展開に積極的に取り組んだ。授業アンケートではおおむね高い評価を得たといえる。1, 2年生のゼミでは、配慮申請のある学生3名を担当したが、いずれも順調に単位を取得し学生生活を送っている。また、精神保健福祉士の国試対策では今年度より、国家試験対策委員(精神保健福祉士部会部会長)として勉強会等に取り組、合格率100%という結果を残すことができた。その他、保育士講座の実施や全学共通科目を通して、学科内のみならず他学科の学生や教職員からも多数の問合せや個別の相談があり、対応した。

大学運営面では、正規の委員会活動の他、ワーキンググループ等にも多数参加し、自身の専門性を活かして積極的に携わった。特に、CHサポートセンター運営委員として、障がい学生に対する修学支援費や自殺対策マニュアル作成のワーキング・グループに参画したほか、学内のピア・サポート活動の体制整備やバリアフリーマップの作成、研修会等の企画を他学科教員や学生と一緒に行うことができた(学長裁量経費の助成による)のは大きな成果であった。また、教育基盤センターの兼任教員として、教養セミナーWGに参画し、教材づくりやその運用(学生の状況の把握や学科教員のとりまとめなど)に関わった他、CHサポートセンターとの連携に向けた動きや、大学教育学会の運営などに携わった。教養セミナーに関しては、社会福祉学科の教養セミナー部会長として、教養セミナーの運用に中心的に携わり、特に初年次学生に関して、学科内外の教職員と連携しての対応等が行えたことも今年度の成果の1つといえる。

社会貢献事業については、昨年度に引き続き、難病患者、自閉症児、肢体不自由児、生活困窮家庭、精神障害者などを対象に地域で行っている活動に参画した。活動を通してのつながりから、新規実習先を開拓したり、各種研修会・講演会の講師を積極的に引き受けたり、各親の会などからの依頼での調査研究を開始したりと、地域とのネットワークの広がりを実感できた。

研究に関しては、共著論文1本の投稿と科研費申請、学会発表1本のみにとどまったが、上記つながり等から、現在自閉症を中心とした障害児の保護者を対象としたインタビュー調査や、ピア・サポート活動に関する学生への意識調査、初年次教育におけるグループワークの効果研究など、研究の基礎的データを数多くとることのできた1年であった。今年度の成果を基に、次年度、論文等の形にまとめていきたい。

全体を通して、自身の専門性を活かしながら活動する機会を多くいただき、様々なチャンレンジを行えた。一方で、様々な役割が増え、業務に追われて学生対応や研究の時間が十分にとれないなどの課題は残っているため、継続的に取り組んでいく。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 社会福祉 職名 助手 氏名 金子 麻美

1. 教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために、自分自身の理解と相手の価値をソーシャルワークの価値観として理解できるような支援を行いたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義をもっていないため、特になし。

ただ、補助に入ることにより、授業が円滑に回るように支援できていると感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
相談援助実習指導ⅡAのOR補助	3	51名	2018年4月10日、2018年6月19日、2018年7月24日
相談援助実習の理解のOR補助	1	約80名	2018年7月24日
相談援助実習指導Ⅰ(見学実習、面談補助)	4	62名	2018年9月20日、2018年10月2日、2018年10月9日、2018年10月16日
相談援助実習指導ⅡB(実習報告会)	2	51名	2018年12月8日
教養セミナーA(OR補助)	1	54名	2018年4月14日
教養セミナーB(OR補助)	1	54名	2018年12月20日
専門基礎演習B(OR補助)	1	69名	2018年12月19日
相談援助演習ⅢB(演習補助)	3	51名	2018年12月13日、2019年1月10日、2019年1月15日
スクール(学校)ソーシャルワーク演習(補助)	15	7名	講義の日程すべて補助

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①障がい者福祉 地域福祉 バリアフリー SSW 等

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

社会福祉系学生の進路傾向と国家資格取得状況

希望及び決定進路と社会福祉士国家試験/2019年3月/長崎国際大学論叢第19巻/不明/共著/論文

スクール(学校)ソーシャルワーク演習における授業展開方法についての一考察

～事例検討演習での取り組みを通して～/2019年3月/長崎国際大学社会福祉学科研究紀要第15号/不明/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学科運営委員会(学科)	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、連絡調整等
実習委員会(学科)	委員	実習委員会開催に際し、事前準備及び運営。社会福祉及び精神保健福祉士実習の実習先に関する連絡調整及び書類作成、集計。各実習関係学内イベントの調整、準備、運営。実習に行く学生への計画書、報告書指導及び相談。新規実習施設等への施設訪問。三大学連絡協議会への出席及び連絡調整。実習報告書編集及び作成。その他発送作業等々。
国家試験合格支援委員会(学科)	委員	国家試験に取り組む4年生に向けた模擬試験の実施及び夏季講習の資料準備及び運営。書籍や物品購入他、学生相談対応。
学内学会委員会(学科)	委員	学内学会でのニュースレターのデータアップや紀要の発送。 長崎国際大学社会福祉学会を実施するにあたり、広報及び準備・運営。 総会及び研究会の実行委員として資料準備及び運営。
福祉作文コンクール	委員	福祉作文コンクール開催に係る、依頼状及び文書発送、審査会準備、入賞者への賞品選定、当日準備運営全般。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度の主な取り組みとしては、学科運営及び実習運営、学校生活・国家試験に関する学生対応や指導・小中高生向けの福祉作文コンクール等を中心に業務を行った。

学科運営については、学科運営委員会に所属しており、学科長及び学科教員と連携し、会議運営や資料等のとりまとめ、学生にとってよりよい方法を模索した取り組みを行えるよう努力することができた。今年度から学科長と副学科長が変更になり、新体制としての福祉学科を微力ながらお支える

ことができたのではないかと感じている。

今年度は国家試験合格支援がより一層力を入れられた年であり、追加学修時間、夏季国家試験対策講座、冬季国家試験対策講座等への資料の準備を行った。また、学生へのアドバイスや書籍の紹介等学生のレベルに合わせてお話しすることを心掛けた。SSWを目指す学生の国家試験勉強会も後期より実施し、学生のペースに合わせた学修の難しさを感じつつも、3年次からの国家試験への意識付けを行うことができたと感じている。

実習運営については、実習に行く学生指導・相談、施設との連絡調整、新規施設事前訪問等を行い、例年通りではあるが実習生が円滑に実習を行えるよう取り組みを行った。今年度は、6か所の新規施設との契約を結ぶことができ、学生の選択の幅を広げ講義に支障のない実習期間の調整を行うことができた。来年度も実習担当教員との連携を図り、実習先への密な対応を心がけ学生が円滑に実習できるよう支援していきたい。また、実習先の希望の取り方や配属方法、要配慮申請のある学生の実習について等は今後先生方と協議していきたいと考えている。

また助手研究室がどこまでの学科及び実習業務を担うべきなのかという点についても、今後学科長等々と相談したうえで、様々な業務について整理することができたらと感じている。

来年度も、配慮申請のある学生が増えつつある中で、1人ひとりが充実した大学生活を送れるように支援できる力を身に付けていきたい。

研究活動については、今年度は共著で論叢と紀要と提出をさせていただくことができた。今後は単著での論文提出に向けて研究活動及び日常業務との両立を図るよう取り組んでいきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 今村 裕行

1. 教育理念

アクティブラーニングを用いて専門力の向上を図る。また学生との対話を重視し、学生が主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開することによって国家試験に合格できる力を育てる。さらに学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

これらの教育理念を実践するために、講義においては、教科書、パワーポイントを使用して講義を行うとともに、学生2～3名で授業で習った事をお互いに解説しあい、小グループでのグループディスカッション及びグループ発表で学生が自ら考えるようにする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
運動生理学	15/15(前期)	2	14	①②⑥⑪
実践栄養学実習	30/30(前期)	1	39	⑥⑩⑪
実践栄養学実習	30/30(前期)	1	42	⑥⑩⑪
管理栄養士演習	3/30(前期)	2	65	①⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
国際栄養論	15/15(後期)	2	4	②⑥⑨
実践栄養学	15/15(後期)	2	36	①②⑥⑪
実践栄養学	15/15(後期)	2	36	①②⑥⑪
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①⑨
栄養学専門演習	10/30(後期)	2	73	①⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	7	①②④⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Exercise Physiology	15/15(前期)	2	1
栄養疫学特論	15/15(前期)	2	1
スポーツ栄養学特論	15/15(前期)	2	1
特別研究	150/150(通年)	10/1～2 年	-
健康科学演習	60/60(通年)	4/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

運動生理学の満足度は4.1であり、昨年の4.7を大きく下回った。毎年パワーポイントのスライドを改善してきたが、今年は、これまでの経験談を話し過ぎたのではと反省している。

実践栄養学A・Bクラスの満足度は4.4と4.3であり、自分では満足している。実体験に基づいた話が学生に受けているようである。これまでパワーポイントの内容を変更してきたが、ようやく学生に分かりやすいスライドを作成することができたと思っている。A・BクラスともにQ3～Q11 の評価は、全て4.3以上であり、自分では満足している。全体的な評価が4.0以上であれば良いと思っている。A・Bクラスともに、本年度それが達成できたので、自分では満足している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

運動生理学、スポーツ栄養学と栄養素等摂取状況を中心に研究を進めている。

1) スポーツ選手の体力と栄養素等摂取状況、貧血、血中脂質に関する研究。

2) 冠動脈硬化性心疾患並びに脳卒中の危険因子(喫煙、飲酒、肥満、糖尿病)に関する疫学的研究。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Comparison of nutrient intake between Japanese female elite and collegiate karate players /2018年6月/Journal of Athletic Enhancement/7:2/共著/論文

Safety aspects of karate as physical education and an extracurricular activity. /2018年9月 /

European Journal of Physical Education and Sport Science / 4:11 / 共著 / 論文

Nutrient intake and body composition of world karate champions: 4 case reports / 2018年9月 /

Journal of Athletic Enhancement / 7:2 / 共著 / 論文

Effects of playing badminton on bone properties using calcaneal quantitative ultrasound: a

preliminary study / 2018年9月 / European Journal of Physical Education and Sport Science / 4:11

/ 共著 / 論文

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

エリート空手道選手の栄養状態: 4症例報告 / 2019年7月 / 日本スポーツ栄養学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	全学共通教育について審議した
教員資格審査委員会	委員	教員資格審査を行った
防火・防災委員会	委員	防火・防災について審議した
安全衛生委員会	委員	安全衛生について審議した
安全管理委員会	委員	安全管理について審議した
危機管理委員会	委員	危機管理について審議した
人事委員会	委員	人事について審議した
輸出管理委員会	委員	輸出管理について審議した
グローバル推進協議会	委員	グローバル推進について審議した
全学教育会議	委員	全学教育について審議した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

空手道部 総監督 顧問

男女ソフトテニス部 顧問

男女バドミントン部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

空手道部の強化選手の勧誘

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子供達の育成のためにスポーツの指導方法を考えてみよう	2019年3月1日	福岡県粕屋郡須恵町アザレアホール	須恵町教育委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議	委員	2016/08/18～ 2018/08/17	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

授業評価については、前期の運動生理学の満足度は4.1であり昨年の4.7を大きく下回った。毎年パワーポイントのスライドを改善してきたが、今年はこれまでの経験談を話し過ぎたのかと思い反省している。来年度は改善し、教科書のページと行とスライドが一致するように学生に伝えながら授業を勧めたいと思う。後期の実践栄養学の満足度は4.4と4.3であり、自分では満足している。

健康栄養学科においてスポーツ栄養サポートチームを設立し、空手道部の栄養調査、栄養指導、調理実習を継続的に行ってきたが、本年度は野球部の測定も継続して行っている。これからは、これまでのデータを論文として発表していきたい。

学部長としての責務は、2期4年に達した。これまで責務を十分に果たせたかどうかは疑問であるが、来年度は野村先生に頑張ってもらいたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 岡本 美紀

1. 教育理念

人々の健康の維持・増進のための取り組みを食からアプローチし保健・医療・福祉などの場で尊厳と責任を持って科学的根拠に基づいた高度な技術をもって「栄養の指導」を実践できる、社会に貢献する人材の育成を目指すものとする。そのような人材となるために、人間や食などについて基本的な知識を身につけた上で、居住地の居住形態やその環境、ひいては生態系について、広い視野をもって対応できる知識及び技能を伝えていくことで、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑫
健康栄養入門	5/15(前期)	2	85	⑩⑪
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	41	①②③④⑨⑪
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	35	①②③④⑨⑪
公衆栄養学実習	30/30(前期)	1	38	②③④⑤⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学実習	30/30(前期)	1	36	②③④⑤⑥⑩⑪⑫
管理栄養士演習	5/30(前期)	2	65	①⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	37	①④⑩⑪
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	42	①③④⑩⑪
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	38	①②③④⑨⑩⑪
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	44	①②③④⑨⑩⑪
総合演習Ⅰ	10/15(後期)	1	74	①⑧⑪
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	⑧
栄養情報処理	15/15(後期)	2	80	④⑧⑨⑩⑪
栄養学専門演習	10/30(後期)	2	73	①④⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
公衆栄養学特論	15/15(前期)	2	3
特別研究	150/150(通年)	10/1~2 年	-
特別研究	150/150(通年)	10/1~2 年	1
栄養科学演習	30/30(通年)	4/1~2年	-
栄養科学演習	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・教養セミナーA/大学生が始まった学生に対して、大学生としての生活面・勉学面での指導とサポートを行った。

・公衆栄養学実習/対象者の健康・栄養状態の改善を図るための現状把握と改善策の考え、対策を行う学生実習を行った。栄養状態の把握の精度を高めるために食事についての知識の養成と調査時の聞き取り方等の訓練を行い、履修学生は調査者実習体験とともに被調査者として調査体験を行い、調査に必要なことを考えさせた。調査後は、学生自身に集計処理等をさせて、対象者の健康・栄養状態の把握を行い、食生活上の問題とその改善策について考えさせリーフレット作成をさせた。評価は昨年度と同様に高い評価であった。

・公衆栄養学Ⅱ/地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目標に、現状把握のための調査方法、公衆栄養マネジメントの仕組みを説明するとともに実際に行われている各種プログラムを紹介した。また、授業の方法を改良し、学生がより集中して講義を聴けるよう、授業中盤で気分転換をさせたり、日常で授業内容を体験していることを説明して認識できるよう工夫をした。また、時間を取って課題に取り組みせ、質問の応じることで理解を深めることができ、学生からの授業評価は昨年度とほぼ同様の評価であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学シーボルト校	公衆栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	40
長崎県立大学シーボルト校	公衆栄養活動実習	30/30(後期)	1	39

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 対象者の健康や食生活に影響を与える要因の検討
- ② 地域における健康増進プログラムの効果についての検討
- ③ 対象者の特性に対する公衆栄養マネジメント
- ④ 地元産物の活用や開発を通じた食育

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	6	0	0	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

公衆栄養学 第6版/共著/2019年2月7日/株式会社講談社サイエンティフィック/182-186頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

女子大学生の青少年期の共食状況及び現在の食環境についての検討/2019年3月/長崎県立
大学看護栄養学部紀要17巻/13頁～17頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎県健康・栄養調査における食事記録法の検討/2018年9月/第65回日本栄養改善学会学術
総会

長崎県民のメタボリックシンドロームの状況別にみた栄養素等摂取状況と運動習慣/2018年9月/
第65回日本栄養改善学会学術総会

平成28年度長崎健康・栄養調査における簡易型自記式食事記録法質問票の妥当性/2018年9月/
第65回日本栄養改善学会学術総会

大学生の青少年期における食環境と現在の食環境との関連/2018年10月/2018(平成30)年度
(一社)日本家政学会九州支部第64回大会

自園調理による給食が園児の食生活に及ぼす影響について/2019年2月/第17回長崎栄養改善
学会

平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票と食生活習慣状況の関
連性について/2019年2月/第17回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学生のホスピタリティを育むユニ バーサルキャンパスづくり	長崎国際大学	2018年6月～2019年3 月	70万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生生活及び大学行事の円滑な運営への取り組み及び改善に務める。
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員長 (キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター副センター長)	学生の心身の健康保持増進および修学上の配慮が必要な学生に対する支援内容の検討及びその実践などCHサポートセンタの円滑な畝胃に務める。
学生委員会(健康栄養学科)	委員長	特待生の継続検討および同窓会奨励金交付者選定
管理栄養士国家試験対策委員会(健康栄養学科)	委員	模擬試験日程調整、管理栄養士国家試験対策(通称:朝テスト)作成

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生委員会・大学祭担当委員	委員	大学祭の円滑な実行のためのサポート
学生委員会・禁煙対策委員会	委員	構内禁煙の周知、禁煙の徹底
栄養士申請手続き及び管理栄養士国家試験受験願書(健康栄養学科)	担当者	栄養士申請手続きの説明及び管理栄養士国家支援受験の手続き、願書記入

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育推進県民会議	委員	2018/04/01～ 2020/03/31	長崎県知事
長崎県総合公衆衛生研究会	常任幹事	2009/4/1～	長崎県総合公衆衛生研究会
(一社)日本家政学会九州支部	常任幹事	2016/4/1～2021 /3/31	(一社)日本家政学会九州支部
長崎県食育向上委員会	オブザーバー	2018/4/1～	長崎県食品安全・消費生活課
健康ながさき21推進会議	生活習慣状況調査 解析部会オブザー バー	平成28年9月20日～ 平成31年6月30日	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

管理栄養模擬試験問題作成／2018年5月／長崎国際大学 他／医歯薬出版株式会社

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、「公衆栄養学実習」で評価を高めることができた昨年度に引き続いてその維持を図ることができた。講義では、管理栄養士国家試験の受験資格取得のための必要な単位を取る科目で

あるがなかなか実感することが困難な科目であるため好まれることが少ない。そのため、授業に遅刻者はいないが居眠りがみられることが多く、そのための対応として、より身近な出来事から授業内容につなげて話をして実感させたり、マナバのドリルで授業内容に関しての国家試験過去問題等を出題して学生が学修できるように支援を行った。さらに、長崎県立大学の非常勤講師として、公衆栄養学Ⅱの他に公衆栄養活動実習を担当し、本学の公衆栄養学実習と違い、使用できる施設や設備が限られており、本学ほどのバリエーションのある実習にできないことから、可能な施設・備品・学生の持ち物を活用して、体験型実習にして社会に出たときに能力をできるように精一杯の考えた実習を行った。これは今年度最高クラスの労力を要したことであったが、この経験や考えたことを今後、本学の授業・実習に取り入れていきたいと考えている。

学生指導に関しては、学生の状況を把握した上で、多角的な配慮の徹底や保護者との連携に努めることができたと考えている。

大学運営活動においては、学生委員会で構内禁煙の徹底の活動に取り組み、特に学園祭担当としての学園祭実行委員の活動のサポートを模擬店の食事提供での衛生管理徹底を中心に取り組み、食中毒や事故が起こることなく学園祭を終えることができた。また、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会では委員長として、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターの運営の円滑化を図り、「修学上の配慮が必要な学生へのサポート」のために支援対象学生の履修科目担当者および学生生活に関わる本学教職員に対して説明会を実施して配慮の協力を得、支援体制を整えることができた。特に今年度は、支援対象学生が学外での実習やインターンシップに行く際に学外の担当者に配慮支援の実施について検討してもらうための手続等の体制を整備した。これらに対してはさらなる支援体制の円滑な運営ができるよう取り組みを強化できるようにその手法を確立していかなければならないと感じる。

研究に関しては6件の学会発表、修士課程の研究指導及び修士論文執筆指導、他大学の紀要投稿論文の指導を行った。今後は来年以降に続く研究をさらに考えていきたいと考えている。

社会活動では、今年度から長崎県の大学生を対象にした食育推進のために県内の食関連学部のある4大学の学生で組織する長崎県食育向上委員会のオブザーバーとして4回の会議5回の事前打ち合わせ、本学の委員との話し合いを行い食育に取り組んだ。これは今年度も合わせて3年間続く。

以上のことから、今年度は昨年度以上の業務で、新たな考えを出さなければならないことも多かったことから考える時間が多く必要であったが、考えも思い浮かばなかったり、時間の確保すらむずかしいことも多く、自分の時間のマネジメントの課題とそれだけでは済まない状況も多かった。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 熊井 まどか

1. 教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

- ・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。
- ・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。
- ・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。
- ・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。
- ・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪
解剖生理学 I	15/15(前期)	2	42	①②⑨
解剖生理学 I	15/15(前期)	2	39	①②⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	37	①⑨⑩⑪
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	43	①⑨⑩⑪
栄養の生物学	15/15(前期)	2	43	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①⑧
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
解剖生理学 II	13/15(後期)	2	40	①②⑨
解剖生理学 II	13/15(後期)	2	38	①②⑨
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	52	①⑩⑪
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	30	①⑩⑪
総合演習 II	1/15(後期)	1	76	①⑧
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①⑧
卒業研究	30/30(通年)	2	2	①④⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15/15(前期)	2	1
代謝栄養学特論	15/15(後期)	2	2
特別研究	150/150(通年)	10/1~2 年	1
健康科学演習	60/60(通年)	4/1~2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・授業アンケート

[前期]

教養セミナーAの評価の平均は4.9、満足度は5.0であった。栄養の生物学における評価の平均は4.5、満足度は4.6であった。

[後期]

解剖生理学Ⅱの評価の平均はAクラスが4.4、Bクラスが4.5、満足度はA、B両クラスともに4.5であった。

・授業改善と教育効果

ポートフォリオ上の復習ドリルはほとんどの学生に取り組みが認められ、事後学習の促進に繋がったと思われる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	24
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	24
長崎短期大学	解剖生理学実習	28/30(後期)	1	24

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

妊娠期の栄養が胎児に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Indomethacin誘発性腸管傷害ラットにおける腸管透過性の変動/2018/9/第65回日本栄養改善
学会学術総会

妊娠期の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響/2018/10/日本食生活学会第57回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2019年度科学研究費基盤研究 (C)一般	日本学術振興会	-	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	研究費不正使用防止に関わる事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に館売る事項の審議等
学科教務委員会	委員長	学科内の教務事項の連絡、審議、資料作成等
学科倫理委員会	委員	申請された研究の審査等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①進学説明会 管理栄養士に関する説明および学科説明／6月8日／場所:九州文化学園高等学校

②進路ガイダンス 管理栄養士に関する模擬講義／6月15日／場所:玉名女子高等学校

③夢ナビライブ2018福岡会場 まなびステーションにおいて栄養学の紹介／10月20日／場所:マリンメッセ福岡

④夢ナビライブ2018福岡会場 ライブ講義／10月20日／場所:マリンメッセ福岡

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
福岡県栄養士会 生涯教育基本研修「栄養素の消化と吸収(代謝)」	7月8日	中村学園大学	福岡県栄養士会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(NPO)日本栄養改善学会	評議員	2018年11月～2020年10月	(NPO)日本栄養改善学会
(NPO)日本栄養改善学会九州・沖縄支部	幹事	2017年8月～2019年7月	(NPO)日本改善学会九州・沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

前年より再履修者が増え、それらの学生に対して学習意欲を低下させず、一定レベルまで理解してもらうことの難しさを感じている。

国家試験対策において、今年度は出席状況や受講態度、課題への取り組みが悪く、それに比例し成績の伸びも悪かったが、最終的には予想を上回る結果が得られそうだと一安心している。今回、学生のアンケート結果に従い、国家試験対策の進め方を学生の自主性に任せたが、次年度は改善する必要があるのかもしれない。

また、担当していた大学院生が修士課程を終え、修士の学位を取得できたことは、非常に喜ばしいことである。今後、修士論文の研究を発展させ、論文投稿ができるよう指導を行いたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 古賀 貴子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものである。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

1年次および2年次の講義において国家試験の概要を説明し、4年間の学修プロセスと関連付けながら受験準備の方法を伝えている。さらに実際の国家試験問題を提示し、講義で取り上げた内容が国家試験問題としてどのような形式で出題されるのかを具体的に示した。講義内容の理解を深め、実践力をつけるために、個人学習、グループ学習、質疑応答といった形式を取り入れている。実習では、自己学習を通じて、幅広い視野を持ち、自ら学び続ける姿勢や科学的思考を、グループでの実習によりコミュニケーション能力や説明能力、プレゼンテーション能力を養いたいと考えている。卒業研究(ゼミ)では、科学的思考を醸成し、協調性に富み、幅広い視野と豊かな教養と人間性、高い倫理観を持った地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成したいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
調理科学(食品加工学を含む)	15/15(前期)	2	46	⑧⑪
調理科学(食品加工学を含む)	15/15(前期)	2	44	⑧⑪
調理学実習 I	30/30(前期)	1	44	②⑩⑪
調理学実習 I	30/30(前期)	1	41	②⑩⑪
調理学	15/15(前期)	2	82	⑧⑪
管理栄養士演習	3/30(前期)	2	65	①②③⑧
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
調理学実習 II	30/30(後期)	1	42	②⑩⑪⑫
調理学実習 II	30/30(後期)	1	42	②⑩⑪⑫
総合演習 I	10/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪
総合演習 II	1/15(後期)	1	76	①②③⑧
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	15	①②③⑧
卒業研究	30/30(通年)	2	9	①②④⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養科学特論	15/15(前期)	2	1
調理科学特論	15/15(後期)	2	1
食品機能科学特論	15/15(後期)	2	2
特別研究	150/150(通年)	10/1~2 年	1
栄養科学演習	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義(調理学、調理科学)においては、講義を行った範囲について、問題を作成したプリントを解かせ復習を促すようにした。次年度は、小テストや課題レポートの作成も取り入れたいと考えている。実習においては、学生の授業参加を促す工夫として、示範中は前期の調理学の内容や他の関連科目の内容も含めて、学生に多くの質問をしながら進めたことは良かったと思う。学生からの授業アンケートの自由記述からもその点は好評であったことがうかがえた。また、課題プリントを課すなどして、復習を促すようにした。調理学実習 II(後期)では実技試験や献立作成・創作調理の試験も取り入れており、総合的に成績評価をした(創作調理の試験の採点には全履修学生からの評価が入る)。なお、創作調理の試験結果や課題プリントの解答については、ポートフォリオ等で学生にフィードバックし

た。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学シーボルト校	調理学	15/15(前期)	2	39
長崎県立大学シーボルト校	調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	41

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1)研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
 大量調理における食品の調理特性(調理科学的変化)に関する研究

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 咀嚼能力低下者に対する食事のテクスチャーからみた食品選択と調理法/2019年3月/長崎国際
 大学論叢第19巻/未定/共著/原著論文
 「初年次教育科目「教養セミナーA」の実践と課題ー学生の成長実感と教員のプログラム評価に着
 目してー」

/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第2巻/13～26頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大量調理機器を用いた湿式加熱が米飯の性状に与える影響/平成30年10月/日本食生活学会
 第57回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	特になし
男女共同参画推進委員会	委員長	男女共同参画推進委員会主催で、公開講座を実施した。
IRセンター	副センター長	特になし
教育基盤センター	IR・研修部門 部門長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター 初年次教育(教養セミナーA)	ワーキンググループ メンバー	全学の教養セミナーAにおける教材作成・企画等を行った。
教育基盤センター 紀要編集委員会	紀要編集委員長	教育基盤センター紀要の発行に向けた業務を行った。
私立大学等改革総合支援事業ワーキンググループ	副ワーキンググループ長(タイプ1)	私立大学等改革総合支援事業に関する業務を行った。
教務委員会(学科内)	委員	学科内教務委員会の委員としての業務を行った。
倫理委員会(学科内)	委員	学科内倫理委員会の委員としての業務を行った。
管理栄養士国家試験対策委員会(学科内)	委員長	学科内管理栄養士国家試験対策委員会の委員長としての業務を行った。
作問・校閲グループ	グループ員	推薦入試(総合問題)および編入学試験(調理学分野)を作問した。
卒業研究(学科内)	グループ長	卒業研究の履修に向けて学生対象に説明会を実施した。 卒業研究抄録集並びに論文集の作成・編集を行った。
将来構想委員会	委員	将来構想委員会の委員としての業務を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①長崎国際大学沖縄保護者会/7月7日/沖縄県市町村自治会館
- ②オープンキャンパス時の昼食の献立を作成し、健康栄養学科からの献立のポイント等の配布物を作成した。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
32	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度「離乳食講座と実習」	5月22日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	5月29日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	6月5日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	7月10日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	7月17日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	9月20日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	9月27日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	11月27日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	12月4日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	平成31年1月31日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「離乳食講座と実習」	平成31年2月7日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	6月25日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	9月10日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	12月17日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	平成31年3月11日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	4月16日	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	7月2日	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	10月15日	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	平成31年1月28日	佐世保市中部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	5月28日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	8月20日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
平成30年度「たんぽぽ」栄養士講話	11月19日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター

平成30年度「たんぼぼ」栄養士講話	平成31年2月25日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市幼児教育センター
乳幼児食育アドバイザーフォーローアップ講座	5月8日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
佐世保市食育講座「幼児食」	9月3日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
佐世保市食育講座「幼児食」	9月4日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
佐世保市父親向け食育講座	8月5日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
佐世保市食育講座「行事食」	12月10日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
佐世保市食育講座「行事食」	12月11日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
「離乳食講話」	9月28日	佐世保市子ども発達センター	佐世保市子ども発達センター
第12回全国親子クッキングコンテスト佐世保地区実技予選大会審査員	10月21日	西部ガスショールーム ヒナタ佐世保	西部ガス佐世保支店
平成30年度 給食施設における嚥下調整食の提供に関する研修会	平成31年2月6日	長崎県五島保健所	長崎県五島保健所

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	2017/11/01～ 2019/10/31	佐世保市教育委員会委員長
佐世保市男女共同参画審議会	委員長	2018/08/31～ 2020/08/30	佐世保市長
平成30・31年 日本調理科学会九州支部 役員(幹事)	常任幹事 庶務	2018/04/01～ 2020/03/31	日本調理科学会九州支部
日本調理科学会2019年度大会実行委員会	委員 幹事	2018/12/16～ 2019/8/31	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平成31年2月21日 「平成30年度第1回させば女性活躍推進会議」委員として参加、主催:佐世保市人権男女共同参画課
- ②平成30年10月13日「平成30(2018)年度長崎国際大学後期公開講座」の講師として講演、主催:長崎国際大学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
「女性プロジェクトチームと大学生との交流会」	学生(各学科から複数名選出)と女性プロジェクトチームのメンバー9名(平成28年に地域の企業・団体から推薦された女性社員で構成されたチーム)との交流会の受入れ	11月22日	佐世保市市民生活部人権男女共同参画課

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動について、学部においては、教科担当科目、卒業研究指導、国家試験対策の講義などで、また大学院においては、教科担当科目に加えて、大学院生1名の特別研究指導、修士論文作成の指導および学会発表の指導で、瞬く間に過ぎた1年であった。管理栄養士国家試験の合格率100%を目指したい。なお、本年度は他大学等での教育活動(非常勤講師、長崎県立大学シーボルト校 前期:調理学 後期:調理学実習Ⅱ)があったため過密すぎたと思う。

研究活動については、次年度も学会発表1件以上、論文投稿1件以上をするように努める。

大学運営活動(委員会活動)については、全学および学科における担当の委員会の委員長・副委員長・委員として責務を果たせるように務める。

教育基盤センターの紀要委員長として紀要の発行に従事し、IR・研修部門からの部門報告および初年次教育(教養セミナーA)に関する執筆も行った。

その他、学外での活動としては平成24年度より毎年依頼があっている、佐世保市子育て支援センターの育児相談会たんぽぽにおける栄養士講話「離乳食について」における講師(開催場所3か所の合計で年間12回の実施)ならびに、佐世保市食育推進事業「離乳食講座と実習」における講師(年間11回)を務めた。また、平成27年度より毎年依頼があっている、佐世保市子ども発達センター「わいわい広場 あかちゃんの会」における離乳食についての講話と相談を担当、佐世保市幼児教

育センター「乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座」の講師を担当した。さらに、平成29年度からは、佐世保市幼児教育センターの事業の各種食育講座の講師を務めた。次年度もこれら全ての事業においてすでに講師依頼がきているので担当する予定である。

研究テーマの一つである「嚥下食のテクスチャー」に関し、長崎県五島市においても、給食施設における嚥下調整食の提供に関する研修会を開催したいと講師の依頼があった(長崎県五島保健所より依頼、平成30年2月21日および平成31年2月6日に開催)。次年度は、佐世保市内の障がい児福祉施設から研修会の依頼があっているので取組んでいきたいと考えている。

学外の委員や各種審査員についても務める。次年度は本年度のものに加えて、第42回九州地区消防職員意見発表会審査員(平成31年4月26日実施予定)の委嘱もあっているが、これは男女共同参画委員会の委員長として受けたものであるため、責務を果たせるように務めたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 柴田 哲雄

1. 教育理念

健康栄養学科における私の教育理念は、まず、実社会の様々な場面で能力が十分に発揮できる管理栄養士を育てることです。様々な知識が必要な管理栄養士にあつて、自分の専門領域である医学に関連した知識、技能の修得を第一に目指します。患者さんや利用者さん、一般市民を対象にした場合、様々な疾病の基礎的知識、運動や食事、薬剤による治療の知識、疾病をいかに予防するかこの予防医学的知識などが必要不可欠です。膨大な知識を、単に知識の切り売りとするのではなく、臨床やその他の場面において、応用力、実践力も十分に養う必要があります。このため、能動的授業であるアクティブラーニングを活用したものにしたいと思います。具体的には、可能な限り、授業中に様々な問題点を挙げて、それに対する対処法を考えてもらう。1つの臨床医学的な問題に対して、全体やグループ単位で考えてもらうなどの授業形態により行っていきます。すなわち、個々の学生の主体性を育むことで、ホスピタリティを獲得する教育を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
学際連携研究	1/15(前期)	2	181	⑩
スポーツ医学	3/15(前期)	2	49	②③④⑩
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	45	①②③⑨
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	47	①②③⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	40	①②
解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	38	①②
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	33	②③⑨
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	54	②③⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養と薬	15/15(後期)	2	65	①②③⑨
栄養学応用演習Ⅱ	15/15(後期)	1	15	①②③
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	5	①②③④⑥⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学特論	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

平成30年度の学生授業アンケートの結果は、「臨床医学入門Ⅰ」で、Q13の授業に対する満足度が、平均4.3と4.4であった。この結果は、講義全体の平均とほぼ同じくらいの値であった。特に点数が高い項目としては、熱意の感じられる授業が4.5で、低い項目では、シラバスとの整合性、まとまりの良さ、話し方の明瞭さが4.2であった。後期では、「臨床医学入門Ⅱ」で、Q13の授業の満足度が、4.2と4.1であった。これもほぼ、講義全体の平均と同じくらいであった。しかし、点数だけ見ると前期の講義より、やや低下していた。講義の方法が、前期は教科書に沿ったもので、後期は自作のプリントによっている。この違いが関係している可能性もあるが、自由記述では、配布プリントのまとまりが良いとの回答が複数得られている。次年度も、配布プリントを分かり易く、見やすく、興味あるものとして、改良を加えて行きたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	2/15(前期)	2	24
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	2/15(後期)	2	24
長崎短期大学	解剖生理学実習	2/30(通年)	4	24

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 血液透析患者の病態生理についての研究
2. 血液透析患者の味覚障害についての研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

血液透析患者における口腔および嚥下の状態が生活の質(QOL)に与える影響について/2019年
3月3日/第46回長崎県人工透析研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	論叢の発刊の為、査読者の決定、査読内容のチェック、採択の可否判断等を行った。
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	産業医として、疾病や障害のある学生に対する対処について助言をおこなった。
動物実験委員会	委員	委員会委員として、適切な実験が行われているかの判定を行った。
安全衛生委員会	委員	産業医として、職員の健康上の問題点について助言を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

学生ボランティアネットワーク同好会 絆 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度長崎国際大学公開講座「みんなで長生きしましょう！一肥満はなぜ悪いのかー」	6月2日	長崎国際大学	長崎国際大学
佐世保まちなか大学「やさしい腎臓病のはなし」	12月1日	佐世保市中央公民館	佐世保市

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	会長	2015/06/10～ 2019/03/31	佐世保市長
急病診療所あり方検討委員会	副会長	2018/07/01～ 2019/03/31	佐世保市長
佐世保市CKD対策委員会	委員	2018/	佐世保市長
(社)日本腎臓学会	功労会員	2014/4/～	(社)日本腎臓学会
ひびきアイネットワーク長崎	理事	2010/4/1～	特定非営利活動法人ひびきアイネットワーク長崎
社会福祉法人 光の子	理事	2011/4/1～	社会福祉法人 光の子

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

11月24日 JA西海農業祭 (ハウステンボス町) でのマジック公演(3年次学生4名と)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

社会福祉学科より当健康栄養学科に移籍してはや4年が経過した。教育活動の授業の面では、今年度では特に難解と思われる「臨床医学Ⅰ、Ⅱ」について、より分かり易い授業を心掛けてみた。学生のアンケート調査の総合満足度からは、前年度と大差がなく、顕著な実績は上がっていないようである。しかし、次年度も「分かり易い授業」をモットーに、一層の努力を行いたい。「栄養と薬」についても、今年度は純粋な薬理学的理論を少し省略し、管理栄養士として必要な、常識的な知識を重点的に講義した。また、今年度は、国家試験も睨みながら、国家試験の問題をまとめて解説することを試みた。研究面では、今年度も学会発表、執筆論文がほとんどなく、深く反省しているところである。大学運営では、特に産業医の業務として、ストレスチェック後の面接指導などに当たらせていただいた。社会活動では、佐世保市のいくつかの委員会の委員、副会長、会長の職に当たらせて頂いている。ボランティアでは、例年行っているJA西海農業祭や、児童クラブのボランティア、高齢者施設のマジックショーを行った。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 野村 秀一

1. 教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材(管理栄養士)の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
健康栄養入門	2/15(前期)	2	85	②③⑤⑥
微生物学	15/15(前期)	2	52	①⑩
微生物学	15/15(前期)	2	44	①⑩
食品学Ⅰ	5/15(前期)	2	40	①⑨
食品学Ⅰ	5/15(前期)	2	42	①⑨
食品学実習	10/30(前期)	1	42	①⑩
食品学実習	10/30(前期)	1	38	①⑩
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	37	①⑩
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	42	①⑩
栄養の生物学	15/15(前期)	2	42	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
微生物学実習	30/30(後期)	1	42	①⑩
微生物学実習	30/30(後期)	1	51	①⑩
食品学Ⅱ	6/15(後期)	2	43	①⑨
食品学Ⅱ	6/15(後期)	2	36	①⑨
食品衛生学	15/15(後期)	2	37	①⑩
食品衛生学	15/15(後期)	2	41	①⑩
総合演習Ⅰ	14/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	15	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	8	①②④⑥⑩⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	30/30(通年)	1	64	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	30/30(通年)	1	77	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	30/30(通年)	1	83	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	30/30(通年)	1	82	⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食環境学特論	15/15(前期)	2	3
共生微生物学特論	15/15(前期)	2	1
健康免疫科学特論	15/15(後期)	2	1
食品衛生学特論	15/15(後期)	2	2
特別研究	150/150(通年)	10/1～2 年	-
特別研究	150/150(通年)	10/1～2 年	0
健康科学演習	60/60(通年)	4/1～2年	-
健康科学演習	60/60(通年)	4/1～2年	0

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

例年通りの、概ね高い評価を得ることができた。しかし、入学してくる学生の基礎学力の低下が堅調である。この点を考慮しながら、担当する講義・実習の内容を再度検討し、学力が不足した学生に対する対策をしっかりと取っていきたいと考えています。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマ

- ① 食品およびヒト由来の薬剤耐性菌の疫学調査研究
- ② ヒトの常在細菌叢に関する研究
- ③ 市販食品の細菌汚染状況調査研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

グリチルレチン酸に対するモノクローナル抗体を用いた免疫化学的分析手法の確立/2018年8月
/第2回食薬ヘルスイノベーション研究会

健康成人の腸内から分離された大腸菌群の薬剤耐性菌の年次推移/2018年9月/第65回日本栄養改善学会学術総会

ロイシン・アルギニン・リジン摂取による骨格筋タンパク質の合成と分解に及ぼす影響/2018年10月
/日本アミノ酸学会第12回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	健康栄養学科の全学教務委員として大学全体の教務事項の審議・決定に寄与した。
動物実験委員会	委員	大学全体での動物を使用した研究に関わる事項の審議・決定に寄与した
研究ブランディング事業実施委員会	委員	事業実施に関する審議・決定に寄与した。
発明等審査委員会	委員	大学に帰属する教員が発明した事項の特許についての審議・決定に寄与した。
人事委員会	委員	大学全体での人事案件に関する審議・決定に寄与した。
全学教育会議	委員	健康栄養学科の教育目標、実施事項などの本会議での審議に寄与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ① エーサーサイクル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 夢ナビ参加/平成30年10月20日/場所:福岡市/マリンメッセ福岡、

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習会 「食を通じた健康を考えるA」食品表示法	平成30年8月22日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平成30年度教員免許状更新講習会 「食を通じた健康を考えるB」安全・安心な食品選びのための正しい知識	平成30年8月22日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
施設内での感染症・食中毒の発生の予防と対策および脱水の予防法	平成6月24日	熊本県玉名郡特別養護老人ホーム和楽荘	社会福祉法人三加和会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食品安全・安心委員会	委員	2017/04/01～ 2019/03/31	長崎県県民生活部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

全般的にそれぞれの領域において、充分ではないが、それなりの成果をあげることができたと考えます。来年度は、理解度の高まるように、さらにわかりやすい講義・実習を実施できるように改善策に取り組んでいく。研究活動では、これまでの研究成果を学術論文に投稿・受理を目指す。大学学部運営においては、大学・学部のポリシーの基に、大学・学部の更なる発展のために貢献できるように努力をしたいと考えています。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 水江 文香

1. 教育理念

教育を通じて、将来さまざまな困難、失敗などへの対応を自己で解決、対処できる能力を修得してほしいと考える。そこで授業では現状を認識できる知識、これに「気づき」と「振り返り」を繰り返すことを重視し、学生が基礎学力、応用力の重要性を学びとり、そのために全講義へ出席することで学習し続ける習慣として「気づき」「振り返り」のできる授業方法を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑧⑩⑫
給食経営管理論 I	15/15(前期)	2	43	①③⑨⑩
給食経営管理論 I	15/15(前期)	2	39	①③⑨⑩
給食経営管理実習(学内)	30/30(前期)	1	34	①②④⑥
給食経営管理実習(学内)	30/30(前期)	1	31	①②④⑥
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	37	①③⑩
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	42	①③⑩
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	55	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	32	①③⑨⑩
総合演習Ⅰ	3/15(後期)	1	74	①④⑤⑥⑦⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	15	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	5	①②④⑥⑩⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	4/30(通年)	1	64	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	4/30(通年)	1	77	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	2/30(通年)	1	83	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	4/30(通年)	1	82	⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食生活科学特論	15/15(前期)	2	1
栄養科学演習	30/30(通年)	4/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

○授業アンケート結果は、内容に改善は必要であるが、良好な評価が得られた。

○授業改善は、厚生労働省の「管理栄養士国家試験ガイドライン」やの日本栄養改善学会提案の「管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム2015」に準拠した授業内容にし、興味が持てる、また他の履修科目と関連づけたものとし、達成度や評価の向上を目指したい。ただ、「管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム」は2019年度に改定されるため、次のモデル・コア・カリキュラムに向けた授業内容にした上で、栄養士・管理栄養士としての知識や技術を修得できる内容にもする必要がある。

○教育効果は年度やクラスで差があり、効果があまりみられない点も見受けられたが、課題やレポート提出、小テストの実施、講義内での予習・復習用の確認問題(練習問題)の配布や解説などは、学生の理解度で効果があったものを選定し継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 各年代における食行動について
- ② 給食経営管理業務における新調理システムの利用について(主に真空調理)
- ③ 胚芽精米の研究
- ④ 大量調理施設業務に必要な帳票類の検討及び様式について
- ⑤ 六次産業化における商品・メニュー開発について
- ⑥ 調理学実習における食品加工品の改良に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	1	3万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地元食材を使用した商品開発	株式会社ウォーター マークホテル長崎	平成28年2月1日～現 在に至る	3万円
六次産業化における商品開発	株式会社アンスリー ファーム	平成28年4月1日～現 在に至る	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学科教務関連の諸業務を企画・立案し、資料等を作成した。 原級留置学生・3年次編入学生指導等を行った。
研究倫理委員会	副委員長	委員会出席、学科審議内容の報告他を行った。
教務委員会(学科)	委員	全学教務委員会で指示された学科教務関連の諸業務を企画・立案し、資料等を作成、および原級留置学生・3年次編入学生指導等を行った。
倫理委員会(学科)	委員	委員会出席し、申請内容の審議を行った。
臨地実習委員会(学科)	委員	委員会出席し、諸問題について協議した。 実習報告会の座長を担当した。
4年生演習係(学科)	係	演習時間割作成、試験問題作成・編集、履修者出席管理、成績処理等を行うとともに卒業判定等の関連資料を作成した。
3年生編入係(学科)	係	試験問題編集を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
臨地実習ワーキング・グループ	委員	栄養士・管理栄養士研究教育協議会九州ブロックにおいて、臨地実習の学生割り振り、依頼文書・実習ノート作成等を行う。
「食育に関するアンケート」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)
「佐世保市民の健康に関する実態調査」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度調理従事者研修会	平成30年7月25日	佐世保市中央保健所	佐世保市健康増進課
平成30年度調理従事者研修会	平成30年7月27日	佐世保市中央保健所	佐世保市健康増進課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立学校給食検討委員会	委員	2016/12/26～ 2018/12/26	佐世保市教育委員会 教育長
佐々町学校給食施設設備検討委員会	委員(委員長)	2017/07/01～ 2019/03/31	佐々町教育委員会 教育長
佐世保市立学校給食検討委員会	委員(会長)	2017/02/23～ 2019/02/22	佐世保市教育委員会 教育長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平成21年10月から大村市の鈴田峠農園と「長崎元気満々シリーズ(餃子・肉まん他)」の「インフルエンザ予防対策」共同研究(開発)。
- ②平成22年7月から大村市の鈴田峠農園とおから・こんにゃく粉を使ったダイエット・美容に有効な料理と商品の共同開発。
- ③平成24年2月から波佐見町より農村事業アドバイザーを依頼。
- ④平成25年10月から佐世保市の溝上米穀店、お多福醸造株式会社と「甘酒塩麴」と「ビタミンラ」の商品開発。
- ⑤平成26年12月から佐世保市ハウステンボス、ウォーターマークホテル長崎と紅茶の商品開発。
- ⑥平成27年度から3カ年事業として、諫早市の長崎県農林技術開発センターより諫早市県産農産物のおいしい機能性成分高含有探索、育成、販売プロジェクト事業の中で機能性成分(高含有)農産物の調理法、メニュー提供を担当。
- ⑦平成27年12月から佐世保市ハウステンボス、ウォーターマークホテル長崎と朝食バイキングで提供するパワージュースの開発(平成26年度外部資金採択活動より継続)。
- ⑧平成28年4月から株式会社アンスリーファーム(山形県寒河江市)と6次産業における農業生産物(果物)を用いた商品開発に取り組み、提供農業生産物(果物)を用いた商品開発に向けたレシピ作成、サンプル調製、商品化を大学として担当。H30年度以降継続あり。
- ⑨平成28年度から佐世保市農業畜産課とお菓子工房いくたへ、世知原茶を活用した新商品開発のアイデアの提供(平成29年 第71回全国お茶まつり長崎大会、試作品を「お菓子工房 いくた」で商品化・販売)。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

全国栄養士養成施設協会 会長賞／2018年9月

8. 活動全般についての自己点検・評価

(1) 教育活動においては学生支援・指導の時間が年々増え、特に「管理栄養士国家試験受験対策」の指導や担当科目等の活動に時間を費やし、授業アンケートを受けて講義資料の変更や演習内容の変更を行った。また、全学教務委員会や学科係として教務全般のとりまとめ、履修、再試験調整などの活動で多忙となり、本来講義準備や研究に充てる時間を学科教務に費やさざるを得ない状況がここ数年続いている。ただ、余裕がない状態で様々な業務をしているが、少しずつ改善しい教材が配布できるようになった。

(2) 研究活動は、卒業研究で近年商品・メニュー開発に携わる機会がふえ、卒業研究テーマとして学科内の複数の教員と学生で様々な活動をすすめている。昨年度から再開した「新調理システム」のレシピ作成や料理調製も終え、新たに追加できるものを検討中である。また、世知原茶を活用した新商品開発(アイデア提供他)では、担当している実習の加工品として活用できるよう卒業研究での活動も加えた。大学院の研究指導の中でも、大量調理の調味について既存のデータとの差を分析し、実際に使用可能な調味パーセント等を検討している。

(3) 数年前、卒業生から協力依頼があった農園六次産業化は、現在農園側の商品化が本業の果樹栽培で中断しているが、再開後は再度提供レシピの再検討等を行う予定である。

(4) 養成施設での功績により全国栄養士養成施設協会会長賞を受賞できたことは、さらに栄養士・管理栄養士養成に貢献するための原動力となった。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 林 俊介

1. 教育理念

私の教育理念は、管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一步を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来働くために求められる知識と技能を修得し、確実に国家試験合格を目指すという高い目的意識を高めることを期待するものである。よって、授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルを進めて行く。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	①②④⑤⑩⑪
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	35	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	37	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	34	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	36	②③⑩⑪
治療食実習	30/30(前期)	1	28	①②③④⑧⑩⑪
治療食実習	30/30(前期)	1	32	①②③④⑧⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	28	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	44	②③⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	2	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養管理学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度担当した講義・実習ともに授業アンケートでの評価は、概ね例年と同等の評価を得た。臨床栄養管理学Ⅱは、昨年若干下がったが、今年は、改善が図られた。

受講生の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)の改善、また予習の範囲を知らせ、復習を促し、学修を深めるためにポートフォリオを活用した授業前後での情報提供などを行っている。Manabaを活用した課題レポートへの取り組みや学修のふり返りが出来るようにしている。再試験に残る学生は、これらを全く利用していない傾向が認められるため、日々の学修で活用していくように促していきたいと考えている。

アクティブ・ラーニングの種々の手法を用いた授業展開を積極的に実施している。受動的な授業の受け方では無く、能動的な取り組みができるように促したい。

授業の中で、様々な症例の影像や臨床現場で使用される栄養剤、補助食品、治療用特殊食品などを教材として提示することで、臨床栄養への興味と関心を高めることを狙っている。学生の反応も良いものである。

来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	1	33

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 血液透析患者の生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
2. 血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
3. 血液透析患者における加工食品の利用とリン摂取が病態へ与える影響に関する研究
4. 陰膳食事調査法による血液透析患者の栄養摂取状況と栄養状態に関する研究
5. 慢性腎臓病に関する骨・ミネラル代謝異常(CKD-MBD)に関する研究
6. 血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究
7. 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて
8. フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

血液透析患者における口腔及び嚥下の状態が生活の質(QOL)に与える影響について/2019.3.3
/長崎県人工透析研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	オープンキャンパスの企画、運営。募集活動(進学ガイダンス、模擬授業、進学ガイダンス等)の実施。入学前教育の実施。
大学間連携共同教育推進事業 事業名:在宅医療・福祉コン ソーシアム長崎	委員	運営委員として活動。 在宅医療概論、地域包括ケア概論の授業。大 学間連携での合同実習の引率、指導。
教養セミナー(学科)	担当者	事業計画の作成、各部署・教養セミナー担当 教員との連絡調整、学外講師との交渉、連絡 調整。教養セミナーでの学修活動を通して新 入生の大学生活を支援。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業タイプ5「プラットフォーム形成」	メンバー	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、高等教育の質向上専門委員会及び教務系WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。
将来構想委員会	委員	大学の将来の在り方について、様々な提案を行う。本年度は、売店や奨学金制度についての立案と提案を他の委員とともにいった。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 清峰高校 大学見学会 模擬授業/6月19日(火)/本学
- ② 県立大村城南高等学校 大学見学会 模擬授業/9月19日(水)/本学
- ③ 龍谷高等学校 高校内進路ガイダンス 模擬授業/2月20日(水)/龍谷高等学校(佐賀県佐賀市)

その他

入試・募集委員として、4回のオープンキャンパスの実施、大学見学のため来学した生徒、保護者への対応。

地域の栄養士の先生方からの求人依頼に対し、キャリアセンターや学生、卒業生などへの紹介を行い、就職に繋がるよう支援を行った。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
にこにこ透析 患者教育へ活かす透析患者さんの食事のリンとカリウム管理のコツ。 ～美味しく上手に食べて、元気に透析! ～	9月27日(木)	ホテルリソル佐世保	長崎県北腎不全看護研究会
にこにこ透析 患者教育に役立つ透析患者さんのための毎日の食事の美味しく、上手なコツ。外食、中食、内食、様々な食生活を営む患者さんへのアプローチ。	11月20日(火)	北松中央病院	北松中央病院血液浄化センター
フェニルケトン尿症の食事と栄養管理のコツ。毎日の食事を美味しく、楽しく。	3月30日(土)	長崎国際大学	PKU親の会・九州

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	副会長	平成27年6月26日～平成31年6月30日	佐世保市保健福祉部健康づくり課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市長寿社会課より依頼のあった佐世保市 地域ケア個別会議に長崎県栄養士会佐世保支部から助言者として派遣され、平成30年4月より会議に出席し、活動を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度は教養セミナーでは6名の新生を担当した。1名が、後期からケガ等の事情により出席不良になり、定期試験も全く受験できない状況になってしまった。時より連絡を取り、状況の確認やアドバイスを行ってきたが、フォローが十分にできていたのか悩むところである。今後も本人の希望を確認し、支援をしていきたいと考えている。

他のメンバーは休学、転学科もなく次学年へ進級させることが出来た。大きな問題は発生することなく一年目の学修活動を支援することが出来た。

2年生5名は、2年次をこれまでのところ順調に学生生活を過ごせてきている。成績的に厳しい学生もいるが、日々の学修や試験への取り組みを支援している。

3年生は、これまで同様、6名のゼミ生と北松中央病院にて研究活動を継続して出来ている。4年生2名は、卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表、論文提出する事が出来た。卒業試験にも2名とも合格し、卒業する事が出来、国家試験を受験した。本年度の就職状況は、卒業までに1名は内定を得ることができた。もう1名も進路決定ができるように支援を行っていく。

教養セミナー

本年度も教養セミナーAは、全学共通のプログラムで実施するため、学科内の担当者として、使用する教材の改善を行った。本年度前期は、それらのプログラムに基づき栄養学科の授業を実施するため、学科教員へ授業展開を周知し、計画通り進めた。

後期の教養セミナーBは、例年の接遇セミナーやプレゼンテーションの他、青年海外協力隊の活動や食育の講話を取り入れたプログラム企画し、授業内容の充実を図った。

来年度以降は、初年次教育、導入教育の効果的なプログラムになるよう、更に改善に取り組んで行く予定である。

私立大学等改革総合支援事業 タイプ5

私立大学等改革総合支援事業タイプ5「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、高等教育の質向上専門委員会・教務系WGの事業推進の実務を担っている。本年度は、留学生の日本語能力向上支援「日本語e支援」や大学間共同の情報教育科目の導入、長崎県、佐賀県と連携した人材派遣事業などの取組の推進をプラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の全14校の連絡調整の窓口となり、合同会議の実施や資料作成を行っている。

本年度は、様々なプラットフォーム事業がスタートしたため、かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

入試・募集委員会

入試・募集委員として、受験生及び入学者確保のため、年間4回のオープンキャンパスの準備と実施、様々な進路ガイダンスの依頼、また大学見学に来られた高校生と保護者への対応、さらに高大

接続への取り組み、入試改革、指定校の選定、入学前教育の実施、大学入学共通テストに向けたプレテストやその他、全ての入学試験での試験監督業務に従事した。

オープンキャンパスは概ね、例年並みの参加者を確保した。依頼があった12件の進路ガイダンスへ対応した。本年度の健康栄養学科の受験者数は、概ね例年並みの157名(推薦、一般学力、センターを合わせて)であり、学科の入学定員(80名)をほぼ確保出来る見込みである。

平成27年より5年間、入試・募集委員を務めた。受験者数や入学定員の確保、オープンキャンパス、入学試験の実施等、様々な成果を残すことができたと考えている。

研究活動

研究活動では、本年度は1回の学会発表を行った。今後、研究の質を高めていきたい。研究活動をさせて頂いている北松中央病院では活動にご理解を頂き、研究活動を継続させて頂いている。卒業研究を履修する3,4年生にはゼミ活動を行うに当たり、ベッドサイドでの栄養指導、調理教室の実施と多くの透析患者様や透析医療に関わるスタッフの先生方に接することが出来、非常に貴重な経験を数多くさせて頂いている。学内での講義・実習や臨地実習では経験できない有意義な学びが出来ている。最近、林ゼミの卒業生が北松中央病院に管理栄養士として採用され、4月より勤務を開始する予定である。この卒業生の協力を得て、研究を進めていきたい。

研究活動の一環として、研究活動を行っている病院での研修会で今年も講演を行った。本年度は、腎不全透析看護研究会での講演依頼を受け実施した。地域貢献になる活動も行っている。

腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。学生にとっても、私にとっても大変貴重な経験となった。これについても学会発表を行っている。今後、症例報告として調査内容をまとめて論叢などに投稿したいと考えている。

本年度は、新しい取組として、フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動を始めた。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生と一緒に研究活動を行っている助手の先生らの学びとなるものと考えている。このテーマで論文作成、学会発表へとつなげたい。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。昨年度は、2名が国立病院機構へ採用された。本年度は、1名が内定を頂いたが、既に他に就職が決まり、辞退をした。多くの卒業生が臨床現場に就職し、様々な業務に従事している。

今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

その他

その他に、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の委員として、事業推進のため早期体験学習や在宅医療概論の実施などを行っている。また、栄養士会の活動も食育から地域包括ケアに関連するものまで、多岐に渡り携わっている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 松尾 嘉代子

1. 教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。

人が「食べること」を楽しむことは、QOLを高めるために重要なことです。

食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場면을想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
健康栄養入門	8/15(前期)	2	85	②③⑤⑥
栄養教育論 I	15/15(前期)	2	42	①②③⑩
栄養教育論 I	15/15(前期)	2	38	①②③⑩
栄養教育論実習 I	30/30(前期)	1	34	②③④⑪
栄養教育論実習 I	30/30(前期)	1	30	②③④⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
応用栄養学 I	15/15(後期)	2	42	①②③⑨
応用栄養学 I	15/15(後期)	2	32	①②③⑨
ライフステージ栄養学実習	4/30(後期)	1	30	①④⑩
ライフステージ栄養学実習	4/30(後期)	1	34	①④⑩
栄養教育論実習 II	30/30(後期)	1	34	②③④⑪
栄養教育論実習 II	30/30(後期)	1	35	②③④⑪
総合演習 I	14/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫
総合演習 II	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
学校栄養教育論	9/15(後期)	2	3	①②③⑤⑥⑦
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	14	①
教職実践演習(栄養教諭)	4/15(後期)	2	6	⑤⑦⑩⑪
卒業研究	30/30(通年)	2	13	⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30/30(通年)	1	64	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30/30(通年)	1	77	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30/30(通年)	1	83	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30/30(通年)	1	82	⑪⑫
栄養教育実習	40/40(通年)	1	6	⑦
事前・事後指導(栄養)	7/8(通年)	1	6	④⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養教育学特論	15/15(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今期より担当となった教科があったため、どのような評価になるか気になっていたが、これまで担当していた科目と大きく変化なく、平均点以上の満足度であったことは評価できると思う。

自由記載においても、概ね好評を得ているので、今後も、学生にとって興味を持てる分かりやすい授業の実施を心がけていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
児童福祉施設(保育所)に関する給食に関する勉強会	2	13	2019/3/8,14

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児の発育・発達に合わせた効果的な栄養教育の検討
(保育所における食物アレルギーに関する対応への研究)
スポーツ栄養、ライフステージの栄養
平成26年度がんばらば国体の弁当に関する検討
食物摂取頻度調査票(FFQ)の開発に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2018/09/第65回日本栄養改善学会

長崎県民のメタボリックシンドロームの状況別にみた栄養素等摂取状況と運動習慣/2018/09/第65回日本栄養改善学会

平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票の妥当性/2018/09/第65回日本栄養改善学会

平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票と食生活習慣状況の関連性について／2019/02／第17回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	海外大学との交流協定締結や交換留学等について検討。
ハラスメント対策委員会	委員長	ハラスメント案件(2件)に対応。ハラスメント防止の普及啓発活動やFD開催。
教職課程委員会	委員	教職課程の授業や教育実習について検討。
教育基盤センター教職等支援部門	委員	教職課程や資格取得過程等について検討。
臨地実習委員会(学部内)	委員	臨地実習に関する必要事項について検討。
IBO2020実行委員会	委員	2020年本学で実施される国際生物学オリンピックの開催に関して検討。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 学科広報催事(公開講座)実施／平成30年8月18日(土)／場所:本学科調理実習室／「家族で学ぶ育ち盛りの食事」を開催／参加者:保護者13名、学童14名 計27名／スタッフ:教員6名、学生10名／成長期に必要な栄養の講話と調理実習を実施／参加者の満足度5点満点中4.8点
- ② 学科広報催事(公開講座)実施／平成30年8月20日(月)／場所:本学科調理実習室／「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」を開催／参加者:9名／スタッフ教員3名、学生12名／食物アレルギーに関する講話と調理実習を実施／参加者の満足度5.0満点中4.8点
- ③ 学科広報催事(公開講座)実施／平成30年9月1日(土)／場所:本学科調理実習室／「家族で

楽しむ子どもの食事(幼児食講座)」を開催／参加者:大人20名、幼児17名 計37名／スタッフ教員5名、学生6名／幼児期の食事のポイントと予防接種の進め方の講話、調理実習を実施／参加者の満足度5点満点中4.9点

④ 学科広報催事(公開講座)実施／平成29年9月11日(火)／場所:本学科調理実習室／「家族で楽しむ赤ちゃんの食事(離乳食講座)」を開催／参加者:大人18名、幼児14名 計32名／スタッフ教員6名、学生7名／離乳食の進め方のポイントと食品衛生の講話と調理実習を実施／参加者の満足度5点満点中4.9点

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
11	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度長崎県食生活改善推進員リーダー研修会「長崎県が『健康長寿日本一』になるために～栄養調査の結果から課題を考える～」	5月25日	長崎市民会館	長崎県国保・健康増進課長、長崎県食生活改善推進連絡協議会長
平戸市立大島中学校「食の学習会」「ティーンエイジの栄養学～その食事が未来のあなたを作る～」	6月5日	平戸市立大島中学校	平戸市立大島中学校長
平成30年度平戸市学校給食研究会「子どもたちの健やかな成長のために大人としてやるべきこと～栄養学の観点から朝食や給食、運動のあり方を考える～」	7月27日	たびら活性化施設	平戸市学校給食研究会会長
佐世保市保育会給食部会研修会「食物アレルギーについて」	8月21日	長崎国際大学4号館調理実習室	佐世保市幼児教育・保育研究会会長
教員免許状更新講習会「食を通して健康を考えるB」	8月23日	長崎国際大学3303教室	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
教員免許状更新講習会「幼児期の栄養」	8月24日	長崎国際大学3303教室	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
平成30年度長崎県児童養護施設協議会食育分科会「子どものライフステージ別の食事と補食について」	9月5日	山澄地区公民館第2講座室	長崎県児童養護施設協議会長
平成30年度3校合同保健委員会講演会「育ち盛りだからこそ栄養学を本気で学ぼう！」	11月6日	平戸市立南部中学校体育館	平戸市立南部中学校長
平成30年度中堅栄養士研修会「PDCAに基づいて地域課題を考える」	1月18日	長崎県県央保健所会議室	長崎県県央保健所長
平戸市立度島小中学校食育講演会「ティーンエイジの栄養学～その食事が未来のあなたを作る～」	2月13日	平戸市立度島小中学校体育館	平戸市立度島小中学校長
平成30年度協会けんぽ長崎支部特定保健指導における実務者研修会「時間栄養学について」	2月28日	長崎市立図書館新興善メモリアルホール	全国健康保険協会長崎支部長

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
県北保健所地域・職域連携推進協議会作業部会	委員	2018/04/01～ 2019/03/31	長崎県県北保健所 長
大村市食育推進県民会議	委員	2018/04/01～ 2019/06/30	大村市長
(公社)長崎県栄養士会	理事	2018/05/01～ 2020/4/30	(公社)長崎県栄養 士会長
(公社)佐世保市学校給食会	評議員	2014/06/01～	(公社)佐世保市学 校給食会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/
主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、今年度から担当科目となった「応用栄養学」の授業アンケートで、これまで担当科目であった栄養教育論と変わらない高い満足度を得られたことは、評価できると考える。今後も、学生が管理栄養士として活躍するために必要な知識や技術を、できる限り分かりやすく伝えていきたい。また、今年度、初めて大学院生に対する修士論文の研究指導を行っているが、指導を通して私自身の教育スキル向上も目指していきたい。

研究活動としては、一昨年度から実施している佐世保市保育会給食部会との合同研修会が今年度も継続できており、学生の卒業研究のフィールドとして活用できている。この研究活動の経験を基に、学生が保育所等を就職先の選択肢として検討し、実際に就職できている。このことは、私の教育

理念でもある全ライフステージにおける食育体制の整備として、乳幼児期で食育推進するための人材育成が進んできていると実感している。今年度は、大学院生の修士論文の研究として、佐世保市保育会に協力を依頼し、保育所等に通う食物アレルギー児の保護者に対するアンケートを実施した。今後は、このアンケート結果を集計・分析し、食物アレルギーがあっても健全な成長ができる環境づくりを保育所等と共に検討していきたいと考えている。さらに、平成28年度に長崎県から委託を受けた健康・栄養調査とBDHQ調査の結果についても継続して分析を進めており、その結果を学会で発表できているので、次年度は、これらの発表を基に、論文投稿を行いたいと考えている。

大学運営活動は、委員会活動として今年度よりハラスメント対策委員長を拝命し、その任務を遂行している。今後もハラスメントの無い大学を目指して、職務を全うしていきたい。広報活動は、今年度より食物アレルギー児を支える地域づくり講座を加えて学科広報催事として4講座を実施した。いずれの講座も大変好評であったので、次年度も継続して実施していきたいと考えている。

社会活動は、学外からの講演依頼が多く、8講演(学外実施分のみ)を実施した。いずれの講演も学生に対する教育活動に還元できる内容であったので、講演を通して得ることができた情報を、今後の教育活動に活かしていきたい。公共団体の委員等についても4つの委員に就任しており、今後も可能な限り貢献していきたいと考える。

現在の職位で3年を終え、それに見合う研究・教育活動を実施できているか常に自己評価を行いながら、業務に取り組んでいくことが重要であると考えている。今後も、学生や地域に貢献できる活動を行えるよう自己研鑽していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 大橋 真理子

1. 教育理念

臨床現場のノウハウを教育現場に取り入れて、実践力のつく授業を実施する。臨床栄養学を日常生活に結びつけて、身近に理解できるように指導している。アクティブラーニングを実施し、学生参加型の授業で、プレゼンテーション能力の向上できるような教育を実施したいと考えて取り組んでいる。学生との交流を重視している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①②
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	39	①
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	38	①
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	43	①
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	37	①
臨床栄養管理実習	30/30(後期)	1	32	①
臨床栄養管理実習	30/30(後期)	1	41	①
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①
給食栄養管理実習(学内)	30/30(後期)	1	0	①
給食栄養管理実習(学内)	30/30(後期)	1	6	①
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①
卒業研究	30/30(通年)	2	8	①⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年目標としては、評価が4.5を超えるような改善を考えていたが、目標と違う結果となってしまった。次回の授業では、すこしでも良い評価がいただけるように、あらゆるところを改善していこうと考えている。とくに、「話し方の明瞭さ」について、自身の授業をテープに録音して聞いてみることも必要であり、学内の授業では、ビデオにとるのも少し問題があるかと思い、先日、佐世保市内の市民大学の

講座において、自身の講義をビデオにとり、声の大きさや、話しかたについて考察してみた。すると、自身が考えているよりも、ずいぶんと話しかたがはっきりとしていなかった。話の語尾が思った以上に聞き取りにくいことがわかった。アナウンサーのように、「あいうえお」や早口言葉を練習することも必要であるし、顔の表情、もっと明るく、活気のある表情が必要であると思った。表情を鏡で見て、魅力のあるしゃべり方であるかの研究が必要であると考えている。また、授業内容については、現在の教科書に、症例検討の内容がないため、独自の症例検討を作成しているが、症例検討の教科書や事例集を探して、それを教科書として使用することにすると、学生が自主学習しやすくなると検討している。また、シラバスと授業内容の整合性については、シラバスに沿って授業を展開しているつもりでも、授業内容を盛り込みすぎると、時間内におさまらなくて、適切な授業ができていないことがあったので、授業内容、テキスト、配布プリントについて再検討をして、適切な内容となるように検討する。また、学生の授業参加を促す工夫については、昨年よりも、こまめに質問を実施して、学生の意見について検討する機会を増やすようにしたが、もっとアクティブラーニングをとりいれて、臨床栄養の症例の課題について考える機会を作り、学生が授業に積極的参加できるように、しようと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 /学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

3項目の研究に取り組んでいる。

①「嚥下困難者の食事における喫食率の改善」

「嚥下困難者の食事における視覚刺激による喫食率の改善」・「ペイント嚥下食」の事例報告を行った。嚥下機能が低下した者の食事の摂食率と満足度を改善するために、通常の介護食の表面に、色が違う複数の食材で作成したペンで絵を描いた食事を考案し、「ペイント嚥下食」と名付けた。そして、嚥下困難者の食事における視覚刺激による喫食率の改善を「ペイント嚥下食」により行い、その効果がみられた事例を報告した。そして、色が違う複数のペイントの調理方法について説明し、ペイント事例は、好評な評価が得られた。

「.ペイント嚥下食の特定給食施設における実用化の検討」では、嚥下機能が低下した者の食事の摂食率と満足度を改善するために、通常の介護食の表面に、色が違う複数の食材で作成したペンで絵を描いた食事を考案し、「ペイント嚥下食」と名付けた。その実用性について三者の立場から通常の介護食との比較検討を行った。第一は調理従事者側、第二は患者側、第三は介護職員側である。その結果、特定給食施設における実用化の有効性が示された。今後、臨床現場における使用効果

について検討していきたい。

②「栄養指導の手法の検討」

脂質異常症は、自覚症状がないまま動脈硬化を進展させ、冠動脈疾患や脳血管障害のリスクを高める。食生活や生活習慣の悪化に基づく場合が多く、それらの改善を行うことが治療の基本となる。特に軽度の脂質異常症の場合は、この改善が十分な効果をもたらす場合が多い。

1報として、「脂質異常症が疑われる外来患者を対象に管理栄養士による栄養指導の手法について検討」した。「質問紙」を考案作成し栄養指導に利用した。栄養指導の効果を検証し、質問紙の内容と栄養指導法を検討するための基礎資料とした。

2報として、「脂質異常症が疑われる者を対象とした栄養指導の手法およびその効果の検討」脂質異常症が疑われる者を対象者とし、管理栄養士による栄養指導の手法について検討するとともに、その手法を実施して効果を検証した。本研究の対象者は、岐阜県F病院の外来患者で、脂質異常症が疑われ栄養指導を実施した者(131人)のうち、5回の継続栄養指導が実施できた102名である。オリジナルの「質問紙」(61項目)と行動計画実行表を作成して「自己チェックシート」と称し、栄養指導の際にそのシートを使用する者を「介入群」、使用しない者を「コントロール群」とした。血液検査値やBMI、推定エネルギー摂取量の変化について上記2群間の比較をt検定にて行い、危険率5%未満を有意な関係があるものとした。次に、これらの結果を以下に示すカテゴリー別に分け、グループごとの比較を行った。カテゴリーとは、日本動脈硬化学会 動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007年版における4つのリスクカテゴリー(冠動脈疾患無群の中の①低リスクグループ、②中リスクグループ、③高リスクグループと④冠動脈疾患有グループ)、さらに、①投薬有グループ、②投薬無グループである。

栄養指導を継続して行うことにより、介入群、コントロール群ともに、血液検査値、BMI、推定エネルギー摂取量の改善がみられた。介入群におけるTG、LDL、BMI、推定エネルギー摂取量は、コントロール群に比し、有意な改善がみられた($p < 0.05$, $p < 0.01$)。栄養指導の回数を重ねるにつれ実施度が増した。項目を分類別に詳細にみると、100%に達した項目は、料理の組み立て方、肉や野菜、間食などの摂り方、毎日の体重計測、食事内容の記録などであった。各カテゴリー別では、栄養指導回数を重ねるにつれて、血液検査値、エネルギー摂取量、質問紙項目の実施度に改善がみられたが、グループ間の差はみられなかった。介入群において、栄養指導の際に使用した自己チェックシートの質問紙項目のほとんどすべてについて実施度が増した。これら質問紙項目の実施度と、前述の血液検査値、BMI、推定エネルギー摂取量の改善は連動していると思われ、継続栄養指導において今回考案した「自己チェックシート」を使用することの有効性が示唆された。今後栄養指導の対象者を、予め前述のカテゴリー別に分けること、また、自己チェックシートの質問紙項目の実施重要度をカテゴリー別に整理して使用することにより、自己チェックシートをより効果的に活用できると考える。

③「厨房内の労働負担の改善」

「既存厨房服と防水着における洗浄作業時のストレスの測定」

大量調理施設の厨房洗浄室の労働環境は食器洗浄機が導入され、高温多湿となっている。作業者は作業環境の不快感を訴える者が多く、労働負担とストレス度が高いと推測される。本実験は2種類の作業服を着用して作業時の作業者の負担度を明らかにすることを目的とした。実験は2月上旬、平均温度28℃、湿度79%のF病院厨房 洗浄室で行なった。被験者はF病院にて厨房洗浄作業に従事

している平均年齢60.0歳の健常な女性5名である。作業服は、既存厨房服 と対照防水着を対照とした。既存厨房服は、綿35%、ポリエステル65%を素材とする長袖前開式上衣、ロングパンツの下衣。防水着は、高透湿防水素材の表/ポリエステル100%、裏/ナイロン100%を素材とする半袖Tシャツの上衣とハーフパンツの下衣であった。測定項目は、疲労調査、官能検査、唾液アミラーゼ、舌下温である。前室に入室後作業着に着替え、厨房洗浄室において45分間の食器洗浄作業を行った。測定は、作業開始前、作業30分後、作業45分後、作業後15分に行った。既存厨房服着用群は防水着着用群とともに、作業中の自覚症状しらべ訴え率、温冷感スケール、唾液アミラーゼ活性、舌下温はいずれも作業前に比較していずれも高値を示した。作業後15分は、既存厨房服着用群は作業前と有意な差を認めたが、防水着着用群は有意な差を認めなかった。既存厨房服着用群と防水着着用群の作業後15分の自覚症状しらべ訴え率、温冷感スケール、唾液アミラーゼ活性は作業前の状態に回復した。しかし既存厨房服着用群の作業後15分の舌下温は、作業前と有意な差が認められ、作業前の状態に回復しなかった。今後作業後の作業者の舌下温を作業前の状態に回復できる作業服を検討し、厨房作業者の労働負担度を明らかにし、労働負担を改善して行きたい。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
ペイント嚥下食の特定給食施設における実用化の検討/平成24年3月/給食経営管理学会誌/
3頁-13頁/共著/論文
脂質異常症が疑われる者を対象とした栄養指導の手法およびその効果の検討/平成25年3月/金城学院大学修士論文/6頁-6頁/単著/論文
食器洗浄作業時における既存厨房服着用が身体に与える影響/平成29年1
月/日本繊維製品消費科学会/74頁-79頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
脂質異常症が疑われる者を対象とした栄養指導の手法およびその効果の検討/平成24年10月/
日本栄養改善学会
既存厨房服と防水着における洗浄作業時のストレスの測定/平成27年6月/日本繊維製品消費者
科学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	男女共同参画推進週間での活動
地域連携センター	委員	公開講座・まちなか大学・市民大学の準備及び受付担当他
健康管理学部 倫理委員会	委員	健康管理学部 倫理委員会での倫理会議内委員活動

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
まちなか大学 生活習慣病の予防と食生活	平成28年7月	佐世保中央公民館	佐世保市

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育・研究活動・地域連携など、それぞれの活動において、現状よりも改善努力し、より良い活動を推進していこうと思う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川内 美樹

1. 教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、4年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。

私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、4年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、放課後には化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	②⑥⑦⑪
栄養代謝学	15/15(前期)	2	26	②⑨
栄養代謝学	15/15(前期)	2	57	②⑨
基礎栄養学実習	18/30(前期)	1	51	①⑥⑪
基礎栄養学実習	18/30(前期)	1	38	①⑥⑪
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	56	⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑤⑥⑪
生化学	15/15(後期)	2	38	②⑨
生化学	15/15(後期)	2	36	②⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	30	①⑪
生化学実習	30/30(後期)	1	45	①⑪
基礎栄養学	6/15(後期)	2	38	②
基礎栄養学	6/15(後期)	2	33	②
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
基礎化学実習	18/30(後期)	1	33	①⑧⑨⑪
基礎化学実習	18/30(後期)	1	29	①⑧⑨⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	4	⑫
総合演習Ⅰ	9/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床生化学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

栄養代謝学/質問13の平均点は4.5であった。昨年度が4.8だったので、0.3ポイント低下した。また、もう1つのクラスの結果も同じくらいであった。

コメント欄をみると、別クラスと同様で、「難しく大変だった」「覚えることがたくさんある」というコメントもあるが、それ以上に「わかりやすかった」や「がんばります」と前向きなコメントが多く、こちらとしても大変うれしい結果であった。全体的に例年通りの評価で安心した。本科目はやはり授業だけでは理解することは難しく、復習をしていない学生が再試験や再履修という結果になっているようなので、来年度からはもっと時間に余裕を持ってマナバなどを活用して課題を増やしたり、また小テストの回数を増やすことで自分から勉強する工夫を考えたいと思う。まずは昨年同様引き続き、再履修者ゼロを目指して丁寧に指導していきたい。

栄養の化学演習/質問13の平均点は4.3であった。ほとんどの学生が4以上の回答であったので良かったと思う。高校化学の復習科目であるので高校時代の得意不得意があり、またクラス内にも学力差があったので例年に比べレベルを下げた内容で実施したが、化学が得意な学生には少し物足りないようであった。今回初めて本科目の授業アンケートを実施してみたが、やはり学力差があるクラスで全員に満足してもらった授業は大変難しいということが改めてわかった。

問題の答えあわせもわからないので丁寧に欲しいという声と丁寧すぎるからもっと早く進めて欲しいという声の両方があることから、授業の進め方をもう一度検討してみたいと思う。

1年生前期の基礎固めの大切な時期に全員に化学生物の重要性を知ってもらい、身につけてもらうかは我々の課題である。

生化学/質問13の平均点は4.5であった。もう一方のクラスが4.2だったので、こちらが高い結果であった。コメント欄をみると、「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」と前向きなコメントが多く、こちらとしても大変うれしい結果であった。中教室で1限目での授業であったので、遅刻が少し多かったのが気になった。また、質問1の結果が低く、予習復習ができていない学生が多いのが大変気になる場所である。来年度はマナバを用いた勉強方法を改善し、全員が予備学習に取り組めるように工夫をしていきたい。そうすることで、質問12の理解度の結果にも繋がっていくと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校 衛生看護専攻科	栄養学	8/8(前期)	1	42

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士演習(再履修)	2/30	10	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響
2. 種々の癌細胞に与えるグレリン投与の影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響について/2018/09/第65回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書を選書の取りまとめ、選書ツアー、ビブリオバトル、100冊読書の取り組み案
ハラスメント対策委員会	委員	相談への対応
IRセンター	委員	新入生在学生アンケートの実施、集計、考察 卒業生アンケート実施案
学科学生委員会	委員	学生指導など
学科国試対策委員会	副委員長	模擬試験の申し込みと実施、模擬試験採点と評価、願書出願の取りまとめ、国家試験結果(学生個別)の採点と評価、学生への連絡、保護者への成績表送付、朝テストの実施 など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
(社)栄養士養成施設協会 認定 栄養士実力試験	実施責任者	試験申し込み、結果集計、成績表認定証配布
入試問題作問	作問責任者(化学基礎・化学) 作問グループ(基礎 実力検査、生物基礎・化学基礎)	推薦入試2回分作問 一般学力入試2回分作問

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① オープンキャンパス(7月、8月、3月)への参加

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
国試等の支援対策	2018.07.07	長崎国際大学	授業研修会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本栄養・食糧学会九州沖縄支部参与	メンバー	9年	日本栄養・食糧学会九州沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、担当科目は全て滞りなく進めることができた。授業アンケートの結果も昨年度よりは低下していたが、コメント欄は例年通り「わかりやすかった」という意見が多くよかったと思う。

研究面においては、目標としていた論文作成まではできなかったが、学会発表を行うことは出来た。来年度は論文を提出できるように頑張りたいと思う。

また、委員会等の活動ではIR委員としてアンケート実施集計を行ったり、図書館委員としては学科の選書を行ったりした。ハラスメント対策委員でも相談に対応するなど職務を全うすることができた。

学科の国家試験対策委員のメンバーとして、模擬試験の実施から学生教員、保護者への結果のフィードバック、さらに朝テストの作成から実施までをメンバーと協力しながら行うことができた。

来年度は卒業研究の進め方が変わり、今まで以上に国家試験との両立で学生も大変になると思われるが、与えられた任務に加えて学生へのサポート、さらには自分自身の研究面も充実させていきたいと考える。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川野 香織

1. 教育理念

私の教育理念は、人々の多様性の理解と尊重をし、対象者に寄り添った意思決定の支援によって、多くの人々のよりよい食生活の実現に貢献できる管理栄養士の育成を行うことである。

私が主に担当している栄養教育論は、人々の生涯を通じた健康の維持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成や確立、行動変容のために、いかに支援するべきかの学問である。それは、単に知識を伝えるだけでなく、行動科学や教育的な幅広い視点を踏まえ、さらに対象者に応じた栄養教育を行う必要がある。そして、その一歩は、対象者を理解し、尊重することから始まると考える。

よって、学生には、人々の価値観や社会的背景の特徴等の多様性の理解と尊重ができる、豊かな人間性を身につけてほしいと考えている。その点を踏まえながら、講義中心の授業では、意欲喚起を図る手段を組み込み、高い専門力の育成を行うと同時に、実習でのグループ討議や発表等を通して、コミュニケーション力、協働・課題解決力を育成に努める。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食教育論	15/15(前期)	2	19	①②③
栄養教育論実習Ⅰ	30/30(前期)	1	34	②③④⑪
栄養教育論実習Ⅰ	30/30(前期)	1	30	②③④⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	②③⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
栄養教育論Ⅱ	15/15(後期)	2	46	①②③⑩
栄養教育論Ⅱ	15/15(後期)	2	35	①②③⑩
栄養教育論実習Ⅱ	30/30(後期)	1	34	②③④⑪
栄養教育論実習Ⅱ	30/30(後期)	1	35	②③④⑪
総合演習Ⅰ	14/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	②③⑨
学校栄養教育論	8/15(後期)	2	3	①②③⑤⑥⑦
生徒指導概論	3/15(後期)	2	3	②⑩
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	14	①
教職実践演習(栄養教諭)	4/15(後期)	2	6	⑤⑦⑩⑪
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	30/30(通年)	1	64	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	30/30(通年)	1	77	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	30/30(通年)	1	83	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	30/30(通年)	1	82	⑪⑫
栄養教育実習	40/40(通年)	1	6	⑦
事前・事後指導(栄養)	5/8(通年)	1	6	④⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の内容や方法、授業に対する満足度の回答は、「教養セミナーA・B」「食教育論」の科目においては、平均点を上回っており、自由記述でも好評を得た。今年度より担当した「栄養教育論Ⅱ」においては、改善点が多くあり、次年度に向けては、特に、板書方法の改善やレポート内容および提出方法について明確にしていき改善を図る。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
保育所における食物アレルギー児への対応と課題/2018年2月/長崎国際大学教育基盤センター
紀要第1巻/115-121/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/平成30年9月/第65回日本栄養改善学会
長崎県民のメタボリックシンドロームの状況別にみた栄養素等摂取状況と運動習慣/平成30年9月
/第65回日本栄養改善学会
平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票の妥当性/平成30年9
月/第65回日本栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	学生の就職に関する事項について検討
教養セミナー委員会(学部内)	委員	教養セミナーの企画について検討
臨地実習委員会(学部内)	委員	臨地実習に関する必要事項について検討
長崎国際大学IBO2020実行委員会	委員	2020年に本学で開催される第31回国際生物学オリンピック長崎大会について検討

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

学科広報催事

①学童期講座/日時:平成30年8月18日/場所:本学科調理実習室/内容:成長期に必要な栄養の講話と調理実習/参加者:11組27名/参加者満足度:4.8点(5点満点)

②離乳食講座/日時:平成30年9月11日/場所:本学科調理実習室/内容:離乳食に関する講話と調理実習/参加者:大人16名、乳児13名/参加者満足度:4.8点(5点満点)

③幼児食講座/日時:平成30年9月1日/場所:本学科調理実習室/内容:幼児食に関する講話と調理実習/参加者:大人8名、幼児7名/参加者満足度:5点(5点満点)

④食物アレルギー児を地域で支える講座/日時:平成30年8月21日/場所:本学科調理実習室/内容:食物アレルギーに関する講話と調理実習/参加者:8名/参加者満足度:4.8点(5点満点)

佐世保まちなか大学講座

①日時:平成30年12月15日/場所:中央公民館/受講者:67名

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度中堅期栄養士研修会	平成31年1月18日	長崎県県央保健所	長崎県
佐世保市保育会給食部会研修会	平成30年8月21日	本学科調理実習室	佐世保市保育会給食部会
教員免許状更新講習会	平成30年8月22日、24日	本学	長崎県

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市食育推進会議	委員	2017/04/01～ 2019/03/31	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞受賞/平成30年6月

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育においては、特に臨地実習科目担当として、前職の経験を生かし、学びの深い実習となるよう事前及び事後指導に力を入れ、学生からはより理解を深めることができたとの評価を得た。さらに、昨年度からの自己課題であった事後学習の充実については、実習ノートの見直しを行い、次年度から運用することとなっており、臨地実習のさらなる充実を図りたい。

社会貢献・大学運営においては、学科広報催事として、乳児期から学童期までの講座を開催、また、まちなか大学で講座を担当し、参加者からは好評を得た。また、佐世保市食育推進会議の委員や外部からの依頼による講演も実施し、多方面で貢献できたと考える。今後も引き続き社会貢献・大学運営に尽力したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 宮原 恵子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格できる力はもちろん、社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

よって、講義系の授業では、学生の想像力を補う展開を重視しています。私が担当する講義は皆さんの生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去・未来の生活を想像しながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法です。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法です。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	31	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	46	①②⑨
健康管理論	15/15(前期)	2	33	①②④⑩
健康管理論	15/15(前期)	2	40	①②④⑩
栄養学応用演習Ⅰ	15/15(前期)	1	18	①②⑤⑥⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	39	①②⑨
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	40	①②⑨
健康科学実習	30/30(後期)	1	43	①④⑥⑩
健康科学実習	30/30(後期)	1	42	①④⑥⑩
総合演習Ⅰ	14/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	30/30(通年)	1	64	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	30/30(通年)	1	77	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	30/30(通年)	1	83	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	30/30(通年)	1	82	⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年度に比べて、全体的に評価が低下した。

昨年度から改善をした点もあるのだが、このような結果になり残念であるが、一部の学生のレベルには合っていないと考える。学生の学ぶ姿勢を向上させない限り、評価の改善は難しいと感じるため、姿勢や態度に結びつく方法や展開を検討したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅰ	30/30(前期)	1	11
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅱ	30/30(後期)	1	6
長崎短期大学	子どもの食と栄養	15/15(後期)	2	110

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士試験合格支援講座	1	10	2018年7月4日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

食事摂取状況に影響する因子の検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	1	1	37.5万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎県民のメタボリックシンドロームの状況別にみた栄養素等摂取状況と運動習慣/2018年9月5日/第64回日本栄養改善学会

長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2018年9月5日/第64回日本栄養改善学会

平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票の妥当性/2018年9月5日/第64回日本栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平成30年度学長裁量経費「長崎国際大学スポーツブランド“NIUS”醸成に向けた取り組み」	長崎国際大学	平成30年6月27日～平成31年2月28日	37.5万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	なし
研究倫理委員会	委員	なし
教育基盤センター運営委員会	委員	なし
教務委員会(学科)	委員	なし
臨地実習委員会(学科)	委員	なし
研究倫理委員会(学科)	委員	なし
国家試験対策委員会(学科)	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部 副部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①夢ナビライブ参加/10月20日/場所:マリンメッセ福岡

②九州文化学園高等学校1年生対象内部学校進学説明会参加/3月4日/場所:長崎短期大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度ひう自由大学「おいしく楽しい食事のための健康」	6月29日	佐世保市日宇地区 公民館	佐世保市日宇地区 公民館 館長 徳永 博之
平戸市民大学「おいしく楽しい食事のための健康」	11月24日	平戸市未来創造館	平戸市教育委員会 教育長 小川茂敏・ ひらど市民大学運 営委員会 委員長 下川武夫

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動は授業の展開を工夫して行っているが、授業アンケートや定期試験の結果より、まだまだ足りない点があると感じた。学生が興味関心をもち、自主的な態度で臨めるように、更なる工夫が必要である。

研究活動は今年度も学会発表はできたが、論文作成や投稿に至らなかった。論文作成のためには、授業以外の時間の使い方を見直す必要がある。その他の業務の効率化をすすめながら、論文作成に取り掛かりたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助教 氏名 小田 和人

1. 教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
学際連携研究	4/15(前期)	2	181	⑩
実践栄養学実習	30/30(前期)	1	39	⑥⑩⑪
実践栄養学実習	30/30(前期)	1	42	⑥⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
地域の理解と連携	6/15(後期)	2	200	②④⑥
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	119	①②⑨
総合演習Ⅰ	9/15(後期)	1	74	①
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	15	⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	9	①②④⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・前期 実践栄養学実習

スポーツ栄養マネジメントに沿った内容とし、競技毎の特徴および集団栄養教育を各自が他グループへプレゼンを行ったため、他競技に関して栄養サポートする際の注意点やポイントの説明を行った。グループ毎に作業することが多かったため、学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進み具合を把握する必要がある。また、グループによって理解に差があったように感じたことから、より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期 スポーツ栄養学

過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。シラバスの流れに従って配布プリントに沿った講義を行い、必要があれば個人の質問に答える時間を設けた。また、定期的にミニテストを実施し、理解度の確認を行い、再度その分野のポイントについて説明を行った。今後の改善点は、内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。また、講義の内容によって配布プリントの大きさを変えたことで、見づらい部分があったことから、出来る限り配布プリントは大きいものを使用していく。今年度は受講人数が増えたことから個々の理解度を細かく把握することが難しかったため、学生からの質問や意見に答える時間をもっと取るように心がける。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	7
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	17

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質の関係

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Comparison of Nutrient Intake between Japanese Female Elite and Collegiate Karate Players / 2018/Journal of Athletic Enhancement7:2 /DOI:10.4172/2324-9080.1000290/共著/原著論文

EFFECTS OF PLAYING BADMINTON ON BONE PROPERTIES USING CALCANEAL QUANTITATIVE ULTRASOUND:A PRELIMINARY STUDY/2018/European Journal of Physical Education and Sport Science 4:11 /DOI:10.5281/zenodo.1422858/共著/原著論文

Nutrient Intake and Body Composition of World Karate Champions: 4 Case Reports/2018年9月 /Journal of Athletic Enhancement 7:4 /DOI:10.4172/2324-9080.1000306/共著/原著論文

Safety Aspects of Karate As Physical Education and an Extracurricular Activity / 2018年9月 / European Journal of Physical Education and Sport Science 4 (11) :28-36/28頁-36頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

エリート空手道選手の栄養状態:4症例報告/2018年7月/第5回日本スポーツ栄養学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	H30年度広報催事として学科から5件が催され、執行に関わった。また学科Facebookサイトの定期的な投稿を行い、大学および学科の広報活動に貢献した。
教育基盤センター委員会	委員	共通教育・初年次教育・リメディアル教育・入学前教育の企画及び運営に携わった。今年度開催された大学教育学会にて、2日間および運営スタッフとして参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティ概論ワーキンググループ	ワーキング	ホスピタリティ概論の開講に際し、シラバスの作成や学科による担当回の授業内容を企画し、活動した。
国家試験対策委員(学科内)	ワーキング	国家試験合格のために行われた追加演習の際、問題作成および試験毎の採点および結果報告に携わり、国家試験対策に貢献した。
ピアサポート担当教員	ワーキング	ピアサポーターの募集および研修の実施、支援対象およびサポーターとの打ち合わせ、日程等の調整、事務処理(勤務表の確認・検印・明細表の配布)を行った。
4年演習担当	ワーキング	定期試験問題の編集および採点、結果表作成
卒業研究担当	ワーキング	卒業研究発表会の準備および論文集の作成

(3) 課外活動の指導等

①長崎国際大学空手道部 コーチ(栄養部門)

②NIUスポーツ栄養サポートチーム

: 本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本学野球部、空手道部、バスケットボール部、佐世保工業高校バスケットボール部に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。本学ホームページのトピックスに活動状況を定期的に掲載中。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

【進路ガイダンス】

①高校内進路ガイダンス『食や栄養に関わる仕事』/平成30年3月14日実施/長崎県立五島海陽高等学校

②高校内進路ガイダンス『栄養の仕事』/平成30年12月11日実施/長崎県立諫早農業高等学校

③高校内進路ガイダンス『栄養士・管理栄養士の仕事について』/平成30年3月13日実施/長崎県立北松農業高校

【本学空手道部 公式HPへのトピックス原稿作成】

①180422第47回大分県空手道選手権大会 兼 第73回国民体育大会第2次選考会に関して

②180512第60回南部九州大学空手道選手権大会並びに個人戦に関して

③180513第59回 全九州学生空手道選手権大会に関して

④180520第56回 西日本大学空手道選手権大会に関して

⑤180527第55回長崎県空手道選手権大会に関して

⑥180603第37回沖縄県空手道選手権大会に関して

- ⑦180617第41回全日本空手道連盟剛柔会九州・沖縄地区空手道選手権記念大会に関して
- ⑧181021第67回全九州大学空手道選手権大会に関して
- ⑨181028全日本空手道連盟剛柔会第42回上原杯争奪選手権大会に関して
- ⑩181117第62回全日本大学空手道選手権大会に関して

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
運動部に所属する高校生のための食事と栄養(高校生空手道選手のためのスポーツ栄養学)	4月30日	長崎県立佐世保北高等学校	長崎県佐世保北高等学校
パラアスリートのための食事	5月26日	車椅子バスケットボール九州合宿にて実施	九州車椅子バスケットボール連盟
朝食欠食や偏食が日常生活に及ぼす影響とジュニアアスリートのためのスポーツ栄養学	11月27日	佐世保市立祇園中学校	佐世保市立祇園中学校
教員免許状更新講習 体育・スポーツに関する最新情報～「スポーツ栄養」～	8月17日	長崎国際大学	文部科学省

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
栄養士会佐世保支部	副支部長	平成30年4月～現在に至る	公益社団法人長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①平成30年11月3日 「佐世保実業高等学校学園祭にて食育ブースの展示」 主催:佐世保市保健福祉部健康づくり課
- ②平成31年2月5日 「未来のトップアスリートのための体感型スポーツ栄養セミナー」長崎会場 運営スタッフ(公認スポーツ栄養士として) 主催:日本栄養士会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当科目および助手業務を担っており、責任感を持って業務を行うように意識しております。学部内委員会では国家試験対策委員として対策問題の編集および解答の集計作業を主担当として行いましたが、特に問題なく業務が遂行できたと思います。全学委員会では広報委員として学科の広報催事やホームページ改修作業に携わりました。学科で開設されたFacebookサイトでは定期的な投稿を行っており、次年度は更に投稿数を増やしていきたいと思います。教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営、教育学会にはスタッフとして運営に携わりました。またホスピタリティ概論ワーキンググループでは、授業の運営について協議し、シラバスの修正や授業担当者の選出等を行っており、今年度の反省を活かした運営に励みます。スポーツ栄養サポートチームとして、本学強化クラブ所属選手(野球部、空手部)への体力測定や食事指導、調理実習を用いた栄養教育を積極的に行い、ホームページにも定期的な掲載を行いました。特にコーチを担務している空手道部に関しては、試合や遠征の際の引率および試合期間中の食事サポートも積極的に行えました。また、車いすバスケット選手やジュニア選手(空手・バスケ等)に対して栄養講話も実施し、今後は継続的な栄養サポートを行っていく予定です。研究活動に関しては、『スポーツ栄養学的サポート』をテーマに、定期的な論文掲載および学会発表を行いたいと思います。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助教 氏名 藤井 俊輔

1. 教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持たれば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ?」、「どのように?」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ?」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないように、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか?」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	①④⑤⑥⑦⑩⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑩⑫
食品学Ⅰ	9/15(前期)	2	40	①⑨
食品学Ⅰ	9/15(前期)	2	42	①⑨
食品学実習	20/30(前期)	1	42	①⑩
食品学実習	20/30(前期)	1	38	①⑩
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	35	①⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑫
食品学Ⅱ	9/15(後期)	2	43	①⑨
食品学Ⅱ	9/15(後期)	2	36	①⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	33	①⑨⑪
基礎化学実習	30/30(後期)	1	29	①⑨⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	2	①②④⑥⑨⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前・後期の講義の満足度は4.5ポイント以上であった。講義の質を満足度のみではかることは不可能であると考えているため、時年次以降は講義の満足度と合わせて、講義内容の理解度のポイントの向上に努めたい。従って、講義内容は管理栄養士国家試験を見据えたものを基本として、講義・実習では、管理栄養士として活躍するための「感覚」や、知識の背景に関わる内容も盛り込んで、学生の興味をひきつつ、講義内容の質も担保したものとしたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	26
長崎短期大学	食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	25
唐津看護専門学校	代謝栄養学	15/15(前期)	2	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	180分×3	42	5/9、6/6、7/4
国家試験対策(個別対策)	120分	12	2/15、2/18

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製と抗体を研究基盤とした応用研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	1	1	290万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

グリチルレチン酸に対するモノクローナル抗体を用いた免疫化学的分析手法の確立/2018年8月
/食薬ヘルスイノベーション研究(第2回 鹿児島)

健康成人の腸内から分離された大腸菌群の薬剤耐性菌の年次推移/2018年9月/日本栄養改善
学会(第65回 新潟)

牛蒡子に含まれる Arctigenin のオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制作用/2018年9月
/日本生薬学会(第65回年会 広島)

ゴボウシ成分Arctigeninのオートファジー阻害の作用機序解析/2018年3月/日本薬学会(第139
年会 千葉)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業(若手研究)	文部科学省	2018年度～2020年度	290万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	全体の委員会活動に加えて、フレッシュマンセミナーの実施・取りまとめや食堂改善、卒業パーティー(責任者)を主に担当した。
学生委員会(学科内)	委員	フレッシュマンセミナーの企画や実施、奨学生対象学生の選抜、特待生判定等を担務した。
国家試験対策(学科内)	委員	国家試験対策の方法の決定や、後期12月より毎日実施する朝テスト問題の準備・作成、採点を担務した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ①バレーボールサークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①夏休み科学体験教室/2018年8月18日/場所:長崎国際大学
 ②夢ナビライブ/2018年10月20日/場所:福岡 マリンメッセ 福岡
 ③進路ガイダンス/2019年2月8日/場所:沖縄県立知念高校
 ④オープンキャンパス 2018年7月22日(模擬授業担当)、8月5日、8月19日

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
学外講座 大人の「食育」～“のんびり”食事と栄養、健康を考える～麒麟ビール福岡工場を訪ねて・・・	2018年11月15日	長崎国際大学、麒麟ビール福岡工場	本学 地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【研究面】

今年、学会発表4報(筆頭発表として1報、連名発表者として3報)を行うことができたが、学術誌への論文投稿を行うことができず、十分なアウトプット活動に繋がらなかった事が悔やまれる。しかし、前回に引き続き科研費を研究代表者として取得することができたため、これを基盤として来年度以降の研究活動へつなげ、活発な論文投稿、学会発表などのアウトプット活動に邁進したいと考えている。

【教育面】

科目担当3年目となり、一通りの形が出来上がり、講義内容や配付資料のブラッシュアップができたのではないかと考えている。しかし、講義内容の詳細に関しては、精査が必要な部分であったり、年々変化する法令や新しい知見に素早く対応すべく、日々の情報集等を怠ることなく継続し、講義へと還元していきたいと考えている。また、今年度は学生に「不明な点は必ず質問に来るように」と促す事を心がけていたため、非常に多くの学生が講義時間外にオフィスアワー等を利用して、積極的に質問に来てくれていたのではないかと実感した。そのため、昨年度以上に、時間が許す限り学生対応に時間を割くことができたことは、教育面において大きな成果になったのではないかと自負している。

【地域貢献・大学運営面】

昨年に引き続き、広報催事や公開講座、進路ガイダンス等の学内外での活動に積極的に携わることができたと実感している。特に今年度は、学外講座として地域の方々と直接お話をし一日を過ごす機会をいただいた事や、毎年開催している広報催事が新聞、携帯アプリのニュースなどで配信されたことは、本学のアピールに大きく貢献できたのではないかと考えている。来年度以降も、機会があれば積極的に地域貢献の一環として地域貢献にも取り組みたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助教 氏名 吉村 亮二

1. 教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力(専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力)を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

(講義科目)

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

(実習・演習科目)

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から考察結果までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑦⑩⑫
基礎の化学	15/15(前期)	2	65	①②⑤⑥⑧⑨
基礎栄養学実習	22/30(前期)	1	51	①⑩⑪
基礎栄養学実習	22/30(前期)	1	38	①⑩⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	65	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	⑥⑫
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	52	①⑩⑪
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	30	①⑩⑪
生物有機化学	15/15(後期)	2	6	①②③⑩
基礎栄養学	9/15(後期)	2	38	①⑨
基礎栄養学	9/15(後期)	2	33	①⑨
総合演習Ⅰ	9/15(後期)	1	74	④⑤⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	76	①②③⑧⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	73	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	15	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	2	2	①②④⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期の基礎栄養学実習において不満を感じている者は少ないが、理解できないという意見が目立っていた。そこで、次年度は解説の時間を増やし、理解度・満足度を少しでも上げられるように努めたい。基礎の化学に関しては以前よりも満足度は増加した。

後期の基礎栄養学においては授業方法を毎年変更しているが、満足度に大きな変化はない。しかし、より満足度を高められるように引き続き改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	約40	2018年5月～7月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理機能に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	416万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ロイシン・アルギニン・リジン摂取による骨格筋タンパク質の合成と分解に及ぼす影響/2018年10月
/日本アミノ酸学会第12回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
若手研究(B)	科学研究費助成事業	2017年～2019年	416万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	平成29年7月九州北部豪雨災害ボランティア活動に参加した。さらに平成28年熊本地震仮設住宅訪問エイサーボランティア活動の担当者としてエイサーサークルの学生とともに仮設住宅を訪問した。また、開国際でのボランティア活動報告の資料を作成した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

フットサルサークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

聖和女子学院高等学校進路ガイダンス参加/7月13日/場所:聖和女子学院高等学校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

9月14日 「平成29年7月九州北部豪雨災害」ボランティア活動参加

11月18日 「平成28年度熊本地震仮設住宅訪問エイサーボランティア」活動参加

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育

前期担当科目である基礎の化学の授業アンケート評価(満足度)を増加させることができた。しかし、基礎栄養学、基礎栄養学実習の満足度はあまり良くないため、引き続き改善を図り、満足度を上げていきたい。

・研究

研究環境が十分とはいえない状況下において長崎国際大学論叢、長崎国際大学教育基盤センター紀要に論文を1編ずつ投稿することができた。さらに、日本アミノ酸学会学術大会において発表も行うことができた。また、卒論生にも卒業研究を行わせることができ、わずかではあるが結果も得られている。今後は、研究環境の充実を図り、得られた実験結果を論文として国際学会誌に掲載することを目指す。

・大学運営

全学においてはボランティアセンター運営委員会の委員として9月14日に平成29年7月九州北部豪雨災害ボランティア活動に参加した。また、11月18日には主担当者として平成28年度熊本地震仮設住宅訪問エイサーボランティア活動を行った。さらに開国際においてはボランティア活動報告会資料を作成し、ボランティアセンター運営委員会運営に大いに貢献した。また健康管理学部健康管理学研究科倫理委員会、国試対策委員会の委員として委員会運営に大いに貢献した。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 射場 仁美

1. 教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手の為なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	76

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学のリメディアル	12	4	前期第1・第2水曜
国家試験対策	8	83	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①腸炎ビブリオの病原因子について
- ②酒粕の2型糖尿病モデルマウスに対する効果の検証

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響について/2018年9月4日/第65回日本病態栄養
学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

科学体験教室、幼児食講座に参加

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では基礎栄養学実習、調理学実習Ⅱ、栄養生理学実習、栄養教育論実習Ⅱ、給食栄養管理実習において実習補助を担当した。実習前の準備や実習中の学生へのサポートなどを通し、実習がスムーズに実施され学生の理解度も向上するよう貢献した。

また、1年生を対象にした化学のリメディアルを担当し、化学の苦手な学生のサポートを行った。少人数の演習形式で行うことで、それぞれの学生の理解度に合わせた指導を行えた。

学外では、佐世保市立看護専門学校での生化学の講義を担当した。講義や試験問題を作成することで、学生にどのように伝えれば良いかや、どれだけ講義の内容が学生に伝わっているかを知る機会にもなり、今後の学内の業務にも活かせると感じた。

研究活動では「酒粕の2型糖尿病モデルマウスに対する効果の検証」に従事し、卒論生の研究活動の補助も行った。また、現在社会人大学院生として在籍中の博士課程では、論文を執筆し学術雑誌に投稿中である。今後も研究成果を学会や論文で発表できるよう、努力したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 岩崎 啓子

1. 教育理念

学生が主体的に能力を伸ばすことができるように支援する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

記載事項なし(助手のため、担当教科無し)。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専 門学校	栄養学	56/88(前期)	2コマ	17名

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・健康成人より分離した薬剤耐性菌に関する疫学研究
- ・食品成分の機能性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

健康成人の腸内から分離された大腸菌群の薬剤耐性菌の年次推移/2018年9月/第65回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・オープンキャンパス開催補助(2018年7月22日・8月5日・8月19日)
- ・広報催事(学童期の健康講座) 開催補助(2018年8月18日)

- ・広報催事(離乳食講座) 開催補助(2018年9月11日)
- ・保護者会開催補助(2018年10月28日)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、実習補佐として実習のスムーズな進行を心掛け、デモンストレーションの改善やレポート添削等を行い、学生の知識・理解度の向上に努めた。大学運営面においては、学科広報

催事(学童期の健康講座・離乳食講座)の開催補助やオープンキャンパスの準備など積極的に業務に関与することが出来た。また、調理師専門学校において栄養学の非常勤講師を務め、大学運営に貢献することが出来たと考える。

研究面においては、現在の研究テーマであるヒト由来薬剤耐性菌に関する研究について、第65回日本栄養改善学会学術総会(タイトル:健康成人の腸内から分離された大腸菌群の薬剤耐性菌の年次推移)にて学術発表を行うことが出来たが、論文投稿には至らなかったため十分な活動を行うことは出来なかった。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 菊地 優子

1. 教育理念

自ら学び、課題解決力を身につけることができるような環境づくりや学生のサポートを行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園 衛生士学院	歯科 生化学	15/15(後期)	-	38
九州文化学園 衛生士学院	歯科 国家試験対策	2/74(後期)	-	37

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	12	4	5/9,16, 6/6,13, 7/4,11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究
2. 炎症性腸疾患におけるアセスメントと栄養状態に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Elemental diet regulate intestinal permeability and antibody production in indomethacin-induced intestinal injury rats./2019年2月/Journal of Nutritional Science and Vitaminology/31-37/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Indomethacin誘発性腸管傷害ラットにおける腸管透過性の変動/2018年9月/第65回日本栄養改善学会

ロイシン・アルギニン・リジン摂取による骨格筋タンパク質の合成と分解に及ぼす影響/2018年10月/日本アミノ酸学会第12回学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

1. オープンキャンパスにおける学科企画 開催補助/3月24日、7月22日、8月5日、8月19日
2. 健康栄養学科広報催事「科学体験教室」開催補助/8月18日

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

1. 「第2回 東ファーマシー健康フェア」 栄養相談/6月10日/東ファーマシー主催
2. 食のマナーに関する授業/7月17日/12月18日/2月12日/川棚町立小串小学校(5年生対象)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年は就任3年目となり、全体的に流れを把握した上で主体的に業務に取り組むことができた。

実習補助業務においては実習が円滑に進むように心がけた。今後も事前の準備や打ち合わせを十分におこない、学生のサポートをしたい。

教育面では、1年生対象の化学リメディアルを担当し3年目となった。本年度は少人数を受け持ったため、一人ひとりの理解度にあった指導ができたと考えるが、講義で理解できなかった部分についてフォローが十分にできなかったため、講義の内容や進捗などを把握することが必要だと感じた。歯科衛生士学院の非常勤では、授業毎にまとめのレポートを書いてもらい、アウトプットできるようにしたが、成績に反映されていなかったため、今後も授業方法については検討していきたい。また、本年度より国家試験対策を担当させていただいたことにより国家試験の傾向や出題形式についてより理解することができたので、来年度は国家試験を見据えた授業展開にしたい。

研究活動においては、第一著者として論文を発表することができた。今後も研究をすすめ、定期的に研究成果を発表していきたい。

また、本年度は健康相談や小学校での授業など、管理栄養士として地域の方にお話をする機会をいただき、実践的な部分での力不足を痛感したため、今後もこのような機会があれば積極的に参加し、研鑽に努めたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 菊池 亮子

1. 教育理念

学生が自ら進んで学び、気づき、考えて行動できるような環境をつくることを心がけ、大学生活において身につけていく専門的な知識および教養が、ホスピタリティの探求・実現することに繋がり、この大学生活の学びを活かし、社会でよりよい人間関係の構築ができる人になるようサポートを行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	12	4	2018年5月～7月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大量調理機器を用いた湿式加熱おける食品の調理特性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大量調理機器を用いた湿式加熱が米飯に与える影響について/2018/10/27/第57回日本食生活学会

血液透析患者における動脈硬化と食事摂取の状況について/2018/2/18/第45回長崎県人工透析研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

① 広報催事:健康栄養学科公開講座「幼児食講座」補助として参加/2018年9月1日/場所:長崎国際大学

② 広報催事:健康栄養学科公開講座「離乳食講座」補助として参加/2018年9月11日/場所:長崎国際大学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1年目の業務内容を活かし、今年度は、調理学実習、給食経営管理実習、公衆栄養学実習、健康科学実習、栄養教育論実習の補佐、広報催事および臨地実習の準備等が円滑に進められるように工夫し取り組むことができた。学生支援においては、専門分野以外についても、多くの知識を身につけることで、よりよい支援ができると感じ、今後も学ぶ努力していきたい。研究活動においては、「大量調理機器を用いた湿式加熱における食品の調理特性」について研究を進めている。新年度も継続して行い、得たデータをまとめ、学会誌および論叢へ投稿できるように準備していきたい。またオープンキャンパスや広報催事においても、参加者の満足度を高めるために積極的に準備等に携わることを心がけ、微力ながら貢献していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 知念 咲希

1. 教育理念

学生と真摯に向き合い、学生にとって信頼のおける教員である事。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園 調理師 専門学校	栄養学	17/17(後期)	-	14

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票の実施とその妥当性の検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	7	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
保育所における食物アレルギー児への対応と課題/2018年2月/長崎国際大学教育基盤センター
紀要第1巻/115頁～121頁/共著/研究ノート
長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討‘秤量記録法の記録担当別にみたBDHQ栄養
調査による成人男性の摂取状況について’/2018年3月/長崎国際大学論叢第18巻/177頁～
183頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
長崎県健康・栄養調査におけるBDHQ栄養調査法(簡易型自記式食事歴法)の実施及び食事調査
法の検討/2018年9月/第64回日本栄養改善学会学術総会
長崎県健康・栄養調査の秤量記録法の協力状況別にみたBDHQ栄養調査による成人男性の摂取
状況について/2018年9月/第64回日本栄養改善学会学術総会
BDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)栄養調査による長崎県民の栄養摂取状況/2018年9月
/第64回日本栄養改善学会学術総会
保育所給食における食物アレルギー児への対応と課題/2018年10月/第55回日本食生活学会
長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討/2019年9月/第65回日本栄養改善学会学
術総会
長崎県民のメタボリックシンドロームの状況別にみた栄養素等摂取状況と運動習慣/2019年9月/
第65回日本栄養改善学会学術総会
平成28年度長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票の妥当性/2019年9
月/第65回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夢ナビライブ2019 まなびステーション

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
食育講座(食事のマナーについて)	7月13日	川棚町立小串小学校	藤田哲夫

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究活動については、学会で発表をすることができ、現在論文を投稿中である。今後は引き続き論文投稿に向けて準備を進めていく。

学科の広報催事の講座では、例年同様参加者より良い評価をいただいた。今後も積極的に広報活動へ取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 中山 みずほ

1. 教育理念

私の教育理念は、「豊かな教養とホスピタリティ精神を持ち、自ら学び続けることができる人材を育てること」である。

本学の3ポリシーを備え、栄養学の知識を人のために活かせる人材の育成にあたり、自ら考え行動に移す実行力やコミュニケーション力は重要であり、社会人としての基礎能力が身につくと考えている。

【具体例】

- 知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。
- 学生が主体的に学べる環境づくりを行う。
- 協調性に富むために、グループ学習を支援する。
- 個を尊重することで、自分の個性・能力を把握し、能力を伸ばす。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

アンケートの実施なし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	3	5/10、5/17、6/7、6/14、7/5、7/12

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

長崎県健康・栄養調査における簡易型自記式食事歴法質問票(brief-type self-administered diet history questionnaire;BDHQ)の実施とその妥当性の検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
長崎県健康・栄養調査における食事調査法の検討 ‘秤量記録法の記録担当別にみたBDHQ栄養調査による成人男性の摂取状況について’ /2018年3月/長崎国際大学論叢 第18巻/177頁～183頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①8月18日「学童期の健康講座」/9月11日「離乳食講座」運営、主催:長崎国際大学 広報催事

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日/場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

より良い業務ができるよう業務での作業短縮や効率を考えて、臨機応変に対応し、責任感や向上心を持って取り組んだ。

教員間との連絡や業務分担も的確に行い、率先して動くことで業務を円滑に進めることができた。今後も継続できるように、本年度行ったことを記録に残し、業務の効率化や標準化を行っていきたい。また、学童期の健康講座や離乳食講座で広報活動の運営に携わり、地域貢献に寄与できた。

研究活動では、知識不足や積極性や主体性が足りず、研究に対して意欲的に取り組めなかったことが反省点として挙げられ、今後は、データ分析の能力を高め、さらに積極性や主体性をもって取り組みたい。研究面に関しても、取り組みも考えて学会発表や論文執筆を行い、業績を積んでいきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 古田 美咲

1. 教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	2	4	2018年5月9日
化学リメディアル	2	4	2018年5月16日
化学リメディアル	2	4	2018年6月6日
化学リメディアル	2	4	2018年6月13日
化学リメディアル	2	4	2018年7月4日
化学リメディアル	2	4	2018年7月11日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

血液透析患者における動脈硬化と食事摂取の状況について/平成30年2月18日/第45回長崎県
人工透析研究会

妊娠期の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響/平成30年10月27日/第57回日本食生活学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

助手のためなし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①学童期の健康講座/8月18日/長崎国際大学

②幼児期の健康講座/9月1日/長崎国際大学

③オープンキャンパス/7月22日,8月5日,8月19日,3月23日

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、化学リメディアルにおいて、少人数制であったためわからない問題は教えあいながら解決させるなど、理解力に差が生じないように工夫した。また、実際に化学の講義で配布されている

資料を用いながら、わからなかった問題に再度取り組むことで理解しないまま講義が進まないようにした。担当している実習については、問題なく円滑に進めることが出来た。

広報活動では、オープンキャンパスや学童または幼児をもつ保護者を対象にした健康講座の補助を行い、積極的に参加することが出来た。

研究面では科研費への応募と学会発表を行った。今後はさらに計画性をもって教育面、研究面の両立を図りたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 吉永 奈津希

1. 教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等、日頃から考える力をつける支援を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手の為なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	14/14(前期)	-	16
九州文化学園調理師専門学校	介護食士講座(食品学)	3/3(前期)	-	16
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	17/17(後期)	-	15

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科 化学リメディアル	12	4	2018年5月9・16日、6月6・13日、7月4・11日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
2. 大量調理における食品の調理特性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
咀嚼能力低下者に対する食事のテクスチャーからみた食品選択と調理法/2019年3月/長崎国際
大学論叢第19巻/161頁～168頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
大量調理機器を用いた湿式加熱が米飯の性状に与える影響/2018年10月/第57回日本食生活
学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス開催補助／7月22日、8月5・19日、3月23日／長崎国際大学

健康栄養学科公開講座「家族で学ぶ赤ちゃんの食事(離乳食講座)」／9月11日／長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
給食施設における嚥下調整食の提供に関する研修会「嚥下調整食分類2013を現場で活用するには(テキストチャート測定を含む)」	2月6日	五島保健所	五島保健所企画保健課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、実習が円滑に進むよう必要な準備を行うよう心掛けた。また、調理師専門学校では、小テストに加え、1コマの学習内容をまとめる時間をとるようにし、知識の定着を試みた。しかし、あまり効果がみられなかったため、さらなる工夫が必要であったと反省している。

研究面では、長崎国際大学論叢に原著論文1編、日本食生活学会において共同研究者として1報発表することができた、来年度も引き続き学会発表、論文投稿に繋げられるよう努力したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 榊原 隆三

1. 教育理念

私の教育理念は、“志がなければ学問の大成はない”をモットーに、学生の主体的な態度を引き出したうえで、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決能力を育成することにある。

授業は、講義中心となるが、意欲喚起を図る手段を組み込み高い専門力の育成を行う。特に、新知識について自らが考え、それをもとに与えられた課題について解決していくためのシナリオを準備することを重視している。また、薬学科が薬剤師養成を使命とする学科である特性上、学生に対しては、薬剤師国家試験の合格を念頭に授業内容を構成するとともに、主体的な学びを誘引してさらなる専門力を高めるよう心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
薬学入門	10/15(前期)	1.5	109	⑩
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	⑩
生化学Ⅲ	3/15(前期)	1.5	112	②③
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	⑨
分子細胞生化学演習	2/15(後期)	1	67	⑨
分子細胞生化学演習	2/15(後期)	1	36	⑨
生化学実習	9/9(後期)	1	109	①⑩
生化学Ⅰ	9/15(後期)	1.5	111	②③⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	④⑥⑩⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	④⑥⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	3	127	⑨
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	106	⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	3/15(前期)	2/1～3年	6
特別研究	90/90(通年)	12/1～4年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは、前期に実施した生化学Ⅲについては、満足度に関しては一定のレベルの評価を維持したと考えている。一方、後期に実施した生化学Ⅰの授業アンケート結果は、経年変化で比較してかなり低下した。この点を深刻に受け止め、来年度に向けて、アクティブラーニングの方法、資料の準備、授業の方法、板書の利用などを点検し、学修効果を少しでも高めるよう工夫・改善。更なる工夫・改善を検討する。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ再試験対策補習	1	40	2/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 乳酸菌代謝生産物質の有用作用の解析
- ② 美肌菌戻し効果の解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	240万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎が展開する専門職連携教育が専門教育の学びや他分野理解に与えた影響の調査/2018年/九州薬学会雑誌第72号/69-75/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
高脂肪食を摂取した野生型マウスの資質及び糖代謝に対する乳酸菌生産物質(PS-B1)の影響/
2019年3月/日本薬学会第139年会
脂質が腫瘍細胞に及ぼす影響に関する研究/2019年3月/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
乳酸菌生産物質の生理活性に関する研究	(株)バイオジェノミクス	2017.4.1～2018.3.31	240万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	特に無し
教員資格審査委員会	委員	特に無し
研究ブランディング事業実施委員会	委員	特に無し
発明等審査委員会	委員長	特に無し
防火・防災委員会	委員	特に無し
安全衛生委員会	委員	特に無し
安全管理委員会	委員長	特に無し
危機管理委員会	委員	特に無し
人事委員会	委員	特に無し
利益相反マネジメント委員会	委員長	特に無し
輸出管理委員会	副委員長	特に無し
グローバル推進協議会	委員	特に無し
全学教育会議	委員	特に無し

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部就職説明会参加／3月10日／本学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員	2014/07/31～ 2019/07/30	佐世保市長
薬学教育評価実施員	実施員	2018/04/01～ 2019/03/31	一般財団法人薬学 教育評価機構

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学内清掃ボランティア活動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学教育評価機構主査評価員として、某薬学部の自己点検評価書の評価と実地調査を半年間かけて行った。

7. 受賞等

特に無し

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、在宅医療概論、ホスピタリティ概論、生化学Ⅰ、Ⅲ、および実習、薬学入門、総

合演習Ⅰ～Ⅲ、卒業研究、加えて大学院科目「衛生予防薬学特論」などを担当した。各教科において、学修効果が少しでも高まるように工夫・改善したつもりであるが、授業アンケートや学生の成績等を見直し、更なる工夫・改善を行っていききたい。文部科学省戦略GP「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」プログラムは終了したが、昨年度に続き、本プログラム実践のため立ち上げた全学共通科目「在宅医療概論」は継続して開講しており、その充実を図り、一定の評価を得ることができた。今後も継続して本科目を開講する予定である。

研究に関しては、生化学研究室全員の協力を得て、「乳酸菌生産物質の生化学」及び「美肌菌の応用研究」について研究を進めることが出来たが、その成果を公表する時間がなかった。来年度以降、研究活動の充実と成果公表の時間を確保したい。

大学運営活動に関しては、運営会議及びその他の委員会等のメンバーとして任務を遂行できたと考えている。また、薬学部長として、教授会の運営、改定コアカリキュラムを踏まえた新カリキュラムの構想立案、国家試験対策、さらに、薬学教育評価機構から指摘された改善点の克服などについて努力した。気になるのは、留年生および卒延生の数が少なくないことである。そのような状況に至る学生の教育について見直すため、薬学部改善計画策定委員会を立ち上げ具体案の提出を求めているが、その任務を担う薬学教育支援センターの活性化を含めて来年度の具体策を講じる予定である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 市川 和洋

1. 教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。

物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に付け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
基礎の物理学	10/15(前期)	2	42	②③⑨
薬品物理化学 I	15/15(前期)	1.5	115	①④⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	112	①④⑧⑩
界面化学	15/15(前期)	1.5	6	①④⑧⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
薬品物理化学演習	15/15(後期)	1	68	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	105	①④⑧⑩
生物物理化学	8/15(後期)	1.5	50	①④⑧⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生命現象とその計測方法を筋道として、物理化学的な表し方に関する講義を行いました。重要ポイントについては教科書をかみ砕く資料作成などを通じて学習意欲の向上を図りました。また、臨床検査・計測値などの話を含め、興味を引くように試みました。

引き続き講義内容の分かりやすさ、内容への関心を引くよう努力し、関心度の向上と満足度の向上を目指します。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
薬品物理化学II 補習	1	90	2019.1.11
基礎の物理学B 補習・解説会	1	42	2018.6.28
総合演習I (前期)	2	131	2018.6
総合演習IIIA	1	110	2018.6.11
総合演習II	3	107	2018.11
大学院講義:ファーマコメトリクス特論	1	3	2018.5.29

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

- (1) 生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物(分子プローブ)の開発
- (2) 生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
- (3) 抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
- (4) がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	1	3	3	2886万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Imaging Doxorubicin Free Radical in Mice with Overhauser Enhanced MRI and its Tumor Suppression Effect in Mice/2018.5/Appl Magn Reson/49, 869-879/共著/論文

Hyperpolarized [1-13C]-Pyruvate Magnetic Resonance Spectroscopic Imaging of Prostate Cancer In Vivo Predicts Efficacy of Targeting the Warburg Effect./2018.5/Clin Cancer Res./24, 3137-3148/共著/論文

In Vivo Imaging of the Intra- and Extracellular Redox Status in Rat Stomach with Indomethacin-Induced Gastric Ulcers Using Overhauser-Enhanced Magnetic Resonance Imaging. / 2018.8 / Antioxid Redox Signal./print online/共著/論文

In Vitro and In Vivo Detection of Drug-induced Apoptosis Using Annexin V-conjugated Ultrasmall Superparamagnetic Iron Oxide (USPIO): A Pilot Study/2018.10/Magn Reson Med Sci/print online/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

広範囲OMRI酸素分圧イメージングのためのEPR励起用コイルのアレイ化に関する研究/2018.11.2/第57回電子スピンスイェンス学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)	日本学術振興会	2018-2019	637万円
科学研究費補助金 基盤研究(B)	日本学術振興会	2018-2020	1729万円
科学研究費補助金 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	北海道大学・日本学術振興会	2018-2021	520万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会:入試募集WG	委員	入試募集に関わる計画の立案
薬学部教務委員会	委員	教務に関する実務
薬学・教育支援センター	委員	教育支援に関する実務
CBT実施委員会	委員	CBT実施に関する実務
CAI運用委員会	委員	CAI実施に関する実務

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

生物学オリンピック国内大会2019および国際大会2020の会場担当委員

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
からだ錆びていませんか?～酸化・炎症と画像解析	2018.6.3	アルカス佐世保	日本油化学会関西支部主催

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
国際共同研究加速基金による学術交流	科研費の補助を受け国内外の拠点大学と学術交流を行う	2018-2021	北海道大学、長崎国際大学、West Virginia University

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、昨年度に比べて担当コマ数が約3倍に増えたこともあり、特に前期は時間配分が不足しました。アンケート結果も踏まえ、後期は全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する2年次の学生の成績が昨年より低く、学年主任に報告の上、補習などによるフォローアップに努め、最終的には昨年度に近いレベルに到達しました。

研究面では、論文掲載、外部資金取得、国際共同研究推進もほぼ計画通り進捗しました。また、市民向け講演会講師、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣に薬学部が新設されるため、受験者数の確保へ向けた改善実施が喫緊の課題です。入試・募集委員として、入試科目の弾力化を提案・実現することで受験者数アップを目指しました。分析は今後の課題ですが本年度は受験者数が増えており、一定の効果があったものと考えています。また、広報活動の一環として薬学リーフレットを作成し、長崎・佐賀の調剤薬局等に配布しました。実務実習訪問の際に話題になり、告知効果は得られていると考えています。定着するためには一定の期間繰り返し方法を行うことが重要であり、今後とも実施していくことを希望します。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 大庭 義史

1. 教育理念

薬学における分析化学分野に関する専門的知識・技能の教授を教育・研究を通して行い、高い倫理観と豊かな人間性を有し、医療薬学分野で実践的に活躍できる薬剤師を育成することを目的とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
分析化学演習	9/15(前期)	1	64	①②③④⑨
分析化学演習	9/15(前期)	1	50	①②③④⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	109	②③
構造解析学	4/15(前期)	1.5	115	①②③④
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	112	①②③④⑤⑩
分析化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	110	①②③④
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	①④
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	107	①②③④
機器分析学	3/15(後期)	1.5	106	①②③④
日本薬局方概論	8/15(後期)	1.5	118	①②③④⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	8	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①②⑥
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3
特別研究	90/90(通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケート結果(詳細はアクションプランシートを参照のこと)

■分析化学II(2018年度前期2年必修)

満足度:満足度4.2は、2017年度(4.3)、2016年度(4.3)と比べ0.1ポイント減であった。誤差範囲ではあると思うが、評価2が2名、評価1が1名の自由記述欄のコメントがわかれば対応できると考えている。学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法:今年実施された薬剤師国家試験に関連する内容を講義内に取り入れた。

■分析化学I(2018年度後期1年必修)

満足度:昨年度と比べ-02ポイント(ALL、留学生以外)とおそらくこれまで実施してきた「分析化学I」のアンケートの中で最も低い結果であった。留学生以外で2の評点を付けていた者が2名(昨年度は0)あり。

学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法;シラバス—SBO—配布資料—教科書 の連携については、昨年度以上に行った。また、国家試験の過去問の配布・解説に加え、定期試験の過去問(過去2年分の本試験問題)も配布。responを利用したアンケートを実施し、学生の意見を吸い上げる手段を増やした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1/19	131	5月25日
総合演習II	3/77	107	11月7日、11月20日、12月5日
総合演習IIIA	1/56	110	5月28日
総合演習IIIB	1/15	110	11月12日
分析化学I補習	1/1	50	10月26日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・HPLCによる紫外線吸収剤の一斉測定法の開発
- ・ASAP(大気圧固体試料プローブ)-MSによる医薬品成分の定性分析
- ・簡易型吸光光度計によるFe(II)イオン及びFe(III)イオンの同時分析法の開発
- ・サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究(福岡大学理学部との共同研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	6	0	0	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬学分析化学/共著/2019年3月(予定)/廣川書店/未定

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Simple and rapid analysis of tocilizumab using HPLC-fluorescence detection method/2019/2/
Luminescence/6/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

新規RFP蛍光タンパク質(Akane family)の連続的マルチ蛍光の研究/2018年9月14日/日本分析化学会第67年会(仙台)

パーソナル吸光度計を用いた鉄(II)イオン及び鉄(III)イオンの定量分析/2018年9月14日/日本分析化学会第67年会(仙台)

八放サンゴ由来蛍光タンパク質(Akane family)のマルチ蛍光/2019年10月13日/生物発光化学発光研究会,第34回学術講演会(福岡)

Multicolored Red Fluorescent Protein Alc Orange, Akane family Induced by Stepwise Förster Resonance Energy Transfer like Photonic cycle / 2019年2月25-28日 / 2019 9th International Conference on Chemistry and Chemical Process (Singapore)

迅速かつ簡便な生体試料中トシリズマブHPLC蛍光検出法の開発/2019年3月/日本薬学会第139年会

迅速かつ簡便なメトトレキサートとNSAIDsの同時定量法の開発/2019年3月/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
MR補完教育作問	イー・コミュニケーションズ	なし	35万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	平成30年度は4回の会議に出席予定(4回目:3/26開催予定)
薬学部教務委員会	副委員長	新入生等の担任割り振り、研究室配属割り振りなど
図書選定委員会	委員	図書の選定
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の承認など
生涯学習・教育委員会	委員	第8回生涯教育セミナー(2月17日)
共同機器管理委員会	委員	特に無し

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

美術部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏休み高校生薬学体験/8月7,8日/長崎国際大学

オープンキャンパス/7月22日、8月5,19日、3月23日(予定)/長崎国際大学

九州保健福祉大学オープンキャンパス視察/8月26日/九州保健福祉大学(宮崎県延岡市)

2018年度後期選書ツアー/11月10日/紀伊国屋書店福岡本店(福岡県福岡市)

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
下村脩ジュニア科学賞	委員	第4回(平成24年) ~第10回(平成30年)(継続)	佐世保市少年科学館
日本薬学会九州支部学術奨励賞	選考委員	平成28年度~平成30年度	日本薬学会九州支部
日本分析化学会九州支部	常任幹事	平成29年3月~平成31年2月	日本分析化学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

平成30年度 長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストアウトリーチ部門)「e-LearningによるMR教育支援活動」(代表:高井伸彦)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面:アンケートを実施している「分析化学II」(2年前期必修)について、満足度4.4以上を目標としていたが、4.2という結果であった。一方、「分析化学I」(1年後期必修)については4.0で、昨年度と比べ-02ポイントでおそらくこれまで実施してきた「分析化学I」のアンケートの中で最も低い結果であり、なんらかの対応が必要と考えている。

対外模試等における担当領域の正答率については、概ね全国平均以上であった。

研究面:論文1、論叢1、学会発表2以上を目標としていたが、論叢への投稿を除き達成している。学会発表のうち、1回は自身が発表した。

その他:「夏休み薬学研究体験」、「オープンキャンパス」など、大学の入試、広報活動等に協力した。また、九州保健福祉大学のオープンキャンパスを視察し報告した。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小川 由起子

1. 教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
病原微生物・ウイルス学	7/15(前期)	1.5	110	②③⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	①④⑥⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	①④⑥⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	①②③⑥⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	1	①⑥⑨
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	106	①⑥⑨
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	①⑥⑨
薬物治療学Ⅲ	6/15(後期)	1.5	123	①②③⑨
公衆衛生学Ⅱ	4/15(後期)	1.5	103	①⑨
微生物薬品学	15/15(後期)	1.5	105	①②③⑨
臨床生理学実習	8/8(後期)	1	112	①②③④⑤⑪
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	2	③⑥⑦⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	2	③⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90/90(通年)	12/1~4 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ) 授業方法として、新薬などをおりませたオリジナルプリントの作成、プロジェクターの利用などを適宜考慮し行った。

- ロ)「スグキク」を取り入れ双方向授業をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。
- ハ)授業での話す速度、進行速度を調整し、理解を深めるように努力した。
- ニ)過去の実力試験問題、国家試験問題を解かせることにより、重要ポイント理解させた。
- ホ)AL型講義を取り入れた。

② 教育効果

年々新薬が増え、さらに副作用の問題も大きいことから、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。今年度昨年度後期に引き続き、前期科目でもAL型講義を取り入れたが、人数が多いためにペアワークにはかなり工夫がいるため、進め方は今後の検討課題である。また、「スグキク」を導入し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。「スグキク」はゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。また、教科書のみではなく、視聴覚教材の活用やトピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。またその日の講義内容の課題をmanabaで出し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。話す速度が速いとの指摘があったため、話す速度に注意し、かつプリント、プロジェクターを適宜使用することにより、單元ごとに重要ポイントを示した。更に朝自習を使って前の週の授業内容の問題演習を行い、さらにペアワークでお互いに説明しあうことで理解を深めさせた。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出し、單元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティーアート 専門学校	衛生管理	30/30(通年)	3	70
佐世保市医師会看護専 門学校	微生物学	30/30(前期)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	131	11/16
総合演習Ⅱ	3	107	4/25、12/7、12/14
総合演習ⅢA	1	110	5/16
総合演習ⅢB	2	110	11/6、11/9

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 国産冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
- ② ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン(SBL)の生理活性

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	4	4	1	1	442万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
管理薬剤師養成シリーズ 食品衛生学 第4版/共著/2019年4月/化学同人/103-111頁, 127-135頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Specific Antiproliferative Activity against Several Human Cancer Cells with Metabolites from *Onygena corvina*/2019年1月/*Int.J.Curr.Microbiol.App.Sci*, 8(1),1659-1668/共著/論文
Distribution of Oligomannosyl Side Chains in the Cell Wall Mannan of *Pichia pastoris* Purified by Benanomycin A /2019年1月/*Int.J.Curr.Microbiol.App.Sci*, 8(1),2926-2935/共著/論文
Presence of O-glycosidically-linked oligosaccharides in the cell wall mannan of *Candida krusei* purified with Benanomycin A /2019年1月/*FEBS openbio.*,9, 129-136/共著/論文
初年次教育科目「教養セミナーA」の実践と課題-学生の成長実感と教員のプログラム評価に着目して/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要/13-16/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
カイコ冬虫夏草 *Cordyceps militaris* の機能解析 /2019年3月/日本薬学会第139年会
Cordyceps pentatomi Koval 二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響/2019年3月/日本薬学会第139年会
無菌蚕の蛹を培地として生育したサナギタケの α -グルコシダーゼ及びキシサンチンオキシダーゼの阻害効果について/2019年3月/日本薬学会第139年会
イガイ科R-型レクチン家系の発見とアジアロGM1を介す新たな糖鎖シグナル/2018年8月/第37回 日本糖質学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究C	文部科学省・日本学術振興会	2018年から2020年	442万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学 学生委員会	委員	禁煙対策、学食検討委員会など
薬学部 学生委員会	委員長	フレッシュマンセミナー企画、保護者会、特待関連など
薬学部 CBT・国家試験対策委員会	副委員長	国家試験対策、国家試験ツアー企画など
薬学部 教育支援センター運営委員会	委員	留年生対策等
将来構想委員会	委員	学食・ケータリング等 企画
全学 教育支援センター運営委員会	委員	初年次教育

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーWG	委員	教養セミナーAの企画など

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 長崎国際大学・猶興館高校コラボレーション「生物学オリンピック体験学習」/8月19日/場所: 本学
- ② 第1回 日本生物学オリンピック予選・本選問題解説会及び講演会(長崎県内高校生) /12月9日/場所: 本学
- ③ 第2回 日本生物学オリンピック予選・本選問題解説会及び講演会(長崎県内高校生) /2月10日/場所: 佐世保市中央公民館

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
夏必携、虫よけアロマキャンドルをつくってみよう!	7月28日	少年科学館	少年科学館

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本女性科学者の会	理事	平成27年度～現在 にいたる	日本女性科学者の会
日本女性科学者の会	中国四国九州沖縄 ブロック長	平成27年度～現在 にいたる	日本女性科学者の会
佐世保市男女共同参画推進セ ンター運営協議会	委員長	平成28年11月1日か ら平成30年10月31 日	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 7月5日「青年の日茶会」 企画、運営、実行委員会として参加、主催:(一社)裏千家佐世保青年部
- ② 10月27日「ボランティア呈茶」 企画、運営、実行委員会として参加、主催:(一社)裏千家佐世保青年部

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ① 国際生物オリンピックフィールドワーク企画

7. 受賞等

- ① 平成30年度(2018年度)長崎国際大学ベストティチャー賞(ベストアウトリーチ部門)共同受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、学生委員長として、学生が大学生活を楽しみながら勉強できる環境づくりに努めた。その一環として、薬学部ロビーで初めて「ロビーパフォーマンス」を開催した。教員、学生が歌やダンスなどを披露し、吹奏楽部の学生が日頃の練習の成果を披露した。ゆったりとした時間を過ごすことで日頃のストレスを発散することができたと学生からはうれしい声がきこえてきた。また、国家試験対策副委員長として、国家試験対策の企画等に取り組み、全員合格を目標にサポートしてきた。

なかなか理解できない学生への少人数の補習は、教員にとって負担が大きいが、学生の理解度を

上げるためにはかなり有用だと考えられる。成績下位者の成績を伸ばしていけるようにできる限り協力していく所存である。授業においては、今年度微生物薬品学の授業評価が4.5となり、昨年中高の先生方と話した内容と昨年の授業アンケートから、どのような話題に興味をもたれるかということを鑑みて授業内容を変更した点と「イマキク」を使用した双方向型の授業が評価されたと考えられる。次年度もこのことをふまえ、学生が興味を持つ授業内容にしていきたいと思う。薬剤師国家試験は考える力を試す問題が増えてきたので、情報をしっかり集め、低学年から考える力が育つように国家試験を視野に入れた授業・実習内容にしていきたいと思う。また、研究においては、今年度科研費基盤Cが獲得できたので、今後これらを発展させ、意欲的に取り組んでいく予定である。また、広島からの共同研究の依頼もきているので、新しい分野にも目を向けながら活性化させていきたいと思う。学生指導にかかる時間も年々増えていくと考えられることから、次年度も時間を上手に使い、研究活動を発展させていきたいと思う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 梶島 力

1. 教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切に社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

また、薬学は化学・物理・生物・医療と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切に、学生の不安を少しでも軽減するためにも、

積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
基礎の数学	15/15(前期)	2	63	②③⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①⑨
生物物理化学	7/15(後期)	1.5	50	①④⑧⑨
薬剤学	15/15(後期)	1.5	107	②④⑨
薬剤学実習	9/9(後期)	1	112	④⑩⑪
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	3	127	①⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

すべての授業の満足度は4以上であり、次年度も満足度を4以上になるように努力する。

授業に対する積極性が低かったので、授業内で解答させる問題などを増やしていく。

基礎の数学では、授業速度が遅いというコメントが何件か見られたので、時間的な余裕があれば教科書の問題を解くように指示する(ただし速いというコメントもあったので、できる限り調節したい)。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の数学の補習	1	8	2018年5月16日
総合演習Ⅰの補習	1	134	2018年11月2日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①核酸医薬品のDDSに関する研究
- ②エピジェネティクス関連酵素の網羅的解析法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	1	1	390万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Simple and rapid analysis of tocilizumab using HPLC fluorescence detection method/2019年/
Luminescence/印刷中/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
蛍光及び化学発光を応用した生体分子測定法の開発/2018年8月29日/第31回バイオメディカル
分析科学シンポジウム
迅速かつ簡便な生体試料中トシリズマブHPLC蛍光検出法の開発/2019年3月22日/日本薬学会
第139年会
ニフェジピンの新規ナノ粒子製剤の調製/2019年3月23日/日本薬学会第139年会
迅速かつ簡便なメトトレキサートとNSAIDsの同時定量法の開発/2019年3月23日/日本薬学会第
139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費(基盤研究C)	日本学術振興会	2017年4月～2020年3月	390万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	薬剤系の講義の取りまとめを行った。
CBT実施委員会(学科)	委員長	CBTの実施および運営を行った。
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	薬剤系の問題の点検を行った。
実習(学内)委員会(学科)	委員	薬剤学実習の取りまとめを行った。
教育支援センター薬学分室運営委員会(学科)	薬学分室兼任教員	物理・数学系の科目の取りまとめを行った。
図書選定委員会(学科)	委員	製剤系図書選定の取りまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会	委員	地域貢献およびその他に関する問題点の洗い出しと改善策を提案した。
学生生活サポート室	室員	学生の修業に関する相談に対応した。
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	本学のCBTに関する説明を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

佐賀地区保護者懇談会参加/2018年10月20日/場所:佐賀県教育会館

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	幹事	平成28年度～現在 に至る	日本薬学会九州支部
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在 に至る	日本分析化学会九州支部
日本薬学会	代議員	平成29年度～現在 に至る	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、授業アンケートの満足度がすべての科目で4以上であり、概ね良かったのではないかと思います。今年度より担当した生物物理化学では、満足度4.4だったので安心しました。次年度は、さらに薬剤(薬物動態)系の担当科目も増えるので、本年度以上の結果が得られるように努力する。

研究に関しては、論文発表が1報だったので、次年度はさらに論文発表ができるようにする。学会発表や外部資金獲得はできているので、今後も継続できるように努める。

大学運営に関しては、担当する薬剤(製剤)分野を中心に参画した。また、今年度からCBT実施委員会の委員長を拝命したが、関係する教職員の協力のおかげで特に問題なくCBT(体験受験、本試験、追再試験)を実施することができた。次年度以降も、滞りなくCBTが実施できるように準備・運営を行う。

社会活動および国際交流に関しては、あまり機会がなかったが、今後、依頼等があれば積極的に受けるつもりである。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 仮屋 薫 博子

1. 教育理念

薬学部において、第一義的な目標は薬剤師になるための薬剤師国家試験に合格する知識を修得させることであるが、無論、それに留まらず、患者や医療従事者からの信頼を得て医療に貢献する薬剤師となる人材を育成することである。患者や医療従事者からの信頼を得るためには、マナー等、社会人としての基本はもとより、患者や他職種とのコミュニケーションを円滑にとれること、課題を解決すべく努力すること、薬剤師になってからも学び続けること等が求められる。このため、私の教育理念は、「生涯にわたって自ら学び続け、医療に貢献する薬剤師となる人材の育成」である。

私の授業は、主に4～6年生を対象とした薬剤師の実務に関連するものである。学生が薬剤師実務の知識・技能、医療人としての態度を身につけてほしいと願い、自らの薬剤師としての経験を踏まえ、新しい医薬品や制度に関する情報を盛り込んだ授業としている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	②⑪
治験コーディネイト論	15/15(前期)	1.5	104	①⑥⑨⑩
調剤学	15/15(前期)	1.5	121	①②③
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	①②④⑩⑪
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	①④⑩⑪
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	①⑨
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	①
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	①
総合実習	6/6(後期)	1	122	⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
総合基礎学習Ⅰ	13/15(通年)	0.5	107	②④⑦⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90/90(通年)	12/1~4 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの評価結果は平均4.0で前年度より0.4ポイント低下した。次年度に向けて、資料の準備、授業の方法等を点検し、学習効果を少しでも高めるよう工夫・改善し、満足度の向上を目指す。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	3	107	4月18日、4月25日、1月9日
総合演習ⅢA	1	110	6月12日
総合演習ⅢB	1	110	11月7日
平成30年度教員免許状更新講習会	2	60	8月24日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 抗がん剤耐性に関する研究
- ② 活性型グレリン産生阻害を介した肥満制御に関する研究
- ③ モノクローナル抗体を利用した薬物血中濃度測定法の確立
- ④ 医薬品適正使用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	1	403万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Inhibitory effect of (-)- epigallocatechin-3-O-gallate on octanoylated ghrelin levels in vitro and in vivo./2018年4月/Biol Pharm Bull. 2018; 41(4):/524-529./共著/論文

Decreased Plasma Octanoylated Ghrelin Levels in Mice by Oleanolic Acid./2019年1月/J Oleo Sci. 2019; 68(1):/103-109/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

オクタノイルグレリン産生・分泌に及ぼすドコサヘキサエン酸の影響とそのメカニズム/2018年11月17日/第35回日本薬学会九州支部大会

ナイロン膜を用いたドットブロット法によるダビガトラン濃度の高感度簡易測定法の開発/2019年3月21日/日本薬学会第139年会

オレアノール酸のオクタノイルグレリン産生抑制効果とその機序/2019年3月23日/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
食欲・肥満制御への応用を目指した活性型グレリン分泌機構の解明	日本学術振興会科研費(基盤研究(C))	2016-04-01 - 2019-03-31	403万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員長	本委員会が企画し、岡山県で実施した平成30年西日本豪雨災害に対するボランティア活動が「朝日新聞厚生文化事業団西日本豪雨災害支援助成金」に採択された。
研究等倫理委員会(学科)	委員	ヒトを対象とする研究および動物実験研究の倫理的妥当性を検討した。
教務委員会(学科)	委員	2年生学年主任として、総合基礎学習Ⅰの補習、夏期課題の出題・集計・補習の他、各期の定期試験前やインフルエンザ流行期等、適切な注意喚起を行った。
OSCE実施委員会(学科)	委員	薬学科4年生が受験するOSCEの事前準備、会場設営、実施を担当した。
実務実習運営委員会(学科)	委員	実務実習終了時の評価会議、薬学科1年生の早期体験学習のための会議において当該事項を検討した。
生涯学習・教育委員会(学科)	委員	卒業生・在学生および近隣の薬剤師を対象とした講演会の企画を検討した。
同窓会薬学部門支援委員会(学科)	委員長	平成28年度に発足した同窓会薬学部門と薬学部との連絡調整を担当した。
図書選定委員会(学科)	委員	図書館蔵の薬学生向け及び一般向け図書の選定を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師研修協議会	委員	平成29年8月～現在	長崎県薬剤師研修協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 「平成29年7月九州北部豪雨」災害被災地朝倉市におけるボランティア活動
- ② 論文査読(医療薬学、日本病院薬剤師会雑誌および九州薬学会会報)
- ③ 学内クリーンキャンパス運動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学部生の授業アンケートにおいて本年度は評点が若干低下したため、次年度は挽回を目指す。昨年度後期から1年間の休学を経て後期復学した大学院薬学研究科の社会人大学院生1名に対し、休学中も含めて論文作成を支援した結果、学術雑誌への投稿が成り、現在審査の段階である。学位論文の完成には至らず、今年度修了とならなかったのは残念であった。今後も早期学位取得を促す。しかしながら、研究室所属の5年生の1名に卒業研究成果を2つの学会で発表するという経験を積ませることができた。

委員会活動では、3年目となるボランティアセンター長及びボランティアセンター運営委員長を務め

た。本委員会が企画し、岡山県で実施した平成30年西日本豪雨災害に対するボランティア活動が「朝日新聞厚生文化事業団西日本豪雨災害支援助成金」に採択されたのは喜ばしいことであった。平成29年九州北部豪雨災害に対するボランティア活動ならびに平成28年熊本地震に対するボランティア活動も継続して行い、ボランティアをしたいという学生の希望に応えるとともに、被災地のニーズに沿った活動を行った。7月の街頭募金活動および被災地での活動に対する教職員からの多大な協力に感謝している。薬学部内では、同窓会薬学部門支援委員会委員長、その他学部委員会委員として相応の役割を果たした。

学部長の指示により、薬学部実務家教員の研鑽体制の構築を行った。佐世保市総合医療センターとの覚書締結のもと、現在、助教、助手、各1名が実務家教員としてのスキルキープ、スキルアップの目的でそれぞれ週1日、当該医療センターで研修を継続している。次年度に向け、体制の再構築を要する。

研究面では、2016年度に採択された科研費の研究テーマに関する英文論文が2報掲載された。科研費の最終年度に当たり、総括を行った。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 岸原 健二

1. 教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	109	⑩
ウイルス学	3/15(前期)	1.5	3	⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	⑩
薬学英語	3/15(前期)	1	58	①⑤⑩
薬学英語	3/15(前期)	1	57	①⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①
免疫学	15/15(後期)	1.5	108	⑨
免疫学Ⅱ	14/15(後期)	1.5	3	⑨⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・「免疫学」(理解度3.7, 満足度3.9)

Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度よりも0.2~0.3ポイント低下した。今年度に当たり改善とした点は、スライド及びスライド資料に空欄を設けて、授業内で穴埋めする形式を導入したが、この改善が評価に結び付かず、むしろ評価を低下させる原因となった。穴埋めの導入以外は例年と同様の内容であったので、今年度の評価の低下には驚いたが、真摯に受け止めて改善に努めたい。学生のコメントから次の改善点として浮かび上がった。(1)空欄の穴埋めに対する配慮の不足(スライドの切り替えが早い、スライドの文字が小さいなど)、(2)映写されたスライドの画面のずれ(画面の設定の問題で、改善するまでに時間がかかった)、(3) manabaへの復習問題のアップの遅れなどが主要な課題となったので、来年度は改善していきたい。動画等の視聴覚資料の導入に関しては、今年度も実現できなかったが、来年度は一部導入したい。

manabaを利用した復習問題(宿題)の提出が定着してきたが、自身で解答していない学生も少なからずいるようで、その対策は考えていきたい。今年度の定期試験の結果からみると、二相性が明らかに出ており、授業内容を理解できている学生と理解できていない学生が例年よりも解離しているよう

に思われる。つまり、理解できていない学生が増加しているようなので、その傾向が続くようであれば、授業内容は方法の変更も視野に入れて改善策を検討する必要があるかもしれない。

授業で必要なSBOの内容をすべて詰め込むことが難しい状況であるので、授業内容を再検討していきたい。また、「免疫学」(2年生・後期)と「微生物・免疫学演習」(4年生・前期)をいかに効率的に連携していくのかも検討していきたい。

- ・「薬学英語(Aクラス)」(理解度3.9, 満足度4.0)

- ・「薬学英語(Bクラス)」(理解度4.1, 満足度4.2)

本科目は2クラス編成になっており、担当したのは各15コマのうち3コマずつで、Q12(理解度)の平均評価は4.0で、Q13(満足度)の平均評価は4.1であった。本年度は、後半のテキスト(2分冊)の配布が遅れ、学生が予習する時間が十分に取れなかったのが、評価に影響したのかもしれない。アンケート結果から、向上策として、①文章の難易度や量の検討、②解説の充実の2点を検討する必要があること感じた。

本科目は、オムニパス科目であり、授業回数は少ないが、今回初めて学生からの評価を受けて、改善点を確認できた。来年度は、改善点が明らかになったので、その点に留意して実施していきたい。

※その他の担当科目に関する省察

- ・「微生物・免疫学演習」

本科目は2クラス編成になっており、担当したのは15コマのうち8コマであった。授業は、開始時に問題を解答させ、その内容を解説する形式で実施し、復習問題も課した。今年度が初めての開講であったことから、やや準備不足もあったが大過なく終えることができた。来年度は授業アンケートを実施し、改善点を明確にしたい。

- ・「総合演習科目」

例年通りの実施であったが、国家試験の新しい問題も含めた問題集を作成した。また、実験問題集の作成と配付など学生の国試対策への協力も行った。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
4年生対象の補習	1/42	131	5/22
5年生対象の補習	2/77	107	10/16, 1/10
6年生対象の補習	1/56	110	6/21

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・生体防御におけるgdTリンパ球及びIL-17の機能と役割に関する研究
- ・Notchシグナル伝達系の免疫細胞の分化と機能における役割に関する研究
- ・細胞老化の分子メカニズムに関する研究
- ・再生医療に関する調査研究
- ・免疫に関わる医薬品や健康食品(機能性食品)の評価と開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員長	させぼ文化マンスにおいてビブリオバトル2018 in SASEBOを佐世保私立図書館と共催(11/10)など
自己点検・評価委員会	委員	自己点検・評価書(2017-2018年度)の作成(基準1担当)など
防火・防災委員会	委員	とくになし
危機管理委員会	委員	とくになし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会・入試・募集WG	メンバー	入試・募集に関する改善策の提案

(3) 課外活動の指導等

とくになし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

とくになし。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保まちなか大学	11/24, 2018	佐世保中央公民館	館長(永田氏)

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

とくになし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

とくになし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、図書館長・図書館委員会委員長(新任)として、細則の改正、選書ツアーの実施、ビブリアバトルの開催などに尽力した。また、全学の自己点検・評価委員会においては、自己点検・評価報告書(2017-2018年度)の基準1を担当し、授業アンケートの実施にも尽力した。

一方、薬学部の自己点検・評価委員会では、主要メンバーとして薬学教育認証評価で指摘された「助言」や「改善点」への対応に協議中である。また、薬学教育FD委員会において、授業公開、新任教員研修セミナー、薬学研究発表会などの企画・実施を支援した。さらに、LA担当として、LAの推進と改善の支援に努めた。薬学部入試・募集委員会においては、とくに韓国入試の実施に関して尽力した。

今年度の社会貢献としては、中央公民館で開催された「佐世保なかまち大学」の講師として「再生と老化を考える ー加齢にともなう体の変化ー」と題した講演を行った。

研究面においては、本年度の学会発表や論文発表はなかった。まず研究計画の見直しや研究促進のための到達目標の設定を行い、研究室における研究活動をより活性化していきたい。

以上のように、大学運営や学部活動に関しては精力的に役割を果たしたが、とくに研究面の活動が低調である点を反省し、来年度は改善していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 隈 博幸

1. 教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	51	①③④⑤⑪
臨床検査学	15/15(前期)	1.5	17	①②④⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	②
生命倫理	2/15(後期)	2	148	⑩
地域の理解と連携	2/15(後期)	2	200	②⑥
臨床生理学実習	8/8(後期)	1	112	①②③⑦⑩
疾病学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	107	①②③
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	②
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	①②③④⑥⑩⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	①②③④⑤⑥⑧⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①②
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90/90(通年)	12/1~4 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度の主要2科目の授業アンケート結果は、4.3(疾病学Ⅰ)と4.5(臨床検査学)であった。例年同様、平均以上の評価で安堵している。基本的には復習を重視し、学生の興味を引く時事的内容を中心に講義を行っており、それが一定の範囲で受け入れられたものと捉えている。来年度以降もこの授

業スタイルを継続し、改善できる点は改善し、学生の講義内容理解の一助としたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	臨床検査学	15/15(前期)	-	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	2	110	5/21, 6/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド3の構造と機能相関の解明
3. プロテインS凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	2	2	360万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Protein S-specific activity assay system is not affected by direct oral anticoagulants/2018年/
Thrombosis Research 168/60-62/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
ヒト赤血球膜タンパク質バンド3の陰イオン交換機構解明における大きな陰イオンの利用/2018年3
月/日本薬学会第138年会
ペプチド基質を用いたダビガトランの血中濃度測定法の有用性/2018年3月/日本薬学会第138
年会
月経周期と凝固制御因子活性の相関解析/2018年3月/日本薬学会第138年会
磁気検出システムを用いたスギ花粉抗原cry J1, cry J2の定量的検出/2018年3月/日本薬学会第
138年会

直接経口抗凝固薬のプロテインS比活性測定法に与える影響／2018年11月／第65回日本臨床検査医学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(S)	文部科学省・日本学術振興会	2016年～2020年	260万円
委託研究費	株式会社シノテスト	2018年4月～2019年3月	100万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	学園祭実行委員会主担当、卒業パーティ主担当、その他委員会の円滑な業務遂行に尽力
入試作問委員会	委員	入試の作問・採点に関する諸活動
利益相反マネジメント委員会	委員	研究に関する利益相反に関わる裁定等
国試・CBT対策委員会(学部)	委員長	薬学部6年～4年次生に対する国家試験とCBT対策他
安全管理委員会(学部)	主任委員	医療廃棄物・実験廃液管理と処理、学部内の安全管理等
研究等倫理委員会(学部)	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際生物学オリンピック2020長崎大会WG	SCIBO/Buddy担当	JBO2019、IBO2020長崎大会開催におけるボランティア組織buddyの活動内容立案等

(3) 課外活動の指導等

1. 学園祭実行委員会の指導・監督
2. 卒業パーティ実行委員会の指導・監督
3. 実務実習(病院・薬局)
4. 学生会の指導・監督

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加(2018年7月・8月)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
科学研究費委員会	委員	2016年4月～	日本学術振興会
日本臨床化学会	評議員	2019年3月～	日本臨床化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因部門による医療臨床検査

(検査委託元:佐世保共済病院、株式会社シノテスト、杉ウイメンズクリニック、村上病院他)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学運営面では、全学学生委員会副委員長として、委員会の円滑な運営に積極的に参加した。また学部活動では、国家試験対策委員長として上位学年の学力向上に一定の寄与ができた。本年度の卒業生数は90名と薬学部において過去最高の人数となった。本文章を書いている平成31年3月現

在、国家試験結果は未発表であるが、それなりの人数が合格しているものと期待している。

教育面においては、2・4年生の講義、3年生の実習、5・6年生の研究指導と、4～6年生の演習・補習に精力的に取り組んだ。アンケート結果や試験結果から顧みるに、必要十分な活動を行えたと思っている。

研究面では、筆頭著者論文1報、学会発表5件と、こちらもまずまずの成果をあげたものとする。来年度以降も今年度以上の成果をあげるべく、積極的な活動を心掛けたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 黒川 健児

1. 教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
生物学演習	7/15(前期)	1	74	①②⑨⑪
生物学演習	7/15(前期)	1	14	①②⑨⑪
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	103	①②⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	58	①⑤⑩
薬学英語	2/15(前期)	1	57	①⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
細胞生物学	8/15(後期)	1.5	101	①②⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	67	②④⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	36	②④⑨
生化学実習	9/9(後期)	1	109	①②④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①④
総合基礎学習Ⅱ	15/15(通年)	0.5	106	①②④⑥⑦⑨⑩⑫
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	3	127	①④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生化学IIでは隔週で計7回の小テスト、細胞生物学でも担当回について隔週で計3回の小テストを実施するなどして学生による復習と反復学習を誘導した。授業アンケートでも勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は4.0を超えていた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I(前期)の補習	1	131	2018年6月26日
総合演習II(後期)の補習	2	107	2018年12月20日 2018年12月21日
総合基礎学習IIの補習	10	131	2018年4月25日 2018年5月2日 2018年5月9日 2018年6月13日 2018年10月3日 2018年10月10日 2018年10月17日 2018年11月7日 2018年11月14日 2018年11月28日
生化学IIの再試験対象者向け補習	2	15	2018年8月18日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 細菌感染症の予防と治療に関する研究
- (2) 細菌感染に対する生体防御機構に関する研究
- (3) 微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	200万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2016年度 薬学系研究奨励	公益財団法人 武田科学振興財団	2016年9月～2019年3月	200万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	2019年度薬学科の入試制度の改定を推進した 2019年度薬学科リーフレットの作成を推進した
研究センター委員会	委員	第十九巻 長崎国際大学論叢の編集及び発行
作問委員	委員	出題委員としての通常常務に貢献した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会入試募集WG	WG長	本学薬学部の学生募集を取り巻く状況の整理と教員間の情報共有の推進 2019年度薬学科入試制度改定案の策定 2020年度薬学科入試制度改訂案の策定
薬学部国試・CBT対策委員会	CBT部会長	総合演習Iの単位認定試験の運営 4年生向けの外部講師講習会の設定
薬学部CAI運用・活用委員会	副委員長	CAI強化策として国試向けの学内過去問のCAIへの入力を進めた 2年から6年生で実施するCAI実力試験の実施と成績管理を行った 成績下位者に対するCAI補習の実施、夏期・春期休暇中のCAI課題の提示と管理を、学年主任と共同で進めた
薬学部研究等倫理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献
薬学部生涯教育委員会	委員	委員としての通常常務に貢献
薬学部安全管理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・ 薬学部入試・募集委員長として、薬学科オープンキャンパスプログラムの策定と実施を担当した。本年度より学生司会を導入するなどの変更を行った。崇城大学のオープンキャンパスに参加し、本学のプログラムへのフィードバックにつとめた。また、平成30年5月23日実施のホスピタリティ概論：オープンキャンパスプロジェクト(1年生対象)に参加し、学生本人の参加経験をもとにしたOC実施提案を見聞し、薬学科OCプログラム改善の一助とした。
- ・ 薬学科の広報を目的とし、薬学科リーフレットの作成を主導し、また長崎県と佐賀県の薬剤師会会員への発送を主導した。
- ・ 韓国SKY語学院早期入試を含む学内入試、プレテスト、センター試験等の試験監督、並びに面接官を担当した。
- ・ 壱岐高校にて薬学系の進学ガイダンスを実施した。
- ・ 九州文化学園高等学校の教員4名との懇談会を実施し、九文高校出身の薬学部生の動向等について意見交換を行った。
- ・ 福岡市内の高等学校、中学校、小学校の校長や教頭、教員等と懇談し、意見交換を行った。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ブドウ球菌研究会運営委員会	委員	2016年度より	日本ブドウ球菌研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

欧文国際学会誌の査読を4件務めた。

国内学会の欧文学会誌の査読を1件務めた。

フォーラム2018:衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて座長を務めた。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

釜山大学校薬学部・李福律教授、Massachusetts General Hospital・Kazue Takahashi博士との共同研究を遂行中である。定期的にビデオ会議を行っている。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

・ 2018年度は教育・研究活動の傍ら、「入試・募集委員会」委員としての活動に注力した。これは2020年4月に福岡県大川市に、国際医療福祉大学福岡薬学部(附属病院有り)が定員120名で新設されることが決定的な状況であり、本学薬学科では福岡県及び佐賀県の受験生確保が極めて困難になると予想されるためである。九州地区、並びに中四国地区としては、私立薬科への入学者が定員割れを来している現状もある。そのため薬学科の入試・募集委員長として、オープンキャンパス運営、高校訪問の指揮等の通常業務に加え、薬学科リーフレットの新規作成と長崎、佐賀の両県の薬剤師会への配布を通じた広報活動、また入試制度改革などへの対策を積極的に立案、実施した。特に、2019年入試ではセンター利用入試の試験科目と配点の改訂、一般学力A日程の配点の改訂を行い、前年3月の薬剤師国家試験合格状況の改善と相俟って、全志願者の26%増を達成できた。2020年入試に向けても、各入試制度毎の募集定員の改訂、留学生の獲得に向けた日本留学試験利用入試の新規設定などを調整中である。その他、「CBT部会長」として4年生試験運営を指揮し無事に終えた。「CAI運用・活用委員会」副委員長として、全15回のCAI試験を運営、そして国試対策の学内教員作成問題の1万問の問題入力を行うなど、学生の基礎力養成に務めた。

・ 教育面では、姫野教授の退職を受けた講義範囲の拡大に対応し、概ね目標に沿って実施した。ただし、前期2年生対象の生化学IIの学生満足度が3.9と目標に達しなかった。一方、後期2年生対象の細胞生物学では4.1と改善した。生化学IIでは7回、細胞生物学では3回の小テストを実施し、学生からは復習に有用であると好評であった。3次カリ3年生の「総合基礎学習II」の運用を学年主任の先生方と共同し滞りなく務め、9月のCAI試験では2年連続で前年比3.5%増を達成した。5年生の卒業研究は2名を実験研究とした。

・ 研究面では、助教公募の機会を頂きながら志願者辞退に遭遇したことが、研究室運営上の痛恨の極みであった。再公募の機会を頂ければベストを尽くしたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小林 秀光

1. 教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期(低学年次)から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかりと修得することは、「病原微生物・ウイルス学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における出題数としては決して多いものではないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といてもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス(特に、微生物学分野における最近の研究等)を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること(アクティブラーニング)で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師の業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーニングは、研究の最新トピックス等ではなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目(学内実習を含む)では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験(随時、定期)を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。このような論述問題により、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
病原微生物・ウイルス学	8/15(前期)	1.5	110	①⑨⑩
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	⑧⑨
衛生化学Ⅱ	8/15(前期)	1.5	111	①
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	⑨
生命倫理	2/15(後期)	2	148	②
微生物学	15/15(後期)	1.5	95	①②
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	④
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	106	⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	3/15(前期)	2/1～3年	6
特別研究	90/90(通年)	12/1～4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

平成28年度: 4.3

平成29年度: 4.5

平成30年度: 4.2

0.3ポイントの下降は、とてもショックだった。もっと、アクティブラーニング(AL)を工夫することで「満足度」を向上させたい。

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法

2学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目(病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学、衛生化学、公衆衛生学など)や臨床系科目(実務実習など)の基礎となる重要な科目である。従って、導入教育的性格を持っているので、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例についてスライド枚数を昨年よりさらに増やして紹介した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートしたつもりだが、一部の学生には全く伝わらなかったようだ。

(3) 改善が必要な授業(セミナー)の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策
平成28年度:質問3:4.3、質問4:4.3、質問5:4.3
平成29年度:質問3:4.5、質問4:4.5、質問5:4.5
平成30年度:質問3:4.1、質問4:4.1、質問5:4.2
どの項目も昨年より0.3~0.4ポイント下降したので、来年度はALの内容をさらに吟味してから授業に臨むようにしたい。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策
平成28年度:質問6:4.3、質問7:4.4、質問8:4.3、質問9:4.3、
質問10:4.3、質問11:4.3
平成29年度:質問6:4.5、質問7:4.5、質問8:4.5、質問9:4.5、
質問10:4.4、質問11:4.4
平成30年度:質問6:4.2、質問7:4.2、質問8:4.1、質問9:4.1、
質問10:4.1、質問11:4.1

昨年より0.3~0.4ポイント下降した。これらの評価が上昇するように、さらにALを工夫したい。また、まとめのプリントは概ね好評なので続けるが、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感

昨年度、授業にメリハリを持たせるためにPPの内容の充実(視覚に訴えるものを増加)を図った結果、受講学生の満足度が高くなり、ベストティーチャー賞をいただいた。しかし、今年に関しては全ての項目で0.3~0.4ポイント低下する厳しい評価が下された。

この原因は正直なところ解らないが、いくつか思い当たる点を挙げる。まず、昨今の社会情勢を講義に反映させることを重視したため、講義内容が増えたことであろう。ところどころ早口となり、受講者は聞き取り難かったかも知れない。よって、シラバス通りに授業が進まず、講義できなかった項目がある。次に、インフルエンザ罹患により1コマ休講となったことで補講がクリスマスあたりの実施となり、学生にとっては厳しかったのかも知れない。

来年度3年生の担当科目では、アクティブラーニングをもっと工夫し、より多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。

この学年(平成29年度入学者:現2年生)では、「出席カード」への書き込み(質問や感想など)が極めて乏しく、授業中においても積極性が全く感じられない。このように学生からのレスポンスが乏しいのはとても残念である。また、15人が再履修となったこと(例年欠単者は一桁)や「S」及び「A」評価の割合が少ないことから、平均的に総理解度が著しく低いものと考えられる。従って、今後、この学年に対する学修支援には、全教員が一層努力する必要があるように思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡メディカル専門学校	生化学	3/3(後期)	2	60

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

(1) 研究テーマ

- ① 病原性Candida酵母由来細胞壁多糖の免疫および構造化学的研究
- ② 冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Specific Antiproliferative Activity against Several Human Cancer Cells Possessed by Cordyceps militaris Grown in Viable Pupa of Silkworm Raised under Sterile Environment/2018年7月/Int. J.Curr.Microbiol.App.Sci./7巻988頁～997頁/共著/論文

Presence of O-glycosidically linked-oligosaccharides in the cell wall mannan of Candida krusei purified with Benanomycin A/2019年1月/FEBS Open Bio./9巻129頁～136頁/共著/論文

Specific Antiproliferative Activity against Several Human Cancer Cells with Metabolites from Onygena corvina/2019年1月/Int.J.Curr.Microbiol.App.Sci./8巻1659頁～1668頁/共著/論文

Distribution of Oligomannosyl Side Chains in the Cell Wall Mannan of Pichia pastoris Purified by Benanomycin A/2019年2月/Int.J.Curr.Microbiol.App.Sci./8巻2926頁～2935頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

カイコ冬虫夏草Cordyceps militarisの機能解析/2019年3月21日/日本薬学会第139年会(横浜)

Cordyceps pentatomi Koval 二次代謝産物のメラニン生成に及ぼす影響/2019年3月21日/日本

薬学会第139年会(横浜)

無菌蚕の蛹を培地として生育したサナギタケの α -グルコシダーゼ及びキサンチンオキシダーゼの阻害効果について/2019年3月22日/日本薬学会第139年会(横浜)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	薬学科長として所属
研究ブランディング事業実施委員会	委員	薬学科長として所属
発明等審査委員会	委員	薬学科長として所属
人事委員会	委員	学長による任命
全学教育会議	委員	薬学科長として所属
生物学オリンピック実行委員会(全学)	委員	式典担当
入学試験「日本語(留学生)」作問	作問担当	単独

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部改善計画策定委員会(薬学部)	委員長	薬学教育認証評価対応、新カリキュラム策定、入試改革等
国試・CBT対策委員会(薬学部)	委員	国家試験対策計画の策定、国家試験引率等
薬学教育支援センター運営委員会(薬学部)	委員	留年生の修学支援、初年次修学支援、留学生日本語支援等
実務実習運営委員会(薬学部)	委員	実務実習統括補助等
研究等倫理委員会(薬学部)	委員	病原微生物担当等
薬学FD委員会(薬学部)	委員	授業参観、フィードバック等
共同機器管理委員会(薬学部)	委員	新規機器導入、メンテナンス等
実習(学内)委員会(薬学部)	副委員長	予算振り分け、管理等
薬学部自己点検・評価委員会(薬学部)	委員	薬学教育認証評価対応、評価報告書作成等
CBT実施委員会(薬学部)	委員	CBT統括補助等
OSCE実施委員会(薬学部)	委員	OSCE統括補助等
IBO 2020実行委員会薬学部ワーキンググループ	委員	全般

(3) 課外活動の指導等

- (1) 4年生CBT対策講習1コマ
- (2) 5年生国家試験対策講習2コマ
- (3) 5年生国家試験対策講習1コマ
- (4) 担任:合計23名(1年:3名、2年:2名、3年:2名、4年:3名、5年:7名、6年:6名)
- (5) 担当科目再履修者の指導(書面)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- (1) 薬学部リーフレット作成:入試募集センターの協力を得て作成した。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平成30年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ(於・慶応大)	本学薬学科代表	平成30年8月24日	文部科学省
日本私立薬科大学協会 第2回通常総会(於・アルカディア市ヶ谷)	本学代表(学部長代理)	平成30年11月27日	日本私立薬科大学協会
日本薬学会「平成25年度改訂モデル・コアカリキュラムの実施状況に関する調査研究」ワークショップ(於・北里大)	本学薬学科代表	平成31年2月17日	日本薬学会
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	平成28年～継続	長崎大学
長崎薬学コンソーシアム運営委員会	委員	平成28年～継続	長崎大学

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

社会活動

- (1) 高校生夏休み理科体験学習
- (2) 九州文化学園高校教諭との教育懇話会
- (3) 寄付講座募集(長崎・佐賀)
- (4) 医療施設見学会(研究室内)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

- (1) 平成30年ベストティーチャー賞受賞:フィードバックアンケート(講義型:100名以上)部門
2年次「微生物学」
- (2) 平成30年ベストティーチャー賞受賞:アウトリーチ部門(高井准教授代表)共同エントリー
MR認定センターの補完教育のための問題作成
- (3) 学長裁量経費:地域の期待に応える実践活動(佐藤教授代表)分担
4年生対象:第5回地域に応える実践活動「薬剤師として働くことの魅力と地域で働くことについて考える」冊子作成
5年生対象:第6回薬学部就職説明会

8. 活動全般についての自己点検・評価

【学校運営】薬学科長として3年目となった。通常の学科長業務に加え、平成29年度の薬学教育第三者評価機構の受審結果に伴う改善等に対応した。

【研究活動】平成29年度に熊本県内の「(株)峯樹木園」と連携して、経済産業省の「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」を獲得(約140万円)し、その成果の一部を国際雑誌に公表することが出来た(昨年度に引き続き2報目)。また、これまでに得られた研究成果について、学会発表3編及び国際雑誌(査読付き)4編を公表することができた。また、これらのうち論文2編は指導する大学院生の研究成果として公表されたもので、その結果、大学院生は「博士(薬学)」の学位を授与される運びとなった。次年度においては、継続的に学会発表し、1～2報の論文(国際誌査読付き)を公表する計画である。

【教育活動】これまでと同様、授業「微生物学」において視覚に訴える授業(アクティブラーニングを含む)を展開したが、受講者の満足度が昨年よりも大幅に低下(0.4ポイント減)した。その原因と改善方法については、既にアクションプランシートに記載した通りである。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 佐藤 博

1. 教育理念

私の学問的バックグラウンドである環境科学では、「持続可能な」という言葉が一つのキーワードとなっている。これは社会のなかにおいて、色々な考えをもつ学生がそれぞれのもっている個性を大事にして地道に目標に向かっていくことに対して、真摯に継続して係っていくことに重要と考える。そこで、次に3つを教育理念として挙げる。

- 学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- 個を認め、その主体性を育むことによって、ホスピリティをい獲得する教育を行う。
- 心が豊かになる教育を目指して、国家試験に対して乗り越えられるように育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	109	①②③⑩
公衆衛生	15/15(前期)	2	53	②⑨⑩
衛生薬学実習	8/8(前期)	1	112	①②④⑤⑦⑪⑫
環境科学	15/15(前期)	1.5	115	②
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①⑨
教養セミナーB	12/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩⑪
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	200	②④⑥
地球環境論	15/15(後期)	2	113	②⑨
香粧品学	15/15(後期)	1.5	110	②⑩
毒性学	8/15(後期)	1.5	114	②
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	8	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	7/15(前期)	2/1~3年	6

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

- イ) 出来るだけ、新聞記事を多用して講義をすると同時に、プリントのまとめを今後も活用していく。
- ロ) まとめのプリントの配布回数を増やす。
- ハ) 授業前に時間的に余裕を持って教室に行き、学生との会話を心がける。
- ニ) 時間に余裕を持って講義をゆっくりと進行させる。また、話す速度にも気をつける。
- ホ) 早口になるのを注意して、滑舌をよくして聞きやすいようにゆっくり正確に話すようにする。

高校での理解力が不十分と思われる学生については補習を行うなどした。教育効果についてはこれからだと思うが、学生がノートをしっかりとるなど授業への積極的な姿勢が見られた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①「タバコ煙のにおい成分測定法の確立と環境への応用」

- ②「微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討」
(有)T.Mエンタープライズとの共同研究

- ③「長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析」
- ④「JR新幹線トイレタンクの新規の洗浄脱臭剤に関する研究」
(株)ワールドバイオの委託研究

- ⑤「光触媒を利用した小型脱臭器に関する研究」
(株)日本理工医学研究所の委託研究

- ⑥「光触媒を利用したLED照明に関する研究」
イナヅマ電気工事株式会社の委託研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	9	3	3	160万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
たばこ煙のにおい成分測定法の確立と環境への応用/平成30(2018)6月/平成29年度 喫煙科学
研究財団研究年報/pp.893-897/共著/論文

Detection of tobacco smoke emanating from human skin surface of smokers employing passive flux
sampler - GCMS system/平成30年(2018)8月/Journal of Chromatography B Volume 1092/pp.
394-401/共著/論文

The Bacteriological Properties of Bacillus Strain TM-I-3 and Analysis of the Volatile Antifungal
Compounds Emitted by this Bacteria /in press/Biocontrol Science/未定/共著/論文

薬剤師と「食」を通じたプライマリ・ケア/in press/長崎国際大学論叢/未定/共著/調査報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

サードハンドスモーク中の発がん性物質を含む有害化学物質の測定法と定性分析/平成30年9月
6-8日/先端モデル動物支援プラットフォーム 若手支援技術講習会2018

光触媒によるタバコのセカンドハンドスモークとサードハンドスモークの脱臭の検討/平成30年11月
17日/平成30年度第35回日本薬学会九州支部大会

小型光触媒脱臭器による脱臭の検討/平成30年11月17日/平成30年度第35回日本薬学会九州
支部大会

月桃精油のTrichophyton rubrum およびBacillus subtilisに対する非接触抗菌作用/平成30年11月
18日/平成30年度第35回日本薬学会九州支部大会

サードハンドスモークとセカンドハンドスモークの臭いに関する研究/平成30年11月17日/平成30
年度第35回日本薬学会九州支部大会

TM-I-3 株の芽胞状態における揮発性物質の定性/平成30年12月6-7日/平成30年度室内環境
学会学術大会

TM-I-3 株による非接触抗真菌効果と菌糸成長挙動の関係性/平成30年12月6-7日/平成30年
度室内環境学会学術大会

TM-N5 株および TM-I-3 株の細菌と真菌に対する非接触抗真菌作用の検討/平成30年12月6-7
日/平成30年度室内環境学会学術大会

光触媒を用いた小型脱臭器の検討と評価/平成31年3月1日/平成30年度室内環境学会九州支

部第12回研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
TM-N5株、TM-I 3株の基礎的研究	(株)ニシヤマ	平成30年4月～平成31年3月	30万円
JR新幹線汚物タンク用抗菌防臭剤における新規抗菌剤の選定	(株)ワールドバイオ	平成30年4月～平成31年3月	100万円
株式会社日本理工医学研究所製「ニオイヤー®」の他社類似製品との脱臭効果比較評価	(株)日本理工医学研究所	平成30年4月～平成31年3月	30万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員長	全学就職委員会開催(月1回)、全学教授会報告(月1回)
薬学部就職委員会	委員長	2019薬学部合同就職説明会開催(平成31年3月10日)就職ガイダンス、就職オリエンテーション実施
薬学部地域連携委員会	委員長	高大連携授業開催(猶興館高等学校・平成30年8月19日)
薬学部改善計画策定ワーキンググループ	委員	留年対策
薬学部教務委員会	委員(就職・地域連携・同窓会関連)	1年早期体験学習(行政、研究所見学)の計画作成
薬学部安全管理委員会	毒物劇物担当主任	毒物、劇物、ガスボンベ、爆発物原料物の管理調査(年末実施)
薬学部図書選定委員会	委員	図書の選定

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
OSCE運営委員	評価者	OSCE評価実施、平成30年12月16日、長崎国際大学

(3) 課外活動の指導等

- ・フレッシュマンセミナー引率(4月14日、環境施設見学、ハウステンボス)

・クリーンキャンパス活動（6月9日、11月30日）

・早期体験学習 長崎県環境保健研究センター引率（11月7日）

・寄付講座 ゆうゆう薬局見学引率(平成31年2月14日)

・薬学野球サークル顧問

九州薬学生連盟大会（5月3日(福大と対戦 - 敗戦)、5日(第一薬と対戦 - 勝利)、(多久市野球場) 3位

九州医歯薬リーグ準硬式公式戦(10月6日佐賀市、10月14日仲間、10月20日佐賀市)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・第5回地域の期待に応える実践活動 平成30年11月25日(日)、長崎国際大学1101、2101、2102、2105教室 実行委員長

・2019薬学部合同就職説明会開催 3月10日(日)、長崎国際大学食堂棟他 130施設参加

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	8

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
生活環境を取り巻く臭いに関する研究	平成30年 9月12日(水)	九州大学筑紫キャンパス	大気環境学会臭気環境分科会
ガスクロを用いた臭気分析の基礎～応用について	平成30年 10月5日(金)	AGCエスアイテック株式会社(北九州市)	AGCエスアイテック株式会社

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市環境政策審議会委員	委員	2019/03/01～ 2021/3/01	佐世保市長
長崎県環境審議会	委員	2018/11/01～ 2020/10/31	長崎県知事
日本分析化学会ガスクロ研究懇談会	委員長	2018年～現在に至る	日本分析化学会ガスクロ研究懇談会
室内環境学会	評議員、役員	2010年から評議員、 2012年から役員～ 現在に至る	室内環境学会会長
室内環境学会九州支部	九州支部長、九州支部事務局長	2007年から事務局長、 2012年から九州支部長～ 現在に至る	室内環境学会会長
日本大気環境学会九州支部	支部役員	2011年から現在に至る	日本大気環境学会九州支部長
日本分析化学会九州支部会	幹事	2013年1月～現在に至る	日本分析化学会九州支部長
CJK(日中韓)分析化学シンポジウム	事務局長	2013年9月～現在に至る	日本分析化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①横浜市青少年育成協会会員
- ②北九州市ボランティア協会会員
- ③障害者スポーツ指導員
- ④日本トイレ協会会員
- ⑤シックハウス対策アドバイザー(NPO法人生活環境協会)
- ⑥九州文化学園高等学校 学校薬剤師 (7月26日に九州文化学園高等学校の教室内の照度を学校薬剤師業務として測定し、報告を行った。)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
平成30年度室内環境学会学術大会	学生懇談会	平成30年12月6日 -12月7日	平成30年度室内環境学会実行委員会

(2) 国際的な学会／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
2018China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry	日本側事務局長	平成30年11月30日-12月2日	中国・漳州 (Minnan Normal University)	日中韓分析交流会

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

ガスクロマトグラフィー貢献賞 佐藤博(公益社団法人日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会) 平成30年5月11日

8. 活動全般についての自己点検・評価

室内環境学会と分析化学会GC研究懇談会の九州支部事務局として学会活動に力を入れている。学内では、9年目となる第9回薬学部合同就職説明会を130施設参加するなどして実施することができたのには満足している。また、4年生を対象として、昨年に引き続き第5回地域の期待に応える実践活動を実施した。この活動により、学生が地域で働くことへの魅力を認識し、延いては地元への就職率の向上へ繋がると期待している。

現在、採択された外部資金を運用して研究面を特に推進している。その成果として、これまで共同研究をしていたイナヅマ電気工事(長崎市)から光触媒LED型照明装置が平成29年7月1日に発売され、平成30年2月に長崎市製品・技術「優れモノ」に認証されており、現在はフィールド実験を長崎市と共同で行っている(毎日新聞平成30年5月24日掲載)。また、T.Mエンタープライズ(長崎市)と共同研究している、浴室やリビングのカビを抑制するバイオ製剤は発売以来好評であり、平成31年度には廉価版を販売元のニシヤマが生協から販売する予定である。地元佐世保の日本理工医学研究所から発売した小型脱臭器「ニオイヤー」のモデル実験、フィールド実験の評価は順調に進んでおり効果のあることが実証でき、7月のテレビ放映以来月産1000台以上売れ、これまでに、5000台以上の発売となっている。神奈川のホテイ産業研究所と共同研究している微生物製剤である、バイオフェアリーとヌメノン順調に評価が進んでいる。JR西日本から相談されている九州新幹線トイレの臭い分析は、TOTOと共同で進めることになり、計画を練っている最中である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 立石 正登

1. 教育理念

臨床の現場で応用できる知識、技能、態度を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
物理・生物薬剤学演習	8/15(前期)	1	102	②④⑪
薬物動態学	15/15(前期)	1.5	120	②⑨⑪
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	119	②⑪
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	②⑪
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	②⑪
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	③④⑦⑨
総合演習ⅢA	6/23(前期)	1.5	106	②④⑦⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	②④⑦⑨
臨床薬物代謝学	15/15(後期)	1.5	110	①④⑨
病院薬学	7/15(後期)	1.5	112	①②④
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
総合実習	6/6(後期)	1	122	①④
総合演習ⅢB	3/30(後期)	2	90	②④
総合基礎学習Ⅰ	1/15(通年)	0.5	107	②④⑦
総合基礎学習Ⅱ	4/15(通年)	0.5	106	②④⑦
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	6/45(通年)	3	127	②④⑦⑨
総合演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	106	②④⑦
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	5/15(前期)	2/1~3年	5

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

臨床薬物代謝学や薬物動態学において、配布プリントの種類が多く、見にくいという学生の意見が多かったので、種類および表記の仕方を工夫して作成したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ファーマコメトリクス
- ・シミュレーション教育における教育プログラム開発
- ・薬学におけるコミュニケーション教育の在り方

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部実務実習運営委員会	委員長	5年生実務実習の計画・運営。九州山口地区実務実習調整機構大学委員
薬学部共用試験OSCE実施委員会	実施責任者	OSCE実施計画作成・実施。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部供与セミナー: 早期体験学習およびボランティア担当	担当	1年生早期体験学習実施計画と実施。早期体験学習およびボランティアの企画・準備・対応
薬学部2年生臨床体験学習担当	担当	長崎リハビリテーション病院における臨床体験学習の企画・準備・実施。

(3) 課外活動の指導等

無し。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

後藤調剤薬局および西田病院(別府)、国立病院機構専門職の求人に対応。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
模擬患者養成	11月14日	長崎県看護協会ながさき看護センター(諫早)	長崎県看護協会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州山口地区実務実習調整機構	大学委員	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	九州山口地区実務 実習調整機構
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	平成27年4月1日～ 平成31年3月31日	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

無し。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/
主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究および講演において、地域団体のコミュニケーション教育に貢献できた。薬学部の担当している委員会も問題なく、実施できた。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 長岡 寛明

1. 教育理念

私の教育の理念は、学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく、公衆衛生学・衛生化学、環境科学、毒性・代謝学、レギュラトリーサイエンス等の視点をもって考えることができる良い医療人を育てるというものである。良い医療人とは、医学、薬学、社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し、更に、協調性に富み、幅広い視野と豊かな教養を持ち、高い人間性及び倫理観を持ち合わせ、自ら学び続けることができる人材であると考えている。

本学の卒業生のほとんどは、病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し、一般社会に接した医療現場で働き、多忙な業務をこなすことになる。学生には、将来、疾病を見るだけでなく、疾病に罹っている患者本人及びその家族、患者が生活する地域、属する組織や社会に対し、目を向けて考えること、自ら行う医療行為について評価することができるようになること、加えて、疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている。

以上のことより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、生涯にわたって、やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
薬学入門	1/15(前期)	1.5	109	①②⑩
公衆衛生学 I	15/15(前期)	1.5	111	①⑨
衛生薬学実習	8/8(前期)	1	112	①②④⑤⑦⑪⑫
健康薬学	15/15(前期)	1.5	6	①⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	②⑫
公衆衛生学Ⅱ	11/15(後期)	1.5	103	①⑨
衛生化学 I	7/15(後期)	1.5	108	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	④⑤⑪⑫
総合演習 I	1/45(通年)	3	127	①②③⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
衛生予防薬学特論	3/15(前期)	2/1～3年	6

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・授業アンケートについて

授業アンケートはおおむねいい結果であった。

・授業改善と教育効果

・授業方法

昨年, 冊子タイプで講義資料を渡したが, 本年は, 冊子ではなく, A4両面印刷の資料を初回授業時に配布したところm, 学生から好評であった。

・パワーポイントによる講義に加え, 適度に板書を取り入れたことにより, 熱心にノートを取る受講生が増えた。

・教育効果について

ポートフォリオを活用して, 各授業終了後に小テストを実施し, 学生の学習支援及び理解を深めることに努めた。

ポートフォリオにおいて質問やコメントを求めたところ, 多くの質問やコメントが寄せられ, これらに対しては, 真摯に回答した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	公衆衛生学	15/15(前期)	2	76
佐世保市医師会看護専門学校	公衆衛生学	10/15(後期)	2	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・医療用医薬品の承認審査に関する研究
- ・カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量定量法の開発
- ・茶葉抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究

- ・大村湾の海洋調査
- ・環境汚染物質の分析及びそれらの生体への影響評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Stability Testing of Drug Products Approved by the Japanese Government in 2015/平成31年3月
/論叢/185頁～190頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
ナツメグの遺伝毒性評価に関する研究/平成30年9月/フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロ
ジー

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館の運営に関する業務を行った.
薬学部共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った.
薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として, 1回の卒後教育セミナーを開催したほか, 同委員会の運営に関する業務を行った.

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部自己点検・評価書作成委員会	委員	薬学部自己点検・評価書作成委員会委員として、自己点検評価書の作成に携わった。
薬学部改善計画策定委員会	委員	薬学部改善計画策定員として、薬学部改善計画に関する業務を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・平成30年7月 オープンキャンパス参加
- ・平成30年8月 オープンキャンパス参加
- ・平成31年2月17日 第8回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー 開催

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	6

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
第8回 長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー開催	2月17日	長崎国際大学	長崎国際大学薬学部生涯学習・教育委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員	委員	2018/04/01～ 2020/03/31	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事長
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	2014/10/01～ 2020/09/30	佐世保市長
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	2016/10/01～ 2018/09/30	佐世保市長
日本食品化学学会	第11期 評議員	2017/01/01～ 2018/12/31	日本食品化学学会 理事長
日本食品化学学会	評議員	2019/01/01～ 2020/12/31	日本食品化学学会 事務局長
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	2018/10/01～ 2020/09/30	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市少年科学館星きらりの科学工作において、ボランティアとして活動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジー	大会長	9/9～9/11	アルカス佐世保	日本薬学会 衛生薬学部会

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・本年度は、講義、実習及び演習の準備等で瞬く間に過ぎてしまった1年であった。このため、活動全般では、他の教職員の方々の理解と協力を得て、果たすことができたと考えている。
- ・教育活動においては、自分なりに精一杯努めたつもりではあるが、まだまだ反省し、改善すべき点があると考えている。
- ・研究活動においては、今年度は論文1報、学会発表1回であった。来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい。
- ・委員会活動においては図書館委員として、図書館の蔵書の充実に寄与した。また、薬学部生涯教育委員会委員長をとして、委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた。来年度も講演会を開催し、本学が知の拠点となる一助をしたいと考えている。
- ・平成30年9月に開催したフォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジーでは、大会長としてその責務を果たし、大会を成功裡に終えることができた。これは、出口先生他多数の先生方の協力下の成功であると考えている。
- ・平成31年2月17日に第8回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナーを秋野公造先生を講師にお迎えして開催した。これは、委員の先生方のご協力によるものであると感謝している。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 深澤 昌史

1. 教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にす社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人(薬剤師)を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する5つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
生物学演習	7/15(前期)	1	74	①②⑨
生物学演習	7/15(前期)	1	14	①②⑨
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	112	①③⑨
ウイルス学	11/15(前期)	1.5	3	①③⑥⑨⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	⑨
分子細胞生化学演習	4/15(後期)	1	67	②⑨
分子細胞生化学演習	4/15(後期)	1	36	②⑨
生化学実習	9/9(後期)	1	109	①②④⑪⑫
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	⑨
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当科目がかなり減らされたため、全体の2分の1以上を受け持っている前期生化学Ⅲのみ授業アンケートを実施した。前年度は理解度のポイントが3.9と低かったため、今年度は内容を少し絞り、一項目毎の解説を丁寧に行った。また、毎回のリフレクションカードで回収した質問等に必ず回答を与えるようにした。アクティブ・ラーニングとしては、朝学習の時間を利用してポートフォリオで小テストを実施させた。これらの改善策の甲斐あって、評価は4点台に上昇した。また、自由記述では授業がわかりやすいとの好意的な意見が多かったが、成績下位者に対してはまだ難しい部分があると思われるので、易しい内容でありながらも成績上位者にも興味を持たせる授業を目指してさらなる改善を行う必要性を感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	2	76

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ補習	授業数1	50	2018年12月17日
生化学Ⅰ補習	授業数1	49	2019年1月10日
生化学Ⅰ補習	授業数1	51	2019年1月16日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①薬学教育におけるICTの活用と評価
- ②乳酸菌代謝生産物質の有用作用に関する研究
- ③グルコース濃度依存的な肝転写因子ChREBPの活性化機構の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Interplay between ChREBP and SREBP-1c Coordinates Postprandial Glycolysis and Lipogenesis in

Livers of Mice./2018年3月/J Lipid Res./475-487/共著/論文

教育基盤センター薬学分室 平成30年度活動報告/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要/未定/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

薬学教育モデル・新コアカリキュラムにおける「8疾患」の領域横断型演習の試み/2018年9月/日本薬学教育学会第3回大会

薬学教育支援センターにおける取組み -その成果と課題-/2018年12月/Q-カンファレンス2018
高脂肪食を摂取した野生型マウスの脂質及び糖質代謝に対する乳酸菌生産物質(PS-B1)の影響
/2019年3月/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学教育支援センター運営委員会	議長	教育基盤センター学修支援部門薬学分室長として、教育支援に関する様々な取組みを立案・実施した。議長としては運営委員会を7回開催した。
国試・CBT対策委員会	オブザーバー	拡大国試・CBT対策委員会に出席。また、教育支援センターとして国試・CBT委員会と共同で勉強会を企画・運営した。
図書選定委員会	委員	図書館予算にて購入する図書の選定を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学分室長として、委員会活動に寄与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
初年度教育担当責任者	メンバー	入学前教育の取りまとめ、及びリメディアル教育の立案と実施。
LA担当責任者	メンバー	LA学生の推薦・選定などを行った。

(3) 課外活動の指導等

NIU天文会(天文同好会) 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①第1回オープンキャンパス参加/7月22日/長崎国際大学
- ②第2回オープンキャンパス参加/8月5日/長崎国際大学
- ③第3回オープンキャンパス参加/8月19日/長崎国際大学
- ④長崎国際大学・猶興館高校コラボレーション「生物学オリンピック体験学習」実施/8月19日/長崎国際大学
- ⑤大学教育学会 課題研究集会 運営/12月1-2日/長崎国際大学
- ⑥Qカンファレンス2018における広報活動/12月22日/九州大学伊都キャンパス
- ⑦第4回オープンキャンパス参加/3月23日/長崎国際大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

韓国からの1年次留学生7名に対し日本語学修支援を提案。面談によりリクエストのなった日本語レ

ポートの日本語表現等に関する添削とフィードバックを、6名の留学生に対して行った。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

<教育活動>

薬学教育支援センターの長として様々な教育支援活動に従事した。特に前期の留年生対策として6年卒業延期生に対する取組みには活動の大半を費やし、対象者全員を5月中の単位認定に導き、秋卒業させた。高学年では、6年成績不振者に対する夏・冬の勉強合宿や、CBT再試験受験者に対する監督など、多くの取組みに従事した。また、6月には留年生保護者会を実施し、早い段階での情報共有と学修支援に対する理解・協力を得た。昨年度以来行っている個人カルテの充実や学年主任との連携、科目担当教員との連携など改善策の結果、留年生は着実に減少している。さらに留年生を出さないための初年次教育にも力を入れ、1年生に対する補習を、これまでの化学に加えて物理、生物でも実施するようになった。専門科目においては、主な担当科目である生化学Ⅲの授業改善の結果、授業アンケートの評価は上昇したが、引き続き改善に取り組みたい。自由記述では好評な意見が多かったため、下位層の理解度を向上させることで満足度がさらに伸びることが期待される。eラーニング教材としてはCAIのリメディアル問題を充実させ、初年次教育に利用するのが有効と思われる。また、懸案となっている大学eラーニング協議会との連携についても検討したい。

<大学運営活動>

大学運営活動としては、オープンキャンパスの全回に参加し、また高校生を対象とした実験等では、国際生物学オリンピック開催に関連してゾウリムシを用いた実験・観察を企画し、夏期の長崎国際大学・猶興館高校コラボレーション「生物学オリンピック体験学習」及び3月オープンキャンパスにて実施した。他には、今年度もFDを主催できなかったため、次年度は開催したい。

<研究活動>

教育関連学会等において2題のポスター発表を行えた。論文にたういても、大学院生を指導して行っている研究テーマについては、近々投稿予定である。また、薬学教育学会にて発表した教育研究についても、論文投稿を目指している。外部資金の獲得について、主たる研究内容が教育へと変わったため、申請すらできない状態が続いている。今後は様々な教育関連学会で人脈を作るなどして具体的なテーマを開拓し、共同研究へと結びつけて外部資金の獲得を目指したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 藤田 英明

1. 教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。

そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味を持てるような導入を工夫している。

国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
物理・数学演習	15/15(前期)	1	48	①②⑨
機能形態学 I	15/15(前期)	1.5	108	①②⑨
機能形態学実習	7/7(前期)	1	112	①②⑥⑦
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
物理・数学演習	15/15(後期)	1	8	①②⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
総合基礎学習 I	15/15(通年)	0.5	107	②④⑥⑨⑩
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習 I	1/45(通年)	3	127	①⑨
総合演習 II	1/23(通年)	1.5	106	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

機能形態学 I

概ね良い評価であった。

人体模型を活用した。毎回の確認テストはmanabaで点数を開示し、可能な限りコメントを返した。

留学生からの評価が相対的に低い。日本語の問題があるかと思われる。

物理・数学演習(前期)

概ね良い評価であった。学生のレベルが毎年変動するので経年推移についてはあまり意味が無い。

毎回の課題の成績をmanabaでコメントと共にフィードバックした。

高校科目の復習なので、一定レベル以上の学生には退屈な講義となるが、仕方が無い。

入学生のレベルを高めて、大学の講義として満足度の高い講義ができるようにしてほしい。

物理・数学演習(後期)

前期不合格者向けの再履修科目であり、基礎学力の低い学生が多く、全員に満足させることが難しかった。

全員に満足させるためには授業内容を狭める必要があるが、その場合2年次以降の講義に対応できなくなる恐れがあり、リメディアル科目としての存在意義がなくなる。

毎回の課題については採点后コメントつきでポートフォリオを用いてフィードバックした。

一部学生が欠席が多く、また講義に集中していなかった。

学生は自分が理解できていないことは把握できている。しかしなぜ、それをなんとかしようと思わないのかが理解できない。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	2	107	11月22、12月6日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① リソソームへの膜タンパク質選別輸送メカニズムの解明
- ② メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明
- ③ 抗HIV宿主因子の機能に関する細胞生物学的解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	2	2	200万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Membrane-associated RING-CH (MARCH) 1 and 2 are MARCH family members that inhibit HIV-1 infection/2019/J. Biol. Chem/ in press/共著/論文

CRISPR-mediated activation of endogenous BST-2/tetherin expression inhibits wild-type HIV-1 production/2019/Scientific Reports/in press/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Cell-based ELISA法によるチロシナーゼ発現制御化合物のスクリーニング/2018年10月/日本色素細胞学会

Endogenous activation of BST-2 by CRISPR reduces HIV-1 replication/2018/10/28/第66回 日本ウイルス学会

CRISPR-mediated activation of endogenous ZAP expression decreases HIV-1 production / 2018/10/28/第66回 日本ウイルス学会

βトレフォイル(三つ葉)構造を有するイガイ科レクチンの構造と機能に関する研究/2018/11/17/日本薬学会九州支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
抗HIV宿主因子発現誘導およびHIVアクセサリータンパク質の機能阻害を指標とした新規抗ウイルス薬シーズの探索	東京生化学研究会 アジア地域招聘研究	2016年10月～2018年10月	150万円
メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明	ポーラ化成工業	2018年	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	副委員長	なし
放射線障害予防委員会	委員	なし
研究ブランディング事業実施委員会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部バスケットボールサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏休み薬学研究体験

8月7日・8日

長崎・佐賀の高校生29名に対して実験研究と茶道を体験させた。

例年、参加者から数名の入学者を獲得できている。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
修猷館高校 自己開発講座「出前授業」	10月21日	福岡	福岡県立修猷館高校
公開講座	6月9日	長崎国際大学	本学地域連携委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本色素細胞学会	理事	2018年	日本色素細胞学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

4年学年主任として、学生の成績や講義出席状況に配慮しながら適宜指導を行った。特にCBT不合格者に対しては、薬学教育支援センターと共同で、補習を行い全員合格を目指した。

薬学部教務委員会では定期試験担当として、試験実施に関する活動を行った。

専攻長として学位審査が滞りなく進むように配慮してスケジュール調整を行った。

結果として2名の大学院生が学位審査を受けることができた。

ただ、スケジュールにまだ問題があり、次年度の課題となった。

大学院の定員充足を目指して、4月オリエンテーションでの大学院説明、薬剤師会・病院などへの募集要項の配布を行った。結果はまだ出ていないが、継続して行いたい。

NIU-IBO2020実行委員会において、生物学オリンピック(2019国内大会(本選)、2020世界大会)実施に向けての活動を始めた。今後、全学的な動きを加速させて、両大会のをスムーズに実施運営できるようにしたい。

共同研究を増やして、研究活動のレベルを上げていきたい。共著論文はそれなりに出ているが、自分のテーマでの論文が増えるように努力する。研究費獲得にもトライを続ける。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 藤原 俊幸

1. 教育理念

大学における教育は、初等、中等教育とはやや目的が異なり、学問に対する面白さを伝授するのが、第一義的なものと考えている。昨今は、入学してくる学生の多様化に伴い、若干様相が異なってきているとはいうものの、やはりこの面を押し出していくのが大事なことだと思う。学生に手取り足取り教えるというより、「自分で面白さに気づく」、「自分で何故そうなるのか考える」を促進できる学生教育をしていきたい。そのためには、いつも答えを教えるのではなく、80～90%のところまで、一旦立ち止まり、考えさせるということが肝要ではないかと考えている。自分で考えさせるということを目指し講義・実習を組み立て、社会に出てからの糧となるような教育をしていきたいと思う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
基礎の数学	15/15(前期)	2	33	①②⑨⑩
生物学演習	4/15(前期)	1	74	①②⑨⑪
生物学演習	4/15(前期)	1	14	①②⑨⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	112	①②⑥⑦
薬学英语	2/15(前期)	1	58	①⑤⑩
薬学英语	2/15(前期)	1	57	①⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	106	①⑨
生化学実習	9/9(後期)	1	109	①②④⑪⑫
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	105	②③⑨⑩
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

アクティブラーニングについては、できる限り取り入れて授業を行っている。前期の「基礎の数学」の授業アンケートは2年続けて理解度、満足度があまり芳しくなかった。様々なバックグラウンドを持つ学生を満足させる難しさを感じた。次年度は、教材の変更等も視野に入れて基本的な部分を充実させるよう考える。後期の薬学部専門科目は、例年になく、評価が悪かった。理由はわからないが、自由記述から見えてくる部分もあるので、その記述からの要望を考慮してみたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	組織・発生学	10/10(後期)	2	31
佐世保市医師会看護専 門学校	形態機能学(人間の仕組 み)	15/15(前期)	2	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
機能形態学補習	4	56	5月31日、6月4日、11月29 日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 学生の主体的学びと社会的基礎力養成への取り組み
2. 細胞内タンパク質輸送の分子機構の解明
3. 電子顕微鏡試料作製技術の開発
4. 細胞内オルガネラの形成機構の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

長崎国際大学授業研修会の試み-学生のためのよりよい授業を目指して-/2018年12月22日/
Q-conference2018 in Kyushu Univ.

薬学教育支援センターにおける取組:その成果と課題/2018年12月22日/Q-conference2018 in
Kyushu Univ.

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	副委員長	ラーニングコモンズの運営、教育基盤センターSA学生の指導と管理、副センター長
薬学部入学前教育委員会	委員	入学前教育教材の企画、採点、添削
長崎国際大学教育基盤センター紀要編集委員会	編集委員	紀要原稿の編集、紀要論文原稿の査読
薬学教育支援センター運営委員会	委員	議事録の作成

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティ概論ワーキンググループ	委員	全学共通必修科目の「ホスピタリティ概論」の立案

(3) 課外活動の指導等

薬学サッカーサークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
九州地区大学教育研究協議会 座長	2018年9月14、15日	長崎国際大学	九州地区大学教育 研究協議会
大学教育学会課題研究集会運 営委員	2018年12月1、2日	長崎国際大学	大学教育学会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度から、教授を拝命し、教育基盤センター副センター長にも任命された。2017年度から開設された教育基盤センターも2年目を迎え、教育基盤センターの唯一の専任教員としての任務もある。本年度は論文を出すことができなかったが、来年度は何とか教育関連の論文を出すよう努力したい。薬学部における教育にも携わっているので、そちらもしっかりと行っていきたい。全学的な見地から教育を見渡していけるように研鑽していく所存である。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 拓

1. 教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識(疾病学、病態生理学、病理学)、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識(生化学、生理学、解剖学など)を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	12/15(前期)	1	6	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	109	①②③⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	②③
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	106	②③
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	②③
教養セミナーB	11/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
薬物治療学Ⅲ	9/15(後期)	1.5	123	①②③⑨
薬理学実習	10/10(後期)	1	112	①②③④⑥⑩⑪
薬物治療学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	116	①②③⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	②③
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	3	127	②③
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
漢方医療設計学特論	2/15(後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬物治療学治療学Ⅲは本年度初の開講科目(旧・臨床薬理学の振替科目)であり、小川由起子教授とのオムニバスとなっている。これまで薬物治療学ⅠやⅡにて実施できなかった感染症領域(小川担当)や神経精神疾患領域(山口担当)を新たに講義内容に取り入れ、体系的に講義内容を構築した。前年度までの経験ならびにアンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介し、昨年度から始めた講義関連項目に関する動画による解説も積極的に取り入れた。この動画を用いた解説は、学生からの評判も良く、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献したと考えている。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行い、事後(自宅)学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後(自宅)学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習(予習)を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断・治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学薬学部	薬理学Ⅰ	1/15(前期)	2	80
長崎大学薬学部	薬理学Ⅱ	1/15(後期)	2	73
長崎大学薬学部	薬理学Ⅲ	1/15(前期)	2	47

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ(薬理系:分担)	1	127	2018/11/1
総合演習Ⅱ(薬理系:分担)	1	106	2018/4/13
総合演習ⅢA(薬理系:分担)	1	106	2018/6/18
総合演習ⅢB(病態・薬物治療系:分担)	1	90	2018/11/8
薬物乱用防止講習会(健康栄養学科)	1	85	2019/1/9

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ストレス関連精神疾患に関する神経精神薬理学的研究
- ・発達障害(特に注意欠如多動性障害および自閉症)に関する神経精神薬理学的研究

- ・大麻 (マリファナ) / 脳内カンナビノイドの役割とその創薬への応用に関する研究
- ・依存性薬物に関する神経行動薬理学および神経化学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	9	1	0	0万円

・著書(書名 / 単著・共著・編集の別 / 発行年月 / 発行所 / 単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名 / 発表年月 / 掲載誌等:○頁～○頁 / 単著・共著 / 論文・総説等の区分)

Repeated fluvoxamine treatment recovers early postnatal stress-induced hypersociability-like behavior in adult rats. / 2018 Jan / J. Pharmacol Sci. / 136(1):1-8 / 共著 / 英文原著論文

Inhibition of monoacylglycerol lipase reduces the reinstatement of methamphetamine-seeking and anxiety-like behaviors in methamphetamine self-administered rats. / 2019 Feb / Intl. J. Neuropsychopharmacol. / 22(2):165-172 / 共著 / 英文原著論文

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

Late-onset depressive-like behaviors in rats experienced pharmacological stress during early postnatal period. / 7/1-5, 2018 / The the 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (Kyoto)

Involvement of cannabinoid CB1 receptors on impairment of prepulse inhibition during withdrawal state after the repeated administration of methamphetamine in mice / 7/1-5, 2018 / The the 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (Kyoto)

Elevation of the anandamide and 2-arachidonoylglycerol in mouse brain by synthetic cannabinoid JWH-018: the mechanism of recognition memory impairment, / 9/10-11, 2018 / 2018 Japan/Korea Joint Symposium on Pharmaceutical Health Science and Environmental Toxicology (Sasebo)

合成カンナビノイドJWH-018による学習記憶障害機構: DNAマイクロアレイ解析 / 7.6-7, 2018 / 日本法中毒学会第37年会 (東京)

薬学教育モデル・新コアカリキュラムにおける「8 疾患」の領域横断型演習の試み / 9.1-2, 2018 / 第3回日本薬学教育学会大会(東京)

合成カンナビノイドによる内因性カンナビノイドの増加および生体影響 / 9.10-11, 2018 / フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(佐世保)

幼若期薬理的ストレス負荷によって惹起される成長後の抑うつ様行動と縫線核内GABA神経系の機能異常 / 11.14-16, 2018 / 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会

合同年会(東京)

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する認知機能障害におけるカンナビノイドCB1受容体の関与/11.17, 2018/第71回日本薬理学会西南部会(福岡)

メタンフェタミン反復投与マウスにおける退薬時のカンナビノイドCB1受容体を介した感覚情報処理機能障害/8.25, 2018/次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2018(福岡)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(C) 幼若期ストレスによる精神機能発達障害と養育行動の機序解明からの薬物治療戦略	日本学術振興会	-	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験の円滑な遂行に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
将来構想委員会	委員	学長によって直接招集され、本学の将来構想に関わる意見聴取およびその議論を通じた学内運営活性化に貢献した。
国家試験・CBT対策委員会(薬学科)	副委員長	本学における薬剤師国家試験の合格率向上のために、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。
研究等倫理委員会(薬学科)	委員	薬学部の研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
動物室管理担当者(薬学科)	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会(薬学科)	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
薬学部改善計画策定委員会(薬学科)	国家試験対策部会グループリーダー	薬学部における薬剤師国家試験対策に関する問題点を抽出し、改善計画を策定・提案した。
長崎薬学・看護学連合コンソーシアム運営委員会	運営委員	活動期間:2011.4ー現在
長崎IR研究会	委員	本年度発足。IR(カジノを含む統合型リゾート施設)が地域に与える影響について調査、検討する。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・平成30年度保護者懇談会、地方保護者会(宮崎会場・2018年10月13日(土)、大分会場・2017年10月14日(日))・薬学科面談担当教員

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	8

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「1回だけ」を許さない！ ～あなたのこれから(脳)を守る ために・・・～ 薬物乱用防止講習会	2018年9月20日	佐賀龍谷学園龍谷 中学校・高等学校	佐賀龍谷学園龍谷 中学校・高等学校
「1回だけ」を許さない！ ～あなたのこれから(脳)を守る ために・・・～ 薬物乱用防止講習会	2018年11月2日	長崎県立佐世保北 中学校・高等学校	長崎県立佐世保北 中学校・高等学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
北海道大学大学院医学研究科	客員研究員	2013/04/01～現在	北海道大学大学院 医学研究科
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集 い世話人会	世話人・顧問	2012～現在	神経行動薬理若手 研究者の集い
日本アルコール・アディクション 医学会評議員会	評議員	2012～現在	日本アルコール・ア ディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員 会	評議員	2012～現在	日本神経精神薬理 学会
日本薬学会九州支部幹事	代表連絡幹事	2014～現在	日本薬学会九州支 部
日本薬理学会	代議員	2016～現在	日本薬理学会
日本薬学会	代議員	2017～現在	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

国際学会にて、以下の学術発表を行った、

- 1) Yamaguchi T., Baba K., Maeda F., Matsumoto H., Fukumori R, Yamamoto T.: Late-onset depressive-like behaviors in rats experienced pharmacological stress during early postnatal period., The the 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (Kyoto, 7/1-5, 2018)
- 2) Fukumori R, Yamada S., Yamaguchi T., Yamamoto T.: Involvement of cannabinoid CB1 receptors on impairment of prepulse inhibition during withdrawal state after the repeated administration of methamphetamine in mice., The the 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (Kyoto, 7/1-5, 2018)
- 3) Li R., Fukumori R., Takeda T., Morimoto S., Watanabe K., Aritake K., Yamaguchi T., Kikura-Hanajiri R., Tanaka Y., Yamamoto T., Ishii Y.: Elevation of the anandamide and 2-arachidonoylglycerol in mouse brain by synthetic cannabinoid JWH-018: the mechanism of recognition memory impairment, 2018 Japan/Korea Joint Symposium on Pharmaceutical Health Science and Environmental Toxicology (Sasebo, 9/10-11, 2018)

7. 受賞等

平成28年6月 長崎国際大学 平成29(2017)年度ベストティーチャー賞・学生による授業アンケート部門 受賞 (講義型 100人以上の部:薬物治療学Ⅱ)

平成30年6月 長崎国際大学 平成29(2017)年度ベストティーチャー賞・ベストアウトリーチ部門 受賞 (共同) (e-Learningによる医薬情報担当者(MR)教育支援活動)

平成30年11月 東京ドーム賞(優秀プレゼンテーション賞)受賞 (第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会 合同年会、東京)

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、英文学術論文2報を分担執筆・掲載し、複数回の学会発表と学会優秀発表賞を受賞した。今後、これまでの研究課題を継続的に遂行すること、研究成果の論文執筆に注力したいと考えている。しかし、講義・演習の準備に費やす時間がやはり多かったことと研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。厚生科研課題である大麻に関する調査研究では年次報告書の作成に向けて継続中である。学会活動として、評議員、代議員に就任している学術学会での学術発表、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、薬剤師国家試験対策委員会副委員長として本学の薬剤師国家試験合格率の向上のために、学生の学習環境の整備、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。また、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果

を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。社会貢献では、佐賀龍谷高校・中学校、佐世保北高校・中学校、健康栄養学科の薬物乱用防止講習会の講師を担当した。今後も依頼があった場合は継続する予定である。また、IR研究会に参画することとなった。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 辰哉

1. 教育理念

私の教育理念は、「教えることは学ぶこと」と「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」を、教育の柱として、学生のホスピタリティの伸長を支援することである。よって、講義では、学生が主体的に諸能力を伸ばすことができる、アクティブラーニングを用いて教育を展開し、専門力の向上を図り、実習では、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成し、国家試験に合格できる力を育成したいと考える。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
薬事関係法規	15/15(前期)	1.5	103	①⑧⑨
薬事関係法規演習	11/15(前期)	1	22	①⑧⑨
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	①⑪
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	①⑪
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	112	①②
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
総合実習	6/6(後期)	1	122	①④
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	1	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①②③⑧
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

評価結果は、前期4.3、今回4.4であった。赴任4年目としては合格点だと考える。今年度は、配布資料に穴埋めを導入し、学生に緊張感を持たせ、資料に教科書の該当ページを明記した。また、授業及びテーマごとにニュース等、時の話題を取り上げて、例を挙げることにより興味を持てるように工夫し、授業ごとに過去の国家試験問題を取り上げ、理解を深めるようにした。さらに、小テストを実施し、学生を指名し、回答させ、緊張感を保つ授業を展開した。今後は、全員が満足できる、より工夫した授業を心がけたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
鹿児島大学大学院医歯 学総合研究科	薬物動態制御学	2/15(後期)	2	50

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱの補習	1	107	2018年4月19日
総合演習ⅢAの補習	1	106	2018年5月15日
総合演習ⅢAの補習	1	106	2018年5月22日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①微生物を用いた真菌の抑制及び消臭効果に関する研究
- ②乳酸菌代謝生産物質の有用性についての研究
- ③医薬品情報業務の系統的調査研究
- ④薬剤師業務で生じた問題を解決するための研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

TM-I-3株による非接触抗菌効果と菌糸成長挙動の関係性/2018年12月6日/H30年度 室内環境学会

TM-N5株及びTM-I-3株の細菌と真菌に対する非接触抗菌作用の検討/2018年12月6日/H30年度 室内環境学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員長	学生のために、フレッシュマンセミナーを企画し、運営した。
学生委員会	オブザーバー	薬学部学生のために、フレッシュマンセミナー、保護者会、薬学特待生及び各種奨学生の選考・推薦及び喫煙対策等を企画し、生活指導、安全管理、奨学援助及び福利厚生に貢献した。
OSCE実施委員会	委員	薬学部学生のために、事前学習等を企画し、受験者合格に貢献した。
実務実習運営委員会	委員	薬学部学生のために、長崎県の病院・薬局との連携を図り、実務実習に貢献した。
CAI運用・活用委員会	委員	薬学部学生のCIA活用のために、問題作成・チェックを実施し、CBT合格に貢献した。
図書選定委員会	委員	学生・教員のために、図書選定に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム改善検討ワーキンググループ	委員	全学共通科目について、薬学部生が幅広く教養科目を選択できるように企画・活動した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

長崎国際大学 薬学部 就職説明会 参加/3月10日/場所:長崎国際大学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎国際大学での研究について	3月6日	鹿児島大学病院	日本薬学会九州支部会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
「医療薬学」論文査読審査委員会	委員	平成20年度～現在に至る	日本医療薬学会
「臨床薬理」論文査読審査委員会	委員	平成20年度～現在に至る	日本臨床薬理学会
薬剤師国家試験問題検討委員会 (法規・制度・倫理部会)	委員	平成27年度～現在に至る	薬剤師国家試験問題検討委員会
第29回日本医療薬学会年会	組織委員	平成31年度	第29回日本医療薬学会年会 年会長 武田泰生

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
早期体験学習	学生に医療現場を体験してもらうために引率	10月10日	長崎国際大学薬学部

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

赴任4年目、本年度は講義・実習・演習に対してよりわかりやすい授業を展開し、より一層学力向上に努められたと思う。しかし、担当科目の不合格者やOSCEの再試験者がおり、さらに授業展開を考えなければならないと考える。一方、研究面では、ゼミの学生に、室内環境学会学術大会(東京)でポスター発表を経験させる等、研究指導を行い、2件の学会発表ができたことは、成果があったと考える。。今後は、助教の岩永先生と協働で病院薬剤師の視点からテーマを探すと同時に、地域の病院や調剤薬局と協力しながら研究を進めていこうと思っています。また、学生委員オブザーバーとして、さらに学生の健康と安全に関する意識の啓発活動や学生向けの種々の活動支援を実施したいと考える。今後も、鹿児島大学病院で34年間、鹿児島市立病院で2年間の臨床経験および体感したことを教育に活かして薬剤師養成教育への取組を実践することが、長崎国際大学への貢献につながると確信しております。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 泰史

1. 教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場ではほかの職種の方から尊敬 (respect) は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	111	②⑨
有機薬化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	100	②⑨
創薬化学	7.5/15(前期)	1.5	108	②
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	②
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑩
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	109	②⑨
有機薬化学実習	11/11(後期)	1	110	①②④
有機薬化学演習	15/15(後期)	1	103	②⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	②
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	6/45(通年)	3	127	②
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	106	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

- ・ 前期2科目(薬化学総論、有機薬化学Ⅱ)、後期1科目(有機薬化学Ⅰ)計3科目のアンケートを実施した。
- ・ 授業アンケートは、(ほぼすべての項目が平均以上で)おおむね良好であった。
- ・ 授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
- ・ 1,2年生の内容も、国家試験に出題されることを強調した。
- ・ 有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
- ・ Motivation向上のため、科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学(Oxford, Cambridge, Imperial College, ETH(Zurich), Basel, Columbia, Harvard, Heidelberg等)の話をした。
- ・ MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
- ・ 学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら(低学年1-2年生に有効といわれる)板書のみで授業を行った。
- ・ 学生にノートのとり方を指導した。
- ・ すべての試験(小テスト、中間テスト、定期試験)終了直後、模範解答を(マナバで)配布した。ただし、再試験以降については、模範解答配付をやめた。(学生が過去の問題しか勉強しなくなるため)
- ・ 有機化学の内容・範囲と授業のスピードを考慮すると、学生間に理解度の差があり、ばらつきある結果は必然であろう。
- ・ 90分授業の途中で、1-2分の休憩を挟んだ。(授業後半に対する集中力が増した)
- ・ 学生全員の顔と名前を覚えることで、出席不良者・遅刻常習者を減らした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学 薬学部	創薬化学(3年生)	1/15(前期)	2	40
九州大学 薬学部	創薬化学(2年生)	1/15(後期)	2	40
長崎大学大学院 医歯 薬研究科	創薬プロセス特論Ⅱ	1/8(後期)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
薬化学総論(補習)	1	111	6月26日(火)5限目
有機薬化学Ⅱ(補習)	2	100	7月19日(木)3,4限目
有機薬化学Ⅰ(補習)	1	118	1月22日(火)2限目
総合演習Ⅰ(補習)	2/42	131	6/11, 12/5
総合演習Ⅱ(補習)	4/77	107	11/8, 15, 22, 1/8
総合演習ⅢA(補習)	2/56	110	5/25, 6/22
総合演習ⅢB(補習)	1/15	110	10月19日(金)

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① ATPをKeywordとする医薬品化学および生物有機化学
- ② カチオン中間体を経る新規合成反応の開発
- ③ Iridoid系天然物oruwacinの立体化学と生理活性
- ④ 新しい分子設計に基づいたコバレントドラッグ創薬

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	1	1	1	1	468万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
大学生のための有機反応問題集 第2版/単著/2018年4月1日/三共出版/120

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Establishment of a quantitative and qualitative analysis and isolation method for tetracyclic iridoids from *Morinda lucida* Bentham leaves/2019年2月5日/Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis/6/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
*Morinda lucida*含有テトラサイクリックイリドイドの定量分析法の開発/2018年3月/日本薬学会第138年会(金沢)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 基盤研究(C)	日本学術振興会	2017年度-2020年度	468万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部共同機器管理委員会	委員長	共同機器費の管理
薬学部国試・CBT対策委員会	前委員長	新委員長のサポートおよび助言。
薬学研究科 大講座医療基盤 薬学	講座責任者	出講科目の日程および担当者の管理。
NMR管理	責任者	液体ヘリウム充填の管理および液体窒素供給装置等のサポート

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第103回薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部 会委員会	委員	本学の物理・化学・生物分野のアンケート結果を編集集計し、回答した。
第13回有機化学系教科担当 教員会議	委員	事前のアンケートに回答。2018年11月4日、熊本市(崇城大学)で行われた会議に、本学代表として参加した。

(3) 課外活動の指導等

- ① 新入生のためのフレッシュマンキャンプ(ハウステンボス)の引率を行った。平成30年4月14日。
- ② 第1期および第2期実務実習において、4名の学生の担当教員を務め、報告書に目を通し、コメントを書き加えた。必要に応じて、指導薬剤師と連絡を取った。
- ③ 上記実務実習において、以下の事前訪問、実習中期の施設訪問、および終了後の訪問を行った。今泉調剤薬局(4月19日、9月14日)、井手薬局(4月23日、6月2日、7月6日)、再春荘病院(6月8日)、佐世保市総合医療センター(報告書のみ)、東佐賀病院(7月30日、8月31日、11月1日)。
- ④ 早期体験学習・病院(佐世保市総合医療センター)の引率を行った。平成30年10月10日。
- ③ 共用試験OSCEで評価を担当した。薬剤監査、平成30年12月16日。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

3回のオープンキャンパスに携わり、募集活動を支えた。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九大拠点・創薬等LS事業「創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業(創薬等LS事業)」	委員	2017年-	九州大学大学院薬学研究科
長崎大学 テニユア・トラック助教の最終審査に関する選考委員会	外部評価委員	2018年6月	長崎大学

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。教育には量と質の指標がある。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アンケート等の数字である。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1、2年生の有機化学関連科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、正規の授業以外に、補習授業を実施した。また、今年度、正規授業科目である総合演習を含め4年生、5年生および6年生の有機化学の「演習」を20回担当した。本学大学院の講義を15回中2回担当した。

学外の教育活動として、九大薬学部の学部講義「創薬化学」を2年生および3年生に対して各1回、また、長崎大学大学院 医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。

薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員会の物理・化学・生物分野のアンケート結果をまとめ、幹事校へ提出した。また、薬学教育協議会主催・第13回有機化学系教科担当教員会議に本学代表として参加した。その他、6年制薬学における実務実習担当教員(4名)として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、9回の実習先訪問も行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

学内の委員会活動では、薬学部国試・CBT対策委員会、前委員長として、新委員長を支えた。薬学部共同機器管理委員会の委員長として、学部運営にも貢献した。オープンキャンパスを通して、広報募集活動にも参加した。

昨年度末から今年度始めに3冊の教科書を出版することができた。南江堂「薬系 有機化学 (ISBN:978-4-524-40334-9)」廣川書店「新編 医薬化学 (ISBN: 978-4-567-46156-6)」、三共出版「大学生のための有機反応問題集 第2版 (ISBN-13: 978-4782707777)」である。これらの出版後の校正作業は現在も進行中である。また、化学同人から出版予定の「臨床医薬品化学(仮)」(がん治療薬担当)の編集作業を引き続き行っている。

学会および社会活動では、「九大拠点・創薬等LS事業「創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業(創薬等LS事業)」委員会の委員として貢献した。加えて、長崎大学のテニユア・トラック助教の最終審査に関する選考委員会に外部評価委員として審査を行った。

研究面では、いくつかの成果があがった。特に感染症分野において、「breakthrough」となる発見があった。今後、このproject を注意深く進める。昨年(2017)度から4年間、科学研究費基盤研究C(17K08382)助成を受けている。現在、研究進展が緩やかで、努力を要する。外部との研究活動では、日産化学株式会社の創薬研究部門のコンサルタントを今年度(2018年4月)をもって終了した。創薬研究において、多くの研究者と議論を行い、小生にとっても有益であった。

九州大学や長崎大学からの非常勤講師の依頼、名のある出版社からの教科書編集者・著者や外部機関(一部上場企業の研究部門)のコンサルタントに推挙されることは、研究業績と共に学会内外での知名度がなくてはありえない。学外にそれなりの認知度があることは名誉なことである。本学薬学部を世間に認められるものにするため、今後、医薬品化学および有機化学の分野での研究活動を活発に行う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 淀 光昭

1. 教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
構造解析学	11/15(前期)	1.5	115	②④
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	112	①②③④⑤⑩
薬品製造学 I	15/15(前期)	1.5	109	②
創薬化学	7/15(前期)	1.5	108	②
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	①
放射線化学	6/15(後期)	1.5	113	①②⑨
有機薬化学実習	11/11(後期)	1	110	①②④
薬品製造学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	95	②
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
総合基礎学習Ⅱ	10/15(通年)	0.5	106	②④⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	3	127	②
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬品製造学Ⅰ(前期):授業アンケートの評価結果は、昨年よりも向上した。昨年まで図表を多く取り入れ講義資料を工夫したつもりであるが、授業での説明自体が上手くできずに学生に伝わらなかったと感じている。今年は、タブレットPCを利用したことで説明方法の自由度が大きくなり、内容の理解度は別としても学生に分かり易い授業となり、授業アンケート評価も良い結果が得られたと考える。

薬品製造学Ⅱ(後期):今年は昨年とほぼ同じ評価であった。今年度は新しい教科書に対応した授業内容とするため講義資料の一部見直しを行なった。特に、昨年新たに取り入れた薬物代謝反応やプロドラッグに関しては、生化学や薬剤学など他の関連科目で学修した内容を整理・復習できるような授業内容としたことで、学生にも理解しやすかったと思っている。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰの補習	1	131	2018年5月18日
総合演習Ⅱの補習	5	107	2018年4月17日、4月24日、11月13日、12月4日、12月18日
総合演習ⅢAの補習	4	110	2018年5月11日、5月21日、5月29日、6月1日
総合演習ⅢBの補習	2	110	2018年11月8日、11月9日

3. 研究活動

(1)研究テーマ

①病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	2017～2018年度の自己点検・評価書(教務委員会関連分)の薬学部担当部分の作成を行った。
地域連携センター	センター長	地域連携室と協力して、センター会議を毎月開催し、公開講座等の担当行事の企画を行った。また、本学と連携協定を締結している佐世保市の他に企業・団体と連携連絡会議を開催し、意見交換・情報交換を行った。
放射線障害予防委員会	委員長	法令改正に伴い、本学の放射線障害予防規程の改正を行った。
薬学教務委員会(薬学科)	委員長	薬学教務委員長として、薬学教育評価機構からの指摘事項への対応として教務関連の改善(総合演習科目の単位認定会議体の変更など)、新カリキュラム策定に向けた方針案の作成、編入学希望者の受験資格判定(単位読替え)、オープンキャンパス保護者懇談会での教育体制の説明、教務部長会への参加などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関して、3年生科目「薬品製造学Ⅰ」は、タブレットPCを利用して分かり易い授業を心掛けた結果、学生の授業アンケートでは理解度の評価が前年度よりも向上したが、2年連続して学内平均より低かった。次年度は、授業のやり方を工夫して理解度の向上を図りたい。

研究活動に関して、教員5年目であるが、いまだに講義・演習の準備、各種試験の作問ならびに委員会活動に時間を取られ、研究活動に殆ど時間が割けず、研究面での成果が出せなかった。

委員会活動に関しては、薬学教務委員長として、薬学教育評価機構からの指摘事項への対応として教務関連の改善(総合演習科目の単位認定会議体の変更など)、新カリキュラム策定に向けた方針案の作成、編入学志願者の受験資格判定(単位読替え)などを行い、薬学部の教務活動に貢献した。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 和田 守正

1. 教育理念

まず第一に「自ら学ぼうとする意欲を向上させること」を目標とする。

次に、「予測不可能な困難に直面した際に、問題点を発見し、解決できる能力を身に着けること」を目標とする。

そのような姿勢、能力の醸成は、医療分野で活躍できる質の高い薬剤師を養成するために必須であるし、国家試験を突破する学力を身につけることにもつながる。

この2本を柱としてさらに、あるいは並行して、ディプロマ・ポリシーに掲げている5つの資質、すなわち、1) 専門的な知識、科学的能力としての専門力、2) 有用な科学的データを収集し、論理的に考察できる情報収集、分析力、3) および4) 医療チームや患者との関係性において発揮されるコミュニケーション力、および協働・課題解決力、5) 健常人から患者に至る様々な状況や、患者の背景を形作る要素を把握できる多様性理解力、を育成することを目指す。

自ら学ぼうとする意欲や、予測不可能な困難を乗り越える力を育むためには、画一的な方向性や方法論を排することが肝要と思われる。教員から学生への一方向的な教育ではなく、両者の相互作用から、学生一人一人がきっかけをつかむ事が重要である。すなわち、学生ごとに異なる学びを達成できることが自然であり、理想である。その意味で、到達目標を過度に掲げる昨今の方向性は、決められたことを無難にこなすステレオタイプ型の人間を量産し、予測不可能な状況に対処できる応用力を醸成できないと危惧する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
基礎の生物学	15/15(前期)	2	63	②④⑨
薬学入門	1/15(前期)	1.5	109	②⑩
分子生物学	7/15(前期)	1.5	111	②④
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	①②④⑤⑩
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	109	②④
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	⑧⑨
総合演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	106	⑧⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	⑧⑨
生命倫理	3/15(後期)	2	148	②⑤⑦⑪
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	67	②④
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	36	②④
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	90	⑧⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	①②④⑤⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	6	①②④⑤⑩⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	⑧⑨
総合演習Ⅱ	3/23(通年)	1.5	106	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

総合満足度について、基礎の生物学:4.0は平均並み、ゲノム創薬:3.8は平均を下回り、分子細胞生化学演習(Aクラス):4.3と分子細胞生化学演習(Bクラス):4.3は、平均を多少上回った。科目の目的によって難易度も当然変化するが、そのことを学生は理解できないので、このような科目ごとのばらつきが生じる。すなわち、ゲノム創薬はアドバンス科目であり、難易度は高く、国家試験を超えた内容も含まれることが低評価の理由と思われる。国家試験に合格後、現場で必ず生きてくる内容や、国家試験のレベルは超えているが、むしろ知っていないと恥をかくような内容であり、ディプロマポリシーに照らしても、大学としてはきちんと教えるべきと考えている。そのような理解を前提としつつ、学生の負担を軽減する目的で、今年度は授業中に確認テストを実施し、定期試験からはアドバンスの内容を削除するという試みを実施した。しかしながら、このような大胆な改変にも関わらず、数字の伸びが0.1という結果は大変残念である。卒業生のなかに、「就職後、他大学出身の同僚との知識量、応用力等の実力の差を痛感し、大学院で勉強しなおしに来た。」という学生がいる。国試のみに焦点を絞った暗記型の学習を助長するような、予備校型の教育に偏っていく最近の傾向は、長期的には本学の存

在意義を問われることにつながると考えている。

基礎の生物学については、「分かり易い」「高校で生物を取っていなくても分かる」というコメントは幸いだが、昨年度のような、「楽しい」「興味を引く例を挙げながらの講義は良かった」といったコメントが無かったのは、大いに残念である。やはり、学生のカラーは学年ごとに大きく異なることを痛感する。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1/42	127	5月29日
総合演習II	1/77	117	12月13日
総合演習IIIA	2/56	106	6月12, 14日
総合演習IIIB	1/15	90	10月18日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- テーマ1. 膜輸送タンパク質の構造、作動機構、生理機能と疾病
- テーマ2. 薬剤応答性と疾患感受性の予測による個の医療と予防
- テーマ3. がんの発生機構

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Genetic Polymorphisms Within the Intronless ACTL7A and ACTL7B Genes Encoding Spermatogenesis-specific Actin-like Proteins in Japanese Males. /2019年/International Journal of Fertility and Sterility/In press/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
腸管腫瘍増大化とApoc3タンパク質/2019.3.22-23/日本薬学会第139回年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	国際交流に関する討議、日本語弁論大会評価等
薬学部・研究等倫理委員会	委員長	審査の厳密性と迅速性の向上、動物実験室の登録状況の確認と徹底
薬学部図書選定委員会	委員	図書の選定および図書館利用の啓発
薬学研究センター運営委員会	委員	客員教授、特別研究生、訪問研究員の受け入れ審議及び決定
FD委員会	委員長	授業公開の実施、新任教員研究発表会の開催等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
生物学オリンピック IBO2020-NIU-WG	本学ワーキンググループ取りまとめ、日本生物学オリンピック(JBO)委員	2020年に本学で開催される国際大会に向けて、JBO事務局との連携、準備を継続している。地域連携、高大接続の視点から、「生物学オリンピックの高校理科教育への活用に関する講演会」、「生物学オリンピックを目指した学習方法に関する説明会」等を開催した。
IBO2020学内実行委員会	委員	生物学オリンピック、IBO2020-NIU-WGの継続実施

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高大接続活動(下記参照)、オープンキャンパスにおける後方活動

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
高大接続事業 「ゾウリムシを用いた観察と実験」	2018/8/19	本学薬学部実験室	長崎国際大学と猶興館高校との共催

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国際生物学オリンピック日本委員会	運営委員	2018/07/14～ 2019/03/31	国際生物学オリンピック日本委員会委員長
治験審査委員会・論理委員会・利益相反委員会・動物実験委員会	外部委員	2018/04/01～ 2020/03/31	長崎川棚医療センター
日本分子標的学会評議員会	評議員	H24年度より現在に至る	日本分子標的学会
日本生化学会評議員会	評議員	H20年度より現在に至る	日本生化学会
日本生化学会九州支部会評議員会	評議員	H3年度より現在に至る	日本生化学会九州支部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

1. クリーンキャンパス運動
2. 高大接続事業・猶興館高等学校体験学習「ゾウリムシを用いた観察と実験」

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

授業アンケートに基づき、本年度は特に大幅な改変を加えたが、点数は微増程度であった。国家試験に向けての教育を考えた場合でも、応用力が重要であることは論を待たないので、学問そのものの面白さを伝えることがまずは必須と考えているのだが、多くの学生は試験に出ることのみに興味があるように見え、授業アンケートにも反映される。それは、ベストティーチャー賞を受賞した教員の授業を参観すれば明らかである。そのような授業が分かりやすいのは当たり前であるが、応用力はつかないであろう。「本学の学生に学問の面白さを伝えるなど無理」と断じることが、長い目で見れば、学生の伸びる力を押さえてはいまいか、ひいては教員の負担をエンドレスにしていないか、と危惧している。

一方、研究に割ける時間がますます減る状況で、如何に能率的に成果を出してゆくか、いかに長期的視野に立った独自性の高い研究を志向するか、が大きな問題となっている点も従前と変わらない。

大学運営活動については、薬学部倫理委員会委員長等を務め、厳密且つ能率的な審査等を目指している。

その他、2020年に生物学オリンピックを本学で開催されることが決定されたが、学内ワーキンググループの取りまとめ、および学内準備委員会のメンバーとして、JBO事務局との連携、準備を継続してきた。このことが、従来から地域連携、社会活動として継続している高大接続活動(猶興館高校、佐世保北高校)と合流し、相乗効果を発揮しつつあることは特筆に値する。さらに本件は、地域貢献のみならず、本学の広報という点からも重要であり、今後も継続すべき事業と考えている。この際、関係教員のみならず、事務局の協力を得て教職員一丸となって事業を進められたことは特筆すべきことであり、あらためて感謝の意を表したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 一木 裕子

1. 教育理念

近年の医療の高度化・複雑化に伴い、薬剤師に求められる職能は多様化してきている。実際の医療現場で通用する実践力や専門性のみならず豊かな人間性や倫理観が必要とされ、次世代を担う人材の教育もまた、薬剤師の重要な責務である。薬学生が薬剤師の社会的使命を十分に理解しながら患者を中心とした視点で学習するために教員のサポートは重要であり、そのために私は、自身の臨床薬剤師としての様々な経験を広く伝えたいと考えている。

私は、調剤薬局および病院薬剤部に勤務してきた経験もあり、九州大学大学院 薬学研究科にて臨床薬学博士を取得した。特に病院で働いている時は、薬局長として麻薬管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理委員、院内感染対策委員、DI室長、薬事委員会副委員長、NST委員会アシスタントディレクター、糖尿病対策委員会委員などの役職を歴任した。社会に求められる薬剤師の現状、理想の薬剤師像を学生が考えるうえで現場の話に触れる機会は重要であるにも関わらず、学生は未だイメージするのが難しい状況にある。そこで私は、自身の経験をイメージしやすいような易しい言葉で積極的に伝えるよう心がけている。学生からは「糖尿病療養指導士とは具体的にどのような仕事か」「がん専門薬剤師になるにはどうしたら良いか」といった将来を意識した相談が増え、学習に対する積極性の向上のみならず、薬剤師という職業へ自信や誇りをもつ学生の増加へと繋がった。また、実務事前学習の指導においては、自身の経験談を伝えることで、様々な視点を持って自分で考え解決する能力を身につけるよう指導を行っている。患者にとって本当に必要なのはベストな解決策を提示することだけではなく、患者の抱く不安に寄り添い一緒に考えていくことであると学生に伝えている。これからは担う薬学生には、患者が本当に求めているものは何かを気づき考える力があり、それぞれの個性を発揮した人間性豊かな薬剤師になってほしいと思う。

また、薬学の更なる向上を目指すべく、指導・教育と共に、研究にも意欲的に取り組みたいと考えている。社会人博士課程として九州大学に在学中は、“病院薬剤師の職能”に注目した研究に取り組んだ。薬剤師の存在感を積極的に発信していくことは重要であると考え、まずは“医療費削減への取り組み”に着目し、薬剤師の積極的な介入によって後発医薬品の採用促進および医薬品の在庫金額削減の研究を行いとなり、病院経営へ大きく貢献できたことを報告した。次に、患者にとって従来待ち時間であった診察までの時間を利用し、病院薬剤師が糖尿病患者に服薬指導を行い医師の診察前に情報をフィードバックすることで、医師との信頼関係の構築できた。また、看護師や栄養士などのコメディカルスタッフとのチーム医療の大切さ、患者の意見をしっかり理解することによる新たな問題点の発見、およびアドヒアランス改善に繋がることを明らかにした。これらは薬剤師が主導して取り組んだ研究であるが、学生と共に研究を進め、1) 薬剤師の使命として“研究能力を身につける”こと 2) 医療に貢献しうる有益な情報を“発信する能力を身につける”ことを目指すものである。

これからも、薬剤師が医師と協力し合い薬学的管理していくことに着目した研究を薬学生や若手薬剤師と一緒に研究を進めていきたい。そのためには多くの経験とコミュニケーション能力が問われる

ことになるため、これからも薬学生や若手薬剤師の育成に熱意をもって先導的な役割を果たして行きたいと考えており、『「自分で考える力」、「他者と対話する力」を磨き心もケアできる人間性豊かな薬剤師を育てます。』という本学のスローガンに基づき、今まで自身が経験してきた臨床薬剤師としての様々な経験を若い世代に伝えることを自身の教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	②③④⑪⑫
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	①②⑨
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	①②⑨
総合演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	106	②④⑥⑨⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	②⑤⑥⑦⑪⑫
病院薬学	3/15(後期)	1.5	112	①②③④⑤⑥⑦⑧⑩
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦
総合実習	6/6(後期)	1	122	①②④⑥⑩⑫
総合演習ⅢB	3/30(後期)	2	90	①⑨
総合基礎学習Ⅰ	2/15(通年)	0.5	107	②④⑦⑨
総合基礎学習Ⅱ	5/15(通年)	0.5	106	①④⑥⑨⑪⑫
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	4/45(通年)	3	127	①
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1.5	106	②③⑨⑩
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

1年生については、授業である教養セミナーを通じて親密に触れ合い、ポスターの作成方法、発表方法など指導することができ、担任業務の方もスムーズにできるようになった。また、学生が質問しやすい、意見を述べやすい環境作りが出来た。今後も、教養セミナーなどを通じて、学生が大学の授業は楽しいと感じてくれるように努力を続けていきたい。(学生アンケート満足度:5.0)

2年生については、長崎リハビリテーションなどに引率し、医療現場の厳しさ、ホスピタリティーなどを

伝えることができた。今後も、実務家教員として臨床薬剤師、医師、看護師、作業療法士などの医療スタッフについて様々なことを体験学習を通じて伝えて行きたい。

3年生の病院薬学の授業では、アクティブラーニングを用いた授業を行うことができ、学生からも好評であった。今後も、出来るだけアクティブラーニングを用いた授業を行い、学生が自分で考え、発表出来る力を伸ばして行ける様な授業を続けて行きたい。

4年生の実務実習事前学習は、当大学の授業の進め方、実習の進めた方に問題を多く感じ戸惑いも多かったため、慣れることができず、疑問も多く感じたので、今後は、今まで自分が他大学で経験した実務実習事前学習のあり方を取り入れた実習を行う様に努力する。

5年生、6年生の総合演習などの授業については、自作のパワーポイントを使用したスライド資料を基に、国家試験について詳しい説明と解説を行うことができた。アンケート評価も良い結果であった。また、実務全般に必要な知識、勉強のやり方のコツなどを授業で伝えることができた。今後も、実際の医療現場のことを学生にわかりやすく教えるように努力していく。(学生アンケート満足度:4.7)

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA(補習56コマ), 総合演習Ⅱ(補習77コマ)	6	106	2018年5月15日、5月29日、6月19日、2018年12月19日、2019年1月11日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

(1) Insight into Acid-Mediated Asymmetric Spirocyclization in the Presence of a Chiral Diol.
 活性ジオール存在下の酸触媒不斉スピロ環化反応に関する考察について

我々が独自に開発した新反応、すなわちルイス酸と光学活性シクロヘキサン-1,2-ジオールの組み合わせを用いた分子内共役付加に基づく不斉スピロ環化反応に関連して、以下の二項目について精査した。

- 1) シクロヘキサン-1,2-ジオール上の置換基の効果
- 2) 反応基質上の置換基の効果

その結果、本反応はある条件においては速度論的支配ならびに熱力学的支配の双方に影響されることが判明した。

(2) 採用医薬品の削減と後発医薬品の採用促進の取り組みとその評価

～削除薬アンケートと薬剤師主導による1増2減システムについて～

北九州市立門司病院において2009年から、経営改善目標の一つとして採用医薬品数の適正化への取り組みを行い、3年7ヶ月で採用医薬品数を1339品目から748品目へと44%（金額ベースで45%）削減することができた。同時に、後発医薬品採用率を5%から31%へと増加させ、後発医薬品使用体制加算1を取得した。この要因は医師に対する削除薬アンケート調査による採用薬の削減と、新規先発医薬品導入における薬剤師主導による1増2減システムを確立できたことが大きい。薬剤師も医薬品採用分野において積極的に意見を述べ、職能を発揮することにより病院経営に関与することができると示した。

(3) Effect of patient education for diabetic outpatients by a hospital pharmacist: a retrospective study.

糖尿病外来における病院薬剤師による服薬指導の血糖コントロールに対する効果

日本において糖尿病患者は増加し続けており、糖尿病に関する患者教育がますます重要になってきている。しかし、日本の病院薬剤師による糖尿病外来患者に対する患者教育の有用性に関する報告はほとんどない。2012年より北九州市立門司病院の糖尿病外来において医師の診察前に病院薬剤師がチェックシートを用いた服薬指導を行い、薬学的管理を開始した。今回我々は、服薬指導を開始した6ヶ月後にHbA1c値が増加した群15名と低下した群20名に分け、HbA1c値低下に関連する要因を明らかにするために、患者背景、臨床検査値を比較した。HbA1c低下群では、薬に関する知識が低く、服薬指導開始日のHbA1c値が高かった。次に服薬指導開始時のHbA1c値で3つの群に分け、各群における服薬指導の効果を服薬指導開始日と6ヶ月後のHbA1c値を比較した。服薬指導開始日のHbA1c値が8%以上の患者群10名の6ヶ月後におけるHbA1c値が有意に減少した。服薬指導開始時のHbA1c値が高い患者に対する病院薬剤師の薬学的管理が有効であることが示唆された。今後も研究を継続して行い、診療報酬改定に繋がるように努力を続ける。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE委員会	委員	ステーション6責任者
実務実習委員会	委員	実務家教員
在宅医療・福祉コンソーシアム 長崎運営委員会	委員	実務家教員

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本薬学会第4回若手薬学 教育者のためのアドバンス ワークショップ	薬学部大学教員	「卒業時における教育の質保証 ～卒業時に 求められる資質・能力とその評価を考える～」 ワークショップに参加した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
福岡県・佐賀県糖尿病療養指導士(北九州糖尿病療養指導士の会)	北九州LCDEの会 役員(監事)	2018.4.1～ 2019.3.31	北九州糖尿病療養指導士の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

福岡県・佐賀県糖尿病療養指導士として、糖尿病の早期発見のための「市民糖尿病教室」「北九州ウォークラリー大会」「北九州ヤングDMの会・1型糖尿病の会」「糖尿病及び合併症予防のための講演会」「糖尿病の薬相談コーナー」を年間行事として行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度を振り返って、まずは大学の教員のルーチンワーク(マナバの使用法、成績の入力方法、会計システム使用法など)について学んだ。年間行事を通して、他の教員とコミュニケーションを円滑に取れるようになった。しかしながら、システム使用上で把握出来ていないことも多いため、今後は更に理解できるように努力していかなければならない。

1年生については、授業である教養セミナーを通じて親密に触れ合い、ポスターの作成方法、発表方法など指導することができ、担任業務の方もスムーズにできる様になった。また、学生が質問しやすい、意見を述べやすい環境作りが出来た。今後も、教養セミナーなどを通じて、学生が大学の授業は楽しいと感じてくれるように努力を続けていきたい。(学生アンケート満足度:5.0)

2年生については、長崎リハビリテーションなどに引率し、医療現場の厳しさ、ホスピタリティーなどを伝えることができた。今後も、実務家教員として臨床薬剤師、医師、看護師、作業療法士などの医療ス

トップについて様々なことを体験学習を通じて伝えていきたい。

3年生の病院薬学の授業では、アクティブラーニングを用いた授業を行うことができ、学生からも好評であった。今後も、出来るだけアクティブラーニングを用いた授業を行い、学生が自分で考え、発表出来る力を伸ばして行ける様な授業を続けていきたい。

4年生の実務実習事前学習は、当大学の授業の進め方、実習の進めた方に問題を多く感じ戸惑いも多かったため、慣れることができず、疑問も多く感じたので、今後は、今まで自分が他大学で経験した実務実習事前学習のあり方を取り入れた実習を行う様に努力する。

5年生、6年生の総合演習などの授業については、自作のパワーポイントを使用したスライド資料を基に、国家試験について詳しい説明と解説を行うことができた。アンケート評価も良い結果であった。また、実務全般に必要な知識、勉強のやり方のコツなどを授業で伝えることができた。今後も、実際の医療現場のことを学生にわかりやすく教えるように努力していく。(学生アンケート満足度:4.7)

本年度、赴任してきたばかりであるため、研究の方が進まず、論文作成が出来なかった。来年度は、自分の研究を進め、論文作成、学会発表、著書の作成に力を注ぎつつ、授業や学生とのコミュニケーションをしっかりと取って行くように努力する。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 宇都 拓洋

1. 教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。

薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。

地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。

異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	13/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
生薬学 I	15/15(前期)	1.5	118	①②⑨
学際連携研究	1/15(前期)	2	181	⑩
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	113	①②⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①⑨
教養セミナーB	13/15(後期)	1	7	⑥⑦
生薬学Ⅱ	11/15(後期)	1.5	97	①②⑨
生薬学実習	8/8(後期)	1	110	①②③④⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
漢方医療設計学特論	8/15(後期)	2/1~3年	4
特別研究	90/90(通年)	12/1~4年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを行ったすべての科目およびすべての質問項目において、学内平均を上回るポイントであった。このことから、概ね授業満足度は高かったと考えている。授業における工夫の具体例としては、生薬学Ⅰでは生薬の写真や実物をみることに、各生薬に関する豆知識、裏話、生薬学Ⅱでは各成分の構造式を常に意識した講義、和漢薬概論では生薬学ⅠとⅡの講義内容を振り返りながらアドバンス的な講義になるように意識した。さらにすべての講義において、15回の講義の中で確認テストもしくは小テストを実施した。小テストは評価の対象とはせず、自主的な努力を促すようにし、高得点者の氏名を公開するようにした。その結果、評価対象外にも関わらず、多くの学生が積極的に学習に取り組んでいた。学生の自由記述は多くがポジティブコメントであったが、「授業の進行が速すぎる」「板書が読みにくい」などのコメントも見られた。これらは来年度改善すべき内容と考えている。総合演習に関しては、国家試験やCBTですぐに得点できるように、過去の国家試験、模擬試験の過去問を中心に講義した。また過去の国家試験を徹底分析して、どの生薬や漢方薬が出題されやすいのかを学生に示し、学生の効果的な学習につながるよう取り組んだ。来年度も今年度の授業内容をベースとして、学生が自ら学習に取り組める授業を組み立てたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	106	6/15
総合演習Ⅱ	2	107	11/20、12/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

我々の本研究室では天然薬物の資源となる薬用植物、特に漢方薬の素材である「生薬」に関する研究を中心に展開している。これまで、生薬に含まれる有効成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、それを利用した様々な免疫測定システムや新規分析ツールを開発してきた。これに加えて、抗がん、オートファジー制御、抗炎症、メラニン合成制御、精子活性化などの活性を持つ天然化合物の単離・精製から作用メカニズム解明まで、幅広い研究を行っている。国際共同研究も積極的に行っており、アフリカ・東南アジアの植物を中心に医薬品シーズの探索研究も行っている。

① 白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進成分の探索とその作用機序解明

尋常性白斑症は、皮膚の基底層に分布するメラノサイトが何らかの原因で機能障害に陥りメラニンを供給できなくなることに起因する後天性疾患である。我々は、より臨床にマッチした白斑治療法の

確立を目指して、生薬エキスおよび天然化合物ライブラリーからメラニン合成促進物質を探索し、活性成分のメラニン合成に関与する酵素群やそれらを制御する転写因子やシグナル伝達分子への影響を解析している。これまで、甘草や辛夷に含まれる成分がメラニン合成促進活性を有することを見出し、その作用機序を明らかにしてきた。現在も他の薬用植物などを用いて更なる解析を進めている。これらの結果の応用により、メラニンを直接誘導することによる白斑病治療の医薬品創出が期待される。

② がん細胞におけるアポトーシス誘導およびオートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

国内外で用いられている伝統医薬から、がん細胞増殖抑制能を持つものを探索し、活性成分の単離同定、さらにアポトーシス誘導機構を中心とした作用機序解析を行ってきた。これに加えて、現在、オートファジー制御能を持つ天然物に注目して研究を行っている。生薬エキスライブラリーのスクリーニングの結果、いくつかの生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序の解析を行っている。がん細胞において様々なアプローチで機能する天然物のメカニズム解明を目指している。

③ 非薬用部位の有効利用に向けた研究

生薬は漢方薬や医薬品の原料などとして広く用いられているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。しかしながら、生薬の原材料である薬用植物の乱獲による資源の枯渇が深刻な問題となっていることや、国内での薬用植物栽培は未だ難しい状況であることなどから、薬用植物の栽培・供給に関する状況は極めて厳しい状況である。我々は、限られた薬用植物の有効活用や薬用植物の国内栽培促進を目的として、これまで薬用として利用されなかった部位である「非薬用部位」の有効利用に注目している。これまで、柴胡の地上部のがん細胞抑制能や当帰の地上部の抗炎症能を明らかにしてきた。現在、私たちは長野県上田市で栽培されている地黄の地上部の有効利用を目的として、活性評価および成分分析を行っている。

④ 顧みられない熱帯病 (NTDs) への治療応用を目指した薬用植物由来シーズ開発

科学技術振興機構 (JST) と国際協力機構 (JICA) の初めての共同プロジェクトである地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development (SATREPS) が2010年にスタートし、2015年3月で終了した。本プロジェクトは東京医科歯科大学が申請し、当研究室が協力して推進したプロジェクトである。研究内容の一例として、ハエの媒介により引き起こされるアフリカ睡眠病の治療薬を探索している。アフリカ睡眠病の原因となる寄生虫トリパノソーマを殺すガーナ産植物を探索し、活性成分を突き止めて、X線構造解析により Molucidin であることを特定した。2015年4月から、本プロジェクトは日本医療研究開発機構 (AMED) の感染症研究国際展開戦略プログラムに採択され、さらなる研究を進めている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	6	8	3	3	407万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Suppression of polyps formation by saffron extract in Adenomatous polyposis coliMin/+ Mice. /
2019/Pharmacognosy Research/98-101/共著/論文

In vitro mechanistic assays of tetracyclic iridoid compounds isolated from *Morinda lucida* Benth in
Leishmania species./2018/European Journal of Medical Plants/1-14/共著/論文

Establishment of a quantitative and qualitative analysis and isolation method for tetracyclic iridoids
from *Morinda lucida* Benth leaves./2019/Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis/
475-480/共著/論文

In vitro anti-protozoan activity and mechanisms of action of selected Ghanaian medicinal plants
against *Trypanosoma*, *Leishmania* and *Plasmodium* parasites. / 2018 / Phytotherapy Research /
1617-1630 / 共著 / 論文

Antiproliferative activity and apoptosis induction by trijuganone C isolated from the root of *Salvia*
miltiorrhiza Bunge (*Danshen*)./2018/Phytotherapy Research/657-666/共著/論文

Preparation of anti-glycyrrhetic acid monoclonal antibody for application in an indirect
competitive enzyme-linked immunosorbent assay./2018/Analytical Letters/1147-1162/共著
/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

抗原虫活性を有するテトラサイクリックイリド類の効率的かつ簡易な単離方法の開発/2019/03
/日本薬学会第139年会

ジオウ地上部の生物活性と成分解析/2019/03/日本薬学会第139年会

ゴボウシ成分Arctigeninのオートファジー阻害の作用機序解析/2019/03/日本薬学会第139年会

オートファジーを介してがん細胞を制御する生薬エキスの探索/2019/03/日本薬学会第139年会

ガーナ産植物*Morinda lucida* Benthamに含まれる新規テトラサイクリックイリドの化学構造/
2018/11/第35回日本薬学会九州支部大会

Cell-based ELISA法によるチロシナーゼ発現制御化合物のスクリーニング/2018/10/第28回日本
色素細胞学会学術大会

牛蒡子に含まれるArctigenin のオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制作用/2018/09/

日本生薬学会第65 回年会

没食子酸エピガロカテキンによる破骨細胞分化抑制のメカニズム／2018/08／次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2018

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析	日本学術振興会: 科学研究費助成事業(若手研究B)	2018/04-2019/03	80万円
西アフリカ地域の研究拠点を活用した感染症研究・対策ネットワークの構築	日本医療研究開発機構 (AMED): 感染症研究国際展開戦略プログラム (J-GRID)	2018/04-2019/03	300万円
Glycyrrhetic acid 3-MGA抗体に関するライセンス契約	EMD Millipore Corporation	2019/03	27万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	履修の手引き編集、オリエンテーション調整、プレイスメントテストの実施等を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	主任	薬学部薬用植物園の管理や見学者への案内を行った。
薬学部FD委員会	委員	薬学部の各種FD活動を行った。
薬学部CBT実施委員会	委員	CBT実施において、PC管理者を担当した。
教育基盤センター兼務教員	委員	センター業務を補佐した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI問題の確認を行った。
安全管理委員会	委員	年2回の廃液処理を行った。
図書選定委員会	委員	図書の選定を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

「夢ナビ2018(福岡マリンメッセ)」で講演した。

出張講義(聖和女子高校、猶興館高校)を実施した。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生薬学会関西支部	委員	2018/04～現在に至る	日本生薬学会関西支部
日本フードファクター学会(JSoFF)	評議員	2016/12～現在に至る	日本フードファクター学会(JSoFF)
日本生薬学会	代議員	2016/04～現在に至る	日本生薬学会
Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine	Editorial Board Member	2016/11～現在に至る	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

生物学オリンピックにおいて植物学の担当になり、学外の委員と実施に向けて準備を進めている。

AMED感染症研究国際展開戦略プログラムにおけるガーナ共和国への研究支援を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

ガーナ共和国の薬用植物研究機関であるCentre for Plant Medicine Researchと長崎国際大学薬学部薬品資源学研究室との間で、共同研究契約に向けて現在手続き中である。手続きは最終段階で、2019年4月から契約開始を予定している。Centre for Plant Medicine Researchと共同研究契約を結んでいる研究機関は国内にはない。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育:教育内容をより国家試験を意識したものに変更するとともに、アクティブラーニングを意識して講義内容を構成した。授業アンケートの結果から学生の満足度も高いことが分かるので、来年度も継続していきたい。また、毎年学生から高評価である小テストを今年度も効果的に実施することで学生のモチベーションを高めるように努めた。しかしながら、一部の学生は成績が向上しておらず、これらの学生はどの科目においても成績下位の学生である。これらの学生を如何にモチベーションを向上させるかが今後の課題であると考えており、成績下位の学生のみを対象とした補習等を今後検討していきたい。

研究:原著論文6報、ライセンス契約1件であり、研究面では生産性の低かった。年々、研究に費やせる時間が少なくなっており、今年度はそれが特に顕著であった。効率的な研究を行うように努力しているが、根本的な考え方の見直しが必要であると考えている。

大学運営:担当した業務を責任をもって遂行するように努めた。今年度は特に広報活動として高校生に対する講演が多かった。来年度も継続していきたいと考えている。

全体:限られた時間の中で、教育・研究共に最大限の努力をしたつもりである。しかしながら、特に研究活動において生産性が低く、反省すべき点が多い。来年度は講義・演習などを効率的に行い、その他カットできる業務は大幅に見直すことで、研究に対する成果を出す工夫が必要と考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 大磯 茂

1. 教育理念

私の教育理念は、医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成することです。

よって、授業では授業外の予習・復習を重視し、また自らの実務経験に基づいた授業展開を行います。

学生には、自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、そのために、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 /学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	②③④⑤⑥⑦⑨⑩ ⑫
物理・生物薬剤学演習	7/15(前期)	1	102	①④
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	②⑪
医薬品安全性学	6/15(前期)	1.5	119	①④
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	④⑤⑥⑩⑪
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	④⑤⑥⑪
総合演習ⅢA	2/23(前期)	1.5	1	④
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	④
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	④
教養セミナーB	12/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪
医薬品情報論	15/15(後期)	1.5	110	①②④⑨⑩⑪
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	⑪
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	⑪
総合実習	6/6(後期)	1	122	①⑪
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	90	④
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	6	④⑪
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	④⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90/90(通年)	12/1~4 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期科目の医薬品安全性学は前年度と同様に授業を展開した。特に大きく変更した部分はなかったが、授業アンケートの評価が低め(3.8)であった。分かりづらいと指摘された部分は改善していきたい。物理・生物薬剤学演習も同様の評価であった。今年度、初めて開講された授業であり、前年度との比較はできないが、次年度は満足度を上げるべく授業内容を改善していきたい。医薬品情報論は、前年度と同様に予習および復習型の課題を毎回課す授業を試みた。満足度は4.0であったが、自由記載欄では良好なコメントが寄せられていたので次年度も同様の授業展開を行いたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。卒業研究の指導においても研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰの補習	1	131	2018/11/2
総合演習Ⅱの補習	1	107	2018/4/13
総合演習Ⅱの補習	1	107	2018/4/20
総合演習Ⅱの補習	1	107	2018/4/13
総合演習Ⅱの補習	1	107	2018/12/21
総合演習ⅢAの補習	1	110	2018/5/22
総合演習ⅢAの補習	1	110	2018/6/26

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究
 摂食調節ペプチドホルモンを介した肥満制御に関する研究
 モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発
 医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	1	351万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Inhibitory effect of (–)-epigallocatechin-3-O-gallate on octanoylated ghrelin levels in vitro and in vivo./2018年4月/Biological and pharmaceutical bulletin/524頁～529頁/共著/原著論文
Decreased plasma octanoylated ghrelin levels in mice by oleanolic acid./2019年1月/Journal of oleo science/103頁～109頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
オクタノイルグレリン産生・分泌に及ぼすドコサヘキサエン酸の影響とそのメカニズム/2018年11月/第35回日本薬学会九州支部大会
オレアノール酸のオクタノイルグレリン産生抑制効果とその機序/2019年3月/日本薬学会第139年会
ナイロン膜を用いたドットプロット法によるダビガトラン濃度の高感度簡易測定法の開発/2019年3月/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	日本学術振興会	2018年4月1日～2021年3月31日	351万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	大学入試監督、オープンキャンパス実施など
薬学部教務委員会	委員	研究室配属、オリエンテーション計画など
薬学部共用試験OSCE実施委員会	委員	本学OSCEにおける学生指導・評価者説明、評価入力など
薬学部実務実習運営委員会	委員	実務実習に関する事項の協議など
国試・CBT対策委員会	委員	成績解析 など
CAI運用・活用委員会	委員	CAI問題内容精査など
長崎国際大学教育基盤センター学習支援部門薬学分室運営委員会	委員	分野別演習など
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	在宅医療・福祉コンソーシアム長崎活動内容策定など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ(薬学部)	担当者	教養セミナーB実施内容の策定など

(3) 課外活動の指導等

在宅医療・福祉早期体験学習の引率

臨床体験学習の引率

病院・薬局早期体験学習の引率

ボランティア学習の引率

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① オープンキャンパス/2018年7月、8月、2019年3月

② 高校ガイダンス/鹿児島実業高等学校/2018年9月15日

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度 教員免許状更新講習会「子どもの病気と薬」	8月24日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度も、講義、演習および実習等、大きな問題もなく実施できた。しかしながら授業アンケートにおいては、評価点が昨年度よりも低くなっており、今後改善に向けた見直しを行いたい。研究活動では、3件の学会発表と2報の原著論文を出すことができた。また、研究代表者として、科学研究費助成事業の学術研究助成基金助成金を受けることができた。来年度もしっかりと研究活動に力を入れ、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、9の委員会で活動を行った。昨年度より副委員長を務めている入試募集委員会では、入試関係業務、オープンキャンパス、高校ガイダンスなどの委員会所掌事業の運営方針等の策定および決定に関わった。教務委員会では、オリエンテーションの準備および実施、研究室配属決定に主に関わった。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、大学運営に貢献したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 太田 一寿

1. 教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

- ・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
- ・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
- ・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
- ・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	43	①③④⑧⑨⑪
在宅医療概論	1/15(前期)	2	156	②④
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	116	⑥
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
生命倫理	8/15(後期)	2	148	②⑤⑦
臨床生理学実習	8/8(後期)	1	112	⑦
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	⑦⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	④⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

大部分の講義においてICTを用いた双方向型講義を展開中で、授業アンケートでも概ね好評を得ている。この路線を深化させ効率の良い学習効果・満足度の高い講義を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ補講	1/42	131	2018/12/7
総合演習Ⅱ補講	1/77	107	2018/4/24
総合演習ⅢA補講	1/56	110	2018/5/28
総合演習ⅢA補講	1/56	110	2018/6/25

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① プロテインSを改変したFRETセンサーによる血栓性素因の病態解析

我が国において頻度の高い先天性血栓性素因であるプロテインS遺伝子異常の分子メカニズムを、以下(A-C)のような分子内構造変化解析を通じて明らかにすることを目的とする。

- A. 優れた発現系である出芽酵母を用いて、プロテインSを改変したFRETセンサーを構築する。
- B. センサーの基底状態と相互作用因子添加状態との比較により構造変化機序を考察する。
- C. センサー分子に血栓性素因関連変異を導入し、天然型との比較により病態解明を目指す。

② 出芽酵母を用いた有用細胞工学システム(疾病モデル等)の構築

数あるモデル生物の中でも、出芽酵母は遺伝子・ゲノム改変が容易でそのためのツールやリソースの充実から「生きた試験管」と称されている。当研究室でも「がん進化のモデル系」や「幹細胞の非対称性分裂のモデル系」など独自のアッセイ用「試験管」の構築に取り組んできた。今後も学内外の様々な研究室との共同研究を通じて、有用な酵母システムを作り出し、幅広く生命科学・生物学・薬学の発展に貢献していきたい。

③ 出芽酵母を用いた生薬成分のターゲット分子の探索

現在、本学薬品資源研究室と共同研究を進めている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

出芽酵母ケミカルジェネティクスを利用した甘草エキス高感受性株の選抜及び解析/2018/3/25/
日本薬学会第138年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した
薬学就職委員会	委員	委員会の円滑な運営の為に尽力した
薬学研究倫理委員会	委員	委員会の円滑な運営の為に尽力した
薬学研究センター運営委員会	委員	委員会の円滑な運営の為に尽力した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
NIU IBO実行委員会	議長代理	委員会の円滑な運営のために尽力した
IR研究会	会員	委員会の円滑な運営のために尽力した
QSP健康・医療・福祉専門委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

IBO2020の広報活動の際に本学のPRも同時に行っている。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市医療安全推進協議会	委員	2016/10/01～ 2018/09/30	佐世保市長
ナガサキ型新産業創造ファンド 事業・長崎県地場企業支援ファ ンド事業における審査委員	委員	2015/08/01～ 2019/03/31	公益財団法人長崎 県産業振興財団 理 事長
非常勤医師	応援医(外来)	2018/04/09～ 2019/03/31	佐世保共済病院

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

IBO2018イラン大会にジュリーとして参加

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究活動は停滞気味であるが、IBO2020が終了するまでは現状維持が現実的であると思考する。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 高井 伸彦

1. 教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
分析化学演習	5/15(前期)	1	64	③⑧
分析化学演習	5/15(前期)	1	50	③⑧
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	112	②③⑧⑨
放射線医療学	13/15(前期)	1.5	111	②③⑤⑦⑨⑩
分析化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	110	②⑨
総合演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	1	⑧⑨
総合演習ⅢA	7/23(前期)	1.5	106	⑧⑨
総合演習ⅢB	2/30(前期)	2	12	⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	107	②⑧⑨
機器分析学	6/15(後期)	1.5	106	②⑧⑨
放射線化学	9/15(後期)	1.5	113	②③⑧⑨
日本薬局方概論	5/15(後期)	1.5	118	②⑧
総合演習ⅢB	2/30(後期)	2	90	②⑧
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	3	②③④⑤⑥⑦⑪
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	3	127	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	2/15(前期)	2/1～3年	5
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3
特別研究	90/90(通年)	12/1～4年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

すでに別のシステムに入力しているため、今後そのデータをここに入力願います。

放射線医療学

- ・先生の授業は毎回関心のあるもので楽しいです。
- ・資料もすごくよくできていて、小話もとてもおもしろく完璧だと思いました。
- ・臨床と関連付けされた今まで知らなかった知識を豊富に教えてくれるので楽しい。
- ・国家試験やCBT対策もわかりやすく講義にまとめてあるし、将来のための参考しりょうなどもとても役に立っている。

放射線化学

- ・先生の授業を聞いて放射線化学の授業にとっても興味がもてました。
 - ・学生の興味のあるように授業しており、楽しく学ぶことができた。
- との学生の自由記述を励みに、今後も良い授業を目指し、改善を行いたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学大学院薬学研究科	臨床生化学特論	1/15(通年)	?	?

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析
- ② 胎児期放射線被ばくによる高次脳機能障害の特徴と障害機序に関する研究
- ③ 重粒子線治療の最適化のための生物学研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	5	4	4	950万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬学機器分析学/共著/H30/3/31/廣川書店/24-38, 261-280

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「初年次教育科目「教養セミナーA」の実践と課題ー学生の成長実感と教員のプログラム評価に着目してー」/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要/第2巻13～26頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

脳腫瘍放射線治療によって生じる脳壊死の作用機序ならびに新規防護剤の探索
/2019年1月30-31日/平成30年度「先端モデル動物支援プラットフォーム成果発表会」
マウス胎児被曝による脳の組織障害と認知機能への影響/2018年7月21日/第55回放射線影響懇話会

子どもの病気と薬「放射線ひばくと子供への影響」/2018年8月24日/H30教員免許状更新講習会
Prenatal radiation-induced brain damage related to cognitive impairment in animal models/2018・2月10-11日/The 8th Annual Meeting of the International Society of Radiation Neurobiology
薬学生に対する放射線健康リスク科学教育の現状と問題点について第61回大会/2018/11/7-9
/日本放射線影響学会第61回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
脳腫瘍に対する化学療法併用放射線治療による高次脳機能障害の解析	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C)	平成29年-平成31年	450万円
重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析	放射線医学総合研究所 重粒子線照射装置共同利用研究	平成29年-平成31年	200万円
脳腫瘍に対する化学療法併用放射線治療による高次脳機能障害の解析(支援)	文部科学省 新学術領域研究「先端モデル動物支援プラットフォーム」	平成29年-平成30年	100万円
MR補完教育用試験問題作成	公益財団法人MR認定センター	平成29年-平成33年	200万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
シアトル	MPCアメリカ研修	2019/3-5-11

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員長	全学広報委員長として、薬学夏休み体験学習を企画し、本年度全ての学生から満足・また参加したいという結果を得ることができた。
放射線障害予防委員会	委員	放射線障害の防止に関する法令改正の説明会」に参加し、本学の規定作成に関与
CAI運用活用委員会	委員長	本学部におけるPCを用いた全ての試験運営を滞りなく実施
将来構想委員会	委員	2つの案件について、提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	教養セミナーに利用するテキスト作成を行った。
CBT実施委員会	委員	本年度、問題作問当番校としての業務主担当全ての任務を無事に完了した。
薬学ネットワーク委員会	委員長	薬学部のネットワーク環境を改善するため、教員意見を取りまとめ、全学ネットワーク委員会の設立を要望
IBO2020準備委員会・推進委員会	委員	広報部門を担当し、IBOに関わる広報活動を実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーWG	委員	教養セミナーの運営と全学で用いるテキスト作成

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏休み薬学体験 H30/8-7-8

長崎県内外より約30名が本学で講義・実験を体験し、毎年3～5名の学生が本学に入学している) 広報催事:薬学部責任者

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子どもの病気と薬「放射線ひばくと子供への影響」	H30/8/24	長崎国際大学	H30教員免許状更新講習会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
放射線影響懇話会	世話人	平成26年5月～	放射線影響懇話会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

平成30年6月

平成29年度(2017)長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストアウトリーチ部門)授与

e-Learningによる医薬情報担当者(MR)教育支援活動

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関する授業アンケートの理解度や満足度において、大多数の学生が満足していることにより、2018 NIU Best Teacher Awardを2年連続で受賞し、関連する到達目標SBOの全国模試の正答率も常に全国平均を上回る成績を示していること、研究においては、薬学部に着任して13年目となるが、科研費の獲得状況だけにおいても、ほぼ連続して5件獲得しており、大学別および薬学部の科研費採択率の向上にも貢献していることから、ある程度満足できる内容だと思える。また本年度は、国際会議における招待講演を実施し、1つの原著論文、国内外における5件の学会発表を行えたのは、大学院生(大神教員)を受け持つことで研究環境が整い、放射線を扱う特殊な研究活動が行いやすく

なったと考えている。

しかし新規薬学部生が年々増えるに従い、講義ならびに補講、基礎演習科目の増加に伴い、残念ながら外部から依頼を受ける共同研究のペースを落とさざるおえない状況になりつつある。現在では年に数回のペースでしか実験を行なうことができず、そのことが今後の研究費の獲得状況に大きく影響することは免れることはできない。

外部資金の獲得、国内外での学会発表、そこで得られた最新の情報をわかりやすく学生に伝え、授業アンケートに反映されるように努力を続けたい。そのためには、学内の雑務の整理、教員の役割の分散化、非効率的な会議や事務書類の削減および効率的な研究体制を早急に整え、勉学意欲の高い学生が3-6年次において研究を行える環境にすることが最も重要だと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 田中 宏光

1. 教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人々の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の必要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎の生物学	15/15(前期)	2	28	⑨
分子生物学	8/15(前期)	1.5	111	⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	①②③④⑧⑨
薬学英语	2/15(前期)	1	58	④⑥
薬学英语	2/15(前期)	1	57	④⑥
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	109	⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑩
細胞生物学	7/15(後期)	1.5	101	⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	67	②⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	1	36	②⑨
地域の理解と連携	2/15(後期)	2	200	⑤
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	6	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

分子生物学、ゲノム創薬、細胞生物学ともに、学生の満足度が3.7だった。全部の授業で原因を解析して平均を目指したい。担当学年の指向性、学習の到達点、世の中の話題とつかみ取り、授業に生かしたい。細胞生物学に関しては、昨年は4.1であったが、本年は学生の満足度を得ることができなかった。本年は、少し講義の内容を増やし、小テストにレスポンを多用してみた。レスポンの出席管理も行ってみた。学生のコメントに、プリントをまとめてほしいと多くの要請があった。レスポンの資料として残らないことが学生の不満と考えられる。レスポンの使用法について工夫したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習II 補習	2	89	11月5日、1月10日
総合演習I	1	100	6月5日
総合演習IIIA 補修	1	79	5月31日
総合演習II 寄附講座 会社等見学	1	35	2月15日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1 遺伝子診断にもとづいた治療薬の開発

(平成29～31年度 文科省科研費 基盤C; 分担 田中宏光)

男性不妊症患者の精液から得た染色体DNA やmRNA、タンパク質をマイクロアレイや、特異抗体を用いることによって、非侵襲的に解析する系を確立し、男性不妊症原因の診断法及び治療法に役立てる。

< 代表論文 > Tanaka H, Miyagawa Y, Tsujimura A, Nishimune Y. Male infertility and single-nucleotide polymorphisms in the testis-specific succinyl CoA: 3-oxoacid CoA transferase (SCOT-T/OXCT2) gene in a Japanese cohort. Int J Reprod Fertil Sex Health S1:02:001:1-6 (2018).

2 IVFの受精率を上げるフラボノイドの作用機序の解明

(平成28～30年度 文科省科研費 基盤C; 研究代表者 田中宏光)

マウス人工授精の系において、生薬の甘草の添加によって受精率が上がることを明らかにした。さらに甘草から受精率を上げる成分を同定した。これらの成果を、動物やヒト不妊症に応用するため、作用機序について解析を進める。

< 代表論文 > Aoki Y, Tsujimura A, Nagashima Y, Hiramatsu I, Uesaka Y, Nozaki T, Ogishima T, Shirai M, Shoyama Y, Tanaka H, Horie S. Effect of *Lepidium meyenii* on in vitro fertilization via improvement in acrosome reaction and motility of mouse and human sperm. Rep Med Biol (In press).

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	3	3	3	558万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Male infertility and single-nucleotide polymorphisms in the testis-specific succinyl CoA: 3-oxoacid CoA transferase (SCOT-T/OXCT2) gene in a Japanese cohort./2018,07/Int J Reprod Fertil Sex Health /S1:02:001:1-6/共著/論文

Effect of *Lepidium meyenii* on in vitro fertilization via improvement in acrosome reaction and motility of mouse and human sperm./2018.10/Rep Med Biol /Vol18,57-64/共著/論文

Sperm activator, licorice./2018.04/薬用植物研究/1-6/共著/総説

Genetic Polymorphisms Within the Intronless ACTL7A and ACTL7B Genes Encoding Spermatogenesis-specific Actin-like Proteins in Japanese Males./2019.03/International Journal of fertility and Sterility/In press/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Lepidium meyenii (Maca)の精子機能に関するin vitro解析/2018.04/第106回日本泌尿器科学会総会

フォーラムI:生殖毒性の最前線/座長/2018.09/衛生薬学・環境トキシコロジー フォーラム2018

Lepidium meyenii (Maca)の精子機能に関するin vitro解析/2018.05/第18回日本抗加齢医学会総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金 基盤C 代表	文部科学省	2016-2018	468万円
文部科学省 科学研究費補助金 基盤C 分担	文部科学省	2017-2019	80万円
大阪大学微生物病研究所共同 研究	大阪大学微生物病研 究所	2018	10万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	副委員長	11年間 問題なく動物実験施設の管理を行うことができた。特に平成26年度には、動物保護団体ALIVEに日本で一番施設の管理が行われているとして選ばれた。
長崎国際大学薬学部共同機器委員会	委員	動物実験施設に関する共通物品について管理を行った。
薬学部学生委員会	委員	薬学部卒業式の整備、オープンキャンパスのうち一回で薬学部の奨学金制度について説明した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

大学非公認ではあるが、学生対象にバドミントン愛好会2年前から始め、学祭では金魚すくいを開き、学生と地域交流を深めることができた。また、薬学部の学生カフェにおいて音楽を披露し、交流を深めることができた。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

すべてのオープンキャンパスに参加した。そのうちの1回において、学生委員会委員として保護者に薬学部の奨学金制度について解説を行った。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎国際大学発ベンチャー企業 ReproMで開発した健康食品の見本製品を完成させた。

見本製品を用いて臨床試験を進め、その不妊症の改善等に関するデータの収集を進め、来年度に商品を完成させたい。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

◎講義

教養セミナーA・B、基礎の生物学(観光・福祉クラス、15/15コマ)、分子生物学(8/15コマ)、ゲノム創薬学(6/15コマ)、細胞生物学Ⅱ(7/15コマ)、薬学英语(A,Bクラス2x2/15x2コマ)、分子細胞生化学演習(3x2/15x2コマ)、微生物免疫学実習(分担)、総合演習I,II,IIIA,IIIB(分担)、地域の理解と連携(全学クラス、1/15コマ)、卒業研究 5名

以上の講義を担当した。授業の満足度が分子生物学、ゲノム創薬が4を切っていたので、4以上の満足度になるように、授業の進行方法について工夫したい。

◎学生とのかかわり

今年もバトミントン同好会として、任意の学生と運動を楽しんだ。また、同好会主催で今年も学祭で金魚すくいを出店し、学生とともに大学祭を盛り上げることができた。来年度も学生の希望をふまえ、続けていきたい。

◎研究

本年も国際科学雑誌に複数の論文を発表した。特にこの20年間の成果を出版することができた。

長崎国際大学での研究成果が下記のような評価を得た。

2015年12月 第98回川崎企業家オーディションビジネス・アイデアシーズ市場

かわさきビジネス・アイデアシーズ賞を受賞

さらに2016年に大学発ベンチャー企業 ReproMを立ち上げ製品開発を進めてきた。

ようやく今年度、試作品が完成した。また、試作品をもとに、最終の製品を作成中である

来年度内には、製品の販売を開始したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 西奥 剛

1. 教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬理学Ⅰ(総論)	15/15(前期)	1.5	104	②
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①
総合演習ⅢA	3/23(前期)	1.5	106	①⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	15/15(後期)	1.5	96	②
薬理学実習	10/10(後期)	1	112	⑦
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①②⑧⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	1	⑤⑦⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	⑤⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①②③⑧
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
漢方医療設計学特論	1/15(後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートは概ね良い評価である。資料の最後に問題を添付し学習状況も改善してきたと考え

られる。来年度もこの評価に甘んじる事なく鋭意努力していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	治療論 I	15/15(後期)	1	71

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習 I	42		11/22
総合演習 II	77	107	4/20,4/27
総合演習 IIIA	56	106	5/17,6/21,6/28
総合演習 IIIB	15		

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大脳白質病変形成機構の解明

大脳白質は、神経細胞の軸索とこれを覆うミエリン(髄鞘)から構成されている。軸索のミエリン化は、神経伝達速度の高速化に寄与しており、脳の高次機能に深くかかわっている。そのため脱髄による大脳白質病変は、認知障害や運動障害、言語障害など多彩な神経症状を示す。大脳白質病変の形成機構を明らかにすることで、多発性硬化症や脳血管性認知症の治療薬の開発を目指し研究を行っている。

関節リウマチ病態形成機構の解明

関節リウマチの薬物治療において、生物学的製剤による分子標的治療の導入は、疾患活動性と関節破壊の制御を可能とし、関節リウマチ治療に新展開をもたらした。しかし、生物学的製剤は、優れた有効性の反面、安全性や投与経路の問題、また高額な治療費のためすべての患者において夢の薬というわけではない。関節リウマチの新規病態分子機構を明らかにし、生物学的製剤と同等の有効性を示す経口投与可能な新規低分子抗リウマチ薬の開発を目指し研究を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	143万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

フマル酸ジメチルによる破骨細胞分化抑制機構の解析/2018年8月/次世代を担う創薬・医療シンポジウム2018

没食子酸エピガロカテキンによる破骨細胞分化抑制のメカニズム/2018年8月/次世代を担う創薬・医療シンポジウム2018

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(C)	日本学術振興会	2016～2018	143万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部学生委員会	委員	保護者会の運営や卒業式の運営等に携わった

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

本年度は課外活動の指導には携わっていない。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

本年度は、広報活動には携わっていない。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会薬理部会	若手世話人	2018年4月～2019年3月	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

本年度は、社会貢献・ボランティア活動には携わっていない。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は論文ができおらず、自分の不甲斐なさを感じている。来年度は、研究業績を挙げていきたい。教育に関しても、概ね良い評価を頂いているので、評価を下げないよう鋭意努力していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 神谷 誠太郎

1. 教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。

研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。

自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。

教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	④
物理・数学演習	15/15(前期)	1	15	①⑨
総合演習ⅢA	4/23(前期)	1.5	106	⑧⑫
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	⑧
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	④
薬剤学実習	9/9(後期)	1	112	⑨⑩
総合演習ⅢB	3/30(後期)	2	90	⑧
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	④⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	④⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
製剤学	15/15(後期)	1.5	101	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
ファーマコメトリクス特論	3/15(前期)	2/1~3年	5

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

物理数学演習Cを担当しており、この科目指導については、大きな発展となるアイデアは出ていない状態である。しかも今年の世代は補習にも来ないため、出来ることが非常に限られてしまっている。他の教科では4.3と悪くはない評価を受けているだけに非常に残念である。来年度は新しい科目も担当するため今から準備していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
物理数学演習	2	4	6月13日
総合演習ⅢB(過年度)	1	13	4月27日
総合基礎学習Ⅱ物理系補習	1	18	10月3日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① ナノ粒子の粉末化の検討

これまでのドラッグデリバリーシステム(DDS)の研究では、水溶性、疎水性薬物のナノ粒子の調製方法の確立および開発などが行なわれてきており、現在も行なわれている。しかし、ナノ粒子状態を安定に保存する方法は凍結乾燥法以外にはあまり検討されてこなかった。凍結乾燥法によって調製されたナノ粒子は、吸湿性が高いためにバイアル瓶などでの保存が出来るために、コスト的なデメリットが大きいため、それらを克服するために新たな保存方法を探索する。

② シェラックを用いた腸溶性製剤の開発

大豆ペプチドは胃の中で胃酸と反応し、においの強烈なゲップを産生する。その問題を克服するために胃酸で分解されずに腸液で分解する腸溶性製剤を創ることは、大変意義がある。以前にヒアルロン酸の腸溶性製剤を調製したことがあるためにその手法を生かして、新たな腸溶性製剤を創造する。

③ シェラックの可塑剤の開発

シェラックはラックカイガラムシの分泌液から生成され、お菓子などのコーティング剤として用いられている。適切な可塑剤を添加することで、コーティング操作が効率よくできるため、性能の良い可塑剤を検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Study on the relationship between saccharide and nanoparticles / 4月16-18日 / 4th Global Nanotechnology Congress and Expo

Study on physicochemical interaction between a variety of saccharide and nanoparticles during freeze-drying and normal drying / 5月21-23日 / 16th International Pharmaceutical Microbiology and Biotechnology Conference

Investigation of a physicochemical association between various saccharide and nanoparticles during freeze-drying / 8月27-28日 / International Conference on Food Processing & Technology

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	西日本豪雨真備まで行き、ボランティア活動
CAI・運用活用委員会(薬)	委員	CAI問題の作成および入力
実務実習運営委員会(薬)	委員	実務実習の際に病院および薬局の先生方と連絡をとるために会議を開いたりした。
安全管理委員会(薬)	委員	危険物の回収の際に業者に依頼および教員への通知
拡大国家試験対策委員会	委員	国家試験合格のための対策を話し合う。
新カリキュラム作成委員会	委員	新カリキュラムに対応する委員会

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
サイエンス広場で遊ぼう	2月3日	佐世保市清水町	佐世保市少年科学館

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

西日本豪雨真備まで行き、ボランティア活動を行なった。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
4th Global Nanotechnology Congress and Expo	招待講演	4月16-18日	Dubai, UAE	4th Global Nanotechnology Congress and Expo
16th International Pharmaceutical Microbiology and Biotechnology Conference	招待講演	5月21-23日	Vienna, Austria	16th International Pharmaceutical Microbiology and Biotechnology Conference
International Conference on Food Processing & Technology	招待講演	8月27-28日	Paris, French	International Conference on Food Processing & Technology

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度はボランティア委員会に所属していたこともあり、大学を代表して学生たちと岡山県の真備市にボランティア活動を行なった。非常に充実した活動になったと思う。今後とも続けていきたい。

研究活動においては、今年度は論文を一報も投稿していない。昨年は二報投稿されアクセプトされただけに、悔しさが残る。来年度は一報は最低限の目標としたい。ポジティブな面としては海外の学会に招待され3回参加しました。来年以降も参加できるようにしたい。

教育活動としては、製剤学では4.3と平均以上の評価をいただいているが、物理数学演習Cでは3.8と低調であった。物理数学演習Cは成績下位層を指導しているが毎回このような評価である。これを変えるのはなかなか難しい問題だと言える。来年度は担当科目が3科目増えるので、そちらの準備も行っていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 相田 美和

1. 教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
衛生薬学実習	8/8(前期)	1	112	①②④⑤⑦⑪⑫
裁判化学	15/15(前期)	1.5	115	②⑨
薬学英语	2/15(前期)	1	58	①⑤
薬学英语	2/15(前期)	1	57	①⑤
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	②
教養セミナーB	13/15(後期)	1	7	①②⑤⑥⑦⑪⑫
毒性学	7/15(後期)	1.5	114	②
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	②
総合基礎学習Ⅱ	13/15(通年)	0.5	106	①④⑥⑨⑪⑫
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	⑪
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	8	⑩⑪
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	3	127	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期・裁判化学は満足度4.0 (H29)→4.2 (H30)に向上、後期・毒性学は前年と同じ、満足度4.2であった。教養セミナーAは、4.8(H29)→3.4(H30)と下降した。教養セミナーは、議論にほとんど加わらない学生が複数おり、教養セミナーの意義づけをカリキュラムマップで示すなどして意義を知らせる必要がある。また、学生同士でレポートの相互評価をした際、そのレポートの良いところをほめたコメントをつけるように指示した時は、他の学生に褒められる

経験はとても嬉しそうな様子であったので、そのような機会を増やして意欲を喚起する。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本歯科大学新潟生命 歯学部	分子生命科学実習	4/12(前期)	0.5	58

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB(過年度)	1	13	4月27日
総合演習ⅢA	1	106	6月13日
総合基礎学習Ⅱ物理系補習	1	18	10月3日
総合演習Ⅰ	1	103	12月3日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

シェーグレン症候群におけるTLR3の役割

シェーグレン症候群は、ドライアイやドライマウスを主症状とする自己免疫疾患である。その発症とToll様受容体の一つTLR3受容体の活性化との関連について、唾液腺培養細胞やモデルマウスを用いて解析している。

化学物質過敏症の遺伝的素因の解析

化学物質過敏症は、多くの人には影響がみられない低濃度の化学物質に対して、様々な生体反応を呈する。患者アンケートと薬物代謝酵素などの遺伝子型を調べることで、化学物質過敏症患者の生活環境要因と遺伝的背景の関連を検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	486万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
シェーグレン症候群 ッ 発症におけるTLR3の役割を中心として/2018年9月/アレルギーの臨床,
38(10)/977-979/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

揮発性有機化合物の生体影響の解明に向けて/2018年9月12日/第59回大気環境学会年会
室内環境分科会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費 基盤C	日本学術振興会	2016年3月～2018年3月	486万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	相談者および相手側とのヒアリングを通じて、問題の拡大防止にあたった。また、ハラスメントに関する学内規程の改正について、追加事項を提案するなど改善に努めた。
キャンパスライフヘルスサポートセンター	相談員	前期相談員として、レポート作成などについて学習相談をおこなった。
国家試験対策委員会(学科)	委員	5年生試験実施・解析担当者として、単位認定試験の試験執行ならびに結果解析を行った。また模擬試験の解析業務を行った。
薬学教育支援センター運営委員会(学科)	委員	衛生分野担当教員のひとりとして、6年生向け合宿等で学生を指導した。
教務委員会(学科)	実習担当教務委員	学内実習費用の有効活用を図り、予算内で学生実習を実施することができた。また、来年度の実習スケジュールおよび担当者を調整した。
就職委員会(学科)	委員	薬学部5年生対象の就職説明会の円滑な運営に努めた。
薬学部動物室管理担当者	担当者	動物実験室(SPF室)の安定した利用環境維持に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
「学生に佐世保近郊薬局・病院への就職を促し、地域の期待に応える実践活動」	分担者	11/25実施 4年次「総合演習Ⅰ」地域の期待に応える実践活動の運営分担

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度教員免許状更新講習会 「薬物乱用防止教育の在り方」	平成30年6月16日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

- ① 平成30年度 長崎国際大学 ベストティーチャー賞(ベストアウトリーチ部門) 「e-LearningによるMR教育支援活動」

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動について:薬学部3年の専門科目を中心に講義・実習を担当した。総合演習Ⅰ(4年)では、担当分野の中でも苦手な学生の多い領域について演習を行い、CBT試験の学習を支援した。総合演習Ⅱ(5年)、総合演習ⅢA(6年)、総合演習ⅢB(6年)では、衛生薬学分野の要点解説や過去の試験問題の解説等を行い、薬剤師国家試験対策に努めた。また、質問に来た学生への対応を通して学習支援を行った。卒業研究について、5年生2名、6年生2名を担当し、指導にあたった。

研究活動について:化学物質過敏症の遺伝的背景について関連分野の論文をもとに論考し、大気環境学会室内環境分科会において、講演(招待講演)をおこなった。科研費研究課題については、対象とするシェーグレン症候群についての最近の知見や過去の研究成果をもとにした治療標的についてまとめ、「アレルギーの臨床」に掲載された。

大学運営活動について:全学の委員会活動では、ハラスメント対策委員会委員、キャンパスライフヘルスサポートセンター相談員として、学生生活の支援を担当した。また、学科内委員会活動としては、国家試験対策委員会、教務委員会・学内実習委員会、薬学教育支援センター運営委員会の委員として、教育活動の運営業務および教育支援に努めた。また、就職委員会委員として、就職説明会の運営にあたった。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 高崎 伸也

1. 教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出るから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
物理・数学演習	15/15(前期)	1	44	②④⑨⑪⑫
学際連携研究	1/15(前期)	2	181	④
臨床医学概論	15/15(前期)	1.5	110	②③④⑪
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
臨床検査学	15/15(後期)	1.5	113	②③④⑪
臨床生理学実習	8/8(後期)	1	112	①②③⑦⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
総合基礎学習Ⅰ	15/15(通年)	0.5	107	②④⑦⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	4	⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	90/90(通年)	12/1～4 年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期後期ともに、アンケート結果も4.3-4.4と高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。これは学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、主に行っている3つのこと(双方向の講義スタイル, タイミングを見計らった息抜き, 視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り)が良い評

価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学	15/15(後期)	2	36
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学(国家試験対策演習)	2/2(後期)	2	36

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習III A補習	56	110	5/14
総合演習II補習	77	110	4/18

3. 研究活動

(1)研究テーマ

細胞内における相分離現象に伴う液滴の解明および治療への応用
ミトコンドリアの翻訳後修飾調節機構およびヌクレオイドの機能調節機構の解明

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Protein S-specific activity assay system is not affected by direct oral anticoagulants
/2018/8/Thromb Res/3/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	男女共同参画に関する企画のいくつかを企画および実施した
国試・CBT対策委員会(薬学科)	委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
同窓会薬学部門支援委員会	副委員長	同窓会薬学部門の支援全般
教務委員会・2年学年主任	2年学年主任	2年生の学年主任として、総合基礎学習の実施から学習支援全般を行った
長崎国際大学教育基盤センター学習支援部門 薬学分室(薬学部薬学教育支援センター) 運営委員会	委員	4,5,6年の成績不良者に対する補習や合宿など学習支援を行った。
ネットワーク調整委員会	副委員長	ネットワーク調整全般
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパス、高校に対する広報活動を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスを実施した。熊本と島原の高校へ訪問し学生及び教員に募集活動を行った。男女参画委員会で市民に対しての講演会による広報活動に努めた。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

大学外の講義を行い社会貢献した。男女参画委員会としての活動により社会貢献した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関して、講義の担当科目数は、かなり多く十分な量であったと考える。また、授業のアンケートもよく質も満足できるものだったと考える。また、本年度は各学年の留年生に対する補習などを頻繁に行い貢献した。また、委員会は特に国試・CBT対策委員会では、年間を通じて複数回行われる単位認定試験の責任者として準備、実施、解析等を行い、十分な仕事量をこなしたと考える。また、様々な委員会で貢献した。高校に訪問し高校生に対しての広報活動にも努めることができたと思われる。また、入試問題の作成に関して、薬学部、他学部どちらも行き貢献した。研究面も研究室が変わり新たな研究にとりかかったが順調な滑り出しだと思われる。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 田中 啓太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話に重点を置き、主体的に学び、考え、行動できる薬剤師の育成を柱としている。講義は、薬剤師国家試験に合格を念頭に構成し、さらに学生の意欲を喚起する内容を組み込み、高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
基礎の化学	15/15(前期)	2	20	①②⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	②③
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
生物有機化学	15/15(後期)	1.5	102	①②
化学演習	15/15(後期)	1	7	①②⑨
有機薬化学実習	11/11(後期)	1	110	①②④
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	①②④
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	②
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学(薬学部 1年前期)

基礎の化学では、講義で下記の取り組みを行った。

- ・リフレクションカードを使って学生のコメントや質問を収集して講義中に返答した。
- ・講義の最初に、化学に関するトピックスをプリントで配って学生の興味を引き出した。
- ・講義以外にも隔週で補講を行い、学生の質問にも積極的に対応した。
- ・アクティブラーニング形式を取り入れた講義を行った。

アンケートの評価は全体的に平均以上であったので、学生に一定の評価が得られていると考える。

成績下位の学生を対象とした少人数クラスの講義なのでそれを活かした講義を今後も工夫していきたい。

化学演習(薬学部 1年後期)

化学演習は、前期に単位取得できなかった学生を対象に開講されている科目である。そのため、成績下位学生が受講することからその理解度に合わせて、毎年講義内容を変えた。また、化学に関するトピックスを取り上げ、学生の化学に対する興味を高めることも視野に入れて色々な話をした。今年度の評価は4.6-4.8で昨年度評価(4.0-4.3)から大きく上昇した。少人数のアンケートのため参考程度にはなるが、学生の評価は高かった。来年度も、高い評価が得られるよう授業内容を改善していく。

生物有機化学(薬学部 2年後期)

今年度の評価は、4.2-4.3で昨年度(4.2-4.3)と同等であった。

今年度は、講義中に演習時間をとり学生の講義記憶の定着を図った。評価の値にはみえてこなかったが、自由記述から学生にも好評であることがわかった。来年度も、学生の理解度を参考にして配布物の内容を改善していく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ(薬)	1	131	2018年5月21日
総合演習Ⅰ(薬)	1	131	2018年5月28日
総合演習ⅢA(薬)	1	110	2018年5月18日
総合演習Ⅰ(薬)	1	131	2018年11月21日
総合演習Ⅱ(薬)	1	107	2018年12月6日
総合演習Ⅱ(薬)	1	107	2018年12月13日
総合演習Ⅱ(薬)	1	107	2018年12月20日
1年化学補習(基礎の化学、化学演習)	16	36	2018年4月26日—8月20日(隔週で全8回)
1年化学補習(有機薬化学演習)	2	36	2018年11月29日と2019年1月10日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 薬学部における効果的学習支援プログラムの開発と評価

②薬学教育における化学系基礎研究の重要性

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
教育基盤センター薬学分室 平成30年度活動報告/2018/長崎国際大学教育基盤センター紀要
第2巻/印刷中/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
薬学教育モデル・新コアカリキュラムにおける「8疾患」の領域横断型演習の試み./2018年9月/日
本薬学教育学会第3回大会(東京)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
機器管理委員会(薬)	委員	IR、旋光度計管理責任者
初年度教育担当責任者(薬)	委員	入学前教育・リメディアル教育担当
薬学教育支援センター運営委員会	委員	成績下位学生・留年生対応 スチューデントアシスタント制度実施責任者
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学分室

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①水泳部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①オープンキャンパス 保護者・高校生対応(7月、8月、3月)

②大学教育学会2018年度課題研究集会 学会運営業務(2018年12月1日、2日)

③2019薬学部就職説明会 運営業務(2018年3月10日)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2018年度、薬学教育支援センターで卒業延期生、留年生、成績下位の学生の対応と学習指導に務めた。今年度は新しく、1年生の補習授業(物理、化学、生物)を企画して、前期と後期に定期的に開催した。また、薬学共用試験に向けて、4年留年生の学習指導を行った。

薬学部の学習相互支援制度であるラーニングアシスタント(LA)制度は、LA学生の確保が難しい状況であるが、昨年度並みの確保ができた。前期と後期を通して制度を円滑に運用することができた。少人数グループでの学習指導だけでなくLA学生による科目別の講習会も企画運用した。CBT・国家試験対策では、4年生のCBT直前の質問対応や6年生の国家試験対策勉強合宿(8月、1月)の企画運用を行った。

講義では、今年度より1年生のリメディアル科目で、アクティブラーニングの一環としてグループ学習と課題解決の授業を導入し、学生からも好評であった。

今年度、留年生および成績下位の学生の学習指導に注力した。しかし、依然として多留年の学生の成績向上が難しい状況が続いており、次年度も指導を続けていく。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 出口 雄也

1. 教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「(2) 情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	③⑤⑥⑦⑩
学際連携研究	1/15(前期)	2	181	②⑩
地球環境論	15/15(前期)	2	163	①②③⑧⑩⑫
物理化学実習	7/7(前期)	1	112	①④⑩
衛生薬学実習	8/8(前期)	1	112	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
臨床栄養学	15/15(前期)	2	8	①②③⑩⑫
臨床栄養学	15/15(前期)	1.5	112	①②③⑩⑫
衛生化学Ⅱ	7/15(前期)	1.5	111	①⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	⑤⑥⑦⑧⑩
衛生化学Ⅰ	8/15(後期)	1.5	108	①②③⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑪
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	7	④⑤⑥⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	⑧
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

地球環境論は昨年に引き続き定期試験での評価を行わず、レポート及び授業内での課題で評価し、主体的に学ぶことを意識した。受講人数は昨年の159名から183名と増加し、レポート評価ならびにフィードバックは大変であったが、理解度・満足度が昨年の4.1・4.1から4.3・4.4と増加し、自由記述からも少し手応えを感じている。

臨床栄養学では、理解度・満足度が昨年の4.4・4.5から4.5・4.5と同程度であったのに対して、衛生化学では4.2・4.3から4.1・4.2と下がってしまった。例年以上に分かりやすい講義へと改善しているつもりであるが、今年の2年生での衛生化学Ⅰにおいて理解度が下がったことは、2年生全体の学力にも関連しているように思え、今後の進級に影響があるのではと心配となった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	34
九州文化学園歯科衛生 士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2	37
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康	13/13(前期)	2	17
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康	20/20(後期)	2	14

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱの補習	2/77	107	11/14、12/12
総合演習ⅢAの補習	1/56	106	6/27
総合演習ⅢA・ⅢB(過年度)の補習	1/36	13	4/13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①食品関連物質の分析法の開発に関する研究
- ②化学物質の発がん機構の解明及び食品成分によるその抑制に関する研究
- ③大気粉塵中のLPS、タンパク質の定量及び季節変動に関する研究
- ④機能性表示食品の機能性と安全性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Stability Testing of Drug Products Approved by the Japanese Government in 2015/2019年3月/
長崎国際大学論叢第19巻/未定/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ナツメグの遺伝毒性に関する研究/2018年9月10日/フォーラム2018:衛生薬学・環境トキシコロ
ジー

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	9月6日に開催した教員対象FD研修において、アクティブラーニング研修の司会を担当。1月上旬に開催した薬学部就職ガイダンスにおける進行の補助を担当。病院・薬局の就職担当者との面談。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
就職委員会(薬学部)	委員	就職ガイダンス、就職説明会のサポート
教育支援センター運営委員会(薬学部)	兼務教員	「衛生」分野のサポートを担当。6年生の夏季勉強合宿、冬季勉強会でのサポート。
国試・CBT対策委員会(薬学部)	委員	週間試験の成績管理を担当。勉強会の企画と実施。
CBT実施委員会(薬学部)	管理者	体験受験、本試験、追再試験の準備と実施。
生涯学習・教育委員会(薬学部)	委員	2/17に開催された第8回生涯教育セミナーの資料印刷、会場設営、当日受付を担当。
CAI運用・活用委員会	委員	CAIの衛生分野についての問題の精査。

(3) 課外活動の指導等

【実務実習】

病院への訪問(4/23、6/5、7/5)、薬局への訪問(4/23、4/25、6/5、7/5、2/4)を通して、指導薬剤師、学生との面談を行った。

【国家試験対策】

8/9～8/11にMグレヂェンスで夏季勉強合宿を企画し、スケジュール管理、引率、個別質問対応などを行った。また、1/18～1/20がセンター試験のため学内入校禁止のため、Mグレヂェンスでの勉強会を企画し、スケジュール管理、引率、個別質問対応などを行った。

【保護者会】

鹿児島での地方保護者会(10/13)において、保護者と面談した。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス(7/22、8/5、8/19、3/23)において、学生、保護者と懇談した。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
平成30年度 教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育の在り方」	2018年6月16日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
サイエンス広場で遊ぼう「発泡入浴剤をつくろう」	2019年2月3日	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

9月10日～11日「フォーラム2018: 衛生薬学・環境トキシコロジー」実行委員として参加&事務局として庶務・会計を担当(2月～11月)、主催: 日本薬学会 環境・衛生部会

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

9月10日～11日に長岡教授を実行委員長に「フォーラム2018衛生薬学・環境トキシコロジー」が開催されたことから、前半は事務局業務に追われる日々となり、教育、大学運営業務以外、ほぼ何もできなかった。学会は盛会に終わることができ、運営面でも11月上旬に事務作業を終え次年度への引き継ぎすることができた。この1年、大変ではあったが多くの先生方と知り合うことができ、成長できたと実感している。

学生指導では、授業と実習が前期に集中していることに加え、学会運営もあったことから、前期はほとんどサポートできなかった。後期は成績が振るわない学生を呼び出してサポートしてきたが、1名の退学、3名の留年と、計4名が進級できなかったのは残念であった。来年度は前期よりサポートできるよう、学生の状況を面談を通して把握していきたい。

大学運営面では、岡村先生が退職された中、CBTにおいて9月の体験受験、1月の本試験の準備作業においてこれまでなかったトラブルがあり不安な状況であったものの、椛島委員長のもと体験受験、本試験、追再試験を無事に終わることができた。国試・CBT対策委員会では、教育支援センターの協力を得て、昨年引き続き夏季勉強合宿と冬季勉強会を実施した。3月末に発表の国家試験合格率において、昨年並みとなることを期待している。

研究面では、この1年に進捗がなく、学会発表も1件と過去最低の成果となってしまった。来年度は昨年度のデータの再現性を確認して成果をまとめることが目標となる。なお、来年度は8月にJBO本選、2020年7月にはIBO本選に向けた準備も本格的に始まるが、研究時間を確保することも意識し、計画を立てて進めていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤井 佑樹

1. 教育理念

ホスピタリティの獲得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出するため、薬剤に関する知識、自分で考える力、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞に関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの学問と関連していることをイメージさせ、学問を俯瞰出来る力を身につけさせる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク精製や細胞増殖制御の実験方法を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される実験問題に対しての応用力を身につけさせると共に自分で考える力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立たせる。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことで学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティを獲得した薬剤師を世に輩出し、社会貢献を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
ホスピタリティ概論	15/15(前期)	2	503	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎の生物学	15/15(前期)	2	68	①②⑨
コンピュータ基礎演習 I A	15/15(前期)	1	108	②④⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	112	①②⑥⑦
薬学英语	2/15(前期)	1	58	①⑤⑩
薬学英语	2/15(前期)	1	57	①⑤⑩
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	⑥⑦
生物学演習	8/15(後期)	1	20	①②⑨⑪
薬剤学実習	9/9(後期)	1	112	④⑩⑪
総合基礎学習 II	15/15(通年)	0.5	106	①④⑥⑨⑪⑫
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習 I	2/45(通年)	3	127	①④⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬学科、栄養科で行った生物学演習、基礎の生物学でアンケートを行ったが、その授業も4.0点以上の評価を得た。時間をかけて、生物学ビギナーにも分かりやすい授業資料を作成した甲斐があった。今後も学生と同じ目線で物事を考え、より良い資料を作成できるように努力していく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	形態機能学	15/15(前期)	1	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

・糖鎖を介した細胞機能調節の研究

がん細胞などの表面は様々な糖鎖が存在する。抗糖鎖抗体や糖鎖結合性タンパク質レクチンが糖鎖に作用するとアポトーシス、細胞増殖、分化など様々な生命現象が誘導されることが知られている。糖鎖-タンパク質相互作用により起こるシグナル伝達経路、細胞の形態変化や細胞膜成分の増減の詳細について解明を行っている。

・海洋生物由来新規レクチンの探索

遺伝子の多様性である海洋生物に着目し、ユニークな生理活性を有する糖鎖結合タンパク質レクチンの探索を行い、構造や機能を明らかにする研究を行っている。それらの特性を利用し、新しい分子標的薬の開発、免疫細胞の活性化や特定の細胞の検出のツールなど薬学研究に役立たせることを目的としている。

・メラノソーム機能阻害に関する研究(美白の科学)

藤田教授や宇都准教授との共同研究により100種類の生薬成分の中から、上皮細胞の美白化あるいは黒色化を促す成分を見出した。現在、本学が所有する透過型電子顕微鏡を用いて、細胞内のオルガネラの形態的变化などを観察し、その作用機構の解明に取り組んでいる。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	2	2	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Functional Characterization of OXYL, A SghC1qDC LacNAc-specific Lectin from The Crinoid Feather Star *Anneissia Japonica*/2019年2月25日/Marine Drugs /17(2). pii: E136./共著/論文

Microbial Efficacy and Two Step Synthesis of Uridine Derivatives with Spectral Characterization/2019年1月/Acta Pharm. Sci. /57(1) 47-68 /共著/論文

二枚貝イガイ科にみるβ-トレフォイル骨格レクチンの新系図/2018年11月/Trends in Glycosci Glycotech /30(177) 195-208/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

β-トレフォイル(三つ葉)構造を有するイガイ科レクチンの構造と機能に関する研究/2018年11月17日/第35回日本薬学会九州支部大会(福岡県福岡市 九州大学薬学部)

Cell-based ELISA法によるチロシナーゼ発現制御化合物のスクリーニング/2018年10月13日/第28回日本色素細胞学会(兵庫県神戸市 神戸商工会議所)

イガイ科R-型レクチン家系の発見とアジアロGM1を介す新たな糖鎖シグナル/2018年8月28-30日/第37回日本糖質学会年会(宮城県仙台市 仙台国際センター)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費 科研費チャレンジ	長崎国際大学	2018年6月-2019年3月	40万円
基盤研究C 分担	文科省および日本学術振興会	2018年4月-2021年3月	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	2018年度に委員任命を受け、薬学部内の専任教員のプロフィール内容の確認を行い、最新情報の更新を促した。
地域連携センター	委員	佐世保市、平戸市が主催した一般市民講座、佐世保まちなか大学、ひらど市民大学の演者として、糖に関わる医学、生物学について講演し、60%以上の参加者から、満足の評価を得た。 5年生対象の寄付講座の窓口を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特記事項なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特記事項なし。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
糖は甘いだけじゃない！糖鎖が関わる病気と健康	2018年12月8日	佐世保市公民館	佐世保市主催、一般市民講座、佐世保まちなか大学
糖は甘いだけじゃない！糖鎖が関わる病気と健康	2019年1月26日	未来創造館	平戸市主催、一般市民講座、ひらど市民大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市医師会看護学校で正看護科1年生に対し、形態機能学を担当し、15回の授業を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割] /開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

共同研究:イタリア共和国トリエステ大学に所属で、海洋生物のゲノム解読を特技とするマルコ・ゲルドル研究員と海洋生物レクチンの構造・機能の研究を行っている。

7. 受賞等

特記事項なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2018年度も前年度同様に、教育、研究、大学運営や地域連携などバランスよく業務を行うことができた。

講義ではコンピューター演習IA、薬学英语、生物学演習や基礎の生物学(栄養科)の授業を行い、実習では機能形態学実習と薬剤学実習を行うことで教育に貢献した。特にアンケートを実施した生物学演習や基礎の生物学では両者ともに授業の満足度として4以上を得ることができ、今後、この数値以上の評価が得られるように授業の質を高めていきたい。

研究では査読付きの国際雑誌を主論文で1報、共著で2報の計3報発表することができた。加えて、その成果の一部を日本糖質学会ではポスター発表を、日本薬学会九州支部大会で口頭発表を行った。本教員は上司の藤田英明教授と共同研究を行い神戸市で開催された色素細胞学会に参加した。本テーマで薬物を色素細胞に加えると美白化が誘導されることを本大学が所有する電子顕微鏡を用いて明らかにし、その研究成果を発表し、分野の第一人者から助言を得ることができた。

大学運営では全学では地域連携委員、広報委員、教育基盤センター委員を、薬学部では国家試験対策委員、学生委員、地域連携委員を努めた。

地域連携委員として、学内外公開講座の選出を行うと共に自身も佐世保市、平戸市が主催する一般

市民講座の演者として講演を行い、6割以上の聴衆から満足の評価を得た。広報委員会では薬学部教員に働きかけ、大学HPの教員プロフィールを最新情報にアップデートした。教育基盤センター委員としては前期のホスピタリティ概論を担当する他、9月、12月に本学で開催された教育学会のサポートを行った。

薬学部では国家試験対策委員として5年生の単位認定試験を担当し、試験問題の編集や試験後の成績の解析を行い、6年生への進級判定の材料を提供した。学生委員として入学式、卒業式などの準備を行った。地域連携委員として、佐世保北中学校の薬学部の見学会の受け入れ、5年生対象の寄付講座の企画などを行った。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤木 司

1. 教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
基礎の生物学	15/15(前期)	2	44	②⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	51	⑧⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	①④⑤⑩
薬学英语	2/15(前期)	1	58	①⑤⑩
薬学英语	2/15(前期)	1	57	①⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
免疫学Ⅱ	1/15(後期)	1.5	3	①③⑧
薬剤学実習	9/9(後期)	1	112	④⑩⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
総合基礎学習Ⅰ	15/15(通年)	.5	107	②④⑦⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	5	①⑤⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	4	①⑤⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

これまで行ってきた講義と比較して、本年度は同等かそれ以上の評価を得たことから昨年度との比較から得られる情報をもとにアクティブラーニングをはじめとする更なる教育効果の高い方策を実施できるよう対策を講じる所存である。特に理解度の低いクラスを担当している科目についてはよりわ

かりやすく効果の得られる授業方策について対策をした結果が評価につながったと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	ボランティア活動参加
国家試験・CBT対策委員会(学科)	委員	学科内試験実施運営・成績管理
入試募集委員会(学科)	委員	入試募集に関わる広報活動および出張講義
安全管理委員会(学科)	委員	アルコール担当
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	学内CAI試験実施、運営

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 出張講義/10月29日/佐賀北高等学校
- ② 第1回オープンキャンパス/7月22日/長崎国際大学
- ③ 第2回オープンキャンパス/8月5日/長崎国際大学
- ④ 第3回オープンキャンパス/8月19日/長崎国際大学
- ⑤ 推薦入試A日程/11月23日/熊本会場
- ⑥ 第4回オープンキャンパス/3月23日/長崎国際大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①6月6日 「クリーンキャンパス活動」
- ②11月28日 「クリーンキャンパス活動」

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2018年度は、講義など教育面においてこれまでの授業アンケート結果などからアクティブラーニングをはじめとして様々な改善を施したことによってこれまでで最も良い評価が得られたと思われる一方、研究面では論文投稿なしに留まり、外部資金獲得がなかったため、次年度は研究に関する作業の効率化を進め、論文投稿を主眼とした外部資金獲得に向けた改善・努力を行っていきたい。同時に各種委員会における活動、業務と併せて教育の質や効果の向上を目指したい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤本 京子

1. 教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講なので、医療分野とのつながりを意識できない学生が多く存在している。そこで、本授業では細胞と食を関連付け、細胞と組織、細胞と個体、さらに疾病を連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心を持ち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
生化学Ⅲ	4/15(前期)	1.5	112	①③⑪
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	114	①④⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
分子細胞生化学演習	2/15(後期)	1	67	④⑧⑨
分子細胞生化学演習	2/15(後期)	1	36	④⑧⑨
コンピュータ基礎演習ⅠB	4/15(後期)	1	107	②④⑪
生化学実習	9/9(後期)	1	109	①②④⑪⑫
生物学演習	7/15(後期)	1	20	①②⑨⑪
生化学Ⅰ	6/15(後期)	1.5	111	①③⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
卒業研究(5年)	30/30(通年)	2	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(6年)	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートは、前期に生化学Ⅲ(2年生)、教養セミナーA、後期に生化学Ⅰ(1年生)、生物学演習後期について実施した。生化学Ⅲの満足度は4.5であり、この学年の学生は昨年度の生化学Ⅰにおいては4.4と評価していた。なので、今年度の生化学Ⅰ(4.2)は、次年度の生化学Ⅲでさらにアップするように努めたい。

今年度の1年生は前年度に比べ、定期試験の結果を比較すると、全体的に学力が低いことが伺えた。そのため、次年度の生化学Ⅲにおいては、難易度を下げる必要があるかもしれない。しかし、授業の難易度を下げても国試に対応できるだけの能力は育成しないといけないので、ジレンマを感じる。このことを打破するために、自学する重要性を説き、読みやすい参考書を提案するなど、図書館を利用する学生が増えるよう促していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	生化学	15/15(前期)	2	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	131	11/19
総合演習Ⅱ	2	107	11/2,12/14
総合演習Ⅲ	1	110	5/24
生化学Ⅰ補習	1	25	2/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

腸管免疫に着目した大腸がん予防に関する研究

① 家族性大腸ポリポーシス症のモデルマウスApcMin/+マウスを利用して、腸管腫瘍発症の仕組みを分子レベルで解析している。腸管内は感染性の微生物の侵入を拒絶する免疫システムが発達しているが、その一方で腸管内には無数の腸内細菌が拒絶されことなく共生している。我々の研究において、腸管腫瘍数が少ないApcMin/+マウスの盲腸内容物中にはEnterococcus が有意に増加していることが分かった。また、その腸管内には、免疫中枢ともいわれるパイエル板数が有意に増加していたことから、腸内細菌が免疫器官に刺激を与えることで腸管腫瘍の発生を抑制したのではな

いかと考え、そのメカニズムの解明に取り組んでいる。

② 腸管腫瘍発生に関与する遺伝子群の同定

個人差と疾患の多様性に関する分子的背景を明らかにする一步として、ヒト大腸がんモデルマウスの解析により、腫瘍の増大化に関与する因子を探索している。包括的遺伝子発現解析より得られた実行因子候補のうち、昨年度報告したTFF2に加え、ApoC3の関与が示唆された。現在、マウスを用いて腸管腫瘍におけるApoC3の役割、増殖関連の機能を進めている。また、ApoC3遺伝子が発現している臓器は腸管と肝臓であり、脂質運搬の観点から腸管腫瘍のみならず、脂肪肝における関与についても解析を進めている。

② 食がもたらす腸内環境の変化と腸管腫瘍発生への関与を解明する。

これまで、サフランやアラビノキシランという植物性の糖質が腸内環境に影響を及ぼすことが明らかとなっている。サフラン抽出液は、in vitroにおいて、抗がん作用・抗アレルギー作用を始め、さまざまな効果が発表されていることから、サフラン抽出液をヒト大腸がんモデルマウスに摂食させる実験を行った。すると、腸管腫瘍数が有意に減少することが明らかになり、サフラン抽出液中におけるどの物質が深く関与しているのか分析を行い、クロシンの関与を明らかにした。このように、食による腸管腫瘍への影響は、食そのものの影響なのか腸内フローラの変化によるものなのか判断が難しい所である。多面的な解析により、腸管腫瘍発生の抑制もしくは発生後のポリープ数減少を促す食品の探索を続けている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Suppression of Polyps Formation by Saffron Extract in Adenomatous polyposis coli Min/+ Mice./
2018 /Pharmacogn. Res./in press/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Tff2タンパク質が腫瘍細胞と非腫瘍細胞に与える影響/2019年3月/日本薬学会第139回年会
脂質が腫瘍細胞に及ぼす影響に関する研究/2019年3月/日本薬学会第139回年会
高脂肪食を摂取した野生型マウスの脂質及び糖質代謝に対する乳酸菌生産物質(PS-B1)の影響

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等 (留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	佐世保市女性プロジェクトチームのメンバーとして、男女共同参画に取り組んでいる事業所選定などを行った。
薬学教務委員会	委員	4年生学年主任(副主任)として、CBT対策講座の科目選定や、CBT再試補習などに取り組んだ。
薬学入試募集委員会	委員	薬学リーフレットの作成を行い、完成させることができた。また、オープンキャンパスや高校出張講義などを行った。
薬学CBT実施委員会	委員	CBT試験の準備・実施、試験監督業務を行った。
薬学安全管理委員会	委員	各研究室にある毒劇物の管理状況やガスボンベの調査を行い、安全管理の徹底を促した。
教育基盤センター学習支援部門薬学分室運営委員会	委員(兼任教員)	生物系兼任教員として、6年生夏季合宿や冬合宿に参加し、学生からの質問を受け付けた。
薬学部就職委員会	委員	5年生を対象に就職説明会を計画・実施した。
薬学部動物室管理担当者	委員	動物室の清潔・安全な運営に貢献した。
薬学部改善計画策定委員会	委員	ワーキンググループとして、留年生対策を担当した。
ハラスメント相談員	相談員	ハラスメント相談員として任命されたが、今年度は特に活動することはなかった。

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特に行っていない。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

入試募集委員として、佐賀北高校の進路ガイダンスに参加した。配布資料を準備し、さらに薬学部パンフレットを用いて6年間の流れを説明した。生徒の反応は「薬学部って暗いイメージだったが、パンフレットをみて見る目が変わった。」との意見をもらえた。2020年より福岡の大川に新しい薬学部が開校されるので、国際大としては、先輩とのネットワークが充実していることをアピールした。また、学会発表などにおいては、同窓会が費用をバックアップしてくれるシステムについても説明した。

就職関係については、就職委員として5年生対象に就職セミナーを実施した。参加企業100社前後に対し、今年の5年生は途中で抜け出す学生が多くいたため、学生の数が予想以上に少ないという事になった。次年度は、このようなことが無いように対策を練らなければならないと感じた。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第2期「女性プロジェクトチーム」	メンバー	2018/07/30～ 2018/12/31	佐世保市長(担当佐世保市男女共同参画課)

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

2018年度を振りかえると、授業・演習・実習の他に、担当学生や学年担任としての面談、保護者対応など教育に費やす時間が大部分を占めていたと感じる。成績不振な学生に対しては、担当学生以外でも、授業時間内外問わず常に声掛けを行った。また、特に成績不振な学生は、保護者との連携が重要だと感じた。いきなり悪い成績を見せられることは保護者にとって心外であるため、予兆が見られたら頻繁に連絡を入れていくことがトラブル回避の手段であると思われる。

成績不振の担当学生(低学年)においては、SA登録を勧め、上位学年の担当学生(成績優良者)にお願いして、指導してもらった。多くの担当学生にSA登録を呼びかけ、実際に登録させているが、実際にどのくらいの頻度で何時間指導をおこなっていたのか、なかなか見えてこない部分がある。そこで、SA教育システムを統括している薬学教育支援センターに1人あたりの実施時間についてのデータをまとめて欲しいと昨年度よりお願いをしているが、教育支援センターからは未だに報告はない。早急に対応をお願いしたい。

大部分を教育に費やしたものの、研究面でも少しずつではあるが成果を得られた事もある。今年度は、論文が1報アクセプトされ、学会発表は3報行うことができた。卒業研究での指導は、5、6年生の演習や単位認定試験の関係から、なかなかまとまった時間を割くことが難しく、思うように実験ができなかったこともあるが、学生たちは遅くまで実験したり、時には土日にまで実験したりして、非常にがんばってくれたと思う。その成果が学会で報告できたことは大変喜ばしいことである。

次年度、また新しい学生たちが入学してくるが、その子たちや在学生たちが生き生きとした大学生活を送っていけるように、努めていかなければならないと思う。そのためには、教員が疲れ切っている姿を見せてはいけないと思うので、しっかりと気を引き締めて一年間過ごしていきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 吉田 達貞

1. 教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することである。よって、担当の授業では、(1)薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、(2)医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視する。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに誰も経験したことが無いような問題に取り組み、独自の答えを与える力が要求される。したがって、学部の低学年からこのような論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じている。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えている。その手助けをすることが私の教育の責任である。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めた

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
基礎の物理学	15/15(前期)	2	60	②③⑨
統計学	15/15(前期)	2	11	④⑨⑩
コンピュータ基礎演習ⅠA	15/15(前期)	1	108	②④⑪
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
コンピュータ基礎演習ⅠB	15/15(後期)	1	107	②④⑪
コンピュータ基礎演習ⅡB	15/15(後期)	1	3	②④⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・「基礎の物理学(薬A)」では、理解度が3.8ptと学内平均よりも低評価であった。国家試験では物理は必須となるため、高年次の物理系科目との連携を視野に入れつつ、高校で物理を選択していない学生にとっても1年次から薬学の基礎としての物理化学の重要性を意識させたい。講義資料の見直し、授業外学修の指導方法から改善を図りたい。

・「コンピュータ基礎演習IB」では、理解度・満足度ともに概ね高評価を頂いているので、今後も継続していきたい。演習中に取り扱うデータを薬学に関連した内容に差し替えることで、学生の興味をより惹起するよう授業準備をしっかりと行いたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
徳島大学薬学部	創薬物理化学	15/15(前期)	2	89

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
「基礎の物理学」の補習	1	44	2018年6月28日
「コンピュータ基礎演習IB」の補習	3	5	2018年12月25日
「総合演習I」の補習	1	116	2018年11月15日
「総合演習I」の補習	1	118	2018年11月22日
「総合演習II」の補習	1	101	2018年11月21日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①新しい分散力エネルギーの評価法の開発とその応用計算
- ②リガンドとタンパク質との結合自由エネルギーの高精度予測
- ③シトクロームP450による薬物の代謝部位の非経験的予測
- ④ECDスペクトル計算による有機化合物の絶対配置の理論的検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	1	1	40万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Carotenoid Stereochemistry Affects Antioxidative Activity of Liposomes Co-encapsulating
Astaxanthin and Tocotrienol/2018年7月/Chemical & Pharmaceutical Bulletin, vol. 66 (7)/714-
720/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
分子科学計算によるFK506結合タンパク質とリガンドとの分子間相互作用解析/2018年7月1日/
第24回中国四国支部分析化学若手セミナー
β-トレフォイル(三つ葉)構造を有するイガイ科レクチンの構造と機能に関する研究/2018年11月
17日/第35回日本薬学会九州支部大会
ガーナ産植物Morinda lucida Benthamに含まれる新規テトラサイクリックイリドイドの化学構造/2018
年11月18日/第35回日本薬学会九州支部大会
Computational investigation of binding interaction energy between protein and ligand using a new
dispersion corrected Hartree-Fock approach / 2018年12月1-2日 / 2018 China-Japan-Korea
Symposium on Analytical Chemistry (2018 CJK)
Correlation Analysis of Binding Free-Energy Change due to Complex Formation of FK506
Derivatives with FK506 Binding Protein: a Computational Study/2019年2月7日/2019 Pure and
Applied Chemistry International Conference (PACCON 2019)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費(科研費チャレンジ)	長崎国際大学	2018年6月～2019年3月	40万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター委員会	委員	大学IRコンソーシアム会員校共通アンケート回収率の向上に努めるとともに、面談記録システムやホスピタリティールーブリックの使用方法に関して薬学部教職員に対する情報発信等を行った。
教育基盤センター委員会	IR部門兼任	IR部門の一員として教育基盤センター紀要に現状と本大学における学びの状況報告を行うとともに、1報の論文査読を担当した。
薬学部改善計画策定委員会(学科)	委員	一員として大学HPに掲載の教員の教育・研究業績の更新状況を点検し、最新情報へ更新するよう周知に携わった。
薬学教育支援センター運営委員会(学科)	兼任	物理系兼任教員として、6年生学生の夏季および冬季勉強合宿の引率、サポートを行った。
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	CAIを利用した各種試験において、試験実施の準備・管理を行った他、情報系の問題登録を行った。
図書選定委員会(学科)	委員	図書選定に携わった。
ネットワーク調整委員会(学科)	委員	薬学部に関連するネットワークの使用状況・問題調査を行い、事務局への意見提出を行った。
入学前・初年次教育委員会(学科)	委員	物理系教員として入学者教育教材の選定および入学前教育(添削)を担当した。
CBT実施委員会(学科)	委員	CBT体験受験、本試験にPC管理者として従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育協議会・物理化学系教科担当教員会議	委員	千葉市(幕張メッセ国際会議場)で行われた会議に本学部の物理系担当教員として参加(2019年3月23日)

(3) 課外活動の指導等

- ①1年生 早期体験学習の引率/2018年11月7日/長崎県環境保健研究センター
- ②6年生 夏期勉強合宿の引率・サポート/2018年8月10日、11日/南風崎MGLレジデンス
- ③6年生 冬季勉強合宿の引率・サポート/2019年1月19日/南風崎MGLレジデンス

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①オープンキャンパスに参加/2018年7月22日、8月5日、8月19日/本学
- ②薬学部就職説明会に参加/2019年3月10日/本学

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	平成23年度～現在 に至る	日本薬学会構造活 性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①学内クリーンキャンパス運動に参加／2018年6月8日、11月28日／本学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

該当なし

7. 受賞等

第24回中国四国支部分析化学若手セミナー 優秀ポスター賞

「分子科学計算によるFK506結合タンパク質とリガンドとの分子間相互作用解析」

(受賞者: 岡尚生, 竹内政樹, 田中秀治, 吉田達貞, 2018年7月)

8. 活動全般についての自己点検・評価

着任初年は、教員・職員の皆様のご支援のおかげで年間を通しての大学業務の流れを把握し、身近な仕事はできるようになりました。

教育活動： 授業アンケートで理解度の低い評価を受けた基礎の物理学では、今年度の試験や小テストの結果を見直し、講義資料の改定を行い、次年度は特に苦手とする熱力学の領域を重点的に講義したいと思います。また、国師対策の総合演習やそれに関連する試験の作問も初めての経験であったため、今年度は準備に時間がかかりましたが、次年度は担当科目数も増えるためにより計画的に準備に励みたいと思います。担任学生数も増えますが、初年次と同様に個々の学生に向かい合う気持ちを忘れることのないように心掛けます。

研究活動： 今年度は研究環境の整備に時間を要しましたが、学長裁量経費にも採択頂き、後期は円滑に研究を進めることができました。また、新たに学部内の実験分野の教員とも連携して共同研究を開始することができました。これらの研究の成果を論文化し、外部資金獲得にチャレンジする自助努力を重ねて参ります。

大学運営活動： IRセンター委員では、面談記録システムの記入率やアンケートの回収率を維持できるよう周知を継続していきたいと思います。同時に、各種のIRシステムに関する学部内でのご意見・ご要望を回収し、少しずつでも仕様が改善できるよう委員会で提案して参りたいと思います。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 岩永 真理恵

1. 教育理念

薬学教育においては、6年制薬学部を卒業し誕生した薬剤師の現状を点検・評価し、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が進んでいる。その中で、今後臨床系の科目や病院・薬局における実務実習のさらなる充実を図る必要性が強調されている。私は、薬剤師の実務を経験した教員として、臨床の場で働くために必要な知識や考え方を学生に伝え、学生自身が能動的に学習する意欲の向上に貢献していきたい。また、私自身が長崎国際大学薬学部の卒業生で、6年制教育を受けて薬剤師になり、実際に実務実習や国家試験を経験していることから、学生の意見を学部の運営にも活かしていけるよう努力していきたい。

これからの薬剤師に求められる資質の1つとして「研究マインドを持った薬剤師」が挙げられる。実際に病院薬剤師として勤務していると、様々な職種の医療スタッフが専門性をそれぞれ発揮する「チーム医療」において「薬剤師の視点」が他の職種から強く求められていると感じることが多くある。薬学部の学生は共用試験や国家試験に合格することにばかり目を向けがちだが、学部の学生のうちに研究に触れておくことは、将来の選択肢を増やすとともに薬剤師として働くために必要な資質や生涯学び続ける姿勢を養う上で非常に大切である。私が実務系の教員とし現場の薬剤師の視点を生かして研究活動を行うことで、今後、薬剤師となっていく学生に「研究」を身近に感じてもらうことができると考えている。さらに研究に興味を持った学生が、将来薬剤師として活躍する中で自分自身の視点で臨床現場における問題点を見つけ発信できるように、そして、1人1人の学生が医療現場で必要とされる存在となれるような指導を行いたいと思っている。その結果として長崎国際大学薬学部を、薬剤師として活躍するために必要不可欠となる「問題解決能力」を醸成する大学としての位置づけを確固としたものとするに微力を注ぎたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
薬事関係法規演習	4/15(前期)	1	22	①⑧
調剤Ⅰ	11/11(前期)	3	122	①②④⑪
調剤Ⅱ	9/9(前期)	3	122	①②④⑪
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
生物薬剤	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10/10(後期)	3	122	①②④⑥⑦
総合実習	6/6(後期)	1	122	①④⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
病院	19/19(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21/21(通年)	10	103	①④⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬事関係法規という科目の特性上、学生にとっては将来働く上で必要性を実感することが難しく、興味を引き出しにくい。授業アンケートにおいても、授業内容への興味を問う項目が低い評価であった。

今後は、薬事関係法規を学ぶ必要性について講義の中で示したり、法規が実務と関連している実例を挙げ考えさせるようなアクティブラーニング等も取り入れていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	107	4/26
総合演習ⅢA	2	106	6/19・6/26
総合実習	3	25	12/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 薬剤師業務で生じた問題を解決するための研究

実際に薬剤師として働いていると、必ず疑問や問題が発生する。これまで病院薬剤師として勤務する中で、薬剤師業務の効率化や抗がん剤治療における制吐剤について現場の薬剤師として研究を行ってきた。今後も現場の薬剤師としての視点を生かした研究テーマを探すと同時に、現在、地域の病院や調剤薬局と協力しながら研究を進めていく準備をしている。

② 乳酸菌代謝生産物質の有用性について

乳酸菌を中心とした十数種類のヒト由来腸内細菌の複合培養から調製した発酵液の濾液(乳酸菌代謝生産物質:PS-B1[N])による有用な作用のメカニズム解明および生理活性物質の探索を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会	委員	OSCEの円滑な実施のために事前準備を入念に行った。
実務実習運営委員会	委員	なし
教育支援センター薬学分室運営委員会	委員	なし
国試・CBT対策委員会	委員	夏・冬の6年生勉強合宿に参加し、質問対応等行った。
生涯学習教育委員会	委員	なし
同窓会薬学部門支援委員会	委員	HPの作成や同窓会薬学部門新規制度の確立を図り、在学生や卒業生の支援を行っている。
在宅医療福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部の1年生を中心に薬学書道部を立ち上げ、今年度は開国祭にて作品を展示した。来年度はサークルあるいは部活動として認可していただき、さらに活動内容を拡大する予定である。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスにて卒業生体験談/8月5日/長崎国際大学

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
改定薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠した病院実務実習への対応	3月9日	長崎大学病院	長崎県病院薬剤師会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

週1回(月曜)/実務研修薬剤師として佐世保市総合医療センターにて研修

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

<教育>

・薬事関係法規という科目を、改めて一から学習し学生と同じ目線で学ぶことができた。このことが授業アンケートの評価につながり高評価を得ることができた。今後は、法規と現場との関連について加え、学生が興味を持てる講義にしていきたい。

・事前学習については最新の現場の状況に対応できるよう今後改善していきたい。

・OSCE全員合格を目指して、直前に講習会を開催し、不安な学生に対して個別指導を行った。その結果、全員合格することができた。

・6年生の夏・冬の勉強合宿に積極的に参加し、成績不振学生に対して個別に勉強方法を提案したり、質問への対応をおこなった。今後も国家試験の合格者が1人でも増えるよう指導していきたい。

<研究>

・実務に関する研究テーマを設定し、科研費へ応募した。今後、積極的に外部資金の獲得に挑戦する。

・共同研究を念頭に置いて長崎・佐世保地域の薬剤師の方々の現状を知るため、薬局訪問等行っ

た。現在、共同研究を準備中である。

・出身研究室である生化学研究室において乳酸菌代謝生産物質の有用性についての研究を行い、論文執筆中である。今後も、年に1報投稿することを目標にしていきたい。

<社会貢献・大学運営>

・薬剤師会等の活動に積極的に協力し、親睦を図ったことで、長崎県病院薬剤師会や長崎県薬剤師会との窓口となり、実務実習の円滑な実施、入試募集や広報活動等、大学運営に繋げることができた。

・今年度の週に1回の実務研修を行い、研修記録を作成した。現在、業務の見直しを行っており、さらに有意義な研修がおこなえるよう努力していきたい。

・同窓会薬学部門の新規HPの立ち上げを他メンバーと協力して行った。今後、卒業生の再就職支援制度の確立や在学生と卒業生の交流を深めるための取り組みを行うための準備をしている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 榎本 彩乃

1. 教育理念

私の教育理念は、実践の場でも確かな知識をベースとして応用力・判断力を発揮でき、かつ生涯を通じて医薬品の専門家として社会に十分な貢献をできる薬剤師を育てたいというものである。

現在、様々な現場において機械化が進んでおり、薬局においてもその傾向があることは否めない。機械化は、薬剤師の負担やミスの減少に貢献する反面、将来単純作業を行う人材の需要は減少すること考えられる。また諸外国をみると、ピッキング等の比較的単純な作業は薬剤師ではなくテクニシャンの仕事となっている場合もある。これらの事情から、今後薬剤師はこれまで以上に機械では補えないスキルと幅広い知識・判断力といった高い能力が求められるようになると予想される。そのような社会の変化に柔軟に対応していくためには、常に自身の研鑽を怠らず、自ら学んでいく姿勢が必要不可欠である。基礎科目は薬剤師業務とは関係ないという意識をもち易いが、新しい物事を学ぶためには基礎知識が十分にあることはもちろん、基礎知識をもとにして応用する力が重要である。そのため将来にわたっても活用できる知識を身に付けさせ、また応用できる能力を伸ばすことを目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
コンピュータ基礎演習 I A	15/15(前期)	1	53	④⑪
物理化学実習	7/7(前期)	1	112	①④⑧⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
薬品物理化学演習	15/15(後期)	1	35	①④⑧⑩
コンピュータ基礎演習 I B	15/15(後期)	1	52	②④⑪
生薬学実習	8/8(後期)	1	110	①②③④⑨
総合演習 I	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬学部科目について

アンケートはとっていないため、学生全体からの具体的な評価はわからない。ただ、一部の学生の意

見にはなるが、資料に関しては物理化学系ではわかりやすいと好評であった。

講義の構成は時間配分がうまくできないことがあり、最後の方になると省略しがちではあったので、構成、配分、効率的な話し方を工夫する必要がある。

社会福祉学科の科目について

前期は細かな説明書を作ったため比較的評価は比較的普通であった。ただ詳細な説明書の作成には長時間必要であり、特に他のレギュラーの科目も加わった後期で同様のことを行くと、他の業務や自身の健康に支障がでかねなかった。そのため後期は教科書をメインとし、資料に関しては多少簡素化したため評価が低くなったととえられる。

また、内容が後期の方が難しいということ、またSAを申請したにもかかわらず都合がつかないとのことで助けが得られなかったことも原因とえられる。将来仕事で利用できる実用的な最低限のレベルを考慮して授業を行ったが、学生のレベルを考慮すれば、実用を考えるよりも易しくしてハードルを下げるべきであった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	2/77	107	2018年11月14日、2019年1月9日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

磁気共鳴法による生体情報計測を目的とした機器開発及び計測手法の新規構築

MRIをはじめとした磁気共鳴法では、非侵襲的に生体内の様々な情報を取得することが可能である。特に本研究で利用するオーバーハウザー効果MRI (OMRI)を用いた測定では、生体内の酸素分圧分布やpH分布などを非侵襲的にかつ定量的に取得可能である。これらの情報をより精度よく計測するためには、生体の部位の特徴や疾患に応じた測定機器や手法が必要となる。研究では、電子回路設計をはじめとしたハードウェア面から、OMRI装置の高感度化及び生体計測への最適化を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	266万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Towards reduction of SAR in scaling up in vivo pulsed EPR imaging to larger objects/2018年12月
/Journal of Magnetic Resonance 299/42頁～48頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Time-domain EPR imaging with slice selection / 2018年6月 / Joint Annual Meeting of ISMRM-
ESMEMB 2018
広範囲OMRI酸素分圧イメージングのためのEPR励起用コイルのアレイ化に関する研究/2018年11
月/電子スピンスイエンズ学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
末梢動脈疾患の早期画像診断 を目指した定量的な酸素分圧 計測法の新規構築	科学研究費補助金 研究活動スタート支援	2018年10月～2020年3 月	266万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部学生委員会	委員	委員として各種イベントの準備等を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、初年度ということもあり手探りであったが、学生の視点に立ち、十分に時間をかけ、わかりやすい説明をするように心がけた。その結果薬学部の学生からはおおむね好評であったが、科目が異なるものの、他学科では内容が難しいとの評をうけた。今後は学生の基礎学力がどの程度あるのか等、学生のレベルをよく見極める必要がある。

研究活動については、教育に関する準備で大幅に時間を費やしたため、科研費を獲得したものほ

とんど成果をだすことができなかった。今後は講義準備の時間に加え、研究時間についても十分に確保できるよう効率化を図る。

大学運営活動に関しては、大学側から割り当てられた仕事に関しては問題なく遂行できたと思う。今後も割り振られた仕事に関しては責任をもって行う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 大神 正次

1. 教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
基礎の化学	15/15(前期)	2	64	①②③⑥⑨
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	112	①②③④⑤⑩
放射線医療学	2/15(前期)	1.5	111	①②③
化学演習	15/15(前期)	1	64	①②③④⑤⑥⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①②⑨
有機薬化学実習	11/11(後期)	1	110	①②④⑨⑩⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①②⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期 (化学演習で実施)

前年度までと比較して、大幅に満足度の下がる結果となってしまった。いくつか理由が考えられるが、アクティブラーニング(AL)を取り入れたことが最も大きかったようである。化学演習の大半でスモールグループでの教え合い学習に取り組んだが、グループ分けや方略、手順に不満を持った学生が一定数いたことを把握している。また、こちらの趣旨が一部の学生に上手く伝わっていなかったようで

非常に残念であった。来年度以降のAL実施について、事前準備や初回の説明を丁寧におこない、学生の不満を丁寧に汲み取りその都度改善していくように心掛ける。加えて、今年度のクラスわけでは昨年度よりも低い基準の学生までも含めてAクラスに振り分けてしまったにもかかわらず(50名が64名に増加)、昨年度までと同様の内容を実施したため、難易度が高くて理解がついてこれなかったように感じた学生もいたようである。人数や学生のレベルに合わせて難易度や進行スピードを調整するなどの工夫が全くできていなかった点に関しては反省すべきであった。

後期（総合演習IIで実施）

今回初めて総合演習(オムニバス科目)での授業アンケートを実施したが、満足度で4.8, 理解度で4.7と非常に高い評価を得ることができた。受講者数107名に対して回答者数95名(回答数88.8%)であり、欠席者12名の評価が反映されていないこともあるが、ほとんどの学生が授業内容を理解しつつ満足度が高かったという点は非常に良かったと思う。今後もこのような評価が得られるように継続して授業改善に努めたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル(化学演習)	1	25	2018年4月26日
化学リメディアル(化学演習)	1	36	2018年5月10日
化学リメディアル(化学演習)	1	28	2018年5月24日
化学リメディアル(化学演習)	1	22	2018年6月7日
化学リメディアル(化学演習)	1	23	2018年6月21日
化学リメディアル(化学演習)	1	22	2018年7月5日
化学リメディアル(化学演習)	1	23	2018年7月19日
化学リメディアル(化学演習)	2	16	2018年8月20日
総合演習Iの補習	2	133	2018年6月4日、6月15日
総合演習III Aの補習	1	110	2018年6月18日
総合演習IIの補習	3	107	2018年11月13日, 12月4日, 2019年1月8日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析」

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

腸管放射線障害の防護を目的とする末梢性NMDA受容体の解析/2019年3月23日/日本薬学会
第139年回(千葉)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員	(1)安全管理および施設管理の実施担当者、(2)教育訓練および健康診断の実施、記録、(3)放射線管理状況報告書の作成、(4)委員会の議案作成、(5)放射線障害予防規程の改定案作成 など
学生委員会(薬)	委員	特待生等選考(薬GPA算出)、卒業式準備、保護者会準備、写真撮影記録 など
就職委員会(薬)	委員	学内就職説明会準備設営実施および同資料作成編集印刷、就職ガイダンス実施対応
国試・CBT対策委員会(薬)	委員	演習等出席状況管理集計、CBT対策部会(4年生)単位認定試験取りまとめ(問題編集、印刷、結果解析)、学外模試・学内試験準備担当など
薬学部薬学教育支援センター運営委員会(薬)	委員	化学系兼任教員、化学補習(1年生)、学生個別対応 など
CBT実施委員会(薬)	委員	管理者、PC管理、試験監督
共同機器管理(薬)	委員	NMR装置管理担当、定期メンテナンスおよびトラブル発生時の対応

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
RI施設管理担当者	放射線取扱主任者、安全管理担当者、施設管理担当者	放射線源の安全使用に関する管理、管理区域に立入る者の入退域管理、放射線被曝および放射線汚染の管理、ならびに放射線取扱施設の点検等に関する業務全般 など
共同機器管理	管理担当	NMR装置のメンテナンス・管理担当、トラブル発生時の対応、渉外
初年度教育担当	化学担当	化学取りまとめ、プレイスメントテスト実施および集計、補習の実施、個別対応 など

(3) 課外活動の指導等

- ・薬学サッカー部 監督
- ・勉強合宿(6年生、8月および1月) 個別指導

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・学内就職説明会(薬学部)/3月10日/本学学生食堂
- ・センター入試 試験監督
- ・オープンキャンパス(夏期3回参加)

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、まだまだ改善の余地はあるが低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やmanabaをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。

大学運営面においては、放射線管理や共同機器のNMR装置の管理のほか、多くの委員会を掛け持

ち各委員会で貢献できていると考えている。

研究面では、大学施設外での共同研究(千葉市・放射線医学総合研究所)を継続しており、炭素線を照射したマウスの腸管サンプルの作成には成功しているが、その後の解析が上手く進んでおらず論文投稿をするまでには至っていない。来年度は博士課程4年目であり、なんとか研究に割く時間を確保して良い成果を得たいと考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 太田 智絵

1. 教育理念

私の専門分野は生薬・天然物化学である。

私は講義や研究室での教育を通じて、まずは学生に生薬・天然物化学に興味を持ってもらい、自ら進んで学習してもらいたいと思っている。また、生薬の基原動植物、有効成分、生合成、薬効、用途などの知識をただ単に説明するのではなく、授業で学んだ知識が医療現場においてどのように活用できるかということにも重点を置き、学生が薬剤師となってからも役立つものにしていきたい。

上記のことを実践することで、学生の卒業後の漢方薬・生薬認定薬剤師などの認定にもつながると考えられる。

さらに私は1年生の化学も担当しており、本科目は学生の化学の基盤となるものとする。

そのために、しっかりとした知識を出来るだけ詳細に、わかりやすく教授するように心がけている。学生には薬学の基礎となる化学の面白さを知ってもらい、有機化学や分析化学、天然物化学などの応用科目に繋げていってもらいたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
化学演習	15/15(前期)	1	11	④⑨
生薬学Ⅱ	4/15(後期)	1.5	97	①②⑨
有機薬化学実習	11/11(後期)	1	110	①②④
生薬学実習	8/8(後期)	1	110	①②③④⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
漢方医療設計学特論	4/15(後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度授業アンケートを実施した科目は化学演習C(1年前期)と生薬学実習(2年後期)である。

化学演習Cは今年度から担当した科目であったが、授業満足度は4.4と全体平均を超えることができた。しかし、授業の難易度をクラスの平均的な学力に設定したことで、学力が高い学生の満足度が得られにくかったように思う。来年度からは難易度の高い問題も取り入れ、基本問題だけでなく応用問

題も解けるようになってもらう。

配布資料を書き込み式のを準備し、学生が重要ポイントを学習しやすいように工夫したことで、学生の高評価にもつながったと思う。しかし、学生が板書を写すスピードが私が予想していたよりも遅く、授業進度の遅れにつながったと思う。来年度も書き込み式の資料を用いる予定だが、学生が書き込む箇所を減らして授業に集中できるようにしていきたい。また、授業中に教室を見回り、学生の理解度を確認しながら授業の進度を決めていることも学生には好評だったので、来年度も取り入れる。生薬学実習は去年度と同様、授業満足度は4.7と全体平均を超えることができた。本授業において工夫している点は、以下の3点である。①実習書に内容をしっかりと記述し、学生がそれを読み込むことで、実習が円滑に進むようにしている。②授業前にも実習の説明を行うが、なるべくコンパクトにまとめ、実習時間を十分に確保するようにしている。③グループによる実習だけでなく、個人で行う作業を多く取り入れ、実習に参加しない学生がいないようにする。上記の工夫により、本授業に対して不満を感じる学生が少なかったと考えられるが、一部の学生から、器具の数を増やすように指摘があったので、この点に関しては検討を行う予定である。また、学生が事前に実習書をしっかりと読んでいないように感じたので、来年度は予習を促す工夫を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	3	131	6月18日、6月25日、11月14日
総合演習Ⅱ	2	107	11月6日、1月10日
化学演習の補習	7	30	4月26日、5月10日、5月24日、6月7日、6月21日、7月5日、7月19日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

これまでに市販された医薬品の約50%以上が天然物に関連した成分である。植物や動物等が産生する成分は多彩な化学構造を有し、豊富な生物活性を示すものが数多く存在しており、私はこのような天然物から新規機能性成分の探索を行っている。世界各地の天然薬物を用い、抗癌、抗炎症、メラニン合成調節作用等の生物活性を指標に効果がある成分を単離し、化学構造を解明する。また、有効成分の作用メカニズムや効果発現に必要な構造の解析にも取り組んでいる。

現在は上記の生物活性に加え、不妊症に効果のある生薬成分についても研究を進めているところである。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	9	1	1	320万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Suppression of Polyps Formation by Saffron Extract in Adenomatous polyposis coliMin/+ Mice/
2019年/Pharmacog. Res./11, 114-117/共著/論文

Establishment of a quantitative and qualitative analysis and isolation method for tetracyclic iridoids
from *Morinda lucida* Bentham leaves/2018年10月/J. Pharmaceut. Biomed. Anal./164, 475-480
/共著/論文

Antiproliferative activity and apoptosis induction by trijuganone C isolated from the root of *Salvia
miltiorrhiza* Bunge/2018年4月/Phytother. Res./32(4), 657-666/共著/論文

New development of artificial agarwood in Hainan in China/2018年6月/薬用植物研究/40(1),1-
10/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

アカネおよびセイヨウアカネの主要アントラキノン類の定性・定量分析とそれらの生物活性/2018年
12月/第47回生薬分析シンポジウム

牛蒡子に含まれるArctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制作用/2018年9月/
日本生薬学会第65回年会(広島)

ガーナ産植物 *Morinda lucida* Bentham に含まれる新規テトラサイクリックイリドイドの化学構造
/2018年11月/第35回日本薬学会九州支部会(福岡)

顧みられない熱帯病に有効な *Morinda lucida* に含有する新規イリドイド化合物の分析/2018年8月
/第2回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島)

グリチルレチン酸に対するモノクローナル抗体を用いた免疫化学的分析手法の確立/2018年8月
/第2回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島)

牛蒡子成分Arctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制の作用機序解析/2018年
8月/第2回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島)

地黄の非薬用部位の有効利用に向けた研究/2018年8月/第2回食薬ヘルスイノベーション研究
会(鹿児島)

マリアアザミ種子成分シリビニンのメラニン合成促進活性とその分子機構解明/2018年8月/第2回
食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島)

出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた甘草エキス機能解析への新たなアプローチ／2018年8月
／第2回食薬ヘルスイノベーション研究会(鹿児島)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平成30年度科学研究費補助金 若手研究	文部科学省および日 本学術振興会	平成30年度～平成32 年度	320万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
ワシントン州立大学	カンプトテシンの生合成経路の 解明	2016年4月～2016年10月

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	なし	1年生学年主任 学外非常勤講師対応 主担当
薬学部国試・CBT対策委員会	なし	模試・販売・学内試験準備 主担当
薬学部学生委員会	なし	保護者会や卒業式等の準備および実施
薬学部薬学教育支援センター 運営委員会	なし	補習の実施、勉強合宿での質問対応等
薬用植物園運営委員会	主任	薬用植物の栽培と管理
入学前・初年度教育担当者	なし	1年生の学習把握および報告

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスでの薬学部体験学習の実施等、積極的に活動を行った。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

AMED感染症研究国際プログラムにおけるガーナ共和国への研究支援

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育

化学演習C、生薬学Ⅱ、生薬学実習を中心に、丁寧な指導を行うことができたことで、授業アンケートでは目標よりも高い評価を得ることができた。今後も学生一人一人にきめ細やかな指導を心掛ける。

研究

原著論文4報のうち1報のみが筆頭著者であり、成果は不十分である。来年度はしっかり研究成果が得られるように、研究に向かう時間を確保していく。また、今年度は外部資金を獲得できたが、1件のみだったので、来年度も外部資金を獲得できるように努めていく。学会発表は日本薬学会、生薬学会、九州支部会等で行うことが出来た。

社会貢献

オープンキャンパスで薬学部体験学習を実施し、高校生が本学に興味を持ってもらえるように努めた。自身の研究室が担当でないときも体験学習を手伝い、高校生との交流を図った。

大学運営

CBT・国試対策委員会、教務委員会、学生委員会、薬学部薬学教育支援センター運営委員会、薬用植物園運営委員会および学年主任を中心に、責任を持って業務を遂行した。

全体

今年度は担当科目が増えたこともあり、授業準備に時間を要してしまった。授業アンケートの結果は予想していたよりも良かったが、自身の授業を振り返ると課題は多く、さらなる改善が必要である。また研究面では成果が不十分であることから、来年度は自身の研究に尽力するとともに、共同研究も積極的に進めていく。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 中村 沙織

1. 教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。

よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
分析化学演習	5/15(前期)	1	64	①②③④⑨
分析化学演習	5/15(前期)	1	50	①②③④⑨
基礎の数学	11/15(前期)	2	42	②③⑨
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	112	①②③④⑤⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
機器分析学	6/15(後期)	1.5	106	①②③④
日本薬局方概論	6/15(後期)	1.5	118	①②③④
生薬学実習	8/8(後期)	1	110	①②③④⑨
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①④⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

①(基礎の数学)満足度は4.1→4.4→3.7→4.1と昨年度極端に低かった評価をなんとか持ち直すことができた。今年度は、資料の細かな修正に加え、自己採点用に課題の解説をポートフォリオに公開する等の改善を行った。これまでもポートフォリオには学生からの質問に対する返答や、さらに詳しい

解説などを掲載することで一方向にならないようにしていたが、課題提出のために大多数の学生がポートフォリオを確認していたので、効果的であったと感じる。

本講義は2クラス制の下位クラスだが、その中でも成績に開きがあり、成績下位層の学習意欲と理解度を向上させる方策が必要だと感じている。

②(機器分析学)満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1と推移している。配布プリントが見やすいと好評であった。講義内容が多いため毎年早口を指摘されるが、今年度は意識してゆっくり話す、重要事項を強調する等の改善を行った結果、この点について指摘されることはなかった。講義ごとに質問や感想を募り、次回以降の講義で反映させている。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になったと感じる。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2/42		
総合演習ⅢA	1/56		

3. 研究活動

(1)研究テーマ

- ①動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究
- ②化粧品中および環境水中における紫外線吸収剤のHPLC及びASAP-MS分析

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	1	1	40万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
よくわかる薬学分析化学/共著/平成31年3月予定/廣川書店/未定

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

パーソナル吸光度計を用いた鉄(II)イオン及び鉄(III)イオンの定量分析/2018年9月/日本分析化学会 第67年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
MR補完教育問題作成	公益財団法人MR認定センター	2017年10月～2018年12月	40万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部教務委員会	委員	薬学部履修の手引の編集、新入生担当割り振り等
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス、出張講義等
薬学部学生委員会	委員	保護者会、卒業式の準備等
薬学部実務実習運営委員会	委員	実務実習記録及び評価資料編集等

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①九州文化学園高等学校進学ガイダンス参加/6月8日/場所:九州文化学園高等学校
- ②高校生夏休み薬学研究体験/8月7日～8日/本学
- ③鎮西学院高等学校内進路ガイダンス参加/11月5日/場所:鎮西学院高等学校

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県都市計画審議会	委員	平成27年3月～現在 に至る	長崎県土木部都市 政策課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①公益財団法人MR認定センターからの受託事業により、MR補完教育問題を作成。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、前期20コマおよび学生実習、後期15コマおよび学生実習を担当した。昨年度の学生アンケート等を参考に講義内容と配布資料を改善した結果、基礎の数学では満足度が3.7→4.1と向上した。

研究面では、学生の卒業研究の指導を行い、6年生2名の卒業論文を仕上げた。また、5年生と4年生の卒業研究指導をしており、来年度はその成果を学会にて発表する予定である。

今年度は、育児休暇を取得し5月より復帰したが、想定よりも仕事との両立に苦戦し、講義と実習で余裕がない状態であった。次年度はもう少し研究にも時間を割き、是非とも論文の投稿につなげたいと思う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 縄田 陽子

1. 教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

(実践内容)

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあつてこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

(実践内容)

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①
総合演習ⅢB	1/30(前期)	2	12	①
薬理学Ⅳ(中枢)	16/16(後期)	1.5	114	②③⑩
薬理学実習	10/10(後期)	1	112	⑤
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の進行において、シラバスと一致しない箇所があったため、次年度はシラバスに沿って講義を進行したい。また、授業アンケートでは、配布資料に対して、分かりやすいという意見と、分かりにくいという意見が混在した。次年度は、良い方向性に意見が向くよう資料作成の工夫をしたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	135	12/6
総合演習Ⅱ	1	110	4/16
総合演習ⅢA	2	110	5/10, 6/14

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Inhibition of Monoacylglycerol Lipase Reduces the Reinstatement of Methamphetamine-Seeking and Anxiety-Like Behaviors in Methamphetamine Self-Administered Rats / 2018 / Int J Neuropsychopharmacol/in press/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部入試募集委員会	委員	・オープンキャンパス補佐および説明用ボード作成・取り纏め・出張講義資料作成
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	国家試験対策の方針決定
薬学部生涯学習・教育委員会	委員	教育講演における進行補助
薬学部動物室管理担当	委員	動物室の運営

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

薬理学IVでは、初年度の担当ということで、開講中に数回講義に対するアンケートを実施した。これ

により、開講途中における講義および配布資料の改善を実施することができた。一方で、後半で実施した授業評価アンケートでは、依然として資料に対して一部批判的な意見が見られた。次年度は、この点を改善する方向で配布資料の作成を工夫する。

2. 研究活動について

実験系の立ち上げおよび、論文投稿・受理を実現することができた。一方で、学会発表等の成果発表ができていない。次年度は、積極的に学会発表に臨みたい。

3. 大学運営活動、社会活動および国際交流について

社会活動および国際交流に携わることが出来なかった。次年度以降は、どのような形で携わることが出来るかを模索していきたい。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 波多江 日成子

1. 教育理念

九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。

- ・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
- ・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
- ・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
基礎の化学	15/15(前期)	2	28	①⑨
化学演習	15/15(前期)	1	27	④⑧⑨
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨
臨床生理学実習	8/8(後期)	1	112	⑩
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	3	127	①⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、合同授業においてはアクティブラーニングを用いて学生間の交流・知識向上に努めた。さらに補講を複数回行い、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。また臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、アンケートの結果も良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
リメディアル化学補習	1	25	2018年4月26日
リメディアル化学補習	1	36	2018年5月10日
リメディアル化学補習	1	28	2018年5月24日
リメディアル化学補習	1	22	2018年6月7日
リメディアル化学補習	1	23	2018年6月21日
リメディアル化学補習	1	22	2018年7月5日
リメディアル化学補習	1	23	2018年7月19日
リメディアル化学補習	1	16	2018年8月20日
総合演習II	1	107	2018年4月17日
総合演習IIIA	1	110	2018年5月31日
総合演習IIIB	1	110	2018年10月18日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ヒト赤血球膜蛋白質バンド3の構造解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	5	0	0	0万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Protein S-specific activity assay system is not affected by direct oral anticoagulants / 2018 / Thrombosis Reserch / 3 / 共著 / 論文

Crystallization of Human Erythrocyte Band 3, the anion exchanger, at the International Space Station "KIBO" / 2018 / Analytical Biochemistry / 3 / 共著 / 論文

- ・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ヒト赤血球タンパク質バンド3/陰イオン複合体構造解析による活性中心領域の 解明 / 2019年3月22日 / 第139回 日本薬学会

ペプチド基質を用いたダビガトランの血中濃度の測定法の開発／2019年3月23日／第139回 日本薬学会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定に関する基礎的検討／2019年3月23日／第139回 日本薬学会

磁気検出システムを用いた肝腫瘍マーカーAFPの定量的検出／2019年3月23日／第139回 日本薬学会

ヘパリンのプロテインS比活性測定に与える影響／2019年3月23日／第139回 日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション、シラバス編集
国試CBT対策委員会(学科)	委員	試験準備、資料配布、試験監督割り当て、国試引率
薬学教育支援センター運営委員会(学科)	委員	1年生リメディアル補習、CBT追再試者補講監督、6年生合宿
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	CAI利用試験の問題確認、修正

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

無し

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、11月にフロリダからバンド3タンパク質単体での宇宙での結晶化実験を行った。この宇宙実験では良質な結晶が得られず、解析に至らなかった。現在、地上での結晶化の回析実験もあわせて進めており、最高分解能4.3Åのデータが得られ、論文1報が掲載された。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 福森 良

1. 教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
薬理学Ⅲ(末梢-2)	15/15(前期)	1.5	105	①②⑨
コンピュータ基礎演習ⅠA	15/15(前期)	1	108	②④⑪
コンピュータ基礎演習ⅡA	15/15(前期)	1	4	②④⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	112	①②⑥⑦
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	1	①⑨⑩
総合演習ⅢA	1/23(前期)	1.5	106	①⑨⑩
コンピュータ基礎演習ⅠB	15/15(後期)	1	107	②④⑪
薬理学実習	10/10(後期)	1	112	①②③④⑥⑩⑪
総合演習ⅢB	1/30(後期)	2	90	①
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1.5	106	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬理学Ⅲは今年度から初めて受け持った科目であり、授業評価も初めて実施しました。全体を通して一定の評価は得られたとは思っていますが、初めての授業で気付いた点や、学生から指摘された点も多くありましたので、

来年度の授業に向けて改善点を精査していきたいと思っています。

改善点を修正することで、まだまだ満足度や理解度を向上させる余地があると思いますので、ベストティーチャー賞を狙えるような満足度が得られるように努力します。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	看護薬理学	15/15(前期)	1	41

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患(認知症や統合失調症など)の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに意欲・動因の生起に関係する脳内報酬系を念頭に置き、薬物依存症の動物モデル(薬物自己投与方法を使用)の確立とそれを用いての、薬物依存症の再燃・再発機構の解明を試みています。この研究では、カンナビノイド受容体の変容に焦点を当てた神経化学的アプローチも試みています。本研究の成果により、①薬物への渴望の再燃機構が解明され、また依存症治療薬の開発に寄与できるだけでなく、②精神疾患で見られる再燃・再発のメカニズムさらには、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。このように、薬物依存症を含めた精神疾患発症のメカニズムについて脳内報酬系ならびに脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Inhibition of Monoacylglycerol Lipase Reduces the Reinstatement of Methamphetamine-Seeking and Anxiety-Like Behaviors in Methamphetamine Self-Administered Rats. / 2019年2月 / Int J Neuropsychopharmacol/165-172/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Involvement of cannabinoid CB1 receptors on impairment of prepulse inhibition during withdrawal state after the repeated administration of methamphetamine in mice. / 2018年6月 / 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する認知機能障害におけるカンナビノイドCB1受容体の関与/2018年11月/第71回日本薬理学会西南部会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員	委員として動物実験の許可審査を行なった。
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行なった。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画、運営を行なった。
薬学部入試募集委員会	委員	2度の出張講義及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行なった。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器の管理運用を行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、大会参加の引率、練習への参加を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部入試募集委員として県内外の2つの高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。また、薬学部就職委員として薬学部就職説明会の企画、運営を行った。

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、今年度より「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。授業アンケートによる満足度の平均は「4.2」の評価であり、学科の平均より上であったことから、一定の満足度を得られたと思う。しかしながら、個別のコメントを見る中で改善すべき点が多くあると感じられた。来年度以降はこの点を改善することで、より満足度の高い講義を行いたい。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

大学運営面においては、今年度より全学「動物実験委員会」の委員を務めた。薬学部委員としては、3月に薬学部就職委員として薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努める。また、薬学部入試募集委員としては今年度現在までに2校の高等学校に赴き「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。研究面においては、共同研究者として論文1報を投稿した。また学会活動としては、薬理学会西南支部会にて口頭発表を行った。加えて、7月の国際薬理学会においても研究発表を行った。

研究面においては、共同研究者として論文1報を投稿した。また学会活動としては、薬理学会西南支部会にて口頭発表を行った。加えて、7月の国際薬理学会においても研究発表を行った。今後はさらに、積極的に研究・発表を行うことで、大学や地域、社会への貢献をしていきたいと思っている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 大崎 千尋

1. 教育理念

私の教育理念は学生を国家試験に合格させるための知識を身に付けさせるだけではなく、社会に出た際に自ら考え知識や技術、判断力を駆使し行動できる医療者を育てることである。医療者は、一人では限界があることを知り謙虚さを持ちながら、命のために役立つことを生きがいに貢献したいという姿勢を持つことが必要である。また質の良い医療を提供するためには、チームで行動することは今の時代必須であり、そのためにはメンバー内で強い信頼関係を築きあげること目標に向かって努力する協調性が求められる。

学生には、実習を通して現実を得られたデータをニュートラルな視点で多面的にとらえ、熟慮・評価する力、そしてデータを取得するまでにチームで協力する姿勢を培って欲しいと考えている。そのためにも、学生たちの自主性を重んじ、仲間で話し合い考える時間を確保することや必要な時に必要な量のサポートを提供する授業の流れを心がけるように努めている。

最終的には、医療人としての責任感や一生涯知識・技術の研鑽の志を持ち、学生が社会に羽ばたいていけるような教育を目指している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし(担当科目なしのため)

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
衛生薬学実習	15	112	2019/5/18-6/8
物理化学実習	21	112	2019/4/19-5/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析

アロマ精油の成分分析や抗菌試験を行っている。特に長崎県内で栽培されている月桃という植物や、波佐見町で栽培されているバラから各々水蒸気抽出を行い、得られたアロマ精油やフローラルウォーターのガスクロマトグラフィー分析(GC)や抗菌性能を調べている。

- ・微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討(T.Mエンタープライズ社との共同研究)

長崎県内の土壌から採取した単離菌(TM-N5株及びTM-I-3株)について非接触状態で抗真菌作用や消臭能力を発揮することが分かっている。最近の研究では、乾燥状態でも単離菌が真菌抑制作用や消臭作用を示すことが分かってきており、現在は芽胞状態での菌の可能性を検討している。

- ・光触媒を利用した脱臭に関する研究(株日本理工医学研究所との共同研究)

光触媒材料はほとんどの有機物を効率良く分解除去できることが知られており、最近では大気浄化や水質浄化等に広く応用されている。LED証明器具の面状拡散板(光触媒フィルム)に担持した酸化チタンが開発され、この開発品の居住空間における消臭・除菌効果についての評価を実施している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	5	4	2	130万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

The Bacteriological Properties of Bacillus Strain TM-I-3 and Analysis of the Volatile Antifungal Compounds Emitted by this Bacteria

/in press/Biocontrol Science/in press/単著/原著論文

薬剤師と「食」を通じたプライマリ・ケア/in press/長崎国際大学論叢/in press/単著/調査報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

サードハンドスモーク中の発がん性物質を含む有害化学物質の測定法と定性分析/2018/9/6-8
/先端モデル動物支援プラットフォーム 若手支援技術講習会2018

月桃のTrichophyton rubrumおよびBacillus subtilisに対する非接触抗菌作用/2018/11/18/日本
薬学会九州支部大会

TM-I-3株による非接触抗真菌効果と菌糸成長挙動の関係性/2018/12/6-7/平成30年度 室内
環境学会学術大会

TM-I-3株の芽胞における揮発性物質の定性/2018/12/6-7/平成30年度 室内環境学会学術大
会

TM-N5株およびTM-I-3株の細菌と真菌に対する非接触抗真菌作用の検討/2018/12/6-7/平成
30年度 室内環境学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
微生物資材の消臭能力・抗真菌作用の評価	(株)ニシヤマ	平成30年4月～平成31年3月	30万円
新規災害用消臭剤の評価・新規JR新幹線汚物タンク用抗菌剤の評価	(株)ワールドバイオ	平成30年4月～平成31年3月	100万円
科学研究費助成事業	日本学術振興会	審査待ち	0万円
笹川科学科学研究助成	日本科学協会	審査待ち	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	薬学部卒業式の手配・準備
教務委員会	委員	週間時間割担当、外部講師対応
国試・CBT対策委員会	委員	試験準備担当
生涯学習・教育委員会	委員	生涯学習講演会の設営・受付
同窓会薬学部部門支援委員会	委員	長崎国際大学同窓会薬学部部門 会計担当理事
地域連携委員会	委員	地域の期待に応える活動、寄付講座
薬用植物園運営委員会	補助員	薬用植物園環境の保持

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・オープンキャンパス活動参加(平成30年3月24日/平成29年7月22日)
- ・佐世保北中学訪問の際の受け入れスタッフ及び体験授業補助(平成30年7月12日)
- ・第5回地域の期待に答える実践活動の実施スタッフとして参加(平成30年11月25日)

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジー(アルカス佐世保)の実施スタッフ

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日/場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

30年度は、入職して3年目ということで委員会活動の仕事も身に付き、安定して仕事を遂行することができた。新しく所属になった委員会も委員長や委員と連絡を密に取り合うことにより円滑に事業を進められたと考える。

教育活動では、主に2つの実習を担当することになり、前期は非常に多忙であったが、任務を遂行することができた。教育理念にも書いたように、学生の協調性を高めるような授業づくりを心がけた。また希望の学生に対しては自主的に補講を行い学生の学力向上に寄与するよう努めた。

研究に関しては、研究テーマに関して共同研究先と上司と相談しながら、研究成果を論文としてまとめジャーナル受理までたどり着き達成感のある年度となった。また本校の論叢にも学部長と所属研究室の教授の後押しもあり調査研究を初めて投稿することができた。外部からの委託研究の契約の更新も行われ、一部大学や研究室の研究内容がメディアでも取りあげることになり大学の宣伝にも多少貢献できたと考える。また今年度も科研費を含む3件の助成事業に積極的に応募した(結果待ち)。研究室の学部生も4名学会発表まで完了し、振り返ると充実した研究の年だったと思う。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 倉岡 卓也

1. 教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業をもっていないので、特にありません。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「病原性真菌類の免疫化学的性状の解明」をテーマとしております。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Presence of O-glycosidically-linked oligosaccharides in the cell wall mannan of *Candida krusei* purified with Benanomycin A/2019/1/FEBS Open Bio/129-136/共著/論文
Distribution of oligomannosyl side chains in the cell wall mannan of *Pichia pastoris* purified by Benanomycin A/2019/1/International Journal of Current Microbiology and Applied Sciences / 2926-2935 / 共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Benanomycin A を用いた冬虫夏草由来マンノース含有多糖の分離/2018/3/日本薬学会第138年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会	委員	試験準備、アンケートの作成・集計を行った。
生涯学習・教育委員会	委員	生涯学習の当日に会場準備・整理を行った。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会と大学の連携を仲介した。
CAI運用・活用委員会	委員	CAI試験時の準備、管理を行い、CAI試験の運営に関わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育においては、学生の相談に乗り、必要に応じて勉強を教えたり、アドバイスをを行いました。6年生対象の勉強合宿にも参加して、国家試験合格に貢献できるように活動してきました。残念ながら特に

教えてきた学生は、自己採点では国家試験に不合格だったようです。反省点としては、その学生の勉強の仕方の弱点を見抜けていなかったことです。今後は、学生の弱点をよく分析し、個々に合った指導を行いたいと思っております。

研究においては、大学院の学位審査の年だったということもあり、今まで出したデータをまとめることにより論文を2報公表することができました。しかし、これまでは与えられたテーマについて研究してきましたが、今後は自分でテーマを設定して研究できるように努力したいと思います。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 高田 誠

1. 教育理念

薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師の養成が求められています。そのため、薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する「質の高い」薬剤師が養成できるものと考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として医療現場で活躍することが求められています。他分野の医療従事者と治療方針などを協議するには、この論理的思考能力が必要不可欠です。このような能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導補助を通して教育していきたいと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

なし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
物理化学実習	15	112	2018年4月19日、20日、26日、27日、5月10日、11日、17日
薬剤学実習	15	112	2018年10月18日、19日、25日、26日、11月1日、8日、15日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

現在は主に、関節リウマチ治療薬の薬物相互作用解明を目指した新規HPLC定量法の開発を行っています。臨床の現場で利用が増加している抗体医薬品などのバイオ医薬品は、低分子医薬品とは消失過程が異なることから、これまで相互作用は生じにくいと考えられてきました。しかしながら、近年、高分子医薬品と低分子医薬品の薬物相互作用が報告されてきており、今後、臨床の現場で各医薬品の血中濃度測定の必要性が増すことが考えられます。現在、抗体医薬品の血中濃度測定法には、主に選択性が高いリガンド結合法やLC-MS/MS法が標準的な分析法として用いられています。一方で、これらの方法は、抗体を作製する必要があるために分析法の構築に時間がかかる、煩雑な前処理を必要とする、などの問題点が存在することから、臨床の現場では汎用されていません。そこで私は、我が国で開発された抗体医薬品であるトシリズマブを対象とした、迅速かつ簡便なHPLCによる定量法の開発を行いました。今後は、抗体医薬品の定量法開発に関する研究をさらに発展させ、本法を他の抗体医薬品へ応用することで、高分子医薬品と低分子医薬品の薬物相互作用解明に貢献したいと考えています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Simple and rapid analysis of tocilizumab using HPLC-fluorescence detection method/2019年2月
/Luminescence/6/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
簡便かつ迅速な生体試料中トシリズマブHPLC測定法の開発/2018年8月/第58回日本臨床化学

会年次学術集会

迅速かつ簡便なメトトレキサートとNSAIDsの同時定量法の開発／2019年3月／日本薬学会第139年会

迅速かつ簡便な生体試料中トシリズマブHPLC蛍光検出法の開発／2019年3月／日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会	委員	夏季勉強合宿における学習支援、冬季勉強合宿における学習支援、成績不良者の補講、外部模試準備、週間試験準備、単位認定試験準備、外部講師の講義資料準備
教育支援センター運営委員会	委員	分析化学、薬剤学、製剤学、薬物動態学、物理化学(反応速度、相図)、環境衛生学の補講
教務委員会	委員	オリエンテーション準備、シラバス編集、外部講師対応
共通機器管理委員会	委員	LC/MS管理者
OSCE実施委員会	委員	準備・運営、採点作業
実務実習運営委員会	委員	実習記録の編集、施設アンケート集計

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

第58回日本臨床化学会年次学術集会における学生の学会発表指導を1件と、日本薬学会第139年会における学生の学会発表指導を2件行いました。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスにおいて、LC/MSの説明を担当しました。

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育については昨年度までと同様、物理化学実習と薬剤学実習に携わりました。また、研究室の学生を中心に希望者を募り、薬物動態学や薬剤学、物理化学の講義を行うなど、幅広い分野で教育に努めることができたと考えます。

委員会活動については、昨年までに引き続き学科内の5つの委員会に所属し、学科運営の円滑化に貢献できたと考えます。教育支援センター運営委員会、国試・CBT対策委員会の委員として、薬剤

学、製剤学、薬物動態学の補習を行ったほか、昨年までに引き続き6年生を対象とした夏季勉強合宿での学習支援に参加し、薬物動態学の講義を行い、合宿後アンケートでは有益だったとの評価を得ました。

研究については、自身は学会発表を行いませんでした。しかし、指導補助学生のうち3名が臨床化学学会年次学術集会と日本薬学会年会で発表を行い、実績を残すことができたと考えます。また、本年度は大学院最終年度であり、学位論文の取りまとめに取り組み、公開試問を終え、博士号を取得予定です。共著論文を投稿することもでき、次年度も引き続き執筆を続けていくことを目指します。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 中島 健輔

1. 教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に付けて欲しいと考えている。
 日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
 国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
 勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
 効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
 さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
 解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業を行っていないため、なし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
実務実習事前学習 調剤Ⅰ	29	120	H30前期
実務実習事前学習 調剤Ⅱ	26	120	H30前期
実務実習事前学習 処方箋解析実習	10	120	H30後期
実務実習事前学習 生物薬剤実習	10	120	H30後期
実務実習事前学習 総合実習	20	120	H30後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. BDNFに着目した新規抗うつ薬創製を目的とした研究
2. オクタノイルグレリンに着目した肥満の予防・改善を目的とした研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	1	1	364万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Decreased plasma octanoylated ghrelin levels in mice by oleanolic acid/January, 2019 /Journal of Oleo Science/103-109/共著/research article

Inhibitory effect of (-)-Epigallocatechin-3-O-gallate on octanoylated ghrelin levels in vitro and in vivo/April, 2018 /Biol. Pharm. Bull./524-529/共著/research article

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

オクタノイルグレリン産生抑制作用を有するフィトケミカルの探索/2018年9月/文部科学省先端モデル動物支援プラットフォーム 若手支援技術講習会

オレアノール酸のオクタノイルグレリン産生抑制効果とその機序/2019年3月/日本薬学会第139年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費 若手B	日本学術振興会	2018年4月～2019年3月	364万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	運営委員	外部講師対応、物品販売
薬学部入試募集委員会	運営委員	高校への出張講義
薬学部同窓会薬学部門支援委員会	運営委員	同窓会活動の円滑な運営に尽力した。
OSCE実施委員会	運営委員	OSCEの円滑な実施のため準備、監督などを行った。
実務実習運営委員会	運営委員	実務実習の実施のため、準備、実習等を行った。
薬学部薬学教育支援センター運営委員会	運営委員	教育支援に対する活動を行った。
薬学部動物室管理担当者	運営委員	動物室の管理に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、実務実習事前学習に年間を通して携わった。4年目を迎え、薬剤師の現場における諸活動を分かりやすく教えることが出来たと思う。今後も一層、分かりやすく、さらに興味を持ってもらえるような実習を心掛けたい。

また、卒業研究にも前年度より深く携わるようになり、その指導には難しさも感じた。実験を楽しく思ってもらえるように更なる工夫を心掛けたい。

研究活動においては、今年度、2報の論文を発表できたが、「うつ病」に関する論文がacceptに至らなかった点は非常に悔やまれる。来年度は必ずacceptに持っていきたいと考えている。

来年度は演習を受け持つようになるため、一層の自己研鑽に励み、分かりやすい授業を行う必要があると考えている。

教員個人による諸活動について 平成30(2018)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 山口 恭士郎

1. 教育理念

6年制薬学生として強い責任感と倫理観をもち、薬学関連分野の幅広い知識をもった信頼できる薬剤師に導いていくことを教育理念としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	-	-	-	-

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	-	-	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義を担当していませんので、アンケート等はありません。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
生化学実習	3	1	11/3

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳酸菌生産物質の有用性について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

乳酸菌生産物質(PS-B1)の非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)進行に対する影響/2017年11月
/日本薬学会九州支部会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	-万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	印刷業務・6年生に対する国家試験後のアンケート
教務委員会(学科)	委員	朝学習出席集計
就職委員会(学科)	委員	就職説明会の運営

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

H29.6.22 九州文化学園高等学校の本学訪問対応

H30.3.5 内部進学説明会

H30.7.12 長崎県佐世保北中学校 研究所訪問対応

H31.3.4 内部進学説明会

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学内実習について、物理化学実習と生化学実習を行いました。物理化学実習では、実習中の1つの項目についてを担当し、生化学実習では、教員に対するスケジュールの確認、会計関係の処理、実習書の編集と執筆と印刷、説明会の司会進行、実習の実施、実習試験取りまとめ、実習試験監督、試験・レポートの採点などを行い、学生が快く実習ができるように努めました。週間試験・単位認定試験等の業務では、印刷及び試験監督業務、また外部模試の準備及び試験監督業務を行いました。また実務実習実施施設への訪問を行い実習時状況の確認等を行いました。

研究面では、卒業研究のサポートを行い、学生の研究意欲向上に努めました。また、今年度は、日本薬学会への参加を予定であり、論文は現在執筆中です。

学部運営面では、教授会や委員会、FD、参考書等の販売会、クリーンキャンパス、オープンキャンパスへ積極的に参加することで学部運営に貢献しました。

来年度は、論文を投稿できるように教育と研究の両立できるよう努めます。